令和4年度シラバス

番号	(A1) -01	**履修コード**	1101Z1
科目名	哲学Ⅰ	**科目英語名**	Philosophy Ⅰ
科目区分	教養科目A	**授業形態**	講義
資格区分		**開講学期**	前期
入学年度		**毎週・集中**	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	**曜日・時限**	月曜7・8限
履修区分	選択	**教室**	第1教室
単位	2	**定員**	76名
担当教員	村中達矢		
授業概要	哲学における代表的な思考方法や研究方法を概観する。		
到達目標	哲学を学ぶことを通して論理的に考える方法を身につけ、文章で的確に表現する力を養う。		
授業計画	第1回　この講義の概要、さまざまな推論（1）：演繹 第2回　さまざまな推論（2）：帰納 第3回　さまざまな推論（3）：仮説形成と類推 第4回　推論同士を組み合わせるときの工夫：仮説演繹法と探究 第5回　ソクラテス式問答法と弁証法 第6回　アリストテレスの四原因論 第7回　目的論的説明と進化論的説明 第8回　オッカムの剃刀（カミソリ） 第9回　フランシス・ベーコンが注意を呼びかけた四つのイドラ 第10回　デカルトの四つの規則 第11回　ニュートンの四つの規則 第12回　ジョン・スチュアート・ミルの実験的探究の方法 第13回　反証主義の仮説選択基準 第14回　クーンの理論評価基準 第15回　まとめ		
予習・復習	プリントやノートを読み直して復習すること。		
教科書	使用しない。		
参考書	内井惣七『科学哲学入門』世界思想社、1995年 戸田山和久『科学哲学の冒険』NHK出版、2005年		
教材	プリントを配布する。		
履修上の注意			
成績評価 (~H29)	期末試験に対して100%を配分する。 A：哲学を学ぶことを通して論理的に考える方法を身につけ、文章で的確に表現する力を養うことがよくできた。 B：哲学を学ぶことを通して論理的に考える方法を身につけ、文章で的確に表現する力を養うことができた。 C：哲学を学ぶことを通して論理的に考える方法を身につけることができた。		
成績評価 (H30~)	期末試験に対して100%を配分する。 S：哲学を学ぶことを通して論理的に考える方法を身につけ、文章で的確に表現する力を養うことが非常によくできた。 A：哲学を学ぶことを通して論理的に考える方法を身につけ、文章で的確に表現する力を養うことがよくできた。 B：哲学を学ぶことを通して論理的に考える方法を身につけ、文章で的確に表現する力を養うことができた。 C：哲学を学ぶことを通して論理的に考える方法を身につけることができた。		
主担当教員	村中達矢		

令和4年度シラバス

番号	(A1) -02	**履修コード**	1102Z1
科目名	哲学Ⅱ	**科目英語名**	Philosophy Ⅱ
科目区分	教養科目Ａ	**授業形態**	講義
資格区分		**開講学期**	後期
入学年度		**毎週・集中**	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	**曜日・時限**	木曜9･10限
履修区分	選択	**教室**	第1教室
単位	2	**定員**	76名
担当教員	村中達矢		
授業概要	生命倫理をめぐって現代哲学でどういう議論が行われているのかを概観する。		
到達目標	生命倫理学を学ぶことを通して道徳的な判断力を身につけ、文章で的確に表現する力を養う。		
授業計画	第1回　この講義の概要、ロバート・ヴィーチによる医師と患者の関係の四分類 第2回　生命倫理学においてトム・ビーチャムとジェイムズ・チルドレスが提示した四つの基本原理 第3回　インフォームド・コンセント（十分な説明を受けた上での同意）の倫理 第4回　生命の尊厳（SOL）を重要視する立場と生活の質（QOL）を重要視する立場 第5回　生殖技術の倫理 第6回　出生前診断の倫理 第7回　遺伝子診断の倫理 第8回　クローン技術の倫理 第9回　人工妊娠中絶と優生学 第10回　人体実験とヘルシンキ宣言 第11回　脳死と植物状態 第12回　臓器移植の倫理 第13回　終末期医療（ターミナル・ケア）の倫理 第14回　安楽死・尊厳死とリビング・ウィル 第15回　まとめ		
予習・復習	プリントやノートを読み直して復習すること。		
教科書	使用しない。		
参考書	今井道夫『生命倫理学入門　第4版』産業図書、2017年		
教材	プリントを配布する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)	期末試験に対して100%を配分する。 A：生命倫理学を学ぶことを通して道徳的な判断力を身につけ、文章で的確に表現する力を養うことがよくできた。 B：生命倫理学を学ぶことを通して道徳的な判断力を身につけ、文章で的確に表現する力を養うことができた。 C：生命倫理学を学ぶことを通して道徳的な判断力を身につけることができた。		
成績評価 (H30~)	期末試験に対して100%を配分する。 S：生命倫理学を学ぶことを通して道徳的な判断力を身につけ、文章で的確に表現する力を養うことが非常によくできた。 A：生命倫理学を学ぶことを通して道徳的な判断力を身につけ、文章で的確に表現する力を養うことがよくできた。 B：生命倫理学を学ぶことを通して道徳的な判断力を身につけ、文章で的確に表現する力を養うことができた。 C：生命倫理学を学ぶことを通して道徳的な判断力を身につけることができた。		
主担当教員	村中達矢		

令和4年度シラバス

番号	(A1) -03	履修コード	1103Z1
科目名	心理学Ⅰ	科目英語名	Psychology Ⅰ
科目区分	教養科目Ａ	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	水曜5・6限
履修区分	選択	教室	美大ホール
単位	2	定員	55名
担当教員	荷方邦夫		
授業概要	本講義では、人間理解の基礎として、人間の心理および行動を理解することを目標とする。特に、人間生活に密接に関連する学習や動機付け、社会関係、メンタルヘルスの授業では、実習や体験を重視し、できる限り実体験を伴うよう配慮する。		
到達目標	学生が、心理学の基本的な事項を理解するとともに、日常生活において望ましいあり方を実践できる援助とできるようになることを目的とする。また、アカデミックな世界観、人間に対する視点を涵養することもあわせて目標とする。		
授業計画	心理学の基本的考え方（0.5単位） ◯オリエンテーション　心理学って何？（１）　心の科学とは ◯心理学って何？（２） ◯脳と心 認知と学習（0.5単位） ◯学習（１）学習とは何か ◯学習（２）記憶の世界 ◯感情と動機づけ 社会と人間（0.5単位） ◯社会的認知 ◯「恋ごころ」の科学　対人社会心理 ◯社会心理学　　３人よれば～集団の社会心理 ◯君ってどんな人？　性格・人格とテスト性格は変えられるか？　人格の形成と発達 心理的健康（0.5単位） ◯悩みを科学する　ストレスと健康 ◯心の問題を解決する（１）　カウンセリングと心理療法 ◯心の問題を解決する（２）　心理療法の実際 試験		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。特に，次回の内容について，教科書で確認することは必須とする。学生の自学自習を積極的に求める。		
教科書	兵藤・緑川（編）心の科学　ナカニシヤ出版		
参考書	ヒルガードの心理学　金剛出版		
教材	授業中にプリントや学習課題を提供する		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)	学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。1%を1ポイントとして換算する。 １　期末試験の点数（50%） 　レポート課題を提示する，点数を直接の評価とする。 ２　授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） 　それぞれの課題や参加については，授業内でポイント（点数）を提示する。 授業における発言，小課題（客観式）での回答をそのつどカウントする。 評価の基準 [A]上記の基準の上１と２で80%以上のポイントを獲得している [B]上記の基準の上１と２で60%以上のポイントを獲得している		

	[C]上記の基準の上１と２で50%以上のポイントを獲得している
成績評価 **(H30~)**	学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。1%を1ポイントとして換算する。 １　期末試験の点数（50%） 　レポート課題を提示する，点数を直接の評価とする。 ２　授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） 　それぞれの課題や参加については，授業内でポイント（点数）を提示する。 授業における発言，小課題（客観式）での回答をそのつどカウントする。 評価の基準 [A]上記の基準の上１と２で80%以上のポイントを獲得している [B]上記の基準の上１と２で70%以上のポイントを獲得している [C]上記の基準の上１と２で60%以上のポイントを獲得している
主担当教員	荷方邦夫

令和4年度シラバス

番号	(A1) -04	履修コード	1104Z1
科目名	心理学Ⅱ	科目英語名	Psychology Ⅱ
科目区分	教養科目Ａ	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	水曜9･10限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	76名
担当教員	荷方邦夫		
授業概要	本講義では、心理学１を習得した学生が、さらに深い理解を得られるよう、心理学の研究手法の学習・体験を行う。特にメディアに関連する心理学の世界を対象とし、実験・調査などの手法を学習することによって、美術系研究において「データをもとに研究を展開できる」スキルを養うのが本講義の目標である。		
到達目標	学生が、心理学をなかだちとして世界や人間に対する幅広い視点で考えることができることを第１の目的とする。また、メディア研究を通して、人間の知識利用や認識の問題について、その現代的な考察にふれることも目的とする。		
授業計画	１　オリエンテーション　メディアが意味するもの ２　メディアの特質　伝達・表現・コミュニケーション ３　マンガ・アニメの理解 ４　映像の理解　スキーマとスクリプト ５　魅力・好意（１）　良さの認知プロセス ６　魅力・好意（２）　印象の生成的視点 ７　魅力・好意（３）　流行の成立と伝達 ８　魅力・好意（４）　装粧行動 ９　魅力・好意（５）　ファンコミュニティ 10　子どもとメディア 11　メディアとしての芸術と芸術教育 12　クリエイションとクリエイティビティ（１）創造性と創造的思考 13　クリエイションとクリエイティビティ（２）創造性の促進と抑制 14　クリエイションとクリエイティビティ（３）創造的活動を高める 15　レポート提出と解説		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。特に，毎回提示される授業内容と資料については，自分で次回まで改めてまとめること。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	兵藤ら「こころの科学」ナカニシヤ出版		
教材	特になし。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 **(~H29)**	学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。1%を1ポイントとして換算する。 １　期末試験の点数（50%） レポート課題を提示する，点数を直接の評価とする。 ２　授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの課題や参加については，授業内でポイント（点数）を提示する。 授業における発言，小課題（客観式）での回答をそのつどカウントする。 評価の基準 [A]上記の基準の上１と２で80%以上のポイントを獲得している [B]上記の基準の上１と２で60%以上のポイントを獲得している [C]上記の基準の上１と２で50%以上のポイントを獲得している		
成績評価 **(H30~)**	学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。1%を1ポイントとして換算する。 １　期末試験の点数（50%） レポート課題を提示する，点数を直接の評価とする。 ２　授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの課題や参加については，授業内でポイント（点数）を提示する。 授業における発言，小課題（客観式）での回答をそのつどカウントする。 評価の基準 [A]上記の基準の上１と２で80%以上のポイントを獲得している [B]上記の基準の上１と２で70%以上のポイントを獲得している [C]上記の基準の上１と２で60%以上のポイントを獲得している		
主担当教員	荷方邦夫		

令和4年度シラバス

番号	(A1) -05	履修コード	1126Z1
科目名	社会学Ⅰ	科目英語名	Sociology Ⅰ
科目区分	教養科目Ａ	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度	R3～	毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	火曜9･10限
履修区分	選択	教室	第１教室
単位	2	定員	166名
担当教員	稲垣健志		
授業概要	社会学とは、おおざっぱに言って「人間が形成する生活、集団、社会を研究する」学問で、「なぜ○○をつくるのか」、「なぜ○○にいるのか」、「なぜ○○な行動をするのか」といった問題を「社会」という枠組みで考察します。この授業では、「社会学」に多大な影響を受けて新たに成立した「カルチュラルスタディーズ」に焦点を当て、私たちの身近な問題と絡めながら、この学問の射程にせまっていきます。		
到達目標	カルチュラルスタディーズが何を問題にして、どのようなアプローチでそうした問題に取り組んでいるのかを理解する。また、ここで学んだことを自分の身近な問題に応用して考えてみる。		
授業計画	カルチュラル・スタディーズの射程 第１週　「文化を研究する」とはどういうことか？ –カルチュラル・スタディーズの問題設定– 第２週　「礼儀正しさ」とは何か？－作法と無作法、そこにみる文化の闘争－ 第３週　「サブカルチャー」論–なぜギャルを「まじめに考える」のか？– 第４週　「地方都市で暮らすこと」を文化的に考える–田舎と都会、アイデンティティ– 第５週　「モバイルメディア」の繭と棘 第６週　「スポーツ」論－「Ｆ１ファンになる／である」とは、どんな意味なのか？－ 第７週～第８週　映画からカルチュラル・スタディーズを考える 第９週　「フレンチポップ」のなかのジェンダー構造 第10週　「セクシュアリティ」論–資本主義とレズビアン– 第11週　「身体」論–「理想的な体型」とは何か？– 第12週　「オンライン空間」の文化と社会空間–在日コリアンを中心に– 第13週　「バナナの棚はどこですか？」－植民地主義の果実とポストコロニアルな感性－ 第14週　漫画『三つ目がとおる』と失われた過去の場所 第15週　期末試験		
予習・復習	授業内で指示する。		
教科書	稲垣健志、栢木清吾編『ゆさぶるカルチュラル・スタディーズ』（北樹出版、2022年）		
参考書	授業内で適宜紹介する。		
教材	教科書、およびパワーポイントを使用する。また、必要に応じてプリント資料を配布する。		
履修上の注意			
成績評価 (~H29)	毎回提出するレスポンスシートと期末試験とを総合して単位認定を行う。 [A] カルチュラルスタディーズが何を問題にして、どのようなアプローチでそうした問題に取り組んでいるのか理解でき、それを自分の身近な問題に応用して考えることができた。 [B] カルチュラルスタディーズが何を問題にして、どのようなアプローチでそうした問題に取り組んでいるのか理解できた。 [C] カルチュラルスタディーズが何を問題にしているか理解できた。		
成績評価 (H30~)	毎回提出するレスポンスシートと期末試験とを総合して単位認定を行う。 [S] カルチュラルスタディーズが何を問題にして、どのようなアプローチでそうした問題に取り組んでいるのか理解でき、それを自分の身近な問題に応用して考えた解答を作成できた。 [A] カルチュラルスタディーズが何を問題にして、どのようなアプローチでそうした問題に取り組んでいるのか理解でき、それを自分の身近な問題に応用して考えることができた。 [B] カルチュラルスタディーズが何を問題にして、どのようなアプローチでそうした問題に取り組んでいるのか理解できた。 [C] カルチュラルスタディーズが何を問題にしているか理解できた。		
主担当教員	稲垣健志		

令和4年度シラバス

番号	(A1) -06	履修コード	1127Z1
科目名	社会学Ⅱ	科目英語名	Sociology Ⅱ
科目区分	教養科目Ａ	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度	R3～	毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	火曜5･6限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	55名
担当教員	ディビッド・ブルースター		
授業概要	この科目では、犯罪とその統制に関する課題、またそれがグローバル化する状況下でどのように変化してきたのかについて、学際的な視点を用いて批判的に考えていく。その上で、アートやデザインは、どのように人間の苦悩をあぶり出して社会正義を進めることができるのかについても考えていく。		
到達目標	・　日本社会における犯罪と正義に関する様々な問題を理解できるようになる ・　犯罪とその統制に影響を与える社会的、文化的およびグローバル化的な要素を指摘できるようになる ・　犯罪およびその統制を批判的に評価できるようになる ・　社会的な不公平を削減するため、どうやってアートやデザインを使い得るのか、表現できるようになる		
授業計画	第１回：オリエンテーション 第２回：犯罪と逸脱とは何でしょうか？ 第３回：犯罪とグローバル化（１）：品物の移動 第４回：犯罪とグローバル化（２）：人間の移動 第５回：日本における犯罪（１）：「奇跡」 第６回：日本における犯罪（２）：「現実」 第７回：正義とは何でしょうか？ 第８回：上映とディスカッション（１）：『Japan’s Secret Shame』 第９回：上映とディスカッション（２）：『望むのは死刑ですか～考え悩む〝世論〟』 第１０回：刑務所の秩序（１）：起源、目的と設計 第１１回：刑務所の秩序（２）：懲罰と処遇 第１２回：社会の秩序（１）：行動規制 第１３回：社会の秩序（２）：防犯 第１４回：社会の秩序（３）：「スマートシティ」 第１５回：まとめ		
予習・復習	授業内で指示する。		
教科書	特に使用しない。		
参考書	ティム・ニューバーン、『犯罪学』。 竹内 謙治と本庄 武、『刑事政策学』。 小松 良樹、『犯罪学入門：ガバナンス・社会安全政策のアプローチ』。 ミシェル・フーコー、『監獄の誕生−監視と処罰−』。 マイケル・サンデル、『これからの「正義」の話をしよう』。 岡邊　健、『犯罪・非行の社会学』。 岡本　英生、松原　英世、岡邊　健、『犯罪学リテラシー』。 前田　忠弘、松原　英世、平山　真理、前野　育三、『刑事政策がわかる』。 牧野雅子、『刑事司法とジェンダー』。 牧野雅子、『痴漢とはなにか　被害と冤罪をめぐる社会学』。 角田由紀子、伊藤和子編、『脱セクシャル・ハラスメント宣言　法制度と社会環境を変えるために』。 斎藤梓、大竹裕子編、『性暴力被害の実際　被害はどのように起き、どう回復するのか』。 田口　真二、平　伸二、池田　稔、桐生　正幸、『性犯罪の行動科学：発生と再発の防止に向けた学際的アプローチ』。 SWASH、『セックスワーク・スタディーズ』。 山本　奈生、『大麻の社会学』。 長吉　秀夫、『大麻 禁じられた歴史と医療への未来』。 Liebling, A., Maruna, S. and McAra, L, “The Oxford Handbook of Criminology”. Brown, M., “Routledge International Handbook of Visual Criminology”.		

	McDaniel, J. and Pease, K., “Predictive Policing and Artificial Intelligence”. Leonardsen, D., “Crime in Japan: Paradise Lost?”. Bui, L. and Farrington, D., “Crime in Japan: A Psychological Perspective”. Liu, J. and Miyazawa, S., “Crime and Justice in Contemporary Japan”. Koch, G., “Healing Labor: Japanese Sex Work in the Gendered Economy”. Mackenzie, S., “Transnational Criminology: Trafficking and Global Criminal Markets”. Manacorda, S. and Chappell, D., “Crime in the Art and Antiquities World: Illegal Trafficking in Cultural Property”. Oosterman, N. and Yates, D., “Crime and Art: Sociological and Criminological Perspectives of Crimes in the Art World”. Moran, D., “Carceral Geography: Spaces and Practices of Incarceration”. Moran and Schliehe, A., “Carceral Spatiality: Dialogues between Geography and Criminology”. Persak, N. and Di Ronco, A., “Harm and Disorder in the Urban Space: Social Control, Sense and Sensibility”.
教材	パワーポイントを使用する。また、適宜プリント資料を配布する。
履修上の注意	
成績評価 **(~H29)**	授業中の態度（20%） 期末試験：創造的な作品（自由形式）と解説リポート（80%） [A] 社会における犯罪とその統制の課題について評価し反省することにおいて創造的な表現の良い実証ができた。 [B] 社会における犯罪とその統制の課題について理解と反省を創造的に表現する能力の実証ができた。 [C] 社会における犯罪とその統制の課題について基本的な理解を創造的に表現する能力の実証ができた。
成績評価 **(H30~)**	授業中の態度（20%） 期末試験：創造的な作品（自由形式）と解説リポート（80%） [S] 社会における犯罪とその統制の課題について批判的に評価し反省することにおいて独創的な表現の優秀な実証。 [A] 社会における犯罪とその統制の課題について評価し反省することにおいて創造的な表現の良い実証。 [B] 社会における犯罪とその統制の課題について理解と反省を創造的に表現する能力の実証。 [C] 社会における犯罪とその統制の課題について基本的な理解を創造的に表現する能力の実証。
主担当教員	ディビッド・ブルースター

令和4年度シラバス

番号	(A1) -07	**履修コード**	1120Z1
科目名	歴史	**科目英語名**	History
科目区分	教養科目Ａ	**授業形態**	講義
資格区分	博物館選択科目	**開講学期**	前期
入学年度		**毎週・集中**	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	**曜日・時限**	火曜9･10限
履修区分	選択	**教室**	美大ホール
単位	2	**定員**	76名
担当教員	稲垣健志		
授業概要	近現代史に焦点をあてた講義をおこなう。前半では、金沢の近現代史を「都市形成」という観点から時系列的に追っていく。後半では、近現代史の重要なテーマである「ポストコロニアル」に関連した事象を取り上げ、現代社会に通底する問題にせまっていく。		
到達目標	いわゆる「暗記型の歴史のお勉強」ではなく、自分の身近な事象と歴史の問題を結びつけて考察することを目指します。		
授業計画	Warm-up: 近現代史の見かた―「日本」の「伝統」「文化」とは何か？ The First Half: 金沢の近現代史 ・明治時代の金沢―「加賀百万石」から「裏日本」へ― ・「軍隊を誘致せよ！」―「軍都」金沢の形成― ・「学都」への道―第四高等学校の歴史をたどる― ・太平洋戦争と金沢 ・戦後の金沢―「伝統」と「アート」による街づくり― Half Time: 映画から近現代史を考える The Second Half: ポストコロニアル文化の諸相 ・ポストコロニアルとはいつだったのか？ ・彼（女）らはなぜ踊り始めたのか？ ―ロンドンにおけるノッティングヒル・カーニヴァルの誕生― ・黒い音楽、白い暴動―「反ナチ・カーニヴァル」に集ったものたち― ・英語圏の中心でパトワを叫ぶ―L.K.J.のダブ・ポエトリー― ・ポストコロニアル・アート―インカ・ショニバレを中心に― Additional Time: 期末試験		
予習・復習	授業内で指示する。		
教科書	特に使用しない。		
参考書	授業内で適宜紹介する。		
教材	パワーポイントを使用する。またプリント資料を必要に応じて配布する。		
履修上の注意	この科目は、平成24年度以降入学者を対象とする授業科目である。平成23年度以前入学者には、シラバス第３章「新旧授業科目対応表」に該当する場合以外は単位が認められない。 履修者の関心や傾向により講義内容が変更になる場合もある。		
成績評価 (~H29)	毎回提出するレスポンスカードとレポートとを総合して単位認定を行う。 [A]近現代史に関する視野を広げ、身近な事象と歴史の問題を結びつけて考察することができた。 [B]近現代史に関する視野を広げ、身近な事象が歴史の問題につながっていることを確認できた。 [C]近現代史に関する視野を広げることができた。		
成績評価 (H30~)	毎回提出するレスポンスカードとレポートとを総合して単位認定を行う。 [S]近現代史に関する視野を広げ、身近な事象と歴史の問題を結びつけて考察した解答を作成できた。 [A]近現代史に関する視野を広げ、身近な事象と歴史の問題を結びつけて考察することができた。 [B]近現代史に関する視野を広げ、身近な事象が歴史の問題につながっていることを確認できた。 [C]近現代史に関する視野を広げることができた。		
主担当教員	稲垣健志		

令和4年度シラバス

番号	(A1) -08	履修コード	1107Z1
科目名	日本国憲法	科目英語名	Japanese Constitution
科目区分	教養科目Ａ	授業形態	講義
資格区分	教職必修科目	開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	木曜9･10限
履修区分	選択	教室	第１教室
単位	2	定員	166名
担当教員	（非常勤）佃　貴弘		
授業概要	憲法とは、国家を基礎づけるための基本法である。しかし、それは、「日本国憲法」という法典そのものを意味するとは限らない。この授業で、立憲主義の考え方を理解し、個人の人権を尊重することで国家権力を制限することの意義と限界を理解することを目指す。 そこで、日本国憲法の基本原理を理解する。次に、国会・内閣・裁判所の憲法上の位置づけを理解する。そして、人権を尊重し、国家権力を制限する意味を理解する。最後に、平和主義を扱う。		
到達目標	1．大日本帝国憲法と日本国憲法を比較し、「日本国憲法の基本原理」の存在意義を確認する。 2．憲法に定められた統治機構（国会・内閣・裁判所）の役割を理解する。 3．立憲主義の思想を理解し、人権を尊重して国家権力を制限することの意味を理解する。		
授業計画	第１回　憲法の基礎(1)―立憲主義 第２回　憲法の基礎(2)―日本憲法史 第３回　憲法の基礎(3)―国民主権 第４回　天皇制 第５回　選挙と参政権 第６回　国会の役割 第７回　行政権と議院内閣制 第８回　司法権と裁判制度 第９回　憲法の基礎(4)―憲法の改正 第１０回　人権の理念・歴史・特質、人権総論(1) 第１１回　人権の理念・歴史・特質、人権総論(2) 第１２回　幸福追求権と平等(1)―幸福追求権 第１３回　幸福追求権と平等(2)―平等 第１４回　表現の自由 第１５回　平和主義		
予習・復習	授業終了後に「小テスト」を毎回実施し、「レポート」を不定期に出題する。日本国憲法に関する知識を確認し、理解度を調べるためのものなので、授業を復習してそれに備えることが求められる。		
教科書	駒村圭吾(編著)『プレステップ憲法〈第３版〉』（弘文堂、2021年）。		
参考書	1．初宿正典ほか(編著)『目で見る憲法〔第５版〕』（有斐閣、2018年）。 2．芦部信喜（高橋和之(補訂)）『憲法　第７版』（岩波書店、2019年）。		
教材	各自で教科書を購入していることを前提に、補助プリントを配布する。参考書を購入する必要はない。参考書が必要になった場合は、教員が著作権法で認める範囲内で印刷して配布する。		
履修上の注意	教員免許取得に必要な科目である。		
成績評価 **(~H29)**	平常点（100%） ※「小テスト」（授業終了後に毎回実施）と「レポート」（不定期に実施）で評価する 評価の基準： [A] 小テストまたはレポートを通じて、憲法が定める制度の趣旨を理解していることを示せた。 [B] 小テストを通じて、憲法が定める制度の多くの内容を把握することができた。 [C] 小テストを通じて、憲法が定める制度の必要最小限の内容を把握することができた。		
成績評価 **(H30~)**	平常点（100%） ※「小テスト」（授業終了後に毎回実施）と「レポート」（不定期に実施）で評価する 評価の基準： [S] 小テストおよびレポートを通じて、憲法が定める制度の趣旨を理解していることを示せた。 [A] 小テストまたはレポートを通じて、憲法が定める制度の趣旨を理解していることを示せた。 [B] 小テストを通じて、憲法が定める制度のうち、多くの内容を把握することができた。 [C] 小テストを通じて、憲法が定める制度のうち、必要最小限の内容を把握することができた。__		
主担当教員	佃　貴弘		

令和4年度シラバス

番号	(A1) -09	履修コード	1108Z1
科目名	文学Ⅰ	科目英語名	Literature Ⅰ
科目区分	教養科目Ａ	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	月曜7･8限
履修区分	選択	教室	美大ホール
単位	2	定員	166名
担当教員	高橋明彦		
授業概要	福永武彦『忘却の河』講読 『忘却の河』は、とある戦後の中流家庭の諸肖像を描きながら、人間の生死、愛憎を扱った、極めて優れた典型的現代小説です。テーマ的には重々しいが、読者を引込む巧みな構成と美しい表現力を持っています。本授業では、戦後文学を題材にして、描かれたテーマを味わい、同時に文学を研究するための基礎的方法を学びます。		
到達目標	大学生の一般教養として、文学作品を読む力を養うために、次の3点を心掛けます。1、2、3の順に難度が上がるので、是非挑戦してください。 １．複雑な構成の作品を、前後関係などに注意して、丹念にたどって読む。 ２．作品の背景となっている哲学や芸術思想などを理解しつつ、作品を読む。 ３．作品から見出だされるテーマを読み取り、自分の生き方と関係づけて読む。		
授業計画	講義・講読形式で授業を行います。作品は全七章から成っていて、週割りと章・各主題との対応は次の通りです。 1回 一章 忘却の河［父］ 小説世界とその導入について 2回 同 戦前の社会運動、病気について 3回 同 小石について−罪をあがなうことは可能か 4回 二章 煙塵［姉］ 忘れられた記憶 5回 同 香水について−共感を媒介する物質性 6回 三章 舞台［妹］ 実存主義とサルトル『出口なし』 7回 同 母の生を仮想的に反復することについて１ 8回 四章 夢の通い路［母］和歌＝平仮名の話し言葉 9回 同 恋愛小説における恋愛不可能性と罪の肯定 10回 五章 硝子の城［先生］戦後の社会運動、芸術について 11回 同 恋愛小説における恋愛可能性と罪の回避 12回 六章 喪中の人［妹］ 本当の恋愛を保証するものはなにか 13回 同 母の生を仮想的に反復することについて２ 14回 七章 賽の河原［父］ ふるさと−贖罪と救済のあいだに 15回 同 見出だされた記憶		
予習・復習	授業の週割り分は事前に読了しておいてください。また、レポート作成のために何度も読み返してください。		
教科書	福永武彦『忘却の河』新潮文庫 594円（定価） 教科書は初回から使います。学内の売店（かゆう堂）でも販売しています。		
参考書	特になし。		
教材	講義資料は、WEBで閲覧できます。毎回の感想はネット経由（googleクラスルーム）で提出してもらいます。こうしたことが出来る環境が必要です（ふつうのパソコンなどで大丈夫だと思います）。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 **(~H29)**	評価の方法：レポート１回40%(学期末)。毎時間の感想の提出60%（毎回） 評価の基準： [A]上記の到達目標の3までが達成されている。 [B]上記の到達目標の1がおおむね達成されている。 [C]上記の到達目標の1がとりあえず達成されている。		
成績評価 **(H30~)**	評価の方法：レポート１回40%(学期末)。毎時間の感想の提出60%（毎回） 評価の基準： [S]上記の到達目標が3まで極めて優れた視点と表現力を持って達成されている。 [A]上記の到達目標の3までが達成されている。 [B]上記の到達目標の1がおおむね達成されている。 [C]上記の到達目標の1がとりあえず達成されている。		
主担当教員	高橋明彦		

令和4年度シラバス

番号	(A1) -10	履修コード	1109Z1
科目名	文学Ⅱ	科目英語名	Literature Ⅱ
科目区分	教養科目Ａ	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	水曜5･6限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	76名
担当教員	高橋明彦		
授業概要	「常なるもの」をめぐる日本古典文学 「常なるもの」とは変わらぬもの、永遠不変のものであり、それは恒常的・絶対的であるゆえに、普遍的な価値がある、と人は考える。「常なるもの」の反対は「無常」だが、無常とは絶え間なく変転するさまである。たとえば人生は無常であり（つまり最後はいつも死を迎える）、むなしい。人はそのむなしさから逃れようとして、いつも「常なるもの」を追い求めてきた。世界観とは、端的に言うなら、この「常なるもの」の価値体系である。 　日本古典文学において、平安文学、中世文学を概観し、近世文学における仮名草子・浮世草子（特に気質物）を読み、この「常なるもの」という問題を考える。		
到達目標	上記「常なるもの」について、 １．それを概念的に理解し、言葉で再構成する。 ２．それを、具体的な文学作品を通して理解する。 ３．さらに、それを自分自身の生き方・考え方と比較対照する。		
授業計画	週割りと扱う作品・概要は以下の通り 第1回　概要：「常なるもの」vs 無常 第2回　『伊勢物語』はかなし、『古今和歌集』 第3回　『紫式部日記』（常無き世、浮世）、『枕草子』（をかし） 第4回　『更級日記』平凡さ。現世利益から阿弥陀信仰へ。＋日本仏教史 第5回　『平家物語』『方丈記』『徒然草』無常観、わび・さび、『新古今和歌集』幽玄、有心 第6回　『犬枕』『仁勢物語』パロディ 第7回　『浮世物語』憂き世から浮世へ 第8回　『好色一代男』享楽主義（後世の否定） 第9回　井原西鶴の浮世草子と俳諧的連想 第10回　浮世の閉塞感–現世唯一主義の帰結 第11回　気質物・江戸のオタク小説–江島其磧『世間子息気質』 第12回　江島其磧・気質物の総合的展開『御伽名題紙衣』、『けいせい伝受紙子』 第13回　多田南嶺『諸芸袖日記』『大系図蝦夷噺』、価値の相対主義へ 第14回　上田秋成『諸道聴耳世間猿』価値の真性と擬似、非執着、『世間妾形気』根本的同一性と表現における二極性 第15回　《やつし》と古典世界、一風『御前義経記』、其磧『通俗諸分床軍談』、南嶺『契情太平記』		
予習・復習	予習は必要有りません。復習としては、講義音声を保存して何度でも聞けるようにしてありますので、ご利用の上、授業ごとに感想を提出して下さい。毎回の感想をもとに、最終レポートを作成してもらいます。		
教科書	講義内容はWEB閲覧できるようにしています。PDFファイルで配付します。		
参考書	特になし。		
教材	webが閲覧でき、PDFファイルが読める環境が必要です。普通のパソコンで十分でしょう。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 **(~H29)**	評価の方法：レポート１回40%(学期末)。授業毎の感想文の提出60%（毎回） 評価の基準： [A]上記の到達目標の3まできちんと達成されている。 [B]上記の到達目標の2までがおおむね達成されている。 [C]上記の到達目標の1がとりあえず達成されている。		
成績評価 **(H30~)**	評価の方法：レポート１回40%(学期末)。授業毎の感想文の提出60%（毎回） 評価の基準： [S]上記の到達目標が3まで極めて優れた視点と表現力を持って達成されている。 [A]上記の到達目標の3まできちんと達成されている。 [B]上記の到達目標の2までがおおむね達成されている。 [C]上記の到達目標の1がとりあえず達成されている。		
主担当教員	高橋明彦		

令和4年度シラバス

番号	(A1) -11	履修コード	1110Z1
科目名	文学Ⅲ	科目英語名	Literature Ⅲ
科目区分	教養科目Ａ	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	水曜9･10限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	76名
担当教員	高橋明彦		
授業概要	マンガ作品を取り上げ、文献学およびマンガ表現論の二側面から講義します。文学研究も含んだ、広義の文献学的アプローチを学ぶ授業です。本年度は、楳図かずお『14歳』（全4巻）を読み、総論的にこれを講義します。		
到達目標	①マンガ研究における文献学的アプローチを理解する (a)作品注釈（描かれた事物に関する詳細な注釈） (b)主題論（作品のテーマについて） ②マンガ表現論を理解する (c)描線論（マンガにおける線と図像との関係について） (d)コマ割り論（マンガのコマにおける継起性と並存性について）		
授業計画	○計画概要 描線論・コマ割り論については、マンガ表現論の最先端を講義します。（第1回～6回） 主題論については、作品テーマを他の参考作品との比較も含めて考察します。同時に、常に描線やコマ割りの問題にも触れます。（第7～12回） ○週割り 1回　描線論（１）描線論（エネルゲイア、描線の意味するもの） 2回　描線論（２）描線論（デュナミス、意味に還元不能な描線性） 3回　コマ割り論（１）コマにおける継起性 4回　コマ割り論（２）コマにおける並存性 5回　コマ割り論（３）コマの解放 6回『14歳』読解 １　食べ物の存在論–チキン・ジョージ登場 7回　２　不老不死と科学万能主義 8回　３　楳図作品の総決算（１）–楳図神学と救世主の物語 9回　４　政治とプロパガンダ、ものと人権 10回　５　ＳＦ的な古典–宇宙人の来訪と地球の脱出と 11回　６　チラノザウルス号の内部 12回　７　チラノザウルス号の子どもたち 13回　８　チラノザウルス号の運命 14回　９　青虫の世界–フラクタルな可能世界 15回　まとめ／世界の救済と『わたしは真悟』偽計と緩束		
予習・復習	授業中で指示された関連作品、および下掲の参考文献を事前に読んでおくこと。		
教科書	WEBで講義内容を示します。楳図かずお『14歳』全４巻（小学館）は無くても構いません。		
参考書	高橋明彦『楳図かずお論』（2015年・青弓社）特に、第7章、第8章のマンガ表現論に関する部分		
教材	ビデオプロジェクタ、ビデオ、私の個人サイト		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 **(~H29)**	評価方法：レポート１回40%(学期末)。平常点60%（授業中の提出物、毎回）。 評価基準： ［A］上記の到達目標の各点について、十分な達成が見られる。 ［B］上記の到達目標のいずれかについて、十分な達成が見られる。 ［C］上記の到達目標のいずれかについて、最低限の理解がある。		
成績評価 **(H30~)**	評価の方法：レポート１回40%(学期末)。感想文の提出60%（毎回） 評価の基準： [S]上記の到達目標が3まで極めて優れた視点と表現力を持って達成されている。 [A]上記の到達目標の3まできちんと達成されている。 [B]上記の到達目標の2までがおおむね達成されている。 [C]上記の到達目標の1がとりあえず達成されている。		
主担当教員	高橋明彦		

令和4年度シラバス

番号	(A1) -12	履修コード	1111Z1
科目名	文学Ⅳ	科目英語名	Literature Ⅳ
科目区分	教養科目Ａ	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	金曜7･8限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	76名
担当教員	青柳りさ		
授業概要	映画化されている文学作品をテキストと映像の二つの面から鑑賞する。抜粋による作品の紹介、映画鑑賞、レポート、講義とディスカッションという流れのなかで、作家・作品紹介を端緒として、作家・監督のねらい、作品の成立過程、文体と映像表現、ストーリーの展開と脚色、音楽の効果、成立した時代と作品の周辺、以後の文学・映像作品への影響等に注目し考察する。		
到達目標	映画化された文学作品の鑑賞を通してすぐれた文学作品に触れる。芸術作品の創造の現場を検証、芸術の相互関連性についての理解を深める。		
授業計画	芥川龍之介『藪の中』『羅生門』、黒澤明『羅生門』 第１回　　芥川龍之介『藪の中』紹介、黒澤明『羅生門』鑑賞 第２回　　黒澤明『羅生門』鑑賞、レポート作成・提出 第３回　　講義とディスカッション（作品の成立） 第４回　　講義とディスカッション（ストーリーの展開、原作との比較） 題５回　　講義とディスカッション（音楽と映像） 第６回　　講義とディスカッション（レポートの紹介、作品の周辺とその影響） 第７回　　講義とディスカッション（黒澤作品とその時代） アントニイ・バージェス『時計じかけのオレンジ』、 スタンリー・キューブリック『時計じかけのオレンジ』 第８回　　アントニイ・バージェス『時計じかけのオレンジ』紹介 スタンリー・キューブリック『時計じかけのオレンジ』鑑賞 第９回　　『時計じかけのオレンジ』鑑賞、レポート作成・提出 第10回　　講義とディスカッション（作品の成立） 第11回　　講義とディスカッション（ストーリーの展開、原作との比較） 第12回　　講義とディスカッション（音楽と映像） 第13回　　講義とディスカッション（レポートの紹介、作品の周辺とその影響） 第14回　　講義とディスカッション（キューブリックフィルモグラフィー） 第15回　　総括		
予習・復習	とりあげる二作品を含め授業中に紹介する作品の講読をすすめる。		
教科書	特になし。		
参考書	芥川龍之介『地獄変・偸盗』（新潮文庫）、『羅生門・鼻』（新潮文庫）、黒沢明『蝦蟇の油』（岩波現代文庫）、夏目漱石『文鳥・夢十夜』（新潮文庫）、アントニイ・バージェス『時計じかけのオレンジ』（ハヤカワ文庫）、アーサー・クラーク『２００１年宇宙の旅』（ハヤカワ文庫）、スティーヴン・キング『シャイニング』（文春文庫）、レマルク『西部戦線異状なし』（新潮文庫）、野坂昭如『火垂るの墓』（新潮文庫）他。		
教材	DVD･ビデオ･CD：『羅生門』、『夢』、『ミスティ』、『クロサワ』、『「七人の侍」研究』、『八月の狂詩曲』、『ボレロ』、『愛と哀しみのボレロ』、『ネオファンタジア』、『猫の恩返し』、『デジモンアドベンチャー』、『時計じかけのオレンジ』、『Stanley Kubrick, A life in pictures』、『非情の罠』、『突撃』、『ロリータ』、『博士の異常な愛情』、『２００１年宇宙の旅』、『バリー・リンドン』、『シャイニング』（キューブリック版、キング版）、『フルメタルジャケット』、『アイズワイドシャット』、『雨に唄えば』、『グッバイ、レーニン！』、『レオン』、『アメリ』、『デリカテッセン』、『西部戦線異状なし』、『ジョニーは戦場へ行った』他。		
履修上の注意			
成績評価 **(~H29)**	出席カードの記入（50%）と授業内のレポート（400字）2回、学期末レポート（2000字）１回（50%）を総合して評価する。 [A]上記到達目標を高いレベルで達成することができた。 [B]上記到達目標を達成することができた。 [C]上記到達目標をある程度達成することができ視野を広げることができた。		
成績評価 **(H30~)**	出席カードの記入（20%）と授業内のレポート（400字）2回（40%）、学期末レポート（2000字）１回（40%）を総合して評価する。 [S]上記到達目標を高いレベルで達成し、自らの視点で考察することができた。 [A]上記到達目標を高いレベルで達成することができた。 [B]上記到達目標を達成することができた。 [C]上記到達目標をある程度達成することができ視野を広げることができた。		
主担当教員	青柳りさ		

令和4年度シラバス

番号	(A1) -13	履修コード	1113Z1
科目名	文化人類学	科目英語名	Cultural Anthropology
科目区分	教養科目Ａ	授業形態	講義
資格区分	博物館選択科目	開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	水曜9･10限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	55名
担当教員	（非常勤）鏡味治也		
授業概要	文化人類学は文化から人間を考える学問である。文化概念は近代社会を作るうえで大きな役割を果たした。講義ではまず文化概念の意味内容を紹介し、教員の実務体験も踏まえて、文化人類学が取り組んできた課題を歴史的に概観し、文化から人間を考える今日的意味を問う。		
到達目標	文化という言葉が指す複層的な意味を把握し、それが近代社会でいかに重要な役割を担い、また課題を提示しているかを受け止め、文化を通して人間を考える見方を身につけて、未来社会への展望を描けるようにする。		
授業計画	前半はまず「文化」という言葉の登場とその意味内容の歴史的変遷をたどり、それが近代世界を成立させるうえでいかに重要な役割を果たしたかを検討する。 第1回　オリエンテーション 第2回　文化概念の発生と展開 第3回　ドイツの「文化」対フランスの「文明」 第4回　ネイションとナショナリズム 第5回　イギリスの文化概念 第6回　アメリカの文化概念 第7回　文化相対主義 第8回　中間試験：文化概念の展開まとめ 後半は文化という観点から人間を考える文化人類学の成立と展開を概観し、その取り組んできた課題の今日的な意味を考える 第9回　「人種」「民族」概念と文化人類学の成立 第10回　人類社会の発展段階説 第11回　実証的現地調査と文化領域説 第12回　出自理論と縁組理論 第13回　儀礼研究、認識論、神話論、象徴研究 第14回　文化人類学の展開と今後の展望まとめ 第15回　期末試験：総括		
予習・復習	授業前にテキストを読み、授業後にノートを整理する		
教科書	鏡味治也『キーコンセプト　文化』（2010年、世界思想社）		
参考書			
教材			
履修上の注意	試験は教科書・ノート持ち込み可にするので、かならずノートをとること		
成績評価 **(~H29)**	中間試験40点、期末試験40点、宿題4回20点の合計で評価 [A]文化概念の意味内容と文化人類学の視点をよく把握し、自分の考えに反映できた [B]文化概念の意味内容と文化人類学の視点をよく把握できた [C]文化概念の意味内容と文化人類学の視点を理解できた		
成績評価 **(H30~)**	中間試験40点、期末試験40点、宿題4回20点の合計で評価 [S]文化概念の意味内容と文化人類学の視点をよく咀嚼して自分の考えを表明できた [A]文化概念の意味内容と文化人類学の視点をよく把握し、自分の考えに反映できた [B]文化概念の意味内容と文化人類学の視点をよく把握できた [C]文化概念の意味内容と文化人類学の視点を理解できた		
主担当教員	鏡味治也		

令和4年度シラバス

番号	(A1) -14	履修コード	1115Z1
科目名	考古学	科目英語名	Archaeology
科目区分	教養科目Ａ	授業形態	講義
資格区分	博物館選択科目	開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	木曜9･10限
履修区分	選択	教室	美大ホール・オンライン
単位	2	定員	
担当教員	（非常勤）小嶋芳孝		
授業概要	縄文時代を概観した後、古代国家の形成期である弥生時代から古墳時代と古代国家が成立したの奈良・平安時代を講義する。石川県教育委員会に32年間勤務。この間、博物館学芸員や遺跡の保存活用・発掘調査などの業務に従事。こうした経験をもとに、考古学の最新情報を伝えたい。		
到達目標	古代における日本列島の社会・文化的な様相を理解する。		
授業計画	第1回　考古学とは何か（歴史学における考古学の位置づけを考える） 第2回　日本列島の新石器時代（縄文時代の概要） 第3回　日本列島の新石器時代（貝塚から分かる縄文人の生活文化） 第4回　日本列島の新石器時代（縄文人の装身具・・糸で石を切る） 第5回　農耕社会の形成（弥生時代の概要） 第6回　『倭人伝』を読む（倭の地理情報と邪馬台国） 第7回　『倭人伝』を読む（女王国の卑弥呼） 第8回　『倭人伝』を読む（卑弥呼の危機と新たな時代の始まり） 第9回　弥生時代の首長墓と古墳（古代国家の形成を考える） 第10回 古墳時代後期の様相（５世紀の大変革を考える） 第11回 装飾古墳と壁画古墳（高松塚古墳とキトラ古墳の壁画を中国と朝鮮半島の壁画文化と比較し、日本の古代文化の特質を考える） 第12回 粛慎と高句麗人が渡来した越諸国（6世紀の東アジア世界と北陸） 第13回 古代国家の成立と北陸（7世紀・飛鳥時代の古代国家形成が北陸に及ぼした影響を考える） 第14回 平城京と平安京（8～9世紀の王都の変遷とその背景） 第15回 加賀立国と加賀国府（823年加賀立国の背景を考える）		
予習・復習	講義中に資料に関する質疑問点は、講義中や講義後に尋ねてください。また、県立歴史博物館や石川県埋蔵文化財センターなど、身近にある博物館等を適宜見学して地域の歴史や考古学の知見を深めてください。　　問をするので、講義前や終了後に資料を良く読んで理解すること。疑問点は、講義中や講義後に尋ねてください。また、県立歴史博物館や石川県埋蔵文化財センターなど、身近にある博物館等を適宜見学して地域の歴史や考古学の知見を深めてください。		
教科書	資料を配付する。		
参考書	東潮『邪馬台国の考古学』角川選書503・角川学芸出版2012年		
教材	DVD･パワーポイント		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)	学期中の小レポート（30%） 学期末レポート（70%） [A]縄文時代から古墳時代に関する知見を深め、初期国家の様相を高いレベルで理解した。 [B]縄文時代から古墳時代に関する知見を深め、初期国家の様相を理解することができた。 [C]縄文時代から古墳時代に関する知見を深めることができた		
成績評価 (H30~)	学期中の小レポート（30%） 学期末レポート（70%） [S]縄文時代から古墳時代に関する知見を深め、初期国家の様相を特に高いレベルで理解した。 [A]縄文時代から古墳時代に関する知見を深め、初期国家の様相を高いレベルで理解した。 [B]縄文時代から古墳時代に関する知見を深め、初期国家の様相を理解することができた。 [C]縄文時代から古墳時代に関する知見を深めることができた		
主担当教員	小嶋芳孝		

令和4年度シラバス

番号	(A1) -15	履修コード	1116Z1
科目名	生涯学習概論	科目英語名	Theory of Life Long Education
科目区分	教養科目Ａ	授業形態	講義
資格区分	博物館必修科目	開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	月曜5･6限
履修区分	選択	教室	美大ホール
単位	2	定員	166名
担当教員	○桑村佐和子　（非常勤）東雅宏・未定		
授業概要	生涯学習と生涯学習支援・推進の基本についての理解を図ることを目的とする。生涯学習の意義、生涯学習推進の背景、生涯学習と社会教育や学校教育等との関係、生涯学習関連施策の動向、社会教育の内容・方法・形態・指導者・施設の実際などを概観する。 石川県内の市町で生涯学習支援を担っている講師による、現場での実務経験に基づいた実践に関わる講義を基に、現場での生涯学習支援のあり方を考察する。		
到達目標	博物館の教育普及活動の基礎である、生涯学習・生涯学習支援の基本的な考えを身に付ける。		
授業計画	以下の内容を15回に振り分ける。 １．生涯学習とは （１）生涯学習の定義 （２）生涯学習と社会教育 （３）生涯学習推進の経緯 ２．生涯学習と生涯学習支援 （１）生涯各期の学習の特徴 （２）社会教育の内容・方法・形態 （３）社会教育関係指導者 （４）社会教育関係施設 ３．生涯学習推進の動向 （１）生涯学習関連施策と社会教育行政 ・金沢市の生涯学習推進行政 （金沢市生涯学習課の仕事を実務経験をもとに講義してもらいます。） （２）学社連携・融合 （３）地域における生涯学習支援 ・学習者自身の気づきを大切にする実践 （白山市における青少年教育を中心に、実際の講座等を例にして 社会教育事業を企画する基本的な考え方を講義してもらいます。） ・生涯学習のまちづくり （能登におけるまちづくりを行っている方に、 その実際とその基になる考えを講義してもらいます。） ※実際に生涯学習支援をされている方を講師としてお呼びしますので、 講師のご都合により、順番を入れ替える可能性があります。 また、受講者数、授業の進度によってはグループワークを取り入れる予定です。		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜、紹介する。		
教材	適宜、視聴覚教材を用いる。		
履修上の注意	学外から生涯学習関係者をお呼びしたり、グループワークを取り入れるつもりです。継続的で、積極的な参加を求めます。		
成績評価 (~H29)	小レポートと期末テストの合計（70%）と授業での小課題（30%）によって評価する。 期末テストの評価の基準は、以下のとおりである。 [A]生涯学習と生涯学習支援の基本的知識を修得しており、それをもとに考えることができる。 [B]生涯学習と生涯学習支援の基本的知識をだいたい修得しており、それをもとに考えることができる。 [C]生涯学習と生涯学習支援の基本的知識をだいたい修得しており、少しはその知識をもとに考え		

	ることができる。
成績評価 **(H30~)**	小レポートと期末テストの合計（70%）と授業での小課題（30%）によって評価する。 期末テストの評価の基準は、以下のとおりである。 [S]生涯学習と生涯学習支援の基本的知識を修得しており、それをもとに多面的、実践的に考えることができる。 [A]生涯学習と生涯学習支援の基本的知識を修得しており、それをもとに考えることができる。 [B]生涯学習と生涯学習支援の基本的知識をだいたい修得しており、それをもとに考えることができる。 [C]生涯学習と生涯学習支援の基本的知識をだいたい修得しており、少しはその知識をもとに考えることができる。
主担当教員	桑村佐和子

令和4年度シラバス

番号	(A1) -16	履修コード	1121Z1
科目名	人間と文化	科目英語名	Human and Culture
科目区分	教養科目Ａ	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	金曜9･10限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	76名
担当教員	高橋明彦		
授業概要	（テーマ）江戸のメディア --- 近世印刷出版史論 近世(江戸時代)は印刷の技術革新がなされ、出版が営利事業として成立し、流通が確立した日本最初の時代である。書物においては、民間の本屋が林立し、株仲間が組織され、数多くの書籍が製作された。絵画においても、絵手本・浮世絵等は本屋のプロデュースによるものである。一方、官営・藩営・寺社等の書物・印刷物の作成も盛んであり、また、文学・絵画等の芸術・学問的なもののみならず、草双紙・暦・実用書・日用雑貨なども印刷文化の中で消費されている。明治時代以降の出版文化・技術革新も視野にいれつつ、これらの諸現象を、初歩的な解説も含め、多面的に概括する。		
到達目標	１．出版機構に関して、日本近世の具体的事例に則して理解する。 ２．表現の自由や抑圧、筆禍などと制度・法律との関係について理解する。		
授業計画	第1回 言葉と文字、印刷と出版 第2回 印刷の諸相 第3回 近世初期の印刷技術と印刷物 第4回 仮名草子の出版–京都町版の萌芽 ＊都の錦 第5回 浮世草子の出版–井原西鶴と大坂の出版 ＊ 第6回 享保七年の出版条例–本屋仲間の成立 ＊割印帳 第7回 寛延三年の出版抗争と須原屋グループ ＊新しい学問と出版 第8回 江戸のサブカルチャー–地本問屋について 第9回 三都の本屋仲間の連携–近藤淳二植字板一件 第10回 藩版の多様性 第11回 流通概念について–読書・学習の意義 第12回 春本–性と出版、猥褻問題 第13回 筆禍、禁書、検閲 – 言論の弾圧と自由 第14回 近代の検閲–日本国憲法第21条まで 第15回 現在の表現の自由と権力		
予習・復習	予習は必要ありません。復習は、WEBや音声アーカイブを踏まえて、毎回の授業内容に関する感想を提出してください。感想を蓄積して、最後の学期末レポートにして下さい。		
教科書	ホームページを用意しているので、PCやスマホ等携帯端末で見てください。		
参考書	『日本古典籍書誌学辞典』（岩波書店）		
教材	WEB、PDFファイル		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 **(~H29)**	評価の方法：レポート(学期末)４０%、授業毎の感想文の提出６０%（毎回） 評価の基準： [A]到達目標の2までが達成され、提出物が充足し、筆記試験も出来た（80点以上）。 [B]到達目標の1までが達成され、提出物が充足し、筆記試験も受けた。 [C]提出物が充足し、筆記試験を受けた（50点以上）。		
成績評価 **(H30~)**	評価の方法：レポート(学期末)４０%、授業毎の感想文の提出６０%（毎回） 評価の基準： [S]到達目標が2まで極めて優れた理解を持って達成され、提出物が充足し、筆記試験も出来た。 [A]到達目標の2までが達成され、提出物が充足し、筆記試験も出来た。 [B]到達目標の1までが達成され、提出物が充足し、筆記試験も受けた。 [C]提出物が充足し、筆記試験を受けた。		
主担当教員	高橋明彦		

令和4年度シラバス

番号	(A1) -17	履修コード	1122Z1
科目名	フレッシュマンセミナー	科目英語名	Freshman Seminar
科目区分	教養科目Ａ	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	水曜7･8限
履修区分	選択	教室	美大ホール
単位	2	定員	166名
担当教員	◯荷方邦夫・岩崎純・足立真実・安島諭・渋谷拓		
授業概要	大学入学直後の新入生を対象に、大学での活動をより活発にし、学生生活を実りあるものとするために、少人数のグループ学習を含む活動を行い、そこで大学における勉学の方法や充実した学生生活の送り方を学ぶ機会を作る。大学とはどんなところか、ここで何ができるかを知り、自らが何になるか、何をするかについて考える。そして、４年間という限られた時間を最大限有効に使うのに必要な見方・考え方を、トレーニングを通じて習得することを目的とする。		
到達目標	自らの力で、大学における学習・研究を遂行する基本的な能力を身につけるとともに、自身の生涯にわたるキャリアデザインについて、関心・姿勢・実現のための取り組みができるようになること。		
授業計画	１　大学生活を始める（0.5単位） ◯ガイダンスとオリエンテーション ◯かかわりの誕生、少人数グループによるコミュニケーション ◯大学における学びとは 　　大学は何をするところだろうか 　　大学生の学び・研究 ２　自分の未来を考える（１単位） ◯キャリアデザインとは何か ◯リレー講義　私がきた道（１）　岩崎 ◯リレー講義　私がきた道（２）　渋谷 ◯リレー講義　私がきた道（３）　安島 ◯リレー講義　私がきた道（４）　足立 ◯リレー講義　私がきた道（５）　荷方 ３　学びと考えをレポートする（0.5単位） ◯レポートライティングの方法 ◯言葉と文章を考える ◯プレゼンテーションの技法		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。特に、毎回提示される授業内容と資料については、自分で次回まで改めてまとめること。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	授業の中でプリントや学習課題を提供する		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 **(~H29)**			
成績評価 **(H30~)**	学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。1%を1ポイントとして換算する。 １　期末試験の点数（50%） 　客観式テストを行い，点数を直接の評価とする。 ２　授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） 　それぞれの課題や参加については，授業内でポイント（点数）を提示する。 　授業内の小課題（概ね４０%），発言や積極的参加（概ね10%） 授業における発言，小課題での回答をそのつどカウントする。 評価の基準 [S]上記の基準の上１と２で90%以上のポイントを獲得している [A]上記の基準の上１と２で80%以上のポイントを獲得している [B]上記の基準の上１と２で70%以上のポイントを獲得している [C]上記の基準の上１と２で60%以上のポイントを獲得している		
主担当教員	荷方邦夫		

令和4年度シラバス

番号	(A1) -18	履修コード	1123Z1
科目名	博物館概論	科目英語名	Introduction to Museum Study
科目区分	教養科目Ａ	授業形態	講義
資格区分	博物館必修科目	開講学期	前期
入学年度	R1～	毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	月曜5・6限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	76名
担当教員	渋谷　拓		
授業概要	私立ならびに公立美術館の学芸員経験がある教員が、現場感覚を交えてミュージアム（美術館や博物館）の活動や歴史、今日的課題について講義する。		
到達目標	ミュージアムに関する基礎的知識を学び、学生が自らの制作・研究活動と関連づけながらミュージアムについて思考できるようにする。		
授業計画	第1回　　ミュージアムを知りたい／学芸員になりたい（イントロダクション） 第2回　　動物園も「ミュージアム」である 第3回　　学芸員の仕事を知る【1】展示する／展覧会を企画する 第4回　　学芸員の仕事を知る【2】収集する／保存する 第5回　　学芸員の仕事を知る【3】学習機会をつくる 第6回　　ミュージアムの歴史を知る【1】　日本のミュージアム 第7回　　ミュージアムの歴史を知る【2】　石川県のミュージアム 第8回　　ミュージアムの歴史を知る【3】　フランスのミュージアム 第9回　　知っておきたい【1】　博物館法 第10回　知っておきたい【2】　文化遺産とミュージアム 第11回　資料を管理する 第12回　「コレクションすること」「展示すること」について考えてみる 第13回　ミュージアムは誰のため？ 第14回　ミュージアムの未来を考えてみる 第15回　まとめ		
予習・復習	ミュージアム（美術館や博物館）に積極的に出かけること。見学の際に展示の意図や各館の成り立ち（設置主体、特色、歴史など）についても知るようにすること。		
教科書	特に使用しない。講義内で参考資料を適宜指示する。		
参考書	栗田秀法編著『現代博物館学入門』ミネルヴァ書房、吉田憲司『博物館概論』放送大学教育振興会、並木誠士・吉中充代・米屋優編『現代美術館学』昭和堂、藤井匡編／東京造形大学附属美術館監修『美術館を語る』風人社など。		
教材	映像資料（DVDやビデオ）、パワーポイントを使用する場合がある。		
履修上の注意	博物館学芸員資格の取得を希望する者は、必ず1年次に履修すること。 入学年度により履修コードが異なるため、注意すること。		
成績評価 (~H29)	（該当せず）		
成績評価 (H30~)	授業への参加状況（受講態度およびグループワークに取り組む姿勢）とワークシート・期末試験・レポート評価の総合により単位認定を行う。参加状況（30%）、ワークシート・期末試験・レポート（70%）。ワークシート・期末試験・レポートの評価基準は以下のとおりとする。 〔S〕　　ミュージアムの活動全般に関する知識を高い水準で修得し、制作・研究活動との関係において自らの見解を示すことができる。 〔A〕　　ミュージアムに関する知識を高い水準で習得している。 〔B〕　　ミュージアムに関する基礎的知識を修得している。 〔C〕　　ミュージアムに関する一定の知識を持っている。		
主担当教員	渋谷　拓		

令和4年度シラバス

番号	(A1) -19	履修コード	1124Z1
科目名	金沢の文化行政	科目英語名	Cultural administration in Kanazawa
科目区分	教養科目Ａ	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度	R1～	毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	木曜9･10限
履修区分	選択	教室	第3教室
単位	2	定員	50名
担当教員	○山村慎哉　（非常勤）金沢市各課の実務担当者等		
授業概要	大学憲章に謳うように本学は1946年、「学問を好み、伝統を愛し、美の創造を通じて人類の平和に貢献することを希求する金沢市民の熱意により、工芸美術の継承発展と、地域の文化と産業の振興を目指して創立された」。この科目は、公立大学法人金沢美術工芸大学の設置団体である金沢市と連携して、金沢美術工芸大学長ならびに金沢市の各課の実務担当者を講師に招いて開講するもので、金沢の文化行政のなかでも特に本学とのかかわりが深い施策を中心に講義する。		
到達目標	学長や金沢市の各課の実務担当者等の講義を通して、金沢の文化行政に関する基本的な知識を得るとともに、芸術が地域社会に果たす役割について考える力を養う。		
授業計画	下記のテーマにおける具体的な施策について、学長ならびに金沢市各課の実務担当者等による講義を行う。 １　オリエンテーション（学長） ２　学生とつくる魅力的なまち（金沢市市民協働推進課） ３　金沢市の文化行政（金沢市文化政策課） ４　工芸のまち・金沢（金沢市クラフト政策推進課） ５　ユネスコ創造都市の取り組み（金沢市企画調整課） ６　金沢市の国際交流（金沢市国際交流課） ７　金沢での起業（金沢市商工業振興課） ８　観光によるまちづくり（金沢市観光政策課） ９　空き家の活用（金沢市住宅政策課） 10　金沢の文化財保護と活用（金沢市文化財保護課） 11　金沢の歴史文化資産を活かしたまちづくり（金沢市歴史都市推進課） 12　景観５０年のあゆみ（金沢市景観政策課） 13　暮らしの中に図書館を（金沢市図書館総務課） 14　金沢美術工芸大学の社会貢献（本学社会連携センター） 15　まとめ ※講義内容については講師の都合により変更となる可能性がある。		
予習・復習	予習として金沢市のHPを閲覧し、市政の概要を把握しておくことが望ましい。		
教科書	特になし		
参考書	特になし		
教材	適宜、資料を配付する。		
履修上の注意	各課の都合により、順番や内容が変更される可能性がある。		
成績評価 (~H29)			
成績評価 (H30~)	各講義の小レポートと期末レポートにより成績評価を行い単位を認定する。 [S]金沢の文化行政に関する基本的な知識を得るとともに、芸術が地域社会に果たす役割について極めて優れた考察を行った。 [A]金沢の文化行政に関する基本的な知識を得るとともに、芸術が地域社会に果たす役割について優れた考察を行った。 [B]金沢の文化行政に関する基本的な知識を得るとともに、芸術が地域社会に果たす役割についての考察を行った。 [C]金沢の文化行政に関する基本的な知識を得た。		
主担当教員	山村慎哉		

令和4年度シラバス

番号	(A1) -20	履修コード	1125Z1
科目名	キャリアデザイン	科目英語名	Career Design
科目区分	教養科目Ａ	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度	R1～	毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	月曜7･8限
履修区分	選択	教室	美大ホール
単位	2	定員	166名
担当教員	○廣瀬純子、（非常勤）		
授業概要	さまざまな専攻の教員が登壇し、自身の研究分野とキャリアについて語る。学生は、重要と思った学びのポイントや疑問に感じた点、今後の学生生活に活かせると思った点をまとめ、自分自身に引きつけて考える学びの場とする。開期中には、学生の意見や質問を起点にした質疑応答の回や、教員同士の対談による授業なども、合わせて展開する。		
到達目標	各教員が提示するビジネスフィールドやさまざまな業績、考え方や生き方の 選択肢に触れることで、学生たちが自らの可能性に気づき、行動に繋げていくことを目標とする。		
授業計画	1．オリエンテーション / キャリアデザインについて話そう 2．化粧品業界__資生堂とパッケージデザインについて 3．プロダクト・デザインについて 4．建築をめざして 5．ファッションをエディトリアルする 6．前半のまとめ 7．文化財保存学と出会う 8．ターニングポイント 9．作家活動 10．就活には失敗したけれど、なんとか元気に生きてます 11．エンタメ業界のクリエイティブキャリアについて 12．ブランディングについて 13．わりとガチ目に現状分析してみる 14．質疑応答・対談 15．総括 *状況により、講義スケジュールが変更になることもあります。		
予習・復習	オリエンテーションで案内する。		
教科書	オリエンテーションで案内する。		
参考書	授業中に、適宜紹介する。		
教材	スライドほか。		
履修上の注意	オリエンテーションで案内する。		
成績評価 (~H29)			
成績評価 (H30~)	積極的な授業への参加状況、小レポート提出を通して、総合的に評価する。 [S] キャリアデザインに関する基本的知識を良く理解し、深い考察と見解を交えた自己のキャリアデザインに到達した。 [A] キャリアデザインに関する基本的知識を良く理解し、考察や見解を交え自己のキャリアデザインに到達した。 [B] キャリアデザインに関する基本的知識を理解し、考察や見解を交え自己のキャリアデザインに取り組むことができた。 [C] キャリアデザインに関する基本的知識を理解し考察することができている。		
主担当教員	廣瀬純子		

令和4年度シラバス

番号	(A2) -01	履修コード	1210Z1
科目名	情報処理	科目英語名	Computational Programing
科目区分	教養科目B	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	水曜5･6限
履修区分	選択	教室	映像メディア室
単位	2	定員	29名
担当教員	大谷正幸		
授業概要	ウェブ・コンテンツとして利用可能なスクリプト言語JavaScriptを使ったプログラミングの入門コースとして開講する。 プログラミングに必要な諸概念・基本命令等を講義後、パソコンを用いた短いプログラミングにより操作内容を確認・理解し、さらに、問題を解くことにより理解の進展を図る。		
到達目標	プログラミングにおける基礎概念・文法構造を修得し、テキストの入出力からアニメーション・プログラムの作成までを扱う。		
授業計画	1．ガイダンス（プログラミングを習得するための「考え方」について） 2．HTMLの基本タグを用いて、ブラウザ上に出力可能なファイルを作成する。 3．2.の内容をJavaScriptで出力し、オブジェクト、メソッド、プロパティの概念を習得する。 4．変数の扱い、フォーム・オブジェクトの参照 5．条件分岐 6．ファンクションおよび16進法による色表示 7．繰り返し 8．ここまでのまとめ （命令の組み合わせによる高度化１）/ ルーレットを作成 9．オブジェクトの生成（画像と日付） 10．配列とアニメーション 11．ここまでのまとめ （命令の組み合わせによる高度化２）/ アニメーションの制御 12．ブール代数、課題説明		
予習・復習	実践能力を高めるために、授業で扱ったプログラム内容と出力結果との対応関係、プログラムの流れを強く意識すること。また、自ら積極的に応用を試みてください。		
教科書	webコンテンツを用いて例示すると共に、授業内容に関するプリントを配布します。		
参考書	web上にあるHTMLやJavaScriptのリファレンス・サイトを利用されたい。		
教材	映像メディア室のPCで使用可能な記憶媒体を持参		
履修上の注意	抽選による受講制限が実施されることがあります。 英語および数学的思考の基礎的な素養を必要とします。 基本的な操作の積み重ねによって、大掛かりなプログラムの作成が可能になります。そのような性質上、欠席すると何をやっているのかわからない状態になります。		
成績評価 (~H29)	JavaScriptを駆使したwebコンテンツ（共通課題および自由課題）からプログラムの作成能力および創意工夫した点を評価して単位認定を行います。 [A]プログラミングの諸概念・命令を理解し、応用的なプログラムの作成ができる [B]授業中に取り上げたプログラムに十分な改良を施せるレベルの理解と実践力が認められる [C]授業中に取り上げたプログラムに改良を施せるレベルの理解が認められる		
成績評価 (H30~)	JavaScriptを駆使したwebコンテンツ（共通課題および自由課題）からプログラムの作成能力および創意工夫した点を評価して単位認定を行います。 [S]プログラミングの諸概念・命令を理解・応用し、卓越したプログラムの作成ができる [A]プログラミングの諸概念・命令を理解し、主体的にプログラムの作成ができる [B]授業中に取り上げたプログラムに十分な改良を施せるレベルの理解と実践力が認められる [C]授業中に取り上げたプログラムに改良を施せるレベルの理解が認められる		
主担当教員	大谷正幸		

令和4年度シラバス

番号	(A2) -02	履修コード	1201Z1
科目名	スポーツ科学	科目英語名	Sport Science
科目区分	教養科目Ｂ	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	火曜9･10限
履修区分	選択	教室	美大ホール
単位	2	定員	166名
担当教員	（非常勤）熊谷史佳		
授業概要	スポーツ科学および運動・健康に関する基礎知識を身につける。また、スポーツ活動が身体的健康ならびに社会的健康に寄与することを理解する。		
到達目標	健康およびスポーツ科学における基礎知識を習得し、今後の健康の維持増進やスポーツ活動の実施に役立てることができる。また、部活動に参加している者は競技力の向上のための基礎知識を得るためにも役立てることができる。		
授業計画	第1回　オリエンテーション　：健康・体力の定義、QOLを高める必要性 第2回　運動とエネルギー代謝 第３回　体力の測定と評価１ 第４回　体力の測定と評価２ 第５回　スポーツと栄養 第６回　中間試験・レポート 第７回　子供の発育発達と運動 第８回　高齢者の老化と運動 第９回　アダプテッド・スポーツ 第１０回　地域のスポーツクラブ 第１１回　スポーツと人権・体罰・ハラスメント 第１２回　スポーツにおける集団 第１３回　競技スポーツと生涯スポーツ 第１４回　スポーツとメンタルヘルス 第１５回　統括期末試験		
予習・復習	健康やスポーツ科学全般に関する内容を幅広く扱うので、各自講義内容を予習復習し、不明点等は次回講義までに学習しておくことが望ましい。		
教科書	資料を配布する		
参考書	資料を配布する		
教材	パワーポイント		
履修上の注意	なし		
成績評価 **(~H29)**	受講態度およびレポート、試験を総合して単位認定を行う。 受講態度（３０%）、レポート（４０%）、試験（４０%） [A] スポーツ科学における基礎事項に関して十分な理解が認められ、自身の生活の中で適切に判断し活用できるようになった。 [B]スポーツ科学における基礎事項に関して十分な理解が認められる。 [C]スポーツ科学における基礎事項に関して一定の理解が認められる。 [D]不可 特別な事情がない限り、全授業数の1/3を超える欠席者は単位の認定は行わない。		
成績評価 **(H30~)**	受講態度およびレポート、試験を総合して単位認定を行う。 受講態度（３０%）、レポート（４０%）、試験（４０%） [S] スポーツ科学における基礎事項に関して十分な理解が認められ、自身の生活の中で適切に活用し、自らの視点で考察することができる。 [A]スポーツ科学における基礎事項に関して十分な理解が認められ、 自身の生活の中で適切に判断ができる。 [B]スポーツ科学における基礎事項に関して十分な理解が認められる。 [C]スポーツ科学における基礎事項に関して一定の理解が認められる。 [D]不可 特別な事情がない限り、全授業数の1/3を超える欠席者は単位の認定は行わない。		
主担当教員	熊谷史佳		

令和4年度シラバス

番号	(A2) -03	履修コード	1206Z1
科目名	物質の科学	科目英語名	Chemistry
科目区分	教養科目B	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	月曜9･10限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	76名
担当教員	大谷正幸		
授業概要	本講義では、(1)肉眼では見えない原子・分子の存在に確信を持つに至った経緯、(2)肉眼では見えない原子・分子の振る舞いを規定する化学熱力学の考え方、(3)「見える」という感覚の化学について解説します。		
到達目標	「クリエイティブ」とは「ない」を「ある」にすることだと考えます。したがって、クリエーターにとっては、「ない」ということにどれほど想いを馳せることができるかは重要な資質でありましょう。原子・エネルギーという目に見え「ない」概念の理解を通して、「クリエイティブ」な心を涵養することを目標とします。		
授業計画	この講義は1回の講義で完結するような区切りを設けません。講義で扱う内容と流れは以下の通りです。 ０．ガイダンス ・美術系大学で教養科目として化学を学ぶ意義について １．見え「ない」けれど「ある」ということ ・古代原子論と個人主義 ・気体の状態方程式とコロイド溶液の浸透圧の方程式 ・ブラウン運動に関するアインシュタインの理論 ・原子の構造と放射壊変 ２．見え「ない」けれど世界を支配する法則が「ある」 ・熱力学から化学熱力学・散逸構造理論までの小史 ・熱力学の法則（カルノーによる川の流れと熱の流れのアナロジー） ・化学熱力学（ギブスによる蒸気機関と試験管内化学反応のアナロジー） ・化学熱力学の具体例１（コンクリートの製造と劣化） ・化学熱力学の具体例２（米生産の効率とリターン） ３．「見える」とは ・電磁波および可視光について ・視覚発生メカニズム ・可視光の波長分布と色の関係		
予習・復習	日常を「物質・エネルギーの流れ」として考察し、また、様々な事象にアナロジーの適用を心がけてください。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	配付プリント		
履修上の注意	後期に開講される教養科目「エコロジー」における基本概念である「熱力学の法則」は、この講義内でより詳しく取り上げています。		
成績評価 **(~H29)**	授業計画の３つの項目ごとの小テストの得点と期末レポート課題を総合して成績評価します。 [A]十分な理解と考察力が認められる。 [B]一定の理解と考察力が認められる。 [C]一定の理解が認められる。		
成績評価 **(H30~)**	授業計画の３つの項目ごとの小テストの得点と期末レポート課題を総合して成績評価します。 [S]十分な理解と特に優れた考察力が認められる。 [A]十分な理解と考察力が認められる。 [B]一定の理解と考察力が認められる。 [C]一定の理解が認められる。		
主担当教員	大谷正幸		

令和4年度シラバス

番号	(A2) -04	履修コード	1207Z1
科目名	材料の科学	科目英語名	Material Science
科目区分	教養科目Ｂ	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	月曜7･8限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	76名
担当教員	大谷正幸		
授業概要	美術・工芸・デザイン関連の基礎的材料に関して、科学的観点から考察・解説します。		
到達目標	材料に関して、科学的観点から考察する能力を培う。		
授業計画	１．ガイダンス ２．BZ反応と自然に見られる模様 ３．金属と合金（金属の構造と展延性） ４．金属と合金（二元合金の相図、変態、加工硬化と焼鈍） ５．金属と合金（腐食と防食） ６．色材（視覚の発生と色感・混色、分光学） ７．色材（光学現象と外観） ８．色材（化学物質としての顔料・染料） ９．１～８までの内容のまとめ（テストを含む） 10．紙（製紙法およびサイジングと填料の効果） 11．粘土・セラミックス（カオリンの組成と構造、可塑性と焼成） 12．高分子（プラスチック） 13．高分子（松田権六の『うるしの話』（岩波文庫）と漆の生化学） 14．6～12までの内容のまとめ（テストを含む） 15．材料または工程に関する科学的調査・考察		
予習・復習	化学の諸概念は体験が伴わないことには理解が進みません。講義中に触れる私の体験談やサジェスチョンを参考にして、自ら体験してみることが理解と探究心を向上させるかと思います。（危険が伴う恐れがある場合は、相談してください。日々の制作における技術的な問題についてもお答えします。）さらに、下記参考書を読むなどして、知識・理解の深化を図ってください。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	<金属・合金>『工芸家のための金属ノート』鹿取一男(著）アグネ技術センター、『金属材料学』武井英雄（著）理工学社、 <色材>『絵具の科学』ホルベイン工業技術部（編)中央公論美術出版社、『工芸のための染料の科学』青柳太陽（著）理工学社、『藍染めの歴史と科学』三木産業（株）技術室（編）裳華房、 <紙>『おもしろい紙の話』小宮英俊（著）日刊工業、 <粘土>『粘土の話』白水春雄（著）技報堂出版、 <漆>『うるしの話』松田権六（著）岩波文庫		
教材	配付プリント		
履修上の注意	高校レベルの化学の基礎知識を前提としており、復習されたし。		
成績評価 **(~H29)**	講義で扱った基礎的材料に関する理解を問う論述試験（2回）、および作品・製品または制作行程について自ら材料科学的観点から考察した小論文を総合して成績評価します。 [A]十分な理解と考察力が認められる。 [B]一定の理解と考察力が認められる。 [C]一定の理解が認められる。		
成績評価 **(H30~)**	講義で扱った基礎的材料に関する理解を問う論述試験（2回）、および作品・製品または制作行程について自ら材料科学的観点から考察した小論文を総合して成績評価します。 [S]十分な理解と考察力が認められる。材料科学的観点の自立的な考察力が認められる。 [A]十分な理解と考察力が認められる。 [B]一定の理解と考察力が認められる。 [C]一定の理解が認められる。		
主担当教員	大谷正幸		

令和4年度シラバス

番号	(A2) -05	履修コード	1208Z1
科目名	エコロジー	科目英語名	Human Ecology
科目区分	教養科目B	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	水曜9･10限
履修区分	選択	教室	第3教室
単位	2	定員	40名
担当教員	大谷正幸		
授業概要	「物質とエネルギーの流れが、機能的、構造的秩序を作り出し、それを維持するために使われている」という現代科学的世界観に則して、生態学、熱力学、環境倫理等の基礎概念を振り返った上で、とりわけエネルギー制約の観点および文明論的な観点から、「人類の生態学的危機」とも呼ばれる現状について考察します。また、ヒューマン・エコロジー関連に関連したニュース報道などを取り上げます。		
到達目標			
授業計画	1．ガイダンス："human ecology"とは 2．基本概念：個体群動態論および熱力学的見方 3．基本概念：環境倫理の変遷 4．基本概念：リスク、不確実性、正常性バイアスなど 5．『成長の限界』：指数関数的成長 6．『成長の限界』：システムダイナミクスによる予測と追跡調査 7．　人新世：産業革命以来の経済成長・化石燃料利用の要諦 8．　フレデリック・ソディが予期していたこと（エコロジー経済学） 9．　資源・エネルギー制約：ピークオイル論 10．　EROI(Energy Return on Energy Investment)が含意すること 11．　Ugo Bardyのセネカ崖モデル（単純化された数理モデル） 12　レジリエンスとトランジション：ソビエト崩壊時の教訓など 13．　オズヴァルト・シュペングラーが予期していたこと（観相学的文明論） 14．その他の話題（時事問題） 15．まとめ		
予習・復習	すでに資源・エネルギー問題や気候変動等に起因する社会的影響は表面化しており、日々、新聞・SNSからの関連ニュースを読み解き、未来社会の展望を心掛けてください		
教科書	プリント配布		
参考書	歴史的な問題提起として、ローマ・クラブ『成長の限界』（ダイヤモンド社） 主要な思索材料が列挙されているものとしてパブロ・セルヴィーニュら『崩壊学』（草思社） その他、講義中に文献等を紹介します。		
教材	特になし		
履修上の注意	「エコロジー」理解の基礎となる「熱力学の法則」については前期開講の教養科目「物質の科学」において、社会の崩壊に関して欧米で最もよく引用されているジョセフ・テインターの「複雑な社会の崩壊」については後期開講の教養科目「科学技術史」において、ロジスティック曲線などの理論式の導出に関しては前期開講の教養科目「数理科学」でそれぞれ扱っています		
成績評価 **(~H29)**	向学状況（講義の都度、所感等を記入）およびレポート課題を総合して単位認定します。 [A]「人類の生態学的危機」と呼ばれる現状について十分な理解と考察力が認められる。 [B]「人類の生態学的危機」と呼ばれる現状について十分な理解が認められる。 [C]「人類の生態学的危機」と呼ばれる現状について一定の理解が認められる。		
成績評価 **(H30~)**	向学状況（講義の都度、所感等を記入）およびレポート課題を総合して単位認定します。 [S]「人類の生態学的危機」と呼ばれる現状について十分な理解と考察力、および主体的な問題把握能力が認められる。 [A]「人類の生態学的危機」と呼ばれる現状について十分な理解と考察力が認められる。 [B]「人類の生態学的危機」と呼ばれる現状について十分な理解が認められる。 [C]「人類の生態学的危機」と呼ばれる現状について一定の理解が認められる。		
主担当教員	大谷正幸		

令和4年度シラバス

番号	(A2) -06	履修コード	1209Z1
科目名	科学技術史	科目英語名	History of Science and Technology
科目区分	教養科目B	授業形態	講義
資格区分	博物館選択科目	開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	火曜5･6限
履修区分	選択	教室	研修室
単位	2	定員	166名
担当教員	大谷正幸		
授業概要	人類の歴史を科学および技術に主眼を置いて振り返り、また、歴史発展パターンを抽出する考え方（クーン、トインビー、テインター）を紹介します。		
到達目標	科学と技術の歴史から、1.古代ギリシア期における「概念」の発見、2.ルネッサンス期における実験的検証、3.科学革命期における理論付け、4.19世紀以降の応用科学、という人類の知的進歩における大きな発展パターンを読み取ることができる。このパターンは、1.着想、2.試行錯誤、3.決論付け、4.応用的展開、のように、個人が何かを完遂する営みにおけるパターンと相似的である。フラクタルな世界における自己相似に想いを馳せ、「温故知新」や「愚者は経験から学び、賢者は歴史から学ぶ」といった言葉に理あり、という認識に至ることを目標とする。		
授業計画	・科学と技術の歴史的変遷を顧みる 1．人類の起源と農業革命　/　文明社会に至るホモ・サピエンスの特徴について 2．オリエント文明　/ 生活上の必要を満たす技術、アノニマスな文明 3．古代ギリシア / 「概念」の発見と科学の誕生、エポニマスな営み 4．ローマ帝政時代　/ 支配と技術 5．中世 / アラビア世界に温存された科学 6．ルネッサンス期 / 実験的検証と印刷革命、宗教革命と近代資本主義 7．科学革命期 / デカルト（方法的懐疑）とベーコン（「知は力なり」） 8．宇宙観 / 機械仕掛けの宇宙観（ニュートン）とカオス（ポアンカレ） 9．産業革命 / 化石燃料のエネルギー解放によってもたらされた社会変化 10．生命観　/ 創世記・進化論・利己的遺伝子 11．20世紀的出来事　/ 戦後日本の科学技術史 ・科学と技術の変遷および文明社会におけるパターンを抽出する 12．トーマス・クーンの「パラダイム」 / 個別の考え方の変化 13．アーノルド・トインビーの「歴史の研究」/ 文明の盛衰 14．ジョセフ・テインターの「複雑な社会の崩壊」/ 崩壊した社会の共通点 15．総括		
予習・復習	ジャレッド・ダイヤモンド『人間はどこまでチンパンジーか』（新曜社）、ジャレッド・ダイヤモンド『文明崩壊』（草思社）、『漱石文明論集』（岩波文庫）、マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（岩波文庫）など、文明の来し方・有り様について深く考察した著作を読むことにより、講義で扱っている内容に意義を見出せるように努めて下さい。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	授業中に適宜紹介しますが、「ファザコン娘に恋をして–文明という自然現象–」（ナカニシヤ出版）に記した考察を多々言及します。 トーマス・クーン「科学革命の構造」（みすず書房）、アーノルド・トインビー「歴史の研究」（世界の名著、中公）		
教材	配付プリント		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 **(~H29)**	文明論的内容の小論文により、単位認定します。 [A]科学・技術の観点から、人類の歩みを概観し、転換期のポイントを十分に考察し、文明の未来を展望している。 [B]科学・技術の観点から、人類の歩みを概観し、転換期のポイントを考察する力が認められる。 [C]科学・技術の観点から、人類の歩みの概要をまとめている。		
成績評価 **(H30~)**	文明論的内容の小論文により、単位認定します。 [S]科学・技術の観点から、人類の歩みを概観し、転換期のポイントを十分に考察し、文明の未来を論理的に展望している。 [A]科学・技術の観点から、人類の歩みを概観し、転換期のポイントを十分に考察し、文明の未来を展望している。 [B]科学・技術の観点から、人類の歩みを概観し、転換期のポイントを考察する力が認められる。 [C]科学・技術の観点から、人類の歩みの概要をまとめている。		
主担当教員	大谷正幸		

令和4年度シラバス

番号	(A2) -07	履修コード	1211Z1
科目名	数理科学	科目英語名	Mathematical sciences
科目区分	教養科目B	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	水曜9･10限
履修区分	選択	教室	第2教室
単位	2	定員	20名
担当教員	大谷正幸		
授業概要	・この世界に数理が潜んでいることに気づき、それが私たちの感覚にも関与していることを考える。 ・様々な現象を数理モデルとして考察するために、指数法則・対数について理解し、微分方程式の解法と数値計算を学ぶ。 ・データ解析や機械学習の基礎となるガウス分布と最小二乗法について学ぶ		
到達目標	この世界に数理が潜んでいることを認識し、様々な自然現象や社会現象を数学的モデルとして考察する方法を理解する。		
授業計画	1. ガイダンスおよび開平法 ・自然あるいは美の数理 2. プラトンの「線分の比喩」、黄金比、五角形、白銀比、二次方程式の解 3. フィボナッチ数列と黄金比、漸化式 4. ダ・ヴィンチ作「ウィトルウィウス的人体図」について 5. 指数法則と対数 6. ネイピアの対数と計算尺 7. 対数と認識について（ウェーバー=フェヒナーの法則、震度、dB、pH、効用、情報量など） ・数学的モデル化 8. 二項定理とガウス分布、テイラー展開 9. 微分法の基礎、特に対数関数の導関数 10. 積分法(置換積分) 11. 現象のモデル化：微分方程式 dN/dt=a、 dN/dt=aN （放射壊変、薬物動態など） 12. 現象のモデル化：微分方程式 ロジスティック曲線 dN/dt=aN-bN^2 （人口動態、マーケティング理論、資源開発など） 13. ベルヌーイの微分方程式、微分方程式の差分法による数値計算法 ・データ解析 14. 最小二乗法：数理モデルと実データの照合 15. まとめ（テストを含む）		
予習・復習	手計算を繰り返し、数学問題に向き合ったとき特有の「わかる」「わかった」という感覚を得られるように努めてください。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	スコット・オルセン『黄金比　自然と芸術にひそむもっとも不思議な数の話』（創元社）、佐藤雅彦ら『日常にひそむ数理曲線』（小学館）、堀場芳数『対数eの不思議』（講談社ブルーバックス）、D.バージェスら『微分方程式で数学モデルを作ろう』（日本評論社）		
教材	基本的な事柄についてはプリント資料を配布するが、数式の導出などは敢えて板書する。また、手計算という行為を通して理解を深める。		
履修上の注意	定規、コンパス、および関数電卓機能のあるモバイル機器を必ず持参すること		
成績評価 **(~H29)**	講義で扱う数学的操作に関連した記述式試験、および任意の数学的モデルに関して調査・考察したレポート課題を総合して成績評価する。 [A]十分な理解と応用的能力が認められる。 [B]一定の理解と応用的能力が認められる。 [C]一定の理解が認められる。		
成績評価 **(H30~)**	講義で扱う数学的操作に関連した記述式試験、および任意の数学的モデルに関して調査・考察したレポート課題を総合して成績評価する。 [S]十分な理解と卓越した応用的能力が認められる。 [A]十分な理解と応用的能力が認められる。 [B]一定の理解と応用的能力が認められる。 [C]一定の理解が認められる。		
主担当教員	大谷正幸		

令和4年度シラバス

番号	(A3)-01	履修コード	1522Z5
科目名	英語（一）	科目英語名	English （1）
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科1年次①	曜日・時限	前期：火曜5・6限　後期：木曜5・6限
履修区分	選択	教室	第3教室
単位	4	定員	
担当教員	（非常勤）Bradd Winfield（ブラッド・ウィンフィールド）・〇正木恵美		
授業概要	（ウィンフィールド担当） The classes will focus on the English language in the context of creative arts and design. Vocabulary, terminology and descriptive, critical phrases will be introduced to the students, furthering their understanding of art, design, and culture. （正木担当） この授業では、イギリスのBBCドキュメンタリーをもとに、大学生に必要な総合的な英語力を身につけていきます。		
到達目標	（ウィンフィールド担当） 1. To encourage students to initiate, participate and engage in a range of creative workshops and current topics. 2. To build confidence, so that the students are able to share their ideas and inspirations with others, in English. （正木担当） リーディング力・リスニング力の向上はもとより、英文を通して自ら考え、判断し、課題を解決する思考力を養うことを目指します。		
授業計画	Each class provides exercises to use English as a means of personal communication, through pair and small group work. Students will also be called on to answer questions and express opinions. Weekly follow-up exercises are required to be completed outside of class. （ウィンフィールド担当） CLASS SCHEDULE / TRACK LIST: My name on a car - Cliff Martinez……(Introduction) Hometown unicorn - SFA……(Your hometown) Where - Colder……(asking for directions/info) Object objects - Deptford Goth……(Describing objects) An animated description of Mr Maps - The Books……(Describing people) Postcards from Italy - Beirut……(Past experiences) Before we begin - Broadcast……(test review/ preparation) First interlude - John Cage……(mid term test) Copy Cat - The Bay Kays……(creative writing) I wanna be like you - Jungle book/Louis Prima……(inspirations/dislikes) Agenda 21 - Secret Chiefs 3 ……(21 answers, then 21questions) Pata Pata - Miriam Makeba……(homophones and idioms) Feeling that - Noze……(the senses) The next to last song - Bjork……(future goals/preparation for final test) Slideshow at Free university - Le Tigre……(final test/ presentation) In addition, 3 extra classes will be introduced and 3 classes removed from the above list (in keeping with the students primary subject being taken). （正木担当）		

	1．オリエンテーション、Chapter1: Hamburger History 2．Chapter2: Rings and Things 3．Chapter3: Bringing up Baby 4．Chapter4: The Bhutanese 5．Chapter5: Into the Wilderness 6．Chapter6: Jade 7．Chapter7: The Mongols 8．Chapter8: Diamonds 9．Chapter9: Gorillas in Our Midst 10．Chapter10: A Father's Labor 11．Chapter11: Queues 12．Chapter12: Ahead of Fashion 13．Chapter13: Learning to See 14．Chapter14: Smallest 15．定期テスト ＊この授業は前期と後期で担当教員、内容、テキスト等が変わるので注意すること。
予習・復習	（ウィンフィールド担当） 適宜、授業内で指示する。 （正木担当） 各単元に出てくる単語の意味はあらかじめ調べておくこと。 その他授業内で指示する。
教科書	（ウィンフィールド担当）資料を配付する。 （正木担当）Welcome to BBC on DVD（成美堂、2008年）
参考書	特になし。
教材	特になし。
履修上の注意	特になし。
成績評価 **(~H29)**	（ウィンフィールド担当） 20% Participation, 30% Mid-term, 50% Final/Presentation [A]High skill level in English as a means of personal communication. [B]Functional level in English as a means of personal communication. [C]Improvement in English as a means of personal communication. （正木担当） 授業態度30%、課題20%、定期テスト50% [A]ドキュメンタリーの内容をよく理解し、英語力と思考力も養うことができた。 [B]ドキュメンタリーの内容を理解し、英語力を向上させることができた。 [C]ドキュメンタリーの内容を理解することができた。 全開講数の３分の１以上の欠席者は試験を受けられない。
成績評価 **(H30~)**	（ウィンフィールド担当） 20% Participation, 30% Mid-term, 50% Final/Presentation [S]High skill level in English as a means of personal communication. [A]Functional level in English as a means of personal communication. [B]Basic level in English as a means of personal communication. [C]Improvement in English as a means of personal communication. （正木担当） 授業態度30%、課題20%、定期テスト50% [S]ドキュメンタリーの内容だけでなく、その文化的・社会的背景も理解し、英語力と思考力を十分養うことができた。 [A]ドキュメンタリーの内容をよく理解し、英語力と思考力も養うことができた。 [B]ドキュメンタリーの内容を理解し、英語力を向上させることができた。 [C]ドキュメンタリーの内容を理解することができた。
主担当教員	正木恵美

令和4年度シラバス

番号	(A3)-02	履修コード	1522Z6
科目名	英語（一）	科目英語名	English （1）
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科1年次②	曜日・時限	前期：木曜5・6限　後期：木曜9･10限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	4	定員	
担当教員	（非常勤）Bradd Winfield（ブラッド・ウィンフィールド）・〇廣田篤		
授業概要	（ウィンフィールド担当） The class will focus on the English language in the context of creative arts and design. Vocabulary, terminology and descriptive, critical phrases will be introduced to the students, furthering their understanding of art, design, and culture. （廣田担当） この授業では、イギリスのBBCドキュメンタリーをもとに、大学生に必要な総合的な英語力を身につけていきます。		
到達目標	（ウィンフィールド担当） 1. To encourage students to initiate, participate and engage in a range of creative workshops and current topics. 2. To build confidence, so that the students are able to share their ideas and inspirations with others, in English. （廣田担当） リーディング力・リスニング力の向上はもとより、英文を通して自ら考え、判断し、課題を解決する思考力を養うことを目指します。		
授業計画	Each class provides exercises to use English as a means of personal communication, through pair and small group work. Students will also be called on to answer questions and express opinions. Weekly follow-up exercises are required to be completed outside of class. （ウィンフィールド担当） CLASS SCHEDULE / TRACK LIST: My name on a car - Cliff Martinez……(Introduction) Hometown unicorn - SFA……(Your hometown) Where - Colder……(asking for directions/info) Object objects - Deptford Goth……(Describing objects) An animated description of Mr Maps - The Books……(Describing people) Postcards from Italy - Beirut……(Past experiences) Before we begin - Broadcast……(test review/ preparation) First interlude - John Cage……(mid term test) Copy Cat - The Bay Kays……(creative writing) I wanna be like you - Jungle book/Louis Prima……(inspirations/dislikes) Agenda 21 - Secret Chiefs 3 ……(21 answers, then 21questions) Pata Pata - Miriam Makeba……(homophones and idioms) Feeling that - Noze……(the senses) The next to last song - Bjork……(future goals/preparation for final test) Slideshow at Free university - Le Tigre……(final test/ presentation)		

	In addition, 3 extra classes will be introduced and 3 classes removed from the above list (in keeping with the students primary subject being taken). （廣田担当） 1．オリエンテーション、Chapter1: Hamburger History 2. Chapter2: Rings and Things 3. Chapter3: Bringing up Baby 4. Chapter4: The Bhutanese 5. Chapter5: Into the Wilderness 6. Chapter6: Jade 7. Chapter7: The Mongols 8. Chapter8: Diamonds 9. Chapter9: Gorillas in Our Midst 10. Chapter10: A Father's Labor 11. Chapter11: Queues 12. Chapter12: Ahead of Fashion 13. Chapter13: Learning to See 14. Chapter14: Smallest 15．定期テスト ＊この授業は前期と後期で担当教員、内容、テキスト等が変わるので注意すること。
予習・復習	（ウィンフィールド担当） 適宜、授業内で指示する。 （廣田担当） 各単元に出てくる単語の意味はあらかじめ調べておくこと。 その他授業内で指示する。
教科書	（ウィンフィールド担当）資料を配付する。 （廣田担当）Welcome to BBC on DVD（成美堂、2008年）
参考書	特になし。
教材	特になし。
履修上の注意	特になし。
成績評価 **(~H29)**	（ウィンフィールド担当） 20% Participation, 30% Mid-term, 50% Final/Presentation [A]High skill level in English as a means of personal communication. [B]Functional level in English as a means of personal communication. [C]Improvement in English as a means of personal communication. （廣田担当） 授業態度30%、課題20%、定期テスト50% [A]ドキュメンタリーの内容をよく理解し、英語力と思考力も養うことができた。 [B]ドキュメンタリーの内容を理解し、英語力を向上させることができた。 [C]ドキュメンタリーの内容を理解することができた。
成績評価 **(H30~)**	（ウィンフィールド担当） 20% Participation, 30% Mid-term, 50% Final/Presentation [S]High skill level in English as a means of personal communication. [A]Functional level in English as a means of personal communication. [B]Basic level in English as a means of personal communication. [C]Improvement in English as a means of personal communication. （廣田担当） 授業態度30%、課題20%、定期テスト50% [S]ドキュメンタリーの内容だけでなく、その文化的・社会的背景も理解し、英語力と思考力を十分養うことができた。 [A]ドキュメンタリーの内容をよく理解し、英語力と思考力も養うことができた。 [B]ドキュメンタリーの内容を理解し、英語力を向上させることができた。 [C]ドキュメンタリーの内容を理解することができた。
主担当教員	廣田　篤

令和4年度シラバス

番号	(A3)-03	履修コード	1522Z7
科目名	英語（一）	科目英語名	English （1）
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン科1年次①	曜日・時限	木曜7・8限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室
単位	4	定員	
担当教員	（非常勤）Bradd Winfield（ブラッド・ウィンフィールド）・〇廣田篤		
授業概要	（ウィンフィールド担当） The class will focus on the English language in the context of creative arts and design. Vocabulary, terminology and descriptive, critical phrases will be introduced to the students, furthering their understanding of art, design, and culture. （廣田担当） この授業では、イギリスのBBCドキュメンタリーをもとに、大学生に必要な総合的な英語力を身につけていきます。		
到達目標	（ウィンフィールド担当） 1. To encourage students to initiate, participate and engage in a range of creative workshops and current topics. 2. To build confidence, so that the students are able to share their ideas and inspirations with others, in English. （廣田担当） リーディング力・リスニング力の向上はもとより、英文を通して自ら考え、判断し、課題を解決する思考力を養うことを目指します。		
授業計画	Each class provides exercises to use English as a means of personal communication, through pair and small group work. Students will also be called on to answer questions and express opinions. Weekly follow-up exercises are required to be completed outside of class. （ウィンフィールド担当） CLASS SCHEDULE / TRACK LIST: My name on a car - Cliff Martinez……(Introduction) Hometown unicorn - SFA……(Your hometown) Where - Colder……(asking for directions/info) Object objects - Deptford Goth……(Describing objects) An animated description of Mr Maps - The Books……(Describing people) Postcards from Italy - Beirut……(Past experiences) Before we begin - Broadcast……(test review/ preparation) First interlude - John Cage……(mid term test) Copy Cat - The Bay Kays……(creative writing) I wanna be like you - Jungle book/Louis Prima……(inspirations/dislikes) Agenda 21 - Secret Chiefs 3 ……(21 answers, then 21questions) Pata Pata - Miriam Makeba……(homophones and idioms) Feeling that - Noze……(the senses) The next to last song - Bjork……(future goals/preparation for final test) Slideshow at Free university - Le Tigre……(final test/ presentation)		

	In addition, 3 extra classes will be introduced and 3 classes removed from the above list (in keeping with the students primary subject being taken). （廣田担当） 1．オリエンテーション、Chapter1: Hamburger History 2. Chapter2: Rings and Things 3. Chapter3: Bringing up Baby 4. Chapter4: The Bhutanese 5. Chapter5: Into the Wilderness 6. Chapter6: Jade 7. Chapter7: The Mongols 8. Chapter8: Diamonds 9. Chapter9: Gorillas in Our Midst 10. Chapter10: A Father's Labor 11. Chapter11: Queues 12. Chapter12: Ahead of Fashion 13. Chapter13: Learning to See 14. Chapter14: Smallest 15．定期テスト この授業は前期と後期で担当教員、内容、テキスト等が変わるので注意すること。
予習・復習	（ウィンフィールド担当） 適宜、授業内で指示する。 （正木担当） 各単元に出てくる単語の意味はあらかじめ調べておくこと。 その他授業内で指示する。
教科書	（ウィンフィールド担当）資料を配付する。 （廣田担当）Welcome to BBC on DVD（成美堂、2008年）
参考書	特になし。
教材	特になし。
履修上の注意	特になし。
成績評価 **(~H29)**	（ウィンフィールド担当） 20% Participation, 30% Mid-term, 50% Final/Presentation [A]High skill level in English as a means of personal communication. [B]Functional level in English as a means of personal communication. [C]Improvement in English as a means of personal communication. （廣田担当） 授業態度30%、課題20%、定期テスト50% [A]ドキュメンタリーの内容をよく理解し、英語力と思考力も養うことができた。 [B]ドキュメンタリーの内容を理解し、英語力を向上させることができた。 [C]ドキュメンタリーの内容を理解することができた。
成績評価 **(H30~)**	（ウィンフィールド担当） 20% Participation, 30% Mid-term, 50% Final/Presentation [S]High skill level in English as a means of personal communication. [A]Functional level in English as a means of personal communication. [B]Basic level in English as a means of personal communication. [C]Improvement in English as a means of personal communication. （廣田担当） 授業態度30%、課題20%、定期テスト50% [S]ドキュメンタリーの内容だけでなく、その文化的・社会的背景も理解し、英語力と思考力を十分養うことができた。 [A]ドキュメンタリーの内容をよく理解し、英語力と思考力も養うことができた。 [B]ドキュメンタリーの内容を理解し、英語力を向上させることができた。 [C]ドキュメンタリーの内容を理解することができた。
主担当教員	廣田　篤

令和4年度シラバス

番号	(A3)-04	履修コード	1522Z8
科目名	英語（一）	科目英語名	English （1）
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン科1年次②	曜日・時限	前期：金曜9・10限　後期：木曜7・8限
履修区分	必修	教室	第3教室
単位	4	定員	
担当教員	（非常勤）Bradd Winfield （ブラッド・ウィンフィールド）・〇廣田　篤		
授業概要	（ウィンフィールド担当） The class will focus on the English language in the context of creative arts and design. Vocabulary, terminology and descriptive, critical phrases will be introduced to the students, furthering their understanding of art, design, and culture. （廣田担当） この授業では、イギリスのBBCドキュメンタリーをもとに、大学生に必要な総合的な英語力を身につけていきます。		
到達目標	（ウィンフィールド担当） 1. To encourage students to initiate, participate and engage in a range of creative workshops and current topics. 2. To build confidence, so that the students are able to share their ideas and inspirations with others, in English. （廣田担当） リーディング力・リスニング力の向上はもとより、英文を通して自ら考え、判断し、課題を解決する思考力を養うことを目指します。		
授業計画	Each class provides exercises to use English as a means of personal communication, through pair and small group work. Students will also be called on to answer questions and express opinions. Weekly follow-up exercises are required to be completed outside of class. （ウィンフィールド担当） CLASS SCHEDULE / TRACK LIST: My name on a car - Cliff Martinez……(Introduction) Hometown unicorn - SFA……(Your hometown) Where - Colder……(asking for directions/info) Object objects - Deptford Goth……(Describing objects) An animated description of Mr Maps - The Books……(Describing people) Postcards from Italy - Beirut……(Past experiences) Before we begin - Broadcast……(test review/ preparation) First interlude - John Cage……(mid term test) Copy Cat - The Bay Kays……(creative writing) I wanna be like you - Jungle book/Louis Prima……(inspirations/dislikes) Agenda 21 - Secret Chiefs 3 ……(21 answers, then 21questions) Pata Pata - Miriam Makeba……(homophones and idioms) Feeling that - Noze……(the senses) The next to last song - Bjork……(future goals/preparation for final test) Slideshow at Free university - Le Tigre……(final test/ presentation)		

	In addition, 3 extra classes will be introduced and 3 classes removed from the above list (in keeping with the students primary subject being taken). （廣田担当） 1．オリエンテーション、Chapter1: Hamburger History 2. Chapter2: Rings and Things 3. Chapter3: Bringing up Baby 4. Chapter4: The Bhutanese 5. Chapter5: Into the Wilderness 6. Chapter6: Jade 7. Chapter7: The Mongols 8. Chapter8: Diamonds 9. Chapter9: Gorillas in Our Midst 10. Chapter10: A Father's Labor 11. Chapter11: Queues 12. Chapter12: Ahead of Fashion 13. Chapter13: Learning to See 14. Chapter14: Smallest 15．定期テスト この授業は前期と後期で担当教員、内容、テキスト等が変わるので注意すること。
予習・復習	（ウィンフィールド担当） 適宜、授業内で指示する。 （廣田担当） 各単元に出てくる単語の意味はあらかじめ調べておくこと。 その他授業内で指示する。
教科書	（ウィンフィールド担当）資料を配付する。 （廣田担当）Welcome to BBC on DVD（成美堂、2008年）
参考書	特になし。
教材	特になし。
履修上の注意	特になし。
成績評価 **(~H29)**	（ウィンフィールド担当） 20% Participation, 30% Mid-term, 50% Final/Presentation [A]High skill level in English as a means of personal communication. [B]Functional level in English as a means of personal communication. [C]Improvement in English as a means of personal communication. （廣田担当） 授業態度30%、課題20%、定期テスト50% [A]ドキュメンタリーの内容をよく理解し、英語力と思考力も養うことができた。 [B]ドキュメンタリーの内容を理解し、英語力を向上させることができた。 [C]ドキュメンタリーの内容を理解することができた。
成績評価 **(H30~)**	（ウィンフィールド担当） 20% Participation, 30% Mid-term, 50% Final/Presentation [S]High skill level in English as a means of personal communication. [A]Functional level in English as a means of personal communication. [B]Basic level in English as a means of personal communication. [C]Improvement in English as a means of personal communication. （廣田担当） 授業態度30%、課題20%、定期テスト50% [S]ドキュメンタリーの内容だけでなく、その文化的・社会的背景も理解し、英語力と思考力を十分養うことができた。 [A]ドキュメンタリーの内容をよく理解し、英語力と思考力も養うことができた。 [B]ドキュメンタリーの内容を理解し、英語力を向上させることができた。 [C]ドキュメンタリーの内容を理解することができた。
主担当教員	廣田　篤

令和4年度シラバス

番号	(A3)-05	履修コード	1522Z9
科目名	英語（一）	科目英語名	English （1）
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	前期：金曜7・8限　後期：金曜5・6限
履修区分	必修	教室	第3教室
単位	4	定員	
担当教員	（非常勤）〇廣田　篤、正木恵美		
授業概要	この授業では、イギリスのBBCドキュメンタリーをもとに、大学生に必要な総合的な英語力を身につけていきます。		
到達目標	リーディング力・リスニング力の向上はもとより、英文を通して自ら考え、判断し、課題を解決する思考力を養うことを目指します。		
授業計画	（前期） 1．オリエンテーション 2．Chapter1: Hamburger History 3．Chapter1: Hamburger History 4．Chapter2: Rings and Things 5．Chapter2: Rings and Things 6．Chapter3: Bringing up Baby 7．Chapter3: Bringing up Baby 8．Chapter4: The Bhutanese 9．Chapter4: The Bhutanese 10．Chapter5: Into the Wilderness 11．Chapter5: Into the Wilderness 12．Chapter6: Jade 13．Chapter6: Jade 14．Chapter7: The Mongols 15．定期テスト （後期） 1．オリエンテーション、Chapter8: Diamonds 2．Chapter8: Diamonds 3．Chapter9: Gorillas in Our Midst 4．Chapter9: Gorillas in Our Midst 5．Chapter10: A Father's Labor 6．Chapter10: A Father's Labor 7．Chapter11: Queues 8．Chapter11: Queues 9．Chapter12: Ahead of Fashion 10．Chapter12: Ahead of Fashion 11．Chapter13: Learning to See 12．Chapter13: Learning to See 13．Chapter14: Smallest 14．Chapter14: Smallest 15．定期テスト		
予習・復習	各単元に出てくる単語の意味はあらかじめ調べておくこと。 その他授業内で指示する。		
教科書	Welcome to BBC on DVD（成美堂、2008年）		
参考書	特になし。		
教材	特になし。		

履修上の注意	特になし。
成績評価 **(~H29)**	授業態度30%、課題20%、定期テスト50% [A]ドキュメンタリーの内容をよく理解し、英語力と思考力も養うことができた。 [B]ドキュメンタリーの内容を理解し、英語力を向上させることができた。 [C]ドキュメンタリーの内容を理解することができた。
成績評価 **(H30~)**	授業態度30%、課題20%、定期テスト50% [S]ドキュメンタリーの内容だけでなく、その文化的・社会的背景も理解し、英語力と思考力を十分養うことができた。 [A]ドキュメンタリーの内容をよく理解し、英語力と思考力も養うことができた。 [B]ドキュメンタリーの内容を理解し、英語力を向上させることができた。 [C]ドキュメンタリーの内容を理解することができた。
主担当教員	廣田　篤

令和4年度シラバス

番号	(A3)-06	履修コード	1523Z5
科目名	英語（二）	科目英語名	English （2）
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科2年次	曜日・時限	前期：火曜7・8限　後期：金曜7・8限
履修区分	選択	教室	第3教室
単位	4	定員	
担当教員	（非常勤）正木恵美		
授業概要	DVD映像を交えながら、様々な英語圏で活躍する同世代の若者に焦点を当て、その国々の文化、地理、風土を学んでいきます。		
到達目標	英語４技能のさらなる向上に加え、「文化の多様性」、「英語の多様性」をも理解する。		
授業計画	（前期） １．オリエンテーション ２．Unit 1：　夢を生きる街、ロサンゼルス（Los Angeles） ３．Unit 1：　夢を生きる街、ロサンゼルス（Los Angeles） ４．Unit 2：　様々な人々に出会う、それがアメリカ(Los Angeles) ５．Unit 2：　様々な人々に出会う、それがアメリカ(Los Angeles) ６．Unit 3：　想像力と斬新なアイディアに満ち溢れた国（Scotland） ７．Unit 3：　想像力と斬新なアイディアに満ち溢れた国（Scotland） ８．中間テスト ９．Unit 4：　誇り高きスコットランド人（Scotland） 10．Unit 4：　誇り高きスコットランド人（Scotland） 11．Unit 5：　大自然と調和した国、カナダ（Canada） 12．Unit 5：　大自然と調和した国、カナダ（Canada） 13．Unit 6：　オタワの若き冒険者（Canada） 14．Unit 6：　オタワの若き冒険者（Canada） 15．期末テスト （後期） １．オリエンテーション ２．Unit 7：　安らぎの中へ、ニュージーランド（New Zealand） ３．Unit 7：　安らぎの中へ、ニュージーランド（New Zealand） ４．Unit 8：　ソフィーとの愉快な散歩（New Zealand） ５．Unit 8：　ソフィーとの愉快な散歩（New Zealand） ６．Unit 9：　世界に多大な影響を与えているイングランド（England） ７．Unit 9：　世界に多大な影響を与えているイングランド（England） ８．中間テスト ９．Unit10：　自分の人生を最大限生きよう（England） 10．Unit10：　自分の人生を最大限生きよう（England） 11．Unit11：　観光の国、バハマ（The Bahamas） 12．Unit11：　観光の国、バハマ（The Bahamas） 13．Unit12：　目標を達成するために歩みを進めよう（The Bahamas） 14．Unit12：　目標を達成するために歩みを進めよう（The Bahamas） 15．期末テスト		
予習・復習	授業中に指示された課題に取り組むこと。		
教科書	「World Wide English on DVD Volume 1 —Revised Edition—（世界で輝く若者の英語 1 —改訂版—）」（成美堂、2015年）		
参考書	配付プリント		
教材	配付プリント		
履修上の注意	特になし。		

成績評価 (~H29)	課題30%　中間テスト20%　期末テスト50% A) 英語の4技能を十分に向上させることができ、文化や英語の多様性を理解し自分の言葉で説明できた。 B) 英語の4技能を向上させ、文化や英語の多様性を理解できた。 C) 英語の4技能のうち、複数を向上させ、文化や英語の多様性を知ることができた。
成績評価 (H30~)	課題30%　中間テスト20%　期末テスト50% S) 英語の4技能を十分に向上させることができ、文化や英語の多様性を理解し自分の言葉で説明できた。 A) 英語の4技能を向上させ、文化や英語の多様性を理解できた。 B) 英語の4技能のうち、複数を向上させ、文化や英語の多様性を知ることができた。 C) 英語の4技能のうち、一つでも向上させることができ、文化や英語の多様性を知ることができた。
主担当教員	正木恵美

令和4年度シラバス

番号	(A3)-07	履修コード	1523Z7
科目名	英語（二）	科目英語名	English （2）
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン科2年次①	曜日・時限	水曜7・8限
履修区分	必修	教室	前期：視聴覚教室　後期：第3教室
単位	4	定員	
担当教員	ディビッド・ブルースター		
授業概要	この科目では、英語能力を向上させ言語を使う自信をつける。前期では、日常生活で出会う実用的なテーマを中心にして、読解、文章、聴力およびスピーキングのコアスキルを養っていく。後期では、現代社会の課題を探ったり議論したりして、どのように自分の考えを表現するか勉強していく。 In this course, students will advance their English ability and develop confidence in using the language. In the first semester, students will develop core skills in reading, writing, listening and speaking, focusing on practical topics that are encountered in everyday life. In the second semester, students will explore and discuss a range of themes and issues in contemporary society and learn how to express their viewpoints.		
到達目標	• 日常生活で使われるテーマについて、英語での読解、文章、聴力およびスピーキングに自信をつける｜To develop confidence in reading, writing, listening and speaking English about topics used in everyday conversation. • 様々な社会生活の様子について、英語で自分の意見や見方を表現することに自信をつける｜To develop confidence in expressing views and opinions in English about different aspects of social life.		
授業計画	前期｜First Semester 第１回：オリエンテーション｜Orientation 第２～３回：私と家族｜Me and my family 第４～５回：趣味と興味｜Hobbies and interests 第６～８回：勉強、仕事と将来｜Study, work and the future 第９～１１回：旅行｜Travelling 第１２回：音楽｜Music 第１３～１４回：買い物｜Shopping 第１５回：期末試験｜Final examination 後期｜Second Semester* 第１回：オリエンテーション｜Orientation 第２～３回：アートと社会｜The arts and society 第４～５回：科学とテクノロジー｜Science and technology 第６～７回：健康と新型コロナウイルス｜Health and COVID-19 第８～９回：法と人権｜Law and human rights 第１０～１１回：社会的不平等｜Social inequality 第１２～１３回：人間と自然環境｜Humans and the environment 第１４～１５回：期末試験｜Final examination * 学生の希望に合わせて、上記のテーマを替えることができる｜The above topics may be changed in accordance with the wishes of students.		
予習・復習	授業中に指示された課題に取り組むこと		
教科書	配布プリント		
参考書	配布プリント		
教材	配布プリント		
履修上の注意	特になし。		

成績評価 **(~H29)**	出席と授業中の態度｜Attendance and attitude in class (20%) 前期期末試験（口頭発表）｜Semester 1 exam (oral presentation) (40%) 後期期末試験（ポスターと口頭発表）｜Semester 2 exam (poster and oral presentation) (40%) [A] 英語でのコミュニケーションは十分で、自信を持って表現できる。｜You communicate well in English and can confidently express yourself. [B] 英語でのコミュニケーションは基本的にでき、自信をつけられるようになった。｜You can communicate in English at a basic level and have gained confidence. [C] 英語でのコミュニケーションはまだ不十分だが、自信をつけられるようになった。｜Your communication in English is not yet sufficient, but you have gained confidence.
成績評価 **(H30~)**	出席と授業中の態度｜Attendance and attitude in class (20%) 前期期末試験（口頭発表）｜Semester 1 exam (oral presentation) (40%) 後期期末試験（ポスターと口頭発表）｜Semester 2 exam (poster and oral presentation) (40%) [S] 英語でのコミュニケーションは秀でており、自信を持ってはっきり表現できる。｜You excel in communicating in English and can confidently and clearly express yourself. [A] 英語でのコミュニケーションは十分で、自信を持って表現できる。｜You communicate well in English and can confidently express yourself. [B] 英語でのコミュニケーションは基本的にでき、自信をつけられるようになった。｜You can communicate in English at a basic level and have gained confidence. [C] 英語でのコミュニケーションはまだ不十分だが、自信をつけられるようになった。｜Your communication in English is not yet sufficient, but you have gained confidence.
主担当教員	ディビッド・ブルースター

令和4年度シラバス

番号	(A3)-08	履修コード	1523Z8
科目名	英語（二）	科目英語名	English （2）
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン科2年次②	曜日・時限	前期：水曜5・6限　後期：水曜9・10限
履修区分	必修	教室	前期：第3教室　後期：視聴覚教室
単位	4	定員	
担当教員	ディビッド・ブルースター		
授業概要	この科目では、英語能力を向上させ言語を使う自信をつける。前期では、日常生活で出会う実用的なテーマを中心にして、読解、文章、聴力およびスピーキングのコアスキルを養っていく。後期では、現代社会の課題を探ったり議論したりして、どのように自分の考えを表現するか勉強していく。 In this course, students will advance their English ability and develop confidence in using the language. In the first semester, students will develop core skills in reading, writing, listening and speaking, focusing on practical topics that are encountered in everyday life. In the second semester, students will explore and discuss a range of themes and issues in contemporary society and learn how to express their viewpoints.		
到達目標	• 日常生活で使われるテーマについて、英語での読解、文章、聴力およびスピーキングに自信をつける｜To develop confidence in reading, writing, listening and speaking English about topics used in everyday conversation. • 様々な社会生活の様子について、英語で自分の意見や見方を表現することに自信をつける｜To develop confidence in expressing views and opinions in English about different aspects of social life.		
授業計画	前期｜First Semester 第１回：オリエンテーション｜Orientation 第２～３回：私と家族｜Me and my family 第４～５回：趣味と興味｜Hobbies and interests 第６～８回：勉強、仕事と将来｜Study, work and the future 第９～１１回：旅行｜Travelling 第１２回：音楽｜Music 第１３～１４回：買い物｜Shopping 第１５回：期末試験｜Final examination 後期｜Second Semester* 第１回：オリエンテーション｜Orientation 第２～３回：アートと社会｜The arts and society 第４～５回：科学とテクノロジー｜Science and technology 第６～７回：健康と新型コロナウイルス｜Health and COVID-19 第８～９回：法と人権｜Law and human rights 第１０～１１回：社会的不平等｜Social inequality 第１２～１３回：人間と自然環境｜Humans and the environment 第１４～１５回：期末試験｜Final examination * 学生の希望に合わせて、上記のテーマを替えることができる｜The above topics may be changed in accordance with the wishes of students.		
予習・復習	授業中に指示された課題に取り組むこと		
教科書	配布プリント		
参考書	配布プリント		
教材	配布プリント		
履修上の注意	特になし。		

成績評価 **(~H29)**	出席と授業中の態度｜Attendance and attitude in class (20%) 前期期末試験（口頭発表）｜Semester 1 exam (oral presentation) (40%) 後期期末試験（ポスターと口頭発表）｜Semester 2 exam (poster and oral presentation) (40%) [A] 英語でのコミュニケーションは十分で、自信を持って表現できる。｜You communicate well in English and can confidently express yourself. [B] 英語でのコミュニケーションは基本的にでき、自信をつけられるようになった。｜You can communicate in English at a basic level and have gained confidence. [C] 英語でのコミュニケーションはまだ不十分だが、自信をつけられるようになった。｜Your communication in English is not yet sufficient, but you have gained confidence.
成績評価 **(H30~)**	出席と授業中の態度｜Attendance and attitude in class (20%) 前期期末試験（口頭発表）｜Semester 1 exam (oral presentation) (40%) 後期期末試験（ポスターと口頭発表）｜Semester 2 exam (poster and oral presentation) (40%) [S] 英語でのコミュニケーションは秀でており、自信を持ってはっきり表現できる。｜You excel in communicating in English and can confidently and clearly express yourself. [A] 英語でのコミュニケーションは十分で、自信を持って表現できる。｜You communicate well in English and can confidently express yourself. [B] 英語でのコミュニケーションは基本的にでき、自信をつけられるようになった。｜You can communicate in English at a basic level and have gained confidence. [C] 英語でのコミュニケーションはまだ不十分だが、自信をつけられるようになった。｜Your communication in English is not yet sufficient, but you have gained confidence.
主担当教員	ディビッド・ブルースター

令和4年度シラバス

番号	(A3)-09	履修コード	1523Z9
科目名	英語（二）	科目英語名	English （2）
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	前期：火曜7・8限　後期：火曜9・10限
履修区分	必修	教室	前期：視聴覚教室　後期：第3教室
単位	4	定員	
担当教員	ディビッド・ブルースター		
授業概要	この科目では、英語能力を向上させ言語を使う自信をつける。前期では、日常生活で出会う実用的なテーマを中心にして、読解、文章、聴力およびスピーキングのコアスキルを養っていく。後期では、現代社会の課題を探ったり議論したりして、どのように自分の考えを表現するか勉強していく。 In this course, students will advance their English ability and develop confidence in using the language. In the first semester, students will develop core skills in reading, writing, listening and speaking, focusing on practical topics that are encountered in everyday life. In the second semester, students will explore and discuss a range of themes and issues in contemporary society and learn how to express their viewpoints.		
到達目標	• 日常生活で使われるテーマについて、英語での読解、文章、聴力およびスピーキングに自信をつける｜To develop confidence in reading, writing, listening and speaking English about topics used in everyday conversation. • 様々な社会生活の様子について、英語で自分の意見や見方を表現することに自信をつける｜To develop confidence in expressing views and opinions in English about different aspects of social life.		
授業計画	前期｜First Semester 第１回：オリエンテーション｜Orientation 第２～３回：私と家族｜Me and my family 第４～５回：趣味と興味｜Hobbies and interests 第６～８回：勉強、仕事と将来｜Study, work and the future 第９～１１回：旅行｜Travelling 第１２回：音楽｜Music 第１３～１４回：買い物｜Shopping 第１５回：期末試験｜Final examination 後期｜Second Semester* 第１回：オリエンテーション｜Orientation 第２～３回：アートと社会｜The arts and society 第４～５回：科学とテクノロジー｜Science and technology 第６～７回：健康と新型コロナウイルス｜Health and COVID-19 第８～９回：法と人権｜Law and human rights 第１０～１１回：社会的不平等｜Social inequality 第１２～１３回：人間と自然環境｜Humans and the environment 第１４～１５回：期末試験｜Final examination * 学生の希望に合わせて、上記のテーマを替えることができる｜The above topics may be changed in accordance with the wishes of students.		
予習・復習	適宜、授業内で指示する。		
教科書	配布プリント		
参考書	配布プリント		
教材	配布プリント		
履修上の注意	特になし		

成績評価 **(~H29)**	出席と授業中の態度｜Attendance and attitude in class (20%) 前期期末試験（口頭発表）｜Semester 1 exam (oral presentation) (40%) 後期期末試験（ポスターと口頭発表）｜Semester 2 exam (poster and oral presentation) (40%) [A] 英語でのコミュニケーションは十分で、自信を持って表現できる。｜You communicate well in English and can confidently express yourself. [B] 英語でのコミュニケーションは基本的にでき、自信をつけられるようになった。｜You can communicate in English at a basic level and have gained confidence. [C] 英語でのコミュニケーションはまだ不十分だが、自信をつけられるようになった。｜Your communication in English is not yet sufficient, but you have gained confidence.
成績評価 **(H30~)**	出席と授業中の態度｜Attendance and attitude in class (20%) 前期期末試験（口頭発表）｜Semester 1 exam (oral presentation) (40%) 後期期末試験（ポスターと口頭発表）｜Semester 2 exam (poster and oral presentation) (40%) [S] 英語でのコミュニケーションは秀でており、自信を持ってはっきり表現できる。｜You excel in communicating in English and can confidently and clearly express yourself. [A] 英語でのコミュニケーションは十分で、自信を持って表現できる。｜You communicate well in English and can confidently express yourself. [B] 英語でのコミュニケーションは基本的にでき、自信をつけられるようになった。｜You can communicate in English at a basic level and have gained confidence. [C] 英語でのコミュニケーションはまだ不十分だが、自信をつけられるようになった。｜Your communication in English is not yet sufficient, but you have gained confidence.
主担当教員	ディビッド・ブルースター

令和4年度シラバス

番号	(A3)-10	**履修コード**	1524Z1
科目名	英語（三）	**科目英語名**	English （3）
科目区分	外国語科目	**授業形態**	演習
資格区分		**開講学期**	通年
入学年度		**毎週・集中**	毎週
専攻・年次	全専攻3年次	**曜日・時限**	水曜5・6限
履修区分	自由	**教室**	LAVC室
単位	2	**定員**	
担当教員	稲垣健志		
授業概要	この授業では、モダンアートについて書かれた英文を精読することで、英語力のさらなる向上はもとより、モダンアート作品や運動に関する知識も深めていきます。		
到達目標	・内容の正確な把握だけでなく、モダンアート作品や運動がうまれる歴史的・社会的背景も理解する。 ・理解した内容を自身の制作活動にも活かす。		
授業計画	Susie Hodge, How to Survive Modern Art(2009)を精読していきます。 授業は前半に英文の精読、後半に内容の確認とディスカッションというかたちで進めていきます。 具体的に取り上げる主なトピックは以下のとおりです。 What is Modern Art? Inspiration Pattern & Shape Rodin, Brancusi&Giacometti Cubism Dada De Stijl War & Destruction The Bauhaus 1919-33 Harlem Renaissance New Objectivity Art & Politics Pop Art Op Art Minimalism Land Art Performance Art & Arte Povera YBAs(Brit Art) Disital Art その他、参加学生の関心、制作テーマに合わせたトピックも取り上げていく予定です。		
予習・復習	授業中に指示された課題に取り組むこと。		
教科書	配布プリント		
参考書	配付プリント		
教材	配付プリント		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)	[A] 各トピックの内容の社会的背景を理解し、その成果を自身の制作活動に反映させることができた。 [B] 各トピックの内容を理解し、その知識を自身の制作活動に活かすことができた。 [C] 各トピックの内容を訳し、理解することができた。		
成績評価 (H30~)	[S] 各トピックの内容の社会的背景を理解し、その成果を自身の制作活動に反映させることができた。 [A] 各トピックの内容を理解し、その知識を自身の制作活動に活かすことができた。 [B] 各トピックの内容を訳し、理解することができた。 [C] 各トピックの内容を訳すことができた。		
主担当教員	稲垣健志		

令和4年度シラバス

番号	(A3)-11	履修コード	1525Z1
科目名	英語（四）	科目英語名	English （4）
科目区分	外国語科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻4年次	曜日・時限	水曜9・10限
履修区分	自由	教室	前期：第3教室　後期：LAVC室
単位	2	定員	10名
担当教員	稲垣健志		
授業概要	この授業は「なぜ英語ができるようになりたいのか」、「なぜ英語が必要なのか」という根本的な問いから始めます。 そして自らの大学での英語学習を総括し、さらに卒業後を見据えたうえで、課題を設定してそれに取り組みます。		
到達目標	それぞれの弱点、関心、必要性に応じた課題をこなし、卒業後に活かせる英語力を身につける。		
授業計画	ただ漠然と「英語ができるようになりたい。」と考えているだけでは、なかなか英語力は向上しません。 この授業は「なぜ英語ができるようになりたいのか」、「英語を使って何をしたいのか」ということを考えるところからスタートします。 そのうえで、大学での英語学習の経験と卒業後を見据えて各自の課題を担当教員とともに設定します。 前期： 各自の課題および目標の設定 例）TOEICの苦手パートの演習 TOEIC目標点数クリアのための計画作りおよび演習 留学に向けたTOEFL・IELTSの演習 大学レベルの英語力に向けた基礎演習 大学院入試に向けた専門的演習 ＊学期末に別途課題を出す。 後期： 前期の成果と学期末課題の結果をふまえて、さらにステップアップした課題および目標を設定する 例）TOEICの苦手パートを含む総合的な演習 TOEIC目標点数の再設定と時間配分を考慮した演習 具体的な留学先を想定したTOEFL・IELTS演習 大学レベルの英語力に向けた応用演習 具体的な大学院の過去問題演習 ＊教材等は基本的にこちらで用意する。		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書	教員側で準備する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示または配布する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)	授業態度30%、小テスト20%、課題50% [A] 適切な課題を設定し、それをクリアしたうえで卒業後に活かせる英語力を身につけることができた。 [B] 適切な課題を設定し、概ねそれをクリアすることができた。 [C] 適切な課題を設定し、一年を通じてそれに取り組むことができた。		
成績評価 (H30~)	授業態度30%、小テスト20%、課題50% [S] 適切な課題を設定し、それをクリアしたうえで卒業後に活かせる英語力を身につけることができた。 [A] 適切な課題を設定し、自己の英語力を目標のレベルまで向上させることができた。 [B] 適切な課題を設定し、概ねそれをクリアすることができた。 [C] 適切な課題を設定し、一年を通じてそれに取り組むことができた。		
主担当教員	稲垣健志		

令和4年度シラバス

番号	(A3)-12	履修コード	1526Z1
科目名	フランス語（一）Ａ	科目英語名	French （1）Ａ
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	月曜7･8限
履修区分	選択	教室	第3教室
単位	4	定員	30名
担当教員	青柳りさ		
授業概要	フランス語の基本的な表現を習得し文法のしくみを把握する。 ヨーロッパ文化の紹介。		
到達目標	初級文法の習得。実用フランス語検定５級レベルの力をつける。		
授業計画	第１回　ガイダンス、発音 第２回　danser、人称代名詞 第３回　平叙文と疑問文(1)、être, avoir, faire、否定文 第４回　疑問文(2)、疑問副詞、疑問代名詞、数（1から20） 第５回　疑問形容詞、所有形容詞、il estとc'est 第６回　定冠詞・不定冠詞・部分冠詞、形容詞 第７回　形容詞の位置、代名動詞、aller, partir、数（1から80） 第８回　定冠詞の縮約、様々な否定文、prendre 第９回　指示形容詞、話しの流れと語調 第10回　venir, voir, devoir 第11回　近接未来・近接過去、複合過去形(1) 第12回　１日の表現・曜日の表現、mettre, descendre 第13回　数（1から100）、前期総括、試験 第14回　場所の表現、目的語代名詞 第15回　il y a、pouvoir, vouloir、不定法の単純形・複合形 第16回　命令法、位置の表現、非人称構文 第17回　接続法(1)、中性代名詞、depuisと時制 第18回　半過去形 第19回　複合過去形(2)、過去における近接未来・過去 第20回　ジェロンディフ、複合過去形と半過去形 第21回　大過去形、connaître, savoir, plaîre 第22回　原因理由の表現、比較級・最上級 第23回　単純未来形、前未来形、可能性の高い仮定 第24回　話法、条件法 第25回　接続法(2) 第26回　質問及び調整日 第27回　後期総括、試験 毎回、動詞活用テスト。また、アニメ、映画、シャンソン、詩、ニュース等の紹介。前期３回分については課題で対応する。		
予習・復習	教科書の予習及び動詞活用の暗記を心がけること。		
教科書	松山博文著『フランス文法のまとめ』白水社		
参考書	適宜指示する。		
教材	CD、DVD、ウェブサイト等。		
履修上の注意	芸術学専攻を除く美術科の学生は、フランス語（一）Ｂを履修してください。 すでにフランス語初級文法を習得している学生は登録前に相談に来て下さい。		
成績評価 (~H29)	毎週の動詞活用テスト（10%）、出席カード（10%）、年二回の筆記試験（聞き取りを含む）（80%）。 [A]初級フランス語文法を習得し、それを高いレベルで応用することができた。 [B]初級フランス語文法を習得し、それを応用することができた。 [C]初級フランス語文法を習得することができた。		
成績評価 (H30~)	毎週の動詞活用テスト（10%）、出席カード（10%）、年二回の筆記試験（聞き取りを含む）（80%）。 [S]初級フランス語文法を習得し、それを高いレベルで応用することができた。 [A]初級フランス語文法を習得し、それを応用することができた。 [B]初級フランス語文法を習得することができた。 [C]初級フランス語文法を大まかに理解することができた。		
主担当教員	青柳りさ		

令和4年度シラバス

番号	(A3)-13	履修コード	1526Z2
科目名	フランス語（一）Ｂ	科目英語名	French （1）Ｂ
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	金曜9･10限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	4	定員	30名
担当教員	青柳りさ		
授業概要	フランス語の基本的な表現を含む１５０文を暗記し、口語表現の能力を養成する。 ヨーロッパの文化の紹介。		
到達目標	基本的な会話力の習得。 実用フランス語検定５級レベルの力をつける。		
授業計画	各回ごとに、よく使うフランス語の表現を５つ、発音、文法、綴り等に留意しながら暗記する。 1　名前を言う 2　住んでいるところを言う 3　年齢を言う 4　数を言う 5　職業を言う 6　国籍を言う 7　好き嫌いを言う 8　電話番号を言う 9　時間を言う 10 前期総括、試験 11 今日することを言う 12 曜日を言う 13 場所を言う 14 天候を言う 15 道を聞く、教える 16 過去のことを言う 17 過去のことを言う 18 説明する 19 理由を言う 20 感想を言う 21 買い物をする 22 誘う 23 未来のことを言う 24 予定を言う 25 後期総括、試験 ヨーロッパ（特にフランスの）音楽、映画、ファッション、美術、文学、建築等を紹介する。前期５回分については課題で対応する。		
予習・復習	テキストの予習と１４０文の暗記を心がけること。		
教科書	中川努／青柳りさ著『話せる！ 音読 フランス語200文』第三書房 1700円		
参考書	適宜指示する。		
教材	CD、DVD、ウェブサイト等。		
履修上の注意	芸術学専攻の学生・文法の習得を希望する学生はフランス語（一）Ａを受講して下さい。 すでにフランス語初級文法を習得している学生は登録前に相談に来て下さい。		
成績評価 (~H29)	毎週の小テスト（10%）、出席カード（10%）、年２回の筆記試験（聞き取りを含む）（80%） [A]初級フランス語会話を習得し、それを高いレベルで応用することができた。 [B]初級フランス語会話を習得し、それを応用することができた。 [C]初級フランス語会話を習得することができた。		
成績評価 (H30~)	毎週の小テスト（10%）、出席カード（10%）、年２回の筆記試験（聞き取りを含む）（80%） [S]初級フランス語会話を習得し、それを高いレベルで応用することができた。 [A]初級フランス語会話を習得し、それを応用することができた。 [B]初級フランス語会話を習得することができた。 [C]初級フランス語会話をある程度習得することができた。		
主担当教員	青柳りさ		

令和4年度シラバス

番号	(A3)-14	履修コード	1527Z1
科目名	フランス語（二）	科目英語名	French （2）
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科2年次	曜日・時限	前期：月曜9･10限　後期：火曜9･10限
履修区分	選択	教室	前期：第3教室　後期：視聴覚教室
単位	4	定員	60名
担当教員	青柳りさ		
授業概要	文法事項の復習と、読み・聞き・書き・話す力の養成。 フランス語の基本的な表現を含む２００文を暗記し、口語表現の能力を養成する。 ヨーロッパ文化への理解を深める。		
到達目標	日常生活に必要な基本構文、基本語彙の習得。実用フランス語検定４級レベルの力をつける。		
授業計画	1.「フランス語200文」（前期毎週10文、後期毎週5文）を暗記する。 1　名前、住んでいるところを言う 2　年齢、数を言う 3　職業、国籍を言う 4　好き嫌い、電話番号を言う 5　時間を言う 6　今日することを言う 7　曜日を言う 8　場所を言う 9　天候を言う 10 道を聞く、教える 11 月を言う、過去のことを言う 12 過去のことを言う 前期総括 13 過去のことを言う 14 説明、描写する 15 前期総括、試験 16 好き嫌いを言う 17 理由を言う 18 買い物をする 19 過去のことを言う 20 過去のことを言う 21 感想を言う 22 誘う 23 たずねる、頼む 24 予定を言う 25 人の発言を伝える 26 意見を言う 27 客観的に話す 後期総括 前期３回分については課題で対応する。 2.「フランス語200文」を応用する。 3．ヨーロッパ（特にフランスの）ニュース、音楽、映画、ファッション、美術、文学、建築等を紹介する。		
予習・復習	テキストの予習と200文の暗記を心がけること。		
教科書	中川努／青柳りさ著『話せる！ 音読 フランス語200文』第三書房 1700円		
参考書	適宜指示する。		
教材	CD、DVD、ウェブサイト等。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)	毎週の小テスト（10%）、出席カード（10%）、年２回の期末試験（80%） [A]フランス語200文を確実に習得し、それを応用することができた。 [B]フランス語200文を確実に習得することができた。		

	[C]フランス語200文を習得することができた。
成績評価 (H30~)	毎週の小テスト（10%）、出席カード（10%）、年２回の期末試験（80%） [S]フランス語200文を確実に習得し、それを高いレベルで応用することができた。 [A]フランス語200文を確実に習得し、それを応用することができた。 [B]フランス語200文を確実に習得することができた。 [C]フランス語200文を習得することができた。
主担当教員	青柳りさ

令和4年度シラバス

番号	(A3)-15	履修コード	1536Z1
科目名	フランス語会話（中級）	科目英語名	French Conversation （intermediate class）
科目区分	外国語科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度	H28～	毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻3年次	曜日・時限	月曜5･6限
履修区分	自由	教室	LAVC室
単位	2	定員	10名
担当教員	（非常勤）Loïc MENOU（ロイック・メノウ）		
授業概要	初級レベルの日常会話の習得 美術言語の導入		
到達目標	日常会話に役立つ基本語彙および構文を習得する。 美術に関する基本語彙を学び、簡単な質疑・論評のなかで実践する。 日常あるいは専門的な様々なシチュエーションにおける会話に慣れる。		
授業計画	一回の授業構成は以下の通り。 1．テキスト、配付資料、視聴覚機材等を用いて、日常会話に必要な基本構文、熟語、言い回しを習得する。毎週、異なる会話のシチュエーションが提起される。 2．教員あるいは学生から提起されるキーワード、美術・デザイン等の専門用語を習得し、グループあるいは個人で、短い文をつくり繰りかえし「話し、書く」練習をする。 3．前・後期それぞれ１～２回、１０分から１５分で、研究、制作、発表、その他のテーマで発表および質疑応答を行う。 学生は２～３週間かけて発表の準備を行う。準備段階において発表のプラン等についての指導を受けることができる。 ＊ 授業計画は、学生の人数、レベル、習熟度等によって変更される可能性あり。また各々のレベルによって達成目標にも柔軟性をもたせる。 前期 1ère semaine / Salutations / présentations / motivations personnelles / contenu & déroulement du cours 2e semaine / Décrire une personne (physique & caractère) 3e semaine / Décrire un objet usuel & un outil propre à sa discipline (couleur / forme / matière ou matériau / dimensions / fonction-utilité-usage...) 4e semaine / Présenter une œuvre d'art bidimensionnelle (peinture, dessin, collage, photo...), figurative, abstraite ou conceptuelle / Support, outils, couleur, texture, touche, rendu, espace... 5 e semaine / Présenter une œuvre d'art tridimensionnelle (sculpture, installation, arts appliqués...), figurative, abstraite ou conceptuelle / matériaux, techniques, outils, couleur, dimensions, espace... 6 e semaine / Parler de son cadre de vie (logement, mobilier, environnement, commodités...) 7 e semaine / Parler de ses activités quotidiennes 8 e semaine / Visite d'une exposition * à définir suivant le programme du moment 9 e semaine / Exploitation de la visite (commentaires, généraux & sur quelques œuvres marquantes, échange d'opinions) 10 e semaine / Parler de sa consommation et de ses habitudes alimentaires 11 e semaine / Expliquer un processus: (1) Préparation de son plat préféré, (2) Opération propre à sa discipline (soudure, plâtre, broyage de pigments...) 12 e semaine / Parler de ses loisirs et du bénéfice de ces activités 13 e semaine / Exposer un problème < > proposer une solution 14 e semaine / Parler de projets (vacances) 15e semaine /		

	Présentation individuelle de ses recherches (pratiques ou théoriques) **後期** 1ère semaine / Reportage visuel et verbal sur ses vacances (activités, satisfactions, regrets...) 2e semaine / Raconter un souvenir d'enfance marquant 3e semaine / Parler de ses compétences & apprendre à les mettre en valeur (intonation, gestuelle...) 4e semaine / Observer différents CV & rédiger son propre CV 5 e semaine / Parler de différentes professions artistiques 6 e semaine / À propos d'environnement: "êtes-vous un(e) éco-citoyen(ne)?" 7 e semaine / Parler de solidarité et d'entraide 8 e semaine / Visite d'une exposition * à définir suivant le programme du moment 9 e semaine / Exploitation de la visite (commentaires, généraux & sur quelques œuvres marquantes, échange d'opinions) 10 e semaine / Parler d'activités saisonnières 11 e semaine / Exprimer son insatisfaction à propos d'un produit, d'un lieu, de conditions de vie.... < > Réconforter 12 e semaine / Parler d'une joie et d'une peur extrêmes (où quand, comment, circonstances ou causes, état d'âme, conséquences...) 13 e semaine / Apprendre à improviser des questions & à répondre spontanément 14 e semaine / Présentation de ses recherches (pratiques ou théoriques) 15e semaine / Syntèse personnelle de son année & projets pour l'année suivante
予習・復習	前回の授業で学んだ構文、語彙の復習。 個人あるいはグループで、アーチスト、美術界の動き、あるいは与えられたテーマ、自分で選んだテーマにかかわる語彙を学ぶ。 １～２回の研究発表の準備。
教科書	A PROPOS A1 (PUG)
参考書	特になし。
教材	特になし。
履修上の注意	フランス語既習者を対象とします。
成績評価 (~H29)	予習と復習 (30%)　授業への参加：理解し理解されること、（語彙の不足や多少の文法的な間違いがあったとしても）積極的な質疑応答への取り組みを評価する(40%)　発表(30%) [A]初級フランス語を確実に習得し、それを高いレベルでフランス語会話に応用することができた。 [B]初級フランス語を確実に習得し、それをフランス語会話に応用することができた。 [C]初級フランス語を確実に習得することができた。
成績評価 (H30~)	予習と復習 (30%)　授業への参加：理解し理解されること、（語彙の不足や多少の文法的な間違いがあったとしても）積極的な質疑応答への取り組みを評価する(40%)　発表(30%) [S]初級フランス語を確実に習得し、非常に高いレベルでフランス語会話に応用することができた。 [A]初級フランス語を確実に習得し、それを高いレベルでフランス語会話に応用することができた。 [B]初級フランス語を確実に習得し、それをフランス語会話に応用することができた。 [C]初級フランス語を確実に習得することができた。
主担当教員	Loïc MENOU

令和4年度シラバス

番号	(A3)-16	履修コード	1537Z1
科目名	フランス語会話（上級）	科目英語名	French Conversation （upper class）
科目区分	外国語科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度	H28〜	毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻4年次	曜日・時限	月曜7・8限
履修区分	自由	教室	LAVC室
単位	2	定員	10名
担当教員	（非常勤）Loïc MENOU（ロイック・メノ）		
授業概要	Entrainement à la conversion courante (niveau supérieur) ainsi qu'à differentes situations de dialogue propres au domaine de l'art.		
到達目標	Enrichissement de son vocabulaire général et de son vocabulaire artistique. Maîtrise des principales structures grammaticales en usage dans la conversation (courante et spécialisée). Acquisition d'une certaine aisance dans différentes situations de dialogue (questions et réponses spontanées…).		
授業計画	Chaque cours se divisera en plusieurs séquences comprenant : 1. Entraînement oral a des structures grammaticales plus ou moins complexes a l'aide de documents écrits (extraits de manuels) ou audio-visuels. Chaque semaine une situation de dialogue différente sera proposée. 2. Acquisition d'un vocabulaire spécialise plus sophistique a partir de la lecture d'articles, ou de l'écoute de documents audio-visuels qui seront sélectionnes tantôt par l'instructeur, tantôt par les étudiants. 3. Expose(s) de 10 a 15 minutes par chaque étudiant (1〜2 par semestre) sur ses recherches artistiques, sa démarche (concept, procedure, questionnements…), une exposition ou sur tout autre sujet, suivi d'un court débat avec les autres étudiants. L'étudiant aura deux ou trois semaines pour le(s) preparer et recevra des instructions ou un plan d'expose pour l'aider dans sa preparation. * ordre et contenu sont susceptibles de changer suivant les motivations des participants, l'actualité ou les documents (vidéos...) disponibles **前期** 1ère semaine / (Re-)prise de contact / Commentaires sur ses vacances"de printemps / Ambitions personnelles pour cette année / Objectifs du cours 2e semaine / Présentation de "sa " personnalité de l'année passée ou en cours (physique, caractère, engagement..) & Pourquoi ce choix? 3e semaine / Parler de son quotidien: environnement, habitudes, plaisirs, soucis, craintes, angoisses... 4e semaine / Autour d'un thème récurrent en art. (ex. paysage, figure humaine) - Visionnage et discussion à partir de la vidéo d'un artiste contemporain traitant de ce thème (ex. Chemical landscape par Lionel Estève) 5 e semaine / Recherches & présentation individuelles sur un autre artiste abordant différemment le même thème 6 e semaine / Parler de l'actualité non-artistique (sociale, politique, sanitaire...) - discussion à partir d'un évènement ou problème local, national ou international, choisi avec les étudiants		

7 e semaine /
Culture française #1: À propos d'une personnalité française influente (ex. Simone Veil)
8 e semaine /
Visite d'une exposition * à définir suivant le programme du moment
9 e semaine /
Exploitation de la visite (commentaires, généraux & sur quelques œuvres marquantes, échange d'opinions)
10 e semaine /
Culture française #2: Histoire d'une grande marque (ex. Louis Vuitton) ou entreprise (ex. Michelin): fondateur, caractéristiques, fonctionnement, essor...
11 e semaine /
Recherches & présentation individuelles sur une marque ou entreprise japonaise
12 e semaine /
Parler de "famille": décohabitation, relations intergénérationnelles, avoir ou ne pas avoir d'enfant...
13 e semaine /
Vie privée - vie professionnelle
14 e semaine /
À propos de la conception des "vacances" suivant les âges, les cultures.. - Échanges sur quelques idées préconçues (ex. "Partir en vacances, c'est un luxe")
15e semaine /
Présentation de ses recherches (pratiques ou théoriques) en cours & ses projets de vacances

後期
1ère semaine /
Reportage visuel et verbal sur ses vacances (satisfactions, regrets, découvertes...)
2e semaine /
Exprimer des sensations - Évoquer des souvenirs liés à certaines sensations
3e semaine /
Culture française #3: Étude (écoute & lecture) d'un entretien d'un créateur de parfum, Jean-Claude Ellena
4e semaine /
À propos de la Pub, de ses formes et fonctions (documents écrits) - parler de son rapport personnel avec la pub
5 e semaine /
Parler des différentes formes de discrimination (Lecture et écoute de témoignages)
6 e semaine /
Parler d'inventions majeures (documents sonores et écrits)
7 e semaine /
Parler de l'actualité non-artistique (sociale, politique, sanitaire...) - discussion à partir d'un évènement ou problème local, national ou international, choisi avec les étudiants
8 e semaine /
Visite d'une exposition * à définir suivant le programme du moment
9 e semaine /
Exploitation de la visite (commentaires, généraux & sur quelques œuvres marquantes, échange d'opinions)
10 e semaine /
Parler d'éducation: rôle de la famille, de l'école...
11 e semaine /
Art dans la ville: Étude de la vidéo d'un artiste abordant cette problématique (ex. JR, T. Kawamata)
12 e semaine /
Recherches & présentation individuelles sur d'autres artistes abordant différemment le même thème
13 e semaine /
Culture française #4: "Art de vivre à la française" - discusssion à partir d'un témoignage

	14 e semaine / Parler de ses projets d'avenir 15e semaine / Présentation de ses recherches (pratiques ou théoriques) en cours
予習・復習	Revision hebdomadaire du vocabulaire et des points abordes au cours precedent. Recherche (ponctuelle) en vue de presentations, individuelles ou en groupe, et preparation de celles-ci.
教科書	A PROPOS A2 (PUG)
参考書	特になし。
教材	特になし。
履修上の注意	特になし。
成績評価 (~H29)	Participation aux discussions et debats (60%) Exposes: contenu, niveau de preparation et de presentation (40%) [A] Tres bonne maitrise de la langue francaise. Excellentes competences d'expression et de comprehension orales. [B] Bonne maitrise des bases de la langue francaise. Competences d'expression et de comprehension orales satisfaisantes. [C] A acquis les rudiments de la langue francaise suffisants pour mener et comprendre une conversation francaise courante.
成績評価 (H30~)	Participation aux discussions et débats (60%) Exposés: contenu, niveau de préparation et de présentation (40%) [S] Excellente maîtrise de la langue française. Aisance, richesse de vocabulaire. [A] Très bonne maîtrise de la langue française. Solides compétences d'expression et de compréhension orales. [B] Bonne maîtrise des bases de la langue française. Compétences d'expression et de compréhension orales satisfaisantes. [C] A acquis les rudiments de la langue française suffisants pour mener et comprendre une conversation française courante.
主担当教員	Loïc MENOU

令和4年度シラバス

番号	(A3)-17	履修コード	1532Z1
科目名	ドイツ語基礎	科目英語名	German Basic Course
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科2年次	曜日・時限	木曜5･6限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	4	定員	30名
担当教員	（非常勤）堀美佐子		
授業概要	ドイツ語の簡単な会話と文章を習得し、ドイツ語の文法のしくみを理解する。		
到達目標	ドイツ語の初級文法を習得し、ドイツ事情を理解する。		
授業計画	前期 第１回　ガイダンス　発音練習(基数１－１０，挨拶表現) 第２回　人称代名詞(１格)　動詞の不定形　規則動詞の現在人称変化 第３回　sein動詞とhaben動詞の現在人称変化　平叙文と疑問文 第４回　ドイツ語の文の語順　疑問詞　自己紹介の表現 第５回　名詞の性　定冠詞(１格)と不定冠詞(１格) 第６回　定冠詞と名詞の格変化 第７回　不定冠詞と名詞の格変化 第８回　中間テスト[1]　名詞の複数形　人称代名詞の格変化 第９回　所有冠詞　否定冠詞 第１０回　不規則動詞の現在人称変化 第１１回　分離動詞 第１２回　命令形 第１３回　zu不定詞 第１４回」前期のまとめ 第１５回　前期試験 後期 第１６回　前期の復習　(動詞の現在人称変化　基本的な語彙) 第１７回　定冠詞類　不定冠詞類 第１８回　助動詞構文　未来形 第１９回　話法の助動詞 第２０回　形容詞の格変化 第２１回　比較変化 第２２回　中間テスト[2]　基数11-100 第２３回　前置詞 第２４回　動詞の３基本形 第２５回　過去形 第２６回　現在完了形 第２７回　受動態 第２８回　関係代名詞 第２９回　後期のまとめ 第３０回　後期試験		
予習・復習	配布プリントの予習・復習と単語の暗記を心がけること。		
教科書	プリントを配布する。		
参考書	辞書や参考書については、最初の授業で指示する。		
教材	プリントを配布する。授業はプリントに沿って進める。		
履修上の注意	毎回プリントから課題が出るので、必ずやって次回提出すること。通年で4回のテスト(前期の中間テスト、前期試験、後期の中間テスト、後期試験)を全て受けなければ単位は認定されません。		
成績評価 **(~H29)**	毎週の課題プリント(30%)、中間テスト(２回)並びに学期末試験(２回)を総合して単位認定を行う。 [A] 初級ドイツ語の読解力と表現力を非常に正確に習得できた。 [B] 初級ドイツ語の読解力と表現力をかなり正確に習得できた。 [C] 初級ドイツ語の読解力と表現力を習得できた。		
成績評価 **(H30~)**	毎週の課題プリント(30%)、中間テスト(２回)並びに学期末試験(２回)を総合して単位認定を行う。 [S] 初級ドイツ語の読解力と表現力を正確に習得し、かつ文法事項を高いレベルで応用することができた。 [A] 初級ドイツ語の読解力と表現力を非常に正確に習得できた。 [B] 初級ドイツ語の読解力と表現力をかなり正確に習得できた。 [C] 初級ドイツ語の読解力と表現力を習得できた。		
主担当教員	堀美佐子		

令和4年度シラバス

番号	(A3)-18	**履修コード**	1533Z1
科目名	イタリア語基礎	**科目英語名**	Italian Basic Course
科目区分	外国語科目	**授業形態**	講義
資格区分		**開講学期**	通年
入学年度		**毎週・集中**	毎週
専攻・年次	美術科2年次	**曜日・時限**	木曜7・8限
履修区分	選択	**教室**	前期：第3教室　後期：研修室
単位	4	**定員**	50名
担当教員	石黒盛久		
授業概要	イタリア語の初等文法を教授する。		
到達目標	イタリア語の初等文法（現在・過去・未来形等）を理解し、運用できるようにする。		
授業計画	1　挨拶とアルファベット 2　動詞essere 3　　形容詞 4　動詞avere 5　-are動詞　規則活用 6　-are動詞　不規則活用 7　-ere動詞　規則活用 8　-ere動詞　不規則活用 9　-ire動詞　規則活用 10 -ire動詞　不規則活用　- 11 複数形（冠詞・形容詞・名詞） 12 時刻の表現 13 補助動詞 14 再帰動詞 15 再帰動詞と代名動詞 16 近過去（1） 17 近過去（2） 18 近過去（3） 19 半過去 20 時制の組み合わせ 21 所有形容詞 22 直接目的語 23 間接目的語 24 命令法（1） 25 命名法（2） 26 比較級と絶対最上級 27 未来形 28 補足（1）～がいる／あるの表現　似たような動詞の使い分け 29 補足（2）構文「～することは……だ」いろいろな動詞の使い方 30 補足（3）fareを使った表現　前置詞		
予習・復習	【予習】先立って指定する教科書の当該部分に目を通して置くこと 【復習】当該授業で学習した項目に関する教科書の練習問題を解き提出すること		
教科書	Italiano Italiano　朝日出版社　Mattteo Castagna/ 吉富　文著		
参考書	紙媒体の伊和辞典の購入を勧めるが、近年はネット上で無料の電子辞書も多数公開されており、必ずしも必須とはしない		
教材	上記教科書を開講時に購入のこと その他必要に応じプリント配布		
履修上の注意	復習の提出用のノートを作っておいてください		
成績評価 (~H29)	前期二回、後期二回の試験の結果と提出物の評価を加味して単位認定を行う [A]イタリア語の文法・表現を理解し、その運用に高いレベルで習熟している [B]イタリア語の文法・表現を理解し、その運用に習熟している [C]イタリア語の文法・表現を理解している。		
成績評価 (H30~)	前期二回、後期二回の試験の結果と提出物の評価を加味して単位認定を行う [S]イタリア語の文法・表現を理解し、その運用に極めて高いレベルで習熟している [A]イタリア語の文法・表現を理解し、その運用に高いレベルで習熟している [B]イタリア語の文法・表現を理解し、その運用に習熟している [C]イタリア語の文法・表現を理解している。		
主担当教員	石黒盛久		

令和4年度シラバス

番号	(A4)-01	履修コード	1601Z1
科目名	体育実技（一）	科目英語名	Health and Physical Education 1
科目区分	保健体育科目	授業形態	実技
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	木曜7･8限
履修区分	必修	教室	体育館･運動場
単位	1	定員	65名
担当教員	（非常勤）○熊谷史佳・竹井早葉子		
授業概要	様々な運動、スポーツの実践を通し、生涯にわたるスポーツとの関わり方を学ぶ。		
到達目標	体力の向上を図るとともに、生涯スポーツを継続的に実践するための基礎を習得する。		
授業計画	第1回　オリエンテーション 　授業の進め方、評価の仕方、受講マナーなどを説明する。また、シューズの販売も行う。 第２回～10回　生涯スポーツの実践 1 　2つのグループに分かれて様々なスポーツ種目を実施する。実施種目は受講生の男女比率や競技経験、天候等を考慮し決定する。各グループはグラウンドと体育館での実技を交互に実施する。グラウンドでは2～3種類の種目を3～4回ずつ順番に、体育館では2～3種類の種目を並行して実施していく。 第11回目　前期まとめ・実技テスト 前期での活動を振り返り、実技テストとレポート課題を実施する。 第12回～26回 生涯スポーツの実践 2 　2つのグループに分かれて様々なスポーツ種目や体力トレーニングを実施する。実施種目は受講生の男女比率や競技経験、天候等を考慮し決定される。各グループはグラウンドと体育館での実技を交互に実施する。ただし、12月以降は天候を考慮し、両グループ体育館での実施になることがある。グラウンドでは2～3種類の種目を3～4回ずつ順番に、体育館では1～2種類の種目の実施と体力トレーニングを実施する。 実施種目 　バスケットボール、バレーボール、サッカー、バドミントン、卓球、ソフトボール、 フライングディスク、ユニバーサルホッケー等 実施種目にそって適宜実技テストを実施する。		
予習・復習	体育館およびグラウンドで各課題の練習を行う		
教科書	資料を配布する		
参考書	資料を配布する		
教材	特になし		
履修上の注意	授業は運動のできる服装で受講し、運動靴および体育館シューズの着用を必須とする。また、華美なアクセサリーなど運動にふさわしくない装飾品は外す。 必要に応じて着替え、タオル、水分補給のための飲料水を持参すること。 また、COVID－19の影響により開講されなかった授業に関しては、運動課題の提示とそれに関するレポート課題により対応する。		
成績評価 **(~H29)**	受講態度および実技テストを総合して単位認定を行う。 [A]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得し、体力や技能を向上することができた。 [B]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得することができた。 [C]積極的に運動に親しむことができた。 [D]不可 特別な事情がない限り、全授業数の1/3を超える欠席者は単位の認定は行わない。		
成績評価 **(H30~)**	受講態度および実技テストを総合して単位認定を行う。 [S]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得し、体力や技能を向上することができた。 [A]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得することができた。 [B]積極的に運動に親しむことができた。 [C]運動に親しみ、継続的に取り組むことができた。 [D]不可 特別な事情がない限り、全授業数の1/3を超える欠席者は単位の認定は行わない。		
主担当教員	熊谷史佳		

令和4年度シラバス

番号	(A4)-02	履修コード	1601Z2
科目名	体育実技（一）	科目英語名	Health and Physical Education 1
科目区分	保健体育科目	授業形態	実技
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン科・工芸科1年次	曜日・時限	木曜5･6限
履修区分	必修	教室	体育館･運動場
単位	1	定員	80名
担当教員	（非常勤）○熊谷史佳・竹井早葉子		
授業概要	様々な運動、スポーツの実践を通し、生涯にわたるスポーツとの関わり方を学ぶ。		
到達目標	体力の向上を図るとともに、生涯スポーツを継続的に実践するための基礎を習得する。		
授業計画	第1回　オリエンテーション 　授業の進め方、評価の仕方、受講マナーなどを説明する。また、シューズの販売も行う。 第２回～10回　生涯スポーツの実践 1 　2つのグループに分かれて様々なスポーツ種目を実施する。実施種目は受講生の男女比率や競技経験、天候等を考慮し決定する。各グループはグラウンドと体育館での実技を交互に実施する。グラウンドでは2～3種類の種目を3～4回ずつ順番に、体育館では2～3種類の種目を並行して実施していく。 第11回目　前期まとめ・実技テスト 前期での活動を振り返り、実技テストとレポート課題を実施する。 第12回～26回 生涯スポーツの実践 2 　2つのグループに分かれて様々なスポーツ種目や体力トレーニングを実施する。実施種目は受講生の男女比率や競技経験、天候等を考慮し決定される。各グループはグラウンドと体育館での実技を交互に実施する。ただし、12月以降は天候を考慮し、両グループ体育館での実施になることがある。グラウンドでは2～3種類の種目を3～4回ずつ順番に、体育館では1～2種類の種目の実施と体力トレーニングを実施する。 実施種目 　バスケットボール、バレーボール、サッカー、バドミントン、卓球、ソフトボール、 フライングディスク、ユニバーサルホッケー等 実施種目にそって適宜実技テストを実施する。		
予習・復習	体育館およびグラウンドで各課題の練習を行う		
教科書	資料を配布する		
参考書	資料を配布する		
教材	特になし		
履修上の注意	授業は運動のできる服装で受講し、運動靴および体育館シューズの着用を必須とする。また、華美なアクセサリーなど運動にふさわしくない装飾品は外す。 必要に応じて着替え、タオル、水分補給のための飲料水を持参すること。 また、COVID－19の影響により開講されなかった授業に関しては、運動課題の提示とそれに関するレポート課題により対応する。		
成績評価 **(~H29)**	受講態度および実技テストを総合して単位認定を行う。 [A]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得し、体力や技能を向上することができた。 [B]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得することができた。 [C]積極的に運動に親しむことができた。 [D]不可 特別な事情がない限り、全授業数の1/3を超える欠席者は単位の認定は行わない。		
成績評価 **(H30~)**	受講態度および実技テストを総合して単位認定を行う。 [S]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得し、体力や技能を向上することができた。 [A]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得することができた。 [B]積極的に運動に親しむことができた。 [C]運動に親しみ、継続的に取り組むことができた。 [D]不可 特別な事情がない限り、全授業数の1/3を超える欠席者は単位の認定は行わない。		
主担当教員	熊谷史佳		

令和4年度シラバス

番号	(A4)-03	履修コード	1602Z1
科目名	体育実技（二）	科目英語名	Health and Physical Education 2
科目区分	保健体育科目	授業形態	実技
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科2年次	曜日・時限	金曜9･10限
履修区分	必修	教室	体育館･運動場
単位	1	定員	65名
担当教員	（非常勤）○熊谷史佳・竹井早葉子		
授業概要	受講生が主体となって、様々な運動・スポーツを選択・実践していく過程を通して、生涯にわたるスポーツとの関わり方を学ぶ。		
到達目標	体力の向上を図るとともに、生涯スポーツを継続的に実践するための基礎を習得する。		
授業計画	第1回　オリエンテーション 　授業の進め方、評価の仕方、受講マナーなどを説明する。屋内種目および屋外種目の選択をする。 第２回～第9回 屋内と屋外でスポーツを実施する。 また、生涯スポーツの基礎知識として、ニュースポーツ種目を紹介、実践する。 第10回目　前期まとめ・実技テスト 　前期での活動を振り返り、実技テストとレポート課題を実施する。 実技実施種目は受講生の希望に合わせて実施される。 あくまでも実施例であり、種目、構成等は人数や希望に合わせて変更する。 屋内　　屋外 第1回　オリエンテーション　オリエンテーション 第2回　体力測定　野球orサッカー、スラックライン 第3回　バドミントン、バスケットボール　野球orサッカー、スラックライン 第4回　バドミントン、バスケットボール　陸上、スラックライン 第5回　バレーボール、卓球　陸上、スラックライン 第6回　バレーボール、卓球　テニス 第7回　昔遊び（竹馬、縄跳び等）　テニス 第8回　昔遊び（竹馬、縄跳び等）　選択種目 第9回　太極拳　太極拳 第10回　実技テスト　実技テスト 屋外の選択種目は、野球orサッカー（希望者が多い方）、陸上、テニス、スラックラインで、自身の希望する種目を練習し、課題に取り組む。 屋外は雨天時、ドッジボール、運動遊び（鬼ごっこ等）から希望種目を実施する。		
予習・復習	体育館およびグラウンドで各課題の練習を行う		
教科書	資料を配布する		
参考書	資料を配布する		
教材	特になし		
履修上の注意	授業は運動のできる服装で受講し、運動靴および体育館シューズの着用を必須とする。また、華美なアクセサリーなど運動にふさわしくない装飾品は外す。 必要に応じて着替え、タオル、水分補給のための飲料水を持参すること。 また、COVID－19の影響により開講されなかった授業に関しては、運動課題の提示とそれに関するレポート課題により対応する。		
成績評価 **(~H29)**	受講態度および実技テストを総合して単位認定を行う。 [A]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得し、体力や技能を向上することができた。 [B]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得することができた。 [C]積極的に運動に親しむことができた。 [D]不可		

	特別な事情がない限り、全授業数の1/3を超える欠席者は単位の認定は行わない。
成績評価 **(H30~)**	受講態度および実技テストを総合して単位認定を行う。 [S]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得し、体力や技能を向上する ことができた。 [A]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得することができた。 [B]積極的に運動に親しむことができた。 [C]運動に親しみ、継続的に取り組むことができた。 [D]不可 特別な事情がない限り、全授業数の1/3を超える欠席者は単位の認定は行わない。
主担当教員	熊谷史佳

令和4年度シラバス

番号	(A4)-04	履修コード	1602Z2
科目名	体育実技（二）	科目英語名	Health and Physical Education 2
科目区分	保健体育科目	授業形態	実技
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン科・工芸科2年次	曜日・時限	金曜7･8限
履修区分	必修	教室	体育館･運動場
単位	1	定員	80名
担当教員	（非常勤）○熊谷史佳・竹井早葉子		
授業概要	受講生が主体となって、様々な運動・スポーツを選択・実践していく過程を通して、生涯にわたるスポーツとの関わり方を学ぶ。		
到達目標	体力の向上を図るとともに、生涯スポーツを継続的に実践するための基礎を習得する。		
授業計画	第1回　オリエンテーション 　授業の進め方、評価の仕方、受講マナーなどを説明する。屋内種目および屋外種目の選択をする。 第２回～第9回 屋内と屋外でスポーツを実施する。 また、生涯スポーツの基礎知識として、ニュースポーツ種目を紹介、実践する。 第10回目　前期まとめ・実技テスト 　前期での活動を振り返り、実技テストとレポート課題を実施する。 実技実施種目は受講生の希望に合わせて実施される。 あくまでも実施例であり、種目、構成等は人数や希望に合わせて変更する。 屋内　　屋外 第1回　オリエンテーション　　オリエンテーション 第2回　体力測定　　野球orサッカー、スラックライン 第3回　バドミントン、バスケットボール　　野球orサッカー、スラックライン 第4回　バドミントン、バスケットボール　　陸上、スラックライン 第5回　バレーボール、卓球　　陸上、スラックライン 第6回　バレーボール、卓球　　テニス 第7回　昔遊び（竹馬、縄跳び等）　　テニス 第8回　昔遊び（竹馬、縄跳び等）　　選択種目 第9回　太極拳　　太極拳 第10回　実技テスト　　実技テスト 屋外の選択種目は、野球orサッカー（希望者が多い方）、陸上、テニス、スラックラインで、自身の希望する種目を練習し、課題に取り組む。 屋外は雨天時、ドッジボール、運動遊び（鬼ごっこ等）から希望種目を実施する。		
予習・復習	体育館およびグラウンドで各課題の練習を行う		
教科書	資料を配布する		
参考書	資料を配布する		
教材	特になし		
履修上の注意	授業は運動のできる服装で受講し、運動靴および体育館シューズの着用を必須とする。また、華美なアクセサリーなど運動にふさわしくない装飾品は外す。 必要に応じて着替え、タオル、水分補給のための飲料水を持参すること。 また、COVID－19の影響により開講されなかった授業に関しては、運動課題の提示とそれに関するレポート課題により対応する。		
成績評価 **(~H29)**	受講態度および実技テストを総合して単位認定を行う。 [A]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得し、体力や技能を向上することができた。 [B]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得することができた。 [C]積極的に運動に親しむことができた。 [D]不可		

	特別な事情がない限り、全授業数の1/3を超える欠席者は単位の認定は行わない。
成績評価 **(H30~)**	受講態度および実技テストを総合して単位認定を行う。 [S]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得し、体力や技能を向上する ことができた。 [A]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得することができた。 [B]積極的に運動に親しむことができた。 [C]運動に親しみ、継続的に取り組むことができた。 [D]不可 特別な事情がない限り、全授業数の1/3を超える欠席者は単位の認定は行わない。
主担当教員	熊谷史佳

令和4年度シラバス

番号	(A4)-05	履修コード	1603Z1
科目名	体育実技（三）	科目英語名	Health and Physical Education 3
科目区分	保健体育科目	授業形態	実技
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻3・4年次	曜日・時限	月曜7･8限
履修区分	自由	教室	体育館･運動場
単位	1	定員	60名
担当教員	（非常勤）熊谷史佳		
授業概要	様々な運動、スポーツの実践を通して、専門的な技術の習得とともに生涯にわたるスポーツとの関わり方を学ぶ。		
到達目標	体力の向上を図るとともに、生涯スポーツを継続的に実践するための基礎を習得する。		
授業計画	第1回　オリエンテーション 授業の進め方、評価の仕方などを説明する。 第2回～第15回 生涯スポーツの基礎知識としてニュースポーツ種目を紹介するとともに、受講生個々の希望種目を実施する。また、運動遊びやニュースポーツに加え、受講生個々の希望に合わせて、運動遊びや、体力レベルにあった筋力トレーニング、陸上競技、トランポリン（学外）、マット運動等を行うこともできる。 受講人数によっては希望種目を実施できない可能性がある。 受講生によって選択された3～4種類の種目をローテーションしながら実施していく。 実施種目の例 屋内：バスケットボール、バレーボール、卓球、バドミントン、ユニバーサルホッケー 屋外：サッカー、ソフトボール、フライングディスク、テニス、ペタンク、スラックライン 実施種目にそって適宜実技テストを実施する。		
予習・復習	体育館およびグラウンドで各課題の練習を行う		
教科書	資料を配布する		
参考書	資料を配布する		
教材	特になし		
履修上の注意	授業は運動のできる服装で受講し、運動靴および体育館シューズの着用を必須とする。また、華美なアクセサリーなど運動にふさわしくない装飾品は外す。 必要に応じて着替え、タオル、水分補給のための飲料水を持参すること。		
成績評価 **(~H29)**	受講態度および実技テストを総合して単位認定を行う。 [A]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得し、体力や技能を向上することができた。 [B]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得することができた。 [C]積極的に運動に親しむことができた。 [D]不可 特別な事情がない限り、全授業数の1/3を超える欠席者は単位の認定は行わない。		
成績評価 **(H30~)**	受講態度および実技テストを総合して単位認定を行う。 [S]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得し、体力や技能を向上することができた。 [A]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得することができた。 [B]積極的に運動に親しむことができた。 [C]運動に親しみ、継続的に取り組むことができた。 [D]不可 特別な事情がない限り、全授業数の1/3を超える欠席者は単位の認定は行わない。		
主担当教員	熊谷史佳		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-01	履修コード	3056Z1・3056Z3
科目名	映像メディア	科目英語名	Visual Expression & Computer Graphics
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	日本画専攻・彫刻専攻1年次	曜日・時限	水曜7･8限
履修区分	必修	教室	映像メディア室
単位	1	定員	30名
担当教員	（非常勤）宮原康展		
授業概要	デジタル一眼レフカメラやデジタルビデオカメラを用いた撮影、コンピュータを利用した映像編集や画像編集を学ぶ。また、コンピュータを活用するための基礎知識と操作方法を習得する。なお、本科目は絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	映像メディアの基礎知識を身につけ、コンピュータを利用して創作活動を行うための基本操作を習得する。		
授業計画	01：MacOS基礎／DTP（デスクトップパブリッシング）基礎 02：DTP概論／DTP実技 03：DTP実技 04：DTP実技／DTP課題提出 05：デジタルイメージ基礎／デジタルイメージ制作 06：デジタルイメージ制作 07：デジタルイメージ制作 08：デジタルイメージ制作／デジタルイメージ課題提出 09：映像概論／企画法／映像課題発表 10：映像撮影基礎／映像編集基礎 11：映像制作ツール基礎 12：音声編集基礎／映像制作 13：映像制作 14：映像制作 15：映像課題提出／講評		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書			
参考書	適宜指示する。		
教材	USBメモリ等の記憶媒体（8GB以上）		
履修上の注意	専攻により、3056以下の履修コードが異なる。日本画Z1、彫刻Z3となる。		
成績評価 (~H29)	課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。		

成績評価 (H30~)	課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [S] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで高いレベルの作品表現に昇華することができる。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。
主担当教員	宮原康展

令和4年度シラバス

番号	(B1)-02	履修コード	3056Z2
科目名	映像メディア	科目英語名	Visual Expression & Computer Graphics
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	油画専攻1年次	曜日・時限	7/5～7/14、１～４限
履修区分	必修	教室	映像メディア室
単位	1	定員	25名
担当教員	（非常勤）宮原康展		
授業概要	デジタル一眼レフカメラやデジタルビデオカメラを用いた撮影、コンピュータを利用した映像編集や画像編集を学ぶ。また、コンピュータを活用するための基礎知識と操作方法を習得する。なお、本科目は絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	映像メディアの基礎知識を身につけ、コンピュータを利用して創作活動を行うための基本操作を習得する。		
授業計画	01：MacOS基礎／DTP（デスクトップパブリッシング）基礎 02：DTP概論／DTP実技 03：DTP実技 04：DTP実技／DTP課題提出 05：デジタルイメージ基礎／デジタルイメージ制作 06：デジタルイメージ制作 07：デジタルイメージ制作 08：デジタルイメージ制作／デジタルイメージ課題提出 09：映像概論／企画法／映像課題発表 10：映像撮影基礎／映像編集基礎 11：映像制作ツール基礎 12：音声編集基礎／映像制作 13：映像制作 14：映像制作 15：映像課題提出／講評		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書			
参考書	適宜指示する。		
教材	USBメモリ等の記憶媒体（8GB以上）		
履修上の注意	専攻により、3056以下の履修コードが異なる。油画Z2、芸術学Z4となる。		
成績評価 (~H29)	課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。		

成績評価 (H30~)	課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [S] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで高いレベルの作品表現に昇華することができる。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。
主担当教員	宮原康展

令和4年度シラバス

番号	(B1)-03	履修コード	3056Z4
科目名	映像メディア	科目英語名	Visual Expression & Computer Graphics
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	芸術学専攻1年次	曜日・時限	6/14〜6/23、1〜4限
履修区分	必修	教室	映像メディア室
単位	1	定員	10名
担当教員	（非常勤）宮原康展		
授業概要	デジタル一眼レフカメラやデジタルビデオカメラを用いた撮影、コンピュータを利用した映像編集や画像編集を学ぶ。また、コンピュータを活用するための基礎知識と操作方法を習得する。なお、本科目は絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	映像メディアの基礎知識を身につけ、コンピュータを利用して創作活動を行うための基本操作を習得する。		
授業計画	01：MacOS基礎／DTP（デスクトップパブリッシング）基礎 02：DTP概論／DTP実技 03：DTP実技 04：DTP実技／DTP課題提出 05：デジタルイメージ基礎／デジタルイメージ制作 06：デジタルイメージ制作 07：デジタルイメージ制作 08：デジタルイメージ制作／デジタルイメージ課題提出 09：映像概論／企画法／映像課題発表 10：映像撮影基礎／映像編集基礎 11：映像制作ツール基礎 12：音声編集基礎／映像制作 13：映像制作 14：映像制作 15：映像課題提出／講評		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書			
参考書	適宜指示する。		
教材	USBメモリ等の記憶媒体（8GB以上）		
履修上の注意	専攻により、3056以下の履修コードが異なる。油画Z2、芸術学Z4となる。		
成績評価 (~H29)	課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。		

成績評価 (H30~)	課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [S] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで高いレベルの作品表現に昇華することができる。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。
主担当教員	宮原康展

令和4年度シラバス

番号	(B1)-04	履修コード	3056Z5
科目名	映像メディア	科目英語名	Visual Expression & Computer Graphics
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	視覚デザイン専攻1年次	曜日・時限	11/24～12/3、1～4限
履修区分	必修	教室	映像メディア室
単位	1	定員	20名
担当教員	（非常勤）宮原康展		
授業概要	デジタル一眼レフカメラやデジタルビデオカメラを用いた撮影、コンピュータを利用した映像編集や画像編集を学ぶ。また、コンピュータを活用するための基礎知識と操作方法を習得する。なお、本科目は絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	映像メディアの基礎知識を身につけ、コンピュータを利用して創作活動を行うための基本操作を習得する。		
授業計画	01：MacOS基礎／DTP（デスクトップパブリッシング）基礎 02：DTP概論／DTP実技 03：DTP実技 04：DTP実技／DTP課題提出 05：デジタルイメージ基礎／デジタルイメージ制作 06：デジタルイメージ制作 07：デジタルイメージ制作 08：デジタルイメージ制作／デジタルイメージ課題提出 09：映像概論／企画法／映像課題発表 10：映像撮影基礎／映像編集基礎 11：映像制作ツール基礎 12：音声編集基礎／映像制作 13：映像制作 14：映像制作 15：映像課題提出／講評		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書			
参考書	適宜指示する。		
教材	USBメモリ等の記憶媒体（8GB以上）		
履修上の注意	専攻により、3056以下の履修コードが異なる。視覚デザイン専攻はZ5となる。		
成績評価 (~H29)	課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。		

成績評価 (H30~)	課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [S] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで高いレベルの作品表現に昇華することができる。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。
主担当教員	宮原康展

令和4年度シラバス

番号	(B1)-05	履修コード	3056Z6
科目名	映像メディア	科目英語名	Visual Expression & Computer Graphics
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	金曜7･8限
履修区分	必修	教室	映像メディア室
単位	1	定員	20名
担当教員	（非常勤）宮原康展		
授業概要	デジタル一眼レフカメラやデジタルビデオカメラを用いた撮影、コンピュータを利用した映像編集や画像編集を学ぶ。また、コンピュータを活用するための基礎知識と操作方法を習得する。なお、本科目は絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	映像メディアの基礎知識を身につけ、コンピュータを利用して創作活動を行うための基本操作を習得する。		
授業計画	01：MacOS基礎／DTP（デスクトップパブリッシング）基礎 02：DTP概論／DTP実技 03：DTP実技 04：DTP実技／DTP課題提出 05：デジタルイメージ基礎／デジタルイメージ制作 06：デジタルイメージ制作 07：デジタルイメージ制作 08：デジタルイメージ制作／デジタルイメージ課題提出 09：映像概論／企画法／映像課題発表 10：映像撮影基礎／映像編集基礎 11：映像制作ツール基礎 12：音声編集基礎／映像制作 13：映像制作 14：映像制作 15：映像課題提出／講評		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書			
参考書	適宜指示する。		
教材	USBメモリ等の記憶媒体（8GB以上）		
履修上の注意	専攻により、3056以下の履修コードが異なる。製品デザイン専攻はZ6となる。		
成績評価 (~H29)	課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。		

成績評価 (H30~)	課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [S] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで高いレベルの作品表現に昇華することができる。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。
主担当教員	宮原康展

令和4年度シラバス

番号	(B1)-06	履修コード	3801Z1
科目名	日本美術史Ⅰ	科目英語名	History of Japanese Art Ⅰ
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	水曜9･10限
履修区分	必修	教室	美大ホール
単位	2	定員	150名
担当教員	水野さや		
授業概要	日本の先史時代から明治時代までの代表的な美術作品の鑑賞を通して、日本における造形美に求められてきた規範性とその変容性について、包括的に把握することが本授業の第一の目的である。また、東アジア美術との造形的および思想的な共通性をも視野に入れた理解を目指す。		
到達目標	本授業の目標は以下の３点である。 （１）日本の美術の歴史や表現の特質について包括的に把握することができること （２）アジア的視座にもとづく日本的造形への意識が形成できること （３）上記（１）・（２）をもとに、それを自身の制作や研究に活かそうとする認識を形成できること		
授業計画	時代ごとに代表的な美術作品を取り上げ、各時代の様式的特徴および技法的な特徴を把握することはもとより、歴史および思想などの制作背景を知り、日本における美意識、造形の伝統を考察する。また、歴代の作品の理解を通して、これから作品を制作する立場に立とうとする者が、制作に際し配慮すべき諸要素とは何かを考えるための端緒ともしたい。 授業中に取り上げる内容は以下の通りである。 1. はじめに 2. 先史 3. 飛鳥時代　ー建築・彫刻・絵画・工芸ー 4. 奈良時代　ー建築・彫刻・絵画・工芸ー 5. 平安時代Ⅰ　ー建築・彫刻ー 6. 平安時代Ⅱ　ー絵画・工芸ー 7. 鎌倉時代Ⅰ　ー建築・彫刻ー 8. 鎌倉時代Ⅱ　ー絵画・工芸ー 9. 室町・桃山時代Ⅰ　ー絵画①ー 10. 室町・桃山時代Ⅱ　ー絵画②ー 11. 室町・桃山時代Ⅲ　ー建築・工芸ー 12. 江戸時代Ⅰ　ー絵画①ー 13. 江戸時代Ⅱ　ー絵画②ー 14. 江戸時代Ⅲ　ー建築・工芸ー 15. 明治時代 【注意事項】 本授業は、対面式での開講を基本とするが、オンラインとなる可能性もある。		
予習・復習	参考書を活用し、様々な作品に広く目を向けようとすること。		
教科書	特になし		
参考書	辻惟雄監修『カラー版　日本美術史』 美術出版社、2002年 『日本美術全集』 講談社、1990～1994年 『日本美術全集』 小学館、2012～2016年		
教材	毎回の授業ノート（レジュメ）は前もって開示する。あらかじめ教員が指示した手順に従い、受講生各自がダウンロードして入手する。		
履修上の注意	毎回の授業は、プロジェクターを用い、画像資料の提示を中心に行う。		
成績評価 (~H29)	[A] 授業内容を理解しようとする高い意識と、目標の十分な到達および課題提出 （自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート） [B] 授業内容を理解しようとする意識と、目標の到達および課題提出 （自らの意見が意欲的にまとめられているレポート）		

	[C] 授業内容の理解度および課題提出 （参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート）
成績評価 (H30~)	[S] 授業内容を理解しようとする高い意識と、より高度レベルでの目標の到達および課題提出 （授業内容の理解・咀嚼の上に、自身の研究分野に引き寄せて深く探求し、高い学術的意識が形成されているレポート） [A] 授業内容を理解しようとする高い意識と、目標の十分な到達および課題提出 （自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート） [B] 授業内容を理解しようとする意識と、目標の到達および課題提出 （自らの意見が意欲的にまとめられているレポート） [C] 授業内容の理解度および課題提出 （参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート）
主担当教員	水野さや

令和4年度シラバス

番号	(B1)-07	履修コード	3802Z1
科目名	日本美術史Ⅱ	科目英語名	History of Japanese Art Ⅱ
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分	教職必修科目（中高美術）	開講学期	後期
入学年度	R4~	毎週・集中	毎週・集中
専攻・年次	美術科・工芸科1年次	曜日・時限	月曜5･6限および集中（後日掲示）
履修区分	必修	教室	美大ホール
単位	2	定員	150名
担当教員	○水野さや　（非常勤）木田拓也・松原　茂		
授業概要	日本美術における絵画、彫刻、工芸・デザインの領域において、歴史的作品の考察を通し、日本における造形美術の特徴を把握する。また、アジア地域の作品との造形的および思想的な共通性・普遍性も視野に入れ、アジア的視座に基づく日本美術の理解を目指す。各領域の代表的な作例を取り上げることにより、造形活動に認められた規則性と変容性の幅を知り、さらに、歴史・思想・外交・コミュニティーなどの制作背景、受容背景にも目を向ける。これにより、歴代の作品の考え方を知ることはもちろん、歴代の名品を通して、これから作品を制作する立場に立とうとする者が、制作に際し配慮すべき諸要素とは何か、考えるための端緒ともしたい。		
到達目標	本授業の目標は、主に以下の３点である。 （１） 日本美術の歴史や表現の特質について総合的に把握することができること （２） アジア的視座にもとづく日本的造形の共通性と特異性を客観視できること （３） 上記（１）・（２）をもとに、それを自身の制作や研究に活かそうとする認識を形成できること		
授業計画	本授業は、日本美術における彫刻、絵画、工芸・デザインの領域において、3名の講師により、全15回の講義を構成する。 1～5. 彫刻　　担当：水野 さや 飛鳥時代、朝鮮半島からの仏教伝播により、日本に新しい芸術のジャンルが創始された。それが仏教美術である。もちろん、仏像はその教理的背景を踏まえて造像される。しかし、そこには日本人特有の立体観・装飾観が常に活かされてきた。このような観点から、飛鳥から鎌倉時代にかけて造立された仏像を概観する。 6～10. 工芸・デザイン　　担当：木田 拓也 明治時代をむかえると、日本は西洋の影響を強く受けたが、そのいっぽうで、工芸家やデザイナーは、日本の歴史的作品や、その源流となったアジア地域の作品を見つめ、それらをよりどころとして日本の新しい工芸・デザインを生み出してきた。造形表現における日本的なものとは何か。明治から現代までの作例を通じて、日本の工芸・デザインにおける日本的なものについて歴史的に概観する。 11～15. 絵画　　担当：松原　茂 中世・近世絵画に用いられている代表的な技法について取り上げ、その表現を概観する。また、近世までの絵画作品は、必ずしも、もとの姿のまま伝世しているとは限らない。姿を変えながら守り継がれてきた、日本の美術作品のあり方についても目を向ける。 【注意事項】 ①第6回～第15回の授業については、集中講義での開講を予定している。集中講義は対面での開講を基本とするが、状況により、オンライン（集中講義形式ないし毎週・時間割通り）となる可能性もある。 ②第1回～第5回の授業については、対面での開講を基本とするが、オンライン（毎週・時間割通り）となる可能性もある。		
予習・復習	各講義において求められるレポートに向け、日頃から準備しておくこと。		
教科書	特になし		
参考書	個別テーマ、時代ごとの参考文献は各講師より適宜指示する。		

教材	毎回の授業ノート（レジュメ）は授業前に開示する。あらかじめ教員が指示した手順に従い、受講生各自がダウンロードして入手する。
履修上の注意	毎回の授業は、プロジェクターを用い、画像資料の提示を中心に行う。
成績評価 **(~H29)**	[A] 授業内容を理解しようとする高い意識と、目標の十分な到達および課題提出 （自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート） [B] 授業内容を理解しようとする意識と、目標の到達および課題提出 （自らの意見が意欲的にまとめられているレポート） [C] 授業内容の理解度および課題提出 （参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート）
成績評価 **(H30~)**	[S] 授業内容を理解しようとする高い意識と、より高度レベルでの目標の到達および課題提出 （授業内容の理解・咀嚼の上に、自身の研究分野に引き寄せて深く探求し、高い学術的意識が形成されているレポート） [A] 授業内容を理解しようとする高い意識と、目標の十分な到達および課題提出 （自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート） [B] 授業内容を理解しようとする意識と、目標の到達および課題提出 （自らの意見が意欲的にまとめられているレポート） [C] 授業内容の理解度および課題提出 （参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート）
主担当教員	水野さや

令和4年度シラバス

番号	(B1)-08	履修コード	3802Z1
科目名	日本美術史Ⅱ	科目英語名	History of Japanese Art Ⅱ
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分	博物館選択科目	開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週・集中
専攻・年次	デザイン科	曜日・時限	月曜5･6限および集中（後日掲示）
履修区分	選択	教室	美大ホール
単位	2	定員	150名
担当教員	○水野さや　（非常勤）木田拓也・松原　茂		
授業概要	日本美術における絵画、彫刻、工芸・デザインの領域において、歴史的作品の考察を通し、日本における造形美術の特徴を把握する。また、アジア地域の作品との造形的および思想的な共通性・普遍性も視野に入れ、アジア的視座に基づく日本美術の理解を目指す。各領域の代表的な作例を取り上げることにより、造形活動に認められた規則性と変容性の幅を知り、さらに、歴史・思想・外交・コミュニティーなどの制作背景、受容背景にも目を向ける。これにより、歴代の作品の考え方を知ることはもちろん、歴代の名品を通して、これから作品を制作する立場に立とうとする者が、制作に際し配慮すべき諸要素とは何か、考えるための端緒ともしたい。		
到達目標	本授業の目標は、主に以下の３点である。 （１） 日本美術の歴史や表現の特質について総合的に把握することができること （２） アジア的視座にもとづく日本的造形の共通性と特異性を客観視できること （３） 上記（１）・（２）をもとに、それを自身の制作や研究に活かそうとする認識を形成できること		
授業計画	本授業は、日本美術における彫刻、絵画、工芸・デザインの領域において、3名の講師により、全15回の講義を構成する。 1～5. 彫刻　　担当：水野 さや 飛鳥時代、朝鮮半島からの仏教伝播により、日本に新しい芸術のジャンルが創始された。それが仏教美術である。もちろん、仏像はその教理的背景を踏まえて造像される。しかし、そこには日本人特有の立体観・装飾観が常に活かされてきた。このような観点から、飛鳥から鎌倉時代にかけて造立された仏像を概観する。 6～10. 工芸・デザイン　　担当：木田 拓也 明治時代をむかえると、日本は西洋の影響を強く受けたが、そのいっぽうで、工芸家やデザイナーは、日本の歴史的作品や、その源流となったアジア地域の作品を見つめ、それらをよりどころとして日本の新しい工芸・デザインを生み出してきた。造形表現における日本的なものとは何か。明治から現代までの作例を通じて、日本の工芸・デザインにおける日本的なものについて歴史的に概観する。 11～15. 絵画　　担当：松原　茂 中世・近世絵画に用いられている代表的な技法について取り上げ、その表現を概観する。また、近世までの絵画作品は、必ずしも、もとの姿のまま伝世しているとは限らない。姿を変えながら守り継がれてきた、日本の美術作品のあり方についても目を向ける。 【注意事項】 ①第6回～第15回の授業については、集中講義での開講を予定している。集中講義は対面での開講を基本とするが、状況により、オンライン（集中講義形式ないし毎週・時間割通り）となる可能性もある。 ②第1回～第5回の授業については、対面での開講を基本とするが、オンライン（毎週・時間割通り）となる可能性もある。		
予習・復習	各講義において求められるレポートに向け、日頃から準備しておくこと。		
教科書	特になし		
参考書	個別テーマ、時代ごとの参考文献は各講師が適宜指示する。		

教材	毎回の授業ノート（レジュメ）は授業前に開示する。あらかじめ教員が指示した手順に従い、受講生各自がダウンロードして入手する。
履修上の注意	毎回の授業は、プロジェクターを用い、画像資料の提示を中心に行う。
成績評価 **(~H29)**	[A] 授業内容を理解しようとする高い意識と、目標の十分な到達および課題提出 （自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート） [B] 授業内容を理解しようとする意識と、目標の到達および課題提出 （自らの意見が意欲的にまとめられているレポート） [C] 授業内容の理解度および課題提出 （参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート）
成績評価 **(H30~)**	[S] 授業内容を理解しようとする高い意識と、より高度レベルでの目標の到達および課題提出 （授業内容の理解・咀嚼の上に、自身の研究分野に引き寄せて深く探求し、高い学術的意識が形成されているレポート） [A] 授業内容を理解しようとする高い意識と、目標の十分な到達および課題提出 （自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート） [B] 授業内容を理解しようとする意識と、目標の到達および課題提出 （自らの意見が意欲的にまとめられているレポート） [C] 授業内容の理解度および課題提出 （参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート）
主担当教員	水野さや

令和4年度シラバス

番号	(B1)-09	履修コード	3802Z1
科目名	日本美術史Ⅱ	科目英語名	History of Japanese Art Ⅱ
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分	教職必修科目（中高美術）	開講学期	後期
入学年度	~R3	毎週・集中	毎週・集中
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	月曜5･6限および集中（後日掲示）
履修区分	選択	教室	美大ホール
単位	2	定員	150名
担当教員	○水野さや　（非常勤）木田拓也・松原　茂		
授業概要	日本美術における絵画、彫刻、工芸・デザインの領域において、歴史的作品の考察を通し、日本における造形美術の特徴を把握する。また、アジア地域の作品との造形的および思想的な共通性・普遍性も視野に入れ、アジア的視座に基づく日本美術の理解を目指す。各領域の代表的な作例を取り上げることにより、造形活動に認められた規則性と変容性の幅を知り、さらに、歴史・思想・外交・コミュニティーなどの制作背景、受容背景にも目を向ける。これにより、歴代の作品の考え方を知ることはもちろん、歴代の名品を通して、これから作品を制作する立場に立とうとする者が、制作に際し配慮すべき諸要素とは何か、考えるための端緒ともしたい。		
到達目標	本授業の目標は、主に以下の３点である。 （１） 日本美術の歴史や表現の特質について総合的に把握することができること （２） アジア的視座にもとづく日本的造形の共通性と特異性を客観視できること （３） 上記（１）・（２）をもとに、それを自身の制作や研究に活かそうとする認識を形成できること		
授業計画	本授業は、日本美術における彫刻、絵画、工芸・デザインの領域において、3名の講師により、全15回の講義を構成する。 1～5. 彫刻　　担当：水野 さや 飛鳥時代、朝鮮半島からの仏教伝播により、日本に新しい芸術のジャンルが創始された。それが仏教美術である。もちろん、仏像はその教理的背景を踏まえて造像される。しかし、そこには日本人特有の立体観・装飾観が常に活かされてきた。このような観点から、飛鳥から鎌倉時代にかけて造立された仏像を概観する。 6～10. 工芸・デザイン　　担当：木田 拓也 明治時代をむかえると、日本は西洋の影響を強く受けたが、そのいっぽうで、工芸家やデザイナーは、日本の歴史的作品や、その源流となったアジア地域の作品を見つめ、それらをよりどころとして日本の新しい工芸・デザインを生み出してきた。造形表現における日本的なものとは何か。明治から現代までの作例を通じて、日本の工芸・デザインにおける日本的なものについて歴史的に概観する。 11～15. 絵画　　担当：松原　茂 中世・近世絵画に用いられている代表的な技法について取り上げ、その表現を概観する。また、近世までの絵画作品は、必ずしも、もとの姿のまま伝世しているとは限らない。姿を変えながら守り継がれてきた、日本の美術作品のあり方についても目を向ける。 【注意事項】 ①第6回～第15回の授業については、集中講義での開講を予定している。集中講義は対面での開講を基本とするが、状況により、オンライン（集中講義形式ないし毎週・時間割通り）となる可能性もある。 ②第1回～第5回の授業については、対面での開講を基本とするが、オンライン（毎週・時間割通り）となる可能性もある。		
予習・復習	各講義において求められるレポートに向け、日頃から準備しておくこと。		
教科書	特になし		
参考書	個別テーマ、時代ごとの参考文献は各講師が適宜指示する。		

教材	毎回の授業ノート（レジュメ）は授業前に開示する。あらかじめ教員が指示した手順に従い、受講生各自がダウンロードして入手する。
履修上の注意	毎回の授業は、プロジェクターを用い、画像資料の提示を中心に行う。
成績評価 **(~H29)**	[A] 授業内容を理解しようとする高い意識と、目標の十分な到達および課題提出 （自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート） [B] 授業内容を理解しようとする意識と、目標の到達および課題提出 （自らの意見が意欲的にまとめられているレポート） [C] 授業内容の理解度および課題提出 （参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート）
成績評価 **(H30~)**	[S] 授業内容を理解しようとする高い意識と、より高度レベルでの目標の到達および課題提出 （授業内容の理解・咀嚼の上に、自身の研究分野に引き寄せて深く探求し、高い学術的意識が形成されているレポート） [A] 授業内容を理解しようとする高い意識と、目標の十分な到達および課題提出 （自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート） [B] 授業内容を理解しようとする意識と、目標の到達および課題提出 （自らの意見が意欲的にまとめられているレポート） [C] 授業内容の理解度および課題提出 （参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート）
主担当教員	水野さや

令和4年度シラバス

番号	(B1)-10	履修コード	3002Z1
科目名	美術解剖学	科目英語名	Artistic Anatomy
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科（芸術学専攻除く）1年次	曜日・時限	金曜5･6限
履修区分	必修	教室	第１教室
単位	2	定員	100名
担当教員	（非常勤）尾﨑紀之		
授業概要	人体を生き生きと表現するために、表面から観察できる人体の外部構造や動きと、それらの基盤となる内部構造との関係（肉眼解剖学）や、人体の構造の由来（比較解剖学・発生学）を概説する。 人体の構造を系統的に概説する講義と、構造を理解するための骨格標本のスケッチを行う。		
到達目標	人体についての洞察力と表現力を身につけるための基盤となる人体の構造を理解する。		
授業計画	第１回　　美術解剖学概論・ガイダンス　美術解剖学の目的、その歴史、人体の一般的特徴、講義の概要・予定について説明。 第２回　　骨学総論、脊柱 第３回　　筋学総論、頚部の構造 第４回　　胸郭・胸部の構造 第５回　　背部・腹部の構造 第６回　　腰部、臀部、骨盤の構造 第７回　　肩・上腕の構造 第８回　　肘・前腕・手の構造 第９回　　大腿・膝の構造 第１０回　下腿・足の構造 第１１回　頭蓋骨 第１２回　頭部の筋 第１３回　感覚器系：外皮、視覚器、平衡聴覚器、嗅覚器、味覚器の構造 第１４回　中枢神経系–脳と脊髄、末梢神経系–脳・脊髄神経と自律神経 第１５回　まとめ・復習 ・上記の講義内容は進行状況によって変更する場合がある。 ・講義のテーマに沿って人体骨格標本の観察とスケッチをする機会をもうける。		
予習・復習	講義をした箇所に関しては，自分の身体で確認するなどして復習をすること。		
教科書	特になし。		
参考書	『アーティストのための美術解剖学』（ヴァレリー・L・ウィンスロー著、宮永美知代（訳）マール社、2013年、3240円） 『入門美術解剖学』（高橋彬著、医歯薬出版、2003年、3800円） 『やさしい美術解剖図』（J・シェパード著、マール社、1980年、1450円） 『An Atlas of Anatomy for Artists』（Fritz Schider、Dover社、1957年、1367円） 『からだの地図帳』（佐藤達夫監修・解説、講談社、4320円） （大手の書店あるいはAmazon（http://www.amazon.co.jp）等で購入は可能		
教材	配付プリント		
履修上の注意	講義での配布資料をしっかりと読んで、スケッチに構造物の名称をしっかりと記入すること。		
成績評価 (~H29)	受講態度、骨学のスケッチ、レポートと期末試験とを総合して単位認定を行う。 [A]表現の対象としての人体に関する視野を広げ、人体の外部構造や働きとその基盤となる内部構造との関係を高いレベルで理解することができた。 [B]表現の対象としての人体に関する視野を広げ、人体の外部構造や働きとその基盤となる内部構造との関係を理解することができた。 [C]表現の対象としての人体に関する視野を広げることができた。		
成績評価 (H30~)	受講態度、骨学のスケッチ、レポートと期末試験とを総合して単位認定を行う。 [S]表現の対象としての人体に関する視野を広げ、人体の外部構造や働きとその基盤となる内部構造との関係を特に秀でたレベルで理解することができた。 [A]表現の対象としての人体に関する視野を広げ、人体の外部構造や働きとその基盤となる内部構造との関係を高いレベルで理解することができた。 [B]表現の対象としての人体に関する視野を広げ、人体の外部構造や働きとその基盤となる内部構造との関係を理解することができた。 [C]表現の対象としての人体に関する視野を広げることができた。		
主担当教員	尾﨑紀之		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-11	履修コード	3057Z1
科目名	東洋美術史Ⅰ	科目英語名	History of Oriental Art Ⅰ
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	水曜9･10限
履修区分	必修	教室	美大ホール
単位	2	定員	150名
担当教員	水野さや		
授業概要	中国の商（殷）から清代、韓国の三国から朝鮮時代までの代表的な美術作品を概観し、東アジアにおける造形美に求められてきた規範性とその変容について、包括的に把握することが本授業の第一の目的である。また、日本美術との造形的および思想的な共通性をも視野に入れた理解を目指す。		
到達目標	本授業の目標は、以下の３点である。 （１）東アジアの美術の歴史や表現の特質について包括的に把握することができること （２）アジア的視座にもとづく日本的造形への意識が形成できること （３）上記（１）・（２）をもとに、それを自身の制作や研究に活かそうとする認識を形成できること		
授業計画	中国・韓国における歴代の代表的な美術作品を取り上げ、各時代の様式的特徴および技法的な特徴を把握することはもとより、歴史および思想などの制作背景を知り、東アジアにおける美意識、造形の伝統を考察する。また、東アジアの作品理解を通して、これから作品を制作する立場に立とうとする者が、制作に際し配慮すべき諸要素とは何か、考えるための端緒ともしたい。 各回のテーマは以下の通りである。 １．　中国　商（殷）・周 ２．　中国　秦・漢 ３．　中国　魏晋南北朝Ⅰ　－工芸①－ ４．　中国　魏晋南北朝Ⅱ　－仏教美術①－ ５．　中国　唐Ⅰ　－仏教美術②－ ６．　中国　唐Ⅱ　－工芸②－ ７．　中国　唐Ⅲ　－絵画①－ ８．　中国　北宋・南宋Ⅰ　－絵画②－ ９．　中国　遼・金・北宋・南宋Ⅱ　－工芸③－ 10．　中国　元・明・清Ⅰ　－絵画③－ 11．　中国　元・明・清Ⅱ　－建築－ 12．　韓国Ⅰ　－三国時代の絵画・工芸－ 13．　韓国Ⅱ　－三国・統一新羅・高麗・朝鮮時代の仏教美術－ 14．　韓国Ⅲ　－高麗・朝鮮時代の絵画・工芸－ 15．　韓国Ⅳ　－建築－ 【注意事項】 本授業は、対面式での開講を基本とするが、オンラインとなる可能性もある。		
予習・復習	参考書を活用し、様々な作品に広く目を向けようとすること。 学期末のレポートに向け、日頃から準備しておくこと。		
教科書	特になし		
参考書	・朴亨國監修『東洋美術史』武蔵野美術大学出版局、2016年 ・前田耕作監修『カラー版 東洋美術史』美術出版社、2012年（増補新装版） ・『世界美術大全集』東洋編、小学館、1997～1999年 １　先史・殷・周、２　秦・漢、３　三国・南北朝、４　隋・唐、 ５　五代・北宋・遼・西夏、６　南宋・金、７　元、８　明、９　清、 10　高句麗・百済・新羅・高麗、11　朝鮮王朝		

教材	毎回の授業ノート（レジュメ）は授業前に開示する。あらかじめ教員が指示した手順に従い、受講生各自がダウンロードして入手する。
履修上の注意	毎回の授業は、プロジェクターを用い、画像資料の提示を中心に行う。
成績評価 **(~H29)**	[A] 授業内容を理解しようとする高い意識と、目標の十分な到達および課題提出 （自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート） [B] 授業内容を理解しようとする意識と、目標の到達および課題提出 （自らの意見が意欲的にまとめられているレポート） [C] 授業内容の理解度および課題提出 （参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート）
成績評価 **(H30~)**	[S] 授業内容を理解しようとする高い意識と、より高度レベルでの目標の到達および課題提出 （授業内容の理解・咀嚼の上に、自身の研究分野に引き寄せて深く探求し、高い学術的意識が形成されているレポート） [A] 授業内容を理解しようとする高い意識と、目標の十分な到達および課題提出 （自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート） [B] 授業内容を理解しようとする意識と、目標の到達および課題提出 （自らの意見が意欲的にまとめられているレポート） [C] 授業内容の理解度および課題提出 （参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート）
主担当教員	水野さや

令和4年度シラバス

番号	(B1)-12	履修コード	3058Z1
科目名	東洋美術史Ⅱ	科目英語名	History of Oriental Art Ⅱ
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週・集中
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	火曜7･8限および集中（後日掲示）
履修区分	必修	教室	美大ホール
単位	2	定員	70名
担当教員	○水野さや　（非常勤）平岡三保子・山本 緑		
授業概要	古代より様々な文化が開化したインドは、東南アジアの諸王朝に圧倒的な影響力を及ぼし、いわゆる「インド化」された文化圏を形成してきた。仏教、ヒンドゥー、イスラームなど、宗教美術においても複雑な様相を呈しているにもかかわらず、その全てが「インド的」とくくられるほど、一貫した造形の美意識を持ち合わせている。本講義は、インドおよび東南アジアの諸国について、建築、彫刻、絵画の代表作を紹介取り上げ、造形作品の流れを概観する。		
到達目標	本授業の目標は、以下の３点である。 （１） インド・東南アジアにおける造形作品について、思想や風土を踏まえながら、その特徴を包括的に把握することができること （２） アジア的な造形的・美的価値についての意識が形成できること （３） 上記（１）・（２）をもとに、それを自身の制作や研究に活かそうとする認識を形成できること		
授業計画	本授業は、南アジア・東南アジア美術における彫刻・絵画・建築の３分野について、３名の講師により、全15回の講義を構成する。 1〜5. インドの絵画　　担当：山本　緑 イスラーム王朝であるムガール朝においては、他宗教に寛容な政策をとったムガール皇帝により、王の肖像画をはじめとし、イスラームのみならず、ヒンドゥーの物語をも題材とする多様な細密画（ミニアチュール）が制作された。ペルシャ出身の画家とインドの画家との共同制作や、西洋画の技法も取り入れるなど、実に多彩な宮廷絵画を生み出している。このようなムガール朝のミニアチュールについて、構図・賦彩・配色などの技法的特徴とその主題を中心に、代表的な作例を取り上げながら考察する。 6〜10. インドの建築と彫刻　　担当：平岡三保子 アジャンターおよびエローラ石窟など、インドには数多くの石窟寺院が現存している。寺院建築そのものを岩盤から丸ごと彫り出したかのような空間形成のあり方、壁面一面に彫り出され建築の一部として機能する彫像、彫刻とともにその空間の意味を決定づける壁画など、見所は多い。このようなインドの石窟寺院の諸美術について、建築、彫刻、壁画の技法的特徴とその主題を中心に、代表的な作例を取り上げて考察する。 11〜15. 東南アジアの彫刻と建築　　担当：水野さや クメールのアンコール王朝は、12世紀には東南アジア半島部における広大な版図を獲得し、その後のタイの諸王朝にも大きな影響を残した。アンコール朝は早くからインド文化を受け入れ、ヒンドゥーも仏教と並び信仰されており、アンコール・ワットやバイヨン寺院などに代表される様々な宗教建築が建造され続けてきた。アンコール王朝の歴史に沿って、歴代の建造物と彫刻を概観し、ヒンドゥーの神々および仏教にもとづく造形の特徴とその変容について確認する。 【注意事項】 ①第1回〜第10回の授業については、集中講義での開講を予定している。集中講義は対面での開講を基本とするが、状況により、オンライン（集中講義形式ないし毎週・時間割通り）となる可能性もある。 ②第11回〜第15回の授業については、対面での開講を基本とするが、オンライン（毎週・時間割通り）となる可能性もある。		
予習・復習	参考書に目を通しておくこと。 各講義において求められるレポートに向け、日頃から準備しておくこと。		
教科書	特になし		

参考書	・朴亨國監修『東洋美術史』武蔵野美術大学出版局、2016年 ・前田耕作監修『カラー版 東洋美術史』美術出版社、2012年（増補新装版） ・『世界美術大全集』東洋編、小学館、1997～1999年 12 東南アジア、13 インド（１）、14 インド（２）
教材	毎回の授業ノート（レジュメ）は授業前に開示する。あらかじめ教員が指示した手順に従い、受講生各自がダウンロードして入手する。
履修上の注意	毎回の授業は、画像資料の提示を中心に行う。
成績評価 **(~H29)**	[A] 授業内容を理解しようとする高い意識と、目標の十分な到達および課題提出 （自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート） [B] 授業内容を理解しようとする意識と、目標の到達および課題提出 （自らの意見が意欲的にまとめられているレポート） [C] 授業内容の理解度および課題提出 （参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート）
成績評価 **(H30~)**	[S] 授業内容を理解しようとする高い意識と、より高度レベルでの目標の到達および課題提出 （授業内容の理解・咀嚼の上に、自身の研究分野に引き寄せて深く探求し、高い学術的意識が形成されているレポート） [A] 授業内容を理解しようとする高い意識と、目標の十分な到達および課題提出 （自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート） [B] 授業内容を理解しようとする意識と、目標の到達および課題提出 （自らの意見が意欲的にまとめられているレポート） [C] 授業内容の理解度および課題提出 （参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート）
主担当教員	水野さや

令和4年度シラバス

番号	(B1)-13	履修コード	3804Z2
科目名	西洋美術史Ⅰ	科目英語名	History of Western Art Ⅰ
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	金曜7･8限
履修区分	必修	教室	美大ホール
単位	2	定員	150名
担当教員	保井亜弓		
授業概要	先史・古代から２０世紀前半までの西洋美術の歴史を概観し、画像等による作品鑑賞をとおして、幅広い知識と表現の特質に対する理解を深め、美術理論の基礎についても学ぶ。なお本科目は教員免許取得のために必要な一般的包括的科目である。		
到達目標	西洋美術の歴史における基準作例を理解するとともに、その特徴を客観的かつ適切に記述し解説できる力を身につける。		
授業計画	１、古代ギリシャとローマ ２、初期キリスト教と初期中世 ３、ロマネスtクとゴシック ４、初期ルネサンス１ ５、初期ルネサンス２ ６、南北ヨーロッパの新しい美術（人間像を中心として） ７、盛期ルネサンスとマニエリスム ８、バロック ９、新古典主義とロマン主義 10、レアリスム、バルビゾン派 11、近代の始まり−マネ 12、印象派とポスト印象派 13、キュビスムとフォービスム 14、ダダとシュルレアリスム 15、バウハウス		
予習・復習	予習および復習として、参考書や美術全集の図版と解説に目を通すこと。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	高階秀爾監修『カラー版西洋美術史』（美術出版社、1900円）		
教材	配布資料等。		
履修上の注意	毎回、講義で扱った内容や作品についてのリアクションペーパーを提出する。		
成績評価 (~H29)	学期末レポート50% 授業リアクションペーパー（毎回）および課題（随時）50% [A]授業内容を高度に理解し、自分の意見を述べて、それを応用することができる。 [B]授業内容を理解し、自分の意見を述べることができる。 [C]授業内容を理解できている。		
成績評価 (H30~)	学期末レポート50% 授業リアクションペーパー（毎回）および課題（随時）50% [S]授業内容を高度に理解し、とくに優れた自己の意見を出すことができ、それを広く応用できる。 [A]授業内容を高度に理解し、自分の意見を述べて、応用することができる。 [B]授業内容を理解し、自分の意見を述べることができる。 [C]授業内容を理解できている。		
主担当教員	保井亜弓		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-14	履修コード	3805Z1
科目名	西洋美術史Ⅱ	科目英語名	History of Western Art Ⅱ
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週（集中含む）
専攻・年次	美術科2年次	曜日・時限	金曜5･6限
履修区分	必修	教室	第１教室
単位	2	定員	90名
担当教員	○保井亜弓　（非常勤）木下亮・鯖江秀樹		
授業概要	西洋美術史Ⅰで学んだ基礎知識をもとに、さまざまなテーマを設定して作品を見ることによって西洋美術史をより深く学ぶ。		
到達目標	講義で扱った作品について、適切に解説・記述することができる。テーマに即して議論できる。		
授業計画	テーマによる西洋美術史（保井担当） １、図像学的見方 ２、肖像 ３、風景画 ４、静物画 ５、鏡－映りこんだ世界と象徴 テーマによる西洋美術史 テーマによる西洋美術史 １（木下亮）（集中） １、ハプスブルク家と宮廷美術（ベラスケスを中心に） ２、ブルボン家の宮廷美術と独立戦争（ゴヤを中心に） ３、バルセロナのムダルニズマ（初期ピカソを中心に） ４、内戦後のスペイン美術（アントニオ・ロペスを中心に） ５．スペインとリアリズム（磯江毅を中心に） 上記のテーマを5回に分けて行う。 ２　（鯖江秀樹）（集中） 近代の美術について、その枠組みや制度から論じる。 １　美術館の誕生 ２　油彩画の修復 ３　写真とモニュメント 上記のテーマを5回に分けて行う。 集中講義については、調整期間中に行う。		
予習・復習	参考書や美術全集によって基本作品の表現の特徴と、作者、年代、主題、技法等のデータを確実に記憶すること。		
教科書	特になし。		
参考書	『カラー版西洋美術史』美術出版社　2003年、『西洋美術館』小学館 1999年		
教材	必要に応じて配布する。		

履修上の注意	集中講義を含むため掲示等に注意すること。関連する作品を図書・図録などで調べること。毎回リアクションペーパーを課す（保井担当分）。
成績評価 **(~H29)**	学期末レポート50%、授業リアクションペーパー（保井担当毎回）30%、授業における積極性20% [A]授業内容を高度に理解し、自分の意見を述べて、それを応用することができる。 [B]授業内容を理解し、自分の意見を述べることができる。 [C]授業内容を理解できている。
成績評価 **(H30~)**	学期末レポート50% 授業リアクションペーパー（保井担当分）30%，授業における積極性20% [S]授業内容を高度に理解し、とくに優れた自己の意見を出すことができ、それを広く応用できる。 [A]授業内容を高度に理解し、自分の意見を述べて、応用することができる。 [B]授業内容を理解し、自分の意見を述べることができる。 [C]授業内容を理解できている。
主担当教員	保井亜弓

令和4年度シラバス

番号	(B1)-15	履修コード	3805Z1
科目名	西洋美術史Ⅱ	科目英語名	History of Western Art Ⅱ
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分	博物館選択科目	開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週 （集中含む）
専攻・年次	デザイン科・工芸科2年次	曜日・時限	金曜5･6限
履修区分	選択	教室	第１教室
単位	2	定員	90名
担当教員	○保井亜弓　（非常勤）木下亮・鯖江秀樹		
授業概要	西洋美術史Ⅰで学んだ基礎知識をもとに、さまざまなテーマを設定して作品を見ることによって西洋美術史をより深く学ぶ。		
到達目標	講義で扱った作品について、適切に解説・記述することができる。テーマに即して議論できる。		
授業計画	テーマによる西洋美術史（保井担当） １、図像学的見方 ２、肖像 ３、風景画 ４、静物画 ５、鏡ー映りこんだ世界と象徴 テーマによる西洋美術史 テーマによる西洋美術史 １（木下亮）（集中） １、ハプスブルク家と宮廷美術（ベラスケスを中心に） ２、ブルボン家の宮廷美術と独立戦争（ゴヤを中心に） ３、バルセロナのムダルニズマ（初期ピカソを中心に） ４、内戦後のスペイン美術（アントニオ・ロペスを中心に） ５．スペインとリアリズム（磯江毅を中心に） 上記のテーマを5回に分けて行う。 ２　（鯖江秀樹）（集中） 近代の美術について、その枠組みや制度から論じる。 １　美術館の誕生 ２　油彩画の修復 ３　写真とモニュメント 上記のテーマを5回に分けて行う。 集中講義については、調整期間中に行う。		
予習・復習	参考書や美術全集によって基本作品の表現の特徴と、作者、年代、主題、技法等のデータを確実に記憶すること。		
教科書	特になし。		
参考書	『カラー版西洋美術史』美術出版社　2003年、『西洋美術館』小学館 1999年		
教材	必要に応じて配布する。		
履修上の注意	集中講義を含むため掲示等に注意すること。関連する作品を図書・図録などで調べること。毎回メモを課す（保井担当分）。		

成績評価 (~H29)	学期末レポート50%、授業リアクションペーパー（保井担当毎回）30%、授業における積極性20% [A]授業内容を高度に理解し、自分の意見を述べて、それを応用することができる。 [B]授業内容を理解し、自分の意見を述べることができる。 [C]授業内容を理解できている。
成績評価 (H30~)	学期末レポート50% 授業リアクションペーパー（保井担当分）30%, 授業における積極性20% [S]授業内容を高度に理解し、とくに優れた自己の意見を出すことができ、それを広く応用できる。 [A]授業内容を高度に理解し、自分の意見を述べて、応用することができる。 [B]授業内容を理解し、自分の意見を述べることができる。 [C]授業内容を理解できている。
主担当教員	保井亜弓

令和4年度シラバス

番号	(B1)-16	履修コード	3805Z1
科目名	西洋美術史Ⅱ	科目英語名	History of Western Art Ⅱ
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分	教職必修科目（中高美術）	開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週（集中含む）
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	金曜5･6限
履修区分	選択	教室	第１教室
単位	2	定員	90名
担当教員	○保井亜弓　（非常勤）木下亮・鯖江秀樹		
授業概要	西洋美術史Ⅰで学んだ基礎知識をもとに、さまざまなテーマを設定して作品を見ることによって西洋美術史をより深く学ぶ。		
到達目標	講義で扱った作品について、適切に解説・記述することができる。テーマに即して議論できる。		
授業計画	テーマによる西洋美術史（保井担当） １、図像学的見方 ２、肖像 ３、風景画 ４、静物画 ５、鏡ー映りこんだ世界と象徴 テーマによる西洋美術史 テーマによる西洋美術史 １（木下亮）（集中） １、ハプスブルク家と宮廷美術（ベラスケスを中心に） ２、ブルボン家の宮廷美術と独立戦争（ゴヤを中心に） ３、バルセロナのムダルニズマ（初期ピカソを中心に） ４、内戦後のスペイン美術（アントニオ・ロペスを中心に） ５．スペインとリアリズム（磯江毅を中心に） 上記のテーマを5回にわけて行う。 ２　（鯖江秀樹）（集中） 近代の美術について、その枠組みや制度から論じる。 １　美術館の誕生 ２　油彩画の修復 ３　写真とモニュメント 上記のテーマを5回に分けて行う。 集中講義については、調整期間中に行う。		
予習・復習	参考書や美術全集によって基本作品の表現の特徴と、作者、年代、主題、技法等のデータを確実に記憶すること。		
教科書	特になし。		
参考書	『カラー版西洋美術史』美術出版社　2003年、『西洋美術館』小学館 1999年		
教材	必要に応じて配布する。		
履修上の注意	集中講義を含むため掲示等に注意すること。関連する作品を図書・図録などで調べること。毎回メモを課す（保井担当分）。		

成績評価 (~H29)	学期末レポート50%、授業リアクションペーパー（保井担当毎回）30%、授業における積極性20% [A]授業内容を高度に理解し、自分の意見を述べて、それを応用することができる。 [B]授業内容を理解し、自分の意見を述べることができる。 [C]授業内容を理解できている。
成績評価 (H30~)	学期末レポート50% 授業リアクションペーパー（保井担当分）30%, 授業における積極性20% [S]授業内容を高度に理解し、とくに優れた自己の意見を出すことができ、それを広く応用できる。 [A]授業内容を高度に理解し、自分の意見を述べて、応用することができる。 [B]授業内容を理解し、自分の意見を述べることができる。 [C]授業内容を理解できている。
主担当教員	保井亜弓

令和4年度シラバス

番号	(B1)-17	履修コード	3880Z1
科目名	彫刻Ⅰ	科目英語名	Sculpture Ⅰ
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	日本画専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	事前連絡
単位	1	定員	25名
担当教員	○土井宏二・浜田周		
授業概要	人物塑像の制作を通して美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。素材に対する基礎的な理解を深め、用具等の安全な取り扱い方を習得する。素材を生かした各自の表現方法を探り、その魅力を発見するとともに、彫刻に内在する量塊、量感、空間、質感、均衡、比例など造形の諸要素や、表現の多様性について理解を図る。なお、本科目は彫刻分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	塑像の制作を通して、モデリング技法の基本を習得する。また彫刻が持つ独自の美しさを体感するとともに造形の原理について理解する。		
授業計画	内容：モデルに対する徹底した観察を基に、人物像（首像）を制作する。 １　概説および課題説明 ・彫刻の種類（彫造、塑造、その他）およびその特性 ・表現の多様性について ・造形の諸要素について ２　クロッキーおよびデッサンによるモデルの把握 ・モデルを様々な角度から観察し人体の構造やフォルムの美しさを探る。 ・クロッキーを通して本制作のためのイメージを探る。 ・立体感や量感を意識して彫刻としてのデッサンを追求する。 ・各自の表現テーマを探る。 ３　芯棒作り ・人体に内在する構築性や動勢を読み取り、中心軸を意識した芯棒を制作する。 ４　塑造による制作 ・粘土の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 ・量感と面を意識して荒付けを行う。 ・全体のバランスを保ちながら細部の作り込みを行う。 ・土付けによる質感の工夫をする。 ・全体の調子を整えながら仕上げる。 ５　合評 ・完成作品について各自の制作意図や反省点を述べあい制作の深化を図る。 ・作品の鑑賞を通して、その良さを発見し味わう。 （１から５は授業の進行を示す）		
予習・復習	授業の前に美大図書館等で彫刻作品や彫刻家の資料によって表現の多様性について研究をすること。また、自分や身近な人物のデッサン、クロッキーを行い、人体について理解を深めること。その他授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	実習費自己負担。汚れてもよい服装を着用すること。モデル使用中の入退室は禁止。 専攻により、3880以下の履修コードが異なる。日本画専攻はZ1、油画専攻はZ2。		
成績評価 **(~H29)**	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
成績評価 **(H30~)**	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [S]彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
主担当教員	土井宏二		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-18	履修コード	3880Z2
科目名	彫刻Ⅰ	科目英語名	Sculpture Ⅰ
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	油画専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	事前連絡
単位	1	定員	25名
担当教員	○土井宏二・浜田周　（非常勤）渡辺秀亮		
授業概要	人物塑像の制作を通して美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。素材に対する基礎的な理解を深め、用具等の安全な取り扱い方を習得する。素材を生かした各自の表現方法を探り、その魅力を発見するとともに、彫刻に内在する量塊、量感、空間、質感、均衡、比例など造形の諸要素や、表現の多様性について理解を図る。なお、本科目は彫刻分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	塑像の制作を通して、モデリング技法の基本を習得する。また彫刻が持つ独自の美しさを体感するとともに造形の原理について理解する。		
授業計画	内容：モデルに対する徹底した観察を基に、人物像（首像）を制作する。 １　概説および課題説明 ・彫刻の種類（彫造、塑造、その他）およびその特性 ・表現の多様性について ・造形の諸要素について ２　クロッキーおよびデッサンによるモデルの把握 ・モデルを様々な角度から観察し人体の構造やフォルムの美しさを探る。 ・クロッキーを通して本制作のためのイメージを探る。 ・立体感や量感を意識して彫刻としてのデッサンを追求する。 ・各自の表現テーマを探る。 ３　芯棒作り ・人体に内在する構築性や動勢を読み取り、中心軸を意識した芯棒を制作する。 ４　塑造による制作 ・粘土の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 ・量感と面を意識して荒付けを行う。 ・全体のバランスを保ちながら細部の作り込みを行う。 ・土付けによる質感の工夫をする。 ・全体の調子を整えながら仕上げる。 ５　合評 ・完成作品について各自の制作意図や反省点を述べあい制作の深化を図る。 ・作品の鑑賞を通して、その良さを発見し味わう。 （１から５は授業の進行を示す）		
予習・復習	授業の前に美大図書館等で彫刻作品や彫刻家の資料によって表現の多様性について研究をすること。また、自分や身近な人物のデッサン、クロッキーを行い、人体について理解を深めること。その他授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	実習費自己負担。汚れてもよい服装を着用すること。モデル使用中の入退室は禁止。 専攻により、3880以下の履修コードが異なる。日本画専攻はZ1、油画専攻はZ2。		
成績評価 **(~H29)**	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
成績評価 **(H30~)**	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [S]彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
主担当教員	土井宏二		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-19	履修コード	3881Z1
科目名	彫刻Ⅱ	科目英語名	Sculpture Ⅱ
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	日本画専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	事前連絡
単位	1	定員	25名
担当教員	○石田陽介・芝山昌也　（非常勤）林一平		
授業概要	木彫の制作を通して美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。素材に対する基礎的な理解を深め、用具等の安全な取り扱い方を習得する。素材を生かした各自の表現方法を探り、その魅力を発見するとともに、彫刻に内在する量塊、量感、空間、質感、均衡、比例など造形の諸要素や、表現の多様性について理解を図る。なお、本科目は彫刻分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	木彫の制作を通して、カービング技法の基本を習得する。また彫刻が持つ独自の美しさを体感するとともに造形の原理について理解する。		
授業計画	内容：各自の主題に基づく木彫制作 １　概説および課題説明 ・彫刻の種類（彫造、塑造、その他）およびその特性 ・表現の多様性について ・造形の諸要素について ・素材や技術、道具についての説明 ・各自の主題決定 ２　自然観察を基本に主題に基づくデッサンおよびイメージ作り ３　イメージの造形化 ４　木彫による制作 ・木の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 ・材料を有効に使えるように墨入れをする。 ・作品のイメージを大切にして荒取りする。 ・量感と面を意識して粗彫りを行う。 ・全体のバランスを保ちながら細部の作り込みを行う。 ・鑿あと等による質感の工夫をする。 ・全体の調子を整えながら仕上げる。 ・作品の効果を考え必要に応じて着色する。 ５　合評 ・完成作品について各自の制作意図や反省点を述べあい制作の深化を図る。 ・作品の鑑賞を通して、その良さを発見し味わう。 （１から５は授業の進行を示す）		
予習・復習	授業の前に美大図書館等で彫刻作品や彫刻家の資料によって表現の多様性について研究をすること。また、身近な自然物のデッサン、クロッキーを行い、造形について理解を深めること。その他授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	実習費（材料および道具類）自己負担（1,000円程度）。作業が安全に行える服装着用のこと。専攻により、3881以下の履修コードが異なる。日本画専攻はZ1、油画専攻はZ2。		
成績評価 (~H29)	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		

成績評価 (H30~)	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [S]彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。
主担当教員	石田陽介

令和4年度シラバス

番号	(B1)-20	履修コード	3881Z2
科目名	彫刻Ⅱ	科目英語名	Sculpture Ⅱ
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	油画専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	事前連絡
単位	1	定員	25名
担当教員	○石田陽介・芝山昌也		
授業概要	木彫の制作を通して美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。素材に対する基礎的な理解を深め、用具等の安全な取り扱い方を習得する。素材を生かした各自の表現方法を探り、その魅力を発見するとともに、彫刻に内在する量塊、量感、空間、質感、均衡、比例など造形の諸要素や、表現の多様性について理解を図る。なお、本科目は彫刻分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	木彫の制作を通して、カービング技法の基本を習得する。また彫刻が持つ独自の美しさを体感するとともに造形の原理について理解する。		
授業計画	内容：各自の主題に基づく木彫制作 １　概説および課題説明 ・彫刻の種類（彫造、塑造、その他）およびその特性 ・表現の多様性について ・造形の諸要素について ・素材や技術、道具についての説明 ・各自の主題決定 ２　自然観察を基本に主題に基づくデッサンおよびイメージ作り ３　イメージの造形化 ４　木彫による制作 ・木の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 ・材料を有効に使えるように墨入れをする。 ・作品のイメージを大切にして荒取りする。 ・量感と面を意識して粗彫りを行う。 ・全体のバランスを保ちながら細部の作り込みを行う。 ・鑿あと等による質感の工夫をする。 ・全体の調子を整えながら仕上げる。 ・作品の効果を考え必要に応じて着色する。 ５　合評 ・完成作品について各自の制作意図や反省点を述べあい制作の深化を図る。 ・作品の鑑賞を通して、その良さを発見し味わう。 （１から５は授業の進行を示す）		
予習・復習	授業の前に美大図書館等で彫刻作品や彫刻家の資料によって表現の多様性について研究をすること。また、身近な自然物のデッサン、クロッキーを行い、造形について理解を深めること。その他授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	実習費（材料および道具類）自己負担（1,000円程度）。作業が安全に行える服装着用のこと。専攻により、3881以下の履修コードが異なる。日本画専攻はZ1、油画専攻はZ2。		
成績評価 (~H29)	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		

成績評価 (H30~)	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [S]彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。
主担当教員	石田陽介

令和4年度シラバス

番号	(B1)-21	履修コード	3883Z1
科目名	絵画Ⅰ	科目英語名	Drawing Ⅰ
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	彫刻専攻1年次	曜日・時限	1〜4限
履修区分	必修	教室	事前連絡
単位	1	定員	15名
担当教員	○佐藤俊介・松崎十朗		
授業概要	着彩用具による野菜・剥製等の精密描写及び表現と、日本画素材の体験を通して、日本画の世界観と絵画造形の諸要素や原理を学ぶ。 また、表現の多様性や美術分解について理解を深め、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養う。 なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	観察と描写を通して、対象の本質を把握し描写の基礎を身につける。 日本画素材を扱い自身の写生を基に表現することで、日本画の世界観を学ぶ。		
授業計画	1：着彩細密描写 第 1 日 ・授業概要および課題説明と制作準備 ・自身の描写対象である鳥類(剥製)の習性等を調査 第 2〜3 日 ・参考作品等を元に描写対象の構造と捉え方を学ぶ ・描写対象の基本的構造や表面の細部をよく観察しながら 鉛筆の硬度を使い分けて描写 第 4〜5 日 ・下塗り－中塗り－仕上げといった行程を学びつつ着彩 2：付立 第 6〜7 日 ・課題説明 ・日本画の素材を学びその世界観との関係を捉える ・膠や胡粉の組成と使用法を学び原料制作 ・付立技法と用具について学ぶ ・自身の着彩細密描写作品を基に付立技法 3：講評 ・上記に於いて制作した2点の課題作品を照らし合わせつつ 各自の制作意図や反省点を述べ合いその深化を図る ・作品の鑑賞を通して、その良さを発見し自身に反映		
予習・復習	日頃から素描作品、絵画作品に関心を持ち、気軽に素描するように心がけること。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	スケッチブックまたは画用紙･鉛筆･練りゴム･水彩用具等の描画用具		
履修上の注意	絵具等の廃棄については、指示通り行うこと。		
成績評価 **(~H29)**	課題作品提出（精密写生、付立作品） 作品の造形性および完成度等を下記基準に照らし採点する。 全体で50%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 [A]対象の性質や構造を深く理解・観察し、鉛筆による描写と着彩表現の双方がバランスよく高い描写技術レベルに達している。 [B]対象の性質や構造を深く理解・観察し、高い技術レベルで描写表現されている。 [C]対象の性質や構造を理解・観察し、描写表現されている。		
成績評価 **(H30~)**	課題作品提出（精密写生、付立作品） 作品の造形性および完成度等を下記基準に照らし採点する。 全体で50%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 [S]対象の性質や構造を深く理解・観察し、鉛筆による描写と着彩表現の双方がバランスよく高い描写技術レベルに達しており、特に秀でている。 [A]対象の性質や構造を深く理解・観察し、鉛筆による描写と着彩表現の双方がバランスよく高い描写技術レベルに達している。 [B]対象の性質や構造を深く理解・観察し、高い技術レベルで描写表現されている。 [C]対象の性質や構造を理解・観察し、描写表現されている。		
主担当教員	佐藤俊介		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-22	履修コード	3884Z1
科目名	絵画Ⅱ	科目英語名	Mixed Media
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	彫刻専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	2年油画実習室・絵画技法材料実習室
単位	1	定員	20名
担当教員	大森　啓		
授業概要	–ミクストメディア作品鑑賞 　ミクストメディア作品を鑑賞し、素材や技法の基本的な概念について解説する。 –ミクストメディア作品制作 　多数の異なった素材（メディア）を混合（ミックス）してミクストメディア作品を制作し、近代以降の新しい絵画表現について理解を深める。なお本科目は絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	ミクストメディア作品の制作を通して、近・現代の絵画表現を理解する。 多数の異なる素材を併用し、複数の技法を混合して新たな表現を試みる。また今日の絵画造形の諸要素や原理について考察し、表現の多様性や美術文化について理解を深める。		
授業計画	一日目 　ミクストメディアの歴史的背景についてレクチャー 　参考となる絵画作品を鑑賞して各作家や作品の特性と歴史的背景を学ぶ 　制作に使用する素材や技法について詳しく解説する 二日目 　制作に使用するために選択した素材と技法及び制作行程についての説明 三日目～ 　制作テーマの決定から表現に適した素材や技法の選択まで、個別に助言と指導を行う 　個々の進捗状況によって、適宜助言と指導を行う 最終日 　10：00　制作の終了 　10：20　後片付け、掃除を終了 　10：20　プレゼンテーション形式の合評会を行う 　11：50　作品提出		
予習・復習	美術史解説書や画集によって、キュビズム（1900年代）以降の絵画の流れと素材の広がりについて把握しておくこと。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)	制作に取り組む姿勢を重視し、課題の習得度と作品の完成度を総合して評価する。 [A]ミクストメディアに関する知識と技法が高いレベルで習得され、それらが積極的に取入れられ自己の作品に活かされている。 [B]ミクストメディアに関する知識と技法が習得され、それらが積極的に取入れられ自己の作品に活かされている。 [C]ミクストメディアに関する知識と技法が習得され、それらが自己の作品に活かされている。		
成績評価 (H30~)	制作に取り組む姿勢を重視し、課題の習得度と作品の完成度を総合して評価する。 [S]ミクストメディアに関する知識と技法が特に高いレベルで習得され、それらが積極的に取入れられ自己の作品に活かされている。 [A]ミクストメディアに関する知識と技法が高いレベルで習得され、それらが積極的に取入れられ自己の作品に活かされている。 [B]ミクストメディアに関する知識と技法が習得され、それらが積極的に取入れられ自己の作品に活かされている。 [C]ミクストメディアに関する知識と技法が習得され、それらが自己の作品に活かされている。		
主担当教員	大森　啓		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-23	履修コード	3887Z1
科目名	図学	科目英語名	Graphic Science
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度	H28～	毎週・集中	毎週
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	木曜9・10限
履修区分	必修	教室	映像メディア室
単位	2	定員	20名
担当教員	（非常勤）◯金保　洋・末松　智		
授業概要	図面は現在ではそのほとんどがCAD等のアプリケーションソフトウェアを用いて作図されているが、本授業では基本的な手描き図法とコンピュータにより、平面及び立体の図を描く手法を学ぶ。なお、本科目は図法及び製図分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	手描きやコンピュータを用いて平面図形や立体形状を作図する手法を学ぶ。3Dプリンターや CNCなどのデジタルファブリケーションについて、基礎知識を習得する。		
授業計画	以下のトピックを前半(末松)と後半(金保)に振り分けて行う。 前半(計5回) ・手書きによる基本的な平面図形、立体図形の作図 後半(計10回) コンピュータを用いた基本的な図形の作図手法を学ぶ。 主にAdobe IllustratorとFusion360を用いて、以下のトピックについて学ぶ。 1-3：Adobe Illustrator演習(計3回) ・平面図形の作図、編集 ・ベジェ曲線の作図 ・画像データの編集(Adobe Photoshop) 4-7：Fusion360演習(計7回) ・投影法、設計と作図の関係 ・CAD、3DCG基礎(Fusion360、Sculptris等) ・ソリッドモデリング基礎 ・サーフェスモデリング基礎 ・デジタルファブリケーション基礎(3Dプリンタ、CNC等) Adobe Illustrator、Adobe Photoshopは、Adobe Systems Incorporated(アドビ・システムズ社)の商標です。		
予習・復習	授業内で適宜指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	美大図書館に収蔵されている書籍を中心に、授業内で適宜指示する。		
教材	ワークシート（1回から5回の授業）、USBメモリ（8GB以上）		
履修上の注意	遅刻・欠席してしまうと授業内容が把握できなくなるおそれがあるため継続して出席すること。 1回から5回の授業では、30㎝定規、三角定規、、コンパス、A3紙ファイル（短辺綴じ）を持参すること。 6回から15回の授業では、毎授業ごとに小課題をKANABI-Portal(Google Classroom) 経由で提出する。 またAdobe IllustratorをインストールしてあるPCを持参して授業に参加しても良いものとする。		
成績評価 **(~H29)**	課題提出。 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [A]平面および立体の作図を効率的に行うことができ、造形表現のツールとして使いこなすことができる。 [B]平面および立体の作図を効率的に行うことができる。 [C]平面および立体の作図を行うことができる。		
成績評価 **(H30~)**	課題提出。 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [S]平面および立体の作図を効率的に行うことができ、造形表現のツールとして高いレベルで使いこなすことができる。 [A]平面および立体の作図を効率的に行うことができ、造形表現のツールとして使いこなすことができる。 [B]平面および立体の作図を効率的に行うことができる。 [C]平面および立体の作図を行うことができる。		
主担当教員	金保　洋		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-24	履修コード	3008Z1
科目名	美学	科目英語名	Aesthetics
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科2年次	曜日・時限	金曜5･6限
履修区分	必修	教室	美大ホール
単位	2	定員	100名
担当教員	山本浩貴		
授業概要	美学とはいかなる学問か。本講義では、18世紀のヨーロッパで成立した美学の基本概念を説明する。同時に、美学理論を用いて、現代美術の実践をどのように読み解くことができるかについて考える。		
到達目標	美学の基本概念を学ぶことにより、美や芸術に対する認識を深めることを目標とする。本講義で解説する概念についての哲学的理解を、各自の芸術制作および芸術研究に活かせることが望ましい。		
授業計画	1. 美学 2. 美 3. 自然美 4. 芸術 5. 模倣 6. 解釈 7. 表現 8. 批評 9. 趣味 10. 作品 11. かたち 12. 価値 13. 様式 14. 現代美術 15. 試験		
予習・復習	予習は必要ありません。復習は、興味のある概念や事象が出てきたときは、それについて自分なりにもう少し深く調べてみてください（もちろん、その際の参考文献についても遠慮なく聞いてください）。		
教科書	佐々木健一『美学辞典』（1995年、東京大学出版）		
参考書	佐々木健一『美学への招待』（2004年、中央公論新社）、小田部胤久『美学』（2020年、東京大学出版）、西村清和『現代アートの哲学』（1995年、産業図書）を薦める。		
教材	スライド資料を授業後にクラスルームを通じて配布する。		
履修上の注意	毎回配布するリアクションペーパーに、授業に関する質問や感想を書いて提出することを求める。なお、すぐれた質問やコメントは次回以降の授業で取り上げる可能性がある。		
成績評価 (~H29)	授業への参加度に30%を、学期末に課すレポートに70%を配分し、両者の合計点で評価する。授業への参加度については、上記「履修上の注意」を参照すること。 採点基準 ［A］以上の評価方法に照らし合わせ、80%以上の水準に達した。 ［B］以上の評価方法に照らし合わせ、60%以上の水準に達した。 ［C］以上の評価方法に照らし合わせ、50%以上の水準に達した。		
成績評価 (H30~)	授業への参加度に30%を、学期末に課すレポートに70%を配分し、両者の合計点で評価する。授業への参加度については、上記「履修上の注意」を参照すること。 採点基準 ［S］以上の評価方法に照らし合わせ、90%以上の水準に達した。 ［A］以上の評価方法に照らし合わせ、80%以上の水準に達した。 ［B］以上の評価方法に照らし合わせ、70%以上の水準に達した。 ［C］以上の評価方法に照らし合わせ、60%以上の水準に達した。		
主担当教員	山本浩貴		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-25	履修コード	3008Z1
科目名	美学	科目英語名	Aesthetics
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分	教職必修科目（中高美術）	開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	金曜5･6限
履修区分	選択	教室	美大ホール
単位	2	定員	100名
担当教員	山本浩貴		
授業概要	美学とはいかなる学問か。本講義の前半では、18世紀のヨーロッパで成立した美学の基本概念を説明する。後半では、美学理論を用いて、現代美術の実践をどのように読み解くことができるかについて考える。		
到達目標	美学の基本概念を学ぶことにより、美や芸術に対する認識を深めることを目標とする。本講義で解説する概念についての哲学的理解を、各自の芸術制作および芸術研究に活かせることが望ましい。		
授業計画	1. 美学 2. 美 3. 自然美 4. 芸術 5. 模倣 6. 解釈 7. 表現 8. 批評 9. 趣味 10. 作品 11. かたち 12. 価値 13. 様式 14. 現代美術 15. 試験		
予習・復習	予習は必要ありません。復習は、興味のある概念や事象が出てきたときは、それについて自分なりにもう少し深く調べてみてください（もちろん、その際の参考文献についても遠慮なく聞いてください）。		
教科書	佐々木健一『美学辞典』（1995年、東京大学出版）		
参考書	佐々木健一『美学への招待』（2004年、中央公論新社）、小田部胤久『美学』（2020年、東京大学出版）、西村清和『現代アートの哲学』（1995年、産業図書）を薦める。		
教材	適宜プリントを配布する。		
履修上の注意	毎回配布するリアクションペーパーに、授業に関する質問や感想を書いて提出することを求める。なお、すぐれた質問やコメントは次回以降の授業で取り上げる可能性がある。		
成績評価 (~H29)	授業への参加度に30%を、学期末に課すレポートに70%を配分し、両者の合計点で評価する。授業への参加度については、上記「履修上の注意」を参照すること。 採点基準 ［A］以上の評価方法に照らし合わせ、80%以上の水準に達した。 ［B］以上の評価方法に照らし合わせ、60%以上の水準に達した。 ［C］以上の評価方法に照らし合わせ、50%以上の水準に達した。		
成績評価 (H30~)	授業への参加度に30%を、学期末に課すレポートに70%を配分し、両者の合計点で評価する。授業への参加度については、上記「履修上の注意」を参照すること。 採点基準 ［S］以上の評価方法に照らし合わせ、90%以上の水準に達した。 ［A］以上の評価方法に照らし合わせ、80%以上の水準に達した。 ［B］以上の評価方法に照らし合わせ、70%以上の水準に達した。 ［C］以上の評価方法に照らし合わせ、60%以上の水準に達した。		
主担当教員	山本浩貴		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-26	履修コード	3807Z1
科目名	工芸史Ⅰ	科目英語名	History of Craft Ⅰ
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻・工芸科2年次	曜日・時限	火曜5･6限
履修区分	必修	教室	第1教室
単位	2	定員	50名
担当教員	菊池裕子		
授業概要	日本における「工芸」の歴史を現代的な問題意識をもって概観し、東アジアや西洋の文化交流と関連性に注目し、現代視覚文化的な批評を加えながら日本工芸史の流れを選択的に把握するとともに、視覚教材による作品の鑑賞を通して、幅広い知識と素材・技法・表現の特質に対する理解も深める。なお、本科目は教員免許取得のために必要な一般的包括的科目である。		
到達目標	日本における「工芸」の歴史を現代の視点から把握し、そこに関わる問題と意義について客観的かつ批評的に記述・解説できること。		
授業計画	１．導入：「工芸」とは何か。 ２．何をもって造型作品とするか、どのような造型作品が「工芸」か？ （先史・古墳時代） ３．仏教伝来以降（飛鳥・奈良時代） ４．日本美術の個性化（平安時代） ５．日本美術登場（鎌倉・南北朝・室町時代） ６．日本美術の形成と拡充（桃山時代） ７．日本美術の広がり（江戸時代） ８．「美術」「工業」「工芸」「図案」制度の移入（幕末、明治時代） ９．輸出工芸とジャポニズム（明治時代） １０．地方工芸の近代化と問題の事例研究（明治ー大正時代） １１．近代工芸運動から戦争プロパガンダ工芸（２０世紀前半） １２．民芸運動（２０世紀） １３．工芸とデザインの境目ー工芸デザイン、クラフト（２０－２１世紀） １４．現代工芸の様相（２０－２１世紀） １５．総括 以上の順番が多少変わることがある。毎回、視覚教材を用いて主要作品を取り上げつつ講義を行う。		
予習・復習	事前に関連文献に目を通し、講義に備えることが望ましい。 講義後は授業内容を踏まえた復習を行うこと。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	毎回パワーポイントで見せて説明した作品の中から各自が最も魅力的で重要だと思われる５点を選び、その回の講義と関連づけてどうしてそれを選んだかを簡単に書き授業の最後に提出する。これをリアクションペーパーとする。		
成績評価 (~H29)	授業への参加度　　40% リアクションペーパー　60% 全体で50%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 授業への参加度については上記「履修上の注意」を参照すること。 レポートの採点基準は下記のとおり。 [A]課題を良く理解し、論理的に思考するとともに有意な見解を提示することができた。 [B]課題を良く理解し、論理的に思考することができた。 [C]課題を理解することができた。		
成績評価 (H30~)	授業への参加度　　40% リアクションペーパー　60% 全体で60%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 授業への参加度については上記「履修上の注意」を参照すること。 レポートの採点基準は下記のとおり。 [S]課題を良く理解し、論理的に思考するとともにとりわけ有意な見解を提示することができた。 [A]課題を良く理解し、論理的に思考するとともに有意な見解を提示することができた。 [B]課題を良く理解し、論理的に思考することができた。 [C]課題を理解することができた。		
主担当教員	菊池裕子		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-27	履修コード	3807Z1
科目名	工芸史Ⅰ	科目英語名	History of Craft Ⅰ
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分	博物館選択科目	開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科（芸術学専攻除く）・デザイン科2年次	曜日・時限	火曜5･6限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	50名
担当教員	菊池裕子		
授業概要	日本における「工芸」の歴史を現代的な問題意識をもって概観し、東アジアや西洋の文化交流と関連性に注目し、現代視覚文化的な批評を加えながら日本工芸史の流れを選択的に把握するとともに、視覚教材による作品の鑑賞を通して、幅広い知識と素材・技法・表現の特質に対する理解も深める。なお、本科目は教員免許取得のために必要な一般的包括的科目である。		
到達目標	日本における「工芸」の歴史を現代の視点から把握し、そこに関わる問題と意義について客観的かつ批評的に記述・解説できること。		
授業計画	１．導入：「工芸」とは何か。 ２．何をもって造型作品とするか、どのような造型作品が「工芸」か？ （先史・古墳時代） ３．仏教伝来以降（飛鳥・奈良時代） ４．日本美術の個性化（平安時代） ５．日本美術登場（鎌倉・南北朝・室町時代） ６．日本美術の形成と拡充（桃山時代） ７．日本美術の広がり（江戸時代） ８．「美術」「工業」「工芸」「図案」制度の移入（幕末、明治時代） ９．輸出工芸とジャポニズム（明治時代） １０．地方工芸の近代化と問題の事例研究（明治ー大正時代） １１．近代工芸運動から戦争プロパガンダ工芸（２０世紀前半） １２．民芸運動（２０世紀） １３．工芸とデザインの境目ー工芸デザイン、クラフト（２０－２１世紀） １４．現代工芸の様相（２０－２１世紀） １５．総括 以上の順番が多少変わることがある。毎回、視覚教材を用いて主要作品を取り上げつつ講義を行う。		
予習・復習	事前に関連文献に目を通し、講義に備えることが望ましい。 講義後は授業内容を踏まえた復習を行うこと。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	毎回パワーポイントで見せて説明した作品の中から各自が最も魅力的で重要だと思われる５点を選び、その回の講義と関連づけてどうしてそれを選んだかを簡単に書き授業の最後に提出する。これをリアクションペーパーとする。		
成績評価 (~H29)	授業への参加度　　40% リアクションペーパー　60% 全体で50%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 授業への参加度については上記「履修上の注意」を参照すること。 レポートの採点基準は下記のとおり。 [A]問題を良く理解し、論理的に思考するとともに有意な見解を提示することができた。 [B]問題を良く理解し、論理的に思考することができた。 [C]問題を理解することができた。		
成績評価 (H30~)	授業への参加度　　40% リアクションペーパー　60% 全体で60%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 授業への参加度については上記「履修上の注意」を参照すること。 レポートの採点基準は下記のとおり。 [S]課題を良く理解し、論理的に思考するとともにとりわけ有意な見解を提示することができた。 [A]課題を良く理解し、論理的に思考するとともに有意な見解を提示することができた。 [B]課題を良く理解し、論理的に思考することができた。 [C]課題を理解することができた。		
主担当教員	菊池裕子		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-28	履修コード	3808Z1
科目名	工芸史Ⅱ	科目英語名	History of Craft Ⅱ
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	芸術学専攻・工芸科2年次	曜日・時限	事務局前及びクラスルームに掲示
履修区分	必修	教室	事務局前及びクラスルームに掲示
単位	2	定員	35名
担当教員	○菊池裕子　（非常勤）Liliana Granja Morais・Giorgio Salani・Helena Čapková		
授業概要	近現代のグローバルな「工芸」をとりまく問題や例証をあげ、歴史的・物質文化学的な理論や方法論を紹介しながら深く批評的に考察する。視覚教材による作品の鑑賞やグループワークを通して考える力をつけ、幅広い知識と素材・技法・表現の特質に対する理解を深める。各回で課題レポートを課す。なお、本科目は教員免許取得のために必要な科目である。		
到達目標	工芸を複眼的かつ批評的に考察し、論理的に記述・議論・発表できること。		
授業計画	本授業は、計３回×１日（5コマ）の日英語を交えた集中講義で構成される。 テーマは下記のとおり。 ーDr Liliana Granja Morais 「トランスナショナル工芸：ブラジルの日本人工芸作家と日本の西欧人工芸作家」 'Transnational Kōgei: Japanese craftsman in Brazil and Western potters in Japan' ーDr Giorgio Salani 「標準規格食器の生産：１９５０－６０年代から現在までのリーチポタリー工房の変遷」 'Making standard ware: the Leach Pottery workshop in 1950-60s and today' ーDr Helena Čapková 「チェコのデザインと日本の近代」 'Czech Design and Japan's Modernities'		
予習・復習	講義後は授業内容を踏まえた復習し更に関連文献を読むこと。		
教科書	特になし。		
参考書	クラスルームに載せる。		
教材	クラスルームに載せる。		
履修上の注意	リアクションペーパーで出席をとり、又それに各授業の内容に対する感想を積極的に述べることを求める。何らかの正当な理由で欠席する場合には事前に主担当教員と連絡をとること。課題レポートにおいて剽窃が見られた場合は評価はゼロとする。		
成績評価 (~H29)	授業への参加度　40% 集中講義のレポート(3回)　60% 全体で50%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 授業への参加度については上記「履修上の注意」を参照すること。 レポートの採点基準は下記のとおり。 [A]問題を良く理解し、論理的に思考するとともに有意な見解を提示することができた。 [B]問題を良く理解し、論理的に思考することができた。 [C]問題を理解することができた。		
成績評価 (H30~)	授業への参加度　40% 学期末レポート　60% 全体で60%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 授業への参加度については上記「履修上の注意」を参照すること。 レポートの採点基準は下記のとおり。 [S]課題を良く理解し、論理的に思考するとともにとりわけ有意な見解を提示することができた。 [A]課題を良く理解し、論理的に思考するとともに有意な見解を提示することができた。 [B]課題を良く理解し、論理的に思考することができた。 [C]課題を理解することができた。		
主担当教員	菊池裕子		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-29	履修コード	3009Z2
科目名	近代美術史	科目英語名	History of Modern Art
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科2年次	曜日・時限	水曜5･6限
履修区分	必修	教室	美大ホール
単位	2	定員	
担当教員	山本浩貴		
授業概要	欧米と日本を中心として、19世紀以降の近現代美術の歴史を概説する。		
到達目標	近現代美術の歴史を見る、自分なりの見方を提出できるようになることを目標とする。		
授業計画	1. 「現代美術」とは何か 2. アーツ・アンド・クラフツと民藝 3. ダダとマヴォ 4. 小括とディスカッション① 5. 九州派、具体、万博破壊共闘派 6. ハイレッド・センター、もの派、美術家共闘会議、ダムタイプ 7. ランド・アート、インスティテューショナル・クリティーク、ハプニング 8. 小括とディスカッション② 9. フルクサス、ヨーゼフ・ボイス、シチュアショニスト・インターナショナル 10. リレーショナル・アート、ソーシャリー・エンゲージド・アート、コミュニティ・アート 11. 日本のコミュニティ・アート（「地域アート」） 12. 小括とディスカッション③ 13. シミュレーショニズム、アート・プロジェクト（日本の事例を中心に） 14. トランスナショナル・アート・ヒストリーの可能性と限界 15. 試験		
予習・復習	予習は必要ありません。復習は、興味のあるアーティストや芸術運動が出てきたときは、それについて自分なりにもう少し深く調べてみてください（もちろん、その際の参考文献についても遠慮なく聞いてください）。		
教科書	山本浩貴『現代美術史――欧米、日本、トランスナショナル』（2019年、中央公論新社）		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜プリントを配布する。		
履修上の注意	（美術に関わらず）歴史を見る「唯一の」、「正解となる」見方は存在しません。美術史を学ぶ上での基礎的な考え方や出来事などを覚えることは確かに必要な部分はありますが、みなさんの目的は美術史の丸暗記ではありません。では何が重要なことかは授業で説明しますが、まずはこのことを念頭に置いて受講してください。		
成績評価 (~H29)	レポートにより評価する。 ［A］近現代美術の歴史および主要な作品の特徴を理解し、すぐれたレポートを執筆・提出した。 ［B］近現代美術の歴史および主要な作品の特徴を理解し、レポートを執筆・提出した。 ［C］近現代美術をめぐるレポートを執筆・提出した。		
成績評価 (H30~)	レポートにより評価する。 ［S］近現代美術の歴史および主要な作品の特徴を十分に理解し、すぐれたレポートを執筆・提出した。 ［A］近現代美術の歴史および主要な作品の特徴を理解し、すぐれたレポートを執筆・提出した。 ［B］近現代美術の歴史および主要な作品の特徴を理解し、レポートを執筆・提出した。 ［C］近現代美術をめぐるレポートを執筆・提出した。		
主担当教員	山本浩貴		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-30	履修コード	3009Z2
科目名	近代美術史	科目英語名	History of Modern Art
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分	教職必修科目（中高美術・高校工芸）	開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	水曜5･6限
履修区分	選択	教室	美大ホール
単位	2	定員	
担当教員	山本浩貴		
授業概要	欧米と日本を中心として、19世紀以降の近現代美術の歴史を概説する。		
到達目標	近現代美術の歴史を見る、自分なりの見方を提出できるようになることを目標とする。		
授業計画	1. 「現代美術」とは何か 2. アーツ・アンド・クラフツと民藝 3. ダダとマヴォ 4. 小括とディスカッション① 5. 九州派、具体、万博破壊共闘派 6. ハイレッド・センター、もの派、美術家共闘会議、ダムタイプ 7. ランド・アート、インスティテューショナル・クリティーク、ハプニング 8. 小括とディスカッション② 9. フルクサス、ヨーゼフ・ボイス、シチュアショニスト・インターナショナル 10. リレーショナル・アート、ソーシャリー・エンゲージド・アート、コミュニティ・アート 11. 日本のコミュニティ・アート（「地域アート」） 12. 小括とディスカッション③ 13. シミュレーショニズム、アート・プロジェクト（日本の事例を中心に） 14. トランスナショナル・アート・ヒストリーの可能性と限界 15. 試験		
予習・復習	予習は必要ありません。復習は、興味のあるアーティストや芸術運動が出てきたときは、それについて自分なりにもう少し深く調べてみてください（もちろん、その際の参考文献についても遠慮なく聞いてください）。		
教科書	山本浩貴『現代美術史――欧米、日本、トランスナショナル』（2019年、中央公論新社）		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜プリントを配布する。		
履修上の注意	（美術に関わらず）歴史を見る「唯一の」、「正解となる」見方は存在しません。美術史を学ぶ上での基礎的な考え方や出来事などを覚えることは確かに必要な部分はありますが、みなさんの目的は美術史の丸暗記ではありません。では何が重要なことかは授業で説明しますが、まずはこのことを念頭に置いて受講してください。		
成績評価 (~H29)	レポートにより評価する。 ［A］近現代美術の歴史および主要な作品の特徴を理解し、すぐれたレポートを執筆・提出した。 ［B］近現代美術の歴史および主要な作品の特徴を理解し、レポートを執筆・提出した。 ［C］近現代美術をめぐるレポートを執筆・提出した。		
成績評価 (H30~)	レポートにより評価する。 ［S］近現代美術の歴史および主要な作品の特徴を十分に理解し、すぐれたレポートを執筆・提出した。 ［A］近現代美術の歴史および主要な作品の特徴を理解し、すぐれたレポートを執筆・提出した。 ［B］近現代美術の歴史および主要な作品の特徴を理解し、レポートを執筆・提出した。 ［C］近現代美術をめぐるレポートを執筆・提出した。		
主担当教員	山本浩貴		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-31	履修コード	3109Z2
科目名	美術工芸特論	科目英語名	Studies of Fine Art and Craft
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	前期：金曜7･8限　後期：木曜9･10限
履修区分	必修	教室	研修室
単位	4	定員	15名
担当教員	○五十嵐嘉晴・上田恒夫		
授業概要	美術工芸の意義ある興味深い視点から毎週の講義のテーマを定め、主に西洋や中東の美術工芸の歴史上の幾つかの時期を解説する。そしてその史的展開の美術的・社会的諸相と要因を解説する。また過去や伝統が現代と如何に関わるかも指摘する。」とあるところ、「美術工芸の意義のある興味深い視点から講義のテーマを定め、主に西洋を中心にと中東の美術工芸の歴史上の幾つかの時期と作品を解説する。そしてその史的展開の美術的・社会的諸相と要因を探る。また過去や伝統が現代と如何に関わるかも指摘する。		
到達目標	美術工芸の歴史についての視野を広め、知識を豊かにし、認識を深める。それによる広範でフレキシブルな理解力を持って、美術工芸の国内外の伝統と現代の問題点などを取り出し、それらについて学術的に記述・解説できること。		
授業計画	前期・後期ともに毎週（計15回）の講義を下記の分担で行う。 ■前期（担当：五十嵐嘉晴　火曜9･10限） １.美術的形象の発生 ２.その旧石器時代での展開 ３.中・新石器時代での美術工芸 ４.古代エジプト美術工芸（以後美術とは美術工芸を指す） ５.メソポタミアの美術 ６.古代エーゲ海の美術 ７.古代ギリシア美術-1（アルカイック） ８.古代ギリシア美術-2（古典期、ヘレニズム） ９.イタリア半島の古代美術-1（エトルリア） 10.イタリア半島の古代美術-2（ローマ） 11.初期キリスト教美術 12.ケルト・ゲルマン美術 13.ロマネスク美術-1 14.ロマネスク美術-2 15.ゴシック美術 なお、前期授業回数が必要回数に満たない場合は、夏季調整期間中に補講を行うことにより授業内容と学習時間を確保する。補講日は受講生と調整の上で決定する。 ■後期（担当：上田恒夫　木曜9･10限） 「美術工芸」の枠組み：古九谷と産地論争 １.古九谷色絵飾り皿 ２.産地論争は終結していない ３.発掘報告書と科学的分析　陶芸の「産地」 イタリア・ルネサンスのタルシア（木象嵌）：絵画・彫刻・工芸の交点 ４.フィレンツェ、ウルビーノ、モデナ、パドヴァ、ヴェローナほかのタルシア ５.タルシアの場所と主題 ６.同時代のタルシア批評 ゲルハルト・リヒターとモダニズム ７.リヒターの「ヴェネツィア」 ８.フォーマリズムに対するリヒター ルーヴル美術館の250年：「普遍的価値」の到達点 ９.宮殿から万人に開かれた美術館へ 10.グランド・ギャラリーの近代化 11.ルーヴル・ランスとルーヴル・アブダビ		

	ふさわしさ：表現の機会と場所 12.ふさわしさのさまざまな意味 13.フラ・アンジェリコの祭壇画 14.仏像（日本）の場所と造形 要約 15.表現の時と場所、分類、気づき
予習・復習	各自の関心に基づいて美術工芸の歴史に関する文献を読むこと。 授業後はその内容に関連する文献を読むこと。
教科書	特になし。
参考書	適宜指示する。
教材	配付プリント･スライド･ビデオ･ＤＶＤ等
履修上の注意	毎週の講義では毎回出欠確認を行う。
成績評価 **(~H29)**	レポートと期末試験とを総合的に判断して、単位認定を行う。 ［A］講義で述べられた観点をよく理解し、学術的に意義ある解釈を示すことができた。 ［B］講義で述べられた内容を理解し、それに応じた見解を示すことができた。 ［C］講義で述べられた内容を理解することができた。
成績評価 **(H30~)**	レポートと期末試験とを総合的に判断して、単位認定を行う。 ［S］講義で述べられた観点を特によく理解し、学術的に意義ある解釈を示すことができた。 ［A］講義で述べられた観点をよく理解して、意義ある解釈を示すことができた。 ［B］講義で述べられた内容を理解し、それに応じた見解を示すことができた。 ［C］講義で述べられた内容を理解することができた。
主担当教員	五十嵐嘉晴

令和4年度シラバス

番号	(B1)-32	履修コード	3015Z1
科目名	専門英語演習	科目英語名	Specific English Language Practice
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン科4年次	曜日・時限	金曜5･6限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	80名
担当教員	稲垣健志		
授業概要	この授業では、デザインに関する専門的な知識を、英語の出版物から直接読み取り、自身の卒業制作や卒業後の活動に活かしていきます。		
到達目標	・英文で書かれた作品紹介を読み、そのコンセプトまできちんと理解する。 ・理解した内容を自身の卒業制作・デザイン活動に反映させる。		
授業計画	Marcus Fairs, 21st Century Design: New Design Icons from Mass Market to Avant-Gardeと、Green Design: Creative Sustainable Designs for the Twenty-first Centuryの中から、参加学生の関心、制作テーマに合わせて作品を選び、精読していきます。 授業では前半に個人での英文精読、後半に内容についての考察というかたちで進めていきます。 具体的に取り上げる内容は以下のとおりです。 前期 Architecture Interiors Furniture Lighting Homeware 後期 Products Clothing and Accessories Visual Communication Urban and Landscape		
予習・復習	授業中に指示された課題に取り組むこと。		
教科書	配付プリント		
参考書	配付プリント		
教材	配付プリント		
履修上の注意	辞書を毎回必ず持参すること。		
成績評価 (~H29)	[A]各作品をそのコンセプトまで十分理解し、その成果を自身の制作活動に反映させることができた。 [B]各作品の説明をよく理解することができ、その知識を自身の制作活動に活かすことができた。 [C]各作品の説明を正確に訳すことができた。		
成績評価 (H30~)	[S]各作品をそのコンセプトまで理解し、その成果を自身の制作活動に十分反映させることができた。 [A]各作品を内容をよく理解し、その成果を自身の制作活動に反映させることができた。 [B]各作品の説明をよく理解することができ、その知識を自身の制作活動に活かすことができた。 [C]各作品の説明を正確に訳すことができた。		
主担当教員	稲垣健志		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-33	履修コード	3015Z2
科目名	専門英語演習	科目英語名	Specialist English Language Practice
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度	H28～	毎週・集中	毎週
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	金曜7･8限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	25名
担当教員	ディビッド・ブルースター		
授業概要	In this course, we will explore seven themes based around materials and techniques used in traditional crafts from across Japan: bamboo, textiles and embroidery, paper, woodwork, metalwork, ceramics, and lacquer. Through each theme, students will develop specialist English skills in reading, comprehension, writing and speaking which will help them communicate their craftwork to international audiences. この科目では、日本の伝統工芸に使われる素材および技を中心にした7つのテーマ（竹・織物と刺繍・和紙・木工芸・金属工芸・陶磁器・漆）を探る。各テーマを通じて、海外の方々に工芸のことを伝えるのに役に立つ読解、理解、文章およびスピーキングの専門英語能力を養っていく。		
到達目標	• To be able to read and understand English texts about various traditional Japanese craftwork｜様々な日本伝統工芸に関する英文を読解し理解できるようになる • To be able to write about traditional Japanese crafts in English｜日本伝統工芸についての英文を書けるようになる • To be able to speak and present about traditional Japanese crafts in English｜日本伝統工芸について英語で話し発表できるようになる		
授業計画	前期｜First Semester 第１回：オリエンテーション｜Orientation 第２～４回：竹｜Bamboo 第５～７回：織物と刺繍｜Textiles and embroidery 第８～１０回：和紙｜Paper 第１１～１３回：木工芸｜Woodwork 第１４～１５回：英語で書きましょう！｜Let’s write in English! 後期｜Second Semester 第１回：オリエンテーション｜Orientation 第２～４回：金属工芸｜Metalwork 第５～７回：陶磁器｜Ceramics 第８～１０回：漆｜Lacquer 第１１～１３回：工芸について話しましょう！｜Let’s talk about crafts! 第１４～１５回：期末試験｜Final examination		
予習・復習	授業中に指示された課題に取り組むこと。		
教科書	配布プリント		
参考書	Gestalten (2020) Handmade in Japan: The Pursuit of Perfection in Traditional Crafts. Berlin: Gestalten. Maezaki, S. and Yamamoto, M. (2018) Made in Japan. Tokyo: IBC Publishing. Rottgen, U. and Zettl, K. (2020) Craftland Japan. London: Thames and Hudson.		
教材	配布プリント		
履修上の注意	特になし		
成績評価 **(~H29)**	出席と授業中の態度｜Attendance and attitude in class (20%) 前期試験（展示会のパンフレット）｜Semester 1 examination (exhibition brochure) (40%) 後期試験（ポスターと口頭発表）｜Semester 2 examination (poster and oral presentation) (40%)		

	[A] 日本伝統工芸について、英語の読解、理解、文章、及びスピーキングの十分な能力を達成している。｜You have achieved good abilities in reading, understanding, writing and speaking in English about traditional Japanese crafts. [B] 日本伝統工芸について、英語の読解、理解、文章、及びスピーキングの基本的な能力を達成している。｜You have achieved basic abilities in reading, understanding, writing and speaking in English about traditional Japanese crafts. [C] 日本伝統工芸について、英語で基本的な情報を理解し伝達ができることを達成している。｜You have achieved the ability to understand and convey basic information in English about traditional Japanese crafts.
成績評価 (H30~)	出席と授業中の態度｜Attendance and attitude in class (20%) 前期試験（展示会のパンフレット）｜Semester 1 examination (exhibition brochure) (40%) 後期試験（ポスターと口頭発表）｜Semester 2 examination (poster and oral presentation) (40%) [S] 日本伝統工芸について、英語の読解、理解、文章、及びスピーキングの能力が特に秀でている。｜You excel in reading, understanding, writing and speaking in English about traditional Japanese crafts. [A] 日本伝統工芸について、英語の読解、理解、文章、及びスピーキングの十分な能力を達成している。｜You have achieved good abilities in reading, understanding, writing and speaking in English about traditional Japanese crafts. [B] 日本伝統工芸について、英語の読解、理解、文章、及びスピーキングの基本的な能力を達成している。｜You have achieved basic abilities in reading, understanding, writing and speaking in English about traditional Japanese crafts. [C] 日本伝統工芸について、英語で基本的な情報を理解し伝達ができることを達成している。｜You have achieved the ability to understand and convey basic information in English about traditional Japanese crafts.
主担当教員	ディビッド・ブルースター

令和4年度シラバス

番号	(B1)-34	履修コード	3049Z1
科目名	芸術と批評	科目英語名	Art and Criticism
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1・2・3・4年次	曜日・時限	水曜7･8限
履修区分	自由	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	30名
担当教員	高橋明彦		
授業概要	現代思想を読む 芸術理論を理解したり芸術作品の批評をしたりするための、最も基礎的な能力を鍛えるために役立つと思われる、思想書を読みます。 本年度は、スピノザ『エチカ』第一部を読みます。スピノザの代表的大著です。ともかくじっくり読んでみます。昨年度は『知性改善論』を読みましたが、適宜それにも触れます。		
到達目標	①当該図書を理解する。 ②当該図書の今日的意義を考察する。		
授業計画	『エチカ』は全五部からなりますが、本年度は第一部を読みます。テキストは岩波文庫です。各回の範囲はその頁数で記します。 1回 p.41～ 定義、公理 2回 p.44～ 定理一～五 3回 p.46～ 定理六～八 4回 p.52～ 定理九～一一 5回 p.58～ 定理一二～一五 6回 p.67～ 定理一六～一七系二 7回 p.70～ 定理一七備考 8回 p.74～ 定理一八～一九 9回 p.75～ 定理二〇～二三 10回 p.79～ 定理二四～二八 11回 p.84～ 定理二九～三二 12回 p.89～ 定理三三 13回 p.95～ 定理三四～三六 14回 p.96～ 附録１ 15回 p.102～ 附録２		
予習・復習	当該図書を十分に読んでください。		
教科書	スピノザ『エチカ』上(畠中尚志訳、岩波文庫、青615-4）本体900円＋税。各自で購入しておいてください。無くても		
参考書			
教材	WEBで講義内容をまとめてあります。また、毎回の講義内容をアーカイブ（保存）してオンデマンド（好きな時に聞ける）にしてあります。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)	評価の方法：毎回の感想６０%、レポート４０%（年度末１回）。 評価の基準： [A]当該図書を理解し、自己の芸術観の形成に供することができた。 [B]当該図書を一定程度理解している。 [C]当該図書に対する理解が見られる。		
成績評価 (H30~)	評価の方法：毎回の感想６０%、レポート４０%（年度末１回）。 評価の基準： [S]当該図書を極めて高いレベルで理解し、自己の芸術観の形成に供することができた。 [A]当該図書を理解し、自己の芸術観の形成に供することができた。 [B]当該図書を一定程度理解している。 [C]当該図書に対する理解が見られる。		
主担当教員	高橋明彦		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-35	履修コード	3882Z1
科目名	コンピュータグラフィックス	科目英語名	Computer Graphics
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	日本画専攻3年次	曜日・時限	木曜7･8限
履修区分	選択必修	教室	映像メディア室
単位	2	定員	15名
担当教員	（非常勤）宮原康展		
授業概要	本講義では、DTPとデジタルイメージを組み合わせた制作を学ぶと共に、3DCGの基礎知識と操作方法を学ぶ。なお、本科目はデザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	DTP、3DCGを含むデジタルメディアの基礎知識とアプリケーションの操作方法を身につける。		
授業計画	01：デザイン概論／CGの歴史／３DCG基礎 02：３DCG基礎（モデリング１） 03：３DCG基礎（モデリング２） 04：３DCG基礎（外観／環境） 05：３DCG基礎（レンダリング） 06：３DCG制作 07：３DCG制作 08：３DCG制作 09：課題提出／講評 10：画像補正法 11：DTPツールとデジタルイメージングツールの連携方法 12：DTPとデジタルイメージを組み合わせた制作 13：DTPとデジタルイメージを組み合わせた制作 14：DTPとデジタルイメージを組み合わせた制作 15：課題提出／講評		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書			
参考書	適宜指示する。		
教材	USBメモリ等の記憶媒体（8GB以上）		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 **(~H29)**	課題提出（設備の状況により内容を変更する場合がある）。 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [A] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行い、作品表現に応用することができる。 [B] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行うことができる。 [C] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得している。		
成績評価 **(H30~)**	課題提出（設備の状況により内容を変更する場合がある）。 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [S] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行い、特に秀でた作品表現に応用することができる。 [A] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行い、作品表現に応用することができる。 [B] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行うことができる。 [C] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得している。		
主担当教員	宮原康展		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-36	履修コード	3882Z2
科目名	コンピュータグラフィックス	科目英語名	Computer Graphics
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	油画専攻3年次	曜日・時限	水曜9・10限
履修区分	必修	教室	映像メディア室
単位	2	定員	25名
担当教員	（非常勤）宮原康展		
授業概要	本講義では、DTPとデジタルイメージを組み合わせた制作を学ぶと共に、3DCGの基礎知識と操作方法を学ぶ。なお、本科目はデザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	DTP、3DCGを含むデジタルメディアの基礎知識とアプリケーションの操作方法を身につける。		
授業計画	01：デザイン概論／CGの歴史／３DCG基礎 02：３DCG基礎（モデリング１） 03：３DCG基礎（モデリング２） 04：３DCG基礎（外観／環境） 05：３DCG基礎（レンダリング） 06：３DCG制作 07：３DCG制作 08：３DCG制作 09：課題提出／講評 10：画像補正法 11：DTPツールとデジタルイメージングツールの連携方法 12：DTPとデジタルイメージを組み合わせた制作 13：DTPとデジタルイメージを組み合わせた制作 14：DTPとデジタルイメージを組み合わせた制作 15：課題提出／講評		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書			
参考書	適宜指示する。		
教材	USBメモリ等の記憶媒体（8GB以上）		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 **(~H29)**	課題提出（設備の状況により内容を変更する場合がある）。 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [A] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行い、作品表現に応用することができる。 [B] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行うことができる。 [C] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得している。		
成績評価 **(H30~)**	課題提出（設備の状況により内容を変更する場合がある）。 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [S] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行い、特に秀でた作品表現に応用することができる。 [A] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行い、作品表現に応用することができる。 [B] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行うことができる。 [C] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得している。		
主担当教員	宮原康展		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-37	履修コード	3882Z3
科目名	コンピュータグラフィックス	科目英語名	Computer Graphics
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	彫刻専攻3年次	曜日・時限	木曜7･8限
履修区分	必修	教室	映像メディア室
単位	2	定員	15名
担当教員	（非常勤）宮原康展		
授業概要	本講義では、DTPとデジタルイメージを組み合わせた制作を学ぶと共に、3DCGの基礎知識と操作方法を学ぶ。なお、本科目はデザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	DTP、3DCGを含むデジタルメディアの基礎知識とアプリケーションの操作方法を身につける。		
授業計画	01：デザイン概論／CGの歴史／３DCG基礎 02：３DCG基礎（モデリング１） 03：３DCG基礎（モデリング２） 04：３DCG基礎（外観／環境） 05：３DCG基礎（レンダリング） 06：３DCG制作 07：３DCG制作 08：３DCG制作 09：課題提出／講評 10：画像補正法 11：DTPツールとデジタルイメージングツールの連携方法 12：DTPとデジタルイメージを組み合わせた制作 13：DTPとデジタルイメージを組み合わせた制作 14：DTPとデジタルイメージを組み合わせた制作 15：課題提出／講評		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書			
参考書	適宜指示する。		
教材	USBメモリ等の記憶媒体（8GB以上）		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)	課題提出（設備の状況により内容を変更する場合がある）。 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [A] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行い、作品表現に応用することができる。 [B] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行うことができる。 [C] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得している。		
成績評価 (H30~)	課題提出（設備の状況により内容を変更する場合がある）。 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [S] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行い、特に秀でた作品表現に応用することができる。 [A] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行い、作品表現に応用することができる。 [B] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行うことができる。 [C] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得している。		
主担当教員	宮原康展		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-38	履修コード	3882Z4
科目名	コンピュータグラフィックス	科目英語名	Computer Graphics
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	10/4～10/13、１～４限
履修区分	必修	教室	映像メディア室
単位	2	定員	15名
担当教員	（非常勤）宮原康展		
授業概要	本講義では、DTPとデジタルイメージを組み合わせた制作を学ぶと共に、3DCGの基礎知識と操作方法を学ぶ。なお、本科目はデザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	DTP、3DCGを含むデジタルメディアの基礎知識とアプリケーションの操作方法を身につける。		
授業計画	01：デザイン概論／CGの歴史／３DCG基礎 02：３DCG基礎（モデリング１） 03：３DCG基礎（モデリング２） 04：３DCG基礎（外観／環境） 05：３DCG基礎（レンダリング） 06：３DCG制作 07：３DCG制作 08：３DCG制作 09：課題提出／講評 10：画像補正法 11：DTPツールとデジタルイメージングツールの連携方法 12：DTPとデジタルイメージを組み合わせた制作 13：DTPとデジタルイメージを組み合わせた制作 14：DTPとデジタルイメージを組み合わせた制作 15：課題提出／講評		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書			
参考書	適宜指示する。		
教材	USBメモリ等の記憶媒体（8GB以上）		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)	課題提出（設備の状況により内容を変更する場合がある）。 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [A] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行い、作品表現に応用することができる。 [B] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行うことができる。 [C] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得している。		
成績評価 (H30~)	課題提出（設備の状況により内容を変更する場合がある）。 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [S] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行い、特に秀でた作品表現に応用することができる。 [A] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行い、作品表現に応用することができる。 [B] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行うことができる。 [C] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得している。		
主担当教員	宮原康展		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-39	**履修コード**	3882Z5
科目名	コンピュータグラフィックス	**科目英語名**	Computer Graphics
科目区分	基礎科目	**授業形態**	講義
資格区分		**開講学期**	前期
入学年度		**毎週・集中**	集中
専攻・年次	工芸科2年次	**曜日・時限**	
履修区分	必修	**教室**	映像メディア室
単位	2	**定員**	20名
担当教員	（非常勤）○宮原康展・庄司 メアリ 拓郎		
授業概要	本講義では、DTPとデジタルイメージを組み合わせた制作を学ぶと共に、3DCGの基礎知識と操作方法を学ぶ。なお、本科目はデザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	DTP、3DCGを含むデジタルメディアの基礎知識とアプリケーションの操作方法を身につける。		
授業計画	01：デザイン概論／画像補正法 02：DTPツールとデジタルイメージングツールの連携方法 03：DTPとデジタルイメージを組み合わせた制作 04：DTPとデジタルイメージを組み合わせた制作 05：DTPとデジタルイメージを組み合わせた制作 06：課題提出／講評 07：CGの歴史／３DCG基礎 08：３DCG基礎（モデリング１） 09：３DCG基礎（モデリング２） 10：３DCG基礎（外観／環境） 11：３DCG基礎（レンダリング） 12：３DCG制作 13：３DCG制作 14：３DCG制作 15：課題提出／講評		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書			
参考書	適宜指示する。		
教材	USBメモリ等の記憶媒体（8GB以上）		
履修上の注意	特になし。		
成績評価(~H29)			
成績評価(H30~)	課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [S] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行い、特に秀でた作品表現に応用することができる。 [A] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行い、作品表現に応用することができる。 [B] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行うことができる。 [C] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得している。		
主担当教員	宮原康展		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-40	履修コード	3811Z1
科目名	メディアアート	科目英語名	New Media Art
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	視覚デザイン専攻2年次	曜日・時限	木曜日／７、８限
履修区分	必修	教室	コンピュータ室
単位	2	定員	30名
担当教員	（非常勤）◯明貫紘子		
授業概要	日本国内では文化芸術振興基本法により「メディア芸術」を「映画，漫画，アニメーション及びコンピュータその他の電子機器等を利用した芸術」と定めている。本科目で扱う「メディアアート」とはこの内、映画、漫画、アニメーションを除いた「コンピュータその他の電子機器等を利用した芸術」を指す。 本科目では、1950年代のアーティストコレクティブ「実験工房」に代表されるインターメディアの活動を起点にして現代のチームラボやライゾマティクスに至るまで、時代別に技術的・社会的背景とともに主要な作家・作品を幅広く紹介し「メディアアート」の変遷小史を国際的に学ぶ。さらに、代表的なメディアアート作品のさまざまな資料を通して、作品の特徴を分析し後世にどのように残せばよいか考察する。 明貫紘子氏は、NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]の学芸員、inter media art institute(imai)デュッセルドルフで研究員などを経て、現在は映像ワークショップの代表を務める。文化庁事業において、メディアアートの記録と保存、アーカイブ編成に関する研究を継続中。		
到達目標	メディアアートの変遷を理解する。そして、メディアアート特有の課題である、用語の定義の可変性と再評価の方法について考察する。		
授業計画	１回目：　講師と学生の自己紹介、授業の概要説明 ２回目：　近年のメディアアート（生物工学、遺伝子工学、宇宙開発、ロボティクス、AI） ３回目：　1950年代（インターメディア）－１ ４回目：　1950年代（インターメディア）－２ ５回目：　1960年代（カラーテレビ、大型コンピュータ）－１ ６回目：　1960年代（カラーテレビ、大型コンピュータ）－２ ７回目：　1970年代（ビデオ、パーソナル・コンピュータ）－１ ８回目：　1970年代（ビデオ、パーソナル・コンピュータ）－２ ９回目：　1980年代（衛星通信、パソコン通信、ビデオゲーム）－１ １０回目：　1980年代（衛星通信、パソコン通信、ビデオゲーム）－２ １１回目：　1990年代（WWW、デジタル技術、ソフトウェア）－１ １２回目：　1990年代（WWW、デジタル技術、ソフトウェア）－２ １３回目：　2000年代（SNS、スマートフォン、アプリ）－１ １４回目：　2000年代（SNS、スマートフォン、アプリ）－２ １５回目：　全体のまとめと振り返り		
予習・復習	予習：授業の前に、各時代の技術的要件とメディアアートの概要を記述した資料と年表を配布。普段使っている電子機器やコンピュータ、SNS（Twitter,Instagram,Facebookなど）やソフトェアについてリストアップ。自身がメディアアートだと思うものを挙げる。 復習：授業の中で随時指示を行う。		

教科書	特になし。
参考書	●白井雅人、森公一、砥綿正之、泊博雅（編）『メディアアートの教科書』フィルムアート社、2008 ●レフ・マノヴィッチ『ニューメディアの言語：デジタル時代のアート、デザイン、映画』みすず書房、2001／2013 ●馬定延『日本メディアアート史』アルテスパブリッシング、2014 ●エルキ・フータモ『メディア考古学：過去・現在・未来の対話のために』NTT出版、2015 ●アンソニー・ダン『スペキュラティヴ・デザイン 問題解決から、問題提起へ。―未来を思索するためにデザインができること』ビー・エヌ・エヌ新社、2015 ●レフ・マノヴィッチ『インスタグラムと現代視覚文化論』BNN新社、2018 ●光岡寿郎、大久保遼（編著）『スクリーン・スターディーズ』東京大学出版会、2019
教材	1950年以降のメディアアートの変遷についてまとめた年表。 過去のメディアアートの記録資料。
履修上の注意	特になし。
成績評価 **(~H29)**	授業中の課題やレポート作成をとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [A]メディアアートの変遷を理解し、芸術においてメディアアートが担う課題について考察した。 [B]メディアアートの変遷を理解した。 [C]メディアアートを概観する知見を得た。
成績評価 **(H30~)**	授業中の課題やレポート作成をとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S] メディアアートの変遷を理解し、芸術においてメディアアートが担う課題について特に秀でた考察をまとめた。 [A]メディアアートの変遷を理解し、芸術においてメディアアートが担う課題について考察した。 [B]メディアアートの変遷を理解した。 [C]メディアアートを概観する知見を得た。
主担当教員	明貫紘子

令和4年度シラバス

番号	(B1)-41	履修コード	3006Z1
科目名	色彩論	科目英語名	Chromatics
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度	R2～	毎週・集中	毎週
専攻・年次	日本画専攻2年次	曜日・時限	木曜9･10限
履修区分	選択必修	教室	美大ホール
単位	2	定員	150名
担当教員	◯寺井剛敏　（非常勤）坂本希和子・前川満良・今中博之		
授業概要	日々の表現活動や日常生活と密接な関わりを持つ色彩をさまざまな視点からとらえる。バリアフリーの立場から色彩を考える。（専門家による講義）		
到達目標	基礎理論のみならず、その背景にある歴史、社会や文化などとの関係からもその応用や可能性について考え、自分なりの色についての考え方をまとめる。		
授業計画	（１）全体オリエンテーション （２）アーチストの視点からの色彩（今中） （３）色とは？（色彩論と色の分野） ・色を照らす①（光と色-光の物理的特性） （４）色を照らす②（光と色-色の現象） ・色を見る（目の構造／色覚説／色知覚／色の生じる原理） （５）色をつくる（混色と色再現／色材） （６）カラーユニバーサルデザイン①（石川県工業試験場：前川） （７）カラーユニバーサルデザイン②（石川県工業試験場：前川） （８）色を表す（表色系／色名／カラーオーダーシステム／色見本） ・色を測る（測色） （９）色を感じる（色のイメージ／感情効果／連想／嗜好性） （10）色を組み立てる（配色／色彩調和） （11）色を読む①（色彩の象徴と文化-西洋） （12）色を読む②（色彩の象徴と文化-日本） （13）色をいかす（色彩計画／カラーマーケティング／流行色） （14）課題制作、レポート課題発表 （15）レポート提出 ※状況により講義スケジュールが変更になる事もあります。		
予習・復習	オリエンテーションで案内する。		
教科書	オリエンテーションで案内する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	プロジェクター		
履修上の注意	オリエンテーションにて案内		
成績評価 (~H29)	レポート提出をとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [A]色彩に関する知識が高いレベルで習得され、それらを応用し、自分の視点でレポートが作成されている。 [B]色彩に関する知識が習得され、それらを応用したレポートが作成されている。 [C]色彩に関する知識が習得されている。		
成績評価 (H30~)	レポート提出をとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S]色彩に関する知識が高いレベルで習得され、それらを応用し、自分の視点でレポートが作成されている。 [A]色彩に関する知識が習得され、それらを応用し、自分の視点でレポートが作成されている。 [B]色彩に関する知識が習得され、それらを応用したレポートが作成されている。 [C]色彩に関する知識が習得されている。		
主担当教員	寺井剛敏		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-42	履修コード	3006Z1
科目名	色彩論	科目英語名	Chromatics
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	油画専攻・彫刻専攻・デザイン科2年次	曜日・時限	木曜9･10限
履修区分	必修	教室	美大ホール
単位	2	定員	150名
担当教員	◯寺井剛敏　（非常勤）坂本希和子・前川満良・今中博之		
授業概要	日々の表現活動や日常生活と密接な関わりを持つ色彩をさまざまな視点からとらえる。バリアフリーの立場から色彩を考える。（専門家による講義）		
到達目標	基礎理論のみならず、その背景にある歴史、社会や文化などとの関係からもその応用や可能性について考え、自分なりの色についての考え方をまとめる。		
授業計画	（１）全体オリエンテーション （２）アーチストの視点からの色彩（今中） （３）色とは？（色彩論と色の分野） ・色を照らす①（光と色-光の物理的特性） （４）色を照らす②（光と色-色の現象） ・色を見る（目の構造／色覚説／色知覚／色の生じる原理） （５）色をつくる（混色と色再現／色材） （６）カラーユニバーサルデザイン①（石川県工業試験場：前川） （７）カラーユニバーサルデザイン②（石川県工業試験場：前川） （８）色を表す（表色系／色名／カラーオーダーシステム／色見本） ・色を測る（測色） （９）色を感じる（色のイメージ／感情効果／連想／嗜好性） （10）色を組み立てる（配色／色彩調和） （11）色を読む①（色彩の象徴と文化-西洋） （12）色を読む②（色彩の象徴と文化-日本） （13）色をいかす（色彩計画／カラーマーケティング／流行色） （14）課題制作、レポート課題発表 （15）レポート提出 ※状況により講義スケジュールが変更になる事もあります。		
予習・復習	オリエンテーションで案内する。		
教科書	オリエンテーションで案内する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	プロジェクター		
履修上の注意	オリエンテーションにて案内		
成績評価 **(~H29)**	レポート提出をとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [A]色彩に関する知識が高いレベルで習得され、それらを応用し、自分の視点でレポートが作成されている。 [B]色彩に関する知識が習得され、それらを応用したレポートが作成されている。 [C]色彩に関する知識が習得されている。		
成績評価 **(H30~)**	レポート提出をとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S]色彩に関する知識が高いレベルで習得され、それらを応用し、自分の視点でレポートが作成されている。 [A]色彩に関する知識が習得され、それらを応用し、自分の視点でレポートが作成されている。 [B]色彩に関する知識が習得され、それらを応用したレポートが作成されている。 [C]色彩に関する知識が習得されている。		
主担当教員	寺井剛敏		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-43	履修コード	3006Z1
科目名	色彩論	科目英語名	Chromatics
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分	教職必修科目（高校工芸）	開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	木曜9･10限
履修区分	選択	教室	美大ホール
単位	2	定員	150名
担当教員	◯寺井剛敏　（非常勤）坂本希和子・前川満良・今中博之		
授業概要	日々の表現活動や日常生活と密接な関わりを持つ色彩をさまざまな視点からとらえる。バリアフリーの立場から色彩を考える。（専門家による講義）		
到達目標	基礎理論のみならず、その背景にある歴史、社会や文化などとの関係からもその応用や可能性について考え、自分なりの色についての考え方をまとめる。		
授業計画	（１）全体オリエンテーション （２）アーチストの視点からの色彩（今中） （３）色とは？（色彩論と色の分野） ・色を照らす①（光と色-光の物理的特性） （４）色を照らす②（光と色-色の現象） ・色を見る（目の構造／色覚説／色知覚／色の生じる原理） （５）色をつくる（混色と色再現／色材） （６）カラーユニバーサルデザイン①（石川県工業試験場：前川） （７）カラーユニバーサルデザイン②（石川県工業試験場：前川） （８）色を表す（表色系／色名／カラーオーダーシステム／色見本） ・色を測る（測色） （９）色を感じる（色のイメージ／感情効果／連想／嗜好性） （10）色を組み立てる（配色／色彩調和） （11）色を読む①（色彩の象徴と文化-西洋） （12）色を読む②（色彩の象徴と文化-日本） （13）色をいかす（色彩計画／カラーマーケティング／流行色） （14）課題制作、レポート課題発表 （15）レポート提出 ※状況により講義スケジュールが変更になる事もあります。		
予習・復習	オリエンテーションで案内する。		
教科書	オリエンテーションで案内する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	プロジェクター		
履修上の注意	オリエンテーションにて案内		
成績評価 (~H29)	レポート提出をとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [A]色彩に関する知識が高いレベルで習得され、それらを応用し、自分の視点でレポートが作成されている。 [B]色彩に関する知識が習得され、それらを応用したレポートが作成されている。 [C]色彩に関する知識が習得されている。		
成績評価 (H30~)	レポート提出をとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S]色彩に関する知識が高いレベルで習得され、それらを応用し、自分の視点でレポートが作成されている。 [A]色彩に関する知識が習得され、それらを応用し、自分の視点でレポートが作成されている。 [B]色彩に関する知識が習得され、それらを応用したレポートが作成されている。 [C]色彩に関する知識が習得されている。		
主担当教員	寺井剛敏		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-44	履修コード	3010Z1
科目名	造形心理学	科目英語名	Psychology of Art
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週（集中含む）
専攻・年次	視覚デザイン専攻2年次	曜日・時限	月曜7･8限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	50名
担当教員	○荷方邦夫　（非常勤）青山征彦		
授業概要	本講義では、美術・造形に深くかかわる心理学的事象、特に視覚情報処理、感情・感性などについての講義を行う。また、制作活動・創作活動の「プロ」としての自己を理解するため、スキルの熟達のプロセスなどについても講義を行う。		
到達目標	美術・造形に関する教養として、芸術に関する心理学的知見を身につけ、芸術活動に資するための基礎的な力を涵養する。講義で学習した内容を用いて、実際に美術・造形表現が可能となることもあわせて求める。		
授業計画	１　視覚的認知（１単位） ◯オリエンテーション　美術・造形における心の関わり ◯目で見る・脳で観る　視知覚の生理的基礎 ◯視覚情報処理１　形・奥行 ◯視覚情報処理２　錯視 ◯視覚情報処理３　色彩の科学 ◯注意のはたらき ２　造形に関する認知活動（１単位） ◯感性・感情１　その生理学的基礎 ◯感性・感情２　デザインへの応用 ◯美感・感性認知 ◯神経美学 ◯言語と芸術 ◯創造性と思考		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。学生の自学自習を積極的に求める。		
教科書	資料を配付する。		
参考書	ソルソ著　鈴木ら訳「脳は絵をどのように理解するか」新曜社 仲谷ら編「美と造形の心理学」北大路書房		
教材	プリントや学習課題を提供する		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 **(~H29)**	到達目標に示された課題についての達成状況と考え方・見方の深化について、授業内でのミニレポートおよび最終レポートをもとに評価を行う。学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。 1%を1ポイントとして換算する。 １　期末試験の点数（50%） 客観式テストないしはレポート課題を行い，点数を直接の評価とする。 ２　授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの課題や参加については，授業内でポイント（点数）を提示する。 授業内の小課題（概ね40%），発言や積極的参加（概ね10%） 授業における発言，小課題での回答をそのつどカウントする。 評価の基準 [A]上記の基準の上１と２で80%以上のポイントを獲得している [B]上記の基準の上１と２で60%以上のポイントを獲得している [C]上記の基準の上１と２で50%以上のポイントを獲得している		
成績評価 **(H30~)**	学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。1%を1ポイントとして換算する。 １　期末試験の点数（50%） レポート課題を提示する，点数を直接の評価とする。 ２　授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの課題や参加については，授業内でポイント（点数）を提示する。 授業における発言，小課題（客観式）での回答をそのつどカウントする。 評価の基準 [A]上記の基準の上１と２で80%以上のポイントを獲得している [B]上記の基準の上１と２で70%以上のポイントを獲得している [C]上記の基準の上１と２で60%以上のポイントを獲得している		
主担当教員	荷方邦夫		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-45	履修コード	3010Z1
科目名	造形心理学	科目英語名	Psychology of Art
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分	教職必修科目（中高美術）	開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週（集中含む）
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	月曜7･8限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	50名
担当教員	○荷方邦夫　（非常勤）青山征彦		
授業概要	本講義では、美術・造形に深くかかわる心理学的事象、特に視覚情報処理、感情・感性などについての講義を行う。また、制作活動・創作活動の「プロ」としての自己を理解するため、スキルの熟達のプロセスなどについても講義を行う。		
到達目標	美術・造形に関する教養として、芸術に関する認知心理学的知見を身につけ、芸術活動に資するための基礎的な力を涵養する。講義で学習した内容を用いて、実際に美術・造形表現が可能となることもあわせて求める。		
授業計画	１　視覚的認知（１単位） ◯オリエンテーション　美術・造形における心の関わり ◯目で見る・脳で観る　視知覚の生理的基礎 ◯視覚情報処理１　形・奥行 ◯視覚情報処理２　錯視 ◯視覚情報処理３　色彩の科学 ◯注意のはたらき ２　造形に関する認知活動（１単位） ◯感性・感情１　その生理学的基礎 ◯感性・感情２　デザインへの応用 ◯美感・感性認知 ◯神経美学 ◯言語と芸術 ◯創造性と思考		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。学生の自学自習を積極的に求める		
教科書	資料を配付する。		
参考書	ソルソ著　鈴木ら訳「脳は絵をどのように理解するか」新曜社 仲谷ら編「美と造形の心理学」北大路書房		
教材	プリントや学習課題を提供する		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 **(~H29)**	到達目標に示された課題についての達成状況と考え方・見方の深化について、授業内でのミニレポートおよび最終レポートをもとに評価を行う。学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。 1%を1ポイントとして換算する。 １　期末試験の点数（50%） 客観式テストないしはレポート課題を行い，点数を直接の評価とする。 ２　授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの課題や参加については，授業内でポイント（点数）を提示する。 授業内の小課題（概ね40%），発言や積極的参加（概ね10%） 授業における発言，小課題での回答をそのつどカウントする。 評価の基準 [A]上記の基準の上１と２で80%以上のポイントを獲得している [B]上記の基準の上１と２で60%以上のポイントを獲得している [C]上記の基準の上１と２で50%以上のポイントを獲得している		
成績評価 **(H30~)**	学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。1%を1ポイントとして換算する。 １　期末試験の点数（50%） レポート課題を提示する，点数を直接の評価とする。 ２　授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの課題や参加については，授業内でポイント（点数）を提示する。 授業における発言，小課題（客観式）での回答をそのつどカウントする。 評価の基準 [A]上記の基準の上１と２で80%以上のポイントを獲得している [B]上記の基準の上１と２で70%以上のポイントを獲得している [C]上記の基準の上１と２で60%以上のポイントを獲得している		
主担当教員	荷方邦夫		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-46	履修コード	3011Z1
科目名	環境心理学	科目英語名	Environmental Psychology
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週（集中含む）
専攻・年次	製品デザイン専攻・環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	月曜7･8限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	50名
担当教員	○荷方邦夫　（非常勤）青山征彦		
授業概要	本講義では、「心理学から見た『よいデザイン』」をテーマとして、最近の認知デザイン論について講義を行う。ここでは、いわゆる美術・造形に関わるデザインに限らず、文章・図表などの視覚的表現（representation）にわたる広い範囲で授業を行う。		
到達目標	デザインに関する教養として、認知心理学に関する知見を身につけ、制作活動および製品の評価を行うための基礎的な知識を身につける。また講義で学習した内容を参考に、現存する人工物について適切な評価と改善の指針の提示を行うことができる。		
授業計画	１　オリエンテーション ２　すべての人はデザイナーである　環境心理学のテーマと課題 ３　デザイナーとユーザーのすれ違い　D．A．Norman「誰のためのデザイン？」 ４　心理学からのRe-design（１）理解と記憶のサポート ５　心理学からのRe-design（２）情報量のコントロール ６　心理学からのRe-design（３）人間にフィットさせる ７　ミスとエラーに立ち向かうデザイン　ヒューマン・エラーとエラーセーフシステム ８　快適さと環境のデザイン ９　調査・技術研究部門とのコラボレーション 10　感性のデザイン 11　近年の新しい研究から 12　集中講義　現場と実践のデザイン（青山） 13　集中講義　現場と実践のデザイン（青山） 14　授業のまとめ 15　試験・レポート提出		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。学生の自学自習を積極的に求める。		
教科書	資料を配付する。		
参考書	荷方邦夫「心を動かすデザインの秘密」（実務教育出版） Norman，D.，A「誰のためのデザイン」（新曜社） Norman，D.，A「エモーショナル・デザイン」（新曜社）		
教材	授業の中で随時指示を行う。学生の自学自習を積極的に求める。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 **(~H29)**	到達目標に示された課題についての達成状況と考え方・見方の深化について、授業内でのミニレポートおよび最終レポートをもとに評価を行う。学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。1%を1ポイントとして換算する。 １　期末試験の点数（50%） 客観式テストないしはレポート課題を行い，点数を直接の評価とする。 ２　授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの課題や参加については，授業内でポイント（点数）を提示する。 授業内の小課題（概ね40%），発言や積極的参加（概ね10%） 授業における発言，小課題での回答をそのつどカウントする。 評価の基準 [A]上記の基準の上１と２で80%以上のポイントを獲得している [B]上記の基準の上１と２で60%以上のポイントを獲得している [C]上記の基準の上１と２で50%以上のポイントを獲得している		
成績評価 **(H30~)**	学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。1%を1ポイントとして換算する。 １　期末試験の点数（50%） レポート課題を提示する，点数を直接の評価とする。 ２　授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの課題や参加については，授業内でポイント（点数）を提示する。 授業における発言，小課題（客観式）での回答をそのつどカウントする。 評価の基準 [A]上記の基準の上１と２で80%以上のポイントを獲得している [B]上記の基準の上１と２で70%以上のポイントを獲得している [C]上記の基準の上１と２で60%以上のポイントを獲得している		
主担当教員	荷方邦夫		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-47	履修コード	3014Z4
科目名	建築論	科目英語名	Theory of Architecture
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	隔週
専攻・年次	製品デザイン専攻・環境デザイン専攻3年次	曜日・時限	月曜5･6限
履修区分	必修	教室	第3教室
単位	1	定員	40名
担当教員	◯西本耕喜　（非常勤）坂本英之		
授業概要	建築や都市・集落を歴史的環境、自然・風土的環境、社会的環境の視点で捉え、人の営みによる非視覚的事象と建築や都市・集落の視覚的造形との関係を論じます。講義形式に加えグループワークなどアクティブラーニングを用います。		
到達目標	建築や都市・集落を通じて空間の形態や質と、その背景に存在する空間を秩序づける人為との関係に対する視点を修得した状態。		
授業計画	講義は下記の項目について進める。 1）　場の獲得 ２）　空間概念と建築(1)：空間の原型 ３）　空間概念と建築(2)：空間の特性（西洋と東洋） ４）　建築の空間(1)：建築の源流I（歴史的空間） ５）　建築の空間(2)：建築の源流II（風土的空間） ６）　建築の空間(3)：建築の源流III（文化的空間） ７）　建築の空間(4)：建築思潮 ８）　集落・都市の空間		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	パワーポイント		
履修上の注意	第一回目の講義でその学期のスケジュールを発表		
成績評価 (~H29)	試験（場合によってはレポート若しくは講義ノートの提出をあわせて行う）及び小テスト（随時）により単位を認定する。 [A]建築デザインに関する視野を広げ、自身の制作を高いレベルで考察することができた。 [B]建築デザインに関する視野を広げ、自身の制作を考察することができた。 [C]建築デザインに関する視野を広げることができた。		
成績評価 (H30~)	試験（場合によってはレポート若しくは講義ノートの提出をあわせて行う）及び小テスト（随時）により単位を認定する。 [S]建築デザインに関する視野を広げ、自身の制作を極めて高いレベルで考察することができた。 [A]建築デザインに関する視野を広げ、自身の制作を高いレベルで考察することができた。 [B]建築デザインに関する視野を広げ、自身の制作を考察することができた。 [C]建築デザインに関する視野を広げることができた。		
主担当教員	西本耕喜		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-48	履修コード	3052Z2
科目名	工芸技法（紙）	科目英語名	Craft Technique （Japanese Paper Making）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	
専攻・年次	日本画専攻1・2・3・4年次	曜日・時限	
履修区分	選択必修	教室	
単位	2	定員	10名程度（受講希望者多数の場合は抽選）
担当教員	○荒木恵信　（非常勤）未定		
授業概要	興味のある学生は学年、専攻を問わず受講できる。 金沢市二俣の和紙工房で和紙漉きの体験を通して和紙や原材料の特性を理解した後、これを活かした自己表現を探求する自由制作を行う。最終日に、各自の自由制作に関して意見交換を行う。 また、和紙の歴史的概観を理解する講義を行う。		
到達目標	和紙とその原材料、製造工程の理解と共に、新たな自己表現の素材としての活用法を考察する。 また、伝統技術とその保存についての考察を深める。		
授業計画	事前に説明会を行う。（説明会の詳細については事務局前の掲示板にて知らせる。説明会に不参加の者は受講できない場合がある。集中演習期間のお知らせ、希望者が多い場合の抽選もこの説明会で実施する。） 集中演習期間　８月下旬から9月上旬の連続した４日間（一日中） 場所　　斉藤博和紙工房（金沢市二俣） 定員　　興味のある学生は学年、専攻を問わず受講できるが、工房の都合で10名程度とする。希望者が多い場合は抽選とする。 準備　　各自制作に必要と考えられる材料（竹ひご・針金・接着剤など）や道具（はさみ・ペンチなど） 筆記用具 注意　　水を多量に使用する作業が多いため服装に留意すること。 授業内容 １　和紙の原材料と和紙漉きについての説明と実践 ２　各自制作及び研究 ３　まとめ、意見交換 後学期に、非常勤講師による和紙の歴史に関する講義を行う。開校日は別途連絡する。		
予習・復習	１日目終了後、各自制作の準備をすること。最終日には、和紙漉きや自由制作についての意見交換をしますので、自身のそれらについて意見をまとめておくこと。		
教科書	特になし。		
参考書	『紙の造形』（黒崎彰著　六耀社）、『手漉和紙』（竹尾洋紙店）、『日本の紙』、『紙の大百科』など本学付属図書館に和紙に関する多くの蔵書がある。これらの中から各自2冊以上選択して読んでおくこと。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	興味のある学生は学年、専攻を問わず受講できる。 希望者が多い場合は抽選とする。抽選は事前の説明会で実施する。 事前の説明会に必ず参加すること。不参加の者は受講できない場合がある。 後学期に、非常勤講師による和紙の歴史に関する講義を行うので出席すること。		
成績評価 (~H29)	授業への参加意欲　　50% 作品または研究の発表　50% 各評価で半分以上の成績を取得した学生に単位を認定する。 [A]和紙とその原材料、製造工程の深い理解と共に、新たな自己表現の素材としての深化した活用法を考察して提示できた。伝統技術とその保存についての考察と実践ができた。 [B]和紙とその原材料、製造工程の深い理解と共に、新たな自己表現の素材としての活用法を考察		

	して提示できた。伝統技術とその保存についての考察を深めた。 [C]和紙とその原材料、製造工程の理解と共に、新たな自己表現の素材としての活用法を考察できた。伝統技術とその保存についての考察を深めた。 成績評価、授業内容に関する疑問や質問などは履修届を提出する前に担当教員に確認してください。
成績評価 (H30~)	授業への参加意欲　　50**%** 作品または研究の発表　50**%** 各評価で半分以上の成績を取得した学生に単位を認定する。 [S]和紙とその原材料、製造工程の深い理解と共に、新たな自己表現の素材としての深化した活用法を考察して提示ができた。伝統技術とその保存についての考察と実践ができた。これらが特に秀でていた。 [A]和紙とその原材料、製造工程の深い理解と共に、新たな自己表現の素材としての深化した活用法を考察して提示できた。伝統技術とその保存についての考察と実践ができた。 [B]和紙とその原材料、製造工程の深い理解と共に、新たな自己表現の素材としての活用法を考察して提示できた。伝統技術とその保存についての考察を深めた。 [C]和紙とその原材料、製造工程の理解と共に、新たな自己表現の素材としての活用法を考察できた。伝統技術とその保存についての考察を深めた。 成績評価、授業内容に関する疑問や質問などは履修届を提出する前に担当教員に確認してください。
主担当教員	荒木恵信

令和4年度シラバス

番号	(B1)-49	履修コード	3886Z1
科目名	版画	科目英語名	Printmaking （Intaglio）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	芸術学専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	版画印刷室
単位	1	定員	20名程度
担当教員	神谷佳男		
授業概要	ー版画の四版種についてのレクチャー 版画・印刷の基本的な四版種(凸版、凹版、平版、孔版)について、パワーポイントを用いて解説する。 ー銅版画制作 銅版画技法を学ぶ。		
到達目標	版画の四版種の特性を理解する。 腐蝕銅版画の基本的な原理と技術を理解する。 腐蝕法と直刻法に大別される様々な凹版画技法について理解を深めるとともに、それらの表現の可能性を試みる。		
授業計画	初日 版画・印刷の歴史的背景についてのレクチャー 各版種の技術的な特性の違いと版画・印刷の歴史的背景について学ぶ。 銅版画技法について解説 直刻法、腐蝕法、その他、様々な防蝕被膜の原料について解説する。 二日目 銅版画技法と制作工程の説明 共同作品の制作を通して、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチントの各技法を説明　油性インクの特徴の説明と刷りの実演を行う。 三日目～ 主題の決定から表現に適した銅版画技法の選択まで、個別に助言と指導を行う。 制作の進捗状況により、適宜技術的な助言をする。 最終日 10:00 制作と印刷終了 10:20 後片付け、掃除を終了 10:20 プレゼンテーション 11:50 アンケート記入、銅版の保存作業、作品提出		
予習・復習	18×24cm以下のサイズの下絵を予め準備しておくこと。 銅版画に関する参考書やYouTubeで予め調べておくと良い。		
教科書	なし。ただし製版工程の作業説明案内(A4)を配布する。また、参考文献を参照のこと。		
参考書	『中林忠良の銅版画』中林　忠良　著、河出書房新社 『銅版画のテクニック』深澤　幸雄　著、ダヴィッド社 『銅版画のマチエール』駒井　哲郎　著、美術出版社 『世界版画全史』黒崎　彰　著、阿部出版株式会社		
教材	180×240㎜厚さ0.8㎜の銅板とハーネミューレを使用。 各自売店で購入のこと。		
履修上の注意	初日と最終日は必ず出席のこと。初日の欠席は不認定となる場合がある。		
成績評価 **(~H29)**	配点　作品評価90%　プレゼンテーション10%（テーマ・技法等についての明快な説明） [A]絵画の造形的諸要素（明暗の対比を含む画面構成）と共に、高い技術（刷りの美しさなど）に裏付けされた優れた発想の作品 [B]銅版画技法のヴァリエーションがあり、絵画の基礎的なレベルに到達している作品 [C]時間をかけて制作に取り組み、銅版画の技法の習得が認められる作品		
成績評価 **(H30~)**	配点　作品評価90%　プレゼンテーション10%（テーマ・技法についての明快な説明） [S]優れた発想力と共に、高度な造形力、技術力に裏付けされた作品 [A]絵画の造形的諸要素（明暗の対比を含む画面構成）と共に、高い技術（刷りの美しさなど）に裏付けされた優れた発想の作品 [B]銅版画技法のヴァリエーションがあり、絵画の基礎的なレベルに到達している作品 [C]時間をかけて制作に取り組み、銅版画の技法の習得が認められる作品		
主担当教員	神谷佳男		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-50	履修コード	3812Z1
科目名	保存修復概論	科目英語名	Theory of Conservation and Restoration
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1・2・3・4年次	曜日・時限	火曜9･10限
履修区分	自由	教室	第2教室
単位	2	定員	10名程度
担当教員	○荒木恵信　（非常勤）他未定		
授業概要	興味のある学生は専攻、学年を問わず誰でも受講できます。 美術に携わる作家や研究者が文化財保存にどのような貢献をできるかについて考察します。 講義では文化財の保存と修復の基本となる理論と方法についての他、文化財修理の事例の紹介や芸術家や研究者による文化財保存の活動の報告をします。また、金沢市内の文化財保存修復施設の現地見学や実際に保存修復に携わっている非常勤講師による講義により文化財保存の『現在とこれから』を見つめます。		
到達目標	文化財の保存修復の基本的な理論を習得し、これまでの多岐にわたる文化財保存の実践を理解できる。また、自らも美術に関わる者として文化財保存に貢献する意識を高め、自己の制作や研究においてもその観点を加味した考察ができる。		
授業計画	１　なぜ文化財をのこさなくてはいけないのか？ 　　映像資料や自己の体験などを通して文化財について考察する。 ２　文化財と保存 　　文化財とは何かを再度検討し、その保存の意義を考察する。 ３　文化財を守る（１） 　　文化財を取り巻く環境と管理について ４　文化財を守る（２） 　　文化財を取り巻く人々について ５　文化財をなおす 　　修復の基本について ６　文化財修理の事例 　　修理はどのように始まり、完了するのか。修理報告書を参考に修理の工程をみる ７　金沢市内の文化財保存修復施設または文化財指定物件の見学（１） 　　金沢市内にある修復工房などを見学して、文化財保存の現状を現場で学ぶ ８　金沢市内の文化財保存修復施設または文化財指定物件の見学（２） ９　文化財保護法　戦前の文化財保護行政について 10　文化財保護法　現行の保護行政について 11　文化財保存修復の「現在とこれから」について （12）文化財保存修復の「現在とこれから」（１）非常勤講師による講義 （13）文化財保存修復の「現在とこれから」（２）非常勤講師による講義 （14）複合媒材の保存と修復について 15　試験（レポート提出） 講義の順番は、見学施設や非常勤講師の都合などで入れ替わる場合があります。 毎回講義の最後に簡単な授業メモを提出してもらいます。 金沢市内の文化財保存修復施設または文化財指定物件の見学には大学のバスで移動しますので、集合場所と時間に注意して下さい。 止むを得ず授業計画が変更される場合は、その都度お知らせします。		
予習・復習	随時配布する資料を読んでください。 講義の前半に興味のある文化財について質問しますので、名称を調べておいてください。		
教科書	特になし。		
参考書	文化財保護法など、随時配布します。		
教材	文化財保存修復に関する映像資料など。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 **(~H29)**	学期末レポート　50%　授業メモ（随時）30%　授業への参加意欲　20% [A]授業内容をよく理解し、経験等も踏まえて自らの考察を述べられる。 [B]授業内容を理解し、自らの考察を交えて意見を述べられる。 [C]授業内容を理解し、文章化できる。		

	成績評価、授業内容に関する疑問や質問などは履修届を提出する前に担当教員に確認してください。
成績評価 **(H30~)**	学期末レポート　50**%**　授業メモ（随時）30**%**　授業への参加意欲　20**%** [S]授業内容をよく理解し、経験等も踏まえて自らの考察を述べられる。これらが特に秀でている。 [A]授業内容をよく理解し、経験等も踏まえて自らの考察を述べられる。 [B]授業内容を理解し、自らの考察を交えて意見を述べられる。 [C]授業内容を理解し、文章化できる。 成績評価、授業内容に関する疑問や質問などは履修届を提出する前に担当教員に確認してください。
主担当教員	荒木恵信

令和4年度シラバス

番号	(B1)-53	履修コード	3890Z1
科目名	現代美術演習	科目英語名	contemporary art practice
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度	R2～	毎週・集中	毎週および集中
専攻・年次	日本画専攻1	曜日・時限	月曜5～６限および集中（後日掲示）
履修区分	選択必修	教室	研修室もしくは映像メディア室
単位	2	定員	25名
担当教員	◯よしだぎょうこ		
授業概要	歴史的に知名度の高い作品を分析し作家の方法論の発露を追体験することで、ぶれない作品の核心、表現強度とは何かを体験的に考察し、自己表現を反証する思考方法を学ぶ演習である。		
到達目標	メディア（形式）転換しても変わらない作品の構造について探求すると共に、変容する時代に 追随して変わる市場価値／表現について考察し、独自な作品とコンセプトの整合性を獲得する。		
授業計画	● ～天才になろう～ 「天才」を、自分の視点で分析する。 北斎、若冲、郭熙、ピカソ、ウォーホル等、東西の作家がどんな発想で作品を作っていたか、思考の発露と技術の結びつきを探り、作品表現やコンセプトの整合性を分析し、天才から学ぼう。 具体的には、フォトレタッチ若くはそれに準ずる土台を使って制作を行い、ディスカッション／自己分析／制作を交互に挟む授業工程の中で、思考の方法論を多角的に分析し、反証していく。 【なりきって作ってみる】 1.　オリエンテーション （◯これから何を学ぶのか　◯共通のメジャー作家を選ぶ） 2.　素材と方向性 （◯土台の写真を撮影　◯プランシートを作ろう） 3～4.　表現とコンセプト （◯天才と呼ばれる作家の作品コンセプトを分析してみよう） 5.　ディスカッション （◯俺ピカソ私北斎、ディベートで主観を客観視しよう） 6～7.　反証と確立 （◯ 他者の意見を取り入れる） 8.　プレゼン （◯どこを変えたか、なぜ変えたか。思考の転換地点を発見しよう） ●自分の「発想の原点」を突き詰める。 自分の思考の盲点を探す方法論を学べば独りよがりな判断を避けて、構想の強度を高める。 主観を解体し、検証し、ぶれない軸は何なのかをあぶり出す、思考法の会得を目的とする。 【多角的に反証し、検証し、確立する】 9.　社会背景 （◯画材と精神性の結びつき　◯視点の構造の独自性） 10.　個性と大衆性 （◯市場クライテリアで自身の作品に値段をつけてみる） 11～15.　制作と企画 （◯発表を成立させる具体的な実務を学び、企画を立てる） ＜集中＞　上記15回の演習から得た学びにより、自身の作品コンセプトと表現の整合性を多角的に反証し、確立する。作品のぶれない軸となる発想の表現領域を広げ、企画展示等で、作家活動に必要な現場力を養成する。		
予習・復習	オリエンテーションで案内する		
教科書	オリエンテーションで案内する　「現代美術演習　授業課題集」「現代美術演習　学生作品例集」を使用して進めていきます。この2冊は、授業の始まりに貸与しますので、最後に返却のこと。		
参考書	適宜指示する　「現代美術演習　授業課題集」「現代美術演習　学生作品例集」を使用して進めていきます。この2冊は、授業の始まりに貸与しますので、最後に返却のこと。		
教材	コンピューターなど、自身の制作にまつわる素材や道具などを各自準備		

履修上の注意	オリエンテーションで案内する
成績評価 **(~H29)**	
成績評価 **(H30~)**	各種提出物と集中の成果を以下の採点基準で評価する。 ［S］メディアを転換しても変わらない作品の構造について理解し、作品とコンセプトの整合性を獲得した上で、強度と精度を持って思考方法を確立し、独自な表現を発表できた。 ［A］メディアを転換しても変わらない作品の構造について理解し、思考方法を学び、作品とコンセプトの整合性 を探求した上で、表現を発表できた。 ［B］メディアを転換しても変わらない作品の構造について学習し、作品とコンセプトの整合性を考察した上で、表現を発表できた。 ［C］メディアを転換しても変わらない作品の構造について学習し、表現を発表できた。
主担当教員	よしだぎょうこ

令和4年度シラバス

番号	(B1)-54	履修コード	3890Z1
科目名	現代美術演習	科目英語名	contemporary art practice
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度	R2～	毎週・集中	毎週および集中
専攻・年次	全専攻全学年1・2・3・4年次　及び院生	曜日・時限	月曜5～6限および集中（後日掲示）
履修区分	自由	教室	研修室もしくは映像メディア室
単位	2	定員	25名
担当教員	よしだぎょうこ		
授業概要	歴史的に知名度の高い作品を分析し作家の方法論の発露を追体験することで、ぶれない作品の核心、表現強度とは何かを体験的に考察し、自己表現を反証する思考方法を学ぶ演習である。		
到達目標	メディア（形式）転換しても変わらない作品の構造について探求すると共に、変容する時代に 追随して変わる市場価値／表現について考察し、独自な作品とコンセプトの整合性を獲得する。		
授業計画	～天才になろう～ ●「天才」を、自分の視点で分析する。 北斎、若冲、郭熙、ピカソ、ウォーホル等、東西の作家がどんな発想で作品を作っていたか、思考の発露と技術の結びつきを探り、作品表現やコンセプトの整合性を分析し、天才から学ぼう。具体的には、フォトレタッチ若くはそれに準ずる土台を使って制作を行い、ディスカッション／自己分析／制作を交互に挟む授業工程の中で、思考の方法論を多角的に分析し、反証していく。 【なりきって作ってみる】 1.　オリエンテーション （◯これから何を学ぶのか　◯共通のメジャー作家を選ぶ） 2.　素材と方向性 （◯土台の写真を撮影　◯プランシートを作ろう） 3～4.　表現とコンセプト （◯天才と呼ばれる作家の作品コンセプトを分析してみよう） 5.　ディスカッション （◯俺ピカソ私北斎、ディベートで主観を客観視しよう） 6～7.　反証と確立 （◯ 他者の意見を取り入れる） 8.　プレゼン （◯どこを変えたか、なぜ変えたか。思考の転換地点を発見しよう） ●自分の「発想の原点」を突き詰める。 自分の思考の盲点を探す方法論を学べば独りよがりな判断を避けて、構想の強度を高められます。主観を解体し、反証し、ぶれない軸は何なのかをあぶり出す思考法の会得を、目的とします。 【多角的に反証し、検証し、確立する】 9.　社会背景 （◯画材と精神性の結びつき　◯視点の構造の独自性） 10.　個性と大衆性 （◯市場クライテリアで自身の作品に値段をつけてみる） 11～15.　制作と企画 （◯発表を成立させる具体的な実務を学び、企画を立てる） ＜集中＞　上記15回の演習から得た学びにより、自身の作品コンセプトと表現の整合性を多角的に反証し、確立する。作品のぶれない軸となる発想の表現領域を広げ、企画展示等で、作家活動に必要な現場力を養成する。		
予習・復習	オリエンテーションで案内する		
教科書	オリエンテーションで案内する　「現代美術演習　授業課題集」「現代美術演習　学生作品例集」を使用して進めていきます。この2冊は、授業の始まりに貸与しますので、最後に返却のこと。		

参考書	適宜指示する　「現代美術演習　授業課題集」「現代美術演習　学生作品例集」を使用して進めていきます。この2冊は、授業の始まりに貸与しますので、最後に返却のこと。
教材	コンピューターなど、自身の制作にまつわる素材や道具などを各自準備
履修上の注意	オリエンテーションで案内する
成績評価 **(~H29)**	
成績評価 **(H30~)**	各種提出物と集中の成果を以下の採点基準で評価する。 ［S］メディアを転換しても変わらない作品の構造について理解し、作品とコンセプトの整合性を獲得した上で、強度と精度を持って思考方法を確立し、独自な表現を発表できた。 ［A］メディアを転換しても変わらない作品の構造について理解し、思考方法を学び、作品とコンセプトの整合性 を探求した上で、表現を発表できた。 ［B］メディアを転換しても変わらない作品の構造について学習し、作品とコンセプトの整合性を考察した上で、表現を発表できた。 ［C］メディアを転換しても変わらない作品の構造について学習し、表現を発表できた。
主担当教員	よしだぎょうこ

令和4年度シラバス

番号	(B1)-55	履修コード	3901Z1
科目名	絵画Ⅰ（素描・模写）	科目英語名	Drawing （Reproduction）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	荒木恵信		
授業概要	本学所蔵「架鷹図屏風」の現状模写を通して、日本絵画の表現方法を学ぶ。 作品を正確に写しとる現状模写によって、日本絵画におけるモチーフの捉え方や描写方法など絵画の造形的諸要素を学ぶと共に、和紙や筆などを用いた伝統的な技術・技法の実践も加えて絵画表現全般についての理解を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	手本の詳細な観察を行いながらこれを写し描くことによって、日本絵画の表現方法を理解し、平面表現及び創作の基礎を身につける。 また、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養い、絵画表現の多様性や美術文化について理解を深める。		
授業計画	1日目 手本となる「架鷹図屏風」及び日本絵画の概要の説明 現状模写の進め方についての説明 現状模写の準備 2日目 線描、墨、筆などについての説明 現状模写の開始 3日目 ～7日目 手本に描かれる鷹について、実際のタカなども参考にしながら現状模写を進める 屏風や掛け軸など表装についての考察を深める 胡粉や朱など日本絵画の絵具について理解を深める 8日目 講評 現状模写に使用する手本は「架鷹図屏風」の印刷画像を使用する。 授業期間内に実際の「架鷹図屏風」の調査・観賞に機会を設ける。		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	授業について質問がある場合は、履修登録の前や後でも構いませんので、担当教員に聞いてください。		
成績評価 (~H29)	[A] 現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品が高いレベルに達している。 [B] 現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品に十分な取り組みがなされている。 [C]現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品が一定のレベルに達している。		
成績評価 (H30~)	[S] 現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品が特に秀でたレベルに達している。 [A] 現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品が高いレベルに達している。 [B] 現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品に十分な取り組みがなされている。 [C]現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品が一定のレベルに達している。		
主担当教員	荒木恵信		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-56	履修コード	3903Z1
科目名	絵画Ⅰ（素描・人体）	科目英語名	Drawing （After Nude Model）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	20名程度
担当教員	大森　啓		
授業概要	裸婦モデルの観察と描写を通して、正確な人体構造の把握に努める。 人体素描を通して、形態、明暗の調子、画面構成(構図)など、絵画の造形的諸要素や原理を学ぶと共に、絵画表現全般について理解を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	観察と描写を通して、正確な人体構造を把握するとともに、平面表現の基礎、創作の基礎を身につける。 さらに、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養い、絵画表現の多様性や美術文化について理解を深める。		
授業計画	1日目 授業概説　素描用具の説明 クロッキー 限られた時間の中で人体のプロポーションおよび構造を把握し、線等によって描写する。また、様々な角度からのクロッキーを通して、人体の骨格と筋肉の関係についての理解を深める。 2日目 クロッキー 3日目 木炭デッサン 木炭デッサンの用具の使用方法やデッサンの姿勢等について学ぶ。 4日目～7日目 木炭デッサン（固定ポーズ） 人体を深く観察することで、プロポーションと構造を理解しつつ、デッサンの線、明暗、画面構成などの要素について実践的に学ぶ。また素描用具としての木炭の明暗等の美しさに触れることで、デッサンの美しさについての意識を高める。 8日目　＊2限目まで 講評		
予習・復習	制作準備		
教科書	なし。		
参考書	特になし。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	適宜指示する。		
成績評価 (~H29)	個々の課題の到達度、および積極的な授業参加の態度を総合して評価する。 [A]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が高いレベルで表現されている。 [B]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等に十分な取り組みがなされている。 [C]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が一定のレベルに達している。		
成績評価 (H30~)	個々の課題の到達度、および積極的な授業参加の態度を総合して評価する。 [S]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が特に秀でたレベルで表現されている。 [A]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が高いレベルで表現されている。 [B]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等に十分な取り組みがなされている。 [C]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が一定のレベルに達している。		
主担当教員	大森　啓		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-57	履修コード	3901Z1
科目名	絵画Ⅰ（素描・模写）	科目英語名	Drawing （Reproduction）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	デザイン科（製品デザイン専攻除く）1年次	曜日・時限	1〜4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	荒木恵信		
授業概要	本学所蔵「架鷹図屏風」の現状模写を通して、日本絵画の表現方法を学ぶ。 作品を正確に写しとる現状模写によって、日本絵画におけるモチーフの捉え方や描写方法など絵画の造形的諸要素を学ぶと共に、和紙や筆などを用いた伝統的な技術・技法の実践も加えて絵画表現全般についての理解を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	手本の詳細な観察を行いながらこれを写し描くことによって、日本絵画の表現方法を理解し、平面表現及び創作の基礎を身につける。 また、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養い、絵画表現の多様性や美術文化について理解を深める。		
授業計画	1日目 手本となる「架鷹図屏風」及び日本絵画の概要の説明 現状模写の進め方についての説明 現状模写の準備 2日目 線描、墨、筆などについての説明 現状模写の開始 3日目 〜7日目 手本に描かれる鷹について、実際のタカなども参考にしながら現状模写を進める 屏風や掛け軸など表装についての考察を深める 胡粉や朱など日本絵画の絵具について理解を深める 8日目 講評 現状模写に使用する手本は「架鷹図屏風」の印刷画像を使用する。 授業期間内に実際の「架鷹図屏風」の調査・観賞に機会を設ける。		
予習・復習	適宜指示する		
教科書	適宜指示する		
参考書	適宜指示する		
教材	適宜指示する		
履修上の注意	授業について質問がある場合は、履修登録の前や後でも構いませんので、担当教員に聞いてください。		
成績評価 (~H29)	[A] 現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品が高いレベルに達している。 [B] 現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品に十分な取り組みがなされている。 [C]現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品が一定のレベルに達している。		
成績評価 (H30~)	[S] 現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品が特に秀でたレベルに達している。 [A] 現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品が高いレベルに達している。 [B] 現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品に十分な取り組みがなされている。 [C]現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品が一定のレベルに達している。		
主担当教員	荒木恵信		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-58	履修コード	3903Z1
科目名	絵画Ⅰ（素描・人体）	科目英語名	Drawing （After Nude Model）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	デザイン科（製品デザイン専攻除く）1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	20名程度
担当教員	大森　啓		
授業概要	裸婦モデルの観察と描写を通して、正確な人体構造の把握に努める。 人体素描を通して、形態、明暗の調子、画面構成(構図)など、絵画の造形的諸要素や原理を学ぶと共に、絵画表現全般について理解を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	観察と描写を通して、正確な人体構造を把握するとともに、平面表現の基礎、創作の基礎を身につける。 さらに、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養い、絵画表現の多様性や美術文化について理解を深める。		
授業計画	1日目 授業概説　素描用具の説明 クロッキー 限られた時間の中で人体のプロポーションおよび構造を把握し、線等によって描写する。また、様々な角度からのクロッキーを通して、人体の骨格と筋肉の関係についての理解を深める。 2日目 クロッキー 3日目 木炭デッサン 木炭デッサンの用具の使用方法やデッサンの姿勢等について学ぶ。 4日目～7日目 木炭デッサン（固定ポーズ） 人体を深く観察することで、プロポーションと構造を理解しつつ、デッサンの線、明暗、画面構成などの要素について実践的に学ぶ。また素描用具としての木炭の明暗等の美しさに触れることで、デッサンの美しさについての意識を高める。 8日目　＊2限目まで 講評		
予習・復習	制作準備		
教科書	なし。		
参考書	なし。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	適宜指示する。		
成績評価 (~H29)	個々の課題の到達度、および積極的な授業参加の態度を総合して評価する。 [A]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が高いレベルで表現されている。 [B]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等に十分な取り組みがなされている。 [C]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が一定のレベルに達している。		
成績評価 (H30~)	個々の課題の到達度、および積極的な授業参加の態度を総合して評価する。 [S]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が特に秀でたレベルで表現されている。 [A]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が高いレベルで表現されている。 [B]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等に十分な取り組みがなされている。 [C]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が一定のレベルに達している。		
主担当教員	大森　啓		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-59	履修コード	3901Z2
科目名	絵画Ⅰ（素描・模写）	科目英語名	Drawing （Reproduction）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	荒木恵信		
授業概要	本学所蔵「架鷹図屏風」の現状模写を通して、日本絵画の表現方法を学ぶ。 作品を正確に写しとる現状模写によって、日本絵画におけるモチーフの捉え方や描写方法など絵画の造形的諸要素を学ぶと共に、和紙や筆などを用いた伝統的な技術・技法の実践も加えて絵画表現全般についての理解を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	手本の詳細な観察を行いながらこれを写し描くことによって、日本絵画の表現方法を理解し、平面表現及び創作の基礎を身につける。 また、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養い、絵画表現の多様性や美術文化について理解を深める。		
授業計画	1日目 手本となる「架鷹図屏風」及び日本絵画の概要の説明 現状模写の進め方についての説明 現状模写の準備 2日目 線描、墨、筆などについての説明 現状模写の開始 3日目 ～7日目 手本に描かれる鷹について、実際のタカなども参考にしながら現状模写を進める 屏風や掛け軸など表装についての考察を深める 胡粉や朱など日本絵画の絵具について理解を深める 8日目 講評 現状模写に使用する手本は「架鷹図屏風」の印刷画像を使用する。 授業期間内に実際の「架鷹図屏風」の調査・観賞に機会を設ける。		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	授業について質問がある場合は、履修登録の前や後でも構いませんので、担当教員に聞いてください。		
成績評価 (~H29)	[A] 現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品が高いレベルに達している。 [B] 現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品に十分な取り組みがなされている。 [C]現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品が一定のレベルに達している。		
成績評価 (H30~)	[S] 現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品が特に秀でたレベルに達している。 [A] 現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品が高いレベルに達している。 [B] 現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品に十分な取り組みがなされている。 [C]現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品が一定のレベルに達している。		
主担当教員	荒木恵信		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-60	履修コード	3903Z2
科目名	絵画Ⅰ（素描・人体）	科目英語名	Drawing （After Nude Model）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	20名程度
担当教員	高橋治希		
授業概要	裸婦モデルの観察と描写を通して、正確な人体構造の把握に努める。 人体素描を通して、形態、明暗の調子、画面構成(構図)など、絵画の造形的諸要素や原理を学ぶと共に、絵画表現全般について理解を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	観察と描写を通して、正確な人体構造を把握するとともに、平面表現の基礎、創作の基礎を身につける。 さらに、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養い、絵画表現の多様性や美術文化について理解を深める。		
授業計画	1日目 授業概説　素描用具の説明 クロッキー 限られた時間の中で人体のプロポーションおよび構造を把握し、線等によって描写する。また、様々な角度からのクロッキーを通して、人体の骨格と筋肉の関係についての理解を深める。 2日目 クロッキー 3日目 木炭デッサン 木炭デッサンの用具の使用方法やデッサンの姿勢等について学ぶ。 4日目～7日目 木炭デッサン（固定ポーズ） 人体を深く観察することで、プロポーションと構造を理解しつつ、デッサンの線、明暗、画面構成などの要素について実践的に学ぶ。また素描用具としての木炭の明暗等の美しさに触れることで、デッサンの美しさについての意識を高める。 8日目　＊2限目まで 講評		
予習・復習	制作準備		
教科書	なし。		
参考書	なし。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	適宜指示する。		
成績評価 (~H29)	個々の課題の到達度、および積極的な授業参加の態度を総合して評価する。 [A]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が高いレベルで表現されている。 [B]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等に十分な取り組みがなされている。 [C]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が一定のレベルに達している。		
成績評価 (H30~)	個々の課題の到達度、および積極的な授業参加の態度を総合して評価する。 [S]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が特に秀でたレベルで表現されている。 [A]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が高いレベルで表現されている。 [B]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等に十分な取り組みがなされている。 [C]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が一定のレベルに達している。		
主担当教員	高橋治希		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-61	履修コード	3901Z2
科目名	絵画Ⅰ（素描・模写）	科目英語名	Drawing （Reproduction）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	荒木恵信		
授業概要	本学所蔵「架鷹図屏風」の現状模写を通して、日本絵画の表現方法を学ぶ。 作品を正確に写しとる現状模写によって、日本絵画におけるモチーフの捉え方や描写方法など絵画の造形的諸要素を学ぶと共に、和紙や筆などを用いた伝統的な技術・技法の実践も加えて絵画表現全般についての理解を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	手本の詳細な観察を行いながらこれを写し描くことによって、日本絵画の表現方法を理解し、平面表現及び創作の基礎を身につける。 また、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養い、絵画表現の多様性や美術文化について理解を深める。		
授業計画	1日目 手本となる「架鷹図屏風」及び日本絵画の概要の説明 現状模写の進め方についての説明 現状模写の準備 2日目 線描、墨、筆などについての説明 現状模写の開始 3日目 ～7日目 手本に描かれる鷹について、実際のタカなども参考にしながら現状模写を進める 屏風や掛け軸など表装についての考察を深める 胡粉や朱など日本絵画の絵具について理解を深める 8日目 講評 現状模写に使用する手本は「架鷹図屏風」の印刷画像を使用する。 授業期間内に実際の「架鷹図屏風」の調査・観賞に機会を設ける。		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	授業について質問がある場合は、履修登録の前や後でも構いませんので、担当教員に聞いてください。		
成績評価 (~H29)	[A] 現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品が高いレベルに達している。 [B] 現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品に十分な取り組みがなされている。 [C]現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品が一定のレベルに達している。		
成績評価 (H30~)	[S] 現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品が特に秀でたレベルに達している。 [A] 現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品が高いレベルに達している。 [B] 現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品に十分な取り組みがなされている。 [C]現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品が一定のレベルに達している。		
主担当教員	荒木恵信		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-62	履修コード	3903Z2
科目名	絵画Ⅰ（素描・人体）	科目英語名	Drawing （After Nude Model）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	20名程度
担当教員	高橋治希		
授業概要	裸婦モデルの観察と描写を通して、正確な人体構造の把握に努める。 人体素描を通して、形態、明暗の調子、画面構成(構図)など、絵画の造形的諸要素や原理を学ぶと共に、絵画表現全般について理解を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	観察と描写を通して、正確な人体構造を把握するとともに、平面表現の基礎、創作の基礎を身につける。 さらに、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養い、絵画表現の多様性や美術文化について理解を深める。		
授業計画	1日目 授業概説　素描用具の説明 クロッキー 限られた時間の中で人体のプロポーションおよび構造を把握し、線等によって描写する。また、様々な角度からのクロッキーを通して、人体の骨格と筋肉の関係についての理解を深める。 2日目 クロッキー 3日目 木炭デッサン 木炭デッサンの用具の使用方法やデッサンの姿勢等について学ぶ。 4日目～7日目 木炭デッサン（固定ポーズ） 人体を深く観察することで、プロポーションと構造を理解しつつ、デッサンの線、明暗、画面構成などの要素について実践的に学ぶ。また素描用具としての木炭の明暗等の美しさに触れることで、デッサンの美しさについての意識を高める。 8日目　＊2限目まで 講評		
予習・復習	制作準備		
教科書	特になし。		
参考書	特になし。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	適宜指示する。		
成績評価 **(~H29)**	個々の課題の到達度、および積極的な授業参加の態度を総合して評価する。 [A]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が高いレベルで表現されている。 [B]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等に十分な取り組みがなされている。 [C]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が一定のレベルに達している。		
成績評価 **(H30~)**	個々の課題の到達度、および積極的な授業参加の態度を総合して評価する。 [S]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が特に高いレベルで表現されている。 [A]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が高いレベルで表現されている。 [B]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等に十分な取り組みがなされている。 [C]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が一定のレベルに達している。		
主担当教員	高橋治希		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-63	履修コード	3901Z2
科目名	絵画Ⅰ（素描・模写）	科目英語名	Drawing （Reproduction）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	荒木恵信		
授業概要	本学所蔵「架鷹図屏風」の現状模写を通して、日本絵画の表現方法を学ぶ。 作品を正確に写しとる現状模写によって、日本絵画におけるモチーフの捉え方や描写方法など絵画の造形的諸要素を学ぶと共に、和紙や筆などを用いた伝統的な技術・技法の実践も加えて絵画表現全般についての理解を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	手本の詳細な観察を行いながらこれを写し描くことによって、日本絵画の表現方法を理解し、平面表現及び創作の基礎を身につける。 また、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養い、絵画表現の多様性や美術文化について理解を深める。		
授業計画	1日目 手本となる「架鷹図屏風」及び日本絵画の概要の説明 現状模写の進め方についての説明 現状模写の準備 2日目 線描、墨、筆などについての説明 現状模写の開始 3日目 ～7日目 手本に描かれる鷹について、実際のタカなども参考にしながら現状模写を進める 屏風や掛け軸など表装についての考察を深める 胡粉や朱など日本絵画の絵具について理解を深める 8日目 講評 現状模写に使用する手本は「架鷹図屏風」の印刷画像を使用する。 授業期間内に実際の「架鷹図屏風」の調査・観賞に機会を設ける。		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	授業について質問がある場合は、履修登録の前や後でも構いませんので、担当教員に聞いてください。		
成績評価 (~H29)	[A] 現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品が高いレベルに達している。 [B] 現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品に十分な取り組みがなされている。 [C]現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品が一定のレベルに達している。		
成績評価 (H30~)	[S] 現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品が特に秀でたレベルに達している。 [A] 現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品が高いレベルに達している。 [B] 現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品に十分な取り組みがなされている。 [C]現状模写対象作品の表現方法と共に、日本絵画の技術・技法を理解した上で、模写作品が一定のレベルに達している。		
主担当教員	荒木恵信		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-64	履修コード	3903Z2
科目名	絵画Ⅰ（素描・人体）	科目英語名	Drawing （After Nude Model）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	20名程度
担当教員	高橋治希		
授業概要	裸婦モデルの観察と描写を通して、正確な人体構造の把握に努める。 人体素描を通して、形態、明暗の調子、画面構成(構図)など、絵画の造形的諸要素や原理を学ぶと共に、絵画表現全般について理解を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	観察と描写を通して、正確な人体構造を把握するとともに、平面表現の基礎、創作の基礎を身につける。 さらに、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養い、絵画表現の多様性や美術文化について理解を深める。		
授業計画	1日目 授業概説　素描用具の説明 クロッキー 限られた時間の中で人体のプロポーションおよび構造を把握し、線等によって描写する。また、様々な角度からのクロッキーを通して、人体の骨格と筋肉の関係についての理解を深める。 2日目 クロッキー 3日目 木炭デッサン 木炭デッサンの用具の使用方法やデッサンの姿勢等について学ぶ。 4日目～7日目 木炭デッサン（固定ポーズ） 人体を深く観察することで、プロポーションと構造を理解しつつ、デッサンの線、明暗、画面構成などの要素について実践的に学ぶ。また素描用具としての木炭の明暗等の美しさに触れることで、デッサンの美しさについての意識を高める。 8日目　＊2限目まで 講評		
予習・復習	制作準備		
教科書	なし。		
参考書	なし。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	適宜指示する。		
成績評価 **(~H29)**	個々の課題の到達度、および積極的な授業参加の態度を総合して評価する。 [A]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が高いレベルで表現されている。 [B]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等に十分な取り組みがなされている。 [C]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が一定のレベルに達している。		
成績評価 **(H30~)**	個々の課題の到達度、および積極的な授業参加の態度を総合して評価する。 [S]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が特に高いレベルで表現されている。 [A]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が高いレベルで表現されている。 [B]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等に十分な取り組みがなされている。 [C]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が一定のレベルに達している。		
主担当教員	高橋治希		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-65	履修コード	3904Z1
科目名	絵画Ⅱ（版画）	科目英語名	Printmaking （Intaglio）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	1〜4限
履修区分	必修	教室	版画印刷室(研究所棟4階)
単位	1	定員	20名程度
担当教員	（非常勤）岩瀬貴憲		
授業概要	銅版画制作を通して、銅版画技法の基本を習得し、絵画を鑑賞する感性や能力を養う。 版画・印刷の四版種(凸版、凹版、平版、孔版)についてレクチャーをおこなう。 なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	版画の四版種の特性について理解する。 銅版画技法の基本(製版、刷り等)を習得する。 銅版画制作を通して銅版画表現の特徴(銅版の素材としての可能性やマチエールについて)、また昨今の版表現の多様性について理解を深め、銅版画制作を通して創作について考える機会とする。		
授業計画	銅版画技法について解説 直刻法と腐蝕法について ドライポイント、エングレーヴィング(ビュラン)、メゾチント、エッチング、 アクアチント等の説明 ・ニードルによるドライポイントを含めたエッチングの共同作品の制作 ・銅版画の作業工程の説明 ・共同作品を用いて、エッチングの作業工程のデモンストレーション （腐蝕の仕方、インクの拭き取り方、アクアチントの作業の手順等を説明） 各自、下絵やアイデアスケッチ等をもとに制作を開始 個々の表現や進捗状況に応じて、個別にあるいは全員に助言をする。 最終日 9：10　制作・刷りの終了 9：15　プレゼンテーション　作品の意図、使用した技法等の解説を含めた発表 10：20　全作品を提出 その他、版画の四版種についてのレクチャーを通して、版画・印刷の歴史的文化的背景についても理解を深める。		
予習・復習	18×24cm以下のサイズの下絵(オリジナル作品)を予め準備しておくこと。 Youtubeやインターネットで銅版画を検索し、調べておくこと。		
教科書	なし。ただし製版の説明案内（A4）を配付する。		
参考書	『中林忠良の銅版画』中林忠良　著 アートテクニック・ナウ15(河出書房新社) 『銅版画のテクニック』深澤幸雄　著(ダヴィッド社) 『銅版画のマチエール』駒井哲郎（美術出版社）		
教材	180×240×0.8㎜の銅板とハーネミューレ(5761)を使用する。売店で事前に購入のこと。		
履修上の注意	授業開始1週間前までに掲示案内する。初日と最終日には必ず出席のこと。 作業中インクなどで汚れる可能性があるため、作業服、ゴム手袋、エプロン等持参のこと。		
成績評価 **(~H29)**	配点　作品評価90%　プレゼンテーション10%（テーマ・技法等の明快な説明） [A]絵画の造形的諸要素（明暗の対比を含む画面構成）と共に、高い銅版画の技術（マチエール、刷りの美しさなど）に裏付けされた優れた発想の作品 [B]銅版画技法のヴァリエーションがあり、絵画の基礎的なレベルに到達している作品 [C]授業中に制作に取り組み、銅版画技法の習得が認められる作品		
成績評価 **(H30~)**	配点　作品評価90%　プレゼンテーション10%（テーマ・技法等の明快な説明） [S]優れた発想力と共に、高度な造形力、技術力に裏付けされた作品 [A]絵画の造形的諸要素（明暗の対比を含む画面構成）と共に、高い銅版画の技術（マチエール、刷りの美しさなど）に裏付けされた優れた発想の作品 [B]銅版画技法のヴァリエーションがあり、絵画の基礎的なレベルに到達している作品 [C]授業中に制作に取り組み、銅版画技法の習得が認められる作品		
主担当教員	岩瀬貴憲		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-66	履修コード	3904Z2
科目名	絵画Ⅱ（版画）	科目英語名	Printmaking （Intaglio）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	視覚デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	版画印刷室(研究所棟4階)
単位	1	定員	20名程度
担当教員	（非常勤）岩瀬貴憲		
授業概要	銅版画制作を通して、銅版画技法の基本を習得し、絵画を鑑賞する感性や能力を養う。 版画・印刷の四版種(凸版、凹版、平版、孔版)について、レクチャーをおこなう。 なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	版画の四版種の特性について理解する。 銅版画技法の基本(製版、刷り等)を習得する。 銅版画制作を通して銅版画表現の特徴(銅版の素材としての可能性やマチエールについて)、 また昨今の版表現の多様性について理解を深め、銅版画制作を通して創作について考える機会とする。		
授業計画	銅版画技法について解説 直刻法と腐蝕法について ドライポイント、エングレーヴィング(ビュラン)、メゾチント、エッチング、 アクアチント等の説明 ・ニードルによるドライポイントを含めたエッチングの共同作品の制作 ・銅版画の作業工程の説明 ・共同作品を用いて、エッチングの作業工程のデモンストレーション （腐蝕の仕方、インクの拭き取り方、アクアチントの作業の手順等を説明） 各自、下絵やアイデアスケッチ等をもとに制作を開始 個々の表現や進捗状況に応じて、個別にあるいは全員に助言をする。 最終日 10：30　制作・刷りの終了 10：45　プレゼンテーション　作品の意図、使用した技法等の解説を含めた発表 12：00　全作品を提出 その他、版画の四版種についてのレクチャーを通して、版画・印刷の歴史的文化的背景についても理解を深める。		
予習・復習	18×24cm以下のサイズの下絵(オリジナル作品)を予め準備しておくこと。 YouTubeやインターネットで銅版画を検索し、調べておくこと。		
教科書	なし。ただし製版の説明案内（A4）を配付する。		
参考書	『中林忠良の銅版画』中林忠良　著アートテクニック・ナウ15(河出書房新社) 『銅版画のテクニック』深澤幸雄　著(ダヴィッド社) 『銅版画のマチエール』駒井哲郎（美術出版社）		
教材	180×240×0.8㎜の銅板とハーネミューレ(5761)を使用する。売店で事前に購入のこと。		
履修上の注意	授業開始1週間前までに掲示案内する。初日と最終日には必ず出席のこと。 作業中インクなどで汚れる可能性があるため、作業服、ゴム手袋、エプロン等持参のこと。		
成績評価 **(~H29)**	配点　作品評価90%　プレゼンテーション10%（テーマ・技法等の明快な説明） [A]絵画の造形的諸要素（明暗の対比を含む画面構成）と共に、高い銅版画の技術（マチエール、刷りの美しさなど）に裏付けされた優れた発想の作品 [B]銅版画技法のヴァリエーションがあり、絵画の基礎的なレベルに到達している作品 [C]授業中に制作に取り組み、銅版画技法の習得が認められる作品		
成績評価 **(H30~)**	配点　作品評価90%　プレゼンテーション10%（テーマ・技法等の明快な説明） [S]優れた発想力と共に、高度な造形力、技術力に裏付けされた作品 [A]絵画の造形的諸要素（明暗の対比を含む画面構成）と共に、高い銅版画の技術（マチエール、刷りの美しさなど）に裏付けされた優れた発想の作品 [B]銅版画技法のヴァリエーションがあり、絵画の基礎的なレベルに到達している作品 [C]授業中に制作に取り組み、銅版画技法の習得が認められる作品		
主担当教員	岩瀬貴憲		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-67	履修コード	3905Z1
科目名	絵画Ⅲ（日本画）	科目英語名	Painting （Japanese）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	石崎誠和		
授業概要	日本画材に関する基本的知識・技法を理解し、日本画材による制作により絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養う。草虫図の制作を通して絵画造形の諸要素や文化について理解を深める。なお本科目は絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	日本画材に関する基本的知識を得ると共に、日本画制作の工程である写生・小下図・大下図・本紙制作について理解し習得する。		
授業計画	第1日 ・ 授業内容説明 ・ 日本画の表現について、多視点でものを見るということについて講義 ・ 授業準備 第2日 ・ 日本画材の説明 膠・ドーサ・和紙・水干絵具・岩絵具の扱い方 箔技法 第3～7日 ・ 日本画制作、テーマ自由 小下図の作成、アイデアスケッチを基に数枚の下図を作る 小下図を基に大下図（原寸大）を描く 本紙にドーサをして下塗り・地塗りをする 小下図を基に制作・仕上げる 第8日 ・ 合評 毎回講義の最後に簡単な授業メモを提出してもらいます。		
予習・復習	下図や写生等の制作準備や制作の充実が必要となる		
教科書	特になし。		
参考書	参考作品		
教材	下図制作のため鉛筆、水彩絵具一式を持参 和紙・パネル･墨･箔・絵の具等の日本画材		
履修上の注意	絵具のついた筆や絵皿の洗い方など、絵具の廃棄については必ず教員の指示に従うこと。各授業日の最初にいろいろな技術、技法のガイダンスがあり、制作の進行に関わるので注意が必要です。		
成績評価 **(~H29)**	提出作品　下図１点　本画１点の計２点と授業に取り組む姿勢により評価する [A]日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して高いレベルで自己表現がなされている [B]日本画材と技法により、日本画制作を通して自己表現がなされている [C]日本画材と技法により、日本画的表現がなされている		
成績評価 **(H30~)**	提出作品　下図１点　本画１点の計２点と授業に取り組む姿勢により評価する [S]日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して高いレベルで自己表現がなされ、特に秀でている。 [A]日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して高いレベルで自己表現がなされている [B]日本画材と技法により、日本画制作を通して自己表現がなされている [C]日本画材と技法により、日本画的表現がなされている		
主担当教員	石崎誠和		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-68	履修コード	3906Z1
科目名	絵画Ⅲ（油絵）	科目英語名	Painting （Oil）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	15名
担当教員	○武田雄介・岩崎　純		
授業概要	油彩画の材料への理解および段階的な工程をふまえた制作を通して、自己の内面を深く探求し、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養う。絵画造形の諸要素を学ぶと共に、表現の多様性や美術文化についての理解を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	油彩画の基礎的知識と技法について人物の油彩描写を通して習得し、絵画表現について理解を深めていくなかで、自己の表現世界の可能性を探求する。		
授業計画	1日目 絵画制作概論 油彩画の構造と油彩画制作の工程について解説し、制作の準備を整える。 キャンバスに描画するための下準備として、15号キャンバスを木枠の組み立てからキャンバス布張りまでを実際に行う。 2日目 支持体、油絵具、画溶液の用具の特質、油彩画制作の基本的なプロセスについて説明する。油彩画制作のためのエスキース制作を行う。 エスキースをもとに制作のイメージを広げ描画にとりかかる。アンダードローイング 3日目 アンダードローイング 4日目～6日目 中厚塗り ＊6日目にグラッシを施す 7日目 細部の描写 8日目 講評		
予習・復習	制作準備		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	適宜指示する。		
成績評価 (~H29)	[A]積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について充分に理解した上で、高い意識をもった表現が試みられている。 [B]基礎的な油彩画の材料と使用法について理解をした上で、独自の表現が試みられている。 [C]基礎的な油彩画の材料と使用法について一定の理解をした上で、作品を完成させている。		
成績評価 (H30~)	[S]積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について充分に理解した上で、特に秀でた表現が試みられている。 [A]積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について充分に理解した上で、高い意識をもった表現が試みられている。 [B]基礎的な油彩画の材料と使用法について理解をした上で、独自の表現が試みられている。 [C]基礎的な油彩画の材料と使用法について一定の理解をした上で、作品を完成させている。		
主担当教員	武田雄介		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-69	履修コード	3907Z1
科目名	絵画Ⅲ（フレスコ）	科目英語名	Painting （Fresco）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	（非常勤）北谷至啓・岩崎　純		
授業概要	壁画の古典技法であるフレスコ画の歴史と作品例を学び、実習により壁作りから模写制作を通してフレスコ画の実際を体験する。絵画の原点とも言えるフレスコ画制作により、造形の基礎を学び、同時に古典作品例を鑑賞することで、知識と技法を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	絵画の歴史と意味を考察する力を養う。フレスコ画の基本的技術を習得する。		
授業計画	1日目 絵画制作概論 古典作品解説と実際の作業工程の説明 画集等により、数々の古典作品を鑑賞し、実際に自分の行う模写作品を選ぶ。 2日目 壁作りのための砂洗い（共同作業） 石灰モルタル（石灰と川砂を水で練ったもの）で壁塗りを行うが、その時使用する川砂をふるいにかけ、水洗いする。 3日目 模写のための作品を各自選択 図書館等で、自分の行いたい作品を選び出す。条件としては人物が一人以上入った部分。フレスコ画は壁画であるため大きい作品であるため、その一部をトリミングして使用する。 4日目 パネル作りと下塗り 簡易な壁としての下地となるパネルを作る。その上に前もって練っておいた石灰モルタルをコテで塗りつける。木工用具・左官用具の扱い方、注意点などの説明を行う。 5日目 下絵作り 選んだ原画を拡大し、描画時の画面サイズのものを作る。時間短縮のためコピー機使用。原画もカラーコピーし用いる。画集の汚れ防止と軽量化のため。 6日目～7日目 描画と仕上げ 下塗りと同様に壁塗りし、生乾きの内に描き上げる。フレスコの性質上気候条件に左右される為、その状況に応じて制作を行う。 8日目　＊2限目まで 作品講評 制作時の疑問点などの質疑応答も行う。		
予習・復習	三野哲二『フレスコ画の技法』日貿出版社（図書館にあり）を、制作の進行に合せてよく読むこと。		
教科書	三野哲二『フレスコ画の技法』（図書館に所蔵）		
参考書	宮下孝晴『フレスコ画のルネサンス』		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	各作業では汚れることも多いので、それに適した服装で参加して欲しい。		
成績評価 (~H29)	成績評価　　課題作品提出。　（模写、自由制作） 個々の課題の到達度、出席状況および授業参加の態度を総合して評価する。 [A]フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現		

	や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]フレスコ画についての基本的な知識が技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。
成績評価 **(H30~)**	成績評価　　課題作品提出。　（模写、自由制作） 個々の課題の到達度、出席状況および授業参加の態度を総合して評価する。 [S]フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが特に秀でたレベルに到達している。 [A]フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]フレスコ画についての基本的な知識が技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。
主担当教員	北谷至啓

令和4年度シラバス

番号	(B1)-70	履修コード	3905Z1
科目名	絵画Ⅲ（日本画）	科目英語名	Painting （Japanese）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	デザイン科（製品デザイン専攻除く）1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	石崎誠和		
授業概要	日本画材に関する基本的知識・技法を理解し、日本画材による制作をすることにより絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養い、草虫図の制作を通して絵画造形の諸要素や文化について理解を深める。なお本科目は絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	日本画材に関する基本的知識を得ると共に、日本画制作の工程である写生・小下図・大下図・本紙制作について理解し習得する。		
授業計画	第1日 ・ 授業内容説明 ・ 日本画の表現について、多視点でものを見るということについて講義 ・ 授業準備 第2日 ・ 日本画材の説明 膠・ドーサ・和紙・水干絵具・岩絵具の扱い方 箔技法 第3～8日 ・ 日本画制作、テーマ自由 小下図の作成、アイデアスケッチを基に数枚の下図を作る 小下図を基に大下図（原寸大）を描く 本紙にドーサをして下塗り・地塗りをする 小下図を基に制作・仕上げる 合評 毎回講義の最後に簡単な授業メモを提出してもらいます。		
予習・復習	下図写生などの制作準備、作品制作の充実		
教科書	特になし。		
参考書	参考作品		
教材	鉛筆、水彩絵具一式を持参してください 和紙･墨･箔・日本画画材		
履修上の注意	絵具のついた筆や絵皿の洗い方など、絵具の廃棄については必ず教員の指示に従うこと。各授業日の最初にその日の制作のための技法や技術のガイダンスがあるので注意してください。		
成績評価 (~H29)	提出作品　下図１点　本紙１点の計２点と授業に取り組む姿勢により評価する [A]日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して高いレベルで自己表現がなされている [B]日本画材と技法について理解し、日本画制作を通して自己表現がなされている [C]日本画材と技法により、日本画的表現がなされている		
成績評価 (H30~)	提出作品　下図１点　本画１点の計２点と授業に取り組む姿勢により評価する [S]日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して特に秀でた自己表現がなされている [A]日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して高いレベルで自己表現がなされている [B]日本画材と技法により、日本画制作を通して自己表現がなされている [C]日本画材と技法により、日本画的表現がなされている		
主担当教員	石崎誠和		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-71	履修コード	3906Z1
科目名	絵画Ⅲ（油絵）	科目英語名	Painting （Oil）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	デザイン科（製品デザイン専攻除く）1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	15名
担当教員	○武田雄介・岩崎　純		
授業概要	油彩画の材料への理解および段階的な工程をふまえた制作を通して、自己の内面を深く探求し、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養う。絵画造形の諸要素を学ぶと共に、表現の多様性や美術文化についての理解を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	油彩画の基礎的知識と技法について人物の油彩描写を通して習得し、絵画表現について理解を深めていくなかで、自己の表現世界の可能性を探求する。		
授業計画	1日目 絵画制作概論 油彩画の構造と油彩画制作の工程について解説し、制作の準備を整える。 キャンバスに描画するための下準備として、15号キャンバスを木枠の組み立てからキャンバス布張りまでを実際に行う。 2日目 支持体、油絵具、画溶液の用具の特質、油彩画制作の基本的なプロセスについて説明する。油彩画制作のためのエスキース制作を行う。 エスキースをもとに制作のイメージを広げ描画にとりかかる。アンダードローイング 3日目 アンダードローイング 4日目～6日目 中厚塗り ＊6日目にグラッシを施す 7日目 細部の描写 8日目 講評		
予習・復習	制作準備		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	適宜指示する。		
成績評価 (~H29)	[A]積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について充分に理解した上で、高い意識をもった表現が試みられている。 [B]基礎的な油彩画の材料と使用法について理解をした上で、独自の表現が試みられている。 [C]基礎的な油彩画の材料と使用法について一定の理解をした上で、作品を完成させている。		
成績評価 (H30~)	[S]積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について充分に理解した上で、特に秀でた表現が試みられている。 [A]積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について充分に理解した上で、高い意識をもった表現が試みられている。 [B]基礎的な油彩画の材料と使用法について理解をした上で、独自の表現が試みられている。 [C]基礎的な油彩画の材料と使用法について一定の理解をした上で、作品を完成させている。		
主担当教員	武田雄介		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-72	履修コード	3907Z1
科目名	絵画Ⅲ（フレスコ）	科目英語名	Painting （Fresco）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	デザイン科（製品デザイン専攻除く）1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	（非常勤）北谷至啓・岩崎　純		
授業概要	壁画の古典技法であるフレスコ画の歴史と作品例を学び、実習により壁作りから模写制作を通してフレスコ画の実際を体験する。絵画の原点とも言えるフレスコ画制作により、造形の基礎を学び、同時に古典作品例を鑑賞することで、知識と技法を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	絵画の歴史と意味を考察する力を養う。フレスコ画の基本的技術を習得する。		
授業計画	1日目 絵画制作概論 古典作品解説と実際の作業工程の説明 画集等により、数々の古典作品を鑑賞し、実際に自分の行う模写作品を選ぶ。 2日目 壁作りのための砂洗い（共同作業） 石灰モルタル（石灰と川砂を水で練ったもの）で壁塗りを行うが、その時使用する川砂をふるいにかけ、水洗いする。 3日目 模写のための作品を各自選択 図書館等で、自分の行いたい作品を選び出す。条件としては人物が一人以上入った部分。フレスコ画は壁画であるため大きい作品であるため、その一部をトリミングして使用する。 4日目 パネル作りと下塗り 簡易な壁としての下地となるパネルを作る。その上に前もって練っておいた石灰モルタルをコテで塗りつける。木工用具・左官用具の扱い方、注意点などの説明を行う。 5日目 下絵作り 選んだ原画を拡大し、描画時の画面サイズのものを作る。時間短縮のためコピー機使用。原画もカラーコピーし用いる。画集の汚れ防止と軽量化のため。 6日目～7日目 描画と仕上げ 下塗りと同様に壁塗りし、生乾きの内に描き上げる。フレスコの性質上気候条件に左右される為、その状況に応じて制作を行う。 8日目　＊2限目まで 作品講評 制作時の疑問点などの質疑応答も行う。		
予習・復習	三野哲二『フレスコ画の技法』日貿出版社（図書館にあり）を、制作の進行に合せてよく読むこと。		
教科書	三野哲二『フレスコ画の技法』（図書館に所蔵）		
参考書	宮下孝晴『フレスコ画のルネサンス』		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	各作業では汚れることも多いので、それに適した服装で参加して欲しい。		
成績評価 (~H29)	成績評価　　課題作品提出。　（模写、自由制作） 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現		

	や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]フレスコ画についての基本的な知識が技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。
成績評価 **(H30~)**	成績評価　　課題作品提出。　（模写、自由制作） 個々の課題の到達度、出席状況および授業参加の態度を総合して評価する。 [S]フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが特に秀でたレベルに到達している。 [A]フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]フレスコ画についての基本的な知識が技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。
主担当教員	北谷至啓

令和4年度シラバス

番号	(B1)-73	履修コード	3905Z2
科目名	絵画Ⅲ（日本画）	科目英語名	Painting （Japanese）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	石崎誠和		
授業概要	日本画材に関する基本的知識・技法を理解し、日本画材による制作により絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養う。草虫図の制作を通して絵画造形の諸要素や文化について理解を深める。なお本科目は絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	日本画材に関する基本的知識を得ると共に、日本画制作の工程である写生・小下図・大下図・本紙制作について理解し習得する。		
授業計画	第1日 ・ 授業内容説明 ・ 日本画の表現について、多視点でものを見るということについて講義 ・ 授業準備 第2日 ・ 日本画材の説明 膠・ドーサ・和紙・水干絵具・岩絵具の扱い方 箔技法 第3～7日 ・ 日本画制作、テーマ自由 小下図の作成、アイデアスケッチを基に数枚の下図を作る 小下図を基に大下図（原寸大）を描く 本紙にドーサをして下塗り・地塗りをする 小下図を基に制作・仕上げる 第8日 ・ 合評 毎回講義の最後に簡単な授業メモを提出してもらいます。		
予習・復習	写生・下図などの制作準備、作品制作の充実		
教科書	特になし。		
参考書	参考作品		
教材	水彩絵具一式･和紙･墨･箔・日本画材		
履修上の注意	各授業日の最初にその日の制作のための技法や技術のガイダンスがあるので注意してください。		
成績評価 **(~H29)**	提出作品　下図１点　本画１点の計２点と授業に取り組む姿勢により評価する [A]日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して高いレベルで自己表現がなされている [B]日本画材と技法について理解し、日本画制作を通して自己表現がなされている [C]日本画材と技法により、日本画的表現がなされている		
成績評価 **(H30~)**	提出作品　下図１点　本画１点の計２点と授業に取り組む姿勢により評価する [S]日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して高いレベルで自己表現がなされ、特に秀でている。 [A]日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して高いレベルで自己表現がなされている [B]日本画材と技法について理解し、日本画制作を通して自己表現がなされている [C]日本画材と技法により、日本画的表現がなされている		
主担当教員	石崎誠和		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-74	履修コード	3906Z2
科目名	絵画Ⅲ（油絵）	科目英語名	Painting （Oil）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	15名
担当教員	○武田雄介・岩崎　純		
授業概要	油彩画の材料への理解および段階的な工程をふまえた制作を通して、自己の内面を深く探求し、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養う。絵画造形の諸要素を学ぶと共に、表現の多様性や美術文化についての理解を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	油彩画の基礎的知識と技法について人物の油彩描写を通して習得し、絵画表現について理解を深めていくなかで、自己の表現世界の可能性を探求する。		
授業計画	1日目　＊3限目から 絵画制作概論 油彩画の構造と油彩画制作の工程について解説する。制作の準備を整える。 キャンバスに描画するための下準備として、15号キャンバスを木枠の組み立てからキャンバス布張りまでを実際に行う。 2日目 支持体、油絵具、画溶液の用具の特質、油彩画制作の基本的なプロセスについて説明する。油彩画制作のためのエスキース制作を行う。 エスキースをもとに制作のイメージを広げ描画にとりかかる。アンダードローイング 3日目 アンダードローイング 4日目～6日目 中厚塗り ＊6日目にグラッシを施す 7日目～8日目 細部の描写 ＊最終日は講評を行う		
予習・復習	制作準備		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	適宜指示する。		
成績評価 (~H29)	[A]積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について充分に理解した上で、高い意識をもった表現が試みられている。 [B]基礎的な油彩画の材料と使用法について理解をした上で、独自の表現が試みられている。 [C]基礎的な油彩画の材料と使用法について一定の理解をした上で、作品を完成させている。		
成績評価 (H30~)	[S]積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について充分に理解した上で、特に秀でた表現が試みられている。 [A]積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について充分に理解した上で、高い意識をもった表現が試みられている。 [B]基礎的な油彩画の材料と使用法について理解をした上で、独自の表現が試みられている。 [C]基礎的な油彩画の材料と使用法について一定の理解をした上で、作品を完成させている。		
主担当教員	武田雄介		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-75	履修コード	3907Z2
科目名	絵画Ⅲ（フレスコ）	科目英語名	Painting （Fresco）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	（非常勤）北谷至啓・岩崎　純		
授業概要	壁画の古典技法であるフレスコ画の歴史と作品例を学び、実習により壁作りから模写制作を通してフレスコ画の実際を体験する。絵画の原点とも言えるフレスコ画制作により、造形の基礎を学び、同時に古典作品例を鑑賞することで、知識と技法を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	絵画の歴史と意味を考察する力を養う。フレスコ画の基本的技術を習得する。		
授業計画	1日目　＊3限目から 絵画制作概論 古典作品解説と実際の作業工程の説明 画集等により、数々の古典作品を鑑賞し、実際に自分の行う模写作品を選ぶ。 2日目 壁作りのための砂洗い（共同作業） 石灰モルタル（石灰と川砂を水で練ったもの）で壁塗りを行うが、その時使用する川砂をふるいにかけ、水洗いする。 3日目 模写のための作品を各自選択 図書館等で、自分の行いたい作品を選び出す。条件としては人物が一人以上入った部分。フレスコ画は壁画であるため大きい作品であるため、その一部をトリミングして使用する。 4日目 パネル作りと下塗り 簡易な壁としての下地となるパネルを作る。その上に前もって練っておいた石灰モルタルをコテで塗りつける。木工用具・左官用具の扱い方、注意点などの説明を行う。 5日目 下絵作り 選んだ原画を拡大し、描画時の画面サイズのものを作る。時間短縮のためコピー機使用。原画もカラーコピーし用いる。画集の汚れ防止と軽量化のため。 6日目～8日目 描画と仕上げ 下塗りと同様に壁塗りし、生乾きの内に描き上げる。フレスコの性質上気候条件に左右される為、その状況に応じて制作を行う。 ＊最終日は作品講評を行う。 制作時の疑問点などの質疑応答も行う。		
予習・復習	三野哲二『フレスコ画の技法』日貿出版社（図書館にあり）を、制作の進行に合せてよく読むこと。		
教科書	三野哲二『フレスコ画の技法』（図書館に所蔵）		
参考書	宮下孝晴『フレスコ画のルネサンス』		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	各作業では汚れることも多いので、それに適した服装で参加して欲しい。		
成績評価 (~H29)	成績評価　　課題作品提出。　（模写、自由制作） 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主		

	体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]フレスコ画についての基本的な知識が技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。
成績評価 (H30~)	成績評価　　課題作品提出。　（模写、自由制作） 個々の課題の到達度、出席状況および授業参加の態度を総合して評価する。 [S]フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが特に秀でたレベルに到達している。 [A]フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]フレスコ画についての基本的な知識が技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。
主担当教員	北谷至啓

令和4年度シラバス

番号	(B1)-76	履修コード	3905Z2
科目名	絵画Ⅲ（日本画）	科目英語名	Painting （Japanese）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	石崎誠和		
授業概要	日本画材に関する基本的知識・技法を理解し、日本画材による制作により絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養う。草虫図の制作を通して絵画造形の諸要素や文化について理解を深める。なお本科目は絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	日本画材に関する基本的知識を得ると共に、日本画制作の工程である写生・小下図・大下図・本紙制作について理解し習得する。		
授業計画	第1日 ・ 授業内容説明 ・ 日本画の表現について、多視点でものを見るということについて講義 ・ 授業準備 第2日 ・ 日本画材の説明 膠・ドーサ・和紙・水干絵具・岩絵具の扱い方 箔技法 第3～7日 ・ 日本画制作、テーマ自由 小下図の作成、アイデアスケッチを基に数枚の下図を作る 小下図を基に大下図（原寸大）を描く 本紙にドーサをして下塗り・地塗りをする 小下図を基に制作・仕上げる 第8日 ・ 合評 毎回講義の最後に簡単な授業メモを提出してもらいます。		
予習・復習	制作準備		
教科書	特になし。		
参考書	参考作品		
教材	鉛筆、水彩絵具一式を持参 和紙･墨･箔・日本画材		
履修上の注意	絵具のついた筆や絵皿の洗い方など、絵具の廃棄については必ず教員の指示に従うこと。各授業日の最初にその日の制作のための技法や技術のガイダンスがあるので注意してください。		
成績評価 (~H29)	提出作品　下図１点　本画１点の計２点と授業に取り組む姿勢により評価する [A]日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して高いレベルで自己表現がなされている [B]日本画材と技法について理解し、日本画制作を通して自己表現がなされている [C]日本画材と技法により、日本画的表現がなされている		
成績評価 (H30~)	提出作品　下図１点　本画１点の計２点と授業に取り組む姿勢により評価する [S]日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して特に秀でた自己表現がなされている [A]日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して高いレベルで自己表現がなされている [B]日本画材と技法により、日本画制作を通して自己表現がなされている [C]日本画材と技法により、日本画的表現がなされている		
主担当教員	石崎誠和		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-77	履修コード	3906Z2
科目名	絵画Ⅲ（油絵）	科目英語名	Painting （Oil）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	15名
担当教員	○武田雄介・岩崎　純		
授業概要	油彩画の材料への理解および段階的な工程をふまえた制作を通して、自己の内面を深く探求し、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養う。絵画造形の諸要素を学ぶと共に、表現の多様性や美術文化についての理解を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	油彩画の基礎的知識と技法について人物の油彩描写を通して習得し、絵画表現について理解を深めていくなかで、自己の表現世界の可能性を探求する。		
授業計画	1日目　＊3限目から 絵画制作概論 油彩画の構造と油彩画制作の工程について解説する。制作の準備を整える。 キャンバスに描画するための下準備として、15号キャンバスを木枠の組み立てからキャンバス布張りまでを実際に行う。 2日目 支持体、油絵具、画溶液の用具の特質、油彩画制作の基本的なプロセスについて説明する。油彩画制作のためのエスキース制作を行う。 エスキースをもとに制作のイメージを広げ描画にとりかかる。アンダードローイング 3日目 アンダードローイング 4日目～6日目 中厚塗り ＊6日目にグラッシを施す 7日目～8日目 細部の描写 ＊最終日は講評を行う		
予習・復習	制作準備		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	適宜指示する。		
成績評価 (~H29)	[A]積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について充分に理解した上で、高い意識をもった表現が試みられている。 [B]基礎的な油彩画の材料と使用法について理解をした上で、独自の表現が試みられている。 [C]基礎的な油彩画の材料と使用法について一定の理解をした上で、作品を完成させている。		
成績評価 (H30~)	[S]積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について充分に理解した上で、特に秀でた表現が試みられている。 [A]積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について充分に理解した上で、高い意識をもった表現が試みられている。 [B]基礎的な油彩画の材料と使用法について理解をした上で、独自の表現が試みられている。 [C]基礎的な油彩画の材料と使用法について一定の理解をした上で、作品を完成させている。		
主担当教員	武田雄介		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-78	履修コード	3907Z2
科目名	絵画Ⅲ（フレスコ）	科目英語名	Painting （Fresco）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	（非常勤）北谷至啓・岩崎　純		
授業概要	壁画の古典技法であるフレスコ画の歴史と作品例を学び、実習により壁作りから模写制作を通してフレスコ画の実際を体験する。絵画の原点とも言えるフレスコ画制作により、造形の基礎を学び、同時に古典作品例を鑑賞することで、知識と技法を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	絵画の歴史と意味を考察する力を養う。フレスコ画の基本的技術を習得する。		
授業計画	1日目　＊3限目から 絵画制作概論 古典作品解説と実際の作業工程の説明 画集等により、数々の古典作品を鑑賞し、実際に自分の行う模写作品を選ぶ。 2日目 壁作りのための砂洗い（共同作業） 石灰モルタル（石灰と川砂を水で練ったもの）で壁塗りを行うが、その時使用する川砂をふるいにかけ、水洗いする。 3日目 模写のための作品を各自選択 図書館等で、自分の行いたい作品を選び出す。条件としては人物が一人以上入った部分。フレスコ画は壁画であるため大きい作品であるため、その一部をトリミングして使用する。 4日目 パネル作りと下塗り 簡易な壁としての下地となるパネルを作る。その上に前もって練っておいた石灰モルタルをコテで塗りつける。木工用具・左官用具の扱い方、注意点などの説明を行う。 5日目 下絵作り 選んだ原画を拡大し、描画時の画面サイズのものを作る。時間短縮のためコピー機使用。原画もカラーコピーし用いる。画集の汚れ防止と軽量化のため。 6日目～8日目 描画と仕上げ 下塗りと同様に壁塗りし、生乾きの内に描き上げる。フレスコの性質上気候条件に左右される為、その状況に応じて制作を行う。 ＊最終日は作品講評を行う。 制作時の疑問点などの質疑応答も行う。		
予習・復習	三野哲二『フレスコ画の技法』日貿出版社（図書館にあり）を、制作の進行に合せてよく読むこと。		
教科書	三野哲二『フレスコ画の技法』（図書館に所蔵）		
参考書	宮下孝晴『フレスコ画のルネサンス』		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	各作業では汚れることも多いので、それに適した服装で参加して欲しい。		
成績評価 (~H29)	成績評価　　課題作品提出。　（模写、自由制作） 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主		

	体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]フレスコ画についての基本的な知識が技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。
成績評価 (H30~)	成績評価　　課題作品提出。　（模写、自由制作） 個々の課題の到達度、出席状況および授業参加の態度を総合して評価する。 [S]フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが特に秀でたレベルに到達している。 [A]フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]フレスコ画についての基本的な知識が技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。
主担当教員	北谷至啓

令和4年度シラバス

番号	(B1)-79	履修コード	3905Z2
科目名	絵画Ⅲ（日本画）	科目英語名	Painting （Japanese）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	石崎誠和		
授業概要	日本画材に関する基本的知識・技法を理解し、日本画材による制作により絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養う。草虫図の制作を通して絵画造形の諸要素や文化について理解を深める。なお本科目は絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	日本画材に関する基本的知識を得ると共に、日本画制作の工程である写生・小下図・大下図・本紙制作について理解し習得する。		
授業計画	第第1日 ・ 授業内容説明 ・ 日本画の表現について、多視点でものを見るということについて講義 ・ 授業準備 第2日 ・ 日本画材の説明 膠・ドーサ・和紙・水干絵具・岩絵具の扱い方 箔技法 第3～7日 ・ 日本画制作、テーマ自由 小下図の作成、アイデアスケッチを基に数枚の下図を作る 小下図を基に大下図（原寸大）を描く 本紙にドーサをして下塗り・地塗りをする 小下図を基に制作・仕上げる 第8日 ・ 合評 毎回講義の最後に簡単な授業メモを提出してもらいます。		
予習・復習	写生、下図などの制作準備および作品制作の充実		
教科書	特になし。		
参考書	参考作品		
教材	鉛筆、水彩絵具一式を持参 和紙･墨･箔・日本画材		
履修上の注意	各授業日の最初にその日の制作のための技法や技術のガイダンスがあるので注意してください。		
成績評価 **(~H29)**	提出作品　下図１点　本画１点の計２点と授業に取り組む姿勢により評価する [A]日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して高いレベルで自己表現がなされている [B]日本画材と技法について理解し、日本画制作を通して自己表現がなされている [C]日本画材と技法により、日本画的表現がなされている		
成績評価 **(H30~)**	提出作品　下図１点　本画１点の計２点と授業に取り組む姿勢により評価する [S]日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して特に秀でた自己表現がなされている [A]日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して高いレベルで自己表現がなされている [B]日本画材と技法により、日本画制作を通して自己表現がなされている [C]日本画材と技法により、日本画的表現がなされている		
主担当教員	石崎誠和		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-80	履修コード	3906Z2
科目名	絵画Ⅲ（油絵）	科目英語名	Painting （Oil）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	15名
担当教員	○武田雄介・岩崎　純		
授業概要	油彩画の材料への理解および段階的な工程をふまえた制作を通して、自己の内面を深く探求し、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養う。絵画造形の諸要素を学ぶと共に、表現の多様性や美術文化についての理解を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	油彩画の基礎的知識と技法について人物の油彩描写を通して習得し、絵画表現について理解を深めていくなかで、自己の表現世界の可能性を探求する。		
授業計画	1日目　＊3限目から 絵画制作概論 油彩画の構造と油彩画制作の工程について解説する。制作の準備を整える。 キャンバスに描画するための下準備として、15号キャンバスを木枠の組み立てからキャンバス布張りまでを実際に行う。 2日目 支持体、油絵具、画溶液の用具の特質、油彩画制作の基本的なプロセスについて説明する。油彩画制作のためのエスキース制作を行う。 エスキースをもとに制作のイメージを広げ描画にとりかかる。アンダードローイング 3日目 アンダードローイング 4日目～6日目 中厚塗り ＊6日目にグラッシを施す 7日目～8日目 細部の描写 ＊最終日は講評を行う		
予習・復習	制作準備		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	適宜指示する。		
成績評価 (~H29)	[A]積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について充分に理解した上で、高い意識をもった表現が試みられている。 [B]基礎的な油彩画の材料と使用法について理解をした上で、独自の表現が試みられている。 [C]基礎的な油彩画の材料と使用法について一定の理解をした上で、作品を完成させている。		
成績評価 (H30~)	[S]積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について充分に理解した上で、特に秀でた表現が試みられている。 [A]積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について充分に理解した上で、高い意識をもった表現が試みられている。 [B]基礎的な油彩画の材料と使用法について理解をした上で、独自の表現が試みられている。 [C]基礎的な油彩画の材料と使用法について一定の理解をした上で、作品を完成させている。		
主担当教員	武田雄介		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-81	履修コード	3907Z2
科目名	絵画Ⅲ（フレスコ）	科目英語名	Painting （Fresco）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	（非常勤）北谷至啓・岩崎　純		
授業概要	壁画の古典技法であるフレスコ画の歴史と作品例を学び、実習により壁作りから模写制作を通してフレスコ画の実際を体験する。絵画の原点とも言えるフレスコ画制作により、造形の基礎を学び、同時に古典作品例を鑑賞することで、知識と技法を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	絵画の歴史と意味を考察する力を養う。フレスコ画の基本的技術を習得する。		
授業計画	1日目　＊3限目から 絵画制作概論 古典作品解説と実際の作業工程の説明 画集等により、数々の古典作品を鑑賞し、実際に自分の行う模写作品を選ぶ。 2日目 壁作りのための砂洗い（共同作業） 石灰モルタル（石灰と川砂を水で練ったもの）で壁塗りを行うが、その時使用する川砂をふるいにかけ、水洗いする。 3日目 模写のための作品を各自選択 図書館等で、自分の行いたい作品を選び出す。条件としては人物が一人以上入った部分。フレスコ画は壁画であるため大きい作品であるため、その一部をトリミングして使用する。 4日目 パネル作りと下塗り 簡易な壁としての下地となるパネルを作る。その上に前もって練っておいた石灰モルタルをコテで塗りつける。木工用具・左官用具の扱い方、注意点などの説明を行う。 5日目 下絵作り 選んだ原画を拡大し、描画時の画面サイズのものを作る。時間短縮のためコピー機使用。原画もカラーコピーし用いる。画集の汚れ防止と軽量化のため。 6日目～8日目 描画と仕上げ 下塗りと同様に壁塗りし、生乾きの内に描き上げる。フレスコの性質上気候条件に左右される為、その状況に応じて制作を行う。 ＊最終日は作品講評を行う。 制作時の疑問点などの質疑応答も行う。		
予習・復習	三野哲二『フレスコ画の技法』日貿出版社（図書館にあり）を、制作の進行に合せてよく読むこと。		
教科書	三野哲二『フレスコ画の技法』（図書館に所蔵）		
参考書	宮下孝晴『フレスコ画のルネサンス』		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	各作業では汚れることも多いので、それに適した服装で参加して欲しい。		
成績評価 (~H29)	成績評価　　課題作品提出。　（模写、自由制作） 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主		

	体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]フレスコ画についての基本的な知識が技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。
成績評価 (H30~)	成績評価　　課題作品提出。　（模写、自由制作） 個々の課題の到達度、出席状況および授業参加の態度を総合して評価する。 [S]フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが特に秀でたレベルに到達している。 [A]フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]フレスコ画についての基本的な知識が技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。
主担当教員	北谷至啓

令和4年度シラバス

番号	(B1)-82	履修コード	3908Z1
科目名	彫刻Ⅰ（塑造）	科目英語名	Sculpture Ⅰ (Modeling)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	デザイン科（環境デザイン専攻除く）2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	25名
担当教員	○土井宏二・浜田周		
授業概要	人物塑像の制作を通して美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。素材に対する基礎的な理解を深め、用具等の安全な取り扱い方を習得する。素材を生かした各自の表現方法を探り、その魅力を発見するとともに、彫刻に内在する量塊、量感、空間、質感、均衡、比例など造形の諸要素や、表現の多様性について理解を図る。なお本科目は、彫刻分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	塑像の制作を通して、モデリング技法の基本を習得する。また彫刻が持つ独自の美しさを体感するとともに造形の原理について理解する。		
授業計画	内容：モデルに対する徹底した観察を基に、人物像（首像）を制作する。 １　概説および課題説明 ・彫刻の種類（彫造、塑造、その他）およびその特性 ・表現の多様性について ・造形の諸要素について ２　クロッキーおよびデッサンによるモデルの把握 ・モデルを様々な角度から観察し人体の構造やフォルムの美しさを探る。 ・クロッキーを通して本制作のためのイメージを探る。 ・立体感や量感を意識して彫刻としてのデッサンを追求する。 ・各自の表現テーマを探る。 ３　芯棒作り ・人体に内在する構築性や動勢を読み取り、中心軸を意識した芯棒を制作する。 ４　塑造による制作 ・粘土の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 ・量感と面を意識して荒付けを行う。 ・全体のバランスを保ちながら細部の作り込みを行う。 ・土付けによる質感の工夫をする。 ・全体の調子を整えながら仕上げる。 ５　合評 ・完成作品について各自の制作意図や反省点を述べあい制作の深化を図る。 ・作品の鑑賞を通して、その良さを発見し味わう。 （１から５は授業の進行を示す）		
予習・復習	授業の前に美大図書館等で彫刻作品や彫刻家の資料によって表現の多様性について研究をすること。また、自分や身近な人物のデッサン、クロッキーを行い、人体について理解を深めること。その他授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	実習費自己負担。汚れてもよい服装を着用すること。モデル使用中の入退室は禁止。		
成績評価 (~H29)	製作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		

成績評価 (H30~)	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [S]彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。
主担当教員	土井宏二

令和4年度シラバス

番号	(B1)-83	履修コード	3909Z1
科目名	彫刻Ⅱ（彫造）	科目英語名	Sculpture Ⅱ (Carving)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	デザイン科（環境デザイン専攻除く）2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	25名
担当教員	○石田陽介・芝山昌也		
授業概要	木彫の制作を通して美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。素材に対する基礎的な理解を深め、用具等の安全な取り扱い方を習得する。素材を生かした各自の表現方法を探り、その魅力を発見するとともに、彫刻に内在する量塊、量感、空間、質感、均衡、比例など造形の諸要素や、表現の多様性について理解を図る。なお本科目は、彫刻分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	木彫の制作を通して、カービング技法の基本を習得する。また彫刻が持つ独自の美しさを体感するとともに造形の原理について理解する。		
授業計画	内容：各自の主題に基づく木彫制作 １　概説および課題説明 ・彫刻の種類（彫造、塑造、その他）およびその特性 ・表現の多様性について ・造形の諸要素について ・素材や技術、道具についての説明 ・各自の主題決定 ２　自然観察を基本に主題に基づくデッサンおよびイメージ作り ３　イメージの造形化 ４　木彫による制作 ・木の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 ・材料を有効に使えるように墨入れをする。 ・作品のイメージを大切にして荒取りする。 ・量感と面を意識して粗彫りを行う。 ・全体のバランスを保ちながら細部の作り込みを行う。 ・鑿あと等による質感の工夫をする。 ・全体の調子を整えながら仕上げる。 ・作品の効果を考え必要に応じて着色する。 ５　合評 ・完成作品について各自の制作意図や反省点を述べあい制作の深化を図る。 ・作品の鑑賞を通して、その良さを発見し味わう。 （１から５は授業の進行を示す）		
予習・復習	授業の前に美大図書館等で彫刻作品や彫刻家の資料によって表現の多様性について研究をすること。また、身近な自然物のデッサン、クロッキーを行い、造形について理解を深めること。その他授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	実習費（材料および道具類）自己負担（1,000円程度）。作業が安全に行える服装着用のこと。		
成績評価 (~H29)	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		

成績評価 (H30~)	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [S]彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。
主担当教員	石田陽介

令和4年度シラバス

番号	(B1)-84	履修コード	3908Z2
科目名	彫刻Ⅰ（塑造）	科目英語名	Sculpture Ⅰ (Modeling)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	25名
担当教員	○土井宏二・浜田周		
授業概要	人物塑像の制作を通して美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。素材に対する基礎的な理解を深め、用具等の安全な取り扱い方を習得する。素材を生かした各自の表現方法を探り、その魅力を発見するとともに、彫刻に内在する量塊、量感、空間、質感、均衡、比例など造形の諸要素や、表現の多様性について理解を図る。なお本科目は、彫刻分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	塑像の制作を通して、モデリング技法の基本を習得する。また彫刻が持つ独自の美しさを体感するとともに造形の原理について理解する。		
授業計画	内容：モデルに対する徹底した観察を基に、人物像（首像）を制作する。 １　概説および課題説明 ・彫刻の種類（彫造、塑造、その他）およびその特性 ・表現の多様性について ・造形の諸要素について ２　クロッキーおよびデッサンによるモデルの把握 ・モデルを様々な角度から観察し人体の構造やフォルムの美しさを探る。 ・クロッキーを通して本制作のためのイメージを探る。 ・立体感や量感を意識して彫刻としてのデッサンを追求する。 ・各自の表現テーマを探る。 ３　芯棒作り ・人体に内在する構築性や動勢を読み取り、中心軸を意識した芯棒を制作する。 ４　塑造による制作 ・粘土の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 ・量感と面を意識して荒付けを行う。 ・全体のバランスを保ちながら細部の作り込みを行う。 ・土付けによる質感の工夫をする。 ・全体の調子を整えながら仕上げる。 ５　合評 ・完成作品について各自の制作意図や反省点を述べあい制作の深化を図る。 ・作品の鑑賞を通して、その良さを発見し味わう。 （１から５は授業の進行を示す）		
予習・復習	授業の前に美大図書館等で彫刻作品や彫刻家の資料によって表現の多様性について研究をすること。また、自分や身近な人物のデッサン、クロッキーを行い、人体について理解を深めること。その他授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	実習費自己負担。汚れてもよい服装を着用すること。モデル使用中の入退室は禁止。		
成績評価 (~H29)	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
成績評価 (H30~)	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [S]彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
主担当教員	土井宏二		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-85	履修コード	3909Z2
科目名	彫刻Ⅱ（彫造）	科目英語名	Sculpture Ⅱ (Carving)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	25名
担当教員	○石田陽介・芝山昌也		
授業概要	木彫の制作を通して美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。素材に対する基礎的な理解を深め、用具等の安全な取り扱い方を習得する。素材を生かした各自の表現方法を探り、その魅力を発見するとともに、彫刻に内在する量塊、量感、空間、質感、均衡、比例など造形の諸要素や、表現の多様性について理解を図る。なお本科目は、彫刻分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	木彫の制作を通して、カービング技法の基本を習得する。また彫刻が持つ独自の美しさを体感するとともに造形の原理について理解する。		
授業計画	内容：各自の主題に基づく木彫制作 １　概説および課題説明 ・彫刻の種類（彫造、塑造、その他）およびその特性 ・表現の多様性について ・造形の諸要素について ・素材や技術、道具についての説明 ・各自の主題決定 ２　自然観察を基本に主題に基づくデッサンおよびイメージ作り ３　イメージの造形化 ４　木彫による制作 ・木の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 ・材料を有効に使えるように墨入れをする。 ・作品のイメージを大切にして荒取りする。 ・量感と面を意識して粗彫りを行う。 ・全体のバランスを保ちながら細部の作り込みを行う。 ・鑿あと等による質感の工夫をする。 ・全体の調子を整えながら仕上げる。 ・作品の効果を考え必要に応じて着色する。 ５　合評 ・完成作品について各自の制作意図や反省点を述べあい制作の深化を図る。 ・作品の鑑賞を通して、その良さを発見し味わう。 （１から５は授業の進行を示す）		
予習・復習	授業の前に美大図書館等で彫刻作品や彫刻家の資料によって表現の多様性について研究をすること。また、身近な自然物のデッサン、クロッキーを行い、造形について理解を深めること。その他授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	実習費（材料および道具類）自己負担（1,000円程度）。作業が安全に行える服装着用のこと。		
成績評価 **(~H29)**	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
成績評価 **(H30~)**	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [S]彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
主担当教員	石田陽介		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-86	履修コード	3908Z2
科目名	彫刻Ⅰ（塑造）	科目英語名	Sculpture Ⅰ (Modeling)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	25名
担当教員	○土井宏二・浜田周		
授業概要	人物塑像の制作を通して美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。素材に対する基礎的な理解を深め、用具等の安全な取り扱い方を習得する。素材を生かした各自の表現方法を探り、その魅力を発見するとともに、彫刻に内在する量塊、量感、空間、質感、均衡、比例など造形の諸要素や、表現の多様性について理解を図る。なお本科目は、彫刻分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	塑像の制作を通して、モデリング技法の基本を習得する。また彫刻が持つ独自の美しさを体感するとともに造形の原理について理解する。		
授業計画	内容：モデルに対する徹底した観察を基に、人物像（首像）を制作する。 １　概説および課題説明 ・彫刻の種類（彫造、塑造、その他）およびその特性 ・表現の多様性について ・造形の諸要素について ２　クロッキーおよびデッサンによるモデルの把握 ・モデルを様々な角度から観察し人体の構造やフォルムの美しさを探る。 ・クロッキーを通して本制作のためのイメージを探る。 ・立体感や量感を意識して彫刻としてのデッサンを追求する。 ・各自の表現テーマを探る。 ３　芯棒作り ・人体に内在する構築性や動勢を読み取り、中心軸を意識した芯棒を制作する。 ４　塑造による制作 ・粘土の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 ・量感と面を意識して荒付けを行う。 ・全体のバランスを保ちながら細部の作り込みを行う。 ・土付けによる質感の工夫をする。 ・全体の調子を整えながら仕上げる。 ５　合評 ・完成作品について各自の制作意図や反省点を述べあい制作の深化を図る。 ・作品の鑑賞を通して、その良さを発見し味わう。 （１から５は授業の進行を示す）		
予習・復習	授業の前に美大図書館等で彫刻作品や彫刻家の資料によって表現の多様性について研究をすること。また、自分や身近な人物のデッサン、クロッキーを行い、人体について理解を深めること。その他授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	実習費自己負担。汚れてもよい服装を着用すること。モデル使用中の入退室は禁止。		
成績評価 (~H29)	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
成績評価 (H30~)	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [S]彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
主担当教員	土井宏二		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-87	履修コード	3909Z2
科目名	彫刻Ⅱ（彫造）	科目英語名	Sculpture Ⅱ (Carving)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	25名
担当教員	○石田陽介・芝山昌也		
授業概要	木彫の制作を通して美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。素材に対する基礎的な理解を深め、用具等の安全な取り扱い方を習得する。素材を生かした各自の表現方法を探り、その魅力を発見するとともに、彫刻に内在する量塊、量感、空間、質感、均衡、比例など造形の諸要素や、表現の多様性について理解を図る。なお本科目は、彫刻分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	木彫の制作を通して、カービング技法の基本を習得する。また彫刻が持つ独自の美しさを体感するとともに造形の原理について理解する。		
授業計画	内容：各自の主題に基づく木彫制作 １　概説および課題説明 ・彫刻の種類（彫造、塑造、その他）およびその特性 ・表現の多様性について ・造形の諸要素について ・素材や技術、道具についての説明 ・各自の主題決定 ２　自然観察を基本に主題に基づくデッサンおよびイメージ作り ３　イメージの造形化 ４　木彫による制作 ・木の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 ・材料を有効に使えるように墨入れをする。 ・作品のイメージを大切にして荒取りする。 ・量感と面を意識して粗彫りを行う。 ・全体のバランスを保ちながら細部の作り込みを行う。 ・鑿あと等による質感の工夫をする。 ・全体の調子を整えながら仕上げる。 ・作品の効果を考え必要に応じて着色する。 ５　合評 ・完成作品について各自の制作意図や反省点を述べあい制作の深化を図る。 ・作品の鑑賞を通して、その良さを発見し味わう。 （１から５は授業の進行を示す）		
予習・復習	授業の前に美大図書館等で彫刻作品や彫刻家の資料によって表現の多様性について研究をすること。また、身近な自然物のデッサン、クロッキーを行い、造形について理解を深めること。その他授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	実習費（材料および道具類）自己負担（1,000円程度）。作業が安全に行える服装着用のこと。		
成績評価 **(~H29)**	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
成績評価 **(H30~)**	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [S]彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
主担当教員	石田陽介		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-88	履修コード	3912Z1
科目名	デザインⅠ（写真）	科目英語名	Design Ⅰ（Photograph）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	スタジオ
単位	1	定員	
担当教員	鈴木康雄		
授業概要	撮影からプリントおよびスタジオでのライティングについて、実習を通して学ぶ。なお本科目はデザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	カメラの扱いかた、デジタルネガからのモノクロプリント現像で使用する薬品や温度と時間の管理を忠実に行い、美しいプリントを仕上げる。 目標を立ててスタジオのライティングを行い、デジタルカメラの機能を理解して、デジタル現像から画像データ完成までのプロセスを学ぶ。		
授業計画	講義 ・ガイダンス、デジタルカメラによる撮影開始 （カメラの構造とレンズの特性、露出について講義） 実習 ・撮影およびフィルム出力 ・モノクロプリント現像 （プリント現像のプロセスについて講義） ・スタジオ実習（デジタルカメラを使用） （モチーフとライティングについて講義） （デジタルカメラを使用） 合評 ・モノクロプリントとスタジオ撮影の成果を発表		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。		
教科書	授業の中で随時資料を提示する。		
参考書	授業の中で随時資料を提示する。		
教材	授業の中で随時資料を提示する。		
履修上の注意	★デジタルカメラ（一眼レフまたはミラーレス一眼が望ましい）を用意できること。 ない場合は履修登録前に相談に来てください。		
成績評価 **(~H29)**	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度を総合的に評価する。 [A]写真に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [B]写真に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。 [C]写真に関する知識と表現が習得されている。		
成績評価 **(H30~)**	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度を総合的に評価する。 [S]写真に関する知識と表現がきわめて高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [A]写真に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に取り入れられている。 [B]写真に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。 [C]写真に関する知識と表現が習得されている。		
主担当教員	鈴木康雄		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-89	履修コード	3939Z2
科目名	デザインⅠ(ゲームデザイン)	科目英語名	Design Ⅰ (game design)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	樺島　脩		
授業概要	オフラインゲーム制作を通して「ゲームデザイン」を学ぶ。ゲーム企画、ゲーム開発、商品企画を体験する。なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	企画し制作したオフラインゲームを遊んでもらい、遊んだユーザーの心を揺さぶること、楽しんでもらうことを目指す。		
授業計画	1．オリエンテーション　アイスブレイク　テーマ発表 2．企画立案　企画作成 3．企画プレゼン　ゲーム制作 4．ゲーム制作 5．ゲーム制作　中間発表 6．ゲーム制作　　最終発表準備 7．最終発表		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。		
教科書	授業の中で随時指示を行う。		
参考書	授業の中で随時指示を行う。		
教材	授業の中で随時指示を行う。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度を総合的に評価する。 [A]ゲームデザインに関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [B]ゲームデザインに関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。 [C]ゲームデザインに関する知識と表現が習得されている。		
成績評価 (H30~)	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度を総合的に評価する。 [S]ゲームデザインに関する知識と表現がきわめて高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [A]ゲームデザインに関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に取り入れられている。 [B]ゲームデザインに関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。 [C]ゲームデザインに関する知識と表現が習得されている。		
主担当教員	樺島　脩		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-90	履修コード	3912Z2
科目名	デザインⅠ（写真）	科目英語名	Design Ⅰ（Photograph）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	スタジオ
単位	1	定員	
担当教員	鈴木康雄		
授業概要	撮影からプリントおよびスタジオでのライティングについて、実習を通して学ぶ。なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	カメラの扱いかた、デジタルネガからのモノクロプリント現像で使用する薬品や温度と時間の管理を忠実に行い、美しいプリントを仕上げる。 目標を立ててスタジオのライティングを行い、デジタルカメラの機能を理解して、デジタル現像から画像データ完成までのプロセスを学ぶ。		
授業計画	講義 ・ガイダンス、デジタルカメラによる撮影開始 （カメラの構造とレンズの特性、露出について講義） 実習 ・撮影およびフィルム出力 ・モノクロプリント現像 （プリント現像のプロセスについて講義） ・スタジオ実習（デジタルカメラを使用） （モチーフとライティングについて講義） （デジタルカメラを使用） 合評 ・モノクロプリントとスタジオ撮影の成果を発表		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。		
教科書	授業の中で随時資料を提示する。		
参考書	授業の中で随時資料を提示する。		
教材	授業の中で随時資料を提示する。		
履修上の注意	★デジタルカメラ（一眼レフまたはミラーレス一眼が望ましい）を用意できること。 ない場合は履修登録前に相談に来てください。		
成績評価 **(~H29)**	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度を総合的に評価する。 [A]写真に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [B]写真に関する知識と表現が習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [C]写真に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。		
成績評価 **(H30~)**	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度を総合的に評価する。 [S]写真に関する知識と表現がきわめて高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [A]写真に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に取り入れられている。 [B]写真に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。 [C]写真に関する知識と表現が習得されている。		
主担当教員	鈴木康雄		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-91	履修コード	3939Z1
科目名	デザインⅠ(ゲームデザイン)	科目英語名	Design Ⅰ (game design)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	樺島 脩		
授業概要	オフラインゲーム制作を通して「ゲームデザイン」を学ぶ。ゲーム企画、ゲーム開発、商品企画を体験する。なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	企画し制作したオフラインゲームを遊んでもらい、遊んだユーザーの心を揺さぶること、楽しんでもらうことを目指す。		
授業計画	1．オリエンテーション　アイスブレイク　テーマ発表 2．企画立案　企画作成 3．企画プレゼン　ゲーム制作 4．ゲーム制作 5．ゲーム制作　中間発表 6．ゲーム制作　　最終発表準備 7．最終発表		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。		
教科書	授業の中で随時指示を行う。		
参考書	授業の中で随時指示を行う。		
教材	授業の中で随時指示を行う。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度を総合的に評価する。 [A]ゲームデザインに関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [B]ゲームデザインに関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。 [C]ゲームデザインに関する知識と表現が習得されている。		
成績評価 (H30~)	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度を総合的に評価する。 [S]ゲームデザインに関する知識と表現がきわめて高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [A]ゲームデザインに関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に取り入れられている。 [B]ゲームデザインに関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。 [C]ゲームデザインに関する知識と表現が習得されている。		
主担当教員	樺島　脩		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-92	履修コード	3914Z2
科目名	デザインⅠ(ファッションコミュニケーション)	科目英語名	Design Ⅰ(fashion communication)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1〜4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	廣瀬純子		
授業概要	ペアを組んだ相手を取材し、対象の魅力を観察・発見。写真家からのアドバイスも交えながら、スマートフォンを使ってのファッションポートレイトを撮影する。		
到達目標	対象の魅力を伝えるためのロケーションやスタイリングも工夫し、ストーリーあるファッションポートレイトを制作する。		
授業計画	1．オリエンテーション / ファッション写真について 2．インタビュー、ロケーション、スタイリング 3．写真家を交えての個別ミーティング 4．撮影 5．レイアウト 6．講評		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。		
教科書	授業の中で随時指示を行う。		
参考書	授業の中で随時指示を行う。		
教材	スマートフォン。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)			
成績評価 (H30~)	[S]取材やカメラを通して対象の魅力を発見し、高いレベルで作品に反映できた。 [A]取材やカメラを通して対象の魅力を発見し、それを作品に反映できた。 [B]取材とカメラを通して、対象の魅力を発見することができた。 [C]取材とカメラを通して、対象に接することができた。		
主担当教員	廣瀬純子		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-93	履修コード	3891Z1
科目名	デザインⅠ(映像)	科目英語名	Design Ⅰ (video)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	第１教室
単位	1	定員	
担当教員	下浜臨太郎		
授業概要	スマホを使って、簡単なコマ撮り作品をつくります。単純な技術でも、アイデア次第でとってもすてきな作品がつくれちゃう！スタジオも、特殊な機器もいらない、さぁすぐに撮影開始！		
到達目標	フレームを理解し、映像の仕組みを知る。		
授業計画	映像制作といえば、特殊なソフトに機材、専門的な撮影環境、ハードル高そう…いえいえそんなことはありません。映像をつくったことがない方もスマートフォンを使えば、すぐに作品ができちゃう。今回のテーマは「だれもいないそのときに」。コマ撮りの撮影に挑戦します。家に誰もいないそのとき…家の中ではどんなことが起こるだろう？身近なものを素材に、想像をふくらませて撮影してみよう！		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。		
教科書	授業の中で随時資料を提示する。		
参考書	授業の中で随時資料を提示する。		
教材	スマートフォン／くねくね三脚／スマートフォン用リモコン		
履修上の注意	普段つかっているスマートフォンが必要です。		
成績評価 (~H29)	制作物をとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [A]映像の仕組みを理解し、それを制作に応用し、目的に合った制作物をつくることができた。 [B]映像の仕組みを理解し、それを制作に応用することができた。 [C]映像の仕組みを理解できた。		
成績評価 (H30~)	制作物をとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S]映像の仕組みを理解し、それを制作に応用し、他にはない制作物に昇華することができた。 [A]映像の仕組みを理解し、それを制作に応用し、目的に合った制作物をつくることができた。 [B]映像の仕組みを理解し、それを制作に応用することができた。 [C]映像の仕組みを理解できた。		
主担当教員	下浜臨太郎		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-94	履修コード	3915Z1
科目名	デザインⅡ（椅子）	科目英語名	Design Ⅱ（Chair）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	13名
担当教員	根来貴成		
授業概要	段ボールを素材として自分の椅子をデザインする。なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	段ボールという平面素材に、切る、折る、曲げを加え、それを組むことで椅子としての立体を完成させる。 座れる機能や構造を実現するだけでなく、座りたくなる形を追求し、デザイン（機能、構造、素材、形態の融合化）を理解する。 デザインの思考方法と作業プロセスの基本を理解する。		
授業計画	１m×２mの段ボールを各人に５枚配布する。この５枚を使用して、試作検証、改良と飛躍を試み最終作品を完成させる。 制作はデザインの基本的なプロセスにのっとっておこなう。 １、椅子ってなに？ ２、椅子素材として段ボールの理解 ３、アイデア展開 ４、スケールモデル ５、１／１試作 ６、検証 ７、デザインの改良 ８、最終制作 ９、プレゼンテーションボード作成 10、プレゼンテーション		
予習・復習	段ボールの特性や椅子の構造について考察しておくこと。		
教科書	映像で資料を紹介する。		
参考書	図書館にある椅子が載っているデザイン関連書籍。		
教材	段ボール･カッター･定規･カッティングマット		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)	課題提出およびプレゼンテーション 個々の課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]デザインに関する視野を広げ、制作の深化を高いレベルで図ることができた。 [B]デザインに関する視野を広げ、制作の深化を図ることができた。 [C]デザインに関する視野を広げることができた。		
成績評価 (H30~)	課題提出およびプレゼンテーション 個々の課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]デザインに関する視野を広げることができ、その特性を活かした表現が特に高いレベルに到達している。 [A]デザインに関する視野を広げることができ、その特性を活かした表現が高いレベルに到達している。 [B]デザインに関する視野を広げることができ、その特性を活かした表現が一定のレベルに到達している。 [C]デザインに関する視野を広げることができ、その特性を活かした表現が十分ではないが到達している。		
主担当教員	根来貴成		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-95	履修コード	3917Z1
科目名	デザインⅡ（日用品）	科目英語名	Design Ⅱ（Daily Necessities）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	プラスチック加工室
単位	1	定員	12名
担当教員	浅野　隆		
授業概要	この授業のテーマは「真空成型機を使用した壁掛け時計のデザイン」です。ねらいは、時計のデザインを通してプロダクトデザインの概要と進め方を理解することです。具体的には、与えられた条件の中で、使いやすく美しい、実際に使える壁掛け時計をデザイン制作します。製作後にプレゼンテーションを行い、その後、工房前の廊下にて展示します。なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目です。		
到達目標	学生が、プロダクトデザインのプロセス全般を理解し、アイデア発想方法、ブレインストーミング手法、調査方法、プレゼンテーションスキルの習得を目的とします。		
授業計画	１日目：各自、他人に名前を覚えてもらえるようにアイデアを考て自己紹介をおこなう。授業に関するオリエンテーション。真空成型機を使ってデモンストレーションを行う。 宿題①インターネット等で色々な壁掛け時計を調査しプリントしてくる。②真空成型してみたいサンプルを探してくる。 ２日目より毎日、自由テーマによる５分間プレゼンテーションを一人ずつ（２名）行い、全員に良かった点をコメントしてもらう。（人に自分の想いを伝えることの難しさを知る。人の話をしっかりと聞くことの重要性を知る） ２日目：企業でのプロダクトデザインの進め方をスライドにて説明。持ち寄ったサンプルを真空成型してみる。 持ち寄った壁掛け時計を壁に貼り、壁掛け時計にとってデザインポイントとなるキーワードをブレインストーミングで全員で描き出す。描き出されたアイデアの中から関係のありそうなものをグループで分けて整理る。 ３日目：アイデアを考える。思いついたらすぐにモデルを作ったり、スケッチを描いたり、実際にサンプルを真空成型してみる。 ４日目：アイデアを考える。思いついたらすぐにモデルを作ったり、スケッチを描いたり、実際にサンプルを真空成型してみる。 ５日目：デザイン決定。型制作。 ６日目：真空成型。真空成型されたプラスチックの加工及時計のムーブメントの組み立て。塗装仕上げ等。 ７日目：真空成型。真空成型されたプラスチックの加工及時計のムーブメントの組み立て。塗装仕上げ等。 ８日目：展示およびプレゼンテーション。各自の壁掛け時計のコンセプトと授業全体の感想を発表する。		
予習・復習	予習：時計の歴史について調べてくる。世界中の壁掛け時計を調べる。真空成型とは何かを調べる。復習：真空成型機の取り扱いをメモして、復習し使い方をマスターする。		
教科書	映像で資料を紹介する。		
参考書	見えるアイデア　秋草　孝　毎日新聞　／デザインの煎じ薬・全十三包　武正秀治　美術出版社		
教材	カピロンプレート1mm白（真空成形用）･ゴールデンボード（型紙用）･時計のムーブメント		
履修上の注意	汚れても良い服装。 全員５分間のmini TEDとしてプレゼンテーションを行います。内容は問いません用意しておいて下さい。		

成績評価 (~H29)	成績評価　合評対象作品（１回） 個々の課題の到達度、および積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が高いレベルで 昇華されている。 [B]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が十分なレベルに昇華されている。 [C]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が一定のレベルに到達している。
成績評価 (H30~)	個々の課題の到達度、および積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]デザインの基本的な知識や技術、それを活かして作品が特に秀でたレベルで 昇華され、到達目標を十分に達成している。 [A]デザインの基本的な知識や技術、それを活かして作品が高いレベルで 昇華され、到達目標を十分に達成している。 [B]デザインの基本的な知識や技術、それを活かして作品が十分なレベルに昇華され、到達目標を達成している。 [C]デザインの基本的な知識や技術、それを活かした作品が十分ではないが到達目標を達成している。
主担当教員	浅野　隆

令和4年度シラバス

番号	(B1)-96	履修コード	3938Z1
科目名	デザインⅡ（ファッション）	科目英語名	Design Ⅱ（Fashion）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	開講せず
入学年度		毎週・集中	
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	
履修区分	選択必修	教室	
単位	1	定員	
担当教員			
授業概要	ファッションクリエイティブの導入を体験し、基礎的なスキルを習得する。 主にデザイン画、パターン、ファッションテキスタイルデザイン等。 なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	ファッションデザインにおけるデザインの目的、生地とデザインの整合性等 全体のプロセスを体系的に理解する。デザイン画における伝達能力や素材表現方法、パターンでの表現方法、テキスタイルデザインの可能性などを演習により習得する。		
授業計画	・ファッションデザインについての概論 ファッションデザインとは何か、様々な事例や、画像・作品を提示しながら説明。 洋服はどのような手順で作られているかを体系的に教授。 ・課題説明 デザイン画をおこし、そこからアイデア展開、具現化をさせる為、その手順を示す。 ・テーマを設け、リサーチ 各自、具体的にテーマを決め、それに基づいて市場調査などのリサーチを行う。 ・デザイン画演習 自分が作りたい服のイメージをどのように人に伝えるか、デザイン画の技法・コツなどを指導 ・アイデア展開 各自のテーマに基づきデザイン画で表現し、適した生地や、色も含め、発想を広げていく ・平面・立体表現 デザインイメージを実際に具現化する。 トルソーを使用し、ファッションアイテムを試作する。 ・講評 各自に簡単なプレゼンをさせ、講評をする。		
予習・復習	事前に商業施設等を回り、リサーチしておく事。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	遅刻欠席厳禁。		
成績評価 **(~H29)**	個々の課題の達成度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが高いレベルで作品に活かされている。 [B]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが充分なレベルで作品に活かされている。 [C]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが一定以上のレベルで作品に活かされている。		
成績評価 **(H30~)**	個々の課題の達成度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが極めて高いレベルで作品に活かされている。 [A]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが高いレベルで作品に活かされている。 [B]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが充分なレベルで作品に活かされている。 [C]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが一定以上のレベルで作品に活かされている。		
主担当教員			

令和4年度シラバス

番号	(B1)-97	履修コード	3915Z1
科目名	デザインⅡ（椅子）	科目英語名	Design Ⅱ（Chair）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	13名
担当教員	根来貴成		
授業概要	段ボールを素材として自分の椅子をデザインする。なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	段ボールという平面素材に、切る、折る、曲げを加え、それを組むことで椅子としての立体を完成させる。 座れる機能や構造を実現するだけでなく、座りたくなる形を追求し、デザイン（機能、構造、素材、形態の融合化）を理解する。 デザインの思考方法と作業プロセスの基本を理解する。		
授業計画	１m×２mの段ボールを各人に５枚配布する。この５枚を使用して、試作検証、改良と飛躍を試み最終作品を完成させる。 制作はデザインの基本的なプロセスにのっとっておこなう。 １、椅子ってなに？ ２、椅子素材として段ボールの理解 ３、アイデア展開 ４、スケールモデル ５、１／１試作 ６、検証 ７、デザインの改良 ８、最終制作 ９、プレゼンテーションボード作成 10、プレゼンテーション		
予習・復習	段ボールの特性や椅子の構造について考察しておくこと。		
教科書	映像で資料を紹介する。		
参考書	図書館にある椅子が載っているデザイン関連書籍。		
教材	段ボール･カッター･定規･カッティングマット		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)	課題提出およびプレゼンテーション 個々の課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]デザインに関する視野を広げ、制作の深化を高いレベルで図ることができた。 [B]デザインに関する視野を広げ、制作の深化を図ることができた。 [C]デザインに関する視野を広げることができた。		
成績評価 (H30~)	課題提出およびプレゼンテーション 個々の課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]デザインに関する視野を広げることができ、その特性を活かした表現が特に高いレベルに到達している。 [A]デザインに関する視野を広げることができ、その特性を活かした表現が高いレベルに到達している。 [B]デザインに関する視野を広げることができ、その特性を活かした表現が一定のレベルに到達している。 [C]デザインに関する視野を広げることができ、その特性を活かした表現が十分ではないが到達している。		
主担当教員	根来貴成		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-98	履修コード	3917Z1
科目名	デザインⅡ（日用品）	科目英語名	Design Ⅱ（Daily Necessities）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	プラスチック加工室
単位	1	定員	12名
担当教員	浅野　隆		
授業概要	この授業のテーマは「真空成型機を使用した壁掛け時計のデザイン」です。ねらいは、時計のデザインを通してプロダクトデザインの概要と進め方を理解することです。具体的には、与えられた条件の中で、使いやすく美しい、実際に使える壁掛け時計をデザイン制作します。製作後にプレゼンテーションを行い、その後、工房前の廊下にて展示します。なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目です。		
到達目標	学生が、プロダクトデザインのプロセス全般を理解し、アイデア発想方法、ブレインストーミング手法、調査方法、プレゼンテーションスキルの習得を目的とします。		
授業計画	１日目：各自、他人に名前を覚えてもらえるようにアイデアを考て自己紹介をおこなう。授業に関するオリエンテーション。真空成型機を使ってデモンストレーションを行う。 宿題①インターネット等で色々な壁掛け時計を調査しプリントしてくる。②真空成型してみたいサンプルを探してくる。 ２日目より毎日、自由テーマによる５分間プレゼンテーションを一人ずつ（２名）行い、全員に良かった点をコメントしてもらう。（人に自分の想いを伝えることの難しさを知る。人の話をしっかりと聞くことの重要性を知る） ２日目：企業でのプロダクトデザインの進め方をスライドにて説明。持ち寄ったサンプルを真空成型してみる。 持ち寄った壁掛け時計を壁に貼り、壁掛け時計にとってデザインポイントとなるキーワードをブレインストーミングで全員で描き出す。描き出されたアイデアの中から関係のありそうなものをグループで分けて整理る。 ３日目：アイデアを考える。思いついたらすぐにモデルを作ったり、スケッチを描いたり、実際にサンプルを真空成型してみる。 ４日目：アイデアを考える。思いついたらすぐにモデルを作ったり、スケッチを描いたり、実際にサンプルを真空成型してみる。 ５日目：デザイン決定。型制作。 ６日目：真空成型。真空成型されたプラスチックの加工及時計のムーブメントの組み立て。塗装仕上げ等。 ７日目：真空成型。真空成型されたプラスチックの加工及時計のムーブメントの組み立て。塗装仕上げ等。 ８日目：展示およびプレゼンテーション。各自の壁掛け時計のコンセプトと授業全体の感想を発表する。		
予習・復習	予習：時計の歴史について調べてくる。世界中の壁掛け時計を調べる。真空成型とは何かを調べる。復習：真空成型機の取り扱いをメモして、復習し使い方をマスターする。		
教科書	映像で資料を紹介する。		
参考書	見えるアイデア　秋草　孝　毎日新聞　／デザインの煎じ薬・全十三包　武正秀治　美術出版社		
教材	カピロンプレート1mm白（真空成形用）･ゴールデンボード（型紙用）･時計のムーブメント		
履修上の注意	汚れても良い服装。 全員５分間のmini TEDとしてプレゼンテーションを行います。内容は問いません用意しておいて下さい。		

成績評価 (~H29)	成績評価　合評対象作品（１回） 個々の課題の到達度、および積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が高いレベルで 昇華されている。 [B]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が十分なレベルに昇華されている。 [C]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が一定のレベルに到達している。
成績評価 (H30~)	個々の課題の到達度、および積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]デザインの基本的な知識や技術、それを活かして作品が特に秀でたレベルで 昇華され、到達目標を十分に達成している。 [A]デザインの基本的な知識や技術、それを活かして作品が高いレベルで 昇華され、到達目標を十分に達成している。 [B]デザインの基本的な知識や技術、それを活かして作品が十分なレベルに昇華され、到達目標を達成している。 [C]デザインの基本的な知識や技術、それを活かした作品が十分ではないが到達目標を達成している。
主担当教員	浅野　隆

令和4年度シラバス

番号	(B1)-99	履修コード	3938Z1
科目名	デザインⅡ（ファッション）	科目英語名	Design Ⅱ (Fashion)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	開講せず
入学年度		毎週・集中	
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	
履修区分	選択必修	教室	
単位	1	定員	
担当教員			
授業概要	ファッションクリエイティブの導入を体験し、基礎的なスキルを習得する。 主にデザイン画、パターン、ファッションテキスタイルデザイン等。 なお、本科目はデザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	ファッションデザインにおけるデザインの目的、生地とデザインの整合性等 全体のプロセスを体系的に理解する。デザイン画における伝達能力や素材表現方法、パターンでの表現方法、テキスタイルデザインの可能性などを演習により習得する。		
授業計画	・ファッションデザインについての概論 ファッションデザインとは何か、様々な事例や、画像・作品を提示しながら説明。 洋服はどのような手順で作られているかを体系的に教授。 ・課題説明 デザイン画をおこし、そこからアイデア展開、具現化をさせる為、その手順を示す。 ・テーマを設け、リサーチ 各自、具体的にテーマを決め、それに基づいて市場調査などのリサーチを行う。 ・デザイン画演習 自分が作りたい服のイメージをどのように人に伝えるか、デザイン画の技法・コツなどを指導 ・アイデア展開 各自のテーマに基づきデザイン画で表現し、適した生地や、色も含め、発想を広げていく ・平面・立体表現 デザインイメージを実際に具現化する。 トルソーを使用し、ファッションアイテムを試作する。 ・講評 各自に簡単なプレゼンをさせ、講評をする。		
予習・復習	事前に商業施設等を回り、リサーチしておく事。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	遅刻欠席厳禁。		
成績評価 (~H29)	個々の課題の達成度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが高いレベルで作品に活かされている。 [B]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが充分なレベルで作品に活かされている。 [C]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが一定以上のレベルで作品に活かされている。		
成績評価 (H30~)	個々の課題の達成度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが極めて高いレベルで作品に活かされている。 [A]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが高いレベルで作品に活かされている。 [B]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが充分なレベルで作品に活かされている。 [C]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが一定以上のレベルで作品に活かされている。		
主担当教員			

令和4年度シラバス

番号	(B1)-100	履修コード	3916Z1
科目名	デザインⅡ（ステーショナリー）	科目英語名	Design Ⅱ（Daily Necessities）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	木材加工室
単位	1	定員	10名
担当教員	村中　稔		
授業概要	人ともの、使用環境の関係を考えることをとおして、プロダクトデザインの開発プロセスを体得する。 与えられた条件の中で時計をデザインし制作する。 なお、本科目はデザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	人を中心とした生活空間やライフスタイルを認識し、生活者の視点から道具を考えられる。 造形と色彩、素材の関係を把握できる。 作品に込めた自分の意思が伝えられる。		
授業計画	１、デザインとは何か　デザインの本質について製品デザインを例に広く概説を行う。 ２、アイデア展開　：可能性を広げるためスケッチを描く。 ３、ラフモデル　：使い勝手や造形を把握するため、紙によるモデル検討をする。 ４、デザイン決定と細部検討 ５、最終モデル　：用意された材料を有効に用い、実際に使用できる作品を制作する。 ６、最終モデル　：完成した素地に着色 ７、最終モデル：ムーブメントの加工および取り付け、組み立て、仕上げ ８、パッケージ制作 ９、プレゼンテーション		
予習・復習	自身が経営する会社のイメージに合致する動物を検討する。		
教科書	映像で資料を紹介する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	スケッチブック･ヤスリ･サンドペーパー･アクリル絵の具･筆 映像による資料紹介		
履修上の注意	特になし。		
成績評価(~H29)	課題提出およびプレゼンテーション 個々の課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が高いレベルで表現されている。 [B]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が十分なレベルに表現されている。 [C]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が一定のレベルに到達している。		
成績評価(H30~)	課題提出およびプレゼンテーション 個々の課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が特に高いレベルで表現されている。 [A]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が高いレベルで表現されている。 [B]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が十分なレベルに表現されている。 [C]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が一定のレベルに到達している。		
主担当教員	村中　稔		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-101	履修コード	3916Z2
科目名	デザインⅡ（ステーショナリー）	科目英語名	Design Ⅱ（Daily Necessities）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	石膏造形室（1,2日目）・コンピュータ室（3日目以降）
単位	1	定員	16名（コンピューター室は12名が限界です）
担当教員	安島　諭		
授業概要	動作の分析を通じて、目的に合ったコマを、3Dプリンターを用いて製作する。 なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目である。 *教室の使用状況によっては内容が変更される場合がある。		
到達目標	プロダクトデザインにおけるデザインの目的、デザイナーの役割、製品開発全体のプロセスを包括的に理解する。 観察と分析から推論をたて、プロトタイプによる評価の方法を学び実践する。 3D技術を使用したデザインプロセスの長所短所を理解し、ラピッドプロトタイピングの過程を経験・理解する。		
授業計画	１：デザインの概説、3Dプリンターについての基礎知識。 ２：観察と分析から推論をたてる、スケッチ。 ３：簡易モデルよるアイディア展開。 ４：3Dソフトウェアのワークショップ。 デザイン決定。 ５：3Dデータの作成。 ６：3Dプリンターによる制作。 ７：仕上げ、実験、評価。 ８：プレゼンテーション 完成した作品について、各自制作意図やなぜそのような造形を選択したかなどについて発表し、動作や美しさを追求して創造するかたちについて考察する。他人の人の発表を聞き、それに対して自分の考えを述べる。		
予習・復習	モデル製作によるアイディア展開を宿題とする。		
教科書	適宜資料を配布する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	プロトタイプの材料を配布。3Dプリンターを使用する。		
履修上の注意	授業においてはコンピューターの基本的な使い方については触れない。ある程度使い方に習熟している必要がある。		
成績評価 **(~H29)**	課題提出およびプレゼンテーション 個々の課題の到達度、積極的な授業参加を総合して評価する。 [A]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が高いレベルで表現されている。 [B]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が十分なレベルに表現されている。 [C]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が一定のレベルに到達している。		
成績評価 **(H30~)**	課題提出およびプレゼンテーション 個々の課題の到達度、積極的な授業参加を総合して評価する。 [S]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が特に高いレベルで表現されている。 [A]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が高いレベルで表現されている。 [B]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が十分なレベルに表現されている。 [C]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が一定のレベルに到達している。		
主担当教員	安島　諭		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-102	履修コード	3938Z2
科目名	デザインⅡ（ファッション）	科目英語名	Design Ⅱ（Fashion）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	開講せず
入学年度		毎週・集中	
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	
履修区分	選択必修	教室	
単位	1	定員	
担当教員			
授業概要	ファッションクリエイティブの導入を体験し、基礎的なスキルを習得する。 主にデザイン画、パターン、ファッションテキスタイルデザイン等。 なお、本科目はデザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	ファッションデザインにおけるデザインの目的、生地とデザインの整合性等 全体のプロセスを体系的に理解する。デザイン画における伝達能力や素材表現方法、パターンでの表現方法、テキスタイルデザインの可能性などを演習により習得する。		
授業計画	・ファッションデザインについての概論 ファッションデザインとは何か、様々な事例や、画像・作品を提示しながら説明。 洋服はどのような手順で作られているかを体系的に教授。 ・課題説明 デザイン画をおこし、そこからアイデア展開、具現化をさせる為、その手順を示す。 ・テーマを設け、リサーチ 各自、具体的にテーマを決め、それに基づいて市場調査などのリサーチを行う。 ・デザイン画演習 自分が作りたい服のイメージをどのように人に伝えるか、デザイン画の技法・コツなどを指導 ・アイデア展開 各自のテーマに基づきデザイン画で表現し、適した生地や、色も含め、発想を広げていく ・平面・立体表現 デザインイメージを実際に具現化する。 トルソーを使用し、ファッションアイテムを試作する。 ・講評 各自に簡単なプレゼンをさせ、講評をする。		
予習・復習	事前に商業施設等を回り、リサーチしておく事。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	欠席遅刻厳禁。		
成績評価 (~H29)	個々の課題の達成度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが高いレベルで作品に活かされている。 [B]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが充分なレベルで作品に活かされている。 [C]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが一定以上のレベルで作品に活かされている。		
成績評価 (H30~)	個々の課題の達成度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが極めて高いレベルで作品に活かされている。 [A]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが高いレベルで作品に活かされている。 [B]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが充分なレベルで作品に活かされている。 [C]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが一定以上のレベルで作品に活かされている。		
主担当教員	廣瀬純子		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-103	履修コード	3919Z1
科目名	デザインⅢ（ディスプレイ）	科目英語名	Design Ⅲ (Display)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	10名
担当教員	畝野裕司		
授業概要	「折り紙建築」を題材にデザインの魅力や具現化の方法を体験する。 折り紙の手法を応用して１枚の紙から建築物やオブジェなど様々な立体的な造形物を表現する。 なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	カッターや定規などを使用し、デザインの基礎、構造と空間の感覚をやしなう。 デザインの目的や機能を幅広く学ぶと共に、各自の発想や考え方を第三者に伝えることが出来たか、小さな感動を与えられたか、その計画を実行することが出来たか等、デザインの基本的な作業を体験してデザインの魅力に迫る。		
授業計画	１　デザインの基礎的手法、プロセス、機能や目的について、空間デザインを例に広く 　　デザイン一般の概説を行う。 ２　テーマを設定する。 　　各自のテーマを決定する。 ３　企画、アイディア、表現テーマを発表する。 　　色彩、材料と加工方法を念頭におきながら発表する。 ４　アイディア、表現テーマをもとに材料を準備し制作する。 ５ 完成された作品と展開図を発表する		
予習・復習	事前に資料収集をしておく。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	年鑑日本の空間デザイン他		
教材	素材サンプル他		
履修上の注意	デザインを段階的に進行させて学ぶためにスケジュールを重視する。 各自の制作計画を早めて立てると共に、その進行について毎回確認を怠らない。		
成績評価 (~H29)	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、および積極的な授業態度を総合的に評価する。 [A]形と空間に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [B]形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [C]形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。		
成績評価 (H30~)	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、および積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S]形と空間に関する知識と表現が優れた形で演習課題に取り入れられている。 [A]形と空間に関する知識と表現が積極的に演習課題に取り入れられている。 [B]形と空間に関する知識と表現が基本的に演習課題に取り入れられている。 [C]形と空間に関する知識と表現ができている。		
主担当教員	畝野裕司		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-104	履修コード	3919Z1
科目名	デザインⅢ（ディスプレイ）	科目英語名	Design Ⅲ (Display)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	10名
担当教員	畝野裕司		
授業概要	「折り紙建築」を題材にデザインの魅力や具現化の方法を体験する。 折り紙の手法を応用して１枚の紙から建築物やオブジェなど様々な立体的な造形物を表現する。 なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	カッターや定規などを使用し、デザインの基礎、構造と空間の感覚をやしなう。 デザインの目的や機能を幅広く学ぶと共に、各自の発想や考え方を第三者に伝えることが出来たか、小さな感動を与えられたか、その計画を実行することが出来たか等、デザインの基本的な作業を体験してデザインの魅力に迫る。		
授業計画	１　デザインの基礎的手法、プロセス、機能や目的について、空間デザインを例に広く 　　デザイン一般の概説を行う。 ２　テーマを設定する。 　　各自のテーマを決定する。 ３　企画、アイディア、表現テーマを発表する。 　　色彩、材料と加工方法を念頭におきながら発表する。 ４　アイディア、表現テーマをもとに材料を準備し制作する。 ５ 完成された作品と展開図を発表する		
予習・復習	事前に資料収集をしておく。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	年鑑日本の空間デザイン他		
教材	素材サンプル他		
履修上の注意	デザインを段階的に進行させて学ぶためにスケジュールを重視する。 各自の制作計画を早めて立てると共に、その進行について毎回確認を怠らない。		
成績評価 (~H29)	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、および積極的な授業態度を総合的に評価する。 [A]形と空間に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [B]形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [C]形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。		
成績評価 (H30~)	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、および積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S]形と空間に関する知識と表現が優れた形で演習課題に取り入れられている。 [A]形と空間に関する知識と表現が積極的に演習課題に取り入れられている。 [B]形と空間に関する知識と表現が基本的に演習課題に取り入れられている。 [C]形と空間に関する知識と表現ができている。		
主担当教員	畝野裕司		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-105	履修コード	3937Z1
科目名	デザインⅢ（センス・オブ・ワンダー）	科目英語名	Design Ⅲ（Sense of wonder）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	10名
担当教員	北村賢哉		
授業概要	視点を変えるだけで普段何気なく見ているオブジェクトの見え方が劇的に変化することをワークショップで体験します。見えていなかったものを見つける力や想像する力（感性）を養います。与えられたテーマに沿ったオブジェクトを発見するために金沢の街中で観察を行います。写真に記録して持ち帰り、分析・編集したものを作品として発表します。この過程ではコンピューター室のMacを使用して写真加工を行い、Keynoteを用いてプレゼンテーション資料を制作します。なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目です。		
到達目標	「センス・オブ・ワンダー/神秘さや不思議さに目を見はる感性」を再獲得する。 創造活動における基礎力である発見する力、想像する力、伝える力を拡張する。		
授業計画	１、ガイダンス ワークショップの概要ついて事例を紹介しながら説明を行う。クリエイターにとって観察と発見がどの様に必要か、役に立つかを解説する。また、過去の事例からその世界観を感じてもらう。 ２、観察 与えられたテーマをもとに各自が金沢市内で観察を行う。まずは目と脳の関係を新たに構築し、視点を変える感覚をつかむことから始める。 ３、発見 目的に適ったものを見つけたら写真に記録する。記録容量を気にせずに沢山撮る方が良い。 ５、分析 見つけた写真の構図を決めて正方形にトリミングする。この作業によって作品の精度が大きく変化する。見せたい部分に焦点を当て、的確なレイアウトを見つける。 ６、編集 第三者に伝えるためにプレゼンテーション資料を制作する。 ７、評価 スライドショーによるプレゼンテーションを実施する。		
予習・復習	金沢市に関する情報を収集しておくこと。		
教科書	なし		
参考書	レイチェル・カーソン著『センス・オブ・ワンダー（The Sense of Wonder）』新潮社		
教材	画像を記録し、記録媒体でパソコンへ転送できる機器（スマートフォン等）を用意すること。 Macを使用するためAirDropが使用できるiPhoneやiPadを推奨する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)	積極的な授業態度、作品およびプレゼンテーションを通した課題の到達度を総合的に評価する。 [A]行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが高いレベルに到達している。 [B]行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが充分なレベルに到達している。 [C]行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが一定のレベルに到達している。		
成績評価 (H30~)	積極的な授業態度、作品およびプレゼンテーションを通した課題の到達度を総合的に評価する。 [S]行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが高いレベルに到達し、成果に秀でた点が見られる。 [A]行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが高いレベルに到達している。 [B]行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが充分なレベルに到達している。 [C]行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが一定のレベルに到達している。		
主担当教員	北村賢哉		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-106	履修コード	3937Z1
科目名	デザインⅢ（センス・オブ・ワンダー）	科目英語名	Design Ⅲ（Sense of wonder）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	10名
担当教員	北村賢哉		
授業概要	視点を変えるだけで普段何気なく見ているオブジェクトの見え方が劇的に変化することをワークショップで体験します。見えていなかったものを見つける力や想像する力（感性）を養います。与えられたテーマに沿ったオブジェクトを発見するために金沢の街中で観察を行います。写真に記録して持ち帰り、分析・編集したものを作品として発表します。この過程ではコンピューター室のMacを使用して写真加工を行い、Keynoteを用いてプレゼンテーション資料を制作します。なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目です。		
到達目標	「センス・オブ・ワンダー/神秘さや不思議さに目を見はる感性」を再獲得する。 創造活動における基礎力である発見する力、想像する力、伝える力を拡張する。		
授業計画	１、ガイダンス ワークショップの概要ついて事例を紹介しながら説明を行う。クリエイターにとって観察と発見がどの様に必要か、役に立つかを解説する。また、過去の事例からその世界観を感じてもらう。 ２、観察 与えられたテーマをもとに各自が金沢市内で観察を行う。まずは目と脳の関係を新たに構築し、視点を変える感覚をつかむことから始める。 ３、発見 目的に適ったものを見つけたら写真に記録する。記録容量を気にせずに沢山撮る方が良い。 ５、分析 見つけた写真の構図を決めて正方形にトリミングする。この作業によって作品の精度が大きく変化する。見せたい部分に焦点を当て、的確なレイアウトを見つける。 ６、編集 第三者に伝えるためにプレゼンテーション資料を制作する。 ７、評価 スライドショーによるプレゼンテーションを実施する。		
予習・復習	金沢市に関する情報を収集しておくこと。		
教科書	なし		
参考書	レイチェル・カーソン著『センス・オブ・ワンダー（The Sense of Wonder）』新潮社		
教材	画像を記録し、記録媒体でパソコンへ転送できる機器（スマートフォン等）を用意すること。 Macを使用するためAirDropが使用できるiPhoneやiPadを推奨する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)	積極的な授業態度、作品およびプレゼンテーションを通した課題の到達度を総合的に評価する。 [A]行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが高いレベルに到達している。 [B]行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが充分なレベルに到達している。 [C]行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが一定のレベルに到達している。		
成績評価 (H30~)	積極的な授業態度、作品およびプレゼンテーションを通した課題の到達度を総合的に評価する。 [S]行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが高いレベルに到達し、成果に秀でた点が見られる。 [A]行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが高いレベルに到達している。 [B]行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが充分なレベルに到達している。 [C]行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが一定のレベルに到達している。		
主担当教員	北村賢哉		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-107	履修コード	3919Z2
科目名	デザインⅢ（ディスプレイ）	科目英語名	Design Ⅲ (Display)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	10名
担当教員	畝野裕司		
授業概要	「折り紙建築」を題材にデザインの魅力や具現化の方法を体験する。 折り紙の手法を応用して１枚の紙から建築物やオブジェなど様々な立体的な造形物を表現する。 なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	カッターや定規などを使用し、デザインの基礎、構造と空間の感覚をやしなう。 デザインの目的や機能を幅広く学ぶと共に、各自の発想や考え方を第三者に伝えることが出来たか、小さな感動を与えられたか、その計画を実行することが出来たか等、デザインの基本的な作業を体験してデザインの魅力に迫る。		
授業計画	１　デザインの基礎的手法、プロセス、機能や目的について、空間デザインを例に広く 　　デザイン一般の概説を行う。 ２　テーマを設定する。 　　各自のテーマを決定する。 ３　企画、アイディア、表現テーマを発表する。 　　色彩、材料と加工方法を念頭におきながら発表する。 ４　アイディア、表現テーマをもとに材料を準備し制作する。 ５ 完成された作品と展開図を発表する		
予習・復習	事前に資料収集をしておく。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	年鑑日本の空間デザイン他		
教材	素材サンプル他		
履修上の注意	デザインを段階的に進行させて学ぶためにスケジュールを重視する。 各自の制作計画を早めて立てると共に、その進行について毎回確認を怠らない。		
成績評価 (~H29)	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、および積極的な授業態度を総合的に評価する。 [A]形と空間に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [B]形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [C]形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。		
成績評価 (H30~)	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、および積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S]形と空間に関する知識と表現が優れた形で演習課題に取り入れられている。 [A]形と空間に関する知識と表現が積極的に演習課題に取り入れられている。 [B]形と空間に関する知識と表現が基本的に演習課題に取り入れられている。 [C]形と空間に関する知識と表現ができている。		
主担当教員	畝野裕司		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-108	履修コード	3918Z2
科目名	デザインⅢ（建築）	科目英語名	Design Ⅲ（Architecture）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	10名
担当教員	西本 耕喜		
授業概要	校内に居場所をデザインする。"自分の巣をつくる"といっても良い。呼応する場所を探し、そこに継続して居続けるための空間を設える。ダンボールなど身近な素材を用いた空間のつくり方を学ぶ。		
到達目標	建築は人間の営み支える環境づくりであり、誰もが参画できる等身大の世界であることを確認する。		
授業計画	以下の流れで授業を進める。 １、課題説明 2、場所を探す ３、小さな居場所づくり ４、大きな居場所づくり（グループワーク） 5、発表		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書	無し。		
参考書	適宜指示する。		
教材	未定		
履修上の注意	特に無し。		
成績評価 **(~H29)**	デザインプロセスと最終成果物の完成度により評価を行う。 [A] デザインプロセスをしっかり踏襲し、最終成果物に幾つかの注目すべき点を持つ形として反映されている [B] デザインプロセスを一通り踏襲し、最終成果物にそれが形として反映されている [C] デザインプロセスを踏襲し、最終成果物としてそれが活かされているもの		
成績評価 **(H30~)**	デザインプロセスと最終成果物の完成度により評価を行う。 [S] デザインプロセスをしっかり踏襲し、最終成果物が優れた形として反映されている [A] デザインプロセスをしっかり踏襲し、最終成果物に幾つかの注目すべき点を持つ形として反映されている [B] デザインプロセスを一通り踏襲し、最終成果物にそれが形として反映されている [C] デザインプロセスを踏襲し、最終成果物としてそれが活かされているもの		
主担当教員	西本耕喜		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-109	履修コード	3923Z1
科目名	工芸Ⅰ（金工Ⅲ）	科目英語名	Craft Ⅰ（Metal Ⅲ）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	美術科･環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	上田　剛		
授業概要	工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を制作などを通じ包括的に学習する。鋳金技法の修得を中心とした金属加工技術の基礎的知識の獲得を指導する。なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理において安全性の確認、制作方法に応じた技術を理解する。金属の塑性加工技術を体感し、素材の特性を学ぶ。また、金属の特性を理解し、第三者に対して説明出来るだけの知識、並びに技術を身につける。		
授業計画	工芸全般を歴史や文化意義あるいは表現の特質から理解する。素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。専門の授業としては、金属素材に対しての鋳造技術を青銅・錫などの金属を通して経験する。 ○基本技術の概要説明 　金属の特質や鋳造法案、溶解の際の火器などの取り扱いについての説明など行う。 ○素材の鋳造・鋳型説明 　金属を鋳造するにあたり、その鋳型の制作方法と、安全性を第一義とした目的を伝達する。 ○形態のデザイン 　作業の特殊性を鑑みたデザインを発想する。 ○仕上げ(表面処理) 　素材の魅力を様々な道具を使って引き出せることを体感する。 制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域における表現の方法、素材の活用を理解する。		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。 各々が興味ある金属製品の制作方法と歴史を調べる。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	金工の伝統技術・金工の着色技法		
教材	演習にかかわる材料費は自己負担(2000円～3000円程度)		
履修上の注意	各作業では汚れることも多いので、それに適した服装で参加すること。 なお今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価 **(~H29)**	提出作品、課題の到達度および実習態度を総合して評価する。 [A]工芸に関する視野を広げ、制作における素材・技法への習熟がなされ、高いレベルでの造形表現に達している。 [B]工芸に関する視野を広げ、制作における素材・技法への習熟がなされ、一定の造形表現に達している。 [C]工芸に関して学び、制作における素材・技法を体験し、造形表現に取り組んだ。		
成績評価 **(H30~)**	提出作品、課題の到達度および実習態度を総合して評価する。 [S]工芸に関する視野を広げ、制作における素材・技法への習熟がなされ、特出して秀でたレベルでの造形表現に達している。 [A]工芸に関する視野を広げ、制作における素材・技法への習熟がなされ、高いレベルでの造形表現に達している。 [B]工芸に関する視野を広げ、制作における素材・技法への習熟がなされ、一定の造形表現に達している。 [C]工芸に関して学び、制作における素材・技法を体験し、造形表現に取り組んだ。		
主担当教員	上田　剛		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-110	履修コード	3924Z1
科目名	工芸Ⅱ（陶磁Ⅲ）	科目英語名	Craft Ⅱ（Ceramic Ⅲ）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	美術科･環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	宮永春香		
授業概要	陶芸に関する歴史・文化・社会的視点を学び、現代社会における陶磁が持つ意味と価値を確認する。 生活環境における造形物の「機能」と「作用」を意識した造形作品を制作する。 なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。 更には造形表現の基礎的考え方を陶を用いた表現を通して理解する。		
授業計画	工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。 素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。 「tea pot」及び「カップ」の制作 (1)工芸及び陶磁の概論、土による成形方法の説明、課題説明、カップの制作 素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。 アイディアスケッチ (2)「tea pot」制作①　胎制作 (3)「tea pot」制作②　部品制作 (4)「tea pot」制作③　くりぬき、部品接着 (5) 窯つめ、「tea pot」制作④　仕上げ (6) 手びねり① (7) 手びねり② (8) 施釉 制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域におけるの表現の方法、陶を用いた造形表現の基礎的考え方、素材の活用を理解する。自然と工芸の関わりあるいは社会や生活における工芸の役割などを考え、日本・アジア・諸外国などの伝統や地域工芸文化の理解を深める。		
予習・復習	事前に日本の焼き物の歴史の概要を学習しておくこと。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	研究室で準備するが、特に必要なものがあれば指示する。 材料費（粘土等）を徴収する。		
履修上の注意	作業着の着用。		
成績評価 **(~H29)**	課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。		
成績評価 **(H30~)**	[S]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが特に秀でた高いレベルに到達している。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。		
主担当教員	宮永春香		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-111	履修コード	3927Z1
科目名	工芸Ⅱ（ガラス）	科目英語名	Craft Ⅱ (Glass)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	美術科･環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	（非常勤）渡部匡人		
授業概要	工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を、制作などを通し包括的に学習する。 ヒュージングとスランピングという二つの技法を用いてガラスの器を制作し、ガラスという素材への理解を深める。 ヒュージング技法とはガラスどうしを熱で熔着する技法であり、スランピング技法とは熱でガラスを曲げてゆく技法である。共に電気炉を使用する技法である。したがって、電気炉でガラスを焼成する際の温度管理が重要なポイントとなるので、その基本的な温度管理についての知識の習得も目指す。 なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。 実制作と講義を通して、ガラスという素材の特性と魅力を発見し、各自の専門分野への応用、活用方法の可能性を考えてみるところまで考察が及ぶことを目標とする。		
授業計画	工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。 素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。 ・ ガラス工芸概略講義 ・ 課題説明 ・ 各自のアイデアスケッチを元に器のデザインを決定 ・ ガラスと使用道具の取り扱い説明と実習 ・ 各自、決定したデザインに従って色板ガラスのパーツをガラス元板から切り出す ・ 切り出したパーツをセラミックペーパー上で構成する ・ 構成したものを電気炉に窯入れし、ヒュージング（熔着）する ・ ヒュージングしたガラスを電気炉から窯出し、加工する ・ スランピング用の型を制作する ・ ヒュージングしたガラスをスランピング用の型上に乗せ、電気炉に窯入れし、スランピング（型の形状に沿わせて熱で曲げる）する ・ スランピングして器状になったものを電気炉から窯出し、加工仕上げする ・ 講評会の展示方法を検討（各自の作品趣旨が、より効果的に人に伝わるよう工夫する） ・ 講評会とまとめ ・ レポートの提出 制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域におけるの表現の方法、素材の活用を理解する。自然と工芸の関わりあるいは社会や生活における工芸の役割などを考え、日本・アジア・諸外国などの伝統や地域工芸文化の理解を深める。		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	演習にかかわる材料費として自己負担（5,000円程度）。		
履修上の注意	なお今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		

成績評価 (~H29)	提出作品、課題の到達度、および授業態度を総合して評価する。 [A]工芸に関する視野を広げ、ガラスを用いた造形表現を高いレベルで理解することができた。 [B]工芸に関する視野を広げ、ガラスを用いた造形表現を理解することができた。 [C]ガラスを用いた造形表現に関する視野を広げることができた。
成績評価 (H30~)	提出作品、課題の到達度、および授業態度を総合して評価する。 [S]工芸に関する視野を広げ、ガラスを用いた造形表現を特に秀でた高いレベルで理解することができた。 [A]工芸に関する視野を広げ、ガラスを用いた造形表現を高いレベルで理解することができた。 [B]工芸に関する視野を広げ、ガラスを用いた造形表現を理解することができた。 [C]ガラスを用いた造形表現に関する視野を広げることができた。
主担当教員	渡部匡人

令和4年度シラバス

番号	(B1)-112	履修コード	3930Z1
科目名	工芸Ⅲ（漆・木工Ⅰ）	科目英語名	Craft Ⅲ（Urushi and Woodwork Art Ⅲ）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	美術科･環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	16
担当教員	田中信行		
授業概要	工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を、制作などを通し包括的に学習する。 漆工芸における乾漆技法と塗りを体験する。各自の制作を通して素材と表現を考察し、物づくりの文化を学ぶ。 なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。 漆工芸における乾漆技法と塗りの基礎的知識の理解、道具の扱いの習得、造形素材として漆への理解を深める。		
授業計画	工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。 素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。 乾漆技法による作品制作 テーマ：「身体」 材料：水粘土を用いて原型制作する。 　　漆・麻布 〔授業計画〕 1.課題説明、漆の制作工程及び材料説明 2.課題制作の構想を練る。制作内容を決める。 3.水粘土にて原型制作 4.布貼り（目摺り）3回 5.下地工程　（研ぎ） 6.下地工程　（水研ぎ） 7.漆塗り（水研ぎ） 8.研磨艶上げ作業と講評 講評 制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域における表現の方法、素材の活用を理解する。また風土と工芸の関わりや社会と生活における工芸の役割、可能性について考察する。		
予習・復習	事前の予習と充分な復習を要する。また作業の性質上授業時間内に制作が進まなかった場合は時間外の制作も必要となる。		
教科書	特になし。		
参考書	特になし。		
教材	漆、下地材料などを購入するための教材費が必要。（2000円～3000円程度の予定：自己負担） アイディアスケッチブック・筆記用具・作業着を持参すること。		
履修上の注意	素材の性質上かぶれる恐れがあるので心配な学生は履修を避けるように。 １日毎の作業が重要となるので欠席は作品提出できない状況につながるので留意すること。 なお今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		

成績評価 **(~H29)**	素材の把握、道具の扱いの習得、工程・技法の基礎的理解および作品提出（1回1作品） 課題の到達度、積極的な制作への取り組みを判断して評価する。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、課題制作において高いレベルに達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、課題制作として一定のレベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、課題制作に取り組んでいる。
成績評価 **(H30~)**	素材の把握、道具の扱いの習得、工程・技法の基礎的理解および作品提出（1回1作品） 課題の到達度、積極的な制作への取り組みを判断して評価する。 [S]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、課題制作において非常に高いレベルに達している [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、課題制作において高いレベルに達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、課題制作として一定のレベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、課題制作に取り組んでいる。
主担当教員	田中信行

令和4年度シラバス

番号	(B1)-113	履修コード	3931Z1
科目名	工芸Ⅲ（木工）	科目英語名	Craft Ⅲ（Wood Craft）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	美術科･環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	14名
担当教員	（非常勤）藤野征一郎		
授業概要	工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を、制作などを通し包括的に学習する。 刳り物(木塊を刃物等で加工成形すること)制作の基本的な技術を習得する。 木素材の特性を捉えながら造形と表面仕上げの技術を習得する。 なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。 素材・制作工程・道具に関する木工の基礎的な知識を理解し、扱い方を習得する。		
授業計画	工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。 制作テーマ;「スプーンとトレイ」 スプーンおよびトレイの立体的なかたちを理解し、各自主題を考える。 材料について; A:スプーン(ケヤキ材):約W20×D3×H3cm　1点 B:トレイ(タモ材):約W22×D12×H1.8cm　1点 おおよそ上記サイズの木材をひとり各1個使用する。 アイデアスケッチ又は図面を描き、木取りを行う。道具・機械の使い方を理解し、木材の荒取りを行う。 ノミ等の手工具を使用。成形し表面仕上げを行う。 表面仕上げの技術と漆塗装との関係を理解する。 [作業工程] 1, 制作方法の説明。制作内容を決める。図面などかたちを決める。 2, 糸鋸・バンドソーで荒取りを行う。 3, ノミなどの手工具を使用し、制作する。 (※制作の段取りはAを優先に進める。) 4, ノミなどの手工具を使用し、制作する。 5, ノミなどの手工具を使用し、制作する。表面仕上げについて説明を行う。 6, 漆塗装(※塗装はAのみ行う。残りの時間でBを進める。) 7, 2回目の漆塗装を行う。 残りの時間でBの仕上げを進める。 8, 3回目の漆塗装　残りの時間でBを仕上げる。　講評 制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域における表現の方法、素材の活用を理解する。自然と工芸の関わりあるいは社会や生活における工芸の役割などを考え、日本・アジア・諸外国などの伝統や地域工芸文化の理解を深める。		
予習・復習	授業内で指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	木材・漆を購入するための教材費が必要。(2000～3000円程度の予定)		
履修上の注意	刃物を扱うため、長ズボン・靴下・作業靴を着用し、動きやすい格好で参加のこと。 なお今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		

成績評価 (~H29)	授業への積極的な参加姿勢及び提出された課題作品を下記の基準により総合的に評価する。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが高いレベルに達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品制作への取り組みが一定のレベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んだ。
成績評価 (H30~)	授業への積極的な参加姿勢及び提出された課題作品を下記の基準により総合的に評価する。 [S]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが非常に高いレベルに達している。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが高いレベルに達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品制作への取り組みが一定のレベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んだ。
主担当教員	藤野征一郎

令和4年度シラバス

番号	(B1)-114	履修コード	3933Z1
科目名	工芸Ⅳ（染織Ⅲ）	科目英語名	Craft Ⅳ（TextileⅢ）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	美術科･環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	加賀城健		
授業概要	日本の伝統技法「型染」の基となる「ステンシル染」の体験を通じて、美術工芸についての見識を深め、特に繊維素材（布）と染色について考察する。なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	工芸染色分野における素材・材料・道具の基本的理解とその使用や管理、制作意図に応じた方法・技術を知る。繊維素材（布）に触れ、制作表現の一連の工程を通じて、工芸的なモノづくりの基本理念を理解する。		
授業計画	◯導入 布や染料及び道具の特性、工芸における発想法、表現の方法、目的に応じた技法・技術を紹介する。 ◯制作 「ステンシル染」に取り組む。 ①テーマに基づいた調査、アイデアスケッチ ②図案作成、トレース ③型紙彫り ④染色 ⑤染色 ⑥アイロン、仕上げ ◯講評 制作した作品の講評と鑑賞を通して、工芸領域における表現の方法や素材の活用を理解するとともに、それぞれ専門とする分野との相違点や今後の制作への活用を考える。		
予習・復習	詳細は授業において指示する。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	必要な時点で指示、手配する。持参する用具等は事前に指示する。		
履修上の注意	作業上学生や教員が密にならず、適度な距離を保ちながら授業が行われるように運営する。また状況によっては、新型コロナ感染予防のため、オンラインにてコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価 (~H29)	基礎知識・技術の習得度、工芸に関する理解度、出席、提出作品により評価する。 [A]高いレベルで知識の習得と技術の習熟がみられた。 [B]知識の習得と技術の習熟がみられた。 [C]最低限の体験がなされた。		
成績評価 (H30~)	基礎知識・技術の習得度、工芸に関する理解度、出席、提出作品により評価する。 [S]非常に高いレベルで知識の習得と技術の習熟がみられた。 [A]高いレベルで知識の習得と技術の習熟がみられた。 [B]知識の習得と技術の習熟がみられた。 [C]最低限の体験がなされた。		
主担当教員	加賀城健		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-115	履修コード	3940Z1
科目名	工芸Ⅳ（染織Ⅳ）	科目英語名	Craft Ⅳ（Textile Ⅳ）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	美術科･環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	（非常勤）弘田朋実		
授業概要	工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を、制作などを通し包括的に学習する。 染色概論及び制作体験実習。なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。繊維素材に触れ、素材、加工、表現の一連の作業を通じて、工芸的なモノづくりの基本理念を理解し、今後の自己の創作活動に生かす。		
授業計画	導入 　工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。 　素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。 展開 ・繊維染色概論／染める事とは？繊維とは？布とは？ ・日本を中心として染織品を紹介しながら、歴史的染織の世界を展望する。 ・ 浸染法の基礎理論(天然染料・化学染料の理解) ・ 絞り染めの諸技法の理解と体得 ・ 作品の制作 ・ 仕上げ 作品の企画・構想から仕上げまでは、個々の創意に応じ個別に対応する。 まとめ（講評） 　制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域におけるの表現の方法、素材の活用を理解する。 　自然と工芸の関わりあるいは社会や生活における工芸の役割などを考え、日本・アジア・諸外国などの伝統や地域工芸文化の理解を深める。		
予習・復習	適時指示する。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	必要な時点で指示、手配する。持参する用具等、適時指示する。		
履修上の注意	今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価 **(~H29)**	提出作品およびレポート等から総合的に評価。 [A]工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を高いレベルで実践、作品化できている。 [B]工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を実践、作品化できている。 [C]工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解し、作品化できている。		
成績評価 **(H30~)**	提出作品およびレポート等から総合的に評価。 [S]工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を特に秀でた高いレベルで実践、作品化できている [A]工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を高いレベルで実践、作品化できている。 [B]工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を実践、作品化できている。 [C]工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解し、作品化できている。		
主担当教員	弘田朋実		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-116	履修コード	3922Z2
科目名	工芸Ⅰ（金工Ⅱ）	科目英語名	Craft Ⅰ（Metal Ⅱ）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	美術科・デザイン科（環境デザイン専攻除く）2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	水代達史		
授業概要	金属工芸は大きく分けて三つの技法に分類される。型を作ってその中に溶けた金属を流し込む鋳金技法、 金属板や棒材を叩いて形を作る鍛金技法、出来上がった金属の胎に彫や切削加工で装飾を施す彫金技法である。 本授業ではその中の鍛金技法を使って造形を行う。 板材を金鎚で叩いて変形させて、自身の望む形に成型加工することを演習を通して習得する。		
到達目標	金属加工技術の習得と金属素材の特性を十分に理解し、受講者各々の金属工芸に対する知識と技巧の幅を広げる。		
授業計画	本演習では腐食、透かし彫り、着色を行い金属プレートを制作する。 金属素材の特性と基礎的な加工技術、それに伴い使用する道具類について講義を行う。 基本的加工技法は、切削技法、鍛金技法、研磨技法を複合的に扱い制作する。 使用目的、素材特性、金工技法による作業特性を十分理解したうえで制作物の意匠を考える。 アイデアスケッチ、レンダリングを行い、自身の制作物をより具体化する。 金属材料加工に即した道具類の使用方法について実演を交えて講義を行う。 アイデアスケッチを基に制作物を決定する。 必要に応じて道具を選び的確な作業手順にて制作を行う。 各自デザインしたものを金工技法にて仕上げる。		
予習・復習	作品に施す文様や図柄を各自スケッチする。		
教科書	適時指示		
参考書			
教材	真鍮板・糸鋸・棒ヤスリ・紙やすり・塩化第二鉄溶液・研磨剤等		
履修上の注意	作業しやすい服装で安全に制作加工できるよう心掛ける。 なお今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価 (~H29)	演習を通して金属加工技法の基礎的な理解が得られたかを提出作品・授業態度などから総合的に評価する。 [A]鍛金技法の基礎的な知識が十分に習得され、造形的表現が高いレベルに達している。 [B]鍛金技法の基礎的な知識が習得され、造形的表現が十分なレベルに達している。 [C]鍛金技法の基礎的な知識が習得され、造形的表現が一定のレベルに達している。		
成績評価 (H30~)	演習を通して金属加工技法の基礎的な理解が得られたかを提出作品・授業態度などから総合的に評価する。 [S]鍛金技法の基礎的な知識を十分踏まえたうえで、応用力、造形力が非常に高いレベルに達している。 [A]鍛金技法の基礎的な知識が十分に習得され、造形的表現が高いレベルに達している。 [B]鍛金技法の基礎的な知識が習得され、造形的表現が十分なレベルに達している。 [C]鍛金技法の基礎的な知識が習得され、造形的表現が一定のレベルに達している。		
主担当教員	水代達史		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-117	履修コード	3926Z2
科目名	工芸Ⅱ（陶磁Ⅱ）	科目英語名	Craft Ⅱ（Ceramic Ⅱ）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	美術科・デザイン科（環境デザイン専攻除く）2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	池田晶一		
授業概要	工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解した上で土による基礎的成形方法を体験する。また、陶造形のワークショップ、課題制作を通して陶を用いた造形表現を行う。なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。 更には造形表現の基礎的考え方を陶を用いた表現を通して理解する。		
授業計画	工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。 素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。 (1)工芸及び陶磁の概論、北出コレクション見学、土による成形方法の説明、土練り 工芸及び陶磁全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。また素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。 (2)成形の基礎実習 (3)素焼き (4)釉掛け (5)本焼き (6)加飾装飾の技法について (7)考察：工芸領域におけるの表現の方法、陶を用いた造形表現の基礎的考え方、素材の活用を理解する。自然と工芸の関わりあるいは社会や生活における工芸の役割などを考え、日本・アジア・諸外国などの伝統や地域工芸文化の理解を深める。		
予習・復習	事前に日本の焼き物の歴史の概要を学習しておくこと。		
教科書	なし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	教員が準備する。材料費を徴収する事がある。		
履修上の注意	今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価 **(~H29)**	課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。		
成績評価 **(H30~)**	[S]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが特に秀でた高いレベルに到達している。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。		
主担当教員	池田晶一		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-118	履修コード	3927Z2
科目名	工芸Ⅱ（ガラス）	科目英語名	Craft Ⅱ（Glass）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	美術科・デザイン科（環境デザイン専攻除く）2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	（非常勤）田　聡美		
授業概要	工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を、制作などを通し包括的に学習する。 ヒュージングとスランピングという二つの技法を用いてガラスの器を制作し、ガラスという素材への理解を深める。 ヒュージング技法とはガラスどうしを熱で熔着する技法であり、スランピング技法とは熱でガラスを曲げてゆく技法である。共に電気炉を使用する技法である。したがって、電気炉でガラスを焼成する際の温度管理が重要なポイントとなるので、その基本的な温度管理についての知識の習得も目指す。 なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。 実制作と講義を通して、ガラスという素材の特性と魅力を発見し、各自の専門分野への応用、活用方法の可能性を考えてみるところまで考察が及ぶことを目標とする。		
授業計画	工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。 素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。 ・ ガラス工芸概略講義 ・ 課題説明 ・ 各自のアイデアスケッチを元に器のデザインを決定 ・ ガラスと使用道具の取り扱い説明と実習 ・ 各自、決定したデザインに従って色板ガラスのパーツをガラス元板から切り出す ・ 切り出したパーツをセラミックペーパー上で構成する ・ 構成したものを電気炉に窯入れし、ヒュージング（熔着）する ・ ヒュージングしたガラスを電気炉から窯出し、加工する ・ スランピング用の型を制作する ・ ヒュージングしたガラスをスランピング用の型上に乗せ、電気炉に窯入れし、スランピング（型の形状に沿わせて熱で曲げる）する ・ スランピングして器状になったものを電気炉から窯出し、加工仕上げする ・ 講評会の展示方法を検討（各自の作品趣旨が、より効果的に人に伝わるよう工夫する） ・ 講評会とまとめ ・ レポートの提出 制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域におけるの表現の方法、素材の活用を理解する。自然と工芸の関わりあるいは社会や生活における工芸の役割などを考え、日本・アジア・諸外国などの伝統や地域工芸文化の理解を深める。		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	演習にかかわる材料費として自己負担（5,000円程度）。		
履修上の注意	今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		

成績評価 (~H29)	提出作品、課題の到達度、および授業態度を総合して評価する。 [A]工芸に関する視野を広げ、ガラスを用いた造形表現を高いレベルで理解することができた。 [B]工芸に関する視野を広げ、ガラスを用いた造形表現を理解することができた。 [C]ガラスを用いた造形表現に関する視野を広げることができた。
成績評価 (H30~)	提出作品、課題の到達度、および授業態度を総合して評価する。 [S]工芸に関する視野を広げ、ガラスを用いた造形表現を特に秀でた高いレベルで理解することができた。 [A]工芸に関する視野を広げ、ガラスを用いた造形表現を高いレベルで理解することができた。 [B]工芸に関する視野を広げ、ガラスを用いた造形表現を理解することができた。 [C]ガラスを用いた造形表現に関する視野を広げることができた。
主担当教員	田　聡美

令和4年度シラバス

番号	(B1)-119	履修コード	3929Z2
科目名	工芸Ⅲ（漆・木工Ⅲ）	科目英語名	Craft Ⅲ（Urushi and Woodwork Art Ⅱ）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	美術科・デザイン科（環境デザイン専攻除く）2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	12名
担当教員	青木千絵		
授業概要	工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を、制作などを通し包括的に学習する。 漆工芸における乾漆技法と塗りを体験する。各自の制作を通して素材と表現を考察し、物づくりの文化を学ぶ。 なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。 漆工芸における乾漆技法と塗りの基礎的知識の理解、道具の扱いの習得、造形素材として漆への理解を深める。		
授業計画	工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。 素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。 乾漆技法によるオブジェ制作 テーマ：「身体」 材料：硬質発泡スチロール（２０㎝×２０㎝×２０㎝）を一人一個原型に使用する。 漆・麻布 〔授業計画〕 1.課題説明、漆の制作工程及び材料説明 2.課題制作の構想を練る。制作内容を決め、カッターナイフで荒取りを行う。 3.発泡スチロールにて原型制作　砥の粉ボンド塗布 4.布貼り（目摺り）２回 5.下地工程　（研ぎ） 6.下地工程　（水研ぎ） 7.漆塗り（水研ぎ） 8.研磨艶上げ作業と講評 講評 制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域における表現の方法、素材の活用を理解する。また風土と工芸の関わりや社会と生活における工芸の役割、可能性について考察する。		
予習・復習	事前の予習と充分な復習を要する。また作業の性質上授業時間内に制作が進まなかった場合は時間外の制作も必要となる。		
教科書	特になし。		
参考書	特になし。		
教材	漆、下地材料などを購入するための教材費が必要。（2000円～3000円程度の予定：自己負担） アイディアスケッチブック・筆記用具・作業着を持参すること。		
履修上の注意	素材の性質上かぶれる恐れがあるので心配な学生は履修を避けるように。 １日毎の作業が重要となるので欠席は作品提出できない状況につながるので留意すること。		

成績評価 (~H29)	素材の把握、道具の扱いの習得、工程・技法の基礎的理解および作品提出（1回1作品） 課題の到達度、積極的な制作への取り組みを判断して評価する。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、課題制作において高いレベルに達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、課題制作として一定のレベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、課題制作に取り組んでいる。
成績評価 (H30~)	素材の把握、道具の扱いの習得、工程・技法の基礎的理解および作品提出（1回1作品） 課題の到達度、積極的な制作への取り組みを判断して評価する。 [S]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、課題制作において非常に高いレベルに達している [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、課題制作において高いレベルに達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、課題制作として一定のレベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、課題制作に取り組んでいる。
主担当教員	青木千絵

令和4年度シラバス

番号	(B1)-120	履修コード	3931Z2
科目名	工芸Ⅲ（木工）	科目英語名	Craft Ⅲ（Wood Craft）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	美術科・デザイン科（環境デザイン専攻除く）2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	14名
担当教員	（非常勤）藤野征一郎		
授業概要	工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を、制作などを通し包括的に学習する。 刳り物(木塊を刃物等で加工成形すること)制作の基本的な技術を習得する。 木素材の特性を捉えながら造形と表面仕上げの技術を習得する。 なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。 素材・制作工程・道具に関する木工の基礎的な知識を理解し、扱い方を習得する。		
授業計画	工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。 制作テーマ;「スプーンとトレイ」 スプーンおよびトレイの立体的なかたちを理解し、各自主題を考える。 材料について; A:スプーン(ケヤキ材):約W20×D3×H3cm　1点 B:トレイ(タモ材):約W22×D12×H1.8cm　1点 おおよそ上記サイズの木材をひとり各1個使用する。 アイデアスケッチ又は図面を描き、木取りを行う。道具・機械の使い方を理解し、木材の荒取りを行う。 ノミ等の手工具を使用。成形し表面仕上げを行う。 表面仕上げの技術と漆塗装との関係を理解する。 [作業工程] 1, 制作方法の説明。制作内容を決める。図面などかたちを決める。 2, 糸鋸・バンドソーで荒取りを行う。 3, ノミなどの手工具を使用し、制作する。 (※制作の段取りはAを優先に進める。) 4, ノミなどの手工具を使用し、制作する。 5, ノミなどの手工具を使用し、制作する。表面仕上げについて説明を行う。 6, 漆塗装(※塗装はAのみ行う。残りの時間でBを進める。) 7, 2回目の漆塗装を行う。 残りの時間でBの仕上げを進める。 8, 3回目の漆塗装　残りの時間でBを仕上げる。　講評 制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域における表現の方法、素材の活用を理解する。自然と工芸の関わりあるいは社会や生活における工芸の役割などを考え、日本・アジア・諸外国などの伝統や地域工芸文化の理解を深める。		
予習・復習	授業内で指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	木材・漆を購入するための教材費が必要。(2000～3000円程度の予定)		
履修上の注意	刃物を扱うため、長ズボン・靴下・作業靴を着用し、動きやすい格好で参加のこと。 なお今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		

成績評価 (~H29)	授業への積極的な参加姿勢及び提出された課題作品を下記の基準により総合的に評価する。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが高いレベルに達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品制作への取り組みが一定のレベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んだ。
成績評価 (H30~)	授業への積極的な参加姿勢及び提出された課題作品を下記の基準により総合的に評価する。 [S]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが非常に高いレベルに達している。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが高いレベルに達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品制作への取り組みが一定のレベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んだ。
主担当教員	藤野征一郎

令和4年度シラバス

番号	(B1)-121	履修コード	3932Z2
科目名	工芸Ⅳ（染織II）	科目英語名	Craft Ⅳ（TextileⅠ）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	美術科・デザイン科（環境デザイン専攻除く）2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	足立真実		
授業概要	工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を、制作などを通し包括的に学習する。「型染め」を基にした「ステンシル染め」の体験を通じて、美術工芸、生活工芸についての見識を深め、繊維素材と造形の関係について考察する。なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。「ステンシル染め」の基礎技法の体験から、自らの発想で現代的な作品制作への応用の可能性を探り、小品制作に挑戦する。		
授業計画	導入 工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。 素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。 展開 「ステンシル染め」の型紙の制作と顔料での彩色を通して、素材の基本的な扱い方を習得し、それらを生かしたオリジナルの小品制作に挑戦する。 制作 ①課題説明　図案作成 ②図案完成　トレース作業 ③型紙彫り ④染色 ⑤染色 ⑥仕上げ　講評会 まとめ（講評） 制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域における表現の方法、素材の活用を理解　する。自然と工芸の関わりあるいは社会や生活における工芸の役割などを考え、日本・アジア・諸外国などの伝統や地域工芸文化の理解を深める。		
予習・復習	「型染め」「ステンシル染め」についてＷＥＢや文献を活用して、基礎知識を学んでおくことが望ましい。		
教科書	適時指示する。		
参考書	資料を配布する。		
教材	適時指示する。		
履修上の注意	和室で実習を行うので、座りやすい服装等に留意する。本年度に関しては、新コロナウイルス感染予防のために密を避け、実習教室でのそれぞれの間隔を開けるとともに、実習教室での作業は密にならない運営を行う。		
成績評価 (~H29)	基礎知識・技術の習得度から、また一般的工芸に関する理解度、出来上がった小作品により評価する。 [A]期間相応の知識技術の習熟がなされ、自身の表現への効果的な活用が期待される。 [B]一定の習熟度に達している。 [C]最低限の体験がなされた。		
成績評価 (H30~)	基礎知識・技術の習得度から、また一般的工芸に関する理解度、出来上がった小作品により評価する。 [S]非常に高いレベルで知識技術の習熟がなされ、自身の表現への効果的な活用が期待される。 [A]期間相応の知識技術の習熟がなされ、自身の表現への効果的な活用が期待される。 [B]一定の習熟度に達している。 [C]最低限の体験がなされた。		
主担当教員	足立真実		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-122	履修コード	3940Z2
科目名	工芸Ⅳ（染織Ⅳ）	科目英語名	Craft Ⅳ（Textile Ⅳ）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	美術科・デザイン科（環境デザイン専攻除く）2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	（非常勤）弘田朋実		
授業概要	工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を、制作などを通し包括的に学習する。 染色概論及び制作体験実習。なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。繊維素材に触れ、素材、加工、表現の一連の作業を通じて、工芸的なモノづくりの基本理念を理解し、今後の自己の創作活動に生かす。		
授業計画	導入 　工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。 　素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。 展開 ・繊維染色概論／染める事とは？繊維とは？布とは？ ・日本を中心として染織品を紹介しながら、歴史的染織の世界を展望する。 ・ 浸染法の基礎理論(天然染料・化学染料の理解) ・ 絞り染めの諸技法の理解と体得 ・ 作品の制作 ・ 仕上げ 作品の企画・構想から仕上げまでは、個々の創意に応じ個別に対応する。 まとめ（講評） 　制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域におけるの表現の方法、素材の活用を理解する。 　自然と工芸の関わりあるいは社会や生活における工芸の役割などを考え、日本・アジア・諸外国などの伝統や地域工芸文化の理解を深める。		
予習・復習	適時指示する。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	必要な時点で指示、手配する。持参する用具等、適時指示する。		
履修上の注意	今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価 **(~H29)**	提出作品およびレポート等から総合的に評価。 [A]工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を高いレベルで実践、作品化できている。 [B]工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を実践、作品化できている。 [C]工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解し、作品化できている。		
成績評価 **(H30~)**	提出作品およびレポート等から総合的に評価。 [S]工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を特に秀でた高いレベルで実践、作品化できている [A]工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を高いレベルで実践、作品化できている。 [B]工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を実践、作品化できている。 [C]工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解し、作品化できている。		
主担当教員	弘田朋実		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-123	履修コード	3936Z1
科目名	映像メディア	科目英語名	Visual Expression&Computer Graphics
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	5/24～6/2、１～４限（6/2は1～2限）
履修区分	必修	教室	映像メディア室
単位	1	定員	20名
担当教員	（非常勤）宮原康展		
授業概要	デジタル一眼レフカメラやデジタルビデオカメラを用いた撮影、コンピュータを利用した映像編集や画像編集を学ぶ。また、コンピュータを活用するための基礎知識と操作方法を習得する。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	映像メディアの基礎知識を身につけ、コンピュータを利用して創作活動を行うための基本操作を習得する。		
授業計画	01：MacOS基礎／DTP（デスクトップパブリッシング）基礎 02：DTP概論／DTP実技 03：DTP実技 04：DTP実技／DTP課題提出 05：デジタルイメージ基礎／デジタルイメージ制作 06：デジタルイメージ制作 07：デジタルイメージ制作 08：デジタルイメージ制作／デジタルイメージ課題提出 09：映像概論／企画法／映像課題発表 10：映像撮影基礎／映像編集基礎 11：映像制作ツール基礎 12：音声編集基礎／映像制作 13：映像制作 14：映像制作 15：映像課題提出／講評		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書			
参考書	適宜指示する。		
教材	USBメモリ等の記憶媒体（8GB以上）		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)	課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。		

成績評価 (H30~)	課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [S] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで高いレベルの作品表現に昇華することができる。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。
主担当教員	宮原康展

令和4年度シラバス

番号	(B1)-124	履修コード	3936Z2
科目名	映像メディア	科目英語名	Visual Expression&Computer Graphics
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	環境デザイン専攻1年次	曜日・時限	6/2～6/11、１～４限（6/2は3～4限）
履修区分	必修	教室	映像メディア室
単位	1	定員	20名
担当教員	（非常勤）宮原康展		
授業概要	デジタル一眼レフカメラやデジタルビデオカメラを用いた撮影、コンピュータを利用した映像編集や画像編集を学ぶ。また、コンピュータを活用するための基礎知識と操作方法を習得する。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	映像メディアの基礎知識を身につけ、コンピュータを利用して創作活動を行うための基本操作を習得する。		
授業計画	01：MacOS基礎／DTP（デスクトップパブリッシング）基礎 02：DTP概論／DTP実技 03：DTP実技 04：DTP実技／DTP課題提出 05：デジタルイメージ基礎／デジタルイメージ制作 06：デジタルイメージ制作 07：デジタルイメージ制作 08：デジタルイメージ制作／デジタルイメージ課題提出 09：映像概論／企画法／映像課題発表 10：映像撮影基礎／映像編集基礎 11：映像制作ツール基礎 12：音声編集基礎／映像制作 13：映像制作 14：映像制作 15：映像課題提出／講評		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書			
参考書	適宜指示する。		
教材	USBメモリ等の記憶媒体（8GB以上）		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)	課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。		

成績評価 (H30~)	課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [S] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで高いレベルの作品表現に昇華することができる。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。
主担当教員	宮原康展

令和4年度シラバス

番号	(B1)-125	履修コード	4004Z1
科目名	造形表現工房Ⅱ（平面/ドローイング（人体））	科目英語名	Art & Design Practice Studio Ⅱ （Drawing（After Nude Model））
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻1・2・3・4年次	曜日・時限	
履修区分	自由	教室	1年油画実習室
単位	1	定員	15名程度
担当教員	◯三浦賢治　高橋治希		
授業概要	西洋美術における重要なモチーフである人体について、伝統的な美の規範の視点から素描を行いその美しさの特性について理解する。本授業は人体素描に興味を持つ学生に広くその学習の機会を提供するものである。		
到達目標	モチーフとしての人体の構造と表現としての素描の美しさについて認識し、個々の表現活動における基礎的な素養を高める。		
授業計画	9月27日～9月30日の4日間の集中で行う。午前中に裸婦ヌード、午後に裸婦セミヌードのモデルを描く。人体の構造とその影響を受けたコスチュームの姿の美しさを理解しながら、2種類の作品を制作する。モデルは午前と午後で異なる。 第1日 1限　授業準備・概説 2限～4限　女性ヌード 5限～8限　女性セミヌード 第2日 1限～4限　女性ヌード 5限～8限　女性セミヌード 第3日 1限～4限　女性ヌード 5限～8限　女性セミヌード 第4日 1限～4限　女性ヌード 5限～7限　女性セミヌード 8限　講評会 学生準備（デッサン用具等）		
予習・復習	別途指示する。		
教科書	別途指示する。		
参考書	別途指示する。		
教材	別途指示する。		
履修上の注意	9月上旬に準備等についての詳細を事務局横掲示板に掲示する。		
成績評価 (~H29)	個々の課題の到達度、および積極的な授業参加の態度を総合して評価する。 [A]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が高いレベルで表現されている。 [B]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等に十分な取り組みがなされている。 [C]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が一定のレベルに達している。		

成績評価 (H30~)	個々の課題の到達度、および積極的な授業参加の態度を総合して評価する。 [S]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が特に秀でたレベルで表現されている。 [A]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が高いレベルで表現されている。 [B]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等に十分な取り組みがなされている。 [C]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が一定のレベルに達している。
主担当教員	三浦賢治

令和4年度シラバス

番号	(B1)-126	履修コード	4007Z1
科目名	造形表現工房Ⅱ（平面/銅版画技法）	科目英語名	Art & Design Studio Practice Ⅱ（Etching Technique）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	不定期
専攻・年次	全専攻1～4年次	曜日・時限	火曜日 17:30～
履修区分	自由	教室	版画印刷室
単位	1	定員	数名程度
担当教員	神谷佳男		
授業概要	1758年に刊行されたとされるA. Bosse の銅版画技法書第4版 De la Maniere de Graver a l'Eau Forte et au Burin... を隔週で読む。授業は日本語でおこなう。腐蝕銅版画制作をおこなう場合がある。		
到達目標	18世紀のフランス語で書かれた銅版画技法書を読んで、おおよそ内容を理解する。		
授業計画	4月12日17:30～　ガイダンス及びテキストの配布と解説 以下の日程で授業を行う予定。その際あらかじめ予習したコシャンのテキスト訳文を持参すること。 4月12、26日、5月10日、24日、6月14, 28日、7月5、19日 10月4、18日、11月8, 22日、12月6、20日、1月10日		
予習・復習	配布するテキストを自宅で日本語に翻訳してくる。		
教科書	教科書ではないが、A.Bosseの4版(コシャン版)のテキストを中心に進める。		
参考書	ー“Ars Pictoria: or an ACADEMY TREATING OF DRAWING, PAINTING, LIMNING, ETCHING”” par Alexander BROWNE(The second Edition,LONDON,1675.) ー“Dictionnaire technique de l’estampe” André BÉGUIN, 1998		
教材	テキストのコピーを配布する。		
履修上の注意	フランス語の理解力が必要となる。 初日は、神谷研究室または版画印刷室に集合のこと。		
成績評価 (~H29)	[A]毎回自宅で予習し、テキストの翻訳からコシャンのテキストがおおよそ理解できる。 [B]毎回自宅で予習し、テキストの翻訳をおこなう。 [C]毎回自宅で予習し、翻訳を試みる。		
成績評価 (H30~)	[S]コシャンのテキストを理解し、その翻訳が正しく行われていること。 [A]毎回自宅で予習し、テキストの翻訳からコシャンのテキストがおおよそ理解できる。 [B]毎回自宅で予習し、テキストの翻訳をおこなう。 [C]毎回自宅で予習し、翻訳を試みる。		
主担当教員	神谷佳男		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-127	履修コード	4011Z1
科目名	造形表現工房Ⅲ（立体/彫刻表現）	科目英語名	Art & Design Studio Practice Ⅲ
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻1～4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	自由	教室	共通造形センター実習室
単位	1	定員	７名
担当教員	石田陽介		
授業概要	塑造による1/2等身程度の人体像（ヌード：2022年度は女性モデルの予定）の制作を行う。各自の表現主題を明確にし、制作を通して主体的に彫刻制作に取り組む。表現の工夫を行い、専門的な技術や知識を習得する。		
到達目標	自らの表現主題を明確にし、専門的な知識と技術を習得するとともに、素材を生かした制作を行う。		
授業計画	授業予定日：８月１６日から３１日の平日９：００～１２：００（モデル実習10日：ガイダンスで調整） 各自の研究目的を明確にし、制作計画を具体的に立てる。担当教員とのディスカッションを通して作品の深化を図る。 全身像の制作を通して、造形の原理や解剖学的知識、専門的な彫刻技法等の指導等を行う。 １　クロッキーおよびデッサンによるモデルの把握 ・モデルを様々な角度から観察し人体の構造やフォルムの美しさを探る。 ・クロッキーを通して本制作のためのイメージを探る。 ・立体感や量感を意識して彫刻としてのデッサンを追求する。 ・各自の表現テーマを探る。 ２　芯棒作り ・人体に内在する構築性や動勢を読み取り、中心軸を意識した芯棒を制作する。 ３　塑造による制作 ・粘土の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 ・量感と面を意識して荒付けを行う。 ・全体のバランスを保ちながら細部の作り込みを行う。 ・土付けによる質感の工夫をする。 ・全体の調子を整えながら仕上げる。 ４　石膏、FRP、テラコッタによる成型（授業内は粘土による原型制作のみ） ・各自の希望に応じて成型技法の補充指導を行う。		
予習・復習	事前に表現主題や研究目的を設定しておくこと。指示されたガイダンスには必ず出席をし、担当教員の指示を受け、日程を調整し制作計画を立てておくこと。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	授業内で適宜指示する。		
履修上の注意	夏季休業中に集中で開講する。事前に行う授業概要のガイダンスでの説明を受け授業内容を理解して受講すること。希望者多数の場合は高学年を優先する場合がある。 材料および道具類（個人使用のもの）の実費は自己負担。（石膏成型で5,000円程度） 作業が安全に行える服装着用のこと。		
成績評価 **(~H29)**	制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
成績評価 **(H30~)**	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [S]彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
主担当教員	石田陽介		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-128	履修コード	4012Z1
科目名	造形表現工房Ⅳ（素材・技術/素材技術研究）	科目英語名	Art & Design Studio Practice Ⅳ
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻2～4年次	曜日・時限	事務局前に掲示
履修区分	自由	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	田中信行・山村慎哉・山本健史・原　智・大高　亨・池田晶一・足立真美・加賀城健・〇宮永春香・青木千絵・水代達史・上田 剛		
授業概要	それぞれの素材に関わる歴史・文化・社会・科学的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を制作を通し発展、展開させた学習とする。各自の設定するテーマに即して素材や技術を選択し、制作を通して選択した素材における技術と表現を探究する。		
到達目標	それぞれの素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。 更には造形表現の考え方を素材を用いた表現を通して理解する。		
授業計画	自身の創作研究テーマに即して、工芸の素材や技術を用いた造形表現を行うため、基礎的な技術及び知識を習得する。素材の特性を知り、それぞれの技術における発想法や表現の方法を理解する。なお、自身の研究テーマを重視し、技術・設備面から実行可能と思われる場合、開講する。 素材、授業内容及び利用可能な設備等は以下の通りである。 ・染織 ・漆、木工 ・金工 ・陶磁 〈染織〉 －技術－ ・染色（浸染・捺染全般） ・織物（各種手織全般） －設備－ ・刷毛染設備 ・浸染設備 ・製版、プリント設備 ・蒸熱、水元等仕上設備 ・織物各種、整経具等 〈漆・木工〉 －技術－ ・蒔絵技法 ・螺鈿技法 ・きゅう漆技法（素地　木地、乾漆、金胎、陶胎） ・変塗技法 －設備－ ・木工機械全般 ・乾燥回転風呂 ・恒温乾燥機械 ・スプレーブース 〈金工〉 －技術－ ・鋳金（蝋型鋳造、込型鋳造、精密鋳造） ・彫金（銀線象嵌、透かし彫り、着色技法） ・鍛金（鍛造、溶接、ろう付け） －設備－ ・＃50溶解炉 ・＃100溶解炉 ・真空減圧鋳造機		

	・電気溶接機（Tig） ・汎用旋盤 ・コンタマシーン 〈陶磁〉 ー技術ー ・粘土成形（輪積み成形、ロクロ成形、タタラ成形、鋳込み成型、型起こし成形） ・釉薬調合、施釉 ・加飾（下絵付け、上絵付け、色土、化粧土等） ・原型成形（石膏ロクロ） ・焼成（電気窯・ガス窯・灯油窯による還元焼成および酸化焼成等、楽焼） ー設備ー ・電動ロクロ ・石膏ロクロ ・乾燥炉 ・土練機 ・セラローラー ・ポットミル回転台 ・施釉用コンプレッサー、ブース ・粘土粉砕機 ・釉薬擂潰撹拌機 ・焼成窯(電気窯、ガス窯、灯油窯、楽焼窯)
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。
教科書	適宜指示する。
参考書	適宜指示する。
教材	適宜指示する。
履修上の注意	履修登録期間に開講相談会を開催する。希望者は開催の掲示告知を確認の上、出席すること。開講相談会では各自の設定する研究テーマに即した授業内容について担当教員と相談し、開講可能かを確認するので、事前に研究テーマと内容を検討してくること。 なお今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。
成績評価 **(~H29)**	課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。
成績評価 **(H30~)**	課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [S]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが特に秀でた高いレベルに到達している。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。
主担当教員	宮永春香

令和4年度シラバス

番号	(B1)-129	履修コード	4013Z1
科目名	造形表現工房Ⅳ（素材・技術/現代美術 ミクストメディア）	科目英語名	Art & Design Studio Practice Ⅳ
科目区分	基礎科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻全学年	曜日・時限	
履修区分	自由	教室	
単位	1	定員	
担当教員	◯よしだぎょうこ　浜田周　稲垣健志		
授業概要	各自の概念と素材が整合性を伴った形で表現として完成される事を志し、自己プロデュースのメソッド確立を試みる。体系的総合的に自己表現を俯瞰で捉える。 表象と構造の成り立ちについて理解を深め、作家としての完成度をあげる。		
到達目標	自分自身の視点の固定概念を知り得る契機として、ひいては先入観の解体／更に再構築までの糸口を体験的に獲得できることが望ましい。		
授業計画	現代美術領域における作家育成のための講座である。 現代美術作家になりたい学生、 或いは自身の専攻でできない多形式制作がしたい学生、 現代美術領域のギャラリー運営に興味がある学生、 美術作家の出版物制作に興味がある学生 のみを受け付ける。 素材およびテーマは学生の依頼に応じるが、技術・設備面から実行可能で、 発展的制作の領域に達していると思われる場合のみ、開講する。大学院、博士なども受け入れる。 1 平面・立体・映像など、形式を横断するような表現 2 髪の毛／廃棄物／葉、水、風／等、 既存分野にあてはまらない異素材を使う表現 3 既存専門分野の石、金属、など各種の素材・技法の混合表現 以上をミクストメディアとする。 ・現代美術表現の、更なる発想・発展的な制作を支援する。 各分野の混合表現や分野に収まらない諸材料での制作を受け入れ、 自由な発想の中にもベースとなる概念的な軸を強化する。 各人のオリジナリティを追及すると共に、概念と表現の整合性を探求する。 ベーシックな工法を選んだ混合素材の場合、素材に応じて専門分野に 振り分けて技術を習得しつつ、作品の完成をフォローするケースもある。 宮崎、奥能登等のアーティストインレジデンスやインターン、展覧会、 野外研修企画等の現場実習を希望者でおこない、自己プロデュースができる 総合力を包括的に体得することとする。新型コロナなどの状況にもよるが 宮崎のレジデンスは通常東京藝術大学と共同で1週間から1ヶ月の派遣。 その一方で、 個人的な活動や作品の具体的なメンターを求める学生も受け入れる。 ただしその場合は構成教員とのスケジュール調整が前提になる。 近年の主な実績 2017年度　奥能登国際芸術祭参加「海上のさいはて茶屋」（石川）、「東海さるく」（宮崎）、 2018年度 「東海さるく」（宮崎）、「茶室」展（HAAG、石川） 2019年度 「東海さるく」（宮崎）、「商品・しょうひん・小品」展（石川） 2020年度 「COVID-19 アートとコミュニケーション」展 郵便展（全国）学内展（石川）		
予習・復習	担当教員の指示に従うこと。		
教科書	適宜指示する。		

参考書	適宜指示する。
教材	適宜指示する。
履修上の注意	ある程度のコンテンポラリーアートの知識、作家性があることを前提とする。
成績評価 **(~H29)**	前提としてある程度の実力を要求する以上、基本的に作品の内容はジャッジしない。 自己プロデュースの一環として、探求意欲と演習への姿勢を評価の対象とする。 成績指標としては以下を参照のこと。 [A]プロジェクトに積極的に参加し、自己プロデュース能力の向上と企画全体に貢献できる。自己の作品とコンテクストが整合しつつ独創性を保有し、実践的である。 [B]プロジェクトに参加し、企画全体に貢献できる。自己の作品とコンテクストが整合しつつ実践的である。 [C]プロジェクトに参加でき、自己の作品の制作に積極的である。
成績評価 **(H30~)**	前提としてある程度の実力を要求する以上、基本的に作品の内容はジャッジしない。 自己プロデュースの一環として、探求意欲と演習への姿勢を評価の対象とする。 成績指標としては以下を参照のこと。 [S]プロジェクトに積極的に参加し、自己プロデュース能力の向上と企画全体に貢献できる。自己の作品とコンテクストが整合しており、独創性をもった作家として総合力がある。 [A]プロジェクトに積極的に参加し、自己プロデュース能力の向上と企画全体に貢献できる。自己の作品とコンテクストが整合しつつ独創性を保有し、実践的である。 [B]プロジェクトに参加し、企画全体に貢献できる。自己の作品とコンテクストが整合しつつ実践的である。 [C]プロジェクトに参加でき、自己の作品の制作に積極的である。
主担当教員	よしだぎょうこ

令和4年度シラバス

番号	(B1)-130	履修コード	4014Z1
科目名	造形表現工房Ⅳ（素材・技術/芸術と科学)	科目英語名	Art & Design Studio Practice Ⅳ
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻3・4年次	曜日・時限	
履修区分	自由	教室	大谷研究室
単位	1	定員	2名
担当教員	大谷正幸		
授業概要	科学と芸術の融合的テーマおよび素材加工などについて、自然科学的な側面から応用研究を支援する。文献講読、サイエンス・メディエーション的作品制作などを行う。		
到達目標	課題探求能力及び問題解決能力の向上。		
授業計画	この授業では次のいずれかの取り組みについて科学的な側面から応用研究を支援する。 ① 自然科学分野のコンセプトを表現するための作品制作支援として文献講読やディスカッション ② 美術工芸分野の未来を文明論的に展望するための文献講読やディスカッション この授業は自由科目であることの特長を活かすために、毎回の計画を立てずに、必ず生じる疑問を考え続けるチュートリアル形式で前に進めていく。		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	英文読解を必須とする。 受講希望者と時間割上の調整ができたときに開講する。受講登録前に必ず教員に相談に来ること。		
成績評価 (~H29)	45時間の学修時間に達したとき、単位修得の要件を満たす。授業への取り組みを総合して評価する。 [A]課題に対して主体的に取り組み、文献等の内容を十分に理解し、自らの見解を論理的に説明できる。 [B]課題に対して主体的に取り組み、文献等の内容を十分に理解できている。 [C]課題に取り組み、文献等の内容をおおむね理解できている。		
成績評価 (H30~)	45時間の学修時間に達したとき、単位修得の要件を満たす。授業への取り組みを総合して評価する。 [S]課題に対して主体的に取り組み、文献等の内容を十分に理解し、自らの見解を論理的に説明でき、優れた洞察力が認められる。 [A]課題に対して主体的に取り組み、文献等の内容を十分に理解し、自らの見解を論理的に説明できる。 [B]課題に対して主体的に取り組み、文献等の内容を十分に理解できている。 [C]課題に取り組み、文献等の内容をおおむね理解できている。		
主担当教員	大谷正幸		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-131	履修コード	4022Z1
科目名	造形表現工房Ⅳ（素材・技術/ファッションデザイン演習Ⅰ）	科目英語名	Art & Design Studio Practice Ⅳ（Fashion designⅠ）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	開講せず
入学年度		毎週・集中	
専攻・年次	全専攻2～4年次	曜日・時限	
履修区分	自由	教室	
単位	1	定員	
担当教員			
授業概要	ファッション基礎演習。基本的なデザイン画、立体裁断等のノウハウを習得する。演習を通してファッションを構成する様々な事項を学びながら、最終的には自らがデザインした服のパターンをおこし、裁断～縫製をして一着完成させる。		
到達目標	素材、道具などの基本的理解とその使用方法や技術の理解。 ファッションデザインの導入部分、基礎を学ぶ事でファッションデザインの切り口から見た発想やデザインディベロップメントが出来るようになる等、各自の創作活動に幅を持たせる可能性を広げる。デザインと素材の成合性も理解する。		
授業計画	デザイン系の学生だけではなく、全学的に開かれた授業である。各自の創作の幅を持たせるべく、ファッションという分野からの視点で制作を行なう。 ・ファッションデザインについての概論 ファッションデザインとは何か、様々な事例や、画像・作品を提示しながら説明。 洋服はどのような手順で作られているかを体系的に教授。 ・課題説明 デザイン画をおこし、そこからアイデア展開、具現化をさせる為、その手順を示す。 ・テーマを設け、リサーチ 各自、具体的にテーマを決め、それに基づいて市場調査などのリサーチを行う。 ・デザイン画演習 自分が作りたい服のイメージをどのように人に伝えるか、デザイン画の技法・コツなどを指導 ・アイデア展開 各自のテーマに基づきデザイン画で表現し、適した生地や、色も含め、発想を広げていく ・平面・立体表現 上記を実際に具現化する ・学内展示、プレゼンテーション、講評。 ＊その他、希望者はプロジェクト課題参加。		
予習・復習	事前の予習と充分な復習を要する。また、作業の性質上授業時間内に制作が進まなかった場合には時間外の制作も必要となる。		
教科書	プリントを配布する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	履修希望生は、必ず事前に担当教員にメールで連絡を取ること。 基礎的な内容であるが、一日でも欠席してしまうと授業内容が把握出来なくなる事もあるので継続して出席する事。連絡や指示を見落とさない事。時間厳守。		
成績評価 (~H29)	課題提出及びプレゼンテーション 個々の課題の達成度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが高いレベルで作品に活かされている。 [B]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが充分なレベルで作品に活かされている。 [C]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが一定以上のレベルで作品に活かされている。		
成績評価 (H30~)	課題提出及びプレゼンテーション 個々の課題の達成度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが極めて高いレベルで作品に活かされている。 [A]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが高いレベルで作品に活かされている。 [B]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが充分なレベルで作品に活かされている。 [C]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが一定以上のレベルで作品に活かされている。		
主担当教員			

令和4年度シラバス

番号	(B1)-132	履修コード	4023Z1
科目名	造形表現工房Ⅳ（素材・技術/ファッションデザイン演習Ⅱ）	科目英語名	Art & Design Studio Practice Ⅳ（Fashion designⅡ）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	開講せず
入学年度		毎週・集中	
専攻・年次	全専攻2～4年次	曜日・時限	
履修区分	自由	教室	
単位	1	定員	
担当教員			
授業概要	ファッション基礎演習。基本的なデザイン画、立体裁断等のノウハウを習得する。演習を通してファッションを構成する様々な事項を学びながら、最終的には自らがデザインした服のパターンをおこし、裁断～縫製をして一着完成させる。		
到達目標	素材、道具などの基本的理解とその使用方法や技術の理解。 ファッションデザインの導入部分、基礎を学ぶ事でファッションデザインの切り口から見た発想やデザインディベロップメントが出来るようになる等、各自の創作活動に幅を持たせる可能性を広げる。デザインと素材の成合性も理解する。		
授業計画	デザイン系の学生だけではなく、全学的に開かれた授業である。各自の創作の幅を持たせるべく、ファッションという分野からの視点で制作を行なう。 ・ファッションデザインについての概論 ファッションデザインとは何か、様々な事例や、画像・作品を提示しながら説明。 洋服はどのような手順で作られているかを体系的に教授。 ・課題説明 デザイン画をおこし、そこからアイデア展開、具現化をさせる為、その手順を示す。 ・テーマを設け、リサーチ 各自、具体的にテーマを決め、それに基づいて市場調査などのリサーチを行う。 ・デザイン画演習 自分が作りたい服のイメージをどのように人に伝えるか、デザイン画の技法・コツなどを指導 ・アイデア展開 各自のテーマに基づきデザイン画で表現し、適した生地や、色も含め、発想を広げていく ・平面・立体表現 上記を実際に具現化する ・学内展示、プレゼンテーション、講評 ＊その他、希望者はプロジェクト課題参加。		
予習・復習	事前の予習と充分な復習を要する。また、作業の性質上授業時間内に制作が進まなかった場合には時間外の制作も必要となる。		
教科書	プリントを配布する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	履修希望生は、必ず事前に主担当教員にメールで連絡を取ること。 造形表現工房Ⅳ（素材・技術/ファッションデザイン演習Ⅰ）の既修者のみ履修可能。 基礎的な内容であるが、一日でも欠席してしまうと授業内容が把握出来なくなる事もあるので継続して出席する事。連絡や指示を見落とさない事。時間厳守。		
成績評価 (~H29)	課題提出及びプレゼンテーション 個々の課題の達成度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが高いレベルで作品に活かされている。 [B]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが充分なレベルで作品に活かされている。 [C]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが一定以上のレベルで作品に活かされている。		
成績評価 (H30~)	課題提出及びプレゼンテーション 個々の課題の達成度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが極めて高いレベルで作品に活かされている。 [A]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが高いレベルで作品に活かされている。 [B]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが充分なレベルで作品に活かされている。 [C]服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが一定以上のレベルで作品に活かされている。		
主担当教員			

令和4年度シラバス

番号	(B1)-133	履修コード	4015Z1
科目名	造形表現工房Ⅴ（社会環境/アートプロジェクト）	科目英語名	Art & Design Studio Practice Ⅴ（Art Project）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻1～4年次	曜日・時限	終日
履修区分	自由	教室	基礎実習棟・研究室･学外
単位	1	定員	30名
担当教員	◯高橋治希・芝山昌也・西本耕喜・田中信行・池田晶一・稲垣健志		
授業概要	本授業は複数の専攻の教員が指導する専攻横断型授業であり、金沢美術工芸大学アートプロジェクトチーム「スズプロ」として奥能登国際芸術祭への参加を念頭おいて授業を進める。複数の教員によるアートプロジェクトの理論（講義形式）を聴講し、基礎的な知識を習得した上で、グループ制作の導入から大規模作品の発表までを実践的に学ぶ。		
到達目標	国際的に通用する作品クオリティを追求し高いレベルで完成させる。そのプロセスにおいて作品コンセプトの立案や制作、グループワークへの理解、発表に不可欠なデザインワーク、作品の管理・運営能力の向上を図り、将来におけるアート・デザイン・工芸活動、及び企画等の素養を習得することを目標とする。また、珠洲において実際にフィールドワークやリサーチ活動、および制作を他専攻学生とのグループ活動で行う事で、芸術による課題解決の手法を自ら学び、表現者として幅広い視野を習得することを目的とする。		
授業計画	Ⅰ　アートプロジェクトの理論 １「20世紀とはどのような時代だったのかー北陸の近現代史ー」（稲垣健志） ２「パブリックアート、アートワークへの取り組み　～工芸的視点から～」 （池田晶一） ３「空間表現の実践例」（高橋治希） ４「地方から発信する美術」（芝山昌也） ５「建築的表現の実践例」（西本耕喜） Ⅱ　アートプロジェクトの実践 １　アートプロジェクトのトレーニング 珠洲市で行われるアートイベント等の参加を通じて、地域の課題におけるアートの意義や課題を考えながら、チームで社会の中で制作活動する姿勢について学ぶ。 ２奥能登国際芸術祭への参加を目指す作品づくり ①「アートプロジェクトのプランニングと実制作」（科目担当全教員） ②「フィールド・リサーチの方法と実践」（科目担当全教員） ③「アートプロジェクトにおける情報の蓄積と保存」（科目担当全教員） ＊すべての授業は随時日程調整（LINE）を行って実施する。 （指導教員の役割） ・高橋治希　絵画、インスタレーション、フィールドワーク ・芝山昌也　彫刻、フィールドワーク ・西本耕喜　建築 ・田中信行　工芸、漆造形 ・池田晶一　工芸、陶造形 ・稲垣健志　社会学、フィールドワーク		
予習・復習	プロジェクトの状況に応じて配布された資料やデータを確認する。		
教科書	特に定めないが、必要に応じて使用する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	学外での授業も含まれるので、連絡や指示を見落とさないこと。時間厳守。		

成績評価 **(~H29)**	リサーチ、フィールドワーク、作品制作、ドキュメント制作などアートプロジェクト全体の結果を総合的に評価する。 [A]アートプロジェクトの知識やスキルが習得され、主体的な取り組みが高いレベルに到達した。 [B]アートプロジェクトの知識やスキルが習得され、主体的な取り組みが行われた。 [C]アートプロジェクトの知識やスキルが習得された。
成績評価 **(H30~)**	リサーチ、フィールドワーク、作品制作、ドキュメント制作などアートプロジェクト全体の結果を総合的に評価する。 [S]アートプロジェクトの知識やスキルが習得され、主体的な取り組みが特に秀でたレベルに到達した。 [A]アートプロジェクトの知識やスキルが習得され、主体的な取り組みが高いレベルに到達した。 [B]アートプロジェクトの知識やスキルが習得され、主体的な取り組みが行われた。 [C]アートプロジェクトの知識やスキルが習得された。
主担当教員	高橋治希

令和4年度シラバス

番号	(B1)-134	履修コード	4021Z1
科目名	造形表現工房Ⅴ（社会環境/景観形成・造園演習）	科目英語名	Art & Design Studio Practice Ⅴ
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻2・3年次	曜日・時限	メールにて通知
履修区分	自由	教室	メールにて通知
単位	1	定員	20名
担当教員	鍔　隆弘		
授業概要	新キャンパス移転に向けて、現状のキャンパスのケヤキ実生の移植作業を行う。 現キャンパスのグラウンド際に並ぶケヤキは、出羽町校舎から今の場所に移転する際に、大学関係者が苗木を移植したものと伝えられている。それに倣い、大学の歴史を伝える要素を保全することを目的に、ケヤキなどキャンパス内に生育する高木実生の移植を行う。		
到達目標	人間が過ごす時間スケールと他の生物の時間スケールの異なりを体感すること。 植生についての基本的知識を習得すること。		
授業計画	授業計画 第一段階　2022年内 1.　高さ1m未満の実生を探す 図書館道路側、美大ホール道路側に多い。グラウンド脇、県立歴史博物館周りでも探す。 2.　テープでマーキング 3.　番号を記入 4.　写真を撮る　（樹木単体および生育場所がわかるような背景を入れたもの） 5.　緯度経度をGoogleMapで表示、スクリーンショットを保存 6.　データをスプレッドシートに整理 第二段階　2022年内から春にかけて 1.　掘り取り　根が生育して土と一体に 2.　鹿沼土入れたポット植木鉢に仮植 3.　移植時まで養生　グラウンドの本館脇を想定 第三段階　2022年～2023年 1.　移植場所の検討　キャンパス設計者とともに進める 2.　移植　2023年春		
予習・復習	その都度、指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜案内する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	土曜日、日曜日、祝日に作業を行うこともある。		
成績評価 **(~H29)**	デザインプロセスと最終成果物の完成度により評価を行う。 [A]デザインプロセスをしっかり踏襲し、最終成果物に優れた形でそれが反映されている [B]デザインプロセスを一通り踏襲し、最終成果物に何らかの形でそれが反映されている [C]デザインプロセスを踏襲し、最終成果物としてそれが活かされているもの		
成績評価 **(H30~)**	デザインプロセスと最終成果物の完成度により評価を行う。 [S]デザインプロセスをしっかり踏襲し、最終成果物に優れた形でそれが反映されている [A]デザインプロセスを一通り踏襲し、最終成果物にその形が反映されている [B]デザインプロセスを踏襲し、最終成果物としてそれが活かされている [C]デザインプロセスを経験し、最終成果物の中にデザインの形が見て取れる		
主担当教員	鍔　隆弘		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-135	履修コード	4024Z1
科目名	造形表現工房Ⅴ（社会環境/社会教育・美術教育）	科目英語名	Art & Design Studio Practice Ⅴ
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻1～4年次	曜日・時限	
履修区分	自由	教室	
単位	1	定員	15名
担当教員	○桑村佐和子・未定		
授業概要	自然環境や地域の歴史などを活かしながら地域づくりに取り組んでいる実態を体験的に学び、地域での美術教育の可能性を考える。		
到達目標	地域課題を理解し、その解決についてどのような工夫がなされているかを理解する。また、その解決策について社会教育としての美術教育の観点で分析し、その具体的な方策について考えることができるようになる。		
授業計画	全専攻１～4年次に開かれた授業である。 地域の課題を自然環境や文化（衣・食・住）を活かしながら解決している現場を訪れ、その一部に参加しながら現場の人との交流を通して実践的に学ぶ。 ・授業ガイダンス ・現地調査の方法、授業の課題を確認する。 ・地域についての講義 ・地域の歴史、文化、自然環境の変化、人口構成の変化等について、事前学習を行う。 ・現地調査・分析 ・自然環境の現状を、現場の方と一緒に作業することを通して学ぶ。 ・自然を活かした美術教育についての実践を学ぶ。 ・それらを元に、今後の地域における美術教育の可能性を考える。 ・発表 ・自ら考えたことを地域づくりに取り組んでいる方にも発表し、検証する。		
予習・復習	掲示により指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	プリント等を配付する。		
履修上の注意	実施日等の詳細については掲示により指示するので、掲示に注意してほしい。		
成績評価 **(~H29)**	事前の講義と現地での授業への参加・貢献度に応じて、評価を行う。 [A]地域課題とその解決に向けての工夫について理解し、美術教育の観点から具体的な方策について考えることができる。 [B]地域課題とその解決に向けての工夫について理解し、美術教育の観点から考えることができる。 [C]地域課題とその解決についての工夫について理解している。		
成績評価 **(H30~)**	事前の講義と現地での授業への参加・貢献度に応じて、評価を行う。 [S]地域課題とその解決に向けての工夫について理解し、美術教育の観点から具体的な方策について多面的に考えることができる。 [A]地域課題とその解決に向けての工夫について理解し、美術教育の観点から具体的な方策について考えることができる。 [B]地域課題とその解決に向けての工夫について理解し、美術教育の観点から考えることができる。 [C]地域課題とその解決についての工夫について理解している。		
主担当教員	桑村佐和子		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-136	履修コード	4019Z1
科目名	造形表現工房Ⅵ（語学・理論/美術教育ゼミナール）	科目英語名	Art & Design Studio Practice Ⅵ
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	
専攻・年次	全専攻3・4年次	曜日・時限	
履修区分	自由	教室	
単位	1	定員	
担当教員	◯荷方邦夫　桑村佐和子		
授業概要	美術の学校教員を目指す学生を対象に，教育に必要な知識や技能をさらに習得し，教員として必要な態度を身につけるよう，自主的な学習や研究を行うゼミナール形式の活動を行う。		
到達目標	美術教員として教育実践に参加するために必要なレベルの知識や態度を身につける。 学校教育の実際について理解を深め，自ら研究・実践できる基礎的な能力を学ぶ。 また，教員採用試験突破にむけ，必要な課題を解決できる力を身につける。		
授業計画	週1回開かれるゼミナールでは，以下のようなテーマで研究と議論を行う （１）教職教養 （２）美術の専門教養 （３）学校教育や教育問題に関する議論と論述。 教員はこれらについてのトピックを示し，学生が学習やレポートを行うように事前に提示を行う。そして毎回のゼミナールでは，学生が各自その発表や議論を行う。 また，論述についても学生にテーマが与えられ，作成されたレポートについて添削を含めた指導が個別に実施される。		
予習・復習	毎回教員によってトピックと課題が示される。学生は各自予習の上授業に参加する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	必要な教材は適宜配付する。		
履修上の注意	美術教育，その他教育に関する関心・態度の高いものを対象に行う。		
成績評価 **(~H29)**	到達目標に示された課題についての達成状況と考え方・見方の深化について評価する。学生は授業に出席し，規定の回数（30時間）に達したとき単位取得の要件を満たしたと認める。評価については，授業への参加状況に応じてそれぞれ評価を行う。評価のポイントは1%を1ポイントとして換算する。 評価の基準 [A]上記の基準の上１と２で80%以上のポイントを獲得している [B]上記の基準の上１と２で60%以上のポイントを獲得している [C]上記の基準の上１と２で50%以上のポイントを獲得している		
成績評価 **(H30~)**	到達目標に示された課題についての達成状況と考え方・見方の深化について、授業内でのミニレポートおよび最終レポートをもとに評価を行う。学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。1%を1ポイントとして換算する。 １　期末試験の点数（50%） 客観式テストないしはレポート課題を行い，点数を直接の評価とする。 ２　授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの課題や参加については，授業内でポイント（点数）を提示する。 授業内の小課題（概ね40%），発言や積極的参加（概ね10%） 授業における発言，小課題での回答をそのつどカウントする。 評価の基準 ［A］上記の基準の上１と２で80%以上のポイントを獲得している ［B］上記の基準の上１と２で70%以上のポイントを獲得している ［C］上記の基準の上１と２で60%以上のポイントを獲得している		
主担当教員	荷方邦夫		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-137	履修コード	4020Z1
科目名	造形表現工房Ⅵ（語学・理論/芸術と言語表現）	科目英語名	Art & Design Studio Practice Ⅵ
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻2～4年次	曜日・時限	事務局前に掲示
履修区分	自由	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	○高橋明彦・水野さや・河崎圭吾・荷方邦夫・稲垣健志　（非常勤）Mark Hammond		
授業概要	芸術活動におけるさまざまな場面で必要となる言語表現について，より効果的かつ実践的な力を獲得するよう，個々のケース（海外留学を含む）に対して指導を行う。		
到達目標	自己の芸術活動を通したそれぞれの場面で，説得力ある日本語の表現力を獲得する。 英語やフランス語をはじめとした外国語の特性を活かし，プレゼンテーションのための能力（文章表現や口頭表現を含む）を身につける。		
授業計画	カリキュラムと指導教員は，主に２つの領域から構成される （１）日本語を主体とした表現活動の支援 （高橋，水野，河崎，荷方） 　自己の制作についての論理的で明晰な文章、他者の芸術作品についての魅力的で説得力のある文章、制作プロセスを明解に記したテクニカル・レポート、効果的でインパクトのあるコピーライティング、コンセプトを明確かつ効果的に伝えることができるプレゼンテーション（口頭発表）など、それぞれの活動目的に応じた日本語による言語表現を指導する。 （２）外国語による表現活動 （稲垣，ハモンド） 　それぞれの教員が専門とする言語を中心に、制作および発表の場で必要となる実践的な言語表現力を養う。 　留学、コンペ、国内外の大学院進学など、明確な目標をもった学生への効果的な支援を行う。 　イングリッシュヘルプセンター（稲垣、ハモンド）の活用も考える。 　本講座の受講希望学生は、自ら設定する目標に応じて、開講されているゼミのなかから適宜選択し、各教員から指導を受ける。受講回数が計15時間に達した時点で１単位を獲得できる。		
予習・復習	各教員の指示する予習や復習の課題，求められたレポートなどを適切に行うこと。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	指導内容にしたがって随時紹介する。		
教材	必要な教材は担当の教員が適宜配付する。		
履修上の注意	関心・態度の高いものを対象に行う。事前に良く準備のこと。		
成績評価 (~H29)	学生は、各教員の指導を受け，受講した時間が15時間を超えた時点で単位取得の資格を得る。指導を行った教員は、担当分の授業についてそれぞれ評価を行う。最終的な評価は，それぞれの評価を時間に比例してカウントしその合計とする。評価の基準は教員によって異なるので、学生は、授業中やオフィスアワーを利用して、自身の受講状況を教員に確認して下さい。		
成績評価 (H30~)	学生は、各教員の指導を受け，受講した時間が15時間を超えた時点で単位取得の資格を得る。指導を行った教員は、担当分の授業についてそれぞれ評価を行う。最終的な評価は，それぞれの評価を時間に比例してカウントしその合計とする。評価の基準は教員によって異なるので、学生は、授業中やオフィスアワーを利用して、自身の受講状況を教員に確認して下さい。		
主担当教員	高橋明彦		

令和4年度シラバス

番号	(B1)-138	履修コード	4025Z1
科目名	造形表現工房Ⅵ（語学・理論/工芸作品展示と言語表現）	科目英語名	Art & Design Studio Practice Ⅵ (Curation, Exhibition and Critical Writing)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻4年次	曜日・時限	事務局前に掲示
履修区分	自由	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	20名
担当教員	山村慎哉・大高　亨・○池田晶一・上田　剛・菊池裕子		
授業概要	工芸作品による展覧会にむけて、学生自身の研究作品を題材に批評的ステートメントを作成する。展覧会において研究作品とステートメントを展示し、評価が生み出される現代批評空間を意識しながら作家として作品を他者に語ることを学ぶ。芸術学専攻ーSCAPeの学生がキュレーターとなり展覧会を企画する共同作業と準備を行う。展覧会では外部のキュレーターや作家による講評会を行う。		
到達目標	自分の過去の研究作品について、現代視覚文化における位置を確かめ、作品を客観的、批評的に言語化し、他者に説明する方法論を習得すること。		
授業計画	研究作品の批評的ステートメントを自ら作成し、作品とともに展示発表する。芸術学演習（三）専門演習D履修学生と合同で授業を行う。展覧会のキュレーションは芸術学演習（三）専門演習D履修学生が行う。 第1回　授業導入、班分け　班ごとに現代工芸批評論文資料を読み発表の準備をする 第2回　前回より読解した論文の議論点をパワーポイントで要約して発表し討論する 第3回　自身の研究作品についての批評的ステートメントとは何かを学び準備する 第4回　前回の内容をパワーポイントで発表し討論する 第5回　自身の研究作品の制作プロセス、意図、コンセプトを他者（芸術学の学生）に説明し、対話を通して批評の点をより明確にする 第6回　ステートメントを印刷し掲示するための準備を行う 第7回　展示作業と図録の構想を芸術学ーSCAPe学生と協力して行う 第8回　講評会 （第1～2回、第4～8回は芸術学演習（三）専門演習Dと合同）		
予習・復習	授業において指示する。		
教科書	クラスルームに関係資料を載せる。		
参考書	適宜指示する。		
教材	クラスルームに関係資料を載せる。		
履修上の注意	履修登録期間に開講相談会を開催する。希望者は開催の掲示告知を確認の上、出席すること。 なお今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価 **(~H29)**	課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [A] 自身の研究作品についての説明文の作成における知識やスキルが習得され、主体的な取り組みが高いレベルに到達した。 [B] 自身の研究作品についての説明文の作成における知識やスキルが習得され、主体的な取り組みが行われた。 [C] 自身の研究作品についての説明文の作成における知識やスキルが習得された。		
成績評価 **(H30~)**	課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [S] 自身の研究作品についての説明文の作成における知識やスキルが習得され、主体的な取り組みが特に秀でたレベルに到達した。 [A]自身の研究作品についての説明文の作成における知識やスキルが習得され、主体的な取り組みが高いレベルに到達した。 [B] 自身の研究作品についての説明文の作成における知識やスキルが習得され、主体的な取り組みが行われた。 [C] 自身の研究作品についての説明文の作成における知識やスキルが習得された。		
主担当教員	池田晶一		

令和4年度シラバス

番号	(B2)-01	履修コード	3507Z1
科目名	日本絵画史特講	科目英語名	Studies on Japanese Painting History
科目区分	美術科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	日本画専攻・芸術学専攻3年次	曜日・時限	事務局前及びクラスルームに掲示
履修区分	必修	教室	研修室
単位	2	定員	30名
担当教員	○菊池裕子　（非常勤）岡　泰央・加治屋健司・塩谷　純		
授業概要	現代の視点から見た日本絵画における歴史的問題に焦点をあて、専門的な批評を深く掘り下げて現代的な意義を問う。歴史の書かれ方も含めた歴史批評、素材・技法についての歴史的解釈の変遷などの問題を考察しながら専門的な知識と理解を深める。各回で課題レポートを課す。		
到達目標	日本絵画の歴史と批評空間への専門的な理解を通して、自らの制作・研究の意義や位置付けに活かすことができる能力の獲得を目指す。		
授業計画	本授業は、計３回×１日（5コマ）の集中講義で構成される。 テーマは下記のとおり。 一絵画技法研究（岡泰央） 　　文化財修理の立場から日本絵画の素材・技法について。 一日本絵画史（塩谷純） 　　近代における「日本画」の成立と展開について。 一日本現代絵画史（加治屋健司） 　　戦争画以後の日本絵画について。 毎回、視覚教材を用いて主要作品を取り上げつつ講義を行う。		
予習・復習	事前に関連文献に目を通し、講義に備えることが望ましい。 講義後は授業内容を踏まえた復習を行うこと。		
教科書	特になし。		
参考書	クラスルームに載せる。		
教材	クラスルームに載せる。		
履修上の注意	毎回配るリアクションペーパーで出席をとり、又それに各授業の内容に対する感想を積極的に述べることを求める。何らかの正当な理由で欠席する場合には事前に主担当教員と連絡をとること。課題レポートにおいて剽窃が見られた場合は評価はゼロとなる。		
成績評価 **(~H29)**	授業への参加度　　40% レポート(3回)　　60% 全体で50%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 授業への参加度については上記「履修上の注意」を参照すること。 レポートの採点基準は下記のとおり。 [A]問題を良く理解し、論理的に思考するとともに有意な見解を提示することができた。 [B]問題を良く理解し、論理的に思考することができた。 [C]問題を理解することができた。		
成績評価 **(H30~)**	授業への参加度　　40% レポート(3回)　　60% 全体で60%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 授業への参加度については上記「履修上の注意」を参照すること。 レポートの採点基準は下記のとおり。 [S]課題を良く理解し、論理的に思考するとともにとりわけ有意な見解を提示することができた。 [A]課題を良く理解し、論理的に思考するとともに有意な見解を提示することができた。 [B]課題を良く理解し、論理的に思考することができた。 [C]課題を理解することができた。		
主担当教員	菊池裕子		

令和4年度シラバス

番号	(B2)-02	履修コード	3520Z1
科目名	西洋絵画史特講	科目英語名	Studies on Western Painting History
科目区分	美術科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週（集中含む）
専攻・年次	油画専攻・芸術学専攻3年次	曜日・時限	火曜5･6限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	40名
担当教員	○保井亜弓　（非常勤）幸福　輝・坂本雅美		
授業概要	西洋美術における諸問題を具体的な事例に即した個別のテーマに絞って解説する。		
到達目標	西洋美術における基本的な知識を身につけるとともに、より専門的な問題の理解を深める。		
授業計画	集中講義を含めた形式で行なう。 個別のテーマを設定し、概説とは異なるより専門的な講義を行なう。随時ヴィジュアルな資料や文献史料などを用いて解説する。 １、ルネサンス美術の諸相（集中講義を除いた毎週）　保井担当 14ー16世紀のイタリアおよび北方の美術を対象として、その様々な形式と受容のあり方を解説する。南北のルネサンス美術の多様性を基本作例を通して学んでいく。 ・ルネサンス芸術の諸相 （１）祭壇画の機能 （２）素描という芸術 （３）空間の広がり （４）彫刻のリアリティ （５）版画というニューメディア ２、１７世紀オランダ・フランドル美術を中心に個別のテーマを設定して、具体的な作品に即しながら解説する。幸福担当（集中） ３、15世紀から20世紀ヨーロッパの美術についてとくに紙をテーマとして、具体的な作品に即しながら解説する。坂本担当（集中） 集中講義については、調整期間に行う。		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	配布プリント･パソコン･スライド		
履修上の注意	観察したことや考えたことを言語化することは重要である。授業メモはその鍛練である。		
成績評価 (~H29)	学期末レポート50%、授業メモ（保井担当毎回）30%、授業における積極性20% [A]授業内容を高度に理解して、自分の意見を述べることができる。 [B]授業内容を理解し、自分の意見を述べることができる。 [C]授業内容を理解できている。		
成績評価 (H30~)	学期末レポート50%、授業メモ（保井担当毎回）30%、授業における積極性20% [S]授業の内容を高度に理解して、自分独自のすぐれた意見を述べることができる。 [A]授業内容を高度に理解して、自分の意見を述べることができる。 [B]授業内容を理解し、自分の意見を述べることができる。 [C]授業内容を理解できている。		
主担当教員	保井亜弓		

令和4年度シラバス

番号	(B2)-03	履修コード	4127Z1
科目名	彫刻史特講	科目英語名	Studies on Sculpture
科目区分	美術科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週・集中
専攻・年次	彫刻専攻・芸術学専攻3年次	曜日・時限	火曜7･8限および集中（後日掲示）
履修区分	必修	教室	第1教室
単位	2	定員	30名
担当教員	○水野さや　（非常勤）髙橋幸次・明珍素也		
授業概要	日本・東洋・西洋における彫刻作品のあり方について、歴史的作品の考察を通し、彫刻という造形美術のジャンルの特質を把握する。各テーマごとに、代表的な作品やそこに用いられる技法例を取り上げることにより、彫刻制作に認められた規則性と変容性の幅を知り、制作背景、受容背景にも目を向ける。これにより、歴代の作品の考え方を知ることはもちろん、歴代の名品を通して、これから作品を制作する立場に立とうとする者が、制作に際し配慮すべき諸要素とは何か、考えるための端緒ともしたい。		
到達目標	本授業の目標は、以下の２点である。 （１） 彫刻作品の表現的・技法的特質について包括的に把握することができること （２） 上記（１）をもとに、それを自身の制作や研究に活かそうとする認識を形成できること		
授業計画	本授業は、日本・東洋・西洋における彫刻作品の様々な諸相について、3名の講師により、全15回分の講義内容を構成する。 第1回～5回　「東洋における仏教造像の流れ」　担当：水野さや 東洋美術における人体への意識とはどのようなものなのか、中国・韓国・日本の仏教造像を題材として、まず、仏に具わっているとされる「身体的特徴」を確認する。それらを踏まえて、「理想的身体としての仏像」、「仏像の荘厳」、「身体の内と外」などについて考察におよぶ。 第6回～10回　「日本における木彫技法研究、仏像の保存修復」　担当：明珍素也 日本における彫刻の歴史において、長い年月にわたり、積極的に制作されてきたのは仏教彫塑像である。木を主材料とする仏像の基本的構造、彫法、表面彩色構造に関わる技法など、基本的な技術の理解の把握を目指す。また、仏像の保存修復の現状を通して、彫刻家としての文化財との携わりについても取り上げる。 第11回～15回　「西洋近代彫刻の流れ　ロダンを中心に」　担当：髙橋幸次 ヨーロッパ近代彫刻の代表的な彫刻家と作品を取り上げて、その流れを概観する。近代彫刻の担い手達は古代ギリシャやローマ彫刻の何をどのように消化吸収したのか、「近代」という時代に彫刻に求められた社会的要素や造形的要素は何だったのか、彫刻の目的・機能や象徴性なども視野に入れながら考察する。 【注意事項】 ①第6回～第15回の授業については、集中講義での開講を予定している。集中講義は対面での開講を基本とするが、状況により、オンライン（集中講義形式ないし毎週・時間割通り）となる可能性もある。 ②第1回～第5回の授業については、対面での開講を基本とするが、オンライン（毎週・時間割通り）となる可能性もある。		
予習・復習	関連する分野の文献に目を通しておくこと。		
教科書	特になし		
参考書	各講義ごとに、担当講師が適宜指示する。		
教材	毎回の授業ノート（レジュメ）は授業前に開示する。あらかじめ教員が指示した手順に従い、受講生各自がダウンロードして入手する。		
履修上の注意	毎回の授業は、プロジェクターを用い、画像資料の提示を中心に行う。 各講義日程の詳細は事務局前の掲示板にて連絡する。		

成績評価 (~H29)	[A] 授業内容を理解しようとする高い意識と目標への十分な到達および課題提出 （自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート） [B] 授業内容を理解しようとする意識と目標への到達および課題提出 （自らの意見が意欲的にまとめられているレポート） [C] 授業内容の理解度および課題提出 （参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート）
成績評価 (H30~)	[S] 授業内容を理解しようとする高い意識と、より高度レベルでの目標の到達および課題提出 （授業内容の理解・咀嚼の上に、自身の研究分野に引き寄せて深く探求し、高い学術的意識が形成されているレポート） [A] 授業内容を理解しようとする高い意識と、目標の十分な到達および課題提出 （自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート） [B] 授業内容を理解しようとする意識と、目標の到達および課題提出 （自らの意見が意欲的にまとめられているレポート） [C] 授業内容の理解度および課題提出 （参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート）
主担当教員	水野さや

令和4年度シラバス

番号	(B3)-01	履修コード	4101Z1
科目名	日本画（一）Ⅰ	科目英語名	Nihonga（Japanese Painting）（1） Ⅰ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	日本画専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	1年日本画実習室
単位	4	定員	15名
担当教員	○石崎誠和　荒木恵信　佐藤俊介（非常勤）荒木史		
授業概要	写生によって日本画の視点や考え方を学ぶとともに日本画制作の基礎となる画材（和紙、膠、どうさ液、墨、絵具など）や道具（筆、刷毛、仮張りなど）の特徴や取り扱い方を習得する。そして日本古典絵画の現状模写（紙本白描画）及び臨模を通して日本画的なものの見方や、日本画の伝統的な描写方法、表現技法を学ぶ。これらから自己の内面を探求し、絵画を創作、鑑賞する感性や能力を養い、絵画造形の諸要素や美術文化についての理解を深める。本授業は一般的包括的科目である。		
到達目標	写生によって日本画の視点や考え方を学び、それらを応用しながら日本画の画材や道具、技法についての知識及び用法を習得する。モチーフの詳細な観察から得られる理解を的確に描写、表現できる基礎技術を習得する。 日本絵画に慣れ親しみ、その表現を理解するために必要とされる基礎的な理論（絵画組成や材料学、美術史や風俗史など）を自らが探求し、これらを統括した多角的な視点で作品を考察できる姿勢を育む。		
授業計画	○佐藤俊介　　基礎となる描写についての指導 ○荒木恵信　　伝統的な材料と技法、模写についての指導 ○石崎誠和　　基礎となる画材についての指導 ガイダンス　日本画制作の基礎についての解説 第１～３週　静物写生①　石崎誠和 対象の表現について 生物写生②　佐藤俊介 生物を対象とした表現について 日本画の画材について　石崎誠和 第４～６週　古典実習 ①　荒木恵信 紙本白描画（鳥獣人物戯画絵巻）の現状模写 画面構成や描線の特質などの観察・発見から日本画制作の基礎的な技術を学ぶ 伝統的な画材や文房四宝などの解説から、日本の古典絵画を材料や技術の側面からも理解する 紙本白描画（鳥獣人物戯画絵巻）の臨模 現状模写の経験を基に、墨彩による運筆から表現される躍動感や空間感の表現と制作に携わる精神性などについても学ぶ その他 仮張り製作　　荒木恵信・荒木史 ・仮張り製作を通して和紙の扱い方や張り方を学ぶ。		
予習・復習	モチーフの調達及び管理、制作準備、クロッキー、写生など 古典実習では、原本に関する文献調査など		
教科書	なし		
参考書	適宜指示		
教材	水彩道具　日本画用具一式のほか、適宜指示		
履修上の注意	前提条件として、課題導入時、工程導入時に詳細な解説をするので、必ず出席すること 絵具のついた筆や絵皿の洗い方など、絵具の廃棄については必ず教員の指示に従うこと 本授業についてのわからない点や疑問、質問などはいつでも相談を受ける		

成績評価 **(~H29)**	課題提出5回。各課題の到達度と積極的な授業態度も含めて総合的に評価する [A]日本画材と古典絵画に関する基礎的な知識・技術について深く理解し、制作を高いレベルでできた [B]日本画材と古典絵画に関する基礎的な知識・技術について理解し、制作を図ることができた [C]日本画材と古典絵画に関する基礎的な知識・技術について学び、制作ができた
成績評価 **(H30~)**	課題提出5回。各課題の到達度と積極的な授業態度も含めて総合的に評価する [S]日本画材と古典絵画に関する基礎的な知識・技術について深く理解し、制作を高いレベルでできた、特に秀でている [A]日本画材と古典絵画に関する基礎的な知識・技術について深く理解し、制作を高いレベルでできた [B]日本画材と古典絵画に関する基礎的な知識・技術について理解し、制作を図ることができた [C]日本画材と古典絵画に関する基礎的な知識・技術について学び、制作ができた
主担当教員	石崎誠和

令和4年度シラバス

番号	(B3)-02	履修コード	4102Z1
科目名	日本画（一）Ⅱ	科目英語名	Nihonga（Japanese Painting）（1） Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	日本画専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	1年日本画実習室
単位	8	定員	15名
担当教員	○石崎誠和・松崎十朗・佐藤俊介・荒木恵信		
授業概要	静物や植物、小動物などの精密写生を通して日本画制作の基礎となるモチーフへの観察力を高度化し、モチーフに即した描写力と表現力を養う。同時に画材や道具を実際に使用し、それぞれの特徴を理解する対する経験を積むと同時に、これらを通して絵画造形の諸要素や美術文化について関心と理解を深める。これらから自己の内面を探求し、絵画を創作、鑑賞する感性や能力を養い、絵画造形の諸要素や美術文化についての理解を深める。本授業は一般的包括的科目である		
到達目標	日本画の基礎的な描写や表現に関する知識を獲得し、その重要性を自覚して今後の表現の基盤とする。動物や魚の骨格や筋肉、毛並みなどの特徴を詳細な観察から理解し、動きや命を捉え日本画材を用いて的確に描写、表現する力を習得する		
授業計画	○松崎十朗　　制作の基礎ならびに特に画材・技法についての指導 ○佐藤俊介　　制作の基礎ならびに特に描写、表現についての指導 ○荒木恵信　　制作の基礎ならびに特に絵画組成・技法についての指導 ○石崎誠和　　制作の基礎ならびに特に写生についての指導 ガイダンス　・日本画の表現の多様性に関する講義 第１～２週　　日本画材による描写 ・和紙の準備や絵の具の解き方等など日本画画材の基本を学びながら精密写生を行い日本画制作に必要なモチーフの捉え方や十分な観察の姿勢を育む。　日本画絵具の特性を理解し対象を描く基礎を学ぶ。 第３～４週　　静物の細密描写 ・細密写生を行いモチーフへの理解を高めることの重要性を自覚し、各自が観察力を向上させる方法を探求する。絵具の特性を理解し重色や混色などの表現等を各自の実践を通して習得する。花の持つ繊細な構築性や生命力を日本画材の特性を生かして表現する方法を学ぶ。 第５～６週　　生体の写生 ・動物を詳細に観察して的確に捉え描く。写生やクロッキーなどを繰り返し、動物の基本的骨格と動きを正確に捉える方法を学び、動物の存在感までも表現する。 第８～９週　　生体の写生② ・泳ぐ魚を詳細に観察して的確に捉え描く。骨格や鱗、鰭などのあり方や動きに留意し、生き物を主体とした視点で描写する。金泥を用いるための技術を学ぶ。 第１０～１２週　　生体の写生③ ・泳ぐ魚を詳細に観察して的確に捉え描く。骨格や鱗、鰭などのあり方や動きに留意し、生き物を主体とした視点で描写する。金泥を用いるための技術を学ぶ。 その他 夏期調整期間に写生課題を課す　写生帳１冊（８号以上）１０月１日提出 ・郊外写生（水彩）により風景の捉え方を学ぶ。		
予習・復習	モチーフ調達及び管理、制作準備、クロッキー、写生など		
教科書	なし。		
参考書	適宜指示。		
教材	日本画用具一式のほか、適宜指示。		

履修上の注意	前提条件として、課題導入時、工程導入時に詳細な解説をするので必ず出席すること。 絵具のついた筆や絵皿の洗い方など、絵具の廃棄については必ず教員の指示に従うこと。 本授業についてのわからない点や疑問、質問などはいつでも相談を受ける。
成績評価 **(~H29)**	課題提出６回。郊外写生授業並びに夏期休業中写生課題、積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。 [A]モチーフに対して日本画的視点に於いて深く観察でき、これを日本画材ほかを用いて高い表現性を保有する描写力がある。 [B]モチーフを日本画的視点に於いて深く観察でき、これを日本画材ほかを用いて表現できる描写力がある。 [C]モチーフを日本画的視点に於いて観察し、これを日本画材ほかを用いて描写できる。
成績評価 **(H30~)**	課題提出６回。郊外写生授業並びに夏期休業中写生課題、積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。 [S]モチーフに対して日本画的視点に於いて深く観察でき、これを日本画材ほかを用いて高い表現性を保有する描写力があり、特に秀でている。 [A]モチーフに対して日本画的視点に於いて深く観察でき、これを日本画材ほかを用いて高い表現性を保有する描写力がある [B]モチーフを日本画的視点に於いて深く観察でき、これを日本画材ほかを用いて表現できる描写力がある。 [C]モチーフを日本画的視点に於いて観察し、これを日本画材ほかを用いて描写できる。
主担当教員	石崎誠和

令和4年度シラバス

番号	(B3)-03	履修コード	4103Z1
科目名	日本画（二）Ⅰ	科目英語名	Nihonga（Japanese Painting）（2） Ⅰ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	日本画専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	2年日本画実習室
単位	4	定員	15名
担当教員	○荒木恵信・松崎十朗・佐藤俊介・石崎誠和　（非常勤）仁志出龍司		
授業概要	日本画（一）Ⅰ　及び　Ⅱ　に引き続き、日本画材の基礎的習得と日本画的視点による表現を学び、それらをより高いレベルで深化させる。写生や取材を経て実感に基づく構図の構築を学び、日本画の独自性を学ぶ。専門性を深める前段階での理論的学習として、自身の制作や実感を多角的な視点で見つめ、日本画の表現と方法論を学んでいく。また日本画の伝統的な技法である箔技法や日本画独自の人体素描を学ぶ。		
到達目標	制作を通して日本画の歴史で培われてきたその独自性を実感するとともに理解する。日本画の制作の基本となる技術や技法を習得し、制作の基盤を充実させて、これらを応用し発展できる感性を育む。		
授業計画	○松崎十朗　　日本画の歴史性に関する解説とその技術・表現方法の指導 ○佐藤俊介　　日本画制作の基礎ならびに画材・技法についての指導 ○荒木恵信　　日本画の絵画組成や箔技法の指導 ○石崎誠和　　日本画制作の基本的工程の指導 第１～２週　模写 ・絵巻の模写を通して、動勢や色使いなどを学び、運筆や彩色を深く理解する 第３週　絹本 ・絹本による制作を体験し、伝統的な素材や画材の扱いと表現との関わりへの興味関心を深める 第４週　支持体の作成　　佐藤俊介 ・大作の日本画制作に不可欠な裏打ち技術を学ぶ。裏打ち紙の選択や糊刷毛や水刷毛、撫で刷毛の扱い方などを実践によって学び、基底材への効果を確かめる。また、基底材を張り込む木製パネルの製作を学ぶ 第５週　　箔技法　　荒木恵信 ・様々な金属箔と道具の解説。箔の取り扱い方（あかし方、押し方、保存方法など）や切箔の種類やその技法、特殊な表現方法について実験的な作品を通して学ぶ 　また、箔に関する施設を見学して、金沢の伝統工芸でもある箔を製造過程からより分かりやすく学ぶ 第６～８週　　構想と下図　　松崎十朗 ・課題制作のため各テーマについて構想を練り、下図を作成する ・自身の作品制作について各課題ごとに振り返り、考えをまとめ、最終講評会で発表する 第９週　　人体素描　・石崎誠和 ・鉛筆による裸婦素描を行い。人体のバランスや特徴を的確に捉える力を身につける。		
予習・復習	制作準備、取材、構想、作図。		
教科書	なし。		
参考書	適宜指示。		
教材	日本画用具一式他、適宜指示。		
履修上の注意	前提条件として、基礎的かつ重要な説明が多いため特に課題導入時には必ず出席すること。 本授業についてのわからない点や疑問、質問などはいつでも相談を受ける。		
成績評価 (~H29)	課題提出５回。積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。 [A]現代的視野において表現ができ、箔及び和紙・絹などの基底材についても深く理解し、対象を表現する上での準備を計画的に実施し、制作した作品に高いレベルでの深化が確認できる。 [B]現代的視野で考察ができ、箔及び和紙・絹など基底材について理解すると共に、対象を表現する上での準備を計画的に実施して制作した作品に深化が確認できる。		

	[C]現代的視野について学び、箔及び和紙・絹など基底材についても理解すると共に、対象を表現する上での準備を計画的に実施して制作できた。
成績評価 **(H30~)**	課題提出５回。積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。 [S]現代的視野において表現ができ、箔及び和紙・絹などの基底材についても深く理解し、対象を表現する上での準備を計画的に実施し、制作した作品に特に秀でたレベルでの深化が確認できる。 [A]現代的視野において表現ができ、箔及び和紙・絹などの基底材についても深く理解し、対象を表現する上での準備を計画的に実施し、制作した作品に高いレベルでの深化が確認できる。 [B]現代的視野で考察ができ、箔及び和紙・絹など基底材について理解すると共に、対象を表現する上での準備を計画的に実施して制作した作品に深化が確認できる。 [C]現代的視野について学び、箔及び和紙・絹など基底材についても理解すると共に、対象を表現する上での準備を計画的に実施して制作できた。
主担当教員	荒木恵信

令和4年度シラバス

番号	(B3)-04	履修コード	4104Z1
科目名	日本画（二）Ⅱ	科目英語名	Nihonga（Japanese Painting）（2） Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	日本画専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	2年日本画実習室
単位	9	定員	15名
担当教員	○荒木恵信・松崎十朗・佐藤俊介・石崎誠和　（非常勤）仁志出龍司		
授業概要	紙本による日本画制作の基本的な制作工程を学ぶ。各自の写生や取材での実感に応じて、モチーフや主題を明確にし、画面構成や配色、各種遠近法による空間表現、表現技法などを一つの作品に結実する方法を学ぶ。またそれら自身の制作を振り返り、検討し、次の制作に活かすことが出来るようになる。		
到達目標	各自が写生や取材を充実させ、日本画の制作工程である写生、小下図、大下図（草稿）、本画制作のプロセスによって、自身の実感を作品として具現化できる。日本画画材による技術技法を試し、絵画組成の重要性を理解するとともに、自身の表現の模索ができる。講評会を通して、各自の様々な試みを共有し、自身の制作へ活かし、作品の充実を図る。		
授業計画	○松崎十朗　　制作に於ける空間表現と技法の指導 ○佐藤俊介　　制作に於ける写生と本画との関係性の指導 ○荒木恵信　　伝統的技法の基本制作工程の指導 ○石崎誠和　　表現領域での現代性の解説、指導 第１～6週　日本画基礎課題 ①　　佐藤俊介 ・植物を主題とする50号作品の制作。 特に写生を基に展開、発展させる小下図の意義と重要性を学ぶ。 第 7～ 9週　日本画基礎課題 ④　荒木恵信 ・人物または動物を主題とする５０号作品の制作 これまでに学んだ制作のあり方や表現を基盤として、日本画に於ける人物または動物について学ぶ。 第10～12週　日本画基礎課題 ③　　松崎十朗 ・風景を主題とする50号作品の制作。 これまでに学んだ制作のあり方や表現を基盤として、日本画に於ける風景画について学ぶ。 第１３～１４週　日本画基礎課題⑤　石崎誠和 ・課題を見いだし研究しながら自画像の制作に取り組みながら、これまでに学んだ方法や技法を整理し、研究する。 その他 郊外写生授業　松崎十朗・佐藤俊介・石崎誠和 ・水彩による郊外写生により風景の捉え方及びその表現を学ぶ。		
予習・復習	制作準備、取材、構想、作図		
教科書	なし。		
参考書	適宜指示。		
教材	日本画用具一式他、適宜指示。		
履修上の注意	基礎的かつ重要な説明が多いため特に課題導入時には必ず出席こと。 本授業についてのわからない点や疑問、質問などは通年いつでも相談を受ける。		
成績評価 (~H29)	課題提出５回。郊外写生授業や積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。 [A]現代的視野において表現ができ、対象を表現する上での準備を計画的に実施し、制作した作品に高いレベルでの深化が確認できる。 [B]現代的視野で考察ができ、対象を表現する上での準備を計画的に実施して制作した作品に深化が確認できる。 [C]現代的視野について学び、対象を表現する上での準備を計画的に実施して制作できた。		

成績評価 (H30~)	課題提出５回。郊外写生授業や積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。 [S]現代的視野において表現ができ、対象を表現する上での準備を計画的に実施し、制作した作品に特に秀でたレベルでの深化が確認できる。 [A]現代的視野において表現ができ、対象を表現する上での準備を計画的に実施し、制作した作品に高いレベルでの深化が確認できる。 [B]現代的視野で考察ができ、対象を表現する上での準備を計画的に実施して制作した作品に深化が確認できる。 [C]現代的視野について学び、対象を表現する上での準備を計画的に実施して制作できた。
主担当教員	荒木恵信

令和4年度シラバス

番号	(B3)-05	履修コード	4105Z1
科目名	日本画（三）Ⅰ	科目英語名	Nihonga（Japanese Painting）（3） Ⅰ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	日本画専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	3年日本画演習室
単位	6	定員	15名
担当教員	○佐藤俊介・松崎十朗・荒木恵信・石崎誠和　（客員教授）米谷清和・村居正行（非常勤）土屋禮一・北田克己・岩田壮平・中村賢次・岡村桂三郎・新恵美佐子・ 能島浜江		
授業概要	授業の前半は、主題を自由とし、写生や取材を通して自らの視点と実感で対象を捉え、作品に結実していくことを経験する。その後自由選択課題期間として１５０号、５０号、１００号の制作に取り組み、後半最後に１００号の進級制作展に取り組む。 後期からは、前期の制作を踏まえ、自身の制作に課題を見いだしながら制作を充実させていく。これまでの学習と自己の考察から各自の表現を追求するため、自らが基本２件の課題を立案して実施する。立案した課題毎に各教員が設定する専門（授業計画欄を参照）から２名を選択し指導を受けながら研究を深める。特に、課題の計画性、主題、表現意図、プレゼンテーション方法など理論を形成するための視点について学ぶ。 本演習による成果は、日本画（三）Ⅱで実践的な制作に還元されるため、実現可能な内容とする。 授業の前半及び後半の課題である人体素描は、描写力と表現力を育む重要な課題であるため必ず出席しなけらばいけない。		
到達目標	自身の制作課題に沿った具体的な研究目的、研究計画を立てられる。自己の求める表現を美術史や地域性などの観点から考察検討する姿勢を養い、独自の作品を制作する土台を構築する。そしてその表現の完成をプレゼンテーションできるようになる。		
授業計画	■前半 ○松崎十朗　日本画的空間表現についての指導 ○佐藤俊介　表現に於ける素材効果についての指導 ○荒木恵信　日本画独自の表現、及び絵画組成研究についての指導 ○石崎誠和　日本画的画面構成・創造性についての指導 第１～３週　構図法 ・スケッチや写生を基にして作品の構想を練り上げる際に、東洋絵画及び西洋絵画に於ける各種遠近法、構図法を効果的に活かし、日本画表現の豊かさを掴み、自らの考察を深化させる。 第４週　人体素描（１） ・人体のバランスや特徴を的確に捉えて、色彩も踏まえた高い写実力を身につける。 第５週　絹本表現 ・絹に描く表現について古典技法を理解しながら表現する方法を学ぶ。 ■後半 第６～８週　課題計画と、各自の課題に沿った主に理論的分野に関する指導 ・これまでの学習と自己の考察から各自の表現方針に沿った課題を自らが2件決める。 ・各課題に適すると考える専門を下記の①～④から２つ選択する。 ・各課題については選択した専門の教員が指導するが、本授業では特に、制作の準備やプロセスに焦点を絞って思索する。 ・これに基づいて「日本画（三）Ⅱ 」では同教員の指導により実践的な制作を実施することとなる。 ・課題の設定、専門の選択などに関する疑問や相談などはすべての教員が随時受け付ける。 ①　現代日本画表現（箔技法を含む）　；　松崎十朗 箔素材を使った表現など様々な技法を学び制作することで、個性を生かした現代の日本画表現を探求する。 ②　デジタルデバイス応用表現　；　佐藤俊介 現代日本画表現。写生取材の徹底と、取材～構想～作図～制作の各段階に於けるデジタルデバイスを活用した絵画表現を含む発展的表現並びに、各種発表を主眼とした日本画制作の実践。		

	③　　技法材料、絵画表現、保存修復　；　荒木恵信 　制作に不可欠な様々な材料や伝統的な絵画技法を理解するとともに習得し、そこから改めて自らの制作を問い直して深化を図る。また、文化財の保存修復や、様々な研究の方法についても要望に合わせて指導する。 ④　　現代における日本画の発展的表現　；　石崎誠和 　写生で得た実感から対象や制作画面と自分の関わりを深め、和紙や絵具の素材感を活かす制作を探求する。 　注意事項 ＊２つの課題の号数を合わせる変則的な運用は認めません。課題以上の号数の制作を望む場合などは、担当教員や選択した専門の教員が相談に応じます。 ＊始まった課題を途中で変更することはできません。しかし、始まっていない課題で先の課題の影響によって変更を希望する場合はこれを認めます。教員へ届け出てください。 ＊２件の課題でどの専門を選択するかは、課題に沿って自由です。 ＊始まった課題の途中で選択した専門を変更することは基本的にはできません。しかし、始まっていない課題で先の課題の影響によって専門の変更を希望する場合はこれを認めます。教員へ届け出てください。 ＊選択していない専門を担当する教員へも自由に質問できます。 ＊成績評価は、選択した専門の教員２名が主として採点し、全教員の合意を得て決定します。 ＊課題や専門、選択などについての相談はいつでも受けます。
予習・復習	制作準備、取材、構想、作図
教科書	特になし
参考書	適宜指示する
教材	リサーチするために必要な資料および制作用具一式
履修上の注意	授業後半からは、学生自らが自身で取り組む課題を掴み、専門性の深い領域に入るため、授業前半の課題はこのことを十分考慮して取り組むこと。 本授業についてのわからない点や疑問、質問などは通年いつでも相談を受ける。
成績評価 **(~H29)**	課題提出について１～２週は下図（プラン）指導をもってこれにあてる。４週目以降は課題によって選択した専門の教員２名が適宜指示する。積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。 [A]課題に積極的に取り組み、主題を模索・追求し、画材・素材を適正に活かし、独自性を持って、それを説明できる。 [B]課題に積極的に取り組み、主題を模索・追求し、画材・素材を適正に活かした。 [C]課題に取り組み、主題を模索し、画材・素材を適正に活かす努力をした。
成績評価 **(H30~)**	課題提出について１～２週は下図（プラン）指導をもってこれにあてる。４週目以降は課題によって選択した専門の教員２名が適宜指示する。積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。 [S] 課題に積極的に取り組み、主題を模索・追求し、画材・素材を適正に活かし、独自性を持って、それを説明でき、 特に秀でている。 [A]課題に積極的に取り組み、主題を模索・追求し、画材・素材を適正に活かし、独自性を持って、それを説明できる。 [B]課題に積極的に取り組み、主題を模索・追求し、画材・素材を適正に活かした。 [C]課題に取り組み、主題を模索し、画材・素材を適正に活かす努力をした。
主担当教員	佐藤俊介

令和4年度シラバス

番号	(B3)-06	履修コード	4106Z1
科目名	日本画（三）Ⅱ	科目英語名	Nihonga（Japanese Painting）（3） Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	日本画専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	3年日本画演習室
単位	14	定員	15名
担当教員	○佐藤俊介・松崎十朗・荒木恵信・石崎誠和　（客員教授）米谷清和・村居正行　（非常勤）土屋禮一・北田克己・岩田壮平・中村賢次・岡村桂三郎・新恵美佐子・ 能島浜江		
授業概要	授業の前半は１００号、５０号、１５０号の大作制作を実践し、制作意図及び独自の表現について研究・模索する。 授業の後半では日本画（三）Ⅰで計画立案した課題の理論を作品制作及び作品制作活動として実践する。		
到達目標	取材に則った制作意図に基づき、主題の昇華及び表現方法の探求ができる。 各自の表現方針を深く考察し、その実現に向けて追求できる。		
授業計画	■前半 第１～２週　課題制作Ⅰ ・100号の自由課題制作 第３～４週　課題制作Ⅱ ・５０号の自由課題制作（課題制作Ⅰと同じ主題による） 第７～11週　　課題制作Ⅲ　　佐藤俊介　松崎十朗 ・c150号、D50号、E100号のうちのCかDの自由課題制作 ■後半 第12～21週 課題制作Ⅳ ・c150号、D50号、E100号のうちのCかDの自由課題制作 課題制作Ⅴ ・100号の自由課題制作 進級制作 ・100号の自由課題制作 「日本画（三）Ⅰ 」で取り組んだ各自の考察を実践する。 ＊成績評価は、選択した専門の教員２名が主として採点し、全教員の合意を得て決定する。 ＊各課題で完成した作品は、学内展示に出品しなければいけません。（後述の学内展示を参照。） ■その他 学内展示 展示期間を別途指示するので各自計画的に作品制作すること。 展示期間中に講評・採点するので必ず出品すること。 出品作は完成していること。展示期間中に展示室からの持ち出しを禁止する。		
予習・復習	制作準備、取材、構想、作図		
教科書	特になし		
参考書	適宜指示する		
教材	日本画用具一式他、適宜指示する		
履修上の注意	授業後半からは、学生自らが自身で取り組む課題を掴み、専門性の深い領域に入るため、授業前半の課題はこのことを十分考慮して取り組むこと。 本授業についてのわからない点や疑問、質問などは通年いつでも相談を受ける。		
成績評価 (~H29)	課題提出については授業前半は3回、後半３回とする。12週目以降は課題によって選択した専門の教員２名が適宜指示する。郊外写生授業や積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。 [A]制作に於いて、独自の世界観を構築し、課題の取り組みに発展性がみられる。 [B]制作に於いて、独自の世界観を探求し、課題の取り組みに発展性がみられる。		

	[C]制作に於いて、独自の世界観を目指し、課題の取り組みに努力がみられる。
成績評価 **(H30~)**	課題提出については授業前半は3回、後半は３回とする。12週目以降は課題によって選択した専門の教員２名が適宜指示する。郊外写生授業や積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。 [S] 制作に於いて、独自の世界観を構築し、課題の取り組みに発展性がみられ、特に秀でている。 [A]制作に於いて、独自の世界観を構築し、課題の取り組みに発展性がみられる。 [B]制作に於いて、独自の世界観を探求し、課題の取り組みに発展性がみられる。 [C]制作に於いて、独自の世界観を目指し、課題の取り組みに努力がみられる。
主担当教員	佐藤俊介

令和4年度シラバス

番号	(B3)-07	履修コード	4107Z1
科目名	日本画（四）Ⅰ	科目英語名	Nihonga（Japanese Painting）（4） Ⅰ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	日本画専攻4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	4年日本画演習室
単位	6	定員	15名
担当教員	○松崎十朗・佐藤俊介・荒木恵信・石崎誠和　（客員教授）米谷清和・村居正之　（非常勤）土屋禮一・北田克己・岩田壮平・中村賢次・岡村桂三郎・新恵美佐子・ 能島浜江　その他		
授業概要	授業の前半は、自己の考察から各自の表現を深化するため、自らの課題を立案して実施する。立案した課題毎に各教員が設定する専門（授業計画欄を参照）から適宜指導を受ける。卒業制作にむけて3年間の実習・演習を基に技法や表現の内容についてより深く考察し、自由な発想による個性的な表現の実現にむけて特に理論的な分野を学ぶ。 本演習による成果は、日本画（四）Ⅱで実践的な制作に還元されるため、実現可能な内容とする。 授業の後半は卒業制作を行う。構想や試作の経緯を各段階で担当教員と相談しながら個々の発想を向上させ、集大成となる作品を制作する。卒業制作は全教員が指導・評価する。 授業の前半及び後半の課題である人体デッサンは、描写力と表現力、発想力を育む重要な課題であるため必ず出席しなけらばいけない。		
到達目標	具体的な研究目的、研究計画を明確に立てる事ができる。作品とそのコンセプトが独自性と整合性をもち、その表現を完成させ、十全にプレゼンテーションできる。 自己の求める表現を理論化し、様々な観点から考察する能力を高めることで、具体的な表現活動として高度に還元できる。		
授業計画	■前半 第１～５週　課題を計画、各自の課題に沿った主に理論的分野に関する指導 ・これまでの学習と自己の考察から各自の表現方針に沿った課題を自らが決める。 ・各課題に適すると考えられる専門①～④から適宜指導を受ける。 ・各課題については適宜教員の専門に添って指導するが、本授業では特に、理論的な分野に焦点を絞って思索する。 ・これに基づいて「日本画（四）Ⅱ 」では同教員の指導により実践的な制作を実施することとなる。 ・課題の設定、専門の選択などに関する疑問や相談などはすべての教員が随時受け付ける。 第６週　人体素描　荒木恵信・石崎誠和 ・各自が選択した画材を用いた裸婦デッサン。制作に反映できる独自性を開拓発見する機会とする。 ①　　現代日本画表現（箔表現を含む）　；　松崎十朗 箔素材を使った表現など様々な技法を学び制作することで、個性を生かした現代の日本画表現を探求する。 ②　　デジタルデバイス応用表現　；　佐藤俊介 現代日本画表現。写生取材の徹底と、取材～構想～作図～制作の各段階に於けるデジタルデバイスを活用した絵画表現を含む発展的表現並びに、各種発表を主眼とした日本画制作の実践。 ③　　技法材料、絵画表現、保存修復　；　荒木恵信 制作に不可欠な様々な材料や伝統的な絵画技法を理解するとともに習得し、そこから改めて自らの制作を問い直して深化を図る。また、文化財の保存修復や、様々な研究の方法についても要望に合わせて指導する。 ④　現代における日本画の発展的表現　；　石崎誠和 写生で得た実感から対象や制作画面と自分の関わりを深め、和紙や絵具の素材感を活かす制作を探求する。		

	注意事項 ＊前半の課題は８０～１００号程度１点　１２０号～150号程度１点を制作 ＊成績評価は全教員の合意を得て決定します。 ＊課題についての相談はいつでも受けます。 ■後半 ○松崎十朗　　日本画制作の表現並びに、日本画的空間表現に於ける独自性の指導 ○佐藤俊介　　日本画制作の表現並びに、特に現代性・同時代性についての指導 ○荒木恵信　　日本画制作の表現並びに、絵画組成研究についての指導 ○石崎誠和　　日本画制作の表現並びに、主題と表現の整合性についての指導 第７～９週　卒業制作　全教員 ・各自が習作の成果と反省を踏まえ、卒業制作について教員と相談する。
予習・復習	制作準備、取材、構想、作図
教科書	特になし
参考書	適宜指示する
教材	リサーチするために必要な資料および制作用具一式
履修上の注意	３年次に引き続き、学生自らが自身で取り組む課題を掴み、専門性の深い領域の授業である。各自課題はこのことを十分考慮して取り組むこと。 本授業についてのわからない点や疑問、質問などはいつでも相談を受ける。
成績評価 **(~H29)**	課題提出について。学生各自の課題によって教員から適宜指示する。積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。 [A]制作に於ける視野の広さと考察の深さがあり、主題意図に基づいた独創的な表現がされ、高いレベルでの深化を確認できる。課題への取り組みに積極性と独自性がみられる。 [B]制作に於ける視野と考察が感じ取れ、主題意図に基づいて独創的な表現を図ったことが制作に見て取れる。　課題への取り組みに積極性がみられる。 [C]制作に於いて考察する努力をし、主題意図に基づいて独創的な表現を試みたことがわかる。課題への取り組みに努力がみられる。
成績評価 **(H30~)**	課題提出について。学生各自の課題によって教員から適宜指示する。積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。 [s]　制作に於ける視野の広さと考察の深さがあり、主題意図に基づいた独創的な表現がされ、高いレベルでの深化を確認できる。課題への取り組みに積極性と独自性がみられ,特に秀でている。 [A]制作に於ける視野の広さと考察の深さがあり、主題意図に基づいた独創的な表現がされ、高いレベルでの深化を確認できる。課題への取り組みに積極性と独自性がみられる。 [B]制作に於ける視野と考察が感じ取れ、主題意図に基づいて独創的な表現を図ったことが制作に見て取れる。　課題への取り組みに積極性がみられる。 [C]制作に於いて考察する努力をし、主題意図に基づいて独創的な表現を試みたことがわかる。課題への取り組みに努力がみられる。
主担当教員	松崎十朗

令和4年度シラバス

番号	(B3)-08	履修コード	4108Z1
科目名	日本画（四）Ⅱ	科目英語名	Nihonga（Japanese Painting）（4） Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	日本画専攻4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	4年日本画演習室
単位	12	定員	15名
担当教員	○松崎十朗・佐藤俊介・荒木恵信・石崎誠和　（客員教授）米谷清和・村居正之　（非常勤）土屋禮一・北田克己・岩田壮平・中村賢次・岡村桂三郎・新恵美佐子・能島浜江　その他		
授業概要	授業の前半は日本画（四）Ⅰで計画立案した課題の理論を作品制作として実践する。 授業の後半は卒業制作を行う。構想や実験研究の経緯を各段階で教員と相談しながら個々の発想を向上させ、集大成となる大作を制作する。		
到達目標	課題を実践した上で取材を基とした制作意図に基づき、主題の昇華及び個性的表現方法の探求・発展させることができる。 独自の表現方針を深く考察し、その実現の深化を図ることができる。		
授業計画	■前半 第１～１０週 「日本画（四）Ⅰ 」で取り組んだ各自の考察を実践する。 ＊成績評価は全教員の合意を得て決定します。 ＊各課題で完成した作品は、学内展示に出品しなければいけません。（後述の学内展示を参照。） ■後半 第11～18週　卒業制作　全教員 ・各自が習作の成果と反省を踏まえ、卒業制作を担当教員と相談し制作する。 ・小下図もしくはコンセプトシートやマケットを基に、各自、制作意図を明示する。 ■その他 学内展示 展示期間を別途指示するので各自計画的に作品制作すること。 展示期間中に講評・採点するので必ず出品すること。 出品作は完成していること。展示期間中に展示室からの持ち出しを禁止する。		
予習・復習	制作準備、取材、構想、作図の実施		
教科書	説明もしくは資料を配付する　適宜指示する		
参考書	適宜指示する		
教材	リサーチのための資料、制作用具一式　適宜指示する		
履修上の注意	意欲的な創作態度と独自性を意識した表現を心掛けること。 本授業についてのわからない点や疑問、質問などはいつでも相談を受ける。		
成績評価 **(~H29)**	課題提出について。前半は学生各自の課題によって教員から適宜指示する。後半の卒業制作作品。郊外写生授業や積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。 [A]制作に於ける視野の広さと考察の深さがあり、主題意図に基づいた独創的な表現がされ、高いレベルでの深化を確認できる。課題への取り組みに独自性があり積極的である。 [B]制作に於ける視野と考察が感じ取れ、主題意図に基づいて独創的な表現を図ったことが制作に見て取れる。課題への取り組みが積極的である。 [C]制作に於いて考察する努力をし、主題意図に基づいて独創的な表現を試みたことがわかる。課題への取り組みに努力が見られる。		
成績評価 **(H30~)**	課題提出について。前半は学生各自の課題によって教員から適宜指示する。後半の卒業制作作品。郊外写生授業や積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。 [s]制作に於ける視野の広さと考察の深さがあり、主題意図に基づいた独創的な表現がされ、高いレベルでの深化を確認できる。課題へ積極的に取り組み、独自性があり、特に秀でている。 [A]制作に於ける視野の広さと考察の深さがあり、主題意図に基づいた独創的な表現がされ、高いレベルでの深化を確認できる。課題への取り組みに独自性があり積極的である。 [B]制作に於ける視野と考察が感じ取れ、主題意図に基づいて独創的な表現を図ったことが制作に見て取れる。課題への取り組みが積極的である。 [C]制作に於いて考察する努力をし、主題意図に基づいて独創的な表現を試みたことがわかる。課題への取り組みに努力が見られる。		
主担当教員	松崎十朗		

令和4年度シラバス

番号	(B3)-09	履修コード	4109Z1
科目名	油絵（一）Ⅰ	科目英語名	Oil Painting (1)　Ⅰ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	油画専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	1年油画実習室
単位	4	定員	25名
担当教員	○武田雄介・三浦賢治・大森　啓・高橋治希・鈴木浩之・岩崎　純　（非常勤）横江昌人		
授業概要	基礎的デッサンや油彩画実習を通して絵画造形の諸要素を学ぶと共に、自己の内面を深く探求し、絵画を創作・鑑賞する能力や感性を養い、表現の多様性や美術文化について理解する。なお本科目は絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	素描用具、油彩画用具についての基本的な使用方法を習得すると共に、その歴史的背景等の知識について講義や文献、調査等から幅広く理解する。また、人体等の描写を通して研鑽を積み重ねる意味を理解すると共に、対象を深く見つめる観察眼を養い、油彩画及び絵画造形を学ぶ上で必要となる基礎的な素養と態度を身につける。		
授業計画	第1週　キャンバス実習　　三浦賢治　武田雄介 実習を通して基礎的なキャンバスの制作技術を習得する。 第1週～4週　石膏デッサン　　武田雄介　油画全教員 学内に収蔵展示されている大型石膏像の観察描写を通じて、西洋における古典美の規範を学ぶと同時に、素描用具としての鉛筆の特性についての理解を深める。 第4週～6週　静物油彩　　大森　啓 油彩画の基本的な制作工程や用具の使い方、絵具の階層構造についての学習を通じて西洋絵画を理解することをねらいとし、F15号キャンバスに静物油彩画を完成させる。 第10週　人体デッサン　　岩崎　純 人体の観察描写を通して西洋における人体のプロポーション、コントラポストの美について学ぶとともに、木炭の特性についての理解を深めながら、形態や空間についての意識を高める。 第21週～23週　テンペラ画　　横江昌人 西洋絵画の伝統的な技法であるテンペラ画制作をとおして、支持体・顔料・メディウムによって成り立つ絵画の重層構造の概念を理解する。 実習および演習において、適宜外国人モデルを用いた授業を行う。西洋人の骨格の研究をとおして、西洋美術の概念を具体的に理解することができる。 合評会(前期2回、後期2回)　　武田雄介　油画全教員 課題作品及び自主制作を提出し、講評を共有することで、多角的な視点から総合的に学ぶ意識を高める。		
予習・復習	提示された主題について研究し、制作を行う。提出、指導後も作品の課題についての研究を深める。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	この科目の詳細については授業開始時に明示する。		
成績評価 (~H29)	成績評価　　課題提出4回、合評会提出作品。 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]素描や油彩画についての基本的な知識が技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。		

成績評価 (H30~)	成績評価　　課題提出4回、合評会提出作品。 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが特に秀でたレベルに到達している。 [A]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。
主担当教員	武田雄介

令和4年度シラバス

番号	(B3)-10	履修コード	4110Z1
科目名	油絵（一）Ⅱ	科目英語名	Oil Painting (1)　Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	油画専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	1年油画実習室
単位	8	定員	25名
担当教員	○武田雄介・三浦賢治・大森　啓・高橋治希・鈴木浩之・岩崎　純　（非常勤）千川岳志・笠井麻衣子・中矢篤志		
授業概要	基礎的デッサンや油彩画実習を通して絵画造形の諸要素を学ぶと共に、自己の内面を深く探求し、絵画を創作・鑑賞する能力や感性を養い、表現の多様性や美術文化について理解する。		
到達目標	素描用具、油彩画用具についての基本的な使用方法を習得すると共に、その歴史的背景等の知識について講義や文献、調査等から幅広く理解する。また、人体等の描写を通して研鑽を積み重ねる意味を理解すると共に、対象を深く見つめる観察眼を養う。油彩画及び絵画造形全般、さらには現代の美術表現を学ぶ上で必要となる基礎的な素養を身につける。		
授業計画	第14週～16週　インスタレーション基礎　　高橋治希 グループワークによるインスタレーションの制作実習を通して、現代における表現の多様性について基礎的な知識と技術を学ぶ。 第18週～19週　裸婦デッサンⅡ　　大森　啓 中間調子の紙に明暗の描写を加える三調子のデッサンによって、洋画におけるデッサンの理念と構造を理解するとともに基礎的な描写技術を習得する。 第20週～21週　グリザイユⅠ　　三浦賢治 グリザイユの成り立ちを学ぶことで、油彩画技術の変遷について理解を深める。グレー階調の絵の具による描画をとおして、油彩画の重層構造やマチエールについての知識と技術を習得する。 第24週～25週　人物着衣油彩画　　高橋治希 日本の近代洋画史への理解を深めながら、観察によって対象を深く見つめ、人物着衣油彩における人物と背景の効果的な画面構成について学ぶ。 第26週～27週　グリザイユⅡ　　三浦賢治 グリザイユⅠで制作した絵の具層の上に彩色を行う。アンダーペインティングから彩色に至る制作過程をとおして、油彩画技術の歴史を学ぶ。 第27週　制作論　千川岳志 第27週～29週　アクリル画　　大森　啓 アクリル絵具と各種メディウムについて、その構造的特性と基本的な使用方法を学ぶ。また実際の絵画制作を通して、アクリル絵具特有の幅広いテクスチャーを活かした表現技術を習得する。 第31週～33週　現代絵画表現　　武田雄介 現代絵画の多様な表現を分析・考察し、各自テーマを設定して資料収集およびドローイング制作を行う。 第32週　制作論　笠井麻衣子 第34週　制作論　中矢篤志 第34週～36週　下絵　鈴木浩之 絵画制作における下絵の機能を考察し、検討した構図や配色をタブローに展開する手法を学ぶ。 実習および演習において、適宜外国人モデルを用いた授業を行う。西洋人の骨格の研究をとおして、西洋美術の概念を具体的に理解することができる。 合評会（前期2回、後期2回）、武田雄介　油画全教員		

	課題作品及び自主制作を提出し、講評を共有することで、多角的な視点から総合的に学ぶ意識を高める。
予習・復習	提示された主題について研究し、制作を行う。提出、指導後も作品の課題についての研究を深める。
教科書	適宜指示する。
参考書	適宜指示する。
教材	適宜指示する。
履修上の注意	この科目の詳細については授業開始時に明示する。
成績評価 **(~H29)**	成績評価　　課題提出8回、合評会提出作品。 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。
成績評価 **(H30~)**	成績評価　　課題提出8回、合評会提出作品。 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが特に秀でたレベルに到達している。 [A]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。
主担当教員	武田雄介

令和4年度シラバス

番号	(B3)-11	履修コード	4111Z1
科目名	油絵（二）Ⅰ	科目英語名	Oil Painting (2)　Ⅰ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	油画専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	2年油画実習室
単位	4	定員	25名
担当教員	○鈴木浩之・三浦賢治・大森　啓・高橋治希・岩崎　純・武田雄介（非常勤）山本順子・山本　基		
授業概要	デッサンや油彩画実習を通して西洋絵画における伝統技法を学ぶ。また、絵画表現におけるコンポジションについて、人体の配置、色彩、明暗、描線の強弱などの観点からより主体的な画面作りを探求する。フレスコ画、水彩画などの絵画技術について学ぶとともに、現代に至る西洋絵画の歴史と表現の多様性を自身の制作に照らして考察する。		
到達目標	キャンバス制作、カマイユ、フレスコ画などの技法を経験することで、西洋絵画における伝統技法に関する知識と技術の幅を広げる。油彩を含む多様な素材で人体の観察描写を行い、色や線、マチエール等の特性を理解する。インスタレーションや照明技術を学び、事物と空間の多様な関わりについて考察する。		
授業計画	第1週～2週　フレスコ画研究　　岩崎　純 古代からルネサンスまで西洋画の主流であったフレスコ画の技法について説明を受け、共同作業を含む基本的な制作プロセスに従い実際に漆喰の壁作りを体験しながら、フレスコ画作品の模写を中心とした制作を行う。 第2週～3週　水彩画　　山本順子 水彩画の特性を活かした彩色の手法、及び、基底材（紙材）について学ぶ。 第3週～4週　キャンバス制作　　三浦賢治 絵画制作において地塗りの基礎となる支持体について、画面比率の機能や構造、材料を学ぶとともに、実習を通してキャンバスの制作技術を習得する。 第4週～6週　カマイユ　　鈴木浩之 古典的な油彩画技法における基本的な重層構造を学ぶ。単色のアンダーペインティング層（カマイユ）と描画層を組み合わせ、グリザイユやベルダイユと比べて明度の高い仕上がりとなるシラージュ技法を習得する。 第10週～11週　インスタレーション　　山本　基 教室外を含む開かれた空間の中で表現することを通して、事物と空間の多様な関わりを学ぶ。 第11週～12週　人体デッサン　　大森　啓 キュビスムの基礎的概念を学び、その方法論を取り入れた人体デッサンを行う。観察に基づく分析から対象の再構成へと向かう際に作者の造形的秩序を介在させることで、より能動的な絵画空間の構築を目指す。 実習および演習において、適宜外国人モデルを用いた授業を行う。西洋人の骨格の研究をとおして、西洋美術の概念を具体的に理解することができる。 5月7日（土）～8日（日）　郊外写生授業　　鈴木浩之 自然造形の観察描写を通して対象を見つめる姿勢を学ぶとともに、屋外制作に必要な絵画技法についての理解を深める。 合評会（前期2回、後期2回）　　鈴木浩之、油画全教員 課題作品及び自主制作を提出し、講評を共有することで、多角的な視点から総合的に学ぶ意識を高める。		
予習・復習	課題及び合評会提出作品について、提示された主題や自己の表現について研究し、制作を行う。提出、指導後も作品の問題点についてさらに研究を深める。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	プリントを配付する。		
教材	授業内容に関する資料･プリントを適宜提示、配布する。		

履修上の注意	この科目の詳細については授業開始時に明示する。
成績評価 **(~H29)**	課題提出6回、合評会提出作品。 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]西洋絵画に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらの知識が積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]西洋絵画に関する知識と技術が習得され、それらの知識が積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]西洋絵画に関する知識と技術が習得され、それらの知識が自己の制作に活かされている。
成績評価 **(H30~)**	個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]西洋絵画に関する知識と技術が特に秀でたレベルで習得され、それらの知識が積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A]西洋絵画に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらの知識が積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]西洋絵画に関する知識と技術が習得され、それらの知識が積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]西洋絵画に関する知識と技術が習得され、それらの知識が自己の制作に活かされている。
主担当教員	鈴木浩之

令和4年度シラバス

番号	(B3)-12	履修コード	4112Z1
科目名	油絵（二）Ⅱ	科目英語名	Oil Painting (2)　Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	油画専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	2年油画実習室
単位	8	定員	25名
担当教員	○鈴木浩之・三浦賢治・大森　啓・高橋治希・岩崎　純・武田雄介（非常勤）早見紗也佳・松村浩之・藤井俊治・イヌイマサノリ・西山美なコ・中桐聡美・千葉正也		
授業概要	絵画表現における基礎的な技術、及び知識を学ぶ。アニメーション表現と撮影技術に触れるとともに、構図法について解説を受け、絵画作品の図法的解決を試みる。表現技法の基礎として〈形体の表現〉〈対象の関係性〉〈時間と観察〉〈事の再構成〉〈抽象表現〉〈仮象と実在〉について学ぶ。		
到達目標	西洋絵画におけるデッサンと油彩画の基礎的な技術や知識の習得を実現し、完成した作品として統合する。近代から現代に至る西洋美術の歴史と表現を理解し、その知識を積極的に取り入れる姿勢を身につけ、自身の表現の問題と向き合う視点を得る。		
授業計画	第12週　撮影実習　　鈴木浩之 デジタルスチルカメラと三脚、照明機材を用いた写真撮影の手法を基礎的に学ぶ。 第12週～14週　アニメーション　　早見紗也佳、鈴木浩之 国内外のアニメーションの歴史を学ぶと共に、映像制作におけるプロット、イメージボード、絵コンテ、動画、撮影、編集、出力について基礎的に学ぶ。 第15週　構図法　　三浦賢治 西洋絵画における構図の概念とその重要性を学ぶ。任意に選択した作品の構図解析を試み、画面を構築する諸要素について検証する。 ［表現技法基礎］ 第18週～19週　形体の表現　　三浦賢治、松村浩之 ヌードモデルを用いた等身大に近いドローイング制作を行う。ドローイングまたはデッサン、素描といった言葉の意味について考察し、自身が選択した画材・技法で制作することにより、絵画空間について模索し表現の可能性を広げる。 第20週～21週　対象の関係性　　大森　啓、藤井俊治 秩序ある絵画空間の構築に不可欠な概念「ヴァルール」の理解を中心に、対象と画面の関係、及び画中の要素同士の関係性について学ぶ。 第23週～24週　時間と観察　　鈴木浩之、イヌイマサノリ 時間の経過によって生じる差の現れを観察する手法に触れ、展開する複数の絵と上演を組み合わせた美術表現について学ぶ。 第27週～29週　事の再構成　　高橋治希、西山美なコ 美術における素材や事柄の再構成について、純粋美術と装飾美術の両面から捉え、自身における表現の手法の可能性について探求する。 第31週～33週　抽象表現　　岩崎　純、中桐聡美 抽象表現について歴史的背景やその成り立ちを踏まえた上で、自身の追求する表現方法を模索する。 第34週～第36週　仮象と実在　　武田雄介、千葉正也 絵画における仮象と実在の関係を歴史的に考察し、現代の視覚文化におけるイメージのあり方について考察するとともに自らの問題を立てる基礎を学ぶ。 実習および演習において、適宜外国人モデルを用いた授業を行う。西洋人の骨格の研究をとおして、西洋美術の概念を具体的に理解することができる。		

	合評会(前期2回、後期2回) 鈴木浩之、油画全教員 課題作品及び自主制作を提出し、講評を共有することで、多角的な視点から総合的に学ぶ意識を高める。
予習・復習	課題及び合評会提出作品について、提示された主題や自己の表現について研究し、制作を行う。 提出、指導後も作品の問題点についてさらに研究を深める。
教科書	授業内容に関する資料･プリントを適宜提示、配布する。
参考書	適宜指示する。
教材	授業内容に関する資料･プリントを適宜提示、配布する。この科目の詳細については授業開始時に明示する。
履修上の注意	この科目の詳細については授業開始時に明示する。
成績評価 **(~H29)**	課題提出7回、合評会提出作品。 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]西洋絵画に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらの知識が積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]西洋絵画に関する知識と技術が習得され、それらの知識が積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]西洋絵画に関する知識と技術が習得され、それらの知識が自己の制作に活かされている。
成績評価 **(H30~)**	課題提出7回、合評会提出作品。 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]西洋絵画に関する知識と技術が特に秀でたレベルで習得され、それらの知識が積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A]西洋絵画に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらの知識が積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]西洋絵画に関する知識と技術が習得され、それらの知識が積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]西洋絵画に関する知識と技術が習得され、それらの知識が自己の制作に活かされている。
主担当教員	鈴木浩之

令和4年度シラバス

番号	(B3)-13	履修コード	4113Z1
科目名	版画Ⅰ	科目英語名	PrintmakingⅠ （Intaglio）
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	油画専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	版画印刷室
単位	1	定員	25名程度
担当教員	神谷佳男		
授業概要	ー四版種の解説 版画・印刷の基本的な四版種(凸版、凹版、平版、孔版)についてレクチャーをおこなう ー銅版画制作 凹版画技法について学ぶと同時に、銅版画制作の可能性を探る。		
到達目標	版画の四版種の特性を理解する。 銅版画制作を通して、銅版画技法の基本的要素(製版、刷り等)を学び、昨今の版表現や絵画造形の諸要素について考察し、自己表現能力を高める。		
授業計画	初日 版画・印刷の歴史について、パワーポイントでレクチャーをおこなう 各版種の特性と歴史的背景を様々な作品を取り上げ解説する。 銅版画技法について詳しく解説 直刻法、腐蝕法、防蝕被膜の原料、その他。 二日目 銅版画技法と製版工程の説明 共同作品を制作しながら、エッチング、ドライポイント、アクアチント、メゾチントの技法を説明 インクの特徴の解説、インクの拭き取り方と刷りの実演をおこなう。 三日目～ 主題の決定から表現に適した版画技法の選択まで、個別に助言と指導をおこなう。 個々の進捗状況に応じて、適宜技術的助言をする。 最終日 9：30頃まで　制作終了 9：50頃まで　後片付け 9：50頃から　作品のプレゼンテーション アンケートの回答　銅版の保存など		
予習・復習	版画用下絵(18×24cm以下のサイズ)を準備する。 本学附属図書館で銅版画に関する本やYouTubeでの銅版画に関する動画を見ておくことが望ましい。		
教科書	なし。ただし製版工程の説明案内(A4)を配布する。		
参考書	『中林忠良の銅版画』中林 忠良　アートテクニック・ナウ15(河出書房新社) 『銅版画のテクニック』深澤 幸雄 （ダヴィッド社） 『銅版画のマチエール』駒井 哲郎（美術出版社） 『世界版画全史』黒崎 彰（阿部出版株式会社）		
教材	180×240×0.8mmの銅板とハーネミューレ(5761)を使用する。（売店で購入のこと）		
履修上の注意	作業中インクなどで汚れる可能性があり、作業服、ゴム手袋、エプロン等持参のこと。 初日と最終日は必ず出席のこと。とりわけ初日の欠席は不認定となる場合がある。		
成績評価 **(~H29)**	配点　作品評価90%　プレゼンテーション10%（テーマや技法についての明快な説明） [A]絵画の造形的諸要素（明暗の対比を含む画面構成）と共に、高い銅版画の技術（マチエール、刷りの美しさなど）に裏付けされた優れた発想の作品 [B]銅版画技法のヴァリエーションがあり、絵画の基礎的なレベルに到達している作品 [C]時間をかけて制作に取り組み、銅版画技法の習得が認められる作品		
成績評価 **(H30~)**	配点　作品評価90%　プレゼンテーション10%（テーマや技法についての明快な説明） [S]優れた発想力と共に、高度な造形力、技術力に裏付けされた作品 [A]絵画の造形的諸要素（明暗の対比を含む画面構成）と共に、高い銅版画の技術（マチエール、刷りの美しさなど）に裏付けされた優れた発想の作品 [B]銅版画技法のヴァリエーションがあり、絵画の基礎的なレベルに到達している作品 [C]時間をかけて制作に取り組み、銅版画技法の習得が認められる作品		
主担当教員	神谷佳男		

令和4年度シラバス

番号	(B3)-14	履修コード	4114Z1
科目名	油絵（三）Ⅰ	科目英語名	Oil Painting (3)　Ⅰ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	油画専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	3年油画実習室
単位	6	定員	25名
担当教員	○高橋治希・三浦賢治・大森　啓・　鈴木浩之・岩崎　純・武田雄介、（非常勤）喜井豊治、黒坂圭太、藤原　工、前川祐介、宮原康展		
授業概要	自身の制作テーマや表現について、油画のみならず多様な表現方法を検討する。コース（絵画表現コース、映像表現コース、ミクストメディア・空間表現コース）毎に設定する課題に取り組み、自身の制作テーマを深く見つめると共にその表現方法を構想する。また科目履修者全員が参加する講評を通して、自らの制作における多角的な視点を学ぶ。		
到達目標	自身の表現について広い視野と独創的な発想を基に、必要な技術について改めて検討し多角的に探求する能力を身に付ける。		
授業計画	第1週～4週　6週～9週　表現技法研究Ⅰ　高橋治希、三浦賢治、大森　啓、鈴木浩之、岩崎純、武田雄介 自身の表現について、広い視野と独創的な発送、表現に結びつける技術を多角的に探求する能力を身につける。 [絵画表現コース] ・絵画技法演習 ・絵画制作演習 ・照明演習（藤原　工） コース内選択　・ステンドグラス・モザイク（喜井豊治）・生活と芸術＜茶道体験＞・空間表現演習 [映像表現コース] ・映像制作論（黒坂圭太） ・映像制作演習＜グループ制作＞ ・シナリオ、絵コンテ演習（黒坂圭太） ・映像撮影演習（前川祐介） ・映像編集演習 ・映像編集論（宮原康展） ・映像撮影計画論（宮原康展） [ミクストメディア・空間表現コース] ・電動工具演習 ・型取り、立体造形演習 ・塗装演習 ・照明演習（藤原　工） コース内選択　・ステンドグラス・モザイク（喜井豊治）・生活と芸術＜茶道体験＞・空間表現演習 実習および演習において適宜ヌードモデルを用いたクロッキー、外国人モデルを用いた授業を行う。 5月7日（土）～8日（日）　郊外写生授業　高橋治希 野外の風景から形状や色彩の調和を学ぶことをねらいとし、空や木々等の自然のモチーフを描写し風景画を完成させる。 合評会及び審査会（後期3回）　高橋治希、油画全教員 自身の表現内容を説明するプレゼンテーションを行い、コミュニケーションスキルの向上を図るとともに、講評を共有し、個々の構想力や技術力の客観化を図る。		
予習・復習	各課題により別途指示する。		
教科書	プリントを配付する。		

参考書	適宜指示する。
教材	授業の際に適宜指示する。
履修上の注意	この科目の詳細については授業開始時に明示する。
成績評価 **(~H29)**	個々の提出課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]造形的な調和について学び、制作プロセスの重要性を理解し、これらが高いレベルで作品テーマの表現に活かされている。 [B]造形的な調和について学び、制作プロセスの重要性を理解し、これらが作品テーマの表現に活かされている。 [C]造形的な調和について学び、制作プロセスの重要性を理解する。
成績評価 **(H30~)**	個々の提出課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]造形的な調和について学び、制作プロセスの重要性を理解し、これらが特に秀でたレベルで作品テーマの表現に活かされている。 [A]造形的な調和について学び、制作プロセスの重要性を理解し、これらが高いレベルで作品テーマの表現に活かされている。 [B]造形的な調和について学び、制作プロセスの重要性を理解し、これらが作品テーマの表現に活かされている。 [C]造形的な調和について学び、制作プロセスの重要性を理解する。
主担当教員	高橋治希

令和4年度シラバス

番号	(B3)-15	履修コード	4115Z1
科目名	油絵（三）Ⅱ	科目英語名	Oil Painting (3) Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	油画専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	3年油画実習室
単位	13	定員	25名
担当教員	○高橋治希・三浦賢治・大森　啓・　鈴木浩之・岩崎　純・武田雄介（非常勤）石田尚志・奥野　惠・福島唯史・野中祐美子		
授業概要	自身の制作テーマを明確化し、必要な取材や調査を行なったうえで、表現に適した技法や材料について検討し制作する過程を学ぶ。進級制作展で作品を発表し、プレゼンテーションと講評を通して発展的な表現を探求する。		
到達目標	自身の制作のテーマを明らかにし、その表現内容に結びつく材料と技法を習得すると共に、制作における過程の重要性を理解する。また自身の作品を客観的に捉える素養を身に付ける。		
授業計画	第10週～16週　第18週～32週　第34週～35週　表現技法研究Ⅱ 高橋治希、岩崎　純、三浦賢治、大森　啓、　鈴木浩之、岩崎純、武田雄介、 コース毎による課題を通じて表現内容と技法の関係について考察し、その整合性を図る為の試作や材料研究を進め、技法・材料に関する問題解決能力を高める。 進級制作（1点～2点） 創造的思考力と技法の一致した表現を学び、表現の客観性を目標とした制作技能の向上を図り、進級制作テーマ文作成、エスキース制作、作品制作の各プロセスを重視した作品を完成させる。 自主制作　学外発表活動 進級制作で得られた制作上の課題について考察し、理解が不足していた部分や技術的な問題点を検証する為に進級制作作品を分析する。また進級制作で得られた研究の成果を学外に向けて意欲的に発表（または、その準備を）する。 絵画制作指導　福島唯史 映像制作指導　石田尚志 パブリックアート論　奥野　惠 第33週　作品展示　油画全教員　野中祐美子 本科目履修者が協力して進級制作を展示する計画を立て、必要となる準備を整えると共に展覧会を実施する。展覧会会場にて各自が作品についてのプレゼンテーションを行い、講評を受ける。 実習および演習において適宜ヌードモデルを用いたクロッキー、外国人モデルを用いた授業を行う。 学外演習 個別の担当教員による少人数の学外演習授業を行う。 合評会及び審査会（後期3回）　高橋治希、油画全教員 自身の表現内容を説明するプレゼンテーションを行い、コミュニケーションスキルの向上を図るとともに、講評を共有し、個々の構想力や技術力の客観化を図る。		
予習・復習	課題及び合評会提出作品について、提示された主題や自己の表現について研究し、制作を行う。提出、指導後も作品の問題点についてさらに研究を深める。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	授業の際に適宜指示する。		

履修上の注意	この科目の詳細については授業開始時に明示する。
成績評価 **(~H29)**	課題提出3回、合評会提出作品、研究発表1回。 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]絵画表現についての諸能力を基に、個々の作品テーマに適した技法や材料についての研究が高いレベルで表現に活かされている。 [B]絵画表現についての諸能力を基に、個々の作品テーマに適した技法や材料についての研究が表現に活かされている。 [C]絵画表現についての諸能力を基に、個々の表現に適した技法や材料について研究されている。
成績評価 **(H30~)**	課題提出3回、合評会提出作品、研究発表1回。 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]絵画表現についての諸能力を基に、個々の作品テーマに適した技法や材料についての研究が特に秀でたレベルで表現に活かされている。 [A]絵画表現についての諸能力を基に、個々の作品テーマに適した技法や材料についての研究が高いレベルで表現に活かされている。 [B]絵画表現についての諸能力を基に、個々の作品テーマに適した技法や材料についての研究が表現に活かされている。 [C]絵画表現についての諸能力を基に、個々の表現に適した技法や材料について研究されている。
主担当教員	高橋治希

令和4年度シラバス

番号	(B3)-16	履修コード	4116Z1
科目名	版画Ⅱ	科目英語名	Printmaking Ⅱ （Lithograph）
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	油画専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	版画印刷室
単位	1	定員	25名程度
担当教員	神谷佳男		
授業概要	アルミ板または樹脂板を用いたリトグラフ版画制作をおこない、リトグラフの基本的原理を理解する。 リトグラフの制作を通して、表現の可能性を試み、考察する。		
到達目標	版画の四版種の特性を理解する。リトグラフ制作を通してリトグラフの特徴を理解するとともに、その技法の表現の可能性を追求し、自身の創作に活かす。		
授業計画	初日 前半　版画と版種の説明 凸版、凹版、平版、孔版の説明 後半　リトグラフの技法について説明 マーカー、ボールペン、リトクレヨン、ダーマトグラフ、解墨などの効果の説明 共同作品を制作 製版しながら技法の概要を学ぶ 2日目～8日目 各自、下絵･構想をもとに制作を進める。 個々のテーマ、進捗状況に応じ、適宜技術的な助言を与えるとともに、製版の作業をアシストする。 ＊製版作業に時間がかかり、待ち時間が発生する可能性がある。余裕を持って作業を進めること。 最終日 10：30まで　制作終了 10：45まで　後片付け 10：50から　作品のプレゼンテーション 11：50　　アンケートの回答		
予習・復習	版画用下絵(A4サイズ相当)を準備する。		
教科書	なし。ただしリトグラフの製版工程の説明案内（A4）を配布する。		
参考書	『石版画』阿部浩　著（弘隆社）		
教材	リトグラフ用アルミ板または樹脂板を使用するため、売店で板、紙、ダーマトグラフを購入のこと。		
履修上の注意	作業中インクなどで汚れる可能性がある。作業服、エプロン等持参のこと。 初日と最終日のプレゼンテーションの欠席は不認定となる場合がある。		
成績評価 (~H29)	[A]絵画の造形的諸要素（明暗の対比を含む画面構成）と共に、高い技術（刷りの美しさなど）に裏付けされた優れた発想の作品 [B]リト版画の魅力があり、絵画の基礎的なレベルに到達している作品 [C]ある程度時間をかけて制作に取り組み、技法の習得が認められる作品		
成績評価 (H30~)	[S]絵画の造形的諸要素（明暗の対比を含む画面構成など）が特に優れ、高い技術（刷りの美しさなど）に裏付けされ、魅力的で優れた発想の作品 [A]絵画の造形的諸要素（明暗の対比を含む画面構成）と共に、高い技術（刷りの美しさなど）に裏付けされた優れた発想の作品 [B]リト版画の魅力があり、絵画の基礎的なレベルに到達している作品 [C]ある程度時間をかけて制作に取り組み、技法の習得が認められる作品		
主担当教員	神谷佳男		

令和4年度シラバス

番号	(B3)-17	履修コード	4117Z1
科目名	油絵（四）Ⅰ	科目英語名	Oil Painting (4) Ⅰ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	油画専攻4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	4年油画実習室
単位	6	定員	25名
担当教員	○岩崎　純・三浦賢治・大森　啓・高橋治希・鈴木浩之・武田雄介（非常勤）横山由季子		
授業概要	卒業制作に向け、自身の制作テーマや技法についての探求を深める。前期制作作品展示を通して卒業制作準備過程の報告や完成作品に対する客観的視野を得ると共に、プレゼンテーション能力の向上を図る。		
到達目標	自身の制作テーマや技法について明確に課題を見出し、表現として解決する。また、自らの制作を分かり易く紹介するプレゼンテーション能力を身に付ける。		
授業計画	第1週～5週、第10週～17週 前期制作　岩崎　純、三浦賢治、大森　啓、高橋治希、鈴木浩之、武田雄介、横山由季子 現代における造形表現を考察し、自身の制作の形態をさまざまな角度から検討する。 学外での発表活動を行い、アーティストとしての能動的社会参加能力を向上させる。自由な発想による卒業制作のテーマ（小論文）及び制作計画（絵画：エスキース／映像：シナリオ、絵コンテ、ビデオコンテ／立体・インスタレーション：イメージドローイング、企画書、マケット）を提出し、 作品化に向けての予備制作を多数試みながら本作へと向かう。 ［絵画、立体・インスタレーション］ 卒業制作のテーマや技法を念頭に置いた作品１点の完成を前期制作課題とする。 ［映像］ 卒業制作で取り組む作品のシナリオ、絵コンテ、ビデオコンテの完成を前期制作課題とする。 実習および演習において、適宜外国人モデルを用いた授業を行う。西洋人の骨格の研究をとおして、西洋美術の概念を具体的に理解することができる。 5月7日（土）～8日（日）　郊外写生授業　　岩崎　純 天候や光の変化を意識しながら、水辺や空、木々等の自然のモチーフを描写することを通して、自身の視点を明確にした風景画を制作する。 第13週　作品展示　　油画全教員、横山由季子 前期制作課題の展示を行う。 合評会及び審査会（前期3回、後期3回）　岩崎　純、油画全教員 合評及び審査を行う。課題作品及び自主制作作品を提出し、工程管理スキル、及び、プレゼンテーションによるコミュニケーションスキルを学ぶ。		
予習・復習	課題及び合評会提出作品について、提示された主題や自己の表現について研究し、制作を行う。提出、指導後も作品の問題点についてさらに研究を深める。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	この科目の詳細については授業開始時に明示する。		
成績評価 **(~H29)**	合評会提出作品。研究発表1回（7月）。学外発表、受講態度を重視する。 [A]4年間に学習すべき諸能力が総合的に習得され、独創的な表現が高いレベルで成立している。 [B]4年間に学習すべき諸能力が習得され、独創的な表現が成立している。 [C]4年間に学習すべき表現の諸能力が習得されている。		
成績評価 **(H30~)**	合評会提出作品。研究発表1回（7月）。学外発表、受講態度を重視する。 [S]4年間で習得すべき諸能力が習得された上で、さらに独創的な表現と完成度が特に秀でたレベルで成立している。 [A]4年間に学習すべき諸能力が総合的に習得され、独創的な表現が高いレベルで成立している。 [B]4年間に学習すべき諸能力が習得され、独創的な表現が成立している。 [C]4年間に学習すべき表現の諸能力が習得されている。		
主担当教員	岩崎　純		

令和4年度シラバス

番号	(B3)-18	履修コード	4118Z1
科目名	油絵（四）Ⅱ	科目英語名	Oil Painting (4)　Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	油画専攻4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	4年油画実習室
単位	12	定員	25名
担当教員	○岩崎　純・三浦賢治・大森　啓・高橋治希・鈴木浩之・武田雄介　（客員教授）木村克朗（非常勤）安達博文・東村アキコ・石田尚志		
授業概要	絵画又は映像、もしくは立体・インスタレーション等の表現形態を用いた作品を卒業制作課題として完成し提出する。		
到達目標	１年次から習得した絵画、映像、立体・インスタレーションの制作技術及び作品構想の能力をさらに発展させる。現代の美術について4年間積み重ねた知識と技術を用いて自身の制作上の課題解決を目指す。自作についてプレゼンテーションを行い、コンセプトを小論文にまとめることで言語化能力を向上させ創造的思考力を高める。		
授業計画	第6週～9週　前期制作・卒業制作　岩崎　純・三浦賢治・大森　啓・高橋治希・鈴木浩之・武田雄介 個別の担当教員による指導の下で前期制作及び卒業制作を行う。自作についてのプレゼンテーションを行ない、コンセプトを小論文にまとめる。 第18週～36週　油画教員全員・安達博文・木村克朗・東村アキコ・石田尚志 1点の卒業制作を行う。自身の制作についてのプレゼンテーションを行ない、コンセプトを小論文にまとめる。3回の合評形式の卒業制作審査に参加し、卒業制作展に出品する。 実習および演習において、適宜外国人モデルを用いた授業を行う。西洋人の骨格の研究をとおして、西洋美術の概念を具体的に理解することができる。 合評会及び審査会（前期3回、後期3回）　岩崎　純、油画全教員 合評及び審査を行う。課題作品及び自主制作を提出し、工程管理スキル、及び、プレゼンテーションによるコミュニケーションスキルを学習する。		
予習・復習	課題及び合評会提出作品について、提示された主題や自己の表現について研究し、制作を行う。提出、指導後も作品の問題点についてさらに研究を深める。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	この科目の詳細については授業開始時に明示する。		
成績評価 **(~H29)**	合評会提出作品。研究発表1回（7月）。学外発表、受講態度を重視する。 [A]4年間に学習すべき諸能力が総合的に習得され、独創的な表現が高いレベルで成立している。 [B]4年間に学習すべき諸能力が習得され、独創的な表現が成立している。 [C]4年間に学習すべき表現の諸能力が習得されている。		
成績評価 **(H30~)**	課題提出4回、合評会提出作品。研究発表1回（7月）。学外発表、受講態度を重視する。 [S]4年間で習得すべき諸能力が習得された上で、さらに独創的な表現と完成度が特に秀でたレベルで成立している。 [A]4年間に学習すべき諸能力が総合的に習得され、独創的な表現が高いレベルで成立している。 [B]4年間に学習すべき諸能力が習得され、独創的な表現が成立している。 [C]4年間に学習すべき表現の諸能力が習得されている。		
主担当教員	岩崎　純		

令和4年度シラバス

番号	(B3)-19	履修コード	4119Z1
科目名	彫刻（一）Ⅰ	科目英語名	Sculpture（1） Ⅰ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	彫刻専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	各実習室
単位	4	定員	15名
担当教員	○津田道子・石田陽介・土井宏二・浜田周・芝山昌也　（客員教授）岩間弘（非常勤）渡辺秀亮		
授業概要	彫刻の基礎的な制作を通して美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。自然観察を通して彫刻制作の最も基本となる美的要素について、様々な角度から探究する。制作実習を通し、彫刻素材についてその特長の理解を図るとともに、各種道具の安全な取り扱い方や基本的な技術を習得する。なお、本科目は彫刻分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	各種実習を通して造形の原理や美的要素の理解に努める。 用具の安全な取り扱いや、各種素材に対する基礎的な技術を習得する。		
授業計画	［共通課題１］自然観察Ⅰ　−様々な視点について考察する一（第１週から第３週） 広いフィールドに出て、様々な対象を深く観察することで、物事の構造や現代社会の成り立ちを探る。その活動を通じて、物事を様々な視点で考察する力を養う。 １　自然観察の課題、概要説明、グループディスカッション ２　フィールドーワークや文献調査の実施 ３　自己の考えをドローイング（２種類）に描く ４　ドローイングをもとにしたディスカッション 上記の授業の中で、様々な実践を知るために専任教員による「表現論」を行う。 「具象彫刻概説・自己の表現を通して」（石田陽介）、「表現すること・私の場合」（土井宏二）、「自身の制作活動と素材の考察」（浜田周）、「日本彫刻の近現代と自分の活動」（芝山昌也）、「プラクティスとしての作品」（津田道子） ［共通課題２］木彫実習Ⅰ（第１１週から第１２週・主担当：石田陽介） 木彫実習Ⅰ・Ⅱにおいて、「人間（もしくは自分）」をテーマに、徹底した観察と各自の造形観に基づく人物像の制作を木彫で行う。 本制作の前段階として基礎的な素材・用具の扱いを習得するとともに本制作のイメージを探る。 １　概説および課題説明・素材や技術、道具についての説明 ２　与えられたテーマに基づくデッサンおよびイメージ作り（エスキース制作） ３　各自の主題決定・ディスカッション ［共通課題３］石彫実習Ⅰ（第１８から第１９週・主担当：芝山昌也） 石彫実習Ⅰ・Ⅱにおいて、与えられたテーマを通して美的要素を探り、各自の造形観を基にそれぞれのテーマを設定し、石彫制作を行う。本制作の前段階として基礎的な素材・用具の扱いを習得するとともに本制作のイメージを探る。 １　概説および課題説明・素材や技術、道具についての説明 ２　テーマに基づくデッサンおよびイメージ作り ３　各自の主題決定・ディスカッション ［共通課題４］塑造実習Ⅰ（第２７から第２８週・主担当：土井宏二） 塑造Ⅰ・Ⅱにおいて、人体塑造の制作を通して観察力を養い、基本的な美的要素の理解を図る。本制作の前段階として基礎的な素材・用具の扱いを習得するとともに本制作のイメージを探る。 １　概説および課題説明 ２　クロッキーおよびデッサンによるモデルの把握 ３　塑造制作に向けてのイメージづくり ４　ディスカッション		
予習・復習	授業の前に各課題に関する彫刻作品や彫刻家の資料を図書館等で調べ、表現の多様性について研究をすること。身近な人物や自然物のデッサン、クロッキーを継続的に行い、造形について理解を深めること。課題終了後は資料や作品写真などの整理を行い、ポートフォリオとしてまとめる		

	こと。その他授業内で指示する。
教科書	適宜指示する。
参考書	適宜指示する。
教材	適宜指示する。
履修上の注意	共通の材料および道具、各種安全講習受講費については入学時に納入する教材費で会計処理する。個人購入の物品については授業内で指示。
成績評価 **(~H29)**	制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。
成績評価 **(H30~)**	制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [S]彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが幅広く積極的に自己の制作に活かされている。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。
主担当教員	津田道子

令和4年度シラバス

番号	(B3)-20	履修コード	4120Z1
科目名	彫刻（一）Ⅱ	科目英語名	Sculpture（1） Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	彫刻専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	各実習室
単位	8	定員	15名
担当教員	○津田道子・石田陽介・土井宏二・浜田周・芝山昌也　（非常勤）渡辺秀亮		
授業概要	彫刻（一）Ⅰでの成果を踏まえ、各課題の制作テーマから自己の表現主題を設定し、各素材の特長を活かした表現を模索する。制作実習を通し、主な彫刻素材について体験を重ね、その特長の理解を図るとともに、各種道具の安全な取り扱い方や基本的な技術を習得する。		
到達目標	各課題を通して自己の表現主題を設定し、各素材の特長を表現に生かす。 用具の安全な取り扱いや、各種素材に対する技術を習得する。		
授業計画	［［共通課題１］自然観察Ⅱ　–様々な視点について考察する一（第４週から第７週） 自然観察Ⅰの観察で得た成果をもとにした作品を制作する事により、自由で幅広い表現の可能性を知る。表現の形式は問わない。 １　自然観察Ⅰのドローイングを発展させた自由作品の制作及び各制作に対する指導 ２　作品プレゼンテーションの準備 ３　作品プレゼンテーション ４　合評 ［共通課題２］木彫実習Ⅱ（第１１週から第１７週・主担当：石田陽介） 木彫実習Ⅰでの成果をもとに　「人間（もしくは自分）」をテーマに、徹底した観察と各自の造形観に基づく人物像の制作を木彫で行う。 １　木彫による作品制作 ２　仕上げ ３　プレゼンテーション・合評 ［共通課題３］石彫実習Ⅱ（第２０から第２５週・主担当：芝山昌也） 石彫実習Ⅰでの成果をもとに、石彫制作を行う。石の素材感を生かし、イメージを広げ各自の表現を追究する。石の性質や道具の使用法、各種技法等を実践的に習得する。 １　石彫による作品制作 ２　仕上げ ３　プレゼンテーション・合評 ［共通課題４］塑造実習Ⅱ（第２９から第３６週・主担当：土井宏二） 塑造実習Ⅰの成果をもとに、人体塑造の制作を通して観察力を養い、基本的な美的要素の理解を図る。また、石膏による成型技法を習得する。 １　塑造による人体像の制作　（美的要素の実践的理解） ２　石膏による成型 ３　プレゼンテーション・合評 ※学内展や学外展を適宜行い、展示発表を通して自己の制作について多角的に再考を図る。		
予習・復習	授業の前に各課題に関する彫刻作品や彫刻家の資料を図書館等で調べ、表現の多様性について研究をすること。身近な人物や自然物のデッサン、クロッキーを継続的に行い、造形について理解を深めること。課題終了後は資料や作品写真などの整理を行い、ポートフォリオとしてまとめること。その他授業内で指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		

履修上の注意	共通の材料および道具、各種安全講習受講費については入学時に納入する教材費で会計処理する。個人購入の物品については授業内で指示。
成績評価 **(~H29)**	制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。
成績評価 **(H30~)**	制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [S]彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが幅広く積極的に自己の制作に活かされている。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。
主担当教員	津田道子

令和4年度シラバス

番号	(B3)-21	履修コード	4121Z1
科目名	彫刻（二）Ⅰ	科目英語名	Sculpture (2) Ⅰ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	彫刻専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	各実習室
単位	4	定員	15名
担当教員	○浜田周・石田陽介・土井宏二・芝山昌也・津田道子　（非常勤）渡辺秀亮・林一平		
授業概要	彫刻（二）ⅠおよびⅡでは、前学期の共通課題１および２では１年次に引き続き、彫刻の基礎的な制作を通して美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。また、彫刻制作の最も基本となる美的要素について、様々な角度から探究する。実習を通して素材の特長を理解すると共に、各種道具の安全な取り扱いや基本的な操作方法を習得する。 後学期の選択課題１および２では、１年次から２年次前期に習得した彫刻に関する思考力や技術を基に、発展的な作品の制作を行う。各自で研究計画を立て、表現する内容や素材を主体的に設定し、様々な表現の実践研究を行う。また、専門性に特化した作品制作を行う場合には、選択課題１と２を合わせ同じ内容で通期とし、より発展的な作品制作を行う。 彫刻（二）Ⅰでは各課題における本制作（彫刻（二）Ⅱ）の前段階として、基礎的な素材・用具の理解や資料の収集を行い本制作のイメージを探る。 また、彫刻分野の幅広い理解のために、研修旅行を実施する。		
到達目標	各種実習を通して造形の原理や美的要素の理解に努める。 用具の安全な取り扱いや、各種素材に対する基礎的な技術を習得する。 各課題のテーマに従い資料を収集し、イメージを固めプレゼンテーションを行う。		
授業計画	［共通課題１］金属彫刻実習Ⅰ（第１から第２週・主担当：浜田周） 金属彫刻実習Ⅰ・Ⅱにおいて、ガス溶接、アーク溶接（手溶接）および金属加工技術の習得を通して、素材の性質を理解し、造形の可能性を探る。本制作の前段階として基礎的な素材・用具の扱いを習得するとともに本制作のイメージを探る。 １　概説および素材や技術、道具についての説明 ２　与えられたテーマに基づくデッサンおよびイメージ作り・各自の主題決定 ３　各自の主題決定・ディスカッション ［共通課題２］複合メディア実習Ⅰ（第１１から第１2週・主担当：津田道子） 事例の紹介や課題を通して、映像の基本的な原理と機器の基礎的な扱いを習得するとともに、独自の表現の可能性を探る。 １　概説および課題説明・素材や技術、道具についての説明 ２　テーマに基づくデッサンおよびイメージ作り ３　各自の主題決定・ディスカッション ―― ［彫刻（二）ⅠおよびⅡ　選択課題１］（第1期：第１8から第２5週） ［彫刻（二）ⅠおよびⅡ　選択課題２］（第２期：第２7から第３6週） 事前に提出した制作計画をもとにして、下記のなかから２課題を選択する。２期連続して同じ素材を選択する場合は下記のなかから一つの素材を選択する。（長時間かけて1作品を制作したい場合や、同種類の素材で連続して作品を制作する場合など） ・木彫（主担当：石田陽介）各自の表現主題を見つけ出し、1年次での経験を基に木の素材感を生かした表現の工夫を行う。 ・塑造（人体およびクレーワーク）（主担当：土井宏二）各自の表現主題を見つけ出し、1年次での経験を基に、テラコッタ、FRP、石膏、その他可塑的な表現技法や表現材料の研究を行う。 ・金属彫刻（主担当：浜田周）各自の表現主題を見つけ出し、1年次での経験を基に金属素材を中心とした表現方法を探る。また、より専門的な溶接等の加工技法を習得し、鉄素材以外のステンレス・アルミニウム・銅・真鍮などの非鉄金属の素材・加工についても研究する。 ・石彫（主担当：芝山昌也）各自の制作計画を基にして、花崗岩や大理石などの石材を適切に選び、高度な加工技術を用いて1年次の石彫実習をより発展させた石彫表現を行う。 ・複合メディア（主担当：津田道子）　現代における制作についてのディスカッションを通して、各々が持つ問題意識から、彫刻という形態に限らず空間を用いた表現や、映像、パフォーマンスなども含む様々な方法で作品を制作するための実践的な探求を行う。 ―― 選択課題実習Ⅰ　（第1期：第１8から第20週）（第２期：第27から第29週） 本制作の前段階として基礎的な素材・用具の扱いを習得するとともに本制作のイメージを探る。 １　各自の主題決定 ２　素材や技術、道具についての研究 ３　資料の収集 ４　イメージ作り・各自のテーマに基づくデッサン ５　担当教員とのディスカッション ６　プランのプレゼンテーション ※研修旅行の成果はレポートで提出する。隔年開講のため彫刻（二）もしくは彫刻（三）の単位に算入する。		

予習・復習	授業の前に各課題に関する彫刻作品や彫刻家の資料を図書館等で調べ、表現の多様性について研究をすること。身近な人物や自然物のデッサン、クロッキーを継続的に行い、造形について理解を深めること。課題終了後は資料や作品写真などの整理を行い、ポートフォリオとしてまとめること。その他授業内で指示する。
教科書	適宜指示する。
参考書	適宜指示する。
教材	各課題の冒頭で指示する。
履修上の注意	共通の材料および道具、各種安全講習受講費については入学時に納入する教材費で会計処理する。選択課題の材料費、個人購入の物品については授業内で指示。
成績評価 **(~H29)**	制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。
成績評価 **(H30~)**	制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [S]彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが幅広く積極的に自己の制作に活かされている。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。
主担当教員	浜田　周

令和4年度シラバス

番号	(B3)-22	履修コード	4122Z1
科目名	彫刻（二）Ⅱ	科目英語名	Sculpture (2)　Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	彫刻専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	各実習室
単位	8	定員	15名
担当教員	○浜田周・石田陽介・土井宏二・芝山昌也・津田道子　（非常勤）渡辺秀亮・林一平		
授業概要	彫刻（二）Ⅰでの成果を踏まえ、各課題の制作テーマから自己の表現主題を設定し、各素材の特長を活かした表現を模索する。制作実習を通し、主な彫刻素材について体験を重ね、その特長の理解を図るとともに、各種道具の安全な取り扱い方や基本的な技術を習得する。		
到達目標	各自のテーマ設定のもと、粘り強く制作に取り組み完成度を高める。 選択課題では材料計画から作品の仕上げまでを各自で行うことで、粘り強い制作態度と造形能力が養われ、技法もより専門的になることで高度な技術の習得を目指す。		
授業計画	［共通課題１］金属彫刻実習Ⅱ（第３から第6および第10週・主担当：浜田周） 金属彫刻実習Ⅰでの成果をもとに、各自のテーマに沿って作品を制作する。金属の素材感を生かし、イメージを広げ各自の表現を追究する。金属の性質や道具の使用法、各種技法等を実践的に習得する。 １　金属による作品制作 ２　仕上げ ３　プレゼンテーション・合評 ［共通課題２］複合メディア実習Ⅱ（第11から第16週・主担当：津田道子） 複合メディア実習Ⅰでの成果をもとに、グループワークで映像とパフォーマンスの制作を行う。展示や発表の形態を含めて、議論を行うための基礎力を養う。 １　作品の構想と制作 ２　仕上げ ３　プレゼンテーション・合評 ―― ［彫刻（二）ⅠおよびⅡ 選択課題１］（第1期：第１8から第25週） ［彫刻（二）ⅠおよびⅡ 選択課題２］（第２期：第27から第36週） 事前に提出した制作計画をもとにして、下記のなかから２課題を選択する。２期連続して同じ素材を選択する場合は下記のなかから一つの素材を選択する。（長時間かけて1作品を制作したい場合や、同種類の素材で連続して作品を制作する場合など） ・木彫（主担当：石田陽介）各自の表現主題を見つけ出し、1年次での経験を基に木の素材感を生かした表現の工夫を行う。 ・塑造（人体およびクレーワーク）（主担当：土井宏二）各自の表現主題を見つけ出し、1年次での経験を基に、テラコッタ、FRP、石膏、その他可塑的な表現技法や表現材料の研究を行う。 ・金属彫刻（主担当：浜田周）各自の表現主題を見つけ出し、1年次での経験を基に金属素材を中心とした表現方法を探る。また、より専門的な溶接等の加工技法を習得し、鉄素材以外のステンレス・アルミニウム・銅・真鍮などの非鉄金属の素材・加工についても研究する。 ・石彫（主担当：芝山昌也）各自の制作計画を基にして、花崗岩や大理石などの石材を適切に選び、高度な加工技術を用いて1年次の石彫実習をより発展させた石彫表現を行う。 ・複合メディア（主担当：津田道子）　現代における制作についてのディスカッションを通して、各々が持つ問題意識から、彫刻という形態に限らず空間を用いた表現や、映像、パフォーマンスなども含む様々な方法で作品を制作するための実践的な探求を行う。 ―― 選択課題実習Ⅱ　（第1期：第21から第25週）（第２期：第29から第36週） 選択課題実習Ⅰでの成果をもとに本制作を行う。 １　各選択素材による作品制作 ２　素材等の実践的研究 ３　効果的な仕上げの工夫 ４　プレゼンテーション・合評 ※学内展や学外展を適宜行い、展示発表を通して自己の制作について多角的に再考を図る。 ※合評会においては全教員がそれぞれの専門性から視点を変えた多角的な指導、助言を行う。		
予習・復習	授業の前に各課題に関する彫刻作品や彫刻家の資料を図書館等で調べ、表現の多様性について研究をすること。身近な人物や自然物のデッサン、クロッキーを継続的に行い、造形について理解を深めること。課題終了後は資料や作品写真などの整理を行い、ポートフォリオとしてまとめること。その他授業内で指示する。		
教科書	適宜指示する。		

参考書	適宜指示する。
教材	各課題の冒頭で指示する。
履修上の注意	共通の材料および道具、各種安全講習受講費については入学時に納入する教材費で会計処理する。個人購入の物品については授業内で指示。
成績評価 **(~H29)**	制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。
成績評価 **(H30~)**	制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [S]彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが幅広く積極的に自己の制作に活かされている。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。
主担当教員	浜田　周

令和4年度シラバス

番号	(B3)-23	履修コード	4123Z1
科目名	彫刻論Ⅰ	科目英語名	Theory of Sculpture Ⅰ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	彫刻専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室・実習室ほか
単位	1	定員	15名
担当教員	○浜田周・石田陽介・土井宏二・芝山昌也・津田道子　（客員教授）岩間弘		
授業概要	各担当教員がそれぞれの専門性や経験から現在活躍中の作家を講師として招聘し、各講師の自作論の講義と作品の個別指導を通して彫刻観を広げ論理の構築を図る。		
到達目標	講義を基に様々な観点から彫刻について考察し、自らの彫刻論を打ち立てる足掛かりを見つける。各自の制作を客体視し論理的考察を加えその深化を図る。		
授業計画	美術界の動向を踏まえ外部講師を招聘する。 ○「自作論」講義 　映像資料等を用い各作家の作品や制作歴等を紹介するとともに、制作コンセプトや作品成立の背景などを解説する。 　講義終了後、質疑応答を重ね内容の深化を図る。 ○教室巡回による個別指導 　各学生の制作現場を巡回し、各々の視点や経験から指導・助言を行う。 　※発想や制作のプロセスがわかるようにあらかじめ資料を整理し、ポートフォリオ等にまとめておくこと。 ○ワークショップ 　制作に対する発想や視野を広げるために各作家の専門性に応じたワークショップを行う場合がある。 ○グループディスカッション 　各学生の専門性に応じて深化を図るため少人数によるグループディスカッションを行う場合がある。 令和３年度実績（敬称略） 　なかむらくるみ、黒澤伸　※新型コロナウイルス対策により例年より少ない招聘で実施。 令和２年度実績（敬称略） 　岩間弘、宮永愛子、黒澤伸、川松康徳　※新型コロナウイルス対策により例年より少ない招聘で実施。 令和１年度実績（敬称略） 　大平實、宮永愛子、宮本志野、坂巻正美、藤田千彩、大野綾子、松本広子 平成３０年度実績（敬称略） 　小清水漸、大平實、長谷光城、宮永愛子、宇治野宗輝、竹川大介、宮本志野 平成２９年度実績（敬称略） 　小清水漸、大平實、山本和弘、藤原彩人、深井聡一郎、富井大裕、宮本志野 平成２８年度実績（敬称略） 　小清水漸、山本和弘、松本透、浅井真理子、北川フラム、藤原彩人、飯田竜太 平成２７年度実績（敬称略） 　小清水漸、横田茂、吉川陽一郎、波多野泉、山本和弘、棚田康司、光田由里、亀井岳 平成２６年度実績（敬称略） 　小清水漸、冨永敦也、保田井智之、高嶺格、大巻伸嗣、宮永愛子、村上清、大山龍 平成２５年度実績（敬称略） 　河口龍夫、小清水漸、上條文穂、塩田千春、豊嶋秀樹、芝山昌也、飯田竜太		
予習・復習	招聘講師の個別指導の際に使用するために、自作品に関する資料を整理し、ポートフォリオを作成する。その他、事前もしくは授業内で指示する。		
教科書	使用する場合は担当教員より事前連絡をする。		
参考書	各授業で適宜指示する。		
教材	必要に応じて事前連絡する。		

履修上の注意	招聘作家による講義は不定期となるため、掲示黒板の事前連絡に注意すること。 彫刻論Ⅱと合同で講義を行う。講義内容、招聘作家は年度によって異なる。
成績評価 **(~H29)**	課題レポート：各講義および各自の制作等を踏まえ論述する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [A]各講義において彫刻に関する視野を広げ、自己の制作の深化を高いレベルで図ることが出来た。 [B]各講義において彫刻に関する視野を広げ、自己の制作の深化を図ることが出来た。 [C]各講義において彫刻に関する視野を広げることが出来た。
成績評価 **(H30~)**	課題レポート：各講義および各自の制作等を踏まえ論述する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [S]各講義において彫刻に関する視野を積極的に広げ、自己の制作の深化を特に高いレベルで図ることが出来た。 [A]各講義において彫刻に関する視野を広げ、自己の制作の深化を高いレベルで図ることが出来た。 [B]各講義において彫刻に関する視野を広げ、自己の制作の深化を図ることが出来た。 [C]各講義において彫刻に関する視野を広げることが出来た。
主担当教員	浜田　周

令和4年度シラバス

番号	(B3)-24	履修コード	4124Z1
科目名	彫刻（三）Ⅰ	科目英語名	Sculpture（3） Ⅰ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	彫刻専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	各実習室
単位	6	定員	15名
担当教員	○芝山昌也・石田陽介・土井宏二・浜田周・津田道子　（非常勤）渡辺秀亮		
授業概要	１、２年次での実習を基に、塑造（人体）、塑造（クレーワーク）、木彫、石彫、金属彫刻、複合メディア表現の中から、主に取り扱う素材別にコースを各自選択する。彫刻（三）Ⅱで取り組む課題制作を念頭にコンセプトを組み立て、素材や技法に関する基礎研究を行い制作計画について各素材担当を中心に検討を重ね発表を行う。また、彫刻分野の幅広い理解のために、研修旅行を実施する。		
到達目標	自らの表現主題を明確にし、専門的な技術を研究するとともに、素材を生かした制作を行うための試行を重ねる。資料の作成および整理を行いプレゼンテーションの能力を付ける。		
授業計画	１年間を見通した各自の研究テーマを基に、彫刻（三）Ⅱで取り組む前期・後期各１課題を設定する。各課題に関する制作計画を具体的に立てプレゼンテーションを行い、合評や各教員とのディスカッションを通して深化を図る。 指導担当は下記の通り、各教員の専門性に従って分担し、専門的に技術や素材に関する指導を行う。 （石田教授）人体具象、木彫および木を主素材とした複合的表現を中心に指導する。 （土井教授）塑造、鋳造およびテラコッタ、ブロンズ等の可塑材を用いた複合的表現を中心に指導する。 （浜田准教授）金属彫刻および金属を主素材とした複合的表現を中心に指導する。 （芝山准教授）石彫および石を主素材とした複合的表現を中心に指導する。 （津田准教授）映像・パフォーマンス・インスタレーションを中心に指導する。 ［授業計画：前期／後期］ 第１週／第１８週：1次プレゼンテーション 　各課題制作について当初のアイデアをスケッチ、マケット等をもとに作品制作のコンセプトを発表し各教員が様々な角度から助言を行う。 第２から７週／第１９から２５週：研究および試作 　担当教員を中心にコンセプトの深化を図り、制作の構想計画を練る。制作に必要な素材や技術を研究し、実験的な制作を行う。必要に応じてエスキースを作り、コンセプトの修正を図り、表現効果の有効性を検証する。 第１０週／第２７週：２次プレゼンテーション、合評および採点 　研究および試作を踏まえ、彫刻（三）Ⅱで取り組む課題制作のプランを発表する。 ※合評会、講評会では全教員がそれぞれの視点から多角的な指導、助言を行う。 ※研修旅行の成果はレポートで提出する。隔年開講のため彫刻（二）もしくは彫刻（三）の単位に算入する。		
予習・復習	授業内で指示する。 授業の前に各課題に関する資料を集め、表現の多様性について研究をすること。課題終了後は資料や作品写真などの整理を行い、ポートフォリオとしてまとめること。その他授業内で指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	各課題の冒頭で指示する。		
履修上の注意	個人購入の物品、材料については授業内で指示。制作に関わる実費については自己負担。		
成績評価 (~H29)	課題提出　４回。　制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 研究内容、資料の提示、試作の経緯等を、２次プレゼンテーションで採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。		

	[C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。
成績評価 **(H30~)**	課題提出　４回。　制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 研究内容、資料の提示、試作の経緯等を、２次プレゼンテーションで採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [S]彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが幅広く積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。
主担当教員	芝山昌也

令和4年度シラバス

番号	(B3)-25	履修コード	4125Z1
科目名	彫刻（三）Ⅱ	科目英語名	Sculpture（3） Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	彫刻専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	各実習室
単位	13	定員	15名
担当教員	○芝山昌也・石田陽介・土井宏二・浜田周・津田道子　（非常勤）渡辺秀亮		
授業概要	彫刻（三）Ｉでの研究成果を踏まえ、各自選択したコース別（塑造（人体）、塑造（クレーワーク）、木彫、石彫、金属彫刻、複合メディア表現）に、主体的に制作に取り組む。主題を明確にし、専門的な技術や素材に関する知識を習得する。		
到達目標	自らの表現主題を明確にし、専門的な技術を習得するとともに、コースの特性を生かした制作を行う。展覧会の企画運営を中心的に行い、発表能力を高める。作品発表の方法を探り制作にフィードバックする。		
授業計画	１年間を見通した各自の研究テーマを基に、前期・後期各１課題を設定する。彫刻（三）Ｉでの研究成果を踏まえた制作プランをもとに、各自の課題制作に取り組む。 指導担当は下記の通り、各教員の専門性に従って分担し、専門的に技術や素材に関する指導を行う。また、各教員との個別指導を通して作品の深化を図る。 （石田教授）人体具象、木彫および木を主素材とした複合的表現を中心に指導する。 （土井教授）塑造、鋳造およびテラコッタ、ブロンズ等の可塑材を用いた複合的表現を中心に指導する。 （浜田准教授）金属彫刻および金属を主素材とした複合的表現を中心に指導する。 （芝山准教授）石彫および石を主素材とした複合的表現を中心に指導する。 （津田准教授）映像・パフォーマンス・インスタレーションを中心に指導する。 ［授業計画：前期／後期］ 第８から１６週／第２６から３６週：課題制作 　彫刻（三）Ｉでの研究成果をもとに計画に従って制作を進める。適宜進捗状況を確認し、担当教員を中心に指導助言を行う。また、担当以外の教員からも多角的な視点で助言を行う。制作プランに変更が生じた場合は随時全教員に報告し、助言を受ける。適宜中間合評を行う。 第１６週／第３６週：作品展示、合評および採点 　課題作品を完成させ、展示を行う。作品を有効に鑑賞できる展示について研究する。 ※学内展もしくは学外展（金沢彫刻祭）の企画運営を中心的に行う。展示発表を通して自己の制作について客観的に再考を図る。 ※個展、グループ展、コンペなど、発表方法や形式を考え、積極的に社会と関わるよう援助する。 ※合評会、講評会では全教員がそれぞれの視点から多角的な指導、助言を行う。		
予習・復習	授業内で指示する。 授業の前に各課題に関する資料を集め、表現の多様性について研究をすること。課題終了後は資料や作品写真などの整理を行い、ポートフォリオとしてまとめること。その他授業内で指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	各課題の冒頭で指示する。		
履修上の注意	個人購入の物品、材料については授業内で指示。制作に関わる実費については自己負担。		
成績評価 **(~H29)**	課題提出　２回。 制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		

成績評価 (H30~)	課題提出　２回。制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [S]彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが幅広く積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。
主担当教員	芝山昌也

令和4年度シラバス

番号	(B3)-26	履修コード	4126Z1
科目名	彫刻論Ⅱ	科目英語名	Theory of Sculpture Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	彫刻専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室・実習室ほか
単位	1	定員	15名
担当教員	○芝山昌也・石田陽介・土井宏二・浜田周・津田道子		
授業概要	各担当教員がそれぞれの専門性や経験から現在活躍中の作家を講師として招聘し、各講師の自作論の講義と作品の個別指導を通して彫刻観を広げ論理の構築を図る。		
到達目標	講義を基に様々な観点から彫刻について考察し、自らの彫刻論を打ち立てる足掛かりを見つける。各自の制作を客体視し論理的考察を加えその深化を図る。		
授業計画	美術界の動向を踏まえ外部講師を招聘する。 ○「自作論」講義 　映像資料等を用い各作家の作品や制作歴等を紹介するとともに、制作コンセプトや作品成立の背景などを解説する。 　講義終了後、質疑応答を重ね内容の深化を図る。 ○教室巡回による個別指導 　各学生の制作現場を巡回し、各々の視点や経験から指導・助言を行う。 　※発想や制作のプロセスがわかるようにあらかじめ資料を整理し、ポートフォリオ等にまとめておくこと。 ○ワークショップ 　制作に対する発想や視野を広げるために各作家の専門性に応じたワークショップを行う場合がある。 ○グループディスカッション 　各学生の専門性に応じて深化を図るため少人数によるグループディスカッションを行う場合がある。 令和３年度実績（敬称略） 　なかむらくるみ、黒澤伸　※新型コロナウイルス対策により例年より少ない招聘で実施。 令和２年度実績（敬称略） 　岩間弘、宮永愛子、黒澤伸、川松康徳　※新型コロナウイルス対策により例年より少ない招聘で実施。 令和１年度実績（敬称略） 　大平實、宮永愛子、宮本志野、坂巻正美、藤田千彩、大野綾子、松本広子 平成３０年度実績（敬称略） 　小清水漸、大平實、長谷光城、宮永愛子、宇治野宗輝、竹川大介、宮本志野 平成２９年度実績（敬称略） 　小清水漸、大平實、山本和弘、藤原彩人、深井聡一郎、富井大裕、宮本志野 平成２８年度実績（敬称略） 　小清水漸、山本和弘、松本透、浅井真理子、北川フラム、藤原彩人、飯田竜太 平成２７年度実績（敬称略） 　小清水漸、横田茂、吉川陽一郎、波多野泉、山本和弘、棚田康司、光田由里、亀井岳 平成２６年度実績（敬称略） 　小清水漸、冨永敦也、保田井智之、高嶺格、大巻伸嗣、宮永愛子、村上清、大山龍 平成２５年度実績（敬称略） 　河口龍夫、小清水漸、上條文穂、塩田千春、豊嶋秀樹、芝山昌也、飯田竜太		
予習・復習	招聘講師の個別指導の際に使用するために、自作品に関する資料を整理し、ポートフォリオを作成する。その他、事前もしくは授業内で指示する。		
教科書	使用する場合は担当教員より事前連絡をする。		
参考書	各授業で適宜指示する。		
教材	必要に応じて事前連絡する。		

履修上の注意	招聘作家による講義は不定期となるため、掲示黒板の事前連絡に注意すること。 彫刻論Ⅰと合同で講義を行う。講義内容、招聘作家は年度によって異なる。
成績評価 **(~H29)**	課題レポート：各講義および各自の制作等を踏まえ論述する。 各自の作品ポートフォリオを制作し提出する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [A]各講義において彫刻に関する視野を広げ、自己の制作の深化を高いレベルで図ることが出来た。 [B]各講義において彫刻に関する視野を広げ、自己の制作の深化を図ることが出来た。 [C]各講義において彫刻に関する視野を広げることが出来た。
成績評価 **(H30~)**	課題レポート：各講義および各自の制作等を踏まえ論述する。 各自の作品ポートフォリオを制作し提出する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [S]各講義において彫刻に関する視野を積極的に広げ、自己の制作の深化を特に高いレベルで図ることが出来た。 [A]各講義において彫刻に関する視野を広げ、自己の制作の深化を高いレベルで図ることが出来た。 [B]各講義において彫刻に関する視野を広げ、自己の制作の深化を図ることが出来た。 [C]各講義において彫刻に関する視野を広げることが出来た。
主担当教員	芝山昌也

令和4年度シラバス

番号	(B3)-27	履修コード	4128Z1
科目名	彫刻（四）Ⅰ	科目英語名	Sculpture（4） Ⅰ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	彫刻専攻4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	各実習室
単位	6	定員	15名
担当教員	○石田陽介・土井宏二・浜田周・芝山昌也・津田道子　（非常勤）渡辺秀亮		
授業概要	塑造（人体）、塑造（クレーワーク）、木彫、石彫、金属彫刻、複合メディアの各コースにおいて、彫刻（三）ⅠおよびⅡの成果を踏まえ、彫刻（四）Ⅱで取り組む課題制作を念頭にコンセプトを組み立て、素材や技法に関する研究を深め、制作計画について各素材担当を中心に検討を重ね発表を行う。		
到達目標	自らの表現主題を明確にし、専門的な技術を研究するとともに、素材を生かした制作を行うための試行を高い次元で重ねる。資料の作成および整理を行いプレゼンテーションの能力を高める。		
授業計画	１年間を見通した各自の研究テーマを基に、彫刻（四）Ⅱで取り組む前期・後期各１課題を設定する。各課題に関する制作計画を具体的に立てプレゼンテーションを行い、合評や各教員とのディスカッションを通して深化を図る。 指導担当は下記の通り、各教員の専門性に従って分担し、専門的に技術や素材に関する高度な指導を行う。 （石田教授）人体具象、木彫および木を主素材とした複合的表現を中心に指導する。 （土井教授）塑造、鋳造およびテラコッタ、ブロンズ等の可塑材を用いた複合的表現を中心に指導する。 （浜田准教授）金属彫刻および金属を主素材とした複合的表現を中心に指導する。 （芝山准教授）石彫および石を主素材とした複合的表現を中心に指導する。 （津田准教授）映像・パフォーマンス・インスタレーションを中心に指導する。 ［授業計画：前期／後期］ 第１週／第１８週：1次プレゼンテーション 　各課題制作について当初のアイデアをスケッチ、マケット等をもとに作品制作のコンセプトを発表し各教員が様々な角度から助言を行う。 第２から６週／第１９から２３週：研究および試作 　担当教員を中心にコンセプトの深化を図り、制作の構想計画を練る。制作に必要な素材や技術を研究し、実験的な制作を行う。必要に応じてエスキースを作り、コンセプトの修正を図り、表現効果の有効性を検証する。 第７週／第２４週：２次プレゼンテーション、合評および採点 　研究および試作を踏まえ、彫刻（四）Ⅱで取り組む課題制作のプランを発表する。 ※合評会、講評会では全教員がそれぞれの視点から多角的な指導、助言を行う。		
予習・復習	主体的な制作となるので、事前に各自のテーマに関する資料を集め、自己の表現につながるように研究を行う。制作の過程や変遷を記録するとともに、その言語化を行い、制作の深化を図る。課題終了後は資料や作品写真などを整理し、ポートフォリオとしてまとめること。その他授業内で指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	個人購入の物品、材料については授業内で指示。 制作に関わる実費については自己負担。 合評、講評、プレゼンテーション、審査、等の詳細な日程は順次指示する。		
成績評価 **(~H29)**	課題提出　４回。　制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 研究内容、資料の提示、試作の経緯等を、２次プレゼンテーションで採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [A]４年間に学修すべき諸能力が総合的に習得され、作品に高いレベルで表現されている。 [B]４年間に学修すべき諸能力が総合的に習得され、作品に表現されている。 [C]４年間に学修すべき諸能力が習得され、作品に表現されている。		
成績評価 **(H30~)**	課題提出　４回。　制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 研究内容、資料の提示、試作の経緯等を、２次プレゼンテーションで採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [S]４年間に学修すべき諸能力が総合的に習得され、作品に特に高いレベルで表現されている。 [A]４年間に学修すべき諸能力が総合的に習得され、作品に高いレベルで表現されている。 [B]４年間に学修すべき諸能力が総合的に習得され、作品に表現されている。 [C]４年間に学修すべき諸能力が習得され、作品に表現されている。		
主担当教員	石田陽介		

令和4年度シラバス

番号	(B3)-28	履修コード	4129Z1
科目名	彫刻（四）Ⅱ	科目英語名	Sculpture（4） Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	彫刻専攻4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	各実習室
単位	12	定員	15名
担当教員	○石田陽介・土井宏二・浜田周・芝山昌也・津田道子　（非常勤）渡辺秀亮		
授業概要	彫刻（四）Ｉでの研究成果を踏まえ、より高い次元において作品制作を行う。各自選択したコース（塑造（人体）、塑造（クレーワーク）、木彫、石彫、金属彫刻、複合メディア）において、その専門性を磨き、個々の研究課題と表現の主題を明確にして制作に取り組む。前後期各課題における提出作品は卒業制作として審査する。		
到達目標	自らの表現主題を明確にし、３年間で培われた専門的な技術を基に、高度な作品を完成させ、各自の造形観を確立する。		
授業計画	１年間を見通した各自の研究テーマを基に、前期・後期各１課題を設定する。彫刻（四）Ｉでの研究成果を踏まえた制作プランをもとに、各自の課題制作に取り組む。 指導担当は下記の通り、各教員の専門性に従って分担し、専門的に技術や素材に関する指導を行う。また、各教員との個別指導を通して作品の深化を図る。 （石田教授）人体具象、木彫および木を主素材とした複合的表現を中心に指導する。 （土井教授）塑造、鋳造およびテラコッタ、ブロンズ等の可塑材を用いた複合的表現を中心に指導する。 （浜田准教授）金属彫刻および金属を主素材とした複合的表現を中心に指導する。 （芝山准教授）石彫および石を主素材とした複合的表現を中心に指導する。 （津田准教授）映像・パフォーマンス・インスタレーションを中心に指導する。 ［授業計画：前期／後期］ 第８から１５週／第２５から２８週：課題制作 　彫刻（四）Ｉでの研究成果をもとに計画に従って制作を進める。適宜進捗状況を確認し、担当教員を中心に指導助言を行う。また、担当以外の教員からも多角的な視点で助言を行う。制作プランに変更が生じた場合は随時全教員に報告し、助言を受ける。適宜中間合評を行う。 第１６週／第２９週：作品展示、合評および採点 　課題作品を完成させ、展示を行う。作品を有効に鑑賞できる展示について研究する。 ※学内展、学外展、卒業制作展等の展示発表を通して自己の制作について客観的に再考を図る。 ※制作の成果をもとに、個展、グループ展、コンペなど、方法や形式を考え、作品発表に取り組む。 ※合評会、講評会では全教員がそれぞれの視点から多角的な指導、助言を行う。		
予習・復習	主体的な制作となるので、事前に各自のテーマに関する資料を集め、自己の表現につながるように研究を行う。制作の過程や変遷を記録するとともに、その言語化を行い、制作の深化を図る。課題終了後は資料や作品写真などを整理し、ポートフォリオとしてまとめること。その他授業内で指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	個人購入の物品、材料については授業内で指示。 制作に関わる実費については自己負担。 合評、講評、プレゼンテーション、審査、等の詳細な日程は順次指示する。		
成績評価 (~H29)	課題提出　前・後期各１回。レポート「自己の制作論」提出。 卒業制作の審査は上記２課題を総合して判定する。 制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の１次審査および最終審査で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [A]４年間に学修すべき諸能力が総合的に習得され、作品に高いレベルで表現されている。 [B]４年間に学修すべき諸能力が総合的に習得され、作品に表現されている。		

	[C]４年間に学修すべき諸能力が習得され、作品に表現されている。
成績評価 **(H30~)**	課題提出　前・後期各１回。レポート「自己の制作論」提出。 卒業制作の審査は上記２課題を総合して判定する。 制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の１次審査および最終審査で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [S]４年間に学修すべき諸能力が総合的に習得され、作品に特に高いレベルで表現されている。 [A]４年間に学修すべき諸能力が総合的に習得され、作品に高いレベルで表現されている。 [B]４年間に学修すべき諸能力が総合的に習得され、作品に表現されている。 [C]４年間に学修すべき諸能力が習得され、作品に表現されている。
主担当教員	石田陽介

令和4年度シラバス

番号	(B3)-29	履修コード	4130Z1
科目名	芸術学演習（一）	科目英語名	Seminar of Art History and Aesthetics (1) : Global Art Theories (1)
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週（集中含む）
専攻・年次	芸術学専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	第2教室他
単位	4	定員	15名
担当教員	○菊池裕子・山本浩貴（非常勤）中村卓夫・毎田健治・毎田仁嗣・卯辰山工芸工房・中村記念館・今西泰赳・谷晃他		
授業概要	視覚文化研究における研究・調査・議論・発表に必要なスタディスキルの基礎を身に付けるため、また、金沢という地域における歴史と現在の文化活動をグローバルな視野で考えるために必要な現代批評と重要なポストコロニアル理論を日英語文献で学び、各種地域活動の拠点を訪問しフィールドワークすることを通して小さな研究プロジェクトを達成する。		
到達目標	本演習の到達目標は次の通りである。 （１）視覚文化研究におけるスタディスキルの基礎を身に付ける、自らの関心を発展させる批評の方法を学ぶ。 （２）英語文献の読解に必要な基礎的な専門的語彙力を身に付け、読みこなし、自身の研究に使えるようにする。 （３）2、３、４年生で課されるゼミ課題・卒論・実践プロジェクトへとつながる方向性を意識し、フィールドワーク等の基礎的な手法を試行する。		
授業計画	本演習は下記の内容で構成される。 （１）導入〔前期：菊池・山本〕 研究意義を見つけ、主体的に研究調査し、論理的に実証的に説得力をもつ批評文を書き、それを明快に発表するという基礎的なスキルを身に付けることが目標である。論文の書き方の基本的なルールを学習後、資料検索、レポート作成、プレゼンテーション、フィールドワークとは何かを概略的に学ぶ。 （２）グローバル美術理論基礎　１ 金沢のことを知り、「地域」をグローバルなポストコロニアルの現代の視座から歴史や文化を批評的に捉えられるようになるため、日英語で基本的な批評文献を読み解くグループ学習とディスカッションを行う。 （３）地域活動の拠点を訪問、専門家の講義 地域の作家工房、美術館、資料館、芸術祭、アートプロジェクトなど多彩な地域文化活動の拠点を訪問することを通して、文献学習と呼応させて「伝統」「地域文化」「コミュニティ」「工芸」「茶の湯の思想」「文化創造産業」などを批評的に考える。 （４）グローバルとローカルを考える映画鑑賞 （２）で考察した文化批評を意識しながらグローバルとローカルの関連を考える映画を鑑賞し討論する。 （５）リアクションペーパーの発表と期末レポート（A，B）提出 （３）の訪問後にリアクションペーパーを書きそれをもとにグループ発表をする。また、授業で扱われた地域と文化に関する問題意識をもって自身でトピックを選び調査研究したものを期末レポート（A）として提出する。その際（１）、（２）で学習したことが消化されその成果としてレポートにうまくまとめられているかを評価する。期末レポート（B)は谷晃先生より課される。 ※授業日程は年次の初めに掲示する。 ※レポート等については各授業で指示する。		
予習・復習	毎回必須。		

教科書	クラスルームにのせる。
参考書	クラスルームにのせる。
教材	クラスルームにのせる。
履修上の注意	積極的な自習と討論への参加が求められる。
成績評価 **(~H29)**	（１）・（２）・（３）の各授業への参加姿勢および課題・レポートの提出状況について、担当教員の協議の上、総合的に判断し成績を判定する。 [A] 到達目標について十分なレベルに達し、かつ、自らの関心に応じて展開・応用できる能力を身につけている。 [B] 到達目標について十分なレベルに達している。 [C] 到達目標について一定のレベルに達している。
成績評価 **(H30~)**	（１）・（２）・（３）の各授業への参加姿勢および課題・レポートの提出状況について、担当教員の協議の上、総合的に判断し成績を判定する。 [S] 到達目標についてきわめて優れたレベルに達し、かつ、自らの関心に応じて展開・応用できる能力を高度に身につけている。 [A] 到達目標について十分なレベルに達し、かつ、自らの関心に応じて展開・応用できる能力を身につけている。 [B] 到達目標について十分なレベルに達している。 [C] 到達目標について一定のレベルに達している。
主担当教員	菊池裕子

令和4年度シラバス

番号	(B3)-30	履修コード	4131Z1
科目名	芸術学概論	科目英語名	Introduction to Art and Aesthetics：interdisciplinary and practice-based approaches
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	芸術学専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	古典演習室他
単位	4	定員	15名
担当教員	○よしだぎょうこ　　(非常勤　さわひらき他)		
授業概要	現在の市場性と批評軸を調査し、表現を成立させる多様な社会の背景を理解した上で、独自性のあるイメージを顕現出来うる自己の基盤を作る。以上をバックボーンとして、グループでの制作に取り組み、ディスカッションやディベートを通じて、全員で整合性のある作品とコンセプトで表現強度を上げていくことを目的とする。メディアー技術–コンセプトの整合性を表現強度というスケーラブルな評価価値として見出し、実践的表現に還元する。 また、素材・領域・形式・学問を横断するアプローチによる芸術作品の評価と市場価値との関係を考察する。		
到達目標	(1) 芸術というものが科学、技術、経済、ひいてはリベラルアーツとして広く普遍的な人類の活動領域に跨るものであることを広く再認識すること。 (2) 人との関わりの中で成立する美術の本質を体得し、領域や形式を横断する方法論を学び、次学年の自身のプロジェクト（批評・論文・キュレーション・制作）に応用できるスキルを備えること。		
授業計画	___多形式表現制作の理論と実践　Ⅰ 形式を多岐に渡ってイメージを顕現させる作家活動が主流である現代の市場の動向に沿って、時代に求められる制作基盤と、成果物の独自性を養う。 現在の市場性と批評軸を調査し、表現を成立させる多様な社会の背景を理解する。それらをバックボーンとして、ディスカッションやディベートを通しグループワークでの現代美術制作に取り組む。 整合性のある作品とコンセプトで表現の強度を上げる術を学ぶこと、独自性のあるイメージを顕現出来うる基盤を作ること、グループでの表現を体験することによって、2年次の芸術学演習⑵の学習内容である「人と連携することで成立する美術というものの本質を学ぶ学習」へ繋げていくことが目的。 ●現在の市場性と批評軸を調査し、表現を成立させる多様な社会の背景を理解する。 ●独自性のあるイメージを顕現出来うる自己の基盤を作る。 ●以上をバックボーンとして、整合性のある作品とコンセプトで表現強度を上げていくことを目的とする。 1．歴史と市場 2．素材と方向性 3．表現とコンセプト 4．反証と確立 5．表現とその成立 それらを相対的に学ぶ。		
予習・復習	特になし。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	必要なものを自身で(或いはグループで)準備する。		
履修上の注意	授業内容により、教室や日程が変更される場合がある。クラスルーム或いはグループラインなどで案内を確認しておくこと。		

成績評価 **(~H29)**	無し
成績評価 **(H30~)**	授業への参加の姿勢および課題・レポートの提出情況について総合的に判断し、成績を判定する。 [S] グループでの制作に意欲的に参加し、制作と理論の関係性を十分に理解し、この学年次においての高い表現性へ到達している。さらに、獲得した知識を咀嚼・活用し、発展的かつ積極的に制作研究に取り組もうとする姿勢も十分身についている。 [A] グループでの制作に意欲的に参加し、制作と理論の関係性を理解し、この学年次において十分な表現ができている。さらに、獲得した知識を活用し、積極的に制作研究に取り組もうとする姿勢も身についている。 [B] グループでの制作に参加し、制作と理論の関係性を学び、表現ができている。 [C] 授業に参加し、制作し、概要を理解している。 最終提出物が確認できない学生は、成績がつけられないことを明記しておく。
主担当教員	よしだぎょうこ

令和4年度シラバス

番号	(B3)-31	履修コード	4132Z1
科目名	工芸演習	科目英語名	Seminar of Craft
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	芸術学専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	1年芸術学演習室他
単位	2	定員	15名
担当教員	○山村慎哉　（非常勤）名雪園代		
授業概要	日本の工芸技法（漆・木工）に関する基本的な知識や技法等を制作を通して修得する。		
到達目標	制作を通して工芸技法の修得に努めるとともに、工芸分野の研究や教育に必要な基礎的な能力を身に付ける。		
授業計画	日本の工芸技法に関する基本的な知識や技法等を制作を通して修得する。 本授業の内容は下記の通りである。 漆・木工技法 　　木材や漆についての基礎知識、および漆工の技法や工程について学ぶ。 １．漆工芸の基礎知識 ２．木地調整（素地制作） ３．下地①　地 ４．下地②　錆 ５．塗り①　中塗り ６．塗り②　小中塗り ７．漆の加飾について　置目 ８．漆の加飾について　蒔絵①（卵殻、螺鈿） ９．漆の加飾について 10．上塗り 11．仕上げ①　研ぎ 12．仕上げ②　磨き 13．蝋色 14．まとめ 15．講評 ＊木材の基礎的な加工技術や工具の扱い方、漆工技法の様々な加飾、意匠の構成などを総合的に修得する。 ＊この演習を通して修得した内容をもとに、中学校や高校、あるいは博物館施設等での「工芸体験授業」を念頭においた計画書の作成し、レポートとして提出することを課す。 ※授業日程は年次の初めに掲示する。		
予習・復習	授業時間外での準備を怠らないこと。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	授業日程および教室に注意すること。		
成績評価 (~H29)	制作に取り組む姿勢を重視する。 工芸分野の素材や制作工程への理解、レポートの内容を判断して評価する。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、造形表現において高いレベルの作品に達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品として一定のレベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んでいる。		
成績評価 (H30~)	制作に取り組む姿勢を重視する。 工芸分野の素材や制作工程への理解、レポートの内容を判断して評価する。 [S]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、その上で自身の制作に応用しようとする高い意欲も有しており、造形表現においてきわめて高いレベルの作品に達している。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、造形表現において高いレベルの作品に達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品として一定のレベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んでいる。		
主担当教員	山村慎哉		

令和4年度シラバス

番号	(B3)-32	履修コード	4133Z1
科目名	彫刻演習	科目英語名	Seminar of Sculpture
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	芸術学専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	彫刻専攻１年実習室他
単位	4	定員	15名
担当教員	○石田陽介・土井宏二　（非常勤）渡辺秀亮・林一平		
授業概要	彫刻制作を通して美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。素材に対する基礎的な理解を深め、用具等の安全な取り扱い方を習得する。素材を生かした各自の表現方法を探り、その魅力を発見するとともに、彫刻に内在する量塊、量感、空間、質感、均衡、比例など造形の諸要素や、表現の多様性について理解を図る。なお、本科目は彫刻分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	制作を通して、彫刻技法の基本を習得する。また、つくる感性を養うとともに、立体を見る目、彫刻作品に対する理解を向上させる。		
授業計画	課題１塑造（１期：７２時限：モデル制作３６時限、石膏成型３６時限） 内容：モデルに対する徹底した観察を基に、人物像（首像）を制作し、石膏像として仕上げる。 １．概説および課題説明 ・彫刻の種類（彫造、塑造、その他）およびその特性 ・表現の多様性、造形の諸要素について ２．クロッキーおよびデッサンによるモデルの把握 ・モデルの様々なポーズから人体の構造やフォルムの美しさを探る。 ・立体感や量感を意識して彫刻としてのデッサンを追求する。 ３．芯棒作り ・人体に内在する構築性や動勢を読み取り中心軸を意識した芯棒を制作する。 ４．塑造による制作 ・粘土の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 ・量感と面を意識して荒付けを行い、全体のバランスを観察する。 ・土付けによる質感の工夫し、全体の調子を整えながら仕上げる。 ５．石膏成型 ・粘土原型を石膏像として完成させ、石膏による成形技法を習得する。 ６．合評 ・完成作品について各自の制作意図や反省点を述べあい制作の深化を図る。 ・作品の鑑賞を通して、その良さを発見し味わう。 課題２木彫（２期：４８時限） 内容：人体もしくは人体の部分をモチーフに木彫の制作を行う。 １．概説および課題説明 ・木の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 ２．制作 ・墨入れ ・荒取り ・量感と面を意識した粗彫り ・全体のバランスを保ちながら細部の作り込み ・質感の工夫 ・仕上げ ３．合評 ・完成作品について各自の制作意図や反省点を述べあい制作の深化を図る。 ・作品の鑑賞を通して、その良さを発見し味わう。		
予習・復習	授業の前に美大図書館等で彫刻作品や彫刻家の資料によって表現の多様性について研究をすること。また、自分や身近な人物のデッサン、クロッキーを行い、人体について理解を深めること。その他授業内で指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		

教材	塑造用具（制作台、粘土、へら、等）石膏成型用具（ボール、等）木彫用具（ノミ、木槌、等）は大学で準備。その他、授業内で指示する。
履修上の注意	※授業日程は年次の初めに指示する。 実習費（石膏、木材、等）自己負担（4,000円～5,000円程度）。汚れてもよい服装を着用すること。モデル使用中の入退室は禁止。
成績評価 **(~H29)**	作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。
成績評価 **(H30~)**	作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 [S]彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが幅広く積極的に自己の制作に活かされている。 [A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。
主担当教員	石田陽介

令和4年度シラバス

番号	(B3)-33	履修コード	4134Z1
科目名	芸術学演習（二）	科目英語名	Seminar of Art History and Aesthetics (2)
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週（集中含む）
専攻・年次	芸術学専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	古典演習室他
単位	4	定員	15名
担当教員	○よしだぎょうこ		
授業概要	２年次に行う本演習は、１年次の芸術学演習(一)において修得した基礎的スキルと文献読解力のさらなる向上と具体的な使用と実現を目指し、（１）⑵と連動した研修(アーティストインレジデンス及びフィールドワーク)（２）現代美術領域一多形式制作及び理論と企画プロデュースの２分野の内容により構成される。 （１）においては、国内を主な対象とし、テーマに基づいたフィールドワーク調査（文献調査・実地調査）、アーティストインレジデンスを実践する。 （２）においては、後期の研修に連動する現代美術分野における実践的な制作と理論学習を行う。		
到達目標	本演習の到達目標は次の通りである。 （１）本質的に美術が人との連携によって成立するものであることを理解し、美術作品の制作・調査・研究において必要不可欠な基本的能力の会得を前提とした独自性を、実践的な団体としての演習企画の中で積極的に展開させられることを目標とする。 （２）美術市場についての基本的な知識を身につけ、将来的に目指す職業について情報収集し、独自性を探究し獲得することが目標となる。		
授業計画	本演習は下記の内容で構成される。 （１）アーティストインレジデンス 　本演習においては、国内の美術現場の現在時の状況を主な研究対象として設定し、テーマに基づいた滞在制作/理論、もしくは実地企画/調査（10日間前後の研修旅行）を行う。現地の状況などによって施行できない場合は代替する企画を行う。 本演習の内容および目的は、主に以下の通りである。 　１．国内の対象地域、もしくは現在の美術状況及び文献から資料収集する方法論を身につける 　２．事前調査により得られた知識をもとに、アーティストインレジデンス及びフィールドワークの実施に必要な準備を行う 　３．アーティストインレジデンス及びフィールドワークの実施 　４．3の研修で得られた成果をフィードバックさせ、総合的な研究発表としてまとめ上げる 　５．4をプレゼンテーション（展示/プロジェクト）、及び文献により、広く還元させる （２）美術市場の現在性 現在の美術市場を占める現代美術表現とは具体的には何を指すのか、批評性が機能するということはどのようなことか。 従来の領域と形式を多岐に渡って応用する、現代の美術市場を踏まえた即戦力ある表現、思考方法論を学習し、独自性を模索する。 自身の作品、或いはプロデュースワーク、キュレーションワークについてプランシートを作成し、研修で発展させることで実践的に学ぶ。 具体的には、ひとつの大きな作品として、時事問題や市場に絡めたテーマ等を選んで企画展を立ち上げ、全員で取り組む。デザイン(編集、アートディレクション等)、企画(ギャラリスト及プロデュース及学芸員)、制作(アーティスト)の3グループのうちいずれかを選択し、交渉や関わりのある模擬社会の中で展覧会を成立させる。ディスカッションやディベートを通じ、後期の研修へと深化させていけるテーマを選択する。 作品とコンセプトの整合性や、市場の中での批評性の機能などへ、実践的な体得学習により考察を深める。その体験の中で、自らの適性を探し、技量のみならず現場力を体得しながら専門性を深化させることが目的の総合学習。 場合に応じて他の展示企画視察や批評を通してより高度な表現を目指す。それによって更なる自己		

	プロデューススキルを養い、共同作業の中で表現が成立する全体性への考察へと繋げていく。 ※授業日程は年次の初めに掲示する。 ※レポート等については各授業で指示する。
予習・復習	必ず予習・復習を行うこと。
教科書	適宜指示する。
参考書	適宜指示する。
教材	自身の領域に応じ各自準備する。
履修上の注意	授業日程や教室に注意すること。
成績評価 **(~H29)**	無し
成績評価 **(H30~)**	[S] 到達目標について十分なレベルに達し、独自性を獲得しており、かつ、人との連携を積極的に展開し、自らの分野における諸問題に応用できる能力を高度に身につけている。 [A] 到達目標について十分なレベルに達し、かつ、自らの研究分野における諸問題に展開・応用できる能力を身につけている。 [B] 到達目標について十分なレベルに達し、自身の問題点を理解している。 [C] 到達目標について一定のレベルに達している。
主担当教員	よしだぎょうこ

令和4年度シラバス

番号	(B3)-34	履修コード	4135Z1
科目名	芸術学特講	科目英語名	Studies of Art History and Aesthetics: Global Art Theories (2)
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	芸術学専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	古典演習室・第2教室他
単位	4	定員	15名
担当教員	○菊池裕子・山本浩貴		
授業概要	〔グローバル美術理論２〕 ポストコロニアル理論と文化社会（知の不均衡の力学、国家と人種、表象、ジェンダー、西洋−東洋、東アジアの植民地問題と脱植民、サステナビリティ等）などの批評の視点と方法論を日英語文献を通して学び、議論することで現代の文化社会とアートの問題を考える。期末に課題レポートを課す。		
到達目標	（１）視覚文化研究の領域、現代の問題、方法論を理解する。 （１）芸術学における研究・調査・議論・発表に必要な専門的なスタディスキルを身に付け、自らの批評能力を発展させる。 （２）専門的英語文献の読解に必要な語彙力を身に付け、読みこなし、駆使できるようにする。 （３）３、４年生で取り組むゼミ課題や卒論やプロジェクト実践につながる興味を探る。		
授業計画	本授業は下記の構成により講読、発表が行われ、課題提出が求められる。 １、視覚文化研究入門 ２、方法論ーポストコロニアリズム、トランスナショナリズム、インターセクショナリズム ３、知の不均衡の力学と２項対立の近代の問題−オリエンタリズム ４、国家、ナレーション、人種 ５、歴史−ジェンダーと美術史 ６、メディアと表象 ７、東アジアのポストコロニアル問題とアート ８、持続可能性・エコロジー・文化多様性 課題レポート提出 ※授業日程は年次の初めに掲示する。		
予習・復習	毎回必須。		
教科書	クラスルームにのせる。		
参考書	クラスルームにのせる。		
教材	クラスルームにのせる。		
履修上の注意	積極的な自習と討論への参加が求められる。剽窃行為は認めない。		
成績評価 (~H29)	各授業への参加の姿勢および課題・レポートの提出情況について全担当教員の協議の上、総合的に判断し、成績を判定する。 [A]授業に積極的に参加し、芸術学における専門的な調査・研究の在り方を幅広くかつ十分に理解した。 [B]授業に積極的に参加し、芸術学における専門的な調査・研究の在り方を幅広く理解した。 [C]授業に参加し、芸術学における専門的な調査・研究の在り方を理解した。		
成績評価 (H30~)	各授業への参加の姿勢および課題・レポートの提出情況について全担当教員の協議の上、総合的に判断し、成績を判定する。 [S] 授業に意欲的に参加し、芸術学における調査・研究の概要を幅広くかつ十分に理解している。さらに、獲得した知識を咀嚼・活用し、発展的かつ積極的に調査・研究に取り組もうとするする姿勢も十分身についている。 [A] 授業に意欲的に参加し、芸術学における調査・研究の概要を幅広くかつ十分に理解している。 [B] 授業に意欲的に参加し、芸術学における調査・研究の概要を幅広く理解している。 [C] 授業に参加し、芸術学における調査・研究の概要を理解している。		
主担当教員	菊池裕子		

令和4年度シラバス

番号	(B3)-35	履修コード	4136Z1
科目名	美術表現演習	科目英語名	Art Concept Seminar
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	月・水
専攻・年次	芸術学専攻2年次	曜日・時限	1〜4限
履修区分	必修	教室	
単位	2	定員	15名
担当教員	○よしだぎょうこ、（非常勤）John Tran（ジョン・トラン）		
授業概要	Describing form and process in English		
到達目標	1. Create a visual notebook using camera phone/photography. 2. Develop English communication and presentation skills in relation to creative practice.		
授業計画	1. Students will develop an image bank of their environment and daily activity using their camera phones, with particular tasks set each week. 2. Students will regularly present their notebook images and discuss how they can be developed into creative work. 3. English language texts, vocabulary worksheets and video material will be used to help students develop their language skills and to provide a base for discussion and creative development. 4. Students will give a final presentation of work produced as a result of the course. Classes will be made available through an online experience.		
予習・復習	None.		
教科書	n/a		
参考書	None.		
教材	None.		
履修上の注意	Students should have some English language ability, and use of a camera/camera phone.		
成績評価 (~H29)	Participation (40%), homework (30%), Final presentation (30%)		
成績評価 (H30~)	Participation (40%), homework (30%), Final presentation (30%)		
主担当教員	よしだぎょうこ		

令和4年度シラバス

番号	(B3)-36	履修コード	4137Z1
科目名	絵画演習	科目英語名	Seminar of Paintings, Drawing and Stamps
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週(前期)、集中(後期)
専攻・年次	芸術学専攻2年次	曜日・時限	1〜4限
履修区分	必修	教室	版画印刷室、湯涌創作の森（版画工房）、2年油画実習室、他
単位	4	定員	15名
担当教員	○神谷佳男・岩崎純・武田雄介		
授業概要	様々な画材を用いて平面作品制作をおこない、観察力、造形的感覚等を養う。 油彩画作品制作をする。 なお、本科目は、絵画分野に於ける一般的包括的科目である。		
到達目標	様々な描画材の特徴とその表現の可能性を試み、また色彩のハーモニー、コンポジション等、制作を通して、造形感覚を養う。 モチーフをよく観察しながら観察力を養うとともに、モチーフの構造を理解し、絵画の構図に対する考察を深める。また油彩画の特徴を理解する。		
授業計画	前期(15回）は神谷が担当し、後期は岩崎・武田が担当する。 前期 1　　ガイダンス 2〜3　動物の剥製を描く（黒鉛筆、色鉛筆、ダーマトグラフ、その他の描画材料） 4〜5　湯涌創作の森にてスクリーン版画制作 6〜7　建築物を描く（黒鉛筆、色鉛筆、ダーマトグラフ、その他の描画材料） 8〜10　色面構成（色紙その他の材料を使って色面構成などを行う） 11〜14　リトグラフ版画の制作 15　　未完の課題を仕上げる。その後プレゼンテーション 後期 1〜4　　鉛筆、木炭を用いたデッサン 5〜15　油彩による静物画制作		
予習・復習	適宜指示する		
教科書	なし		
参考書	適宜指示する		
教材	鉛筆、色鉛筆、水彩絵具、色紙、糊、はさみなど スケッチブックと描画材一式、油彩画道具一式		
履修上の注意	様々な描画材を用いた課題に積極的に挑戦すること		
成績評価 (~H29)	[A]モチーフを注意深く観察し、描画材の特徴をうまく活かし、基本的な造形表現を踏まえ高度な表現に達している。 [B]モチーフを観察し、描画材の特徴を活かし、絵画表現の基本的な造形要素がしっかりと表現できている。 [C]モチーフや描画材と真摯に取り組み制作している。		
成績評価 (H30~)	[S]モチーフを注意深く観察し、描画材の特徴を活かした高度な造形表現と発想力がみられる作品。 [A]モチーフを注意深く観察し、描画材の特徴を活かし、基本的な造形表現と優れた発想が見受けられる作品。 [B]モチーフを観察し、描画材の特徴を活かし、絵画表現の基本的な造形要素がしっかりと表現できている。 [C]モチーフや描画材と真摯に取り組み制作している。		
主担当教員	神谷佳男		

令和4年度シラバス

番号	(B3)-37	履修コード	4138Z1
科目名	芸術学演習（三）	科目英語名	Seminar of Art History and Aesthetics (3) : (3-1) Material Research Workshop + (3-2) Supervisor Tutorials
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	
履修区分	必修	教室	
単位	4	定員	15名
担当教員	保井亜弓・神谷佳男・菊池裕子・水野さや・よしだぎょうこ・○山本浩貴・五十嵐嘉晴（非常勤）		
授業概要	本演習は、（１）買い物ゼミと（２）専門演習の２部構成になっている。 （１）買い物ゼミ 25000円で何か買い物をし、それについての調査・研究・レポート提出・展示キュレーションがセットになっている。１・２年次までに獲得した基礎的知識と研究手法を活用し、次年度における卒業研究への足がかりとすることを目指す。担当の指導教官のチュートリアルによる個人及びグループ指導。展示キュレーションを秋の美大祭がある頃に学内で行い、自分たちでキャプションやパネルをつくり展示を工夫する自主企画である。 （２）専門演習 ①芸術と文化社会の諸領域におけるより専門的な知識の獲得と研究への展開を目指す演習（各教員の専門領域に従い学生が選択） なお希望者は西洋古典語を受講することができる。各専門演習の調査・研究内容によっては、その遂行にあたり西洋および東洋の古文献（ギリシャ語・ラテン語・漢文）を読解することが求められるであろう。そのようなニーズに対応し、適宜、開講するものである。		
到達目標	（１）研究することの核心であるリサーチクエスチョン(研究意義)を見つけることができ、学習してきた理論や批評の視点を生かして更に発展させ独自性と表現力がもてる。 （２）買い物という個人的な欲望と動機からスタートして歴史的、社会的な関連性を考える必然性を認識し学習できるようになる。 （３）自分の専門としたい領域が意識されだし深く掘り下げた研究に入っていける研究や創作のセンスに自信がもてるようになる。		
授業計画	本演習は、（１）買い物ゼミと（２）専門演習の２部構成になっている。 （１）買い物ゼミ　（通年：神谷・保井・水野・菊池・山本・よしだ） 25000円で何か買い物をし、それについての調査・研究・レポート提出・展示キュレーションがセットになっている。１・２年次までに獲得した基礎的知識と研究手法を活用し、次年度における卒業研究への足がかりとすることを目指す。担当の指導教官のチュートリアルによる個人及びグループ指導。展示キュレーションを秋の美大祭がある頃に学内で行い、自分たちでキャプションやパネルをつくり展示を工夫する自主企画である。 以下のスケジュールに従い進めていく。 ① 研究対象（購入希望作品）の設定　（４月中旬） ② 作品購入　（～5月末） ③ 調査・研究　（5月末～7月下旬） ④ 口頭発表　（7月下旬） ⑤ 各自のテーマに基づく論文の執筆　（7月下旬～10月） ⑥ 展示企画・構成　（10月） ⑦ 展示の実施・開催　（11月上旬） また、作品調査の進め方、口頭発表および論文の作成にあたっては、教員が個別に担当する。学生各自の進捗状況に応じ、対面およびオンラインでの質問等にも随時対応する。 （２）専門演習　（通年：神谷・保井・水野・菊池・山本・よしだ） 芸術と文化社会の諸領域におけるより専門的な知識の獲得と研究への展開を目指す演習（各教員の専門領域に従い学生が選択） ■専門演習A（通年：神谷佳男　絵画表現領域） 本学所蔵の版画作品や近隣の美術館で開催中の展覧会を鑑賞し、美術作品、絵画技法、歴史的時代背景などをテーマとして絞り込み調査研究をおこなう。レポートにまとめた後、定期的に研究発表を行う。 ■専門演習B（通年：保井　西洋美術史領域） 西洋美術史における主要な研究をテクストとして取りあげ、それを精読することで美術史研究の方法論を学ぶとともに、基本作例や関連文献などの資料収集を適切に行い、テーマについての活発なディスカッションを		

	通して各自の意見をレポートにまとめる。後期にはロンドン、ナショナル・ギャラリーの作品から任意の作品を選び、作品研究の方法論を実践的に学ぶ。 　なお、希望者は西洋古典語（ギリシャ語・ラテン語、担当：五十嵐）を受講することができる。授業の形態・開講日時については、希望者との協議の上、後日決定する。 ■専門演習C（（通年：水野　日本・東洋美術史領域） 　日本・東洋美術における諸問題を扱う演習である。次の①②について、自ら設定したテーマに基づき作品を取り上げ、調査・研究および発表を行い、ディスカッションを通してより理解を深める。発表内容に適したプレゼンテーション能力をさらに高めることも目標とする。 ①日本・東洋において展開した美術のジャンルを任意で一つ選択し、地域や時代による展開を具体的に明らかにしたうえで、その背景を歴史・地理・民族・思想などに探る。 ②任意の一作品を①を踏まえて選択し、作品そのものについて考察を行う。あわせて、その作品が影響を受けた作品ないし影響を与えた作品について、周辺地域にまで視野を広げて探求する。 ■専門演習D（通年：菊池裕子　近現代工芸/デザイン/視覚文化研究領域） 　前期は工芸科「造形表現工房VI」との合同授業で現代工芸批評を読解し工芸科学生の作品の展覧会のキューレーションを行いカタログを作成する。後期は更に広く「工芸」の問題をポストコロニアルの視点で考察するためにフェミニズムと「工芸」の問いを中心としたグローバルな理論の変遷と最先端の批評を日英文で講読・発表・ディスカッションを重ねていく。 ■専門演習E（通年：山本浩貴　現代批評領域） 　前期は（特にアートに関する）現代批評の重要な著作・論文を輪読し、その内容についてディスカッションを行う。後期はそれぞれの関心に合わせて読む素材を選定し、その内容についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。 ■専門演習F（通年：よしだぎょうこ　現代美術領域 多形式での制作及び実践的理論） 　現代市場に呼応した即戦力をつける。 立体、平面、映像、インスタレーション、パフォーマンスなどの領域、もしくはそれら全てを含んで横断可能な現在性を持った多形式での制作表現と、独自性を深化させる理論構築力をつけることを目的とする。（自己プロデュースを含めた企画力、社会での表現成立に不可欠なイメージの言語化、空間構成力など） 　美術作家、アートプロデューサー、キュレーターを目指す者に必要な現場力を体得する。個々の必要に応じて、展示企画、アーティストインレジデンス、インターンシップなどを導入。 前期に指導を集中して行い、後期においては自主的な制作ができるよう進行する。 ※前期開講の専門演習Ａ～Fにおいては、授業中に課すものに相当する課題研究等を活用する場合もある。また、学生各自の進捗状況に応じ、対面およびオンラインでの質問等にも随時対応する。
予習・復習	各授業の予習・復習をして授業にのぞむこと。
教科書	適宜指示する。
参考書	適宜指示する。
教材	授業中に適宜資料を配布、又はクラスルームに載せる。
履修上の注意	授業日程等は年次の初めにクラスルームなどに掲示する。日程と教室に注意すること。
成績評価 **(~H29)**	各演習への参加の姿勢および課題・レポートの提出情況、プレゼンテーションの内容等について、全担当教員で協議のうえ総合的に判断し、成績を判定する。 [A]発表とレポートの準備を積極的に行うとともに、プレゼンテーションの方法を良く学び、質問や指摘を取り入れて専門研究を充実・発展させることができた。 [B]発表とレポートの準備を積極的に行うとともに、プレゼンテーションの方法を学び、質問や指摘を取り入れて専門研究を充実させることができた。 [C]発表とレポートの準備を行うとともに、プレゼンテーションの方法を学び、質問や指摘を専門研究に取り入れることができた。
成績評価 **(H30~)**	各演習への参加の姿勢および課題・レポートの提出情況、プレゼンテーションの内容等について、全担当教員で協議のうえ総合的に判断し、成績を判定する。 [S]発表とレポートの準備を積極的に行うとともに、プレゼンテーションの方法を十分に学び、質問や指摘を専門研究に取り入れて優れた成果をだした。 [A]発表とレポートの準備を積極的に行うとともに、プレゼンテーションの方法を良く学び、質問や指摘を取り入れて専門研究を充実・発展させることができた。 [B]発表とレポートの準備を積極的に行うとともに、プレゼンテーションの方法を学び、質問や指摘を取り入れて専門研究を充実させることができた。 [C]発表とレポートの準備を行うとともに、プレゼンテーションの方法を学び、質問や指摘を専門研究に取り入れることができた。
主担当教員	山本浩貴

令和4年度シラバス

番号	(B3)-38	履修コード	4139Z1
科目名	芸術論研究	科目英語名	Theory of Art
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	前期：木曜7･8限　後期：金曜7･8限
履修区分	必修	教室	研修室
単位	4	定員	15名
担当教員	（非常勤）○森　仁史・ブライアン・ソロモン		
授業概要	芸術論研究の基礎としての理論的考察を通じて、研究の基本を訓練する。		
到達目標	芸術論研究の成果を蓄積し社会に還元するための理論と実践を学び、深く理解することを目標とする。		
授業計画	■前期（担当：森　仁史） 日本における美術鑑賞の成り立ちを総合的に把握するために、近代以前の芸術鑑賞の在り方について知見を深める。この検証、確認により、日本における美術の成り立ちの根幹がどんなものであったかを理解することを目指している。最初に近代の美術館の成り立ちを概説し、その後以下のような課題を各自一つずつ受講生に課し、発表形式で授業を進める。 寝殿造り　屏風　会所　書院　君台観左右帳記　軸装 茶の湯　茶室　調度　画論　書画会　見世物　蘭学　開国 なお、前期授業回数が必要回数に満たない場合は、補講および授業中に課すものに相当する課題に置きかえて実施し、授業内容と学習機会を確保することとする。 ■後期（担当：ブライアン・ソロモン） 西洋音楽の歴史的展開と西洋音楽の特質を学ぶ。藝術についての視野を広げ、藝術を研究するための基礎力を涵養する。 第１・２回　：中世 第３・４回　：ルネサンス 第５・６回　：バロック 第７・８回　：ウィーン古典派 第９・10回　：ロマン派 第11・12回　：世紀転換期 第13・14回　：20世紀 第15回　　：予備日 テキスト：岡田暁生『西洋音楽史　「クラシック」の黄昏』　（中公新書）他		
予習・復習	各授業で指示される準備を怠らないこと。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜資料コピー等を配布する。		
履修上の注意	授業の日程や教室等に注意すること。 各テーマにおいて受講生は積極的に意見を述べ討論することが求められる。		
成績評価 (~H29)	授業への参加度　40% レポート等　　60% 全体で50%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 [A]授業に意欲的に参加し、芸術論研究の手法を幅広くかつ十分に理解している。 [B]授業に意欲的に参加し、芸術論研究の手法を幅広く理解している。 [C]授業に参加し、芸術論研究の手法を理解している。		
成績評価 (H30~)	授業への参加度　40% レポート等　　60% 全体で60%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 [S]授業にきわめて意欲的に参加し、芸術論研究の手法を幅広くかつ十分に理解している。 [A]授業に意欲的に参加し、芸術論研究の手法を幅広くかつ十分に理解している。 [B]授業に意欲的に参加し、芸術論研究の手法を幅広く理解している。 [C]授業に参加し、芸術論研究の手法を理解している。		
主担当教員	森　仁史		

令和4年度シラバス

番号	(B3)-39	履修コード	4140Z1～Z2
科目名	専門語学（英語）	科目英語名	Art Terminology (English)
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	講座Ⅰ：月曜7･8限　講座Ⅱ：水曜7･8限
履修区分	選択必修	教室	講座Ⅰ：第2教室　講座Ⅱ：LAVC室
単位	2	定員	15名
担当教員	稲垣健志　（非常勤）○渡邊明敏		
授業概要	本授業は、主に３年次生に対応する講座Ⅰ（担当：渡邊）と、継続的に英語学習を希望する４年次生に対応する講座Ⅱ（担当：稲垣）の２講座により構成される。 講座Ⅰ（３年次）においては、美術史に関して書かれた英文の講読を行い、基礎的な美術用語の習得を目指す。講座Ⅱ（４年次）においては、「美術史」に関する英文を精読することで、内容の理解だけでなく、アートを研究するための基本的な視点を学習する。		
到達目標	講座Ⅰ（３年次） 英語で書かれた専門書を読むかなり高度な能力を養う。併せて専門分野に関する基礎的な知識を習得する。 講座Ⅱ（４年次） 内容の正確な把握だけではなく、アートを研究するために必要な視点を習得する。		
授業計画	講座Ⅰ（担当：渡邊明敏　月曜7･8限　第2教室） 学生の多様な関心に応えるため、前期と後期とで異なるテキストを精読する。授業は訳読形式で行う。美術史、芸術学の分野で用いられる専門用語の知識を習得するとともに、基礎的な語彙、重要な文法事項についても学ぶ。英語では日常的・一般的語彙が専門用語として用いられることが多いため、注意すること。 ［前期使用テキスト］ A History of the World in 100 Objects 以下の章を講読する： Olduvai Handaxe, Gold Coin of Croesus, Seated Buddha from Gandhara, Jade Bi. [後期使用テキスト] The Story of Painting 以下の章を講読する：Matisse, Master of Colour, Picasso and Cubism, Pure Abstraction, Art of the Fantastic. 講座Ⅱ（担当：稲垣健志　水曜7･8限　LAVC室） Dana Arnold, Art History(2004)を精読していきます。 授業は前半に英文の精読、後半に内容についてのディスカッションというかたちで進めていきます。 章立ては以下のとおりです。 What is art history? Writing art history Presenting art history Thinking about art history Reading art Looking at art その他、参加学生の関心、卒論テーマに合わせたトピックも取り入れていく予定です。		

予習・復習	講座Ⅰ・Ⅱともに、毎回必ず詳しく下調べしたうえで出席すること。テキストは必ず一度は音読し、辞書は電子辞書と紙の辞書の併用が望ましい。
教科書	講座Ⅰ　テキストは授業中に配布する。 講座Ⅱ　テキストは授業中に配布する。
参考書	必要に応じ、授業中に指示する。
教材	特になし
履修上の注意	この科目は、講座により履修コードが異なる（4140は共通）。 講座Ⅰ（担当：渡邊）：Z1、講座Ⅱ（担当：稲垣）：Z2
成績評価 **(~H29)**	講座Ⅰ・Ⅱともに、以下の基準により成績を判断する。 [A] 到達目標について十分なレベルに達し、かつ、自らの研究分野における諸問題に展開・応用できる能力を身につけている。 [B] 到達目標について十分なレベルに達している。 [C] 到達目標について一定のレベルに達している。
成績評価 **(H30~)**	講座Ⅰ・Ⅱともに、以下の基準により成績を判断する。 [S] 到達目標について十分なレベルに達し、かつ、自らの研究分野における諸問題に展開・応用できる能力を身につけている。 [A] 到達目標について十分なレベルに達し、別の領域に応用できる能力を身につけている。 [B] 到達目標について十分なレベルに達している。 [C] 到達目標について一定のレベルに達している。
主担当教員	渡辺明敏

令和4年度シラバス

番号	(B3)-40	履修コード	4141Z1～Z2
科目名	専門語学（フランス語）	科目英語名	Art Terminology (French)
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻3年次　4年次	曜日・時限	講座 I ： 火曜9･10限　講座 II ： 前期 ： 火曜9･10限　後期 ： 火曜7･8限
履修区分	選択必修	教室	講座 I ：芸術学文献演習室　講座 II ： LAVC室
単位	2	定員	15名
担当教員	青柳りさ　（非常勤）◯木村恵一		
授業概要	本授業は、主に３年次生に対応する講座Ⅰ（担当：木村）と、継続的にフランス語学習を希望する４年次生に対応する講座Ⅱ（担当：青柳）の２講座により構成される。講座Ⅰではフランス語の初級・中級文法を学ぶとともに、短く平易な文章を読む。スムーズな音読にも力を入れる。講座 II では音読と読解に力を入れる。		
到達目標	辞書を手に、自力でフランス語の文章を読み進められるようにする。		
授業計画	講座 I（３年次　木村担当）前期 前期 第1~2回　ガイダンス、名詞の性・数、冠詞、形容詞、動詞être, avoir 第3~4回　-er動詞、-ir動詞、前置詞と定冠詞の縮約、冠詞の用法、疑問文 第5~6回　指示形容詞、所有形容詞、数詞、名詞の複数形、形容詞の女性形 第7~8回　動詞aller,venir、人称代名詞(1)、疑問代名詞、疑問形容詞 第9~10回　数量の表現、形容詞・副詞の比較、人称代名詞(2) 第11~12回　関係代名詞(1)、過去分詞、複合過去 第13~14回　命令形、受動態、関係代名詞(2)、序数詞 第15回　前期まとめ　期末試験 後期 第16~17回　中性代名詞、指示代名詞、半過去、大過去 第18~19回　所有代名詞、代名動詞 第20~21回　過去分詞の一致、非人称構文、単純未来、前未来 第22~24回　現在分詞、知覚動詞、間接疑問、関係代名詞(3) 第25~26回　条件法現在・過去 第27~28回　接続法現在・過去 第29回　単純過去、前過去、接続法半過去・大過去 第30回　後期まとめ　期末試験 講座II（4年次　青柳担当） 前期 Charles Perrault, Le petit chaperon rouge の精読と音読 後期 学生の希望するテクストの精読と音読		
予習・復習	ウェブ上の音声ストリーミングを活用しつつ、本文・練習問題の十分な理解をはかること。詳細は教室で指示する。		
教科書	講座I 春木仁孝ほか『新・フランス語文法　三訂版』（朝日出版社） 講座II Charles Perrault, Le petit chaperon rouge, Circconflexe. 他		
参考書	特になし。		
教材	特になし		
履修上の注意	この科目は、講座により履修コードが異なる（4141は共通）。 講座Ⅰ（担当：木村）：Z1、講座Ⅱ（担当：青柳）：Z2		
成績評価 (~H29)	平常の受講態度と２回の期末試験とを総合して単位認定を行う。 [A]文法知識を確実に習得し、それを高いレベルで文章読解に応用することができる。 [B] 到達目標について十分なレベルに達している。 [C]到達目標について一定のレベルに達している。		
成績評価 (H30~)	平常の受講態度と２回の期末試験とを総合して単位認定を行う。 [S]文法知識を確実に習得し、それを高いレベルで文章読解に応用することができる。 [A]文法知識を確実に習得し、文章読解に応用することができる。 [B] 到達目標について十分なレベルに達している。 [C]到達目標について一定のレベルに達している。		
主担当教員	木村恵一		

令和4年度シラバス

番号	(B3)-41	履修コード	4142Z1
科目名	専門語学（ドイツ語）	科目英語名	Art Terminology (German)
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	水曜7･8限
履修区分	選択必修	教室	前期：第3教室　後期：第2教室
単位	2	定員	15名
担当教員	保井亜弓		
授業概要	比較的平易なテクストによりドイツ語の理解力と表現力を学ぶ。		
到達目標	ドイツ語基礎を履修した者あるいはそれと同等のドイツ語の基礎的知識を有した者が、平易なテクストでドイツ語の文法を復習するとともに、さらにドイツ語の理解力と表現力を高めて専門的なテクストを講読する力を養う。		
授業計画	[前期] ドイツ語の理解には基礎文法の十全な習得が不可欠となる。そのため前期においては教科書を用い基礎文法の復習を行ない、接続法まで終了することを課題とし、独検4級レベルの力をつける。期末試験を行なう 第１－７週　基礎文法の復習１ 独検4級問題テスト 第８−12週　テクストの復習２ 独検4級問題テスト 13-15回分は、課題により補講を行う。 [後期] 後期は比較的平易なテクストを用いた講読とする。テクストは受講者の希望により決定する。令和元年度は、Jo Hanns Roesler, Gaensebraten und agere Geschichten, 1973を用いた。英語とドイツ語の表現を比較して語彙をふやすことを心掛け、基本用語の小テストなども行う。必要に応じて独検3級レベルの練習問題を行なう。期末試験を行う。 第16ー20週　テクストの講読 聞き取り（必要に応じて独検3級問題テスト） 第21ー25週　テクストの講読 聞き取り（必要に応じて独検3級問題テスト） 第26−30週　テクストの講読 期末テスト		
予習・復習	語学学習には予習、復習が不可欠である。		
教科書	Strasse　Neu 朝日出版社　2020（予定）		
参考書	辞書『独和大辞典』コンパクト版、小学館		
教材	授業中に配布する。		
履修上の注意	わからない点があるときは、積極的に質問して疑問を早く解決することを心がけること。		
成績評価 (~H29)	学期末テスト（2回）50%、小テスト（随時）20%　授業における積極性30% [A]ドイツ語文法を理解し、正確に音読できるとともに、ドイツ語の文章を読解することができる。 [B]ドイツ語文法を理解し、正確に音読できる。 [C]ドイツ語文法を理解できている。		
成績評価 (H30~)	学期末テスト（2回）50%、小テスト（随時）20%　授業における積極性30% [S]ドイツ語文法を十分に理解し、正確に音読できるとともに、ドイツ語の文章を高度に読解することができる。 [A]ドイツ語文法を理解し、正確に音読できるとともに、ドイツ語の文章を理解することができる。。 [B]ドイツ語文法を理解し、正確に音読できる。 [C]ドイツ語文法を理解できている。		
主担当教員	保井亜弓		

令和4年度シラバス

番号	(B3)-42	**履修コード**	4143Z1
科目名	専門語学（イタリア語）	**科目英語名**	Art Terminology (Italian)
科目区分	美術科専攻科目	**授業形態**	演習
資格区分		**開講学期**	通年
入学年度		**毎週・集中**	毎週
専攻・年次	芸術学専攻3年次	**曜日・時限**	木曜5・6限
履修区分	選択必修	**教室**	前期：第3教室　後期：LAVC室
単位	2	**定員**	15名
担当教員	○上田恒夫　マルティナ・チェッラート		
授業概要	現代イタリア美術文化の諸問題をダイレクト・メソッドで講義し（前期）、中級文法をかためる（後期）。		
到達目標	１．イタリア美術の重要な用語をマスターする。 ２．基礎的美術文献を読みこなす。 ３．イタリア語検定４級合格をめざす。		
授業計画	イタリア語基礎を履修した者あるいはそれと同等のイタリア語の基礎的知識を有した者が、イタリア語の文法を復習するとともに、さらにイタリア語の理解力と表現力を高めて専門的な文章を精読する力を養う。 ■前期（M.Cerrato担当） インターネット映像等を使って下記１５のテーマで講義する。イタリア語と日本語併用。 1. Il modo di pensare degli italiani. 2. Italiani: popolo di viaggiatori 3. I primi italiani in Giappone. 4. Alessandro Barbero: come raccontare la storia all'italiana. 5. L'amore nella letteratura e nell'arte italiana. 6. Franco Battiato: la musica italiana. 7. Tiziano Terzani: un giornalista italiano in Asia. 8. I fumetti italiani. 9 .Gli artisti italiani più famosi di sempre. 10. Siti Unesco in Italia. 11. I dialetti del Nord e e del Sud Italia. 12. I bestiari medievali. 13. Leggende italiane. 14. L'arte cinematografica italiana. 15. I teatri italiani. 　なお、前期授業回数が必要回数に満たない場合は、授業中に課するものに相当する課題研究などに置きかえて実施し、授業内容と学習時間を確保するものとする。 ■後期（上田担当） 指定教科書『ゼロから始めるイタリア語』を使って中級文法を完全マスターする。 　１．目的語代名詞 　２．近過去と代名詞 　３．使役動詞と放任動詞 　４．半過去と大過去 　５．未来 　６．命令法 　７．条件法 　８．関係代名詞 ９．接続法（１） 10. 接続法（２） 11. 仮定文 12. 受動態 13. ジェルンディオ 14. 遠過去 15. イタリア語の基本構造（後期の要約）		
予習・復習	毎回の演習に関連する美術作品について、画像（図版）と関連文献によって検討すること。		
教科書	前期教科書：浦一章『ゼロから始めるイタリア語』、三修社（1,723 円） 各自で購入すること。		
参考書	辞書：『プリーモ伊和辞典』（白水社、5,076円）を推薦する。電子辞書の使用は随意。		
教材	美術文献テキストはプリントで配布する。		
履修上の注意	①初級文法をマスターしておくことが前提となる。 ②イタリア文の筆写と音読を習慣づけ、文章構造の理解と文章の流れに留意して予習復習すること。		
成績評価 (~H29)	積極的受講態度50% 学期末試験50% 以上を総合して単位を認定する。評価基準は下記の通りである。 [A]到達目標について、十分なレベルに達している。		

	[B]到達目標について、一定のレベルに達しているが応用力の涵養には至っていない。 [C]規定数の出席を充たし、必要最低限の基礎は修得している。
成績評価 (H30~)	積極的受講態度50% 学期末試験50% 以上を総合して単位を認定する。評価基準は下記の通りである。 [S]到達目標について、優秀なレベルに達している。 [A]到達目標について、十分なレベルに達している。 [B]到達目標について、一定のレベルに達しているが応用力の涵養には至っていない。 [C]規定数の出席を充たし、必要最低限の基礎は修得している。
主担当教員	上田恒夫

令和4年度シラバス

番号	(B3)-43	履修コード	4144Z1
科目名	専門語学（中国語）	科目英語名	Art Terminology (Chinese)
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	木曜5･6限
履修区分	選択必修	教室	芸術学文献演習室
単位	2	定員	15名
担当教員	（非常勤）蘇　哲		
授業概要	美術系の学生を対象とした初級レベルの授業。ピンイン（中国語の表音ローマ字）の読み方と綴り方、簡体字の書き方ならびに動詞・形容詞・助動詞・助数詞の用法を学び、読む、聞く、話す、書く能力を向上させる。中国美術についての知識にも触れながら、授業を進める。		
到達目標	まず、ピンイン表記と発音のしかたを習得する。さらに文構造を正しく捉えて、基本的な語順パターンを身につけ、平易な短文の読解と翻訳ができることを目標にする。		
授業計画	前期： １．　中国語とは（中国語の歴史　簡体字と繁体字　発音の特徴　中国語と日本語） ２．　中国語の発音のローマ字表記–ピン音　音節の構造　子音と母音　四声 ３．　ピン音の綴りの規則　子音、母音、複合母音と子音の組み合わせ ４．　あいさつの基本 ５．　名前の尋ね方と言い方 ６．　動詞「是」の使い方 ７．　指示代名詞と疑問代名詞 ８．　数の数え方 ９．　主な助数詞 10～11．動詞「有」の表現 12．　場所の指示代名詞/疑問詞「多少」と「几」 13．　月日・曜日・年号、電話番号の表現 14．　時刻・年齢の言い方および名詞述語文 15．　まとめ なお、前期授業回数が必要回数に満たない場合は、授業中に課すものに相当する課題（絵画、彫刻、陶芸、漆芸の４分野に関わる平易な中国語の文章を日本語への翻訳を課す）に置きかえて実施し、授業内容と学習時間を確保することにする。 後期： １～２．形容詞述語文 ３．　動詞の文の表現 ４．　能願動詞「想」・「打算」・「会」・「能」の使い方 ５．　動詞の過去形：完了を表す「了」と経験を表す「過」 ６～７．動詞の進行形/選択疑問文 ８．　動詞「喜欢」/動詞・前置詞「在」 ９．　移動・方向を表す動詞「来」・「去」/「把」構文 10．　前置詞「从」「到」/動作の順序および同時進行 11．　自己紹介文を書く 12．　中国語の短文を解読 13．　受身文/使役文 14．　映像教材の視聴 15．　まとめ		
予習・復習	予習：毎回授業前に新出単語を音読して記憶すること。 復習：毎回授業後に教科書に載せる「学習のポイント」を整理して、練習問題を解くこと。		
教科書	王丹『新ゼロからスタート中国語』文法編　Jリサーチ出版　2015年 中国美術マメ知識についての配布資料		
参考書	守屋宏則『やさしくくわしい中国語文法の基礎』東方書店　1995年		
教材	適宜、中国美術マメ知識についての資料を配布する。		
履修上の注意	中国語を学ぶ自主的な学習を始めていることが望ましい。		

成績評価 (~H29)	学習に取り組む態度、基礎的な文法・語彙の習得度、期末試験の成績から総合的に評価する。 評価基準は下記のとおり。 ［A］教科書中心の語彙、文法、構文のいずれも把握し、平易な文章を読み解くスキルを身につけた。 ［B］文法や構文を理解し、平易な文章を読み解くスキルを身につけた。 ［C］語彙、文法、構文上の誤りもあるが、平易な文章を概ね理解できる。
成績評価 (H30~)	学習に取り組む態度、基礎的な文法・語彙の習得度、期末試験の成績から総合的に評価する。 評価基準は下記のとおり。 ［S］教科書中心の語彙、文法、構文のいずれも把握し、インターネットや辞書を利用して平易簡明な美術館、美術作品を紹介する中国語の文章を日本語に翻訳できる。 ［A］教科書中心の語彙、文法、構文のいずれも把握し、平易な文章を読み解くスキルを身につけた。 ［B］文法や構文を理解し、平易な文章を読み解くスキルを身につけた。 ［C］語彙、文法、構文上の誤りもあるが、平易な文章を概ね理解できる。
主担当教員	蘇　哲

令和4年度シラバス

番号	(B3)-44	履修コード	4145Z1
科目名	専門語学（ハングル）	科目英語名	Art Terminology （Hangul）
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	金曜5･6限
履修区分	選択必修	教室	芸術学文献演習室
単位	2	定員	15名
担当教員	（非常勤）宋　有宰		
授業概要	朝鮮語コミュニケーションでは，文字の読み書きを学ぶとともに，会話や聴解の練習を繰り返すことで，口語でよく使われる表現について学んで行きます。		
到達目標	文字の読み書きができるようになる 口語でよく使われる表現が身につく		
授業計画	〔前期〕 第1回　ハングルのしくみ，母音字母(1)，「～です」 第2回　子音字母(1)，「だれですか?」 第3回　母音字母(2)，子音字母(2)　「何ですか?」 第4回　パッチム，食べ物の名前 第5回　発音上手になるコツ，教室でよく使うことば 第6回　自己紹介をする(1)「～は」「～です」「～ですか?」 第7回　自己紹介をする(2)「～ではありません」「～は～といいます」 第8回　相手の予定や持ち物の有無をたずねる(1)「～があります，います」「～がありません，いません」 第9回　相手の予定や持ち物の有無をたずねる(2)「～に」「～に～があります，います」 第10回　相手の予定や持ち物の有無をたずねる(3)「～もありますか? いますか?」「～と～があります，います」 第11回　興味を持ったことをたずねる(1)「～です」「だれのものですか?」 第12回　興味を持ったことをたずねる(2)「～は何ですか?」「～はどこですか?」 第13回　自分のすること(1)「～します，しましょう」「行きます，行きましょう」 第14回　自分のすること(2)　時間，電話番号，学年，月日の言い方 第15回　まとめ 　なお、前期授業回数が必要回数に満たない場合は、補講を行うことにより授業内容と学習時間を確保する。補講は、夏季調整期間中の金曜日同時限に実施する、もしくは集中講義形式で行い、受講学生と相談の上講義日を決定する。 〔後期〕 第1回　自分の好みやしたいこと(1)「～ません」「～しに」 第2回　自分の好みやしたいこと(2)「～が好きです」 第3回　自分のしたこと(1)「～しました」「～に行きました」 第4回　自分のしたこと(2)「ひょっとして～じゃないですか?」「～たいです」 第5回　自分のしたこと(3)「～して(から)～しました」 第6回　自分の予定や推測(1)　「～つもりです，～でしょう」 第7回　自分の予定や推測(2)　「～なんですよ，～なものですから」 第8回　自分の予定や推測(3)　「～しています」 第9回　自分の気持や周りの様子(1)　「～(く)て～です」「～けれども～です」 第10回　自分の気持や周りの様子(2)　「～くないです」「～することになりました，～するようになりました」 第11回　自分の気持や周りの様子(3)　「～が～よりもっと～」「～の中で一番～」 第12回　相手の意思をたずねて見たり誘う(1)　「～ましょうか?」「～でも～しましょうか?」 第13回　相手の意思をたずねて見たり誘う(2)　「～しますよ，～しますね」「～してください」 第14回　相手の意思をたずねて見たり誘う(3)　「～することができます」「～でしょう? ～でしょうか? ～です」 第15回　まとめ		
予習・復習	予習復習は必ずしてきてください。予習は、教科書の本文を読んで来てください。復習は、その日、習った内容についてノートに纏めてください。		

教科書	金順玉・阪堂千津子(2014)『最新チャレンジ！韓国語』白水社 ISBN:9784560017890　本体2,300円＋税
参考書	辞書購入は必須ではありません。
教材	随時印刷物を使用する。
履修上の注意	特にない。
成績評価 **(~H29)**	評価基準は下記のとおり。 ［A］総合評価（定期試験70％＋授業態度30％）８０点以上 ［B］総合評価（定期試験70％＋授業態度30％）７０点以上 ［C］総合評価（定期試験70％＋授業態度30％）６０点以上
成績評価 **(H30~)**	評価基準は下記のとおり。 ［S］総合評価（定期試験70％＋授業態度30％）９０点以上 ［A］総合評価（定期試験70％＋授業態度30％）８０点以上 ［B］総合評価（定期試験70％＋授業態度30％）７０点以上 ［C］総合評価（定期試験70％＋授業態度30％）６０点以上
主担当教員	宋　有宰

令和4年度シラバス

番号	(B3)-45	履修コード	4146Z1
科目名	専門語学（古文）	科目英語名	Art Terminology (Japanese Classics)
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	前期：水曜5･6限　後期：金曜5･6限
履修区分	選択必修	教室	前期：第2教室　後期：LAVC室
単位	2	定員	15名
担当教員	高橋明彦		
授業概要	演習形式による、変体仮名と草体の読解、および語彙・図像の注釈・記述		
到達目標	日本美術の研究に応用でき、かつ必須でもあると思われる、次の学力を涵養します。 ①変体仮名・くずし字に習熟し、翻刻できること。 ②レファレンス資料を知り、それを扱う力を養うこと。 ③語彙・図様を解釈・記述し注釈する力を養うこと。		
授業計画	演習形式で、レポータは、翻字・語釈・通釈を担当し、報告します。担当範囲や順番は、受講者の人数に応じて、相談して決めます。やり方は、じっくり丁寧に教えます。 テキストは絵入りで親しみやすく興味が持てるものにしています。習熟段階を三段階に分けて、（Ａ）浮世絵版画、（Ｂ）近世絵入り版本、（Ｃ）古代中世の絵巻物、この順に題材を選びます。近年使用したものを列記します。 （Ａ）　『いろはがるた』（江戸後期刊） 　　『太平記英勇伝』（歌川国芳画・柳下亭種員文・嘉永元年刊） （Ｂ）　『絵事比肩』（鳥山石燕画・安永七年刊） 　　『本朝茶経』（竹村一弦作画・文化四年刊） 　　『今様職人尽百人一首』（近藤清春画・享保ころ刊） 　　『団扇絵づくし』（菱川師宣画・天和４年刊） （Ｃ）　『俵藤太物語絵巻』（江戸前期筆・ＣＢＬ蔵） 　　『竹取物語絵巻』（江戸前期筆・九曜文庫蔵本） 　　『伴大納言絵巻』（平安末期筆・出光美術館） （Ａ）（Ｂ）（Ｃ）をおよそ各10回行いますが（合計30回）、受講者数、達成度により、週割は変更される場合があります。十分な準備が必要ですので、授業予定は事前に通告します。		
予習・復習	レポータは十分な準備が必要です。じっくり時間をかけてください。 分からない文字・語句があれば、オフィス・アワーなどを利用して、高橋に質問してください。 報告用のレジュメは、WEB経由でＰＣで共有するようにしましょう。ハードコピー（紙で人数分コピーする）などの予定はありません。 レポータ以外も各自で翻刻本文を作成し、語句を調べておくとよいでしょう。		
教科書	こちらで用意します。		
参考書	『日本国語大辞典』『角川古語辞典』等の基本的な古語辞典のほか、『日葡辞書』『訓蒙図彙』『和漢三才図会』など同時代のリファレンス類を参考にしてください。また、古語辞典に記載された用例も、可能なかぎり原本に当たり直してみてください。その他、古辞書や節用集などの基本的な古典レファレンス類の利用法についても随時言及するので、逐一それに当たってみると良いでしょう。いずれも大学図書館にあります。		
教材	教科書、プリント、WEBやPDFなどの電子媒体		
履修上の注意	なし		
成績評価 **(~H29)**	評価の方法：レポータとしての報告や平常点（出席数など１００％） 評価の基準： [A]到達目標について、十分なレベルに達している。 [B]到達目標について、一応のレベルには達しているが、応用力の涵養には至っていない。 [C]規定数の出席を充たし、レポータとしても発表をした。		
成績評価 **(H30~)**	評価の方法：レポータとしての報告や平常点（出席数など１００％） 評価の基準： [S]到達目標について、高度なレベルに達している。 [A]到達目標について、十分なレベルに達している。 [B]到達目標について、一応のレベルには達しているが、応用力の涵養には至っていない。 [C]規定数の出席を充たし、レポータとしても発表をした。		
主担当教員	高橋明彦		

令和4年度シラバス

番号	(B3)-46	履修コード	4147Z1
科目名	芸術学演習（四）	科目英語名	Seminar of Art History and Aesthetics Ⅳ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	芸術学専攻4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室、または第1教室
単位	4	定員	15名
担当教員	○神谷佳男・保井亜弓・菊池裕子・水野さや・よしだぎょうこ・山本浩貴		
授業概要	研究発表を中心課題とする演習である。受講生各自の卒業論文に関する研究内容を、発表という機会を通して、相互に討議しつつ指導を行う。		
到達目標	研究発表や公開を前提とするレクチャーを通して、講演のスタイルを学ぶとともに、発表を通して得られる様々な指摘を活かし、個々の専門研究を充実させる。		
授業計画	１．研究発表 　卒業論文の中間報告として研究発表を各自3回（5月、7月、10月）行い、そのうえで質疑応答を中心に討議し、研究方法やその問題点について認識を高める。この発表は他学年も聴講するもので、教員からの指摘は勿論、学生相互の意見交換・議論によって討議の内容が充実することを期待する。 　また、芸術学系の学会等における研究発表のシミュレーションとして、発表にいたる準備や講演のスタイルについてもあわせて指導する。 ２．公開レクチャー 　上記の研究発表をふまえて、金沢21世紀美術館レクチャールームにおける一般公開レクチャーを行う。このレクチャーは同美術館で開催される「卒業制作展」にあわせて実施するものである。		
予習・復習	発表に用いる画像データ等の準備。 発表後は、指摘された事項をふまえ研究を充実させること。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 **(~H29)**	日頃の取り組みの姿勢およびプレゼンテーションの内容について、全担当教員で協議のうえ総合的に判断し、成績を判定する。 〔A〕発表の準備を積極的に行うとともに、プレゼンテーションの方法を良く学び、質問や指摘を取り入れて専門研究を充実・発展させることができた。 〔B〕発表の準備を積極的に行うとともに、プレゼンテーションの方法を学び、質問や指摘を取り入れて専門研究を充実させることができた。 〔C〕発表の準備を行うとともに、プレゼンテーションの方法を学び、質問や指摘を専門研究に取り入れることができた。		
成績評価 **(H30~)**	日頃の取り組みの姿勢およびプレゼンテーションの内容について、全担当教員で協議のうえ総合的に判断し、成績を判定する。 〔S〕発表の準備を積極的に行うとともに、プレゼンテーションの方法を良く学び、質問や指摘を取り入れて、極めて高いレベルで専門研究を充実・発展させることができた。 〔A〕発表の準備を積極的に行うとともに、プレゼンテーションの方法を良く学び、質問や指摘を取り入れて専門研究を充実・発展させることができた。 〔B〕発表の準備を積極的に行うとともに、プレゼンテーションの方法を学び、質問や指摘を取り入れて専門研究を充実させることができた。 〔C〕発表の準備を行うとともに、プレゼンテーションの方法を学び、質問や指摘を専門研究に取り入れることができた。		
主担当教員	神谷佳男		

令和4年度シラバス

番号	(B3)-47	履修コード	4148Z1
科目名	卒業研究	科目英語名	Undergraduate Dissertation Project
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	研究室
単位	10	定員	15名
担当教員	○神谷佳男・保井亜弓・菊池裕子・水野さや・山本浩貴・よしだぎょうこ		
授業概要	卒業論文の執筆、あるいは卒業論文の執筆とそれに伴う作品制作を、各自のテーマに応じて指導し、完成に導く。		
到達目標	各自が卒業論文や作品等を高い次元において完成させることを目標とする。		
授業計画	［前期］ 　各自の研究テーマに関する問題意識を明確にし、調査・研究における基礎的な作業を徹底的に行い、文献資料等の基礎資料を収集する。また、対象となる作品の情報を収集するとともに、実地調査も可能な限り試みる。５月下旬に行われる第１回中間発表、７月下旬に行われる第２回中間発表での発表と質疑応答を通して、指導教員はもとより他の教員や聴講した学生からの指導や意見を求め、調査・研究をさらに進めて行く。 ［後期］ 　卒業論文として設定した研究テーマと内容について常に検討を加えつつ、必要な資料を随時加えながら論文構成を確定し、より充実させて行く。10月に行われる第３回中間報告会での発表と質疑応答を通して、進捗状況を確認するとともに、考察内容をさらに深め、１月上旬の論文提出に向けて執筆を進める。卒業論文提出後に口頭試問を行い、その後に卒業論文報告会（卒業制作展期間中に実施）のための準備を行う。 　なお、前期・後期を通じて、学生の研究テーマに即し、担当となる教員が個別指導にあたる。指導は、学生各自の進捗状況に応じ、対面およびオンラインでの質問等にも随時対応する。		
予習・復習	指導を受けるために必要な研究成果のまとめを常に心掛けること。 指導や発表後に、指摘された事項をふまえ研究を充実させること。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	毎回、指導を受けるべき内容を準備すること。 指導後は指摘された事項をふまえて研究を充実させること。		
成績評価 **(~H29)**	日頃の調査・研究の取り組み方、作成された論文、口頭試問における質疑応答について、全担当教員の協議のうえ総合的に判断し、成績を判定する。 〔A〕研究テーマを明確に設定し、調査・研究を十分に行い、明快な論理構成と的確な文章表現で卒業論文をまとめるとともに、口頭試問において適切に応答することができる 〔B〕研究テーマを明確に設定し、調査・研究を十分に行い、卒業論文をまとめるとともに、口頭試問において適切に応答することができる 〔C〕研究テーマを設定し、調査・研究を行い、卒業論文をまとめるとともに、口頭試問において応答することができる		
成績評価 **(H30~)**	日頃の調査・研究の取り組み方、作成された論文、口頭試問における質疑応答について、全担当教員の協議のうえ総合的に判断し、成績を判定する。 〔S〕研究テーマを明確に設定し、調査・研究を十分に行い、明快な論理構成と的確な文章表現で極めて高いレベルの卒業論文をまとめるとともに、口頭試問において適切に応答することができる。 〔A〕研究テーマを明確に設定し、調査・研究を十分に行い、明快な論理構成と的確な文章表現で卒業論文をまとめるとともに、口頭試問において適切に応答することができる。 〔B〕研究テーマを明確に設定し、調査・研究を十分に行い、卒業論文をまとめるとともに、口頭試問において適切に応答することができる。 〔C〕研究テーマを設定し、調査・研究を行い、卒業論文をまとめるとともに、口頭試問において応答することができる。		
主担当教員	神谷佳男		

令和4年度シラバス

番号	(B4)-01	履修コード	3607Z1
科目名	立体図法	科目英語名	Three Dimensional Drawing
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン科1年次	曜日・時限	火曜7･8限
履修区分	必修	教室	美大ホール・オンライン
単位	1	定員	60名
担当教員	○鍔　隆弘　（非常勤）山田憲子		
授業概要	技法についての講義と透視図の作成による透視図法の実践		
到達目標	平面図や断面図などの投影図を読みとり、立体図の作成を行なう透視図法について、数種類の図法の修得を目標とする。		
授業計画	第1回　授業の説明、準備する用具 　透視図法の基本（歴史、定理、種類、用語、基本立体の変化、視野）についての講義 第2回　足線法による立体表現 　立方体を足線法を使って描く。練習問題を解くことで反射した図も消失点を共有することを確認する。 第3回　足線法による実技 　足線法を使って建物形態を描く。凹凸のある立体がどのように見えてくるかを確認する。 第4回　M点法による立体表現（外観） 　M点法の考え方についての講義／M点法を使って立方体を描く。M点および測線の使い方を学ぶ。 第5回　1～4回についての質疑と回答 第6回　M点法による立体表現２（外観） 　M点法を使って建物形態を描く。凹凸のある立体への寸法の反映方法を学ぶ。 第7回　D点法による立体表現（内観） 　D点法の考え方についての講義／D点法を使って屋内空間を描く。D点の設定の仕方と奥行寸法の取り方を学ぶ。 第8回　D点法による立体表現２（内観） 　D点法を使って屋内に置かれたものと空間を描く。／事例紹介 第9回　分割による簡略図法、平面幾何学の応用（分割、追加） 　透視図の中での等距離による分割、追加手法を使って屋内空間を描く。 第10回　6～9回についての質疑と回答 第11回　陰の形の練習 　モノの陰を描く。陰の消失点および光線の消失点の取り方を学ぶ。 第12回　図法のまとめ 　物の描画を通して、感覚から消失点とM点を設定することを学ぶ。 第13回　M点法を含めた実技および演習課題の説明 　M点法を使って、複雑な形態を描く。 第14回　D点法による実技 　D点法を使って、複雑な形態を描く。 第15回　演習課題の提出／11～14回についての質疑と回答 　物が配置された個室空間を、D点法を使って描く。		

予習・復習	復習：毎回紹介される図法を使って、課題以外の立体を描いてみること。
教科書	特になし。
参考書	適宜指示する。
教材	配付プリント
履修上の注意	直定規（30センチ以上）、三角定規（二枚組）、色ボールペン3色、5mmマスのセクションペーパーパッド（A3サイズ）を用意し、毎回持参すること。
成績評価 **(~H29)**	毎回の課題提出、演習課題の到達度により評価する。 [A] 毎回の課題が完成し、その成果が積極的に演習課題に取り入れられている。 [B] 毎回の課題の提出があり、その成果が基本的に演習課題に取り入れられている。 [C] 毎回の課題の提出があり、演習課題ができている。 14〜15回に行う演習課題は必ず提出すること。これが未提出の場合は、単位を認めない。
成績評価 **(H30~)**	毎回の課題提出、演習課題の到達度により評価する。 [S] 毎回の課題が完成し、その成果が優れた形で演習課題に取り入れられている。 [A] 毎回の課題が完成し、その成果が積極的に演習課題に取り入れられている。 [B] 毎回の課題の提出があり、その成果が基本的に演習課題に取り入れられている。 [C] 毎回の課題の提出があり、演習課題ができている。 14〜15回に行う演習課題は必ず提出すること。これが未提出の場合は、単位を認めない。
主担当教員	鍔　隆弘

令和4年度シラバス

番号	(B4)-02	履修コード	3626Z1
科目名	意匠法規	科目英語名	Regulations of Design
科目区分	デザイン科・工芸科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度	～R1	毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	第1教室
単位	1	定員	60名
担当教員	（非常勤）日高一樹		
授業概要	デザインに関する知的財産権およびデザイン契約		
到達目標	デザインに関する知的財産権と実践的活用法の知識習得		
授業計画	1.企業に置ける有形財産と無形財産について •ブランドとデザインの関係概念図の紹介 •デザイン業務と知的財産権 •産業財産権の基礎知識（特許法、実用新案法、意匠法、商標法、著作権法） 2.知財の侵害に対する権利 •差し止め請求権 •損害賠償請求権 •意匠法第３の２の規定の活用（変更内容） •知的財産権がなぜ必要？ •知的財産を軽視した場合のリスク •知的財産・知的財産権とは？ •知的財産権の種類 •産業財産権とは？ 3.特許制度の概要 •「発明」と「特許」 •特許制度の目的 •特許法上の「発明」とは •特許になる発明とは？ •秘密保持誓約書の事例紹介 •新規性喪失の例外 •特許になる発明とは？ •発明の種類と実施 4.特許制度の概要（職務発明） •特許を受けることが出来る者 •職務発明制度のポイント •改正後の「相当の対価」 5.特許制度の概要（出願から特許までの手続き） 6.実用新案制度の概要 7.意匠制度の概要 8.商標制度の概要 9.産業財産権情報（特許情報）の活用 10.権利の活用・侵害 11.知的財産関連支援策等 12.著作権法		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書	産業財産権標準テキスト（特許、意匠、商標、流通）4冊特許庁刊および講師作成テキスト70ページ		
参考書	特になし。		
教材	PC･ビデオ		
履修上の注意	特になし。		
成績評価(~H29)	レポート、筆記試験および受講態度を総合して評価する。 [A]テーマに対する理解と分析などが高いレベルに到達している。 [B]テーマに対する理解と分析などが充分なレベルに到達している。 [C]テーマに対する理解と分析などが一定のレベルに到達している。		
成績評価(H30~)	レポート、筆記試験および受講態度を総合して評価する。 [S]テーマに対する理解と分析などが極めて高いレベルに到達している。 [A]テーマに対する理解と分析などが高いレベルに到達している。 [B]テーマに対する理解と分析などが充分なレベルに到達している。 [C]テーマに対する理解と分析などが一定のレベルに到達している。		
主担当教員	日高一樹		

令和4年度シラバス

番号	(B4)-03	履修コード	3626Z1
科目名	意匠法規	科目英語名	Regulations of Design
科目区分	デザイン科・工芸科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	視覚デザイン専攻・製品デザイン専攻4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	第1教室
単位	1	定員	60名
担当教員	（非常勤）日高一樹		
授業概要	デザインに関する知的財産権およびデザイン契約		
到達目標	デザインに関する知的財産権と実践的活用法の知識習得		
授業計画	1.企業に置ける有形財産と無形財産について •ブランドとデザインの関係概念図の紹介 •デザイン業務と知的財産権 •産業財産権の基礎知識（特許法、実用新案法、意匠法、商標法、著作権法） 2.知財の侵害に対する権利 •差し止め請求権 •損害賠償請求権 •意匠法第３の２の規定の活用（変更内容） •知的財産権がなぜ必要？ •知的財産を軽視した場合のリスク •知的財産•知的財産権とは？ •知的財産権の種類 •産業財産権とは？ 3.特許制度の概要 •「発明」と「特許」 •特許制度の目的 •特許法上の「発明」とは •特許になる発明とは？ •秘密保持誓約書の事例紹介 •新規性喪失の例外 •特許になる発明とは？ •発明の種類と実施 4.特許制度の概要（職務発明） •特許を受けることが出来る者 •職務発明制度のポイント •改正後の「相当の対価」 5.特許制度の概要（出願から特許までの手続き） 6.実用新案制度の概要 7.意匠制度の概要 8.商標制度の概要 9.産業財産権情報（特許情報）の活用 10.権利の活用•侵害 11.知的財産関連支援策等 12.著作権法		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書	産業財産権標準テキスト（特許、意匠、商標、流通）4冊特許庁刊および講師作成テキスト70ページ		
参考書	特になし。		
教材	PC･ビデオ		
履修上の注意	特になし。		
成績評価(~H29)	レポート、筆記試験および受講態度を総合して評価する。 [A]テーマに対する理解と分析などが高いレベルに到達している。 [B]テーマに対する理解と分析などが充分なレベルに到達している。 [C]テーマに対する理解と分析などが一定のレベルに到達している。		
成績評価(H30~)	レポート、筆記試験および受講態度を総合して評価する。 [S]テーマに対する理解と分析などが極めて高いレベルに到達している。 [A]テーマに対する理解と分析などが高いレベルに到達している。 [B]テーマに対する理解と分析などが充分なレベルに到達している。 [C]テーマに対する理解と分析などが一定のレベルに到達している。		
主担当教員	日高一樹		

令和4年度シラバス

番号	(B5)-01	履修コード	3602Z1
科目名	形態演習	科目英語名	Practice of Modeling
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	デザイン科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	1年デザイン科演習室
単位	2	定員	60名
担当教員	○樺島 脩・西本 耕喜　（非常勤）舘田 千里		
授業概要	デザイン基礎として、形と空間について基礎的な把握を演習によって行う。		
到達目標	立体を制作することや、立体に光を当てて影の効果を認識することにより、 複雑な立体要素を把握する能力が身に付く。		
授業計画	A、透過する造形（樺島・寺井） 線材を使用して造形表現を行い、デザインの基礎となる形を学ぶ。 プロセス：立体制作に入る前段階として精密描写を行い特徴を把握したうえで基本構成を考え、設計図を作成し、それに従って線材による立体を制作する。 1、昆虫の精密描写および立体制作用設計図作成。 2、針金をハンダで接着して立体を制作する。 3、完成した立体を並べて全体で合評する。 4、制作した平面や立体の写真を撮りパネルにレイアウトする。 B、構造と機能（西本） 構造と機能について、与えられた条件の下、身近にある素材を使い、課題を発見し解決を図る。独創的で自由な発想により、創造性のあるアイデアを展開し、造形する。制作・検証・修正のサイクルを通して生まれる、合理的で美しい形態を探るデザインの基礎を修得する。 1．構造と機能について、身近な事例から学ぶ 2．与えられた条件の下、課題を発見し、解決策を探る 3．アイデア展開と制作 4．成果物を検証・修正 5．プレゼンテーション C．アイデア・デベロップメント（非常勤）舘田千里 「感性」によって生まれたアイデアを「理性」によってコントロールする。 仮説や条件の設定に従って段階的に展開することを学ぶ。 結果的にアイデアの独自性や新規性も獲得できることを体感する。 ・「コラージュ」や「人工物」などの仮説に条件を設定し展開を導く。 ・許される時間を限界として意思決定をする。		
予習・復習	課題終了後に平面や立体の写真を撮りレイアウトしたパネルを提出する。（樺島）		
教科書			
参考書			
教材	A、コンピュータとビデオを使用して授業概要やポイントなどを説明する。（樺島） C、適宜指示する。		
履修上の注意	短期間での緻密な制作を求められるので、計画性をもって臨むこと。（樺島）		
成績評価(~H29)	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [A]形と空間に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [B]形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [C]形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。		
成績評価(H30~)	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S]形と空間に関する知識と表現が特に高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [A]形と空間に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [B]形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [C]形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。		
主担当教員	樺島 脩		

令和4年度シラバス

番号	(B5)-04	履修コード	3603Z1
科目名	描出演習	科目英語名	Practice of Representation
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	デザイン科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	視聴覚室･1年デザイン科演習室
単位	2	定員	60名
担当教員	○畝野裕司・坂野　徹　（非常勤）舘田千里		
授業概要	創造することにおいて基礎的な知覚・観察力を実技課題を通して養う。		
到達目標	作品制作のための基礎描出力と集中力が身につき、自己表現が的確にできるようになる。		
授業計画	A、レタリング（畝野） デザイン全般の主要な基礎学習として代表的な書体を書くことによって文字造型の原理を学ぶ。 1．ガイダンスとオリエンテーション 2．フリーハンドで線を描く。（デザインストローク） 3．自分の姓名を欧文の基本的印刷書体で書く。 B、知覚（坂野） 情報をかたちに置き替え、構造から造形を探る。 本授業は、目的、方向性、整合性を重視する。 《目的》明確な目的がある。 《方向性》目標があるため、進むべき方向、道順がある。 《整合性》ルールがある。 C、 アイデアデベロップメント（舘田） 視覚における既成概念の不確かさを、徹底的な認識と把握により打破する。 「感性」によって生まれたアイデアを「理性」によってコントロールする。 1.ガイダンス、オリエンテーション 2.モチーフをスケッチ（50～100アングル） 3．「シルエット」や「デフォルメ−ション」などの仮説に条件を設定することで展開を導く。 4.許される時間を限界として意思決定をする。		
予習・復習			
教科書	必要に応じて配布する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	PC･ビデオ		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 **(~H29)**	成績評価 [A]描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写が高いレベルで行われている。 [B]描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写が十分なレベルで行われている。 [C]描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写が一定のレベルで行われている。		
成績評価 **(H30~)**	演習課題の到達度により評価する。 [S]描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写が優れた形で演習課題に取り入れられている。 [A]描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写が積極的に演習課題に取り入れられている。 [B]描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写が基本的に演習課題に取り入れられている。 [C]描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写できている。		
主担当教員	畝野裕司		

令和4年度シラバス

番号	(B5)-07	履修コード	3604Z1
科目名	色彩演習	科目英語名	Practice of Coloring
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	デザイン科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	第1教室･1年デザイン科演習室
単位	2	定員	60名
担当教員	○寺井剛敏･鈴木康雄（非常勤）舘田千里		
授業概要	色彩の基礎的実習		
到達目標	基礎的な色彩理論と演習を行い、色相、明度の変化を体験させ色彩感覚を養う。 減法混色、加法混色の違いとそれぞれのコントロールについて実習を通して学ぶ。		
授業計画	A　商品と色彩（寺井） ・加算混合、減算混合、印刷の色分解、点描等の基礎的な知識及び世の中で使用されているパッケージ、工業製品、建築の色について、実際の事例を引用し色の効果について実感させる。 ・「Hue Circle 100／100色環などの演習」 アクリル絵の具を使用して混色を行い、色相の変化、色相の種類を体感し色彩の基礎的な感覚を養う。 B　空間、デジタルと色彩（鈴木） ・加法混色の基礎的な知識を照明や空間とデジタルの世界における様々な事例を通して知る。空間と照明の関係や、デジタルデータにおける色彩のコントロールを知る。 ・「色光」（実習） 紙立体を制作しカラーフィルターを通した複数の光が織りなす立体の変化や照明効果を確認しつつデジタルカメラで撮影し、最終的に結果を発表する。 C　アイデア・デベロップメント（非常勤 舘田千里） 「感性」によって生まれたアイデアを「理性」によってコントロールする。 仮説や条件の設定に従って段階的に展開することを学ぶ。 結果的にアイデアの独自性や新規性も獲得できることを体感する。 ・「セグメント」や「テクスチュア」などの仮説に条件を設定し展開を導く。 ・許される時間を限界として意思決定をする。		
予習・復習	事前に告知する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	A：指定したアクリル絵の具を用意する。（詳細は事前に告知） B：ケント紙を加工するための道具（カッターナイフ、接着剤、はさみなど）を用意する。 C：適宜指示する。		
成績評価 **(~H29)**	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [A]色彩に関する知識と表現が高いレベルで習得され、 それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B]色彩に関する知識と表現が習得され、それらを応用した課題制作ができた。 [C]色彩に関する知識と表現が習得することができた。		
成績評価 **(H30~)**	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S]色彩に関する知識と表現がきわめて高いレベルで習得され、 それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [A]色彩に関する知識と表現が高いレベルで習得され、 それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B]色彩に関する知識と表現が習得され、それらを応用した課題制作ができた。 [C]色彩に関する知識と表現が習得することができた。		
主担当教員	寺井剛敏		

令和4年度シラバス

番号	(B5)-08	履修コード	3605Z1
科目名	材料学演習（石膏）	科目英語名	Practice of Material Processing（Plaster）
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	デザイン科1年次	曜日・時限	1〜4限
履修区分	必修	教室	石膏造形室
単位	1	定員	60名
担当教員	安島　諭		
授業概要	石膏材料を使用した造形物の制作		
到達目標	石膏材料の知識と使用方法を修得し、立体造形の感覚を養う。		
授業計画	Ａ、 石膏材料について概要（講義） デザインのプロセスにおける役割、 材料についての基礎的知識の修得 Ｂ、 石膏材料についての基本的作業法の修得を、作品制作を通して実習する。 与えられたテーマに対し、まず油土で造形表現する。 切金を使い分割して石膏で雌型を取る。（抜け勾配に注意する） 油土を型からはずし、型を水研ぎしてからカリ石鹸を塗布し、再び型を合わせて、中に石膏を流し込む。 型を割って中から原型を取りだし、水研ぎして仕上げる。 C、コンセプトと共にプレゼンテーションする。		
予習・復習	予めアナウンスしたテーマに基づいて、造形物のスケッチを10枚A4サイズ縦の紙に描いてくる。		
教科書	特になし。		
参考書	資料を配付する。		
教材	スケッチブック･油粘土･石膏･切り金･紙ヤスリ		
履修上の注意	作業服着用。換気を行うこと。一日の作業後は掃除を行うこと。粘土ヘラ、金属スプーン（大）持参。		
成績評価 **(~H29)**			
成績評価 **(H30~)**	講義の理解度、積極的な実習の取り組み姿勢と提出物の加工技術、仕上げ、デザインを総合して評価する。 [S]石膏材料についての基本的な知識や加工技術が習得され、その特性を活かしたデザイン表現が秀でたレベルに到達している。 [A]石膏材料についての基本的な知識や加工技術が習得され、その特性を活かしたデザイン表現が高いレベルに到達している。 [B]石膏材料についての基本的な知識や加工技術が習得され、その特性を活かしたデザイン表現が充分なレベルに到達している。 [C]石膏材料についての基本的な知識や加工技術が習得され、その特性を活かしたデザイン表現が一定のレベルに到達している。		
主担当教員	安島　諭		

令和4年度シラバス

番号	(B5)-09	履修コード	3606Z1
科目名	材料学演習（プラスチック）	科目英語名	Practice of Material Processing (Plastic)
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	デザイン科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室･1年デザイン科演習室･工房
単位	1	定員	60名
担当教員	河崎圭吾		
授業概要	この授業のテーマは「プラスチック材料の種類と加工法を学ぶ」です。ねらいは、壁掛け時計のデザインを通してプラスチックの材料特性や成型方法を理解して頂くことです。具体的には、与えられた条件の中で、使いやすく美しい、実際に使える壁掛け時計をデザイン制作して頂きます。制作後にプレゼンテーションを行って頂きます。なお本科目は材料学演習（プラスック）です。		
到達目標	学生が、プラスチックの材料とその成型方法全般を理解しその応用として、真空成型機と塩ビ板1mmを使った壁掛け時計のデザイン制作を目標とします。		
授業計画	1日目：映像にてプラスチック材料及び成型方法についてスライドを使って講義する。 ・プラスチック材料の種類と特徴 ・プラスチック材料の製品への使用事例 ・プラスチック材料の加工方法 ・昨年の事例紹介 ・実際に真空成形機を使ってデモンストレーションを行い、真空成形機の技術的特徴を理解して頂く。 2日目：アイデアチェックとデザイン決定。 3日目：ゴールデンボードを積層して型制作。 4日目：ゴールデンボードを積層して型制作。 5日目：型を使って真空成型しトリミングを行い時計のムーブメントを取り付ける。色づけ等行う。（プラスック造形室） 6日目：各専攻の型と作品を１セットとし出席番号順に並べる。一人づつコンセプトと授業の感想を１分間でプレゼンテーションを行う。投票にて優秀作品を表彰する。		
予習・復習	予習：身近にあるプラスチック製品の材料と成型方法を調査し、その特徴を理解する。復習：真空成型機の使い方をしっかりとメモを取り、復習しておく。		
教科書	映像で資料を紹介する。		
参考書	『プラスチックデザインノート』中村次雄　著　日刊工業新聞社 「素材とデザインの教科書」日経デザイン編　日経BP社		
教材	＜大学で用意するもの＞ゴールデンボード･塩化ビニール板1mm白色･時計ムーブメント・電動ドリル・ハンドドリル ＜学生が用意するもの＞筆記用具・スチノリ・サークルカッター・		
履修上の注意	初日は、授業の要になるお話しをまとめて行う為遅刻しないように気をつけること。最終日は遅刻すると発表者の妨げとなる為、プレゼンテーションが行えない時があります。気をつけて下さい。		
成績評価 **(~H29)**	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [A]プラスチックの真空成形に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [B]プラスチックの真空成形に関する知識と表現が習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [C]プラスチックの真空成形に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。		
成績評価 **(H30~)**	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S]プラスチックの真空成形に関する知識と表現が特に高いレベルで習得され、作品に積極的高いレベルで取り入れられている。 [A]プラスチックの真空成形に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [B]プラスチックの真空成形に関する知識と表現が習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [C]プラスチックの真空成形に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。		
主担当教員	河崎圭吾		

令和4年度シラバス

番号	(B5)-10	履修コード	3608Z1
科目名	形態論	科目英語名	Morphology for Design
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	隔週
専攻・年次	デザイン科1年次	曜日・時限	火曜7･8限
履修区分	必修	教室	第1教室
単位	1	定員	60名
担当教員	浅野　隆		
授業概要	かたちに関するテーマの講義と、自らそのテーマに対して取材することによる実験、レポート 他の人の取材を客観的に見ることによって理解の幅を広げる。		
到達目標	かたちに興味を持ち、注意深く観察し分析することによって客観的に形態の理解を深める。 毎回の取材実験レポートにより理解の幅と深さを共有し、応用できる感覚を養う。		
授業計画	１　形態論概要　：授業の進め方 ２　日本のかたち　：素材、加工法、風土から生まれたかたち ３　スケール　：ミクロからマクロまで　Power of Ten ４　記憶のかたち　「東京タワー」 ５　隠すかたち　「カモフラージュ立方体」 ６　ゲシュタルト心理学　：様々な要因から感じるかたち ７　錯視　：従来の知覚判断と、現実の間にある矛盾の視覚経験 ８　人工の形　「石の自動車」 ９　自然の形 10　図形の基本要素と黄金比　「黄金比」 11　顔と表情　「人の顔に見えるものを探そう」 12　形態の基礎教育　「バウハウスの優れたかたち」 13　技術と機能のかたち　「すぐれたかたち」 14　精神的なかたち　「かたちに感じる精神的な力」 15　まとめ		
予習・復習	「　」は取材（宿題7回）を含む。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	スライド･DVD･ビデオ等		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)	レポート（課題）提出7回、講義の理解度、テーマごとの課題の到達度を総合して評価する。 [A]テーマの内容を十分理解し、レポートに的確に表現されている。 [B]テーマの内容を十分理解し、レポートに表現されている。 [C]テーマの内容を理解し、レポートに表現されている。		
成績評価 (H30~)	レポート（課題）提出7回、講義の理解度、テーマごとの課題の到達度を総合して評価する。 [S]テーマの内容を十分理解し、レポートに的確に表現され極めて高いレベルで到達目標を達成している。 [A]テーマの内容を十分理解し、レポートに的確に表現され高いレベルで到達目標を達成している。 [B]テーマの内容を理解し、レポートに表現され到達目標を達成している。 [C]テーマの内容を十分ではないが理解し、レポートに表現されている。		
主担当教員	浅野　隆		

令和4年度シラバス

番号	(B5)-11	履修コード	4149Z1
科目名	デザインプロセス演習	科目英語名	Practice of Design Process and Techniques
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	デザイン科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室･2年デザイン科演習室
単位	2	定員	60名
担当教員	○河崎圭吾・寺井剛敏・北村賢哉・三澤直加（非常勤）		
授業概要	この授業ではサービスデザインを学びます。テーマは、「自分を変えてくれるコンビニのカタチ」です。学生が日常でよく使うコンビニの体験を通して自分がよりよい自分に変われる仕組みとそこで使われるモノや空間やコミュニケーションをデザインします。最終のアウトプットは動画（1分程度にまとめた）、コンセプトボード、ストーリーボード、カスタマージャーニーボード、エコシステムマップです。毎年、文化事業としてしいのき迎賓館で展示及び代表者プレゼンテーションを行います。		
到達目標	人の行為と思考を中心に捉えて日常を観察することから着想を得て、人と情報、空間、プロセスの関係をうまく組み立てながら、上質な体験をデザインできるようになることが目標。また、その体験価値を伝える明確なコンセプト、動画、ストーリーボード、カスタマージャーニーマップ、エコシステムマップを作れるようになることが目標。		
授業計画	ガイダンス ◯サービスデザインの説明。 ◯授業スケジュールの説明。 ◯事前課題：課題図書等。 ステップ0：内省をみる事で自分自身を発見するところから本質的な価値を見出すところから始める。 ステップ１：３専攻二人づつ１０チームを作り、１チーム6人でグループワークを行う。 ステップ２：各自が見つけた本質的な価値からサービスのアイデアを考える。 ステップ3：グループでアイデアを１つに絞って体験を作ってみる。カスタマージャーニー MAP の作成。 ステップ4：ステップ３のブラッシュアップを行い全体のサービスの流れを構築する。 ステップ5：作られたサービスの検証を行う。 ステップ6：「 storyboard」の作成（スライド７枚または動画制作）で体験を伝える。 ステップ7：「 customer journey map」「 ecosystem map」作成。 提出物はサービスを伝える１分程度の動画、「サービスの概要」、「 customer journey map」、「 ecosystem map」、「 storyboard」をまとめたポートフォリオ。		
予習・復習	サービスデザインに関して予め調べておく。課題図書：2030年:すべてが「加速」する世界に備えよ		
教科書	スライドで説明。Google ドライブで共有		
参考書	ビジュアル思考大全　問題解決のアイデアが湧き出る37の技法/マッピングエクスペリエンス/THIS IS SERVICE DESIGN THINKING. サービスデザインの教科書		
教材	ポストイット、模造紙、えがっきー（ワークショップツール）		
履修上の注意	出来るだけ体を使って発想しましょう。ファシリテーション能力を鍛える上でも積極的にグループワークに参加しましょう。		

成績評価 (~H29)	積極的な課題に対する取り組み方、課題提出における作品の到達度、合評数回のプレゼンテーション能力、最終的なまとめとしてのポートフォリオ提出を総合して評価する。 [A]サービスデザインの基本的な知識や技術を理解し、それを活かして作品が高いレベルで表現されている。 [B]サービスデザインの基本的な知識や技術を理解し、それを活かして作品が十分なレベルに表現されている。 [C]サービスデザインの基本的な知識や技術を理解し、それを活かして作品が一定のレベルに到達している。
成績評価 (H30~)	積極的な課題に対する取り組み方、課題提出における作品の到達度、合評数回のプレゼンテーション能力、最終的なまとめとしてのポートフォリオ提出を総合して評価する。 [S]サービスデザインの基本的な知識や技術を理解し、それを活かして作品が特に高いレベルで表現されている。 [A]サービスデザインの基本的な知識や技術を理解し、それを活かして作品が高いレベルで表現されている。 [B]サービスデザインの基本的な知識や技術を理解し、それを活かして作品が十分なレベルに表現されている。 [C]サービスデザインの基本的な知識や技術を理解し、それを活かして作品が一定のレベルに到達している。
主担当教員	河崎圭吾

令和4年度シラバス

番号	(B5)-12	履修コード	3614Z1
科目名	照明論	科目英語名	Theory of Lighting
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中（調整期間）
専攻・年次	デザイン科2年次	曜日・時限	終日
履修区分	必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	60名
担当教員	○北村賢哉　　吉川　豪（非常勤）		
授業概要	照明の違いにより物の見え方は大きく異なってくる。本授業科目においては、人間の視覚特性とも関連づけながら照明論の一般的且つ基礎的な内容について解説する。		
到達目標	照明の歴史と文化を学習し、照明デザインの実体を認識することで照明の新たな役割を探る。多くの参考資料を授業内で紹介することにより建築照明から都市環境照明の視点と方法論を学ぶ。		
授業計画	照明論の基礎 １、概論 ２、あかりと生活 ３、光と色 ４、目の働き ５、ランプ・照明器具 ６、あかりの設定 ７、暮らしのあかり ８、交通のあかり ９、街のあかり 10、楽しむあかり 11、光と生物 照明の歴史と文化 １　照明の文化（日本人と光の文化、紀元前から21世紀までの灯火史、東西の照明文化、戦後日本の照明文化） ２　人間の知覚と光（視覚特性と照明、色温度と演色性、光源の高さと安らぎ感、不快グレアと心地良い輝き） ３　照明の計画（照明計画の役割と照明デザイナーの職能、自然光のイメージをデザインする、照明計画のプロセス、光のシミュレーションとプレゼンテーション）		
予習・復習	初日の授業後半に課題が課せられるので、その内容について翌日までに調査を行う。		
教科書	特になし。		
参考書	『あかりの百科』松下電器研究所（編） 『照明デザイン入門』彰国社（面出薫共著）		
教材	スライド、照明課題用の回答用紙、照明器具のサンプル品		
履修上の注意	短期間の集中講義のため出席に注意する。		
成績評価 (~H29)			
成績評価 (H30~)	成果物（照明デザイン課題）、出席状況および積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S]照明に関する知識と表現が高いレベルで習得され、成果物の内容に秀でた点が見られる。 [A]照明に関する知識と表現が高いレベルで習得され、成果物に積極的に取り入れられている。 [B]照明に関する知識と表現が習得され、成果物に積極的に取り入れられている。 [C]照明に関する知識と表現が習得され、成果物に取り入れられている。		
主担当教員	北村賢哉		

令和4年度シラバス

番号	(B5)-13	履修コード	3618Z1
科目名	近代デザイン論	科目英語名	Lecture of Modern Design
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	デザイン科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室
単位	1	定員	60名
担当教員	（非常勤）佐藤和子		
授業概要	近代デザイン史を追いながら、特に、イタリア・デザインの発生と発展に光りを当てて合理的な考えを持つ＜モダンデザイン＞と、反合理的な考えを持つ＜ポストモダンデザイン＞を比較して、２０世紀のデザインの流れを把握する。この二つの大きな流れのきっかけとなった、イタリアのアヴァンギャルド・デザイン運動の背景をさぐり､その発想､展開と運動の終了がその後デザインに影響を及ぼした経過を学び、今までとはまったく異なる新しい視点を持った、逆転の発想法で､デザインを創造していくことを目指す。また、バウハウスに影響を受け、イタリア・デザインに浸透したデザイナー、柳宗理のモダンデザインとアノニマス・デザインについては、普遍的な機能美と工芸の心を、常に授業の中で学生に提示していく。		
到達目標	学生はこの授業を受けることにより､デザインを人間生活全般の広い範囲の空間で考えることができ、 社会においてそれまで自分が予見できなかった、いかなる状況におかれた場合でも、自ら新しいデザイン手法を生み出し、困難を乗り切り、自分の持つ能力を発揮できるようになることが到達目標である。この＜近代デザイン論＞の授業では、デザイン史をたどり、デザインの実践（アイディアをどう表現してオブジェに仕上げるかの過程）と、その理論構成を平行して実施できることを今年度授業の実施目標としている。		
授業計画	前期 a)アーツ・アンド・クラフトからバウハウス、アール・ヌーヴォ、未来派運動、イタリア合理主義建築までの歩みをCD-ROMと講義で把握する。 b）イタリアデザインの特徴（アルキテクトデザイナー、工芸とハイテクの融合など）と、各著名デザイナーの作品と背景で検討する。CD-ROMと講義。 c） イタリアのモダン・デザイン（－1965）とポストモダン・デザインの比較。アヴァンギャルド・デザイン運動とその作品を検討しながら、その発想法を学ぶ。CD-ROMとスライド。 ｄ）後期のデザイン課題について、グループ編成（2～5人位）をする。 パソコンの台数などを見て人数を決める。 提出：小レポート：モダンデザインとポスとモダンデザインについて（仮題） 宿題：後期授業の課題についてのリサーチ（課題例：防災グッズ） 後期 a） 合理的な思考と反合理的な思考で、ひとつのデザインを比較検討する。 比較するデザインは、その時点で学生に提示する。 各課題についてリサーチしてきたことを報告し、皆で検討をする。 A4の画用紙と鉛筆、ボールペン、色鉛筆か色彩ボールペンを使用。 デザインの条件を其の時提示するので、もう一度その条件で課題のデザインを再考する。 ｂ）イタリアデザインの傑作を検討しながら、多目的な機能（楽しさも含めて）を加えていく。 ｃ）パソコンを使い、形態、色彩を加えデザインを表現する（A4・2枚迄） このデザインの使用目的などを書いた概論を書く。概論は想定内での素材指定や加工法などを入れてもよい（A4・1枚迄）。 提出：最初のアイデア・スケッチ(a)と、最終のパソコン画とその課題のデザイン概論（c）を提出する。		
予習・復習	アヴァンギャルド・デザインの授業はその時の状況で条件が異なるため、しっかり復習しておく。		
教科書	特になし。		
参考書	「うまれるかたち柳宗理」能登印刷出版　2003年　＊「時を生きるイタリア・デザイン」佐藤和子著　TBSブリタニカ出版　2001年　＊「メンフィス」　バルバラ・ラディーチェ著　商業空間社　1984年　＊「アルキミア：終わりなきイタリア・デザイン」佐藤和子編著　1985年「メンフィス」「アルキミア」は絶版のため、図書館にて閲覧のこと。		
教材	特になし。		

履修上の注意	パソコンを使用する場合は、グループを組み2人で1台を使用するものとする。 もしパソコンを使用できない場合は、A4画用紙を使う事とする。（後期授業）
成績評価 **(~H29)**	レポート・作品の提出2回、および受講態度を総合して評価する。 [A]デザイン思考を高いレベルで自己のデザイン活動に取り入れている。 [B]デザイン思考を充分なレベルで自己のデザイン活動に取り入れている。 [C]デザイン思考を一定のレベルで自己のデザイン活動に取り入れている。
成績評価 **(H30~)**	レポート・作品の提出2回、および受講態度を総合して評価する。 [S]デザイン思考を特に高いレベルで理解し自己のデザイン活動に積極的に取り入れている。 [A]デザイン思考を高いレベルで自己のデザイン活動に取り入れている。 [B]デザイン思考を充分なレベルで自己のデザイン活動に取り入れている。 [C]デザイン思考を一定のレベルで自己のデザイン活動に取り入れている。
主担当教員	佐藤和子

令和4年度シラバス

番号	(B5)-14	履修コード	3639Z1
科目名	家具意匠論	科目英語名	Theory of Furniture Design
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	製品デザイン専攻・環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	水曜5･6限
履修区分	必修	教室	第3教室
単位	1	定員	40名
担当教員	根来貴成		
授業概要	家具の代表名詞でもある椅子を中心とした意匠についての講義。		
到達目標	人間の日常の生活を豊かにする為に家具がある。その中でも、最も人間との関わりが大きい椅子の意匠についての理解を深める。 （形、機能、構造、素材、色、空間性など）		
授業計画	1.家具の意匠、特に椅子の意匠についての概要説明 海外の家具展示会の動向を紹介。（ミラノサローネなど） 2.家具の様式と意匠についての歴史的考察 2-1.ゴシック～産業革命・・・エジプト時代に始まりゴシックから産業革命時代までの西洋家具史を中心に、椅子の意匠の変遷について考察する。 2-2.産業革命～現代・・・産業革命以降の椅子の意匠のについて、使用目的や形の特徴と機能、構法や素材の進化に伴う椅子の意匠の変遷について考察する。 3.人間と椅子の関係についての体感調査 世界の著名な椅子に実際に座って体感する。（本学椅子コレクション） 椅子の形、機能、構造、素材、人間工学的視点から体感チェックシートに記入しながら椅子を考察する。 4.有名家具デザイナーの紹介 歴史的名作を残した有名家具デザイナーを紹介（チャールズ・レイ・イームズ、 アルバーアールト他） 5.「私のお気に入りの名作椅子」についてのプレゼンテーション 自分が気に入っている名作椅子についてのレポートをもとに、受講生にスライドを使っての短いプレゼンテーションを行ってもらう。 （椅子の写真や図面、構法や素材などの情報、デザイナーの情報や制作由来、本人の所感など）		
予習・復習	世界の著名な椅子の資料収集		
教科書	ゴシック様式からモダンデザインまでの世界の著名な椅子のスライド		
参考書	チャールズ・レイ・イームズのDVD「パワーズ・オブ・テンなど」 アルヴァ・アアルトのDVD「技術と自然」 ルイス・カーンのDVD「私の建築家」		
教材	世界の著名な椅子の現物（本学椅子のコレクション）		
履修上の注意	授業終了時に授業内容メモを出席票として提出、後日返却する。		
成績評価 (~H29)	積極的な授業態度、体感テストのレポート（中間）と世界の著名な椅子のレポート（学期末）の到達度を総合して評価する。 [A]家具意匠に関する視野を広げ、椅子のデザインを高いレベルで理解することができた。 [B]家具意匠に関する視野を広げ、椅子のデザインを理解することができた。 [C]家具意匠に関する視野を広げることができた。		
成績評価 (H30~)	積極的な授業態度、体感テストのレポート（中間）と世界の著名な椅子のレポート（学期末）の到達度を総合して評価する。 [S]家具意匠に関する視野を広げ、椅子のデザインを特に高いレベルで理解することができた。 [A]家具意匠に関する視野を広げ、椅子のデザインを高いレベルで理解することができた。 [B]家具意匠に関する視野を広げ、椅子のデザインを理解することができた。 [C]家具意匠に関する視野を広げることができた。		
主担当教員	根来貴成		

令和4年度シラバス

番号	(B5)-15	履修コード	3620Z1
科目名	人間工学	科目英語名	Human Engineering
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン科3年次	曜日・時限	火曜7･8限
履修区分	必修	教室	研修室
単位	2	定員	60名
担当教員	安島　諭		
授業概要	人と物や空間の関係について観察し体感しながら、その具体的な在り方について探求し考察する工学のプロセスや視点などを学び、自らのデザインの思考の幅を広げる		
到達目標	それぞれの課題に内包されている人と物や空間の関係について学び、企画計画設計の場で地に足のついた発想や、簡易な実験をおこなう人間工学的デザイン力（Ergo Design）・人間中心設計の素養を獲得する		
授業計画	講義とワークショップ型の授業を取り混ぜておこなう。6～7人で１チームをつくる。 人体、空間、製品、コミュニケーションまで、人と物や空間の関係について各人が体感（物理的、心理的、生理的、文化的）したものを計測、記述し考察する。 1．ガイダンス　デザインには理由がある　人間工学とは何か、どう役に立つのか 2．人体寸法とデザイン　「ヒューマン・ディメンション」 3．運動機能と身体負担　「ジョイント・モーション・力学」 4．身体と空間　「椅子・机・作業域・動線」 5．生理と心理　「空間の把握と身体機能」 6．Thoughtless Act　「気付きと行為」 7．まとめと中間テスト 8．デザインプロセスと発想　「デザインシンキング」 9．事実とビジュアライゼーション　「ハンス・ロスリング」 10.認知とアフォーダンス　「ドナルド・A・ノーマン」 11.人はエラーを犯す動物である　「失敗のしくみ」 12.技術とインターフェース 13.HCD（ヒューマンセンタード・デザイン） 14.まとめと期末テスト 15.リフレクション　デザインには理由がある　人間工学とは何か、どう役に立つのか		
予習・復習	調査レポートを適宜課すが、その考察をしっかりとおこなうこと		
教科書	資料を配付する。		
参考書	Human Dimension & Interior Space / Julius Panero, Martin Zelnik, 清家清訳 失敗のしくみ　芳賀繁　日本能率協会マネジメントセンター 誰のためのデザイン　D.A.ノーマン　野島久雄訳　新曜社 万人のためのデザイン-people design　エレン・ラプトン　武舎広幸監訳　ビー・エヌ・エヌ新社		
教材	備品を活用する		
履修上の注意	各人、2mのメジャーを持参する テストには資料・レポートの持ち込みを許可する		
成績評価 **(~H29)**	レポート提出、テスト、受講態度を総合して評価する。 [A]テーマに対する理解と分析が高いレベルに到達している。 [B]テーマに対する理解と分析が充分なレベルに到達している。 [C]テーマに対する理解と分析が一定のレベルに到達している。		
成績評価 **(H30~)**	レポート提出、テスト、受講態度を総合して評価する。 [S]テーマに対する理解と分析が特に高いたレベルに到達している。 [A]テーマに対する理解と分析が高いレベルに到達している。 [B]テーマに対する理解と分析が充分なレベルに到達している。 [C]テーマに対する理解と分析が一定のレベルに到達している。		
主担当教員	安島　諭		

令和4年度シラバス

番号	(B5)-16	履修コード	3621Z1
科目名	展示計画論	科目英語名	Theory of Display Planning
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	視覚デザイン専攻・環境デザイン専攻3年次	曜日・時限	火曜9･10限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	40名
担当教員	○角谷　修　（非常勤）平野湟太郎		
授業概要	展示の成り立ちを歴史よりひも解いて、その実績と可能性を知ると同時に、実際の計画を進める為の方法論を知る。		
到達目標	我国の展示変遷を知ると共に、その領域の特性を理解する。さらに実際のプランニングを体験しながら今後の空間デザインの可能性を考える。		
授業計画	具体的な事例を画像や映像等で紹介しながら講義を進める。各分野の専門家（非常勤）を招聘して、幅広い見識に触れながら、実際の展示現場の調査やプランニングを体験する。 １、　万国博覧会の歴史と展示の変遷 ２、　〃 ３、　〃 ４、　百貨店の成り立ちと商業空間の展示 ５、　博物館の成り立ちとその展示環境の特性 ６、　展示の分類とその役割 ７、　〃 ８、　グラフィックデザインと空間デザインの関係について ９、　〃 １０、展示計画の流れと基本的な考え方 １１、　〃 １２、今後の課題と展望 非常勤講師の授業として平面デザイン領域から空間デザイン領域への展開を中心に解説する。このことを参考として授業への理解を深める。		
予習・復習	実際の展示現場の調査を実施するため事前に個人で調べることが必要。その他、毎年開催されている専門のイベント（作品観覧とシンポジウム）への参加を促し、より理解を深める。		
教科書	授業用のスライドと最新情報を含めた取材成果スライドを活用する。		
参考書	『博覧会の政治学』吉見俊哉著／中公新書 『ディスプレイデザイン』魚成祥一郎監修／鹿島出版 『百貨店の誕生』初田亨／ちくま学芸文庫		
教材	配付プリント･PC･ビデオ		
履修上の注意	展示現場調査を期間限定にて課すので注意すること。		
成績評価 **(~H29)**	展示現場調査報告書および平面計画図2回の提出物等を総合して評価する。 [A]講義内容とその応用、考察について高いレベルで理解できている。 [B]講義内容とその応用、考察について充分なレベルで理解できている。 [C]講義内容とその応用、考察について理解できている。		
成績評価 **(H30~)**	展示現場調査報告書および平面計画図2回の提出物等を総合して評価する。 [S]講義内容とその応用、考察について極めて高いレベルで理解できている。 [A]講義内容とその応用、考察について高いレベルで理解できている。 [B]講義内容とその応用、考察について充分なレベルで理解できている。 [C]講義内容とその応用、考察について理解できている。		
主担当教員	角谷　修		

令和4年度シラバス

番号	(B5)-17	履修コード	3627Z2
科目名	デザインマーケティング	科目英語名	Design Marketing
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	視覚デザイン専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	第1教室
単位	1	定員	40名
担当教員	◯寺井剛敏・浅野　隆（非常勤）米村浩・日原広一		
授業概要	企業における「顧客コミュニケーション活動」の実態を体験する。		
到達目標	SP（セールスプロモーション）実習を通して、「仕事の流れ」を体感し、仕事の現場の全体像をつかむ。		
授業計画	A、『デザインマーケティング』（米村） 目的：「デザインとは社会の様々な課題に対するソリューションにおける創作活動である」 ということの再認識 [Day1]「自らの視点で社会の課題を考える」 ・事前課題：Q1．「社会に出るにあたり、今現在、気になっていること、知っておきたいこと」に関するディスカッション ・事前課題：Q2.「普段生活をしている中で、〝疑問〟に思っていること。〝なぜだろう〟と思っていること」に関するディスカッション ・Day2の課題説明 [Day2] 「コミュニケーションデザインの設計図を考える」 ・「クリエイティブストラテジー」ワークショップ [Day3] 「コミュニケーションデザインの今を見る」 ・H WORKS紹介 ・フリーディスカッション B、『製品デザインとマーケティング』（日原） １日目　マーケティングとは何か？（マーケティングの構造） 01．マーケティングの意義＝「顧客志向」 02．ターゲット・マーケティング 03．マーケティング・ミックス 04．ポジショニング ※ ショート・プラクティス『属性列挙法＆ＳＷＯＴ分析』 ２日目　マーケティング・リサーチ 05．市場調査とマーケティング・リサーチとの違い 06．１次データと２次データ／定量調査と定性調査 07．細分化と標的化（パラメータの立て方、ターゲットの決め方） 08．ＳＤ法について ※ ショート・プラクティス『ＳＤ法を用いた嗜好調査』 ３日目　ポジショニング（ブランディング） 09．製品と商品とブランド 10．消費者の「心」を揺り動かす＝ブランディング 11．「心」知覚→感情→欲求→認知／「ＭＫ」市場→製品→嗜好→意匠 12．芸術とマーケティング ※ショート・プラクティス『セレンディピティの制作』		

予習・復習	自分の興味のある商品が、どのようにプロモーションされているかを事前に調査しておく。 （仮） １、どこで告知されているか（ex.店頭、街角、WEB、携帯、イベント等） ２、メッセージは自分に届いたか、それによって買おうと思ったか ３、どうすればもっと伝わったか、自分ならどうしたか ４、他の業界のアイデアをヒントにもっと効果的な方法を吟味しておく
教科書	世の中に出ているプロモーションツールやその仕組み（IT活用など）、必要に応じて指示する。
参考書	同上
教材	同上
履修上の注意	自分が生活者であることをしっかりと認識する。そして狙うターゲットが何を望んでいるのかを、さまざまな角度から想定するように心がける。
成績評価 **(~H29)**	作品提出およびグループワークとプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [A]セールスプロモーションに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B]セールスプロモーションに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用した課題制作ができた。 [C]セールスプロモーションに関する基本的な知識と技術を理解することができた。
成績評価 **(H30~)**	ワークショップとプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S]マーケティングに関する基本的な知識と技術を高いレベルで理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [A]マーケティングに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B]マーケティングに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用した課題制作ができた。 [C]マーケティングに関する基本的な知識と技術を理解することができた。
主担当教員	寺井剛敏

令和4年度シラバス

番号	(B5)-18	履修コード	3627Z2
科目名	デザインマーケティング	科目英語名	Design Marketing
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	製品デザイン専攻4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	第1教室
単位	1	定員	40名
担当教員	◯浅野　隆・寺井剛敏　（非常勤）米村浩・日原広一		
授業概要	企業における「顧客コミュニケーション活動」の実態を体験する。		
到達目標	SP（セールスプロモーション）実習を通して、「仕事の流れ」を体感し、仕事の現場の全体像をつかむ。		
授業計画	A、『デザインマーケティング』（米村） 目的：「デザインとは社会の様々な課題に対するソリューションにおける創作活動である」 ということの再認識 [Day1]「自らの視点で社会の課題を考える」 ・事前課題：Q1．「社会に出るにあたり、今現在、気になっていること、知っておきたいこと」に関するディスカッション ・事前課題：Q2.「普段生活をしている中で、〝疑問〟に思っていること。〝なぜだろう〟と思っていること」に関するディスカッション ・Day2の課題説明 [Day2] 「コミュニケーションデザインの設計図を考える」 ・「クリエイティブストラテジー」ワークショップ [Day3] 「コミュニケーションデザインの今を見る」 ・H WORKS紹介 ・フリーディスカッション B、『製品デザインとマーケティング』（日原） １日目　マーケティングとは何か？（マーケティングの構造） 01．マーケティングの意義＝「顧客志向」 02．ターゲット・マーケティング 03．マーケティング・ミックス 04．ポジショニング ※ ショート・プラクティス『属性列挙法＆ＳＷＯＴ分析』 ２日目　マーケティング・リサーチ 05．市場調査とマーケティング・リサーチとの違い 06．１次データと２次データ／定量調査と定性調査 07．細分化と標的化（パラメータの立て方、ターゲットの決め方） 08．ＳＤ法について ※ ショート・プラクティス『ＳＤ法を用いた嗜好調査』 ３日目　ポジショニング（ブランディング） 09．製品と商品とブランド 10．消費者の「心」を揺り動かす＝ブランディング 11．「心」知覚→感情→欲求→認知／「ＭＫ」市場→製品→嗜好→意匠 12．芸術とマーケティング ※ショート・プラクティス『セレンディピティの制作』		

予習・復習	自分の興味のある商品が、どのようにプロモーションされているかを事前に調査しておく。 （仮） １、どこで告知されているか（ex.店頭、街角、WEB、携帯、イベント等） ２、メッセージは自分に届いたか、それによって買おうと思ったか 　　３、どうすればもっと伝わったか、自分ならどうしたか ４、他の業界のアイデアをヒントにもっと効果的な方法を吟味しておく
教科書	世の中に出ているプロモーションツールやその仕組み（IT活用など）、必要に応じて指示する。
参考書	同上
教材	同上
履修上の注意	自分が生活者であることをしっかりと認識する。そして狙うターゲットが何を望んでいるのかを、さまざまな角度から想定するように心がける。
成績評価 **(~H29)**	作品提出およびグループワークとプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [A]セールスプロモーションに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B]セールスプロモーションに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用した課題制作ができた。 [C]セールスプロモーションに関する基本的な知識と技術を理解することができた。
成績評価 **(H30~)**	ワークショップとプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S]マーケティングに関する基本的な知識と技術を高いレベルで理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [A]マーケティングに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B]マーケティングに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用した課題制作ができた。 [C]マーケティングに関する基本的な知識と技術を理解することができた。
主担当教員	浅野　隆

令和4年度シラバス

番号	(B6)-01	履修コード	4150Z1
科目名	視覚デザイン演習（一）	科目英語名	Practice of Visual Design (1)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	視覚デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	1年デザイン科演習室･コンピュータ室･スタジオ
単位	6	定員	20名
担当教員	○坂野徹・寺井剛敏・廣瀬純子・鈴木康雄・下浜臨太郎・樺島脩　（非常勤）国枝千晶・佐々木隼・岡野邦彦・神子澤知弓		
授業概要	一年を通して実習を中心としたオムニバス形式の集中講義をおこなう。各々の授業で作品制作と発表をおこなうことで、デザインの目的や機能を幅広く学ぶ。		
到達目標	各課題を通して、造形の基礎となる技術や知識、各種素材に対する理解を深め、一定期間内で作品制作する力や、総合的なデザインの基礎力を身につける。		
授業計画	★詳細な予定については、各授業の開始時に告知する。 A．スタートデザイン｜寺井、鈴木、廣瀬、坂野、下浜、樺島 1年生と4年生の数人ずつが同じチームとなり、共通のテーマに対して制作をおこなう。1年生は、課題発見からアイデア展開、実制作、仕上げまでの一連の流れを4年生と共同作業することで、専攻内の決まりごとを学び、デザインの面白さと可能性を体感する。 B．ダンボール｜寺井、下浜 使用済みのダンボールを使い立体作品を制作する。一つの素材から、切る、曲げる、剥がすなどの加工作業を通じて、ダンボールの特性を活かした表現を模索し、全方向からの鑑賞に耐えられる作品を制作する。 C．ロゴマーク・シルクスクリーン｜鈴木、国枝 ロゴマークを制作する。シルクスクリーン印刷の仕組みを理解し、紗張り、乳剤塗布、乾燥、製版、印刷を学ぶ。その際、自分のロゴマークをTシャツや布以外の素材に印刷して一連のシルクスクリーン印刷技術を習得する。 D．クロッキー｜鈴木 既存の画材の枠組みを超えた素材によるドローイングを通じて、表現の可能性を探求する。受験のためのデッサンで刷り込まれた「正解」を疑い、「上手に描くこととは何か」「魅力的な平面作品とは何か」を体験を通して実感する。 E．ゲーム｜佐々木、坂野、樺島 世界中の多様なボードゲームを体験した後、チームに分かれて実際にオリジナルゲームを制作する。ルールブックを作成する過程で、面白さのポイントを見極め、ゲーム進行に関する不具合を発見し修正し、思考の流れを客観視する能力を養う。 F．マテリアル｜鈴木 マテリアルに対する視点を探り、新しい質感表現を模索し、様々な素材加工の基礎を知る。マテリアルに対するリサーチとワークショップをおこない、それらのプロセスをレポートのかたちで共有する。 G．欧文書体｜岡野、坂野 初日は、実演を交えながら、ラテンアルファベットの歴史を学ぶ。2日目は平筆を使ってアルファベットの筆記法を体験するワークショップをおこなう。 H．コンピュータ基礎｜神子澤 Adobe製品を使用したワークショップをおこなうことで、コンピュータ操作の基礎技能を習得する。それぞれのワークショップごとに小作品を制作する。 I．ビッグプリンタトライアル｜坂野 1年生と4年生がペアを組み、上級生のアドバイスを受けながら、1年生が架空の展覧会のポスターを制作する。出来上がったデータを最終的に大型プリンターで出力し、一連の作業の中で、illustrator®とphotoshop®の基礎スキルを学び、制作の進行、データの作成方法と大型出力機器の使い方を習得する。		

	J．メディアとファッション（ー）｜廣瀬 主に近代以降、ファッション史を動かした代表的なスタイル、プレゼンテーションに着目することで、ファッションが社会に対してどのような力を持ち、何ができるのかを考察する。 K．オムニバス（ー）｜寺井、鈴木、廣瀬、坂野、下浜、樺島 教員6名が新入生に対し、自身の専門領域を交えながら自己紹介をおこなう。 L．専攻全体のプレゼンテーション、ミーティング 卒業制作最終審査、絵本最終プレゼンテーション、学期末のVDミーティング、以上3つの全学生を対象としたイベントについて、コメントシート、レポートを作成し、提出する。 ★Adobe Photoshop、Adobe Illustratorは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステム社）の商標です。
予習・復習	担当教員より別途指示する。
教科書	プリントを配付する。
参考書	資料を配付する。
教材	スライド･PC
履修上の注意	大幅な欠席、課題の未提出、初日の課題説明、最終日のプレゼンテーション及び中間チェックを欠席すると単位習得できない。
成績評価 **(~H29)**	作品提出、課題の到達度、プレゼンテーション、積極的な授業態度などを総合的に評価する。 [A]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用した課題制作ができた。 [C]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解することができた。
成績評価 **(H30~)**	作品提出、課題の到達度、プレゼンテーション、積極的な授業態度などを総合的に評価する。 [S]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を高いレベルで理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [A]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用した課題制作ができた。 [C]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解することができた。
主担当教員	廣瀬純子

令和4年度シラバス

番号	(B6)-02	履修コード	4151Z1
科目名	視覚デザイン演習（二）	科目英語名	Practice of Visual Design (2)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	視覚デザイン専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	2年視覚デザイン演習室
単位	7	定員	20名
担当教員	○下浜臨太郎・廣瀬純子・寺井剛敏・鈴木康雄・坂野　徹・樺島　脩　（非常勤）池田洋一郎・小林慎一・大西英史・鳥海　修・作本慎介・鈴木克彦・中川暁文・とりごえまり		
授業概要	一年を通して実習を中心としたオムニバス形式の集中講義をおこなう。各々の授業で作品制作と発表をおこなうことで、デザインの目的や機能を幅広く学ぶ。		
到達目標	各課題を通して、ビジュアルコミュニケーションに関わる専門的な技術を習得し、多様な表現を使ったデザインの構築力を身につける。		
授業計画	視覚デザイン演習（二） ★詳細な予定については、各授業の開始時に告知する。 A．絵本｜寺井、鈴木、廣瀬、坂野、下浜、樺島、とりごえ 2年次の最後の課題として、アイデア力、企画力、構成力、描画力、制作力など2年間で学んだデザイン技術を集約した「絵本」を制作する。実質的な進級課題として、一定のボリュームとクオリティを期待する。課題の評価は専攻教員6名全員でおこなう。 B．新聞広告｜相楽、下浜 新聞社が主催するコンペ課題に沿って新聞広告を制作し、実際にコンペに出品する。新聞というメディアの特性を活かした表現を追求する。実習の中で、アイデアの作り方、表現方法、キャッチコピーの作成手順を学ぶ。 C．メディアとファッション（二）｜廣瀬、（非常勤） ハイブランドのコレクションやアーカイブを通し、デザインによって物語が生み出されていることを理解する。ブランド構築、ナラティブ・デザインの考え方について学ぶ。 D．物語｜大西、坂野 本授業は、物語の基礎構造を理解することを目的とする。三幕構成、物語の骨格、キャラクターシート、登場人物相関図、世界観の設定などのマニュアルシートを使い誰でも物語が作れるよう、順序立てて授業を進める。最終的に絵コンテのかたちで1本の物語を制作する。 E．HTML & CSS｜作本 HTMLとCSSの基礎知識とスタイルシートの概念を学ぶ課題として、個人ページを制作し、サーバにアップロードしてインターネット上で見ることができる状態にする。 F．写真｜中川、鈴木 表現方法の一つとしての写真技術を通して、 写真表現の基礎技術を習得する。 実習として「自然光、人工光およびミックス光による撮影」「スタジオにおける静物撮影の基礎的なライティング」「白黒プリントの現像」をおこなう。 G．サウンド｜池田 映像表現におけるサウンドの役割や表現の奥行きを知り、実制作に活用できる技術を身につける。実習として、「サウンドアプリケーションの習得」「サンプリング音源を使ったデジタル編集」「ムービーを活かしたサウンド編集」をおこなう。最終課題として、テーマとなる映像に合わせたサウンドをデータ制作する。 H．和文書体｜鳥海、（坂野） 和文書体設計の第一人者である鳥海修先生による講演とワークショップをおこなう。和文制作の技法を通じて造形の基礎を学ぶ。 I．視覚デザイン概論｜下浜、鈴木 一週間ごとに、出題するテーマに沿ってアイデアを考え、出題の翌週に発表及び作品投票をおこない順位を公表する。他の学生とのアイデアの伝わり方や見え方の違いを知ることで、表現の幅		

	を広げ、多角的にアイデアを生み出せる発想の基礎力を修得する。 J．映像論｜鈴木 音と映像を含むコミュニケーションメディアの歴史と現状を知り、今後の作品制作につながる基礎知識とソフトウェアの基礎を学ぶ。座学として、映像史、メディア史、アイデアの作り方を学ぶ。実技課題として、「ストップモーションの技術をアレンジした視覚実験作品」及び「『歩く』をテーマとしたショートムービー」を制作する。★本授業は午後に開催する。 K．専攻全体のプレゼンテーション、ミーティング 卒業制作最終審査、絵本最終プレゼンテーション、学期末のVDミーティング、以上3つの全学生を対象としたイベントについて、コメントシート、レポートを作成し、提出する。
予習・復習	担当教員より別途指示する。
教科書	プリントを配付する。
参考書	資料を配付する。
教材	スタジオ、ビデオ、書画カメラ、DVD,スクリーン
履修上の注意	課題説明や中間発表、プレゼンテーションに遅刻、欠席すると単位習得できない。
成績評価 **(~H29)**	作品提出、課題の到達度、プレゼンテーション、積極的な授業態度などを総合的に評価する。 [A]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用した課題制作ができた。 [C]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解することができた。
成績評価 **(H30~)**	作品提出、課題の到達度、プレゼンテーション、積極的な授業態度などを総合的に評価する。 [S]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を高いレベルで理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [A]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用した課題制作ができた。 [C]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解することができた。
主担当教員	下浜臨太郎

令和4年度シラバス

番号	(B6)-03	履修コード	4152Z1
科目名	コンピュータ演習	科目英語名	Computer Practice
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	視覚デザイン専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	コンピュータ室
単位	2	定員	24名
担当教員	坂野　徹		
授業概要	コンピュータを使ってデザインするための基本的な知識や技術を習得し、 デザイン制作やDTPデータ制作の導入とする。		
到達目標	DTPの作業で主となるソフトAdobe Illustrator, Adobe Photoshop,Adobe InDesignを使って、デザインするための基本的なポイントを学ぶ。		
授業計画	組版を通して、実践的な文字の扱い方とInDesignの基本操作とその概念を理解する。 具体的な内容は授業以下の通りである。 文字の基本 字体、字形、字種、書体、書風、フォントといった文字に関わる言葉の定義から、フトコロ、筆速、粘着度（脈絡）、実画／虚画、気脈、筆脈、明朝体活字の歴史（宋朝体→明朝体→明朝体＋楷書）、混植（和欧、かな）、オプチカルスケーリング、よりひき、視認性／可読性、Std書体／Pro書体、Unicode、異体字、オープンソースフォントなど文字について多角的に理解する。 本の帯 規定の紙面の中でフォントをレイアウトする。イラスト、罫線、図形などは使わず、白い紙地に黒い文字で文字要素のみを使って構成する。 日本語組版の理解と実践 文字サイズ、組み方向、並びモード、字送り（字間）、行長、行送り（行間）、行揃え、版面、段間、マージン（天、地、ノド、小口）、判型、アキ量設定、混植、見出し書体／本文書体.「均等字送り」と「プロポーショナル」2通りの文字詰めなど基本的な知識を習得し、日本語の文法と句読点や括弧類、約物の用法を理解する。 誌面レイアウト InDesignの実習として、用意したフォーマット用紙に従って、読みやすい誌面をレイアウトする。テキスト情報や画像のレイアウトを情報編集の観点から考える。 スタイルシート InDesignの根幹であるスタイルシートの概念を理解する。 表現と構造の分離、文字サイズ、色、字間、行間、禁則、均等詰め、正規表現など日本語組版に関わるあらゆる属性を設定する。 製本実習 Sコートを使った貼り合わせ製本の実習をおこなう。 クラスメイト冊子 本授業の最終成果物として、視覚デザイン専攻2年生全員の紹介冊子を制作する。名前、自己紹介文（約400字）過去の作品画像（イラスト、写真、データ、映像など）などを原稿として用意し、B5判の冊子を完成させる。 *Adobe Photoshop,Adobe Illustrator,Adobe InDesignは、Adobe Systems Incorporated の商標です。		
予習・復習	各自がレベルを考慮しておこなうこと。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	印刷物、PC		
履修上の注意	コンピュータ台数の24人まで。		

成績評価 **(~H29)**	作品提出、課題の到達度、プレゼンテーション、積極的な授業態度などを総合的に評価する。 [A]組版とDTPに関する基本的な概念を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B]組版とDTPに関する基本的な概念を理解し、それらを応用した課題制作ができた。 [C]組版とDTPに関する基本的な概念を理解することができた。
成績評価 **(H30~)**	作品提出、課題の到達度、プレゼンテーション、積極的な授業態度などを総合的に評価する。 [S]組版とDTPに関する概念を高いレベルで理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [A]組版とDTPに関する基本的な概念を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B]組版とDTPに関する基本的な概念を理解し、それらを応用した課題制作ができた。 [C]組版とDTPに関する基本的な概念を理解することができた。
主担当教員	坂野　徹

令和4年度シラバス

番号	(B6)-04	履修コード	3613Z1
科目名	印刷演習	科目英語名	Practice of Printing
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	視覚デザイン専攻2年次	曜日・時限	1〜4限
履修区分	必修	教室	コンピュータ室
単位	2	定員	24名
担当教員	坂野　徹		
授業概要	印刷の基本的な理解とDTPを学ぶ。 コンピュータを使ってデザインする為の基本的な知識や技術を学び、実際にオフセット印刷物を制作する。 印刷所を見学する。		
到達目標	印刷の仕組みを理解し、その特徴を把握する。 CMYK、網点、線数、解像度、製版、紙、校正などを理解する。 DTP入稿に必要なデータ作成技術を習得する。		
授業計画	特色オフセット印刷の一連の工程を通して、実践的な版の扱い方、データ入稿の基本とその概念を理解する。 具体的な内容は授業以下の通りである。 印刷の基本 四大印刷（凸版、凹版、平版、孔版）、印刷の五大要素（原稿、版、印刷機、インキ、媒体）、CMYK、RGB、色見本、網点、線数、解像度、製版など印刷について多角的に理解する。 紙の基本 版型、斤量の理解、紙の値段、取都合、紙目、紙の幾何学（√2の特徴、√2〜5、黄金比）、紙の種類（塗工紙、非塗工紙、ファンシーペーパー）、紙見本など紙について多角的に理解する。 パスワーク Adobe Illsutorater*を使って、古いかな書体をトレースすることで、手とベジェ曲線を駆使し美しい曲線の描画技術を習得する。 二色刷り DTPの作業で主となるソフト、Adobe Illsutorater*、Adobe Photoshop*を使って、特色二色刷の入稿データを作成する。単色の濃淡での表現を習得する。 ポストカード 本授業の最終成果物として、キーワードからイメージを広げ、自分で作成したロゴとともに特色6色／プロセス4色のポストカード入稿データを作成する。印刷工程の中で、特色インキ、紙材の選定、色校正の指示など実際のデザインの現場での必要な知識を修得する。 *Adobe Photoshop,Adobe Illustratorは、Adobe Systems Incorporated の商標です。		
予習・復習	データ入稿の手順を必ず復習すること。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	PC		
履修上の注意	コンピュータ台数の24人まで。		
成績評価 (~H29)	作品提出、課題の到達度、プレゼンテーション、積極的な授業態度などを総合的に評価する。 [A]基本的な印刷の知識を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B]基本的な印刷の知識を理解し、それらを応用した課題制作ができた。 [C]基本的な印刷の知識を理解することができた。		
成績評価 (H30~)	作品提出、課題の到達度、プレゼンテーション、積極的な授業態度などを総合的に評価する。 [S]基本的な印刷の知識を高いレベルで理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [A]基本的な印刷の知識を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B]基本的な印刷の知識を理解し、それらを応用した課題制作ができた。 [C]基本的な印刷の知識を理解することができた。		
主担当教員	坂野　徹		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-05	履修コード	4153Z1
科目名	映像演習	科目英語名	Practice of Visual Image Processing
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	視覚デザイン演習2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	コンピュータ室
単位	2	定員	24
担当教員	下浜臨太郎（藤岡将史）		
授業概要	別名「映像テクニック」。映像ってどうやってつくるの!?まだ映像を本格的にさわったことないあなたへ。この授業では様々な撮影、編集方法を学びます。スローモーション、逆再生、コマ撮り…など映像にまつわるいろいろなテクニックを紹介かつ実制作をする授業です。まずはスマートフォンを使った手軽な制作方法で、初めてでもサクサク制作！さまざまな映像のテクニックを学びます。		
到達目標	映像というメディアに慣れ親しみ、短い作品を制作する。		
授業計画	演習パートと講義パートを交互に繰り返すことで、映像の制作に慣れ親しもう！ ◯ミュージックビデオシャワー 毎日、授業ではいろいろな手法のミュージックビデオをシャワーのように見まくるぞ。手法別にまとめてあるので、制作者目線で鑑賞しよう！ ◎コマ撮り スマートフォンを使えば、コマ撮りも簡単！誰もいないそのときに…家の中ではどんなことが起こるだろう？身近なものを素材に、想像をふくらませて撮影してみよう！ ◯CMシャワー 特別講師に、広告業界きってのエースプロデューサーをお呼びして、最新のCM事例を手法別に紹介。制作プロデューサーしか知らない制作の裏舞台をご紹介します。 ◎時報 この授業で最終的に制作するのは「時報」。時刻になると流れる映像だ。手法は、実写、コマ撮り、アニメーション、なんでもあり。金沢市の公共スペースにて上映されることを目標に制作します。		
予習・復習	好きな（映像作品という視点で見て）ミュージックビデオをブックマークする。		
教科書	授業内で随時指示		
参考書	授業内で随時指示		
教材	スマートフォン／パソコン		
履修上の注意	履修可能人数はコンピュータ室のPC台数上限（24台）まで。		
成績評価 **(~H29)**	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度を総合的に評価する。 [A]映像に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に高いレベルで取り入れられている。 [B]映像に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。 [C]映像に関する知識と表現が習得されている。		
成績評価 **(H30~)**	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度を総合的に評価する。 [S]映像に関する知識と表現が高いレベルで習得し、他にはない制作物に昇華することができた。 [A]映像に関する知識と表現が高いレベルで習得し、作品に高いレベルで取り入れられている。 [B]映像に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。 [C]映像に関する知識と表現が習得されている。		
主担当教員	下浜臨太郎		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-06	履修コード	4154Z1
科目名	視覚デザイン演習（三）	科目英語名	Practice of Visual Design (3)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	視覚デザイン専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	3年視覚デザイン演習室
単位	14	定員	20名
担当教員	○樺島脩・寺井剛敏・鈴木康雄・廣瀬純子・坂野徹・下浜臨太郎　（非常勤）・福井崇人・早川和良・上岡大介・熊崎信也・尾上永晃・吉川義盛		
授業概要	一年を通して実習を中心としたオムニバス形式の集中講義をおこなう。各々の授業で作品制作と発表をおこなうことで、デザインの目的や機能を幅広く学ぶ。		
到達目標	各課題を通して、社会との関わりを視野に入れた俯瞰的な判断力を養い、より実践的なデザインの応用力を身につける。		
授業計画	授業計画　　★詳細な予定については、各授業の開始時に告知する。 A．企画課題（三）｜寺井、鈴木、廣瀬、坂野、下浜、樺島 これまでに修得した技術や経験を統合し、各自がテーマやメディアを自由に設定した作品を制作する。目的の設定、作業工程についても各自がセルフマネジメントする。学生をランダムな6つの班に分け、それぞれの班で、専攻教員を担当としたミーティングをおこなう。班のミーティングだけでなく、自分の制作に合った教員に、班を超えて積極的に相談することを推奨する。各教員の専門領域は以下の通り。 寺井＝ブランディング、プロモーション、企画制作ディレクション 鈴木＝映像、写真、素材全般 廣瀬＝ファッションエディトリアル、ファッションディレクション 坂野＝印刷、情報編集、物語 下浜＝グラフィック、広告企画 樺島＝エンターテインメント分野の商品企画、事業企画 B．テストマーケティング｜樺島 本課題は、双方向性を出すこと、販売を想定すること、期限以外の規制はなく、表現手法については自由とする。3年次の軸となる課題として、一定のボリュームとクオリティを期待する。実制作に入る前に、メディアが果たす役割や効果を調査分析し、客観的な視点で検証する。 C．映像｜鈴木 企画力、調整能力、協調性、スケジュール管理力など。グループワークによる映像作品制作を通じて、制作と編集の流れを修得する。制作の手順として、内容、手法などテーマを提案した学生を中心にグループを立ち上げる。各自が役割分担を考えながら、自発的にどこかのグループに参加する。 グループごとに、ストーリー、手法、各自の役割分担などを設定し制作する。 作品上映とプレゼンテーションをおこなう。 D．インフォグラフィックス｜坂野 インフォグラフィックスとは、「information」とグラフィック「graphic」を合わせた造語で、言葉や数字だけでは伝わりづらい情報をグラフやチャート、イラスト、地図などを使ってわかりやすく視覚的に表現したものである。最終的に各自が興味を持つテーマを一つ選び、インフォグラフィックスを制作する。深く対象の構造を理解する過程で、情報を構造的に扱う力、情報を視覚化する力を養う。 E．アイデンティティボックス｜下浜 自分のこれまでの経験を見つめ直し、自分自身をテーマにしたオリジナル作品を制作する過程で、自己のアイデンティティと自分ならではの表現方法を探る。素材、形態は自由とする。自分の好きなモノを探し集め、その中からキーワード探る。個別にヒアリングをおこない、自分の中にある表現や素材など、今の自分に繋がるヒントを探る。 F．データビジュアライゼーション｜吉川 初心者学習用のプログラム言語を使って、データを使った表現方法を学ぶ。 G．メディアとファッション（三）｜廣瀬 モードの視点で「きもの」に親しむ3日間。きものの色柄、フォルムには、日本の美意識がどのように反映されているのか、また、きものが現代のファッションにどのような影響を与えているの		

	かを、講義と体験型授業を通して学ぶ。 H．パーパスブランディング｜福井、（寺井） 学生1人ひとりの、強み、弱みを各自が理解し、今後目指すべき方向性をワークショップ及び講義との併用により明確にする。この講義前に取り組んだIDENTITY BOX課題の講評も個別おこなっていく。 I．エントリーシート｜坂野 構造的に就職活動を理解し、論理的に文章を組み立てる術を身につけることで、使えるエントリーシートの作文法を修得する。ビフォアーアフターを例にあげながら、実用文の基本的な型、日本語文法、役物の使い方など、エントリー作成に必要なノウハウを学ぶ。 J.キャリアプランニング｜鈴木、坂野、樺島 卒業後に対して具体的なビジョンとプランを持ち、就職活動に向かっていく知識や技術を身につける。 各種業界に対する知識、エントリー書類作成、インターンへの対応、ポートフォリオの組み立てなど、進路に対する総合的なテーマに複数の教員が対応する。 K．CMディレクション｜早川 日本を代表するCMディレクターである早川和良先生を講師に迎え、CM制作におけるさまざまな役割やコミュニケーション方法、映像制作に対する考え方を具体例を交えながら学ぶ。進行中の映像課題に対するアドバイスと最終プレゼンテーションへの参加を含む。 L．3年生アドバイス｜寺井 4年生が就職活動等で得たノウハウを、就職活動を控えた3年生に自らの経験をふまえて伝える。4年生が企画課題チームミーティングにも参加し、制作に関するアドバイスなど個別指導も行う。 M．専攻全体のプレゼンテーション、ミーティング 卒業制作最終審査、絵本最終プレゼンテーション、学期末のVDミーティング、以上3つの全学生を対象としたイベントについて、コメントシート、レポートを作成し、提出する。
予習・復習	担当教員より別途指示する。
教科書	適宜指示する。
参考書	資料を配付する。
教材	ビデオ、DVD、PC、プリント配布など
履修上の注意	課題説明や中間発表、プレゼンテーションに欠席すると単位習得できない。 ミーティングには必ず参加すること。
成績評価 **(~H29)**	
成績評価 **(H30~)**	作品提出、課題の到達度、プレゼンテーション、積極的な授業態度などを総合的に評価する。 [S]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を高いレベルで理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [A]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用した課題制作ができた。 [C]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解することができた。
主担当教員	樺島　脩

令和4年度シラバス

番号	(B6)-07	履修コード	4155Z1
科目名	広告演習	科目英語名	Practice of Advertising and Copywriting
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	視覚デザイン専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	
単位	1	定員	20名
担当教員	○樺島脩　（非常勤）尾上永晃		
授業概要	実際に実行したキャンペーン事例から、裏にある企画の意図、仕組み、メディアの構造を学ぶ。演習では、キャンペーンの作る上でのアイデアの出し方について講義中の時間をつかって企画をする。		
到達目標	デザインを単なる表現としてとらえるというところから、メディア、文脈、機能、といった事柄を含む立体的な計画を立てる。体験をデザインする。世の中にあるメディアをうまく使い、文脈をつくり、体験をさせるといった一連の流れを設計できる力をつける。		
授業計画	視覚デザイン演習(三)の「テストマーケティング」の授業と連動させる。 課題）世の中の事例の中で、メディアをうまく使ったキャンペーンやコミュニケーション戦略の事例を探し、自分の興味のあるものを選び、その事例のメディア設計の簡単な図解をする。企画者の意図、商品やサービスとの関連性などを深く考えることにより、自分が企画立案する際の手がかりをつくる。 講評）自分の選んだ事例から、どういったことを発見できたか？企画者の意図、事例の本質的なアイデアに近づけたかどうかを見て、その深さを評価する。自分の調査した事例をまとめたものを初めてその事例を見る人にもわかりやすく、プレゼンテーションする。 講義）キャンペーン、プロモーションなどのコミュニケーションの最新事例と、実際の現場での仕事の設計のしかたを学ぶ。講師が実際に手掛けた仕事の事例をもとに、最新のメディア環境、現在の時代の流れを考察する。実際に使われた企画書などを見ることで、企画立案の方法論を学ぶ。 授業内で企画する簡単な演習も。		
予習・復習	実際に実行したキャンペーン事例を1つ選び、分析しておく。結果は授業内で発表する。		
教科書	とくにな		
参考書	とくになし		
教材	筆記用具／パソコン		
履修上の注意	とくになし		
成績評価 (~H29)	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [A]メディアに関する視野を広げ、高いレベルで理解することができた。 [B]メディアに関する視野を広げ、理解することができた。 [C]メディアに関する視野を広げることができた。		
成績評価 (H30~)	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度を総合的に評価する。 [S]メディアに関する視野を広げ、他にはない制作物に昇華することができた。 [A]メディアに関する視野を広げ、高いレベルで理解することができた。 [B]メディアに関する視野を広げ、理解することができた。 [C]メディアに関する視野を広げることができた。		
主担当教員	樺島脩		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-08	履修コード	4156Z1
科目名	画像処理演習	科目英語名	Practice of Digital Image Processing
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	視覚デザイン専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	スタジオ
単位	1	定員	20名
担当教員	○鈴木康雄　（非常勤）高村　達・山口省一		
授業概要	デジタルをベースにした写真技術、画像編集技術に関して、演習を通して学習する。		
到達目標	アナログ技術を基本にデジタル写真との違いや特性を知り、 ソフトを活用した高度な画像処理のノウハウを学ぶ。 高画質の画像データをコントロールし、思い通りのプリント仕上げる。 高画質の画像データとレイアウトを駆使し、作品制作とポートフォリオ制作に活かす。		
授業計画	高村　達 １、スタジオワークを中心に、撮影に必要な知識と技術の実践を学ぶ。 商品、静物、人物撮影等のライティングやデジタルカメラの設定を学ぶ。 ２、RAWデータを基本として高水準のデジタルデータを作成する。 RAWデータの扱いやカラーキャリブレーションの基礎を学ぶ。 ３、高品質のデジタルカメラを使用し、撮影から撮影後の画像処理を実習する。 中型デジタルカメラの扱いと撮影後の処理を学ぶ。 ４、古典技法（プラチナプリント）などを体験し、写真表現に対する総合的な 理解を深める。 山口省一 写真業界におけるカラーキャリブレーションの実際を学ぶ。 自らの環境をコントロールし、高水準のデジタルデータの完成を目指す。		
予習・復習	予習：高品質のデジタル画像に対するリサーチ及び作品ファイルの参考例をリサーチしておく。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	市場におけるパンフレットやカタログ等。その他必要に応じて配付する。		
教材	高画質のデジタルカメラ、PC、スキャナ、ビデオ、DVD、プリント配布など		
履修上の注意	課題説明や中間発表、プレゼンテーションに欠席すると単位習得できない。		
成績評価 (~H29)	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度を総合的に評価する。 [A]課題提出がなされた上で、実習の内容を十分に理解し、それらが高いレベルで作品に取り入れられている。 [B]課題提出がなされた上で、実習の内容を十分に理解し、作品に取り入れられている。 [C]課題提出がなされた上で、実習の内容が理解できてる。		
成績評価 (H30~)	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度を総合的に評価する。 [S]写真に関する知識と表現がきわめて高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [A]写真に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に取り入れられている。 [B]写真に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。 [C]写真に関する知識と表現が習得されている。		
主担当教員	鈴木康雄		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-09	履修コード	3841Z1
科目名	パッケージ演習	科目英語名	Practice of Package Design
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	視覚デザイン専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	3年視覚デザイン演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	◯寺井剛敏・畝野祐司（非常勤）石浦弘幸		
授業概要	レクチャーと制作を通して実社会におけるパッケージデザインの流れや ノウハウを理解するとともに、オリジナリティある作品を提案する。 クライアントを設定して現状をリサーチした上で、問題解決となるデザイン提案を目指す。		
到達目標	問題解決を具体化するとともに、マーケットの動向やリサーチ結果に根ざした提案を試みる。 同時にオリジナリティを重視した作品を制作する。		
授業計画	パッケージデザイン開発の実習フロー １、パッケージデザインにおける現状を事例をもとに解説する。 パッケージデザインに求められる機能を理解する。 マーケットにおける役割と成功例を知り、またリサーチを通して独自の視点を見つける。 ２、与件の整理手法（ブランド・ポジショニング）を決定する。 ３、具体的な開発フローを提案する。 ４、デザイン上の留意点について論ずる。 ５、個々にパッケージデザインの制作を行う。 設定テーマのアイデア・デベロップメント 決定アイデアのビジュアル化、プロダクトダミー制作 最終モデルの制作と、プレゼンテーションに必要なツールを制作 ６，作品のコンセプトをボードにまとめる 外部講師からの講義、アドバイスを予定 ７、作品をプレゼンテーションする。 その他、 必要に応じて、工場見学等をおこなう。		
予習・復習	予習：市場に関する事前調査を行う。 復習：課題終了後に再度市場調査して、事前との違いを実感し、 踏み込んだ視点を見いだす。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 **(~H29)**	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度を総合的に評価する。 [A]パッケージに関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的かつ効果的に取り入れられている。 [B]パッケージに関する知識と表現が習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [C]パッケージに関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。		
成績評価 **(H30~)**	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度を総合的に評価する。 [S]パッケージにに関する基本的な知識と技術を高いレベルで理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [A]パッケージに関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的かつ効果的に取り入れられている。 [B]パッケージに関する知識と表現が習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [C]パッケージに関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。		
主担当教員	寺井剛敏		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-10	履修コード	4157Z1
科目名	視覚デザイン演習（四）	科目英語名	Practice of Visual Design (4)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	視覚デザイン専攻4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	4年視覚デザイン演習室
単位	9	定員	20名
担当教員	◯寺井剛敏・鈴木康雄・廣瀬純子・坂野　徹・下浜臨太郎・樺島脩　（非常勤）中垣信夫・川村真司		
授業概要	数人の班に分かれ、専攻教員を担当としたミーティングを重ね、各自が作品制作を進める。制作や発表を通じて、卒業制作につながるテーマを探求する。		
到達目標	これまでに修得した技術や経験を統合し、自身のアイデンティティや独自の表現を取り入れた作品を制作する。		
授業計画	A．企画課題（四）A｜寺井、鈴木、廣瀬、坂野、下浜、樺島 これまでに修得した技術や経験を統合し、各自がテーマやメディアを自由に設定した作品を制作する。目的の設定、作業工程についても各自がセルフマネジメントする。学生をランダムな6つの班に分け、それぞれの班で、専攻教員を担当としたミーティングをおこなう。班のミーティングだけでなく、自分の制作に合った教員に、班を超えて積極的に相談することを推奨する。各教員の専門領域は以下の通り。 寺井＝ブランディング、プロモーション、企画制作ディレクション 鈴木＝映像、写真、素材全般 廣瀬＝ファッションエディトリアル、ファッションディレクション 坂野＝印刷、情報編集、物語 下浜＝グラフィック、広告企画 樺島＝エンターテインメント分野の商品企画、事業企画 B．企画課題（四）B｜寺井、鈴木、廣瀬、坂野、下浜、樺島 ★「企画課題（四）A」に同じ。 C．ブランドコラボ｜小梨、廣瀬 コンペ形式による、ファッションブランドとのコラボレーション。ファッション界が直面する課題に対し、デザインで何ができるかを考え、メッセージを視覚化して伝える。 D．ビッグプリンタトライアル｜坂野 1年生と4年生がペアを組み、上級生のアドバイスを受けながら、1年生が架空の展覧会のポスターを制作する。出来上がったデータを最終的に大型プリンターで出力し、一連の作業の中で、illustrator®とphotoshop®の基礎スキルを学び、制作の進行、データの作成方法と大型出力機器の使い方を習得する。 E.3年生アドバイス｜寺井 4年生が就職活動等で得たノウハウを、就職活動を控えた3年生に自らの経験をふまえて伝える。4年生が企画課題チームミーティングにも参加し、制作に関するアドバイスなど個別指導も行う。 ★Adobe Photoshop、Adobe Illustratorは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステム社）の商標です。		
予習・復習	チームミーティングに必要な資料を準備しておく。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	ビデオ･DVD･PC等		
履修上の注意	課題説明や中間発表、プレゼンテーションに遅刻、欠席すると単位習得できない。		

成績評価 **(~H29)**	作品提出、課題の到達度、プレゼンテーション、積極的な授業態度などを総合的に評価する。 [A]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用した課題制作ができた。 [C]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解することができた。
成績評価 **(H30~)**	作品提出、課題の到達度、プレゼンテーション、積極的な授業態度などを総合的に評価する。 [S]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を高いレベルで理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [A]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用した課題制作ができた。 [C]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解することができた。
主担当教員	寺井剛敏

令和4年度シラバス

番号	(B6)-11	履修コード	4158Z1
科目名	卒業制作	科目英語名	Graduation Work
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	視覚デザイン専攻4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	4年視覚デザイン演習室
単位	10	定員	20名
担当教員	◯寺井剛敏・鈴木康雄・廣瀬純子・坂野　徹・下浜臨太郎・樺島脩		
授業概要	数人の班に分かれ、専攻教員を担当としたミーティングを重ね、各自が卒業制作を進める。また、班を超えて積極的に各教員に相談することで、自身のコンセプトに横断的な理解を深めていく。		
到達目標	学びの集大成として、各自が自由にテーマを設定し、卒業制作をおこなう。		
授業計画	学びの集大成として、各自が自由にテーマを設定し、卒業制作をおこなう。6つの班に分かれて、週一回程度、専攻教員を担当としたミーティングをおこない段階的に制作を進める。班を超えて多くの教員に積極的に相談することを推奨する。各教員の専門領域は以下の通り。 寺井＝ブランディング、プロモーション、企画制作ディレクション 鈴木＝映像、写真、素材全般 廣瀬＝ファッションエディトリアル、ファッションディレクション 坂野＝印刷、情報編集、物語 下浜＝グラフィック、広告企画 樺島＝エンターテインメント分野の商品企画、事業企画		
予習・復習	チームミーティングに必要な資料を準備しておく。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	ビデオ･DVD･PC等		
履修上の注意	1次審査、2次審査、最終ラインナップ、最終審査に欠席すると単位習得できない。 チームミーティングには必ず参加すること。		
成績評価 **(~H29)**	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、積極的な制作姿勢を総合的に評価する。 [A]視覚デザインとコミュニケーションに関する知識を理解し、それらを応用し、表現として作品制作に昇華ができた。 [B]視覚デザインとコミュニケーションに関する知識を理解し、それらを応用し作品制作ができた。 [C]視覚デザインとコミュニケーションに関する知識を理解し、作品制作ができた。		
成績評価 **(H30~)**	作品提出、課題の到達度、プレゼンテーション、積極的な授業態度などを総合的に評価する。 [S]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を高いレベルで理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [A]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用した課題制作ができた。 [C]視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解することができた。		
主担当教員	寺井剛敏		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-12	履修コード	4159Z1
科目名	製品デザイン演習（一）	科目英語名	Practice of Industrial Design (1)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	1年デザイン科演習室
単位	5	定員	20名
担当教員	根来貴成・○村中　稔・浅野　隆・河崎圭吾		
授業概要	デザインの役割や目的を幅広く学ぶとともに、与えられたテーマやプロセスから製品デザインの基本的な要素を修得する。		
到達目標	製品デザインの基礎的表現力、モデル制作、コンピュータスキル等を身につけ、自身の発想や考え方を美しく魅力的な造形に落とし込み、第三者が共感する製品としてプレゼンテーションできる。		
授業計画	A、 スタートデザイン　前期最初（村中・浅野・河崎・安島・根来） 4年生との合同によるグループ制作。自然や社会性のあるテーマをうけて、短期間にデザイン展開し作品を完成させて全学年の前でプレゼンテーションを行う。グループは4年生、1年生半々の数名で構成する。4年生のリードのもとに、共同のテーマを軸にデザイン効果を考えて構想する。学年を超えた交流を図ると共に、この授業はデザインの一般的包括的な基礎的内容をすべて含んでおり、デザインの目的や考え方の概要を理解させると共に創造的で感動的な、生活や社会を豊かにする目的の製品をデザイン提案することを学ぶ。 B、 マーカースケッチ　後期（河崎、浅野、根来） １、スケッチの種類と現場での使われ方をスライドにより紹介。 ２、パースの基本（２消点基本図法、簡略図法、円、球体、分割、増殖、角R、明暗・陰影、立方体デッサン ３、ハイライトレンダリング ４、マーカー・パステルスケッチの基礎（車） ５、ラフスケッチ（カメラ）スケッチフォーマット、構図、大きさ、パース、配色、光と影、線の種類、マーカーの塗り方、背景、引き出し線、文字、リフレクション、素材表現、魅力あるグラフィック表現の解説。 ６、パソコンによる３面レンダリング ７、家電製品の分解スケッチを行い、製造条件や材料の特性を学ぶ。 C、「基礎造形」後期（村中） 手と眼とものの関係をデジタルカメラのデザインから学ぶ。握りやすい形や操作しやすい形を追求することで機能と造形に対する感性を磨く。 １、アイテムと関連商品調査 ２、構成部品の配列図 ３、ペーパーモデル ４、アイデア展開：アイデアスケッチ、レンダリング ５、ラフモデル制作 ６、モデル制作 ７、パネル制作 ８、プレゼンテーション D、 レイアウトプレゼンテーション　前期・後期（村中） 製品デザイン演習で制作したスタディモデルの写真やコンセプト、英語のキーワードなどをコンピュータ上でレイアウトし、プリントアウトしたものを提示しながらプレゼンテーションする。文章構築力やレイアウト、コンピュータスキル、発表方法などの習得を図る。		
予習・復習	レイアウトの授業で使用する写真資料は予め撮影しておく。（村中）		
教科書	図書館資料		
参考書	アイデア・ドローイング　中村純生・千徳英一　共立出版 /アイデアのつくり方/具体と抽象 新マーカーテクニック–かたちの発想から表現へ　清水吉治　グラフィック社 自動車とプロダクトデザインの基本と応用　平野幸夫　三樹書房		
教材	PC･ビデオ		
履修上の注意	授業初日は授業全体のお話をする為遅刻しないように。		

成績評価 **(~H29)**	
成績評価 **(H30~)**	個々の課題の到達度、積極的な授業態度、プレゼンテーション能力を総合して評価する。 [S]製品デザインについての基本的な知識や技術レベルが修得され、材料に関する知識と加工技術、デザインの表現力が特に高いレベルに到達している。 [A]製品デザインについての基本的な知識や技術レベルが修得され、材料に関する知識と加工技術、デザインの表現力が高いレベルに到達している。 [B]製品デザインについての基本的な知識や技術レベルが修得され、材料に関する知識と加工技術、デザインの表現力が充分なレベルに到達している。 [C]製品デザインについての基本的な知識や技術レベルが修得され、材料に関する知識と加工技術、デザインの表現力が一定のレベルに到達している。
主担当教員	村中　稔

令和4年度シラバス

番号	(B6)-13	履修コード	4160Z1
科目名	材料学演習（塗料）	科目英語名	Practice of Material Processing (Paint)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	塗装室
単位	1	定員	20名
担当教員	根来貴成		
授業概要	塗装は防腐、防錆、美化などの役割を果たし、仕上げには必要不可欠である。本演習では、そこで使用する塗料の特性や用途に応じて様々な機能性を持った塗料などを解説する。また、実際に異なる素材の塗装を行い、塗装工程と塗装技術を習得する。		
到達目標	塗料の特性を理解し、実際に異なる素材の塗装を行い、塗装工程と塗装技術を習得する。		
授業計画	1.安全教育 ＜作業環境の使用ルールの説明＞ ・挨拶、使用許可、作業姿勢、整理整頓、危険予知、作業着や髪型など ・塗装ブース、塗装用ガン、塗料の調合方法など 2.塗料の講義 ＜塗料と塗装についての説明＞ a. 塗料の概論 ・塗料の歴史 ・塗料の消費 ・塗料の種類と機能 b.塗料の組成 ・顔料の解説 ・樹脂の解説 ・添加剤の解説 c.塗装の概論 ・素材の種類と素地調整 ・塗装方法と設備、乾燥方法 ・産業と塗装（工業製品と構造物） 3. 塗装の実習 ＜異なる素材の塗装工程と塗装技術の指導＞ 木材、金属、プラスチック、石膏等の手板の塗装材に応じた塗装工程と塗装技術を習得する。 （下地調整、目止め、サーフェイサー、下塗り、上塗りなど。それぞれの行程の間には乾燥や研磨作業が入る。）		
予習・復習	実習は乾燥時間に配慮して行程を進めるため、遅れはその日内で完了させておくこと。		
教科書	『ペイントビジュアルVol.1・2　塗料概論編』　日本ペイント（株）		
参考書	素材別の塗装工程プリント		
教材	塗装用具一式		
履修上の注意	・化学物質アレルギーの者は事前に申告すること。 ・安全性に配慮した服装の着用義務（作業服等）。防塵・防毒マスク着用（まとめて注文）。		
成績評価 (~H29)			
成績評価 (H30~)	講義の理解度、積極的な実習の取り組み姿勢と提出物の技術、仕上げを総合して評価する。 [S]塗料についての基本的な知識や塗装技術が習得され、その特性を活かした技能が高いレベルに到達し、特に秀でている。 [A]塗料についての基本的な知識や塗装技術が習得され、その特性を活かした技能が高いレベルに到達している。 [B]塗料についての基本的な知識や塗装技術が習得され、その特性を活かした技能が一定のレベルに到達している。 [C]塗料についての基本的な知識や塗装技術が習得され、その特性を活かした技能が十分ではないが到達している。		
主担当教員	根来貴成		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-14	履修コード	3633Z1
科目名	材料学演習（木材）	科目英語名	Practice of Material Processing (Wood)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	木工加工室
単位	1	定員	20名
担当教員	根来貴成		
授業概要	木材製品を設計加工するには、木材の特性と加工方法について知る必要がある。本演習では、そこで必要な基礎知識と加工技術を身につける。		
到達目標	木工道具の仕立てからその道具を使う作業工程を通して、木の特性や加工技術を習得する。		
授業計画	1.安全教育 ＜作業環境の使用ルールの説明＞ 挨拶、使用許可、作業姿勢、整理整頓、危険予知、作業着や髪型など。 2.木工道具の基礎知識 ＜道具の仕立ての説明＞ ・鑿（ノミ）のメンテナンスと使い方の指導。 ・鉋（カンナ）のメンテナンスと使い方の指導。 ・鋸（ノコギリ）のメンテナンスと使い方の指導。 3.木材の加工 ＜道具の使い方の説明＞ 指示図面に従い、木片を各自がメンテナンスした道具を使って実際に加工し提出。 4.木工機械の基礎知識 ＜木工機械の種類と操作方法、安全管理の説明＞ ・パネルソー、ボール盤、ベルトサンダーなどの説明。 ・挨拶、使用許可、作業姿勢、整理整頓、危険予知、作業着や髪型など。 ※回転する機械では、巻き込み事故の危険性があるので軍手の使用は禁止。		
予習・復習	実習は木工道具の仕立てからその道具を使う作業工程に進むため、遅れはその日内に完了させておくこと。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	Understanding Wood / A Fine Woodworking Book 木工材料／雇用促進事業団職業訓練部会		
教材	入学時に木工道具一式を購入する。（一式 約￥28,000） 木材加工機械室の加工機械一式。		
履修上の注意	安全性に配慮した服装着用義務。（作業服等）		
成績評価 (~H29)			
成績評価 (H30~)	講義の理解度、積極的な実習の取り組み姿勢と提出物の技術、仕上げを総合して評価する。 [S]木材加工についての基本的な知識や技術が習得され、その特性を活かした技能が高いレベルに到達し、特に秀でている。 [A]木材加工についての基本的な知識や技術が習得され、その特性を活かした技能が高いレベルに到達している。 [B]木材加工についての基本的な知識や技術が習得され、その特性を活かした技能が一定のレベルに到達している。 [C]木材加工についての基本的な知識や技術が習得され、その特性を活かした技能が十分ではないが到達している。		
主担当教員	根来貴成		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-15	履修コード	3634Z1
科目名	材料学演習（金属）	科目英語名	Practice of Material Processing (Metal)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	金属加工室
単位	1	定員	20名
担当教員	浅野　隆		
授業概要	金属材料の知識と加工技術によるモデル制作		
到達目標	金属材料の知識と加工法を修得し、実際の金属材料を用いて正確なモデルを安全に制作するために必要な工具、工作機械などの使い方を修得する。		
授業計画	1日目・2日目 （講義）金属材料についての基礎的知識の習得 （実習）けがき針の制作 ・φ6のドリルロッドの先端をヤスリで削り出す。 ・持ち手の部分にデザインを施し、手作業工具で加工する。 ・紙ヤスリで表面を磨き、最終的には研磨剤で仕上げる。 ・先端を焼き入れ熱処理し、使える道具とする。 3日目・4日目 （講義）機械、工具の安全な使用方法（ノギス、ヤスリ、ボール盤、コンタマシン等） （実習）タップダイスの締結法によるペーパーウエイトの制作 ・与えられた材料にボール盤を使用して穴を開け、ハンドタップを使ってネジを切る。 ・持ち手となるφ6の金属棒にダイスを使ってネジを切る。 ・本体を手工具を使って切断切削、研磨して美しい造形を作る。 5日目・6日目 （実習）　ブックエンドの制作 ・与えられた材料の大きさからデザインする。 ・ペーパーモデルを作成する。 ・1ミリ厚の鉄板材料を使用し、コンタマシン、糸のこ等で切断し、手工具で仕上げる。 ・さび止めプライマーを塗装して仕上げる。 ・作品とデザインコンセプトをプレゼンテーションする。		
予習・復習	機械の安全な使い方は各自メモをとって理解しておぼえること。 実習課題はその日の内に与えられた行程まで進めておく。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	入学時に金工道具一式を購入する。		
履修上の注意	作業服着用		
成績評価 **(~H29)**	講義の理解度、積極的な実習の取り組み姿勢と提出物の加工技術、仕上げ、デザインを総合して評価する。 [A]金属材料についての基本的な知識や加工技術が習得され、その特性を活かしたデザイン表現が高いレベルに到達している。 [B]金属材料についての基本的な知識や加工技術が習得され、その特性を活かしたデザイン表現が充分なレベルに到達している。 [C]金属材料についての基本的な知識や加工技術が習得され、その特性を活かしたデザイン表現が一定のレベルに到達している。		
成績評価 **(H30~)**	講義の理解度、積極的な実習の取り組み姿勢と提出物の加工技術、仕上げ、デザインを総合して評価する。 [S]金属材料についての基本的な知識や加工技術が習得され、その特性を活かしたデザイン表現が高いレベルに到達し、特に秀でている。 [A]金属材料についての基本的な知識や加工技術が習得され、その特性を活かしたデザイン表現が高いレベルに到達している。 [B]金属材料についての基本的な知識や加工技術が習得され、その特性を活かしたデザイン表現が一定のレベルに到達している。 [C]金属材料についての基本的な知識や加工技術が習得され、その特性を活かしたデザイン表現が一十分ではないが到達している。		
主担当教員	浅野　隆		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-16	履修コード	4161Z1
科目名	写真演習	科目英語名	Practice of Photograph
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	スタジオ
単位	1	定員	20名
担当教員	○村中　稔　（非常勤）福島健一		
授業概要	写真撮影をとおしてデジタルカメラやライティング、デジタルデータなどの基本を学ぶ。		
到達目標	スタジオ撮影でのライティングや構図とデジタルデータを取扱うことができる。		
授業計画	１回目 写真撮影の基礎知識としての道具の種類や使用方法、デジタルカメラの基本操作を学ぶ。 １、テーマ説明 ２、被写体を各自で用意する。 ３、プロカメラマンから技法を解説する。 ４、スタジオでの撮影：用意した被写体に対して構図や照明効果を考慮して撮影する。 ５、パソコンで写真の光量や色調などを調整する。 ６、コンピュータ室で合評する。 ２回目 自分で表現したいイメージに合った構図やライティングを学ぶ。素材や色彩、造形との関連も意識させる。 １、テーマ説明 ２、被写体を各自で用意する。 ３、学生のモデルと撮影計画を確認し、撮影方法を指導する。 ４、スタジオ撮影：それぞれの学生がセットを組む。他の学生は撮影を補助する。 ５、パソコンで写真の光量や色調などを調整する。 ６、コンピュータ室で合評する。。 留意点 ・撮影用のセットづくりやライティングは複数の学生が協力する。 ・他のが学生が組み上げたセットを記録する。		
予習・復習	被写体を定めて撮影した写真を提出する。 個々の撮影に必要な素材を準備しておく。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	講師が撮影した空間やプロダクトのポートレイト。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)	個々の課題の到達度、積極的な授業態度、プレゼンテーション能力を総合して評価する。 [A]写真撮影に対する理解と分析、技術などが高いレベルに到達している。 [B]写真撮影に対する理解と分析、技術などが充分なレベルに到達している。 [C]写真撮影に対する理解と分析、技術などが一定のレベルに到達している。		
成績評価 (H30~)	個々の課題の到達度、積極的な授業態度、プレゼンテーション能力を総合して評価する。 [S]写真撮影に対する理解と分析、技術などが特に高いレベルに到達している。 [A]写真撮影に対する理解と分析、技術などが高いレベルに到達している。 [B]写真撮影に対する理解と分析、技術などが充分なレベルに到達している。 [C]写真撮影に対する理解と分析、技術などが一定のレベルに到達している。		
主担当教員	村中　稔		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-17	履修コード	4162Z1
科目名	製品デザイン演習（二）	科目英語名	Practice of Industrial Design (2)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	製品デザイン専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	2年製品デザイン演習室･工房
単位	10	定員	20名
担当教員	河崎圭吾・村中　稔・○浅野　隆・安島　諭・根来貴成　（非常勤）小倉ひろみ		
授業概要	製品デザインを、機能、構造、素材（加工法）、ジョイント（接合法）、コンセプト、行為・動作の要素に分けて、それぞれの視点からテーマにアプローチする。		
到達目標	基礎デザインと実際のデザインの橋渡しとして、製品デザインプロセスをマスターする。各課題を通して、製品デザインの基礎的知識や社会背景を理解するとともに、モデル制作技術やコンピュータスキル、プレゼンテーション能力などを身につける。		
授業計画	A、「機能」　前期（村中） テーマとなるアイテムの企画をとおして、ソフト面の機能であるインターフェイス(GUI)を学ぶ。 １、アイテムや使用環境調査 ２、企画案検討：GUIコンセプトシート（ユーザー、ニーズ、機能、イメージテイスト９ ３、タスクフロー検討：フローチャート作成 ４、画面フロー及びワイヤーフレーム検討 ５、ペーパープロトタイプ作成 ６、GUI完成 ７、プレゼンテーション B、「コンセプトとカタチ」　前期（河崎） 「コンセプトとかたち」の関係を「日用品」のデザインで学ぶ。言葉をカタチにする力／カタチを言葉にする力を磨く。 １、「コンセプトとカタチ」の事例紹介（宿題：テーマの日用品について調べてくる） ２、 日用品の使用実態調査を行う。その場でブレインストーミングを行いアイデアを共有する。 ３、 アイデア展開（アイデアスケッチ作成／ラピッドプロトタイピング作成） ４、コンセプト立案（5W1Hによる予測シナリオ作成／キーワード作成） ５、キーワードによるラフモデル作成／ラフモデルによるキーワードのブラッシュアップ／コンセプト決定 ６、最終モデル図面作成／モデル作成 ７、 プレゼンテーションパネル作成（イメージカットとコンセプト／使い方説明／アイデアスケッチのまめ） ８、 プレゼンテーション。A3縦の１枚のビジュアル（文字無し）と作品を使って１分間でコンセプトとカタチの関係を説明する。 ９、作品展示 C、「UCD（ユーザー・センタード・デザイン）」後期（安島） 人が置かれた状況や使う道具によって人々の行為や動作が変わる。フィジカルな体験とプロトタイピングを通してUCDのプロセスを身につける。 １、UCDとは　そのプロセスと考え方 ２、グループに分かれ、シミュレーターを用いた疑似体験を行い、エスノグラフィーを行う。 ３、エスノグラフィーによって得られた情報を分析してまとめ、プレゼンテーションを行う ４、テーマに基づき、行動観察、ディスカッション、ブレーンストーミングを行う ５、アイディア展開、プレゼンテーション ６、簡易モデルを制作し、自らの実証検証により改良を施す ７、グループによる検証とディスカッション ８、最終モデル制作と展示パネル、報告書の作成 ９、プレゼンテーションと作品展示、ポートフォリオの作成 D、「素材と構造と接合法」　後期（根来） 「日常生活を豊かにする卓上照明器具」をテーマに、素材の扱いとそれらを構成する構造と接合方法を考察する。 １、接合方法の調査（身の回りにある工業製品を観察・分解し、様々な接合方法（ファスナー）を100発見し、テクニカルイラストレーションに書き起こす。）		

	２、卓上ライトの調査（国内、海外メーカー調査、製品事例の紹介。） ３、アイデア展開／コンセプト立案（アイデアスケッチ作成、5W1Hによる製品イメージの展開。） ４、ラフモデル作成（素材の選定、接合方法を考慮した構造を考察しデザインをまとめる。） ５、最終モデル図面作成／最終モデル作成 ６、プレゼンテーション（A3縦のパネル2枚と作品を使って合評形式で行う。） ７、作品展示 ８、プレゼンテーションパネルを整理して提出（作品説明パネル、スケッチやラフモデルなどのプロセス、ファスナー100のイラスト。） E、プロダクトカラーリング（小倉） プロダクトにおける配色の基礎知識と素材や製造を意識した応用を、サンプルを用いて解説する。 F, 卒業制作インターンシップ（根来） 4年生の卒業制作の現場に入り、モデル制作を手伝うことによって、材料の加工技術や手法、デザインの考え方などを学ぶ。体験を通して自分がその立場になった時のことをイメージする。 G,研修旅行 主に実際の製品デザイン事例を見学する。デザインの歴史、制作現場、ショールーム、工場などモノづくり全般についての理解を深める。
予習・復習	それぞれの授業に於いて十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。
教科書	特になし。
参考書	それぞれの授業に於いて指示する。
教材	必要に応じて、その都度指示する。 コンピュータとビデオを使用して授業概要やポイントなどを説明する。
履修上の注意	特に無し。
成績評価 **(~H29)**	
成績評価 **(H30~)**	個々の課題の到達度、および積極的な授業態度、プレゼンテーション能力を総合して評価する。 [S]モノの本質を捉える洞察力を持ち、問題発見力、問題解決力、アイデアの展開力が高いレベルで修得され、素材の特性を理解し加工技術およびデジタルツールを駆使してデザインの表現力が特に高いレベルに到達している。 [A]モノの本質を捉える洞察力を持ち、問題発見力、問題解決力、アイデアの展開力が修得され、素材の特性を理解し加工技術およびデジタルツールを駆使してデザインの表現力が高いレベルに到達している。 [B]モノの本質を捉える洞察力を持ち、問題発見力、問題解決力、アイデアの展開力が修得され、素材の特性を理解し加工技術およびデジタルツールを駆使してデザインの表現力が充分なレベルに到達している。 [C]モノの本質を捉える洞察力を持ち、問題発見力、問題解決力、アイデアの展開力が修得され、素材の特性を理解し加工技術およびデジタルツールを駆使してデザインの表現力が一定のレベルに到達している。
主担当教員	浅野　隆

令和4年度シラバス

番号	(B6)-18	履修コード	4163Z1
科目名	コンピュータ演習Ⅰ	科目英語名	Computer Practice Ⅰ
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	製品デザイン専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	コンピュータ室
単位	2	定員	20名
担当教員	○河崎圭吾　（非常勤）高橋英行・田淵寛之・小野正晴		
授業概要	製品デザインに必要なスキルとしてライノセラスによるモデリングとレンダリングを学ぶ。キーショットのレンダリング技術と動画の編集スキルを学ぶ。グラスホッパーの基礎を学ぶ。		
到達目標	製品デザインの造形や色彩、素材などを検討することや、プレゼンテーションに利用できる道具として使いこなせるようになる。		
授業計画	ライノセラス演習 １、ライノセラスのガイダンスと基本メニュー画面設定方法について ２、基礎モデリング演習１　幾何形態の作り方。 ３、基礎モデリング演習２　色々な面の作り方。 ４、基礎モデリング演習3　マウスなど複雑な曲面の作り方。 ５、レンダリングとモデリングテスト キーショットレンダリング演習 １、キーショットのガイダンスと基本操作 ２、自分で題材を決めて基礎レンダリングを行う。ライティング設定、背景設定、マッピング等を学ぶ。 ３、ポスターを作ってプレゼンテーション。 キーショット動画演習 １、キーショットによる動画のガイダンスと基本操作 ２、自作のモデリングされたデータを使い動画の基礎演習 ３、動画を使って製品のプレゼンテーションを行う。 グラスホッパー演習 １、グラスホッパーを使った事例紹介とガイダス ２、グラスホッパーの基礎オペレーティングを学ぶ		
予習・復習	授業における講師の説明のメモを取り、操作手順を正しく理解し、充分に復習しておく。		
教科書	講師が制作したサンプル集及びフォーマットを使用する。		
参考書	図書館や講師が所有するものを適宜指示する。		
教材	コンピュータとビデオを使用して授業概要やポイントなどを説明する。		
履修上の注意	特になし		
成績評価 **(~H29)**	個々の課題の到達度、積極的な授業態度、プレゼンテーション能力を総合して評価する。 [A]テーマに対する理解と分析、技術などが高いレベルに到達している。 [B]テーマに対する理解と分析、技術などが充分なレベルに到達している。 [C]テーマに対する理解と分析、技術などが一定のレベルに到達している。		
成績評価 **(H30~)**	個々の課題の到達度、積極的な授業態度、プレゼンテーション能力を総合して評価する。 [S]テーマに対する理解と分析、技術などが特に高いレベルに到達している。 [A]テーマに対する理解と分析、技術などが高いレベルに到達している。 [B]テーマに対する理解と分析、技術などが充分なレベルに到達している。 [C]テーマに対する理解と分析、技術などが一定のレベルに到達している。		
主担当教員	河崎圭吾		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-19	履修コード	4164Z1
科目名	インターフェイスデザイン	科目英語名	Interface Design
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中（7日間）
専攻・年次	製品デザイン専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	コンピュータ室・研修室(最終日のみ)
単位	1	定員	20名
担当教員	安島　諭		
授業概要	現代の生活のインフラとなっているIoTの基礎技術であるセンサーやアクチュエーターの特性を理解し、人間の行為やニーズを読み解きながら、その使用方法や可能性を見出し、デザインの成果物として制作する。		
到達目標	人間の行為に対し、デバイスの特性を理解し組み合わせを考えることで、デザインに対するより幅広い展開力や応用力を修得する。効果と結果を確かめるラピッドプロトタイピングの過程を経験・理解する。		
授業計画	テーマとなるデザイン要素を表現するため照明やセンサー、電池、画面、ボタンなど様々なデバイスを組み合わせてアイテムを制作する。テーマによってはグループで取り組む場合もある。 1、デバイスの基本とプログラミング 　デバイスの基本的な知識とプログラミングを体験する。 2、デザインパターンカードによるワークショップとアイデア展開 　デザインパターンの組み合わせから革新的な行為とリアクションの関係を発見・構築する。 3、プロトタイピング・ストーリーウィービング 　簡単な動作モデルを制作し使用実験を行い機能性を検証し改良するプロセスを繰り返し、魅力的なストーリーを導く。 4、アイテム制作 　造形や色彩などの要素を取り入れて最終モデルを制作する。 5、プレゼンテーション 　説明用データをまとめてコンピュータによるプレゼンテーションを行う。 6、報告書・プログラム提出・ビデオの公開。		
予習・復習	各回の課題の復習を行う。		
教科書	資料を配付する。		
参考書	インターネット上のリソースを活用する。		
教材	Arduino, Grove スターターキット等		
履修上の注意	デバイスやプログラミングに関する様々な情報をネット上から自ら見つけ出し、制作物に応用するプロセスが必須となる。自ら情報を集め、自ら学ぶ姿勢を身につけること。		
成績評価 **(~H29)**			
成績評価 **(H30~)**	個々の課題の到達度、積極的な授業参加、プレゼンテーション能力を総合して評価する。 [S]テーマに対する理解と分析、技術などが特に高いレベルに到達している。 [A]テーマに対する理解と分析、技術などが高いレベルに到達している。 [B]テーマに対する理解と分析、技術などが充分なレベルに到達している。 [C]テーマに対する理解と分析、技術などが一定のレベルに到達している。		
主担当教員	安島　諭		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-20	履修コード	3638Z1
科目名	機械製図法	科目英語名	Theory of Drafting
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	製品デザイン専攻2年次	曜日・時限	金曜9･10限
履修区分	必修	教室	研修室
単位	1	定員	20名
担当教員	河崎圭吾		
授業概要	図法・製図の基礎的な理解を、実習を通して行う。 JISに基づく製図規格の知識や技術を修得する。		
到達目標	自分の発想、構想（デザイン）を第三者に的確に伝えることの出来る製品デザイナーを目指し、その手段として機械製図を理解修得し、作図能力を高める。また、表示された製図から具体的な形や仕組みを読み取る読図の能力も合わせて身につける。		
授業計画	１日目： プロダクトデザイナーにとっての製図の必要性、図面の種類を実例をスライドで説明。 宿題：２５cm×25cm×30cmの直方体をプラスックシートで作成してくる。 ２日目：一人の頭に透明直方体を被せて6方向から平行線で正確に顔や頭を描写。展開すると図面の基本となる三角法による６面図が出来上がる ３日目：図面の本質を理解させる為、二人一組で設計者と業者に分かれて担当し、家の設計をシミュレーションする。①土地と家とオブジェの配置を決めて文章で記載。②①にイラストを加えて簡潔に表現。如何に図面が的確で正確に情報を第三者に伝えるツールであるか理解する。 ４日目：上記の土地と家とオブジェを、ラフスケッチで３面図を描く。確認→修正。方眼紙に定規を使って図面を描く。表題欄、線種、文字の説明を行う。 ５日目：表題欄、線種、文字、断面図、寸法記入の説明を行う。 ６日目：機械製図用パーツサンプル①の寸法入りイラストを配布してラフスケッチで３面図を描く。確認→修正。方眼紙に定規を使って図面を描く。 ７日目：機械製図用パーツサンプル②の寸法入りイラストを配布してラフスケッチで３面図を描く。確認→修正。方眼紙に定規を使って図面を描く。 ８日目：機械製図用パーツサンプル③の寸法入りイラストを配布してラフスケッチで３面図を描く。確認→修正。方眼紙に定規を使って図面を描く。 ９日目：機械製図用パーツサンプル④の寸法入りイラストを配布してラフスケッチで３面図を描く。確認→修正。方眼紙に定規を使って図面を描く。 １０日目：機械製図用パーツサンプル⑤の寸法入りイラストを配布してラフスケッチで３面図を描く。確認→修正。方眼紙に定規を使って図面を描く。 １１日目：製品のデザイン図面①を読み取り、立体イラストに起こす。 １２日目：製品のデザイン図面②を読み取り、立体イラストに起こす。 １３日目：製品のデザイン図面③を読み取り、立体イラストに起こす。 １４日目／１５日目：製図試験を行う。		
予習・復習	どんな立体でも三面図に起こせるよう、また製図から立体を正確に想像表示できるまで繰り返ししっかり復習する。		
教科書	「プロダクトデザインのための製図」清水吉治・川崎晃義　日本出版サービス		
参考書	JISにもとづく機械製作図集　大西　清　理工学社		
教材	製図用具　方眼紙		
履修上の注意	特に無し。		
成績評価 **(~H29)**	成績評価　製図提出作品と製図試験により評価。 製図の到達度、および積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]製図の基本的な知識や技術が習得され、それを活かして図面が高いレベルで 昇華されている。 [B]製図の基本的な知識や技術が習得され、それを活かして図面が十分なレベルに昇華されている。 [C]製図の基本的な知識や技術が習得され、それを活かして図面が一定のレベルに到達している。		
成績評価 **(H30~)**	成績評価　製図提出作品と製図試験により評価。 製図の到達度、および積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]製図の基本的な知識や技術が高いレベルで習得され、それを活かして図面が特に高いレベルで 昇華されている。 [A]製図の基本的な知識や技術が習得され、それを活かして図面が高いレベルで 昇華されている。 [B]製図の基本的な知識や技術が習得され、それを活かして図面が十分なレベルに昇華されている。 [C]製図の基本的な知識や技術が習得され、それを活かして図面が一定のレベルに到達している。		
主担当教員	河崎圭吾		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-21	履修コード	4165Z1
科目名	製品デザイン演習（三）	科目英語名	Practice of Industrial Design (3)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	製品デザイン専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	3年製品デザイン演習室
単位	13	定員	20名
担当教員	村中　稔・根来貴成・浅野　隆・○河崎　圭吾・安島　諭		
授業概要	製品デザインをビジョナリーシンキング、家具製品（椅子）、情報機器（エクスペリエンス）、トランスポーテーションデザインの4つのカテゴリーを実際にデザインすることで学ぶ。全ての授業のデザインステップは「理解」→「調査」→「視覚化」→「洗練」の手順によって行われる。		
到達目標	「理解」（モノの歴史やモノに関わることへの理解）→「調査」（実際に使われている現場の理解と予測からモノがあるべき姿を見出す）→「視覚化」（アイデアスケッチ、ラピッドプロトタイピング、レンダリング、図面制作、３Dデータ制作、３Dレンダリング作成→「洗練」（検証と洗練を繰り返し行う）。モノの本質を探り出し、素材、カタチ、色を吟味して的確にデザインに落とし込む能力とそのデザインを的確に第三者に伝える能力を身につける事が目標。		
授業計画	A、椅子のデザイン（根来） 原寸の椅子の設計・制作を通して、設置される空間や使用方法を考察し、人体のスケール感、素材との付き合い方、構法やCMF（カラー、マテリアル、フィニッシュ）の選定方法などを現物を用いて検証し、実際に着座できる椅子の1/1プロトタイプを制作する。 留意点：工房を使用する時は、作業服を着用のこと。 B、情報機器のデザイン（村中・非常勤　坂井　晃・非常勤　入谷真一） UX（ユーザーエクスペリエンス）の観点からIoTやAIなどを取り入れた新たなサービスやビジネスモデル、プロダクトデザインを考える。調査や試作、アイデア展開、現場での検証やシミュレーションなどのプロセスを通して、新しい価値を創出する手法を学ぶ。 C、トランスポーテーションデザイン（浅野・客員教授　原田則彦・金　辰彦・宮澤貴司） 社会性のあるテーマを基に、近未来の自動車をデザインする。自動車の基本構造、機能及びパッケージング、スタイリングの関係を学ぶ。アイディアの平面表現からクレイモデル制作を通して立体造形における「三次曲面」の成り立ちを理解させる。合わせて、コンピュータスケッチテクニック及び、CMFカラーデザインの手法を学ぶ。 D、ビジョナリーシンキング（河崎・入谷真一、丸山 幸伸、井手裕紀） 思いをカタチに落とし込む方法をプロのデザイナーから学ぶ。産学連携プロジェクトとしてスカパーJSAT株式会社さんと「これからのエンターテイメント」というテーマでデザインとサービスの開発を行う。 E、ファイリング（村中・浅野・河崎・根来・安島） 1年次から3年次までに制作した課題作品や自主制作作品などを、自身のポートフォリオとしてファイリングする。 F、製品デザイン企画課題（村中・浅野・河崎・根来・安島） 自分の希望するデザイン分野への進路に向けたテーマで、短期間でデザインをまとめ、プレゼンテーションする。企業実習の準備として行う。 G、研修旅行 主に実際の製品デザイン事例を見学する。デザインの歴史、制作現場、ショールーム、工場などモノづくり全般についての理解を深める。		
予習・復習	課題によってその都度担当教員が指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	融けるデザイン/プレゼンテーションパターン/VISION DRIVEN INNOVATION/直感と理論をつなぐ思考法/未来洞察の教科書/イノベーション全書/人工知能（ディープラーニング編）（仕事編）/2030年/FACT FULNESS		
教材	必要に応じて、その都度指示する。 コンピュータとビデオを使用して授業概要やポイントなどを説明する。		

履修上の注意	授業初日は、授業全体の説明を行う為、遅刻しないこと。
成績評価 **(~H29)**	プロセスごとの課題提出（数回）、最終作品（モデル含む）およびプレゼンテーション。 個々の課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 授業への積極的な参加度（20%） 課題への取り組み方と作品の水準(60%) プレゼンテーション(20%) 全体で50%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 [A]製品デザインについて諸能力を基に視野を広げ、個々の提案におけるコンセプト立案や発想、検証に基づいた機能性や造形表現などを高いレベルに到達している。 [B]製品デザインについて諸能力を基に視野を広げ、個々の提案におけるコンセプト立案や発想、検証に基づいた機能性や造形表現などを充分なレベルに到達している。 [C]製品デザインについて諸能力を基に視野を広げ、個々の提案におけるコンセプト立案や発想、検証に基づいた機能性や造形表現などを一定のレベルに到達している。
成績評価 **(H30~)**	プロセスごとの課題提出（数回）、最終作品（モデル含む）およびプレゼンテーション。 個々の課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 授業への積極的な参加度（20%） 課題への取り組み方と作品の水準(60%) プレゼンテーション(20%) 全体で60%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 [S]製品デザインについて諸能力を基に視野を広げ、個々の提案におけるコンセプト立案や発想、検証に基づいた機能性や造形表現などを特に高いレベルに到達している。 [A]製品デザインについて諸能力を基に視野を広げ、個々の提案におけるコンセプト立案や発想、検証に基づいた機能性や造形表現などを高いレベルに到達している。 [B]製品デザインについて諸能力を基に視野を広げ、個々の提案におけるコンセプト立案や発想、検証に基づいた機能性や造形表現などを充分なレベルに到達している。 [C]製品デザインについて諸能力を基に視野を広げ、個々の提案におけるコンセプト立案や発想、検証に基づいた機能性や造形表現などを一定のレベルに到達している。
主担当教員	河崎圭吾

令和4年度シラバス

番号	(B6)-22	履修コード	4166Z1
科目名	コンピュータ演習Ⅱ	科目英語名	Computer Practice Ⅱ
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中（7日間）
専攻・年次	製品デザイン専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	コンピュータ室
単位	1	定員	20名
担当教員	○村中　稔　（非常勤）熊崎　純一		
授業概要	GUI（グラフィカルユーザーインターフェイス）の基本要素を学ぶ。		
到達目標	情報機器や家電品、自動車などに装備されている情報画面をユーザーに理解しやすく、使いやすく表現できる。		
授業計画	情報機器や家電品、自動車などに装備されている情報画面からテーマを選定し、機能や視覚的要素などを分析したうえでインターフェイスを考える。コンピュータ上でモックアップを制作して検証する。 １、全体の構造を構築 設計コンセプトを検討する。 ２、変遷画面デザイン 画面の移行、画面効果等を検討する。 ３、ボタンアクション マウスオーバー、プレス、アクションなどを検討する。 ４、ボタンデザイン アイコンや色彩、質感等を検討する。 ５、アニメーション 動きの効果について検証する。 ６、音楽再生検討 ７、ムービー書き出し 形式、サイズの検討 ８、プレゼンテーション 設計コンセプトから画面全体と個々のパーツ、機能性等を説明する。		
予習・復習	画面遷移やアクション等のブラッシュアップ		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	特になし		
履修上の注意	特になし		
成績評価 (~H29)	個々の課題の到達度、積極的な授業態度、プレゼンテーション能力を総合して評価する。 [A]テーマに対する理解と分析、技術などが高いレベルに到達している。 [B]テーマに対する理解と分析、技術などが十分なレベルに到達している。 [C]テーマに対する理解と分析、技術などが一定のレベルに到達している。		
成績評価 (H30~)	個々の課題の到達度、積極的な授業態度、プレゼンテーション能力を総合して評価する。 [S]テーマに対する理解と分析、技術などが特に高いレベルに到達している。 [A]テーマに対する理解と分析、技術などが高いレベルに到達している。 [B]テーマに対する理解と分析、技術などが十分なレベルに到達している。 [C]テーマに対する理解と分析、技術などが一定のレベルに到達している。		
主担当教員	村中　稔		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-23	履修コード	3641Z1
科目名	デザイン工学	科目英語名	Machine Engineering
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	製品デザイン専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	20名
担当教員	○浅野　隆　（非常勤）秋田純一・永原　隆・杉本匡史・渡邊恵太　河崎圭吾　安島諭		
授業概要	製品開発においてデザイナーとエンジニアは密接な関係にあり、エンジニアの役割や考え方を知ることにより、デザイナーの職務を理解させる。 それぞれ違った分野の講師により、幅広くオムニバス形式で行う。		
到達目標	工学的教養と視点を養う。エンジニアが考える設計理論を理解し、エンジニアと協力して社会性や安全性も含め、技術に裏付けされかつデザイン性の高い優れた商品開発が出来るデザイナーになるための意識を養う。		
授業計画	A.デザイナーが考えるアイディアは、エンジニアの技術によって具現化される。そのため、エンジニアとの「やりたいこと」と「できること」を詰める対話が重要となるが、そのためには、デザイナーも「技術で実現可能であること」、すなわち技術の限界を知ることは重要である。またアイディアを、スケッチや模型ではなく、例え完成度は低くても「実際に動くもの」として示すことが非常に有効であることは、IDEOなどでのデザイン思考でもよく知られている。 本講義では、このような、デザイン思考におけるエンジニアとの対話の意義と実例を紹介し、またM5stackというデザイン思考に適したプロトタイピング・ツール（マイコンボード）の体験と、それを用いたアイディア出しからプロトタイピングまでの実践を行う。（秋田　純一） B.機械加工法、工学的締結法、空力や流体力学などの知識を養う。またエンジニアはデザイナーと違って感覚的な判断をせず、設計理論に基づききっちり計算して答えを出す。しかしお互い協力しないと良い製品は生まれない。 上記の内容について事例を交えて講義する。（永原　隆） C.感性評価分野から、工学的数値分析とデザインの関係を講義する。 　印象評価実験の手法、分析方法等の講義と、一対比較法のワークショップを通して、心理尺度の構成を体験しながら学ぶ。（杉本匡史） D:WorldConnector:カメラへの身体性付与による映像世界へ入り込むインターフェース ビデオゲームにおいて一人称視点として画面内にアバターの身体の一部を映すことによって，アバターになりきったかのような臨場感を高める工夫がされていることがある．授業では，記録装置のカメラと再生装置の画面に物理的な棒を取り付ける方法を用いることによって，利用者が画面の中に入った，画面内へ介入しているような感覚を実現するWorldConnectorを体験する．授業ではWorldConnectorのシステム実装について述べ，WorldConnectorを利用したさまざまなコンテンツの可能性について事例を紹介しながらシステムの可能性について考察する． （渡邊恵太）		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。		
教科書	資料を配付する。		
参考書	特になし。		
教材	特になし。		
履修上の注意	A.各自PCを持参すること（秋田） B.C.D.特になし。		
成績評価 **(~H29)**	レポート提出3回、受講態度を総合して評価する。 [A]各分野のテーマに対する内容分析等を、高いレベルで積極的に自己のデザイン活動に活かす手法として取り入れられている。 [B]各分野のテーマに対する内容分析等を、積極的に自己のデザイン活動に活かす手法として取り入れられている。 [C]各分野のテーマに対する内容分析等を、自己のデザイン活動に活かす手法として理解されている。		
成績評価 **(H30~)**	レポート提出3回、受講態度を総合して評価する。 [S]各分野のテーマに対する内容分析等を、極めて高いレベルで積極的に自己のデザイン活動に活かす手法として取り入れられている。 [A]各分野のテーマに対する内容分析等を、高いレベルで積極的に自己のデザイン活動に活かす手法として取り入れられている。 [B]各分野のテーマに対する内容分析等を、積極的に自己のデザイン活動に活かす手法として取り入れられている。 [C]各分野のテーマに対する内容分析等を、自己のデザイン活動に活かす手法として理解されている。		
主担当教員	浅野　隆		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-24	履修コード	3643Z1
科目名	製品計画論	科目英語名	Theory of Product Planning
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	製品デザイン専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	研修室
単位	1	定員	20名
担当教員	○村中　稔　（非常勤）稲垣　揚平		
授業概要	製品デザインのプロセスや方法論をはじめ、広く商品開発の視点に立って、さまざまな「モノ」や「サービス」や「情報」がどのように形成されていくか具体的な事例を通して学ぶ。		
到達目標	独創的な提案をより強化する「構想力」「書類力」を高め、デザインの現場で必要となるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につける。		
授業計画	1、プロダクトデザインとは 経営戦略から商品戦略まで インハウスデザイナー フリーランスデザイナー 2、商品開発のプロセス 市場調査【DR0】 製品企画：企画立案・製品企画書【DR1】 基本設計：基本デザイン・1次試作【DR2】 詳細設計：詳細デザイン・詳細設計【DR3】 試　　作：2時試作・試作評価【DR4】 量産試作：量産試作【DR5】 生産準備：工程管理・品質管理・副資材【DR6】 初期流動：工場引継・検査【DR7】 3、流通市場構造と商品、価格について マーケティング 知財 コスト試算 4、販促　ブランドマネージメント・ブランディングについて 5、プレゼンテーション：企画書作成による実践形式にて 企画書の作成ポイント プレゼンテーションの準備		
予習・復習	初日にテーマ設定し、授業経過に沿って企画書を作成し、プレゼンテーションする。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	PRODUCT DESIGN 商品開発に関わるすべての人へ 発売：ワークスコーポレーション 編集：日本インダストリアルデザイナー協会 ISBN978-4-86267-063-2　C3055　￥3200E		
教材	サンプル商品や各種資料。コンピュータを用いて説明する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)	個々の課題の到達度、積極的な授業態度、プレゼンテーション能力を総合して評価する。 [A]製品デザインについての諸能力を基に、個々の提案における構想力や書類力が高いレベルに到達している。 [B]製品デザインについての諸能力を基に、個々の提案における構想力や書類力が充分なレベルに到達している。 [C]製品デザインについての諸能力を基に、個々の提案における構想力や書類力が一定のレベルに到達している。		

成績評価 (H30~)	個々の課題の到達度、積極的な授業態度、プレゼンテーション能力を総合して評価する。 [S]製品デザインについての諸能力を基に、個々の提案における構想力や書類力が特に高いレベルに到達している。 [A]製品デザインについての諸能力を基に、個々の提案における構想力や書類力が高いレベルに到達している。 [B]製品デザインについての諸能力を基に、個々の提案における構想力や書類力が充分なレベルに到達している。 [C]製品デザインについての諸能力を基に、個々の提案における構想力や書類力が一定のレベルに到達している。
主担当教員	村中　稔

令和4年度シラバス

番号	(B6)-25	履修コード	4167Z1
科目名	製品デザイン演習（四）	科目英語名	Practice of Industrial Design (4)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	製品デザイン専攻4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	4年製品デザイン演習室･工房
単位	6	定員	20名
担当教員	○安島 諭　　（客員教授）益田文和		
授業概要	３年までに学んだ製品デザインの技術知識を総動員して実践的なデザインワークに取り組む。		
到達目標	デザインすべき課題の発見、仮説の構築、アイデア展開、モデル制作、検証実験を経てプレゼンテーションをおこなう。内容が濃く完成度の高いデザインワークをおこなう。		
授業計画	A、スタートデザイン　前期最初　（村中・浅野・河崎・安島・根来） 新１年生と合同によるグループ制作。毎年、社会性のある大きなテーマで製品を短期にデザインする。３年までに修得したデザインの手法、技術の確認とデザイナーとしてのリーダーシップの養成を目指す。 B、公共用品のデザイン：プロダクトとシステムのデザイン（安島） プラスチックを中心とした大量生産・大量消費・使い捨ての仕組みは、これまでの小規模の地域の生産システムを衰退させてきた。広範囲への物流はエネルギーを消費し、回収を困難にさせる。これからの産業は環境に対する責任を持った生産流通のシステムを備えていなければならない。持続可能な方法へと社会を変えるために、人々を取り巻く絡み合ったエコシステムを読み解き、プロダクトとシステムのデザインを考える。 **新型コロナウイルス感染予防対応の特別内容となっています C、産学連携製品開発課題（浅野） 企業からのテーマに対して、または提案型製品開発課題としてデザイン研究する。調査、企画、アイディア、デザイン、プレゼンテーションを、より実践的なプロセスによって体験する。専門知識や技術、若いアイディアを産業を通して積極的に社会へ発信する。地域社会への活性化にも貢献する。産学連携活動を通して社会発展に寄与する人材を育成し、デザイン教育に生かす。 D、サスティナブルデザイン（益田） 地球規模で進む気候変動と環境問題、深刻化する社会問題。持続不可能であると思われる現代の産業・経済と文明・社会。その傾向 が明らかになった 20 世紀後半からの半世紀余りは、現代デザインが発展を遂げてきた道のりと重なる。　デザインの役割とは本来何であったのだろうか、デザインには何がで きるのだろうか？　そのことを確認するために、大都会、大企業、グローバルマーケティングから離脱し、原点からデザインをやり直す。		
予習・復習	調査や実践に基づいた考察を毎回しっかりとおこなうこと		
教科書	資料を配付する。		
参考書	ソーシャルデザイン実践ガイド　地域の課題を解決する7つのステップ　筧裕介著　英治出版 生きのびるためのデザイン　ヴィクター・パパネック著　阿部公正訳　晶文社		
教材	配付プリント		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 **(~H29)**	プロセスごとの課題提出（数回）、最終作品（モデル含む）およびプレゼンテーション。 個々の課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 授業への積極的な参加度（20%） 課題への取り組み方と作品の水準(60%) プレゼンテーション・展示(20%) 全体で50%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 [A]製品デザインについて諸能力を基に視野を広げ、個々の提案におけるコンセプト立案や発想、検証に基づいた機能性や造形表現などを高いレベルで理解することができた。 [B]製品デザインについて諸能力を基に視野を広げ、個々の提案におけるコンセプト立案や発想、検証に基づいた機能性や造形表現などを理解することができた。 [C]製品デザインについて諸能力を基に視野を広げることができた。		

成績評価 **(H30~)**	プロセスごとの課題提出（数回）、最終作品（モデル含む）およびプレゼンテーション。 個々の課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 授業への積極的な参加度（20%） 課題への取り組み方と作品の水準(60%) プレゼンテーション・展示(20%) 全体で60%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 [S]製品デザインについて諸能力を基に視野を広げ、個々の提案におけるコンセプト立案や発想、検証に基づいた機能性や造形表現などを極めて高いレベルで理解することができた。 [A]製品デザインについて諸能力を基に視野を広げ、個々の提案におけるコンセプト立案や発想、検証に基づいた機能性や造形表現などを高いレベルで理解することができた。 [B]製品デザインについて諸能力を基に視野を広げ、個々の提案におけるコンセプト立案や発想、検証に基づいた機能性や造形表現などを理解することができた。 [C]製品デザインについて諸能力を基に視野を広げることができた。 成績評価（平成30年度以降入学者）
主担当教員	安島　諭

令和4年度シラバス

番号	(B6)-26	履修コード	4168Z1
科目名	製品デザイン特論	科目英語名	Theory of Product Design
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	製品デザイン専攻4年次	曜日・時限	水曜7･8限
履修区分	必修	教室	コンピュータ室
単位	1	定員	20名
担当教員	村中　稔		
授業概要	デザイナーに必要な能力と求められる役割について解説する。 テーマを設定し、イメージ収集と発表および討議をおこなう。		
到達目標	デザイン関連の現状や今後の動向を意識した発想や思考ができる。		
授業計画	１、デザイン活動におけるデザイナーの役割 ２、イメージ収集とプレゼンテーションについて解説 ・与えられたテーマに合う被写体を撮影する。 ・和文、英文のタイトルを考える。 ３、イメージ収集とプレゼンテーション　テーマ：「静」と「動」 ４、イメージ収集とプレゼンテーション　テーマ：「光」と「影」 ５、イメージ収集とプレゼンテーション　テーマ：「重」と「軽」 ６、イメージ収集とプレゼンテーション　テーマ：「白」と「黒」 ７、授業で発表したイメージをまとめてプレゼンテーション ・PDF形式、A３サイズ１枚		
予習・復習	授業の冒頭に収集する写真のテーマを伝え、設定されたテーマの写真を撮影または探して準備しておく。 留意点：日頃から積極的にイメージに対して意識しておくこと		
教科書	適宜指示する。		
参考書	特になし。		
教材	過去の学生作品などをコンピュータを用いて解説する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 **(~H29)**	個々の課題の到達度、積極的な授業態度、プレゼンテーション能力を総合して評価する。 [A]テーマに対する理解と分析、イメージ表現における技術と工夫などが高いレベルに到達している。 [B]テーマに対する理解と分析、イメージ表現における技術と工夫などが充分なレベルに到達している。 [C]テーマに対する理解と分析、イメージ表現における技術と工夫などが一定のレベルに到達している。		
成績評価 **(H30~)**	個々の課題の到達度、積極的な授業態度、プレゼンテーション能力を総合して評価する。 [S]テーマに対する理解と分析、イメージ表現における技術と工夫などが特に高いレベルに到達している。 [A]テーマに対する理解と分析、イメージ表現における技術と工夫などが高いレベルに到達している。 [B]テーマに対する理解と分析、イメージ表現における技術と工夫などが充分なレベルに到達している。 [C]テーマに対する理解と分析、イメージ表現における技術と工夫などが一定のレベルに到達している。		
主担当教員	村中　稔		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-27	履修コード	4169Z1
科目名	卒業制作	科目英語名	Graduation Work
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	製品デザイン専攻4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	4年製品デザイン演習室･工房
単位	10	定員	20名
担当教員	○安島　諭・村中　稔・浅野　隆・河崎圭吾・根来貴成		
授業概要	テーマ設定・基礎調査・仮説設定・アイディア検討・機能検討モデル制作・分析評価・モデル制作・検証・プレゼンテーションまでを主体的、計画的に進めていく。		
到達目標	学部で学んだことの総力を結集し、創造的なデザイン研究やデザイン基礎研究等に挑戦しまとまりのある仕事をする。		
授業計画	1、卒業制作企画（前期） デザインと社会について、グループで情報収集し調査分析から論議して時代性のある企画やテーマを導き出す。プレゼンテーション資料にまとめ、発表する。 2、卒業制作 自分独自の視点でテーマを設定し、企画からデザイン検討、プロトタイプ設計制作、検証、完成までを自ら管理し実施する。完成度の高いデザインモデルを作成すること。 全教員で指導するが、各人のテーマに対応して以下のように担当する。 ○卒業研究指導（村中） ・情報機器の創造プロセス ・インターフェイスデザイン ・作品提案におけるプレゼンテーション手法 ○卒業研究指導（浅野） ・ 自動車およびモビリティ全般 ・ 公共交通機関 ・ 作品制作における素材・構造・加工技術等の指導 ○卒業研究指導（河崎） ・ 家電品、日用品のデザイン ・ 作品制作におけるCAD-CAM加工技術の指導 ○卒業研究指導（安島） ・公共のデザイン、デザイン開発全般 ・卒業制作企画（グループ課題） ・プロトタイピングによるデザインアプローチを指導 ・卒業制作展に関する展示指導、作品集原稿制作指導 ○卒業研究指導（根来） ・家具、インテリア製品全般 ・日用品を含む生活のデザイン ・作品制作における素材構造計画、加工技術の指導 ・卒業制作展に関する展示指導、作品集原稿制作指導		
予習・復習	テーマとする領域の製品や、その状況感を調査取材しモチベーションを高めておくこと。各ステップにおける考察をしっかりとおこなうこと		
教科書	適宜指示する。		
参考書	デザイン全書、過去の卒業制作概要集、各研究室図書		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	徹底したスケジュール管理と、これまでに学んできたデザインプロセスを適用し、完成度の高いリアリティの有る制作物を完成させること。		

成績評価 (~H29)	コンセプト審査、1次ラフモデル審査、1/1モデル審査、中間審査、最終モデル審査、最終プレゼンテーション審査（モデル、提出資料含む）と共に、個々の積極的な受講態度、研究プロセスを総合して評価する。 [A]４年間に学習すべき諸能力が総合的に習得され、実験と検証の中から独創性と社会性のあるデザイン提案として制作の深化を高いレベルで図ることができた。 [B]４年間に学習すべき諸能力が総合的に習得され、実験と検証の中から独創性と社会性のあるデザイン提案として制作の深化を図ることができた。 [C]４年間に学習すべき諸能力が総合的に習得されている。
成績評価 (H30~)	コンセプト審査、1次ラフモデル審査、1/1モデル審査、中間審査、最終モデル審査、最終プレゼンテーション審査（モデル、提出資料含む）と共に、個々の積極的な受講態度、研究プロセスを総合して評価する。 [S]4年間に学習すべき諸能力が総合的に習得され、実験と検証の中から独創性と社会性のあるデザイン提案として制作の深化を極めて高いレベルで図ることができた。 [A]４年間に学習すべき諸能力が総合的に習得され、実験と検証の中から独創性と社会性のあるデザイン提案として制作の深化を高いレベルで図ることができた。 [B]４年間に学習すべき諸能力が総合的に習得され、実験と検証の中から独創性と社会性のあるデザイン提案として制作の深化を図ることができた。 [C]４年間に学習すべき諸能力が総合的に習得されている。
主担当教員	安島　諭

令和4年度シラバス

番号	(B6)-28	履修コード	4170Z1
科目名	環境デザイン演習（一）	科目英語名	Practice of Environmental Design (1)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	環境デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	1年デザイン科演習室
単位	4	定員	20名
担当教員	角谷　修・鍔　隆弘・畝野裕司・北村賢哉・○西本耕喜　（非常勤）中　晴夫、山田憲子、山本周		
授業概要	「空間デザインの基礎」 空間デザインの基礎を、現存する自然及び人為環境を題材として取り組むことにより、スケール感の把握、空間への意識の出発点とする。また、空間デザインの表現手法として建築製図の基礎を学ぶ。		
到達目標	デザインの基礎とプロセスを修得し、空間デザインに対する理解と表現に対する多様な能力を身につける。		
授業計画	1．空間造形と測量　30時間（建築士試験指定科目「その他」1単位） 実際の屋外や屋内の空間を測量し、特徴を理解することで、空間の持つ魅力を探り、空間造形の基礎を修得する。 ・実地における空間量と造形物について測量 ・計測データをもとに製図 2．建築製図基礎演習　60時間（建築士試験指定科目「建築設計製図」2単位） 空間デザインの表現手法のひとつとして、建築設計製図の基礎を学ぶ。数種類の線の引き方、線の意味、表現規則から始め、木造住宅建築に必要な平面図、立面図、断面図、矩計図の描き方を、学内に保存されている木造建築において仕上げ材料や形態を確認しながら習得する。 ・用具の説明と線の練習 ・平面図、立面図、断面図、展開図、詳細図、天井伏図 3．空間デベロップメント　30時間（建築士試験指定科目「その他」1単位） 空間の基礎概念を学習し、既存の空間を読み解く方法や、新たな空間をイメージする能力を身に付ける。柱・壁・床・天井といった空間の基本要素を使って、多様な空間の表現能力を身につける。 ・空間の基本要素 ・構造と形態 ・建築の表現 4．パース・ドローイング　30時間（建築士試験指定科目「その他」1単位） 透視図法を基本に外観と内観に分けて表現の訓練を行う。人物や素材感、ディティールの描き方等、空間を表現するベースとして身に付ける。		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。事前に資料を配布して、それの読込む必要がある。内容については各授業に応じて事前に指定する。		
教科書	建築製図 基本の基本（学芸出版社）を配布		
参考書	手塚貴晴の手で描くパース（彰国社）		
教材	パース関連の参考資料（平面図、立面図）を配布		
履修上の注意	授業に集中し、一つ一つを修得し、成果として制作物を完成し提出すること。		
成績評価 **(~H29)**	理解度、積極的な取り組み姿勢と各講義についてのレポートや成果物の提出物を総合して評価する。 [A]演習についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B]演習についての基本的な知識や技術が習得され、充分なレベルに到達している。 [C]演習についての基本的な知識や技術が習得されている。		
成績評価 **(H30~)**	理解度、積極的な取り組み姿勢と各講義についてのレポートや成果物の提出物を総合して評価する。 [S]演習についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達していることが秀でた内容で示された。 [A]演習についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B]演習についての基本的な知識や技術が習得され、充分なレベルに到達している。 [C]演習についての基本的な知識や技術が習得されている。		
主担当教員	西本耕喜		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-29	履修コード	3652Z1
科目名	建築史Ⅰ	科目英語名	History of Architecture Ⅰ
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	環境デザイン専攻1年次	曜日・時限	月曜9・10限
履修区分	必修	教室	第3教室
単位	2	定員	20名
担当教員	◯西本耕喜（非常勤）細野美希		
授業概要	歴史的に発展してきた建築空間の特質（形態や使われ方など）について学習する。とりわけ金沢は近世以降の歴史を今にとどめており、生きた教材を通して学ぶことが可能である。		
到達目標	歴史的視点を通して、建築の形態や機能等の本質を理解する能力を養う。		
授業計画	講義は下記の項目に従って進められる。 １．建築の原型（先住民族の竪穴住居、稲作の伝来と高床住居） ２．農家型（田の字型・ヒロマ型）の文化圏と建築様式 ３．支配階級の建築（寝殿造から書院造まで） ４．近世城下町の建築文化（武家屋敷・足軽屋敷・町家） ５．建物を活かす、保存する		
予習・復習	スケジュールおよび配付プリントによる予習と復習。見学会後の整理と復習。		
教科書	資料を配付する。		
参考書	平井　聖『図説日本住宅の歴史』学芸出版社 増田達男『金沢まちなみそぞろ歩き』金沢市		
教材	配付プリント		
履修上の注意	短期間の内にフィールド（金沢市内）に出かける授業もあり、遅刻、欠席のないように。		
成績評価 (~H29)	テスト、レポート、学習態度から総合的に評価する。 [A] 建築・デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を高いレベルで考察することができた。 [B] 建築・デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を考察することができた。 [C] 建築・デザインに関する視野を広げることができた。		
成績評価 (H30~)	テスト、レポート、学習態度から総合的に評価する。 [S] 建築・デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を極めて高いレベルで考察することができた。 [A] 建築・デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を高いレベルで考察することができた。 [B] 建築・デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を考察することができた。 [C] 建築・デザインに関する視野を広げることができた。		
主担当教員	西本耕喜		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-30	履修コード	4171Z1
科目名	材料学演習（木材）	科目英語名	Practice of Material Processing (Wood)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	環境デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	
単位	1	定員	
担当教員	北村賢哉		
授業概要	木材を使用して、立体を造形する。木材加工の手順と機器の使い方を習得すると共に、基本的な知識を獲得する。		
到達目標	木材を使った立体造形から、工具・機器による木材の加工技術の基礎を修得する。また、制作を通じて構造・意匠・機能の三位一体となった造形のあり方を修得する。		
授業計画	１．作業手順と工房使用ルールの理解 配布資料を用いた座学と実際に工房を順に巡りながら使い方を学ぶ。 ２．木材を使用した家具について概論 木材が空間構成に果たす役割を配布資料やスライドを用いて解説する。 ３．木材の基礎知識 多種多様な木材の種類やその特徴を解説する。 ４．木材加工道具の基礎知識 基礎加工を実際に行う中で道具の使い方を習得する。 ５．木材加工機器の基礎知識 基礎加工を実際に行う中で加工機器の使い方を習得する。 ６．木材を使用しての形態の追求 材料の特性を考慮しながら与えられたテーマを具現化するために設計する。 ７．木材加工 習得したスキルと工房の加工機器を駆使して実際に作品を制作する。仕上げの美しさに影響する精度にこだわって作業する。 ８．仕上げ 表面処理に関して座学で講義を受けた後、実際に作業を行う。 ９．プレゼンテーション 各自が作品に意図を伝え、全員で評価を行う。		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。集中授業なので、作業日程等計画をたて、随時チェックしながら進める。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	プリント資料を配付する。		
教材	木工道具		
履修上の注意	安全に作業を進めるための服装や身なりで出席すること。		
成績評価 (~H29)			
成績評価 (H30~)	個々の課題の到達度と作品の精度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]木材とその加工に関する視野を広げ、制作の深化を優れたレベルで図ることができた。 [A]木材とその加工に関する視野を広げ、制作の深化を高いレベルで図ることができた。 [B]木材とその加工に関する視野を広げ、制作の深化を図ることができた。 [C]木材とその加工に関する視野を広げることができた。		
主担当教員	北村賢哉		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-31	履修コード	3653Z1
科目名	環境デザイン工学Ⅰ	科目英語名	Engineering of Environmental Design Ⅰ
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	環境デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	専攻演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	○西本耕喜（非常勤）鈴木啓泰		
授業概要	建築は、もともと外敵や（外部）気候に対するシェルターとしてつくられた。いまでは建築で防御する外敵はいなくなったが、気候についてはなおシェルターとして機能しているものの、それは自然の過酷な気候への防御ではなく、「快適性」を確保するための新たな機能である。この「快適性」を得るためには建築に関わる物理現象について学び、建築環境の調整する技術（建築設備）を理解する必要がある。 本授業においては、建築環境工学を概観するとともに、建築設備（計画）の考え方に触れる。建築環境工学とは、建築に関わる物理現象を扱う学問であり、ここでは主に日照・日射、熱、空気、音、光、色及び地球環境や省エネルギーについて学ぶ。		
到達目標	建築の「快適性」に影響を与える様々な要素を把握し、それらと形態との関わりを理解する。		
授業計画	講義は下記の項目について進める。 1．環境デザイン工学I概説 2．太陽と地球、日照・日射 3．温熱環境と熱環境 4．空気の性質と空気環境 5．空気質と換気 6．音環境と光環境 7．環境調整技術と建築設備 8．復習または試験		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	田中俊六、他「最新建築環境工学」井上書院 村上周三「CASBEE入門」(JSBC) 加藤信介他「図説テキスト 建築環境工学」彰国社		
教材	特になし。		
履修上の注意	実際に現地を視察する場合があるので、事前の案内に注意していること。		
成績評価 (~H29)	講義の理解度、積極的な取り組み姿勢と提出物を総合して評価する。 [A]設備についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B]設備についての基本的な知識や技術が習得され、充分なレベルに到達している。 [C]設備についての基本的な知識や技術が習得されている。		
成績評価 (H30~)	講義の理解度、積極的な取り組み姿勢と提出物を総合して評価する。 [S]設備についての基本的な知識や技術が習得され、極めて高いレベルに到達している。 [A]設備についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B]設備についての基本的な知識や技術が習得され、充分なレベルに到達している。 [C]設備についての基本的な知識や技術が習得されている。		
主担当教員	西本耕喜		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-32	履修コード	3654Z1
科目名	環境デザイン工学Ⅱ	科目英語名	Engineering of Environmental Design Ⅱ
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	環境デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	専攻演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	◯西本耕喜　（非常勤）林野紀子		
授業概要	建築構造力学の実践的理解を図るために、演習を中心に建築設計に必要な構造力学の基礎的事項を修得する。		
到達目標	建築構造力学の基礎的事項を学び、簡単な数値計算や図解を通して力の流れを把握することによって、力学と構造形態との関わり合いについて実感できるようになることを目標とする。さらに、実例によってさまざまな構造形態のヴィジュアルな解説を試み、建築における構造の役割について理解を深める。		
授業計画	建築構造力学の下記の基礎的事項に力点をおいて説明する。 ・歴史 ・力の釣合い ・荷重 ・静定・不静定構造 ・力と変形 講義は、一部演習を取り入れて進めるので、授業には常に電卓を持参すること。 実施例について、外力に対する抵抗メカニズムを説明するので、自分なりに力の流れを描いてみることによって、構造についての理解を深めること。		
予習・復習	適宜、指示する。		
教科書	資料を配布する。		
参考書	藤本・和田『建築構造力学入門』実教出版株式会社 日本建築学会「ちからとかたち」		
教材	特になし。		
履修上の注意	それぞれの単元を理解した上で、次の単元を学習すること。		
成績評価 (~H29)	講義の理解度、積極的な取り組み姿勢と提出物を総合して評価する。 [A]構造についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B]構造についての基本的な知識や技術が習得され、充分なレベルに到達している。 [C]構造についての基本的な知識や技術が習得されている。		
成績評価 (H30~)	講義の理解度、積極的な取り組み姿勢と提出物を総合して評価する。 [S]構造についての基本的な知識や技術が習得され、極めて高いレベルに到達している。 [A]構造についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B]構造についての基本的な知識や技術が習得され、充分なレベルに到達している。 [C]構造についての基本的な知識や技術が習得されている。		
主担当教員	西本耕喜		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-33	履修コード	3655Z1
科目名	環境デザイン演習（二）	科目英語名	Practice of Environmental Design (2)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	2年環境デザイン演習室
単位	9	定員	20名
担当教員	角谷　修・○鍔　隆弘・畝野裕司・北村賢哉・西本耕喜　（非常勤）山本孝幸・北川勝明・丸岡喜市・橋本浩司・吉村寿博・村田悟・未定　（客員教授）新保智子		
授業概要	「空間デザインの応用」 空間及び環境を題材にデザインを表現するための基本的テーマに取り組むことにより知識と感覚と技術を養う。あわせて写真撮影等の表現技法を身につける。		
到達目標	空間と人間の関わりを考え、ヒューマンスケールや表現できる力を修得することで、潜在能力を引き出し、作品化する能力を身につける。		
授業計画	1．ディスプレイ・ショーウインドウ　30時間 ショーウインドウのデザインを通し、自己の空間に対する「潜在能力」を引き出し、独自の「作品」を制作する。制作を通じて独創的な表現力を持つショーウインドウを作品化する。 2．建築材料演習（コンクリート）　30時間（建築士試験指定科目「建築材料」1単位）コンクリート・セメントや骨材・鋼材の実験を通して、コンクリート材料の知識と加工法、素材の特質を習得し、併せて立体造形への感覚を養う。 3．庭園デザイン　60時間（建築士試験指定科目「その他」2単位） 敷地の自然環境である土地、人為環境である建築との関係を理解しながら、住宅や文化施設、商業施設の庭園をデザインする。庭園の演出手法や屋外で使う素材を扱いながら、屋外空間の美しい形を探る。倣うこととして、市内に点在する庭園の見学を行なう。 4．ディスプレイ・体験　60時間（建築士試験指定科目「その他」2単位） 共同で仮設の展示あるいは店舗を設計、製作、運営する。自ら企画した原寸大の空間を設計、施工するプロセスで、空間演出の機能的、感性的側面を経験的につかむと同時に、空間を体験しデザインの成果を検証する。 5．住空間　30時間（建築士試験指定科目「その他」1単位） 人間の営みにとって最も基本的な「住む」ことのデザインを通し、空間の持つ魅力を探り、表現する能力を身につける。「内と外」、「公と私」、「閉と開」等の空間の基本関係からインテリアと環具までを理解し作品の場の表現に活かす。学生それぞれが金沢市内に敷地を求め、金沢の街との関わりの中で、具体的な可能性や課題を追求する。 6．建築構造力学演習　30時間（建築士試験指定科目「構造力学」1単位） 主要構造の解析を行い構造物が荷重を受けたときに生じる応力や変形などを知るための力学を学ぶ。先行課題の住宅デザインと一部連動し、実践的な構造解析を修得する。 ・構造法の基本事項 ・構造一般概論 ・素材と構造形式 7．建築材料演習（応用）　30時間（建築士試験指定科目「建築材料」1単位） 木・鉄・コンクリート・石から適宜、材料を選び出し、その性質を知るために、構造物の模型制作等を通し、材料と形態の合理的関係性を把握する 8．研修旅行 主に実際の空間デザイン事例を見学する。空間の捉え方、演出方法、素材などデザインの手法についての理解を深める。		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。事前にデザイン・設計の概要を配布して、その読込みと調査をしておく。		
教科書	関連の専門書を授業内にて指示する。		
参考書	関連の専門書を授業内にて紹介する。		
教材	デザイン・設計対象の図面や情報を記載したプリントを配布		
履修上の注意	授業に集中し、ひとつひとつを修得し、成果として制作物を完成し提出すること。		
成績評価 (~H29)	個々の理解度、積極的な取り組み姿勢と各講義についてのレポート及び成果物を総合して評価する。 [A]演習についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B]演習についての基本的な知識や技術が習得され、充分なレベルに到達している。 [C]演習についての基本的な知識や技術が習得されている。		
成績評価 (H30~)	個々の理解度、積極的な取り組み姿勢と各講義についてのレポート及び成果物を総合して評価する。 [S]演習についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達していることが秀でた内容で示された。 [A]演習についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B]演習についての基本的な知識や技術が習得され、充分なレベルに到達している。 [C]演習についての基本的な知識や技術が習得されている。		
主担当教員	鍔　隆弘		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-34	履修コード	3656Z1
科目名	建築史Ⅱ	科目英語名	History of Architecture Ⅱ
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	金曜9・10限
履修区分	必修	教室	研修室
単位	2	定員	20名
担当教員	○西本耕喜　（非常勤）林野紀子　（非常勤）山本周		
授業概要	ヨーロッパ建築の造形を古代から近世まで理解し、ヨーロッパ建築空間の構成の展開を理解する。		
到達目標	建築の歴史的変遷の概要について学び、古代から近世に至る空間造形の思想的基礎を修得する。		
授業計画	以下の内容を、建築写真、図面を豊富に用いながら、造形、空間構成を視覚的に確認しつつ分析する。 1．ギリシア神殿建築の造形と空間構成 2．ローマ建築の造形と空間構成 3．初期キリスト教建築及びビザンチン建築の造形と空間構成 4．ロマネスク建築の造形と空間構成 5．ゴシック建築の造形と空間構成 6．ルネサンス建築の造形と空間構成 7．バロック建築の造形と空間構成 8．ヨーロッパ近世建築の概観		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	資料を配付する。		
参考書	森田慶一著『西洋建築入門』東海大学出版会		
教材	特になし。		
履修上の注意	それぞれの単元を理解した上で、次の単元を学習する。		
成績評価 (~H29)	講義の理解度、積極的な取り組み姿勢と提出物を総合して評価する。 [A]西洋建築史についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B]西洋建築史についての基本的な知識や技術が習得され、充分なレベルに到達している。 [C]西洋建築史についての基本的な知識や技術が習得されている。		
成績評価 (H30~)	講義の理解度、積極的な取り組み姿勢と提出物を総合して評価する。 [S]西洋建築史についての基本的な知識や技術が習得され、極めて高いレベルに到達している。 [A]西洋建築史についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B]西洋建築史についての基本的な知識や技術が習得され、充分なレベルに到達している。 [C]西洋建築史についての基本的な知識や技術が習得されている。		
主担当教員	西本耕喜		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-35	履修コード	4172Z1
科目名	コンピュータ演習	科目英語名	Computer Practice
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	コンピュータ室
単位	2	定員	20名
担当教員	（非常勤）山田憲子		
授業概要	コンピータによる建築製図法（CAD）の基礎を学び、二次元から三次元までの幅広い表現方法を習得する。		
到達目標	二次元CADでは基本的知識および操作を習得し、住宅規模の建築物の平面図、立面図、断面図、詳細図を作図できることを目標とする。三次元CADにおいては、制作した二次元図面を使用し三次元空間の表現を目標とする。		
授業計画	第 1回　二次元CAD、三次元CADの現状、基本概念に関する講義と演習 第 2回　二次元CADの基本知識に関する講義、操作演習 第 3～第 9回　平面図、立面図、断面図、詳細図の作図演習 第10回　三次元CADの基本知識に関する講義、操作演習 第11～第12回　三次元データの作成、モデリング練習 第13～第14回　レンダリング練習 第15回　フィニッシュワーク（画像の調整および出力）		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	使用ソフト　ベクターワークス　レンダーワークス		
参考書	使用ソフト　ベクターワークス　レンダーワークス解説書		
教材	PC、スライド資料		
履修上の注意	授業に集中し、ひとつひとつを修得し、成果として制作物を完成し提出すること。		
成績評価 **(~H29)**	演習の理解度、積極的な取り組み姿勢と提出物を総合して評価する。 [A]コンピュータについての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B]コンピュータについての基本的な知識や技術が習得され、充分なレベルに到達している。 [C]コンピュータについての基本的な知識や技術が習得されている。		
成績評価 **(H30~)**	演習の理解度、積極的な取り組み姿勢と提出物を総合して評価する。 [S]コンピュータについての基本的な知識や技術が習得され、極めて高いレベルに到達している。 [A]コンピュータについての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B]コンピュータについての基本的な知識や技術が習得され、充分なレベルに到達している。 [C]コンピュータについての基本的な知識や技術が習得されている。		
主担当教員	角谷　修		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-36	履修コード	3658Z1
科目名	建築製図法	科目英語名	Practice of Architectural Drafting
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	水曜9・10限
履修区分	必修	教室	専攻演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	○西本耕喜・角谷修・鍔隆弘		
授業概要	製図は設計者と製造者との間のコミュニケーションツールである。そこには物語のひとつひとつの単語にあたる線や図面記号があり、それらが組み合わさって文章にあたる構成単位を成し、ひとつのまとまったかたちを第三者に伝える。この文章構成のルールにあたるものが製図法である。演習の中では、デザインの目的や機能について、製図教材に使う実例を通して広く学び、それらの実践の意義を確認する。1年次に修得した製図法基礎をもとに、評価の高い建築の図面のトレースを繰り返しながら、自らデザインした造形物の図面化を行う能力を身につける。		
到達目標	建築の本質は空間にある。表面的な形態や機能の奥に潜む建築の魅力を見つけ出し、図面上の建築と実体験した空間とのなかで、スケール感や建築的デザインを行う力を身につける。 建築はインテリア空間と人の営みを包み込む容器であると同時に、都市やランドスケープを形成する要素でもあり、幅広い環境デザインのそれぞれの分野を繋ぐものと考えられる。デザインの部分と全体との関係を考える視点を獲得することを目標とする 　表現においては、客観的に理解される図面の制作能力とプレゼンテーション能力の向上を目指す。		
授業計画	第1回　授業の説明、準備する用具、ウォームアップ 第2回　木造のつくり方 第3回　木造住宅のトレース 第4回　木造住宅のトレース 第5回　エスキスについて 第6回　エスキス課題①（木造住宅） 第7回　エスキス課題②（木造住宅） 第8回　エスキス課題②（木造住宅） 第9回　木造住宅のCADによる製図① 第10回　木造住宅のCADによる製図② 第11回　木造住宅のCADによる製図③ 第12回　BIMの基本操作・設定 第13回　BIMによる製図①（鉄骨造住宅） 第14回　BIMによる製図②（鉄骨造住宅） 第15回　BIMによる３Dモデル（鉄骨造住宅）		
予習・復習	1年次に修得した製図法基礎を復習してのぞむこと。		
教科書	建築製図基本の基本（学芸出版社）		
参考書	「建築のかたちと空間をデザインする」　フランシス.D.K.チン著　太田邦夫訳　彰国社　ISBN4-395-05079-4「インテリアの空間と要素をデザインする」　フランシス.D.K.チン著　太田邦夫訳　彰国社　ISBN4-395-05087-5「眼を養い手を練れ　宮脇檀住宅設計塾」　宮脇塾講師室編　彰国社　ISBN4-395-00643-4		
教材	特になし。		
履修上の注意	授業に集中し、ひとつひとつを修得し、成果として制作物を完成させて提出すること		
成績評価 (~H29)	授業の理解度、積極的な取り組み姿勢と提出物を総合して評価する。 [A]製図についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B]製図についての基本的な知識や技術が習得され、充分なレベルに到達している。 [C]製図についての基本的な知識や技術が習得されている。		
成績評価 (H30~)	授業の理解度、積極的な取り組み姿勢と提出物を総合して評価する。 [S]製図についての基本的な知識や技術が習得され、極めて高いレベルに到達している。 [A]製図についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B]製図についての基本的な知識や技術が習得され、充分なレベルに到達している。 [C]製図についての基本的な知識や技術が習得されている。		
主担当教員	西本耕喜		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-37	履修コード	4173Z1
科目名	環境デザイン演習（三）	科目英語名	Practice of Environmental Design (3)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	環境デザイン専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	3年環境デザイン演習室
単位	10	定員	20名
担当教員	角谷 修・鍔 隆弘・畝野 裕司・○北村 賢哉・西本耕喜　（非常勤）洪 恒夫・吉永 光秀・未定　（客員教授）須田武憲・新保智子・廣村正彰		
授業概要	「空間デザインの実践」 現場での実践を意識した設計及びデザイン課題を行い、リアリティの高い作品づくりを通して、プロに内容が伝わるポートフォリオ制作を行う。		
到達目標	これまで培ったデザインスキルをもとに、独創的な空間デザインに加え、より実現性の高い課題成果を追求する。学年を通して、空間全体と部分の設計を細部まで扱えるようにすることを目標とし、「空間デザインの実践」を目指す。ファイリングを通して、就職活動に持参するポートフォリオ制作し、これまでの作品を訴求力のある一冊にまとめる。		
授業計画	1．空間デザイン（照明計画を含む）30時間（建築士試験指定科目「建築設計製図」1単位） 専門店の設計を行なう。店舗において扱う商品、店名から店舗ファサードまでを含む空間全体の提案を行なう。提案においては照明計画による空間の演出についても検討する。 2．色彩計画（インテリアマネージメント（生産管理）を含む）60時間（建築士試験指定科目「建築生産」1単位及び「その他」1単位） インテリア工事標準仕様書を中心に建築法規（消防法、防火区画）への認識や建材・材料の知識及び原材料等の成分についての基本的な姿勢とその対応、また積算の方法や契約書等の見方について確認する。さらに確認申請書や公的機関の検査の方法についても必要性と共に解説する。上記の事項を押さえながら実際の材料・建材を使用することを基本に演習を実施する。その中で特にマテリアルボード（材料を中心にした見本帳）を作成し空間での色合いや素材感を重視して取り組む。建築材料学や建築施工を基礎に、コストと行程を意識した設計を行うことで、より現実的な提案に結びつける。 3．建築構法　90時間（建築士試験指定科目「建築一般構造」3単位） 木造等の軸組構造の性能に関して，主として実験的に調べながら、デザインにつながる特徴を探る。まず構法についての基礎知識を習得し、木造建築を中心とした軸組、屋根、壁、床等の各部の成り立ちについて理解を深める。さらに、それらが、どのような順序で組み立てられるものであるかをあらかじめ把握し、それによって構法的に特徴づけられるデザインを検討し提案する。 ・木構造基本 ・木構造概論 ・構造計算法と耐震 4．複合施設　30時間（建築士試験指定科目「建築設計製図」1単位） 美術館とレストラン、図書館とカフェ、駅舎とショップ、ホテルロビーとガーデン等の異なる機能が同居する中規模の施設の設計を行う。建築構造法について解説を行いながら、構造と材料、構法を意識した設計を行うことで、より現実的な提案に結びつける。構造がデザインに密接にリンクしていることを理解することを目的に、構造計画、断面設計について演習を行う。 5．ランドスケープデザイン　60時間（建築士試験指定科目「その他」2単位） 金沢のまちなか区域の広見や河川敷、用水、公園、寺社境内、斜面緑地などのオープンスペースを都市生活における快適空間と位置づけ、空間全体や照明、ファニチャーなどの設計を行なう。※それぞれの課題では、1～2回の中間審査を行い、最終日にはプレゼンテーションを行なう。 6．パース・ドローイング　30時間（建築士試験指定科目「その他」1単位） 透視図法を基本に外観と内観に分けて表現の訓練を行う。人物や素材感、ディテールの描き方等、空間を表現するペースとして身につける。 7．一部の課題において、英語によるプレゼンテーション材料の作成および制作内容の説明を行う。説明を母国語とは異なる言語で検討することにより、自身の制作内容をよりわかりやすくすることを目標とする。		
予習・復習	演習は、現地調査や他学生とのディスカッションを含む。これらに臨む際にはある程度の下調べが予習として要求される。 また、演習の時間中だけでは制作は完結するものではない。演習時間中の教員による講義、エスキースチェックを反映したスタディスケッチ、モデルスタディが復習として要求される。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		

教材	各課題において配付
履修上の注意	就職活動を意識し、それぞれの作品の完成度を高めること。
成績評価 **(~H29)**	
成績評価 **(H30~)**	授業の理解度、積極的な取り組み姿勢と提出物を総合して評価する。 [S]課題についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達していることが秀でた内容で示された。 [A]課題についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B]課題についての基本的な知識や技術が習得され、充分なレベルに到達している。 [C]課題についての基本的な知識や技術が習得されている。
主担当教員	北村賢哉

令和4年度シラバス

番号	(B6)-38	履修コード	3660Z1
科目名	景観論	科目英語名	Theory of Field Landscape
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	前期：毎週　　後期：集中
専攻・年次	環境デザイン専攻3年次	曜日・時限	前期：月曜7・8限　後期：1～4限
履修区分	必修	教室	３年環境デザイン演習室
単位	2	定員	20名
担当教員	○鍔　隆弘　（非常勤）須田　武憲		
授業概要	景観とは私たちを取り巻く環境への眺めのことである。その範囲は、私たちが手に触れることのできる机上のものから遠方の山中の自然環境まで広いスケールに及ぶ。また、私たちの活動は、これら眺めを作る構成要素に常に影響を与え、景観はその姿を変える。景観の本質は、眺める私たちと眺められる要素である対象物との関係性にあるといえる。 授業では眺められる対象物が私たちによってどう捉えられ、景観としてどのように形作られているか、様々なスケールの事例を扱いながら学ぶ。		
到達目標	景観を構成する人為物、自然物の形態と成り立ちについて認識を深め、それらのあり方について自身の意見を明確にすること。また、それらを扱う行政団体などの施策について知識を深める。		
授業計画	ランドスケープデザインで扱う自然林や草原、水域など広大なスケールの景観および自然物が形成する景観について、それらの構成要素の特性と人間の知覚の面から講義を行なう。 前期　第1回から第9回 第1回　「景観」とは　その１／社会性 第2回　「景観」とは　その２／景観の構成要素／見ること 第3回　気候帯、植物、植生、植生遷移について 第4回　地域景観、都市景観について 第5回　金沢市の景観施策／条例とそれぞれの対象地区 文化的景観とその構成要素 金沢の重要伝統的建造物群保存区域の景観 屋外広告物のあり方 第6～8回　学生による調査発表と講評 後期　第9回から第11回 第9回　講義「生態系サービスについて」またはフィールドトリップ 自然景観：社寺の樹林／多様な緑地 都市景観：城下町における見通し景観 第10回　ランドスケープデザインについて ／金沢市内の景観特性を実際に活用した空間デザイン現場の体験 第11回　課題講評　須田武憲客員教授		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	それぞれの領域の内容を理解し、全体を俯瞰した視点からレポートを作成すること		
成績評価 **(~H29)**	授業内のレポートにより評価を行う。 [A]上記到達目標を高いレベルで達成することができた。 [B]上記到達目標を達成することができた。 [C]上記到達目標をある程度達成することができ視野を広げることができた。		
成績評価 **(H30~)**	授業内のレポートにより評価を行う。 [S]上記到達目標を高いレベルで達成することができた。 [A]上記到達目標を達成することができた。 [B]上記到達目標をある程度達成することができた。 [C]上記到達目標の一部を達成し視野を広げることができた。		
主担当教員	鍔　隆弘		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-39	履修コード	4174Z1
科目名	地域空間論Ⅰ	科目英語名	Theory of Regional Planning Ⅰ
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	環境デザイン専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	３年環境デザイン演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	○鍔　隆弘　（非常勤）上坂　達朗		
授業概要	私たちを取り巻く環境は、気候や地形、それらに伴う植生をベースとした風土に対し、人々が様々な関わり方をすることで多様な様相を見せている。デザインする対象の大小に関わらず、私たちの活動はこれら環境との関わりを断つことは難しい。空間デザインが見せる形態は、人々の環境への関わり方であり、その形態の基となる考え方がデザインの本質である。 授業では、市街地から里山近くまでという生活環境のスケールにおいて、異なる環境を実際に見て回る。環境に対する人々の関わり方と、それらが作る空間の形に対しての理解を深める。		
到達目標	自身が生活する金沢の風土の特質を、自然景観やまちなか空間の形態を通して理解し認識すること。 他の地域の風土、文化の特性についても、その場所の空間形態から読み取ることができるようになること。		
授業計画	都市内部および周辺を訪れながら、講義とグループディスカッションを元に、それぞれの形についての自身の解釈を明確なものとする。 重要な視点としては、性質の異なる空間の形が接するインターフェースの部分について、考察を深めることである。旧市街地と新市街地、商業地と住宅地、郊外住宅地と非住宅地など、異なる性質の空間が接する部分では、必ず両者の力が作用、影響しあい、一つの種類の空間内部には見られないダイナミックな形が生まれやすい。空間単位の内部と前衛を理解することで、その本質を見ることができる。 第１日　金沢の街の自然的背景、骨格などの人為的様相とそれらの捉え方に関しての講義 第２日　城下町の形を巡るフィールドワーク 第３日　「城下町の形／城下町と関係の無い形」、「界隈」に関するグループディスカッション／プレゼンテーション 第４日　「界隈」に関するプレゼンテーションと講評 提出課題：レポート　「金沢における界隈に関する考察」		
予習・復習	授業には課題も設定されるので、それらについて予習・復習を行う。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	金沢を歩く：山出保（岩波新書）		
教材	古地図および現況の地図		
履修上の注意	短期の集中講義であり、日程に注意することと。		
成績評価 (~H29)	授業内のレポートにより評価を行う。 [A]上記到達目標を高いレベルで達成することができた。 [B]上記到達目標を達成することができた。 [C]上記到達目標をある程度達成することができ視野を広げることができた。		
成績評価 (H30~)	授業内のレポートにより評価を行う。 [S]上記到達目標を高いレベルで達成することができた。 [A]上記到達目標を達成することができた。 [B]上記到達目標をある程度達成することができた。 [C]上記到達目標の一部を達成し視野を広げることができた。		
主担当教員	鍔　隆弘		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-40	履修コード	3642Z1
科目名	屋内計画論	科目英語名	Theory of Interior Design
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	環境デザイン専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	LAVC室･視聴覚教室
単位	1	定員	20名
担当教員	○角谷　修（非常勤）金子早苗		
授業概要	インテリアをデザイン・設計することを目的に、建築計画との関連をベースにその要点を解説する。また最新情報の紹介と共に、内装材の選定やエコマテリアルの応用等について解説する。さらに現実の現場を想定した説明を実施して建築法規との関連等を含んで、よりリアルな企画、設計を指導する。		
到達目標	時代性を重視するインテリアデザインの現状を理解して、そのデザイン展開方を学ぶと共に建築計画との連動を心掛ける。具体的な目標として、屋内計画に携わる者として知っておくべき基本理論、屋内に関する建築基準法・関連法規、屋内環境の問題点、実務雑学を建築実務車の視点より学ぶ。		
授業計画	１、屋内計画言論 人が屋内空間で快適に（環境工学）心地よく（環境デザイン）過ごすための基本理論 ・きれいな空気 ・適度な自然光 ・快適な温熱環境 ・清潔の維持 ・静けさや快適な響き ・趣のある内装材の色彩 ２、屋内空間法規 屋内計画に携わる者として知っておくべき屋内に関する建築基準法・関連法規 ・居室とは ・居室の採光 ・居室の通風 ・居室の天井高 ・階段の蹴上、ふみ面 ・手すりの高さ ・内装制限 ・肺炎設備 ・バリアフリー ３、屋内の環境 屋内計画に携わる者として知っておくべき閣内環境の問題点 ・アスベスト ・結露 ・音響 ・色彩 ・シックハウスと換気 ４、屋内マテリアル 主な屋内の下地・仕上材のあれこれ（カタログとサンプル集） ・製品安全データシート（MSDS）について ・石膏ボード ・無垢材と煉付材 ・メラミン不燃化粧板 ・ダイノックシート ・人造大理石 ５、建築に関する近年のニュースの深堀 ６、屋内空間での建築士としての実務あれこれ雑学 ・基本計画、基本設計、実施設計		

	・JIS ・消防法 ・集合住宅 ・スケルトン、インフィル ・誘導灯 ・非常用進入口 ・自動火災報知器
予習・復習	初日の授業時に授業用のプリントおよび参考資料を配布するので、一読して次回からの講義に備える。
教科書	授業内にて専門関連のプリントを配布する。
参考書	授業内にて参考となる専門書を紹介する。
教材	素材サンプル、専門カタログ等
履修上の注意	最終日もしくは後日、試験もしくは課題を実施するので講義の要点について理解と確認をしておく。
成績評価 **(~H29)**	毎回配布する資料の理解度と最終試験の成績を総合して評価する。 [A]講義内容を毎回の専門資料をもとに高いレベルで理解できている。 [B]講義内容を毎回の専門資料をもとに充分なレベルで理解できている。 [C]講義内容を毎回の専門資料をもとに理解できている。
成績評価 **(H30~)**	毎回配布する資料の理解度と最終試験の成績を総合して評価する。 [S]講義内容を毎回の専門資料をもとにきわめて高いレベルで理解できている。 [A]講義内容を毎回の専門資料をもとに高いレベルで理解できている。 [B]講義内容を毎回の専門資料をもとに充分なレベルで理解できている。 [C]講義内容を毎回の専門資料をもとに理解できている。
主担当教員	角谷　修

令和4年度シラバス

番号	(B6)-41	履修コード	4175Z1
科目名	映像演習	科目英語名	Practice of Visual Image Processing
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	環境デザイン専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	コンピュータ室
単位	1	定員	20名
担当教員	◯北村賢哉　下浜臨太郎		
授業概要	自身が提案する新たなサービスや空間デザインの魅力を伝えるプレゼンテーション用映像作品の制作		
到達目標	サービスの概要や空間デザインの魅力を伝えるための映像制作の基礎を修得し、プレゼンテーションの伝達力を高める。		
授業計画	１ガイダンス ・映像制作のプロフェッショナルに学ぶ ２コンセプトメイク ・先行事例から学ぶ ・アイデアの抽出 ３アイデアの展開 ・アイデアの可視化手法を学ぶ ・絵コンテでラフ案制作～決定 ４デジタル絵コンテ ・動画制作の基礎を学ぶ ・絵コンテのデジタル化、動画化を行う ・発表、上映会および講評会 ５映像制作 ・デジタル絵コンテを具体的な動画制作につなげる ・作品発表、上映会を行う		
予習・復習	デザインプレゼンテーションに用いられる様々な映像を鑑賞しておくこと。		
教科書	概要を印刷したものを配付する。		
参考書	適宜、配付する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)			
成績評価 (H30~)	課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]映像制作の基本的な操作スキルが習得され、それを活かして作品が特に高いレベルに達している。 [A]映像制作の基本的な操作スキルが習得され、それを活かして作品が高いレベルに達している。 [B]映像制作の基本的な操作スキルが習得され、それを活かして作品が十分なレベルに達している。 [C]映像制作の基本的な操作スキルが習得され、それを活かして作品が一定のレベルに達している。		
主担当教員	北村賢哉		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-42	履修コード	3665Z2
科目名	環境デザイン特論	科目英語名	Applied Theory of Environmental Design
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	隔週
専攻・年次	環境デザイン専攻3年次	曜日・時限	
履修区分	必修	教室	
単位	1	定員	20名
担当教員	○畝野裕司・北村賢哉　（非常勤）未定		
授業概要	デザインの今日的状況とその課題について、担当教員それぞれの専門の場における研究や実践に基づいて講議する。		
到達目標	時代と社会の中で学生それぞれが、自らの制作や研究活動を積極的に位置付け展開することへの感性的、知性的な認識を深める		
授業計画	以下の教員がオムニバス方式で講議する （畝野教授） インハウスデザイナーとしてのこれまでの経験やを海外駐在期間中に訪れた世界遺産を紹介しながら、これからデザインの世界に挑んで行く学生達にとって必要だと思われる様々な事柄について講義。また、世界遺産を理解を深めるためにリサーチ、プレゼンテーションを行なわせる等、ディスカッション形式で授業を進める。レポートを課す。 （北村教授） 産業構造の変化と密接にリンクしてデザインの役割が急速に拡大している時代において、デザインを社会動向とテクノロジーの進化に連動させながら分解する。様々な事例を紹介しながらデザインが果たすべき本質的な役割や産むべき価値について考える場を提供する。毎回紹介する事象事例に対して自分なりの考えを短いレポートにまとめる。 （非常勤）未定		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。毎回の講義の考察をしっかりと行うこと。		
教科書	資料を配付する。		
参考書	適宜プリントの配布や映像による講議、現場視察等を行う。		
教材	使用しない		
履修上の注意	スライドを中心とした、講義形式をとる。		
成績評価 (~H29)	各教員の課すレポート等の評価を総合して単位を認定する。 ［A］デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を高いレベルで考察することができた。 ［B］デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を考察することができた。 ［C］デザインに関する視野を広げることができた。		
成績評価 (H30~)	各教員の課すレポート等の評価を総合して単位を認定する。 ［S］デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を極めて高いレベルで考察することができた。 ［A］デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を高いレベルで考察することができた。 ［B］デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を考察することができた。 ［C］デザインに関する視野を広げることができた。		
主担当教員	畝野裕司		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-43	履修コード	3664Z1
科目名	環境デザイン演習（四）	科目英語名	Practice of Environmental Design (4)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	環境デザイン専攻4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	4年環境デザイン演習室
単位	6	定員	20名
担当教員	角谷　修・鍔　隆弘・○畝野裕司・北村賢哉・西本耕喜　（客員教授）廣村正彰、鷲田めるろ		
授業概要	「空間デザインの探求」 3年生までに培ってきた諸課題をもとに、各自の進路と卒業制作を視野に入れながら個別にテーマを設定し、制作、研究を進める。		
到達目標	各自の進路を確実にするための「ポートフォリオ」の充実と卒業制作につながることをテーマに調査、研究を行う。		
授業計画	期間を二つに分けて制作、研究を行う。 ■ 前半 卒業制作を視野に入れてテーマ探求を行う。テーマ探求のきっかけを見つけられ るよう、それぞれの学生が興味を持つインテリア・ディスプレイ、建築、ランドスケープなどの空間デザイン分野における、様々なデザイン事例や他校の卒業制作について調査する。 また並行して、「ポートフォリオ」制作コンペ等にも取り組む。 ■ 後半 「地域連携」と題し、地域環境にある実際の課題を取り上げ、解決するためのデザインを行う。 プレゼンテーションでは、現場に関わる方からの講評を頂く。		
予習・復習	各自の進路を明確にするための事前調査、資料収集をおこなってアドバイスを生かせるよう努める。		
教科書	特になし。		
参考書	各自のテーマに合わせた参考資料を紹介する。		
教材	配付プリント･PC		
履修上の注意	各自の進路や卒業制作を意識して取り組む。		
成績評価 **(~H29)**	理解度、積極的な取り組み姿勢と各講義についてのレポート提出物を総合して評価する。 [A]演習についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B]演習についての基本的な知識や技術が習得され、充分なレベルに到達している。 [C]演習についての基本的な知識や技術が習得されている。		
成績評価 **(H30~)**	理解度、積極的な取り組み姿勢と各講義についてのレポートや成果物の提出物を総合して評価する。 [S]演習についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達していることが秀でた内容で示された。 [A]演習についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B]演習についての基本的な知識や技術が習得され、充分なレベルに到達している。 [C]演習についての基本的な知識や技術が習得されている。		
主担当教員	畝野裕司		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-44	履修コード	3624Z2
科目名	環境造形計画論	科目英語名	Theory of Environmental Art
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	環境デザイン専攻4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	
単位	1	定員	20名
担当教員	○鍔隆弘　（非常勤）吉村寿博　（客員教授）鷲田めるろ		
授業概要	地域環境とともに成り立っている構造物や地形の改変を伴う大きな構造物のあり方について、実例を見ながら学ぶ。周辺環境の読み込みや環境から影響を受けた構造物形態の成り立ち、将来的な環境の変化予測と形態との関係について講義を行う。		
到達目標	人為構造物を作ることを前提に地域環境を眺めることのできる知識と観察力を高める。		
授業計画	第1回　街中の様々な緑地 金沢市寺町伝統的建造物群保存区域内に存在する寺院境内、墓地、公共緑地を訪れ、市街地における緑地の機能と変遷についての考察を行う。 第2回　大乗寺丘陵公園 市街地と周辺緑地の境界に立地する公園を訪れ、空間体感を基にその特性について考察を行う。 　　辰巳ダム 洪水調節だけの機能を持つ現代的なダムを訪れ、自然環境の中における巨大な人為構造物のデザインについて検討を行う。また隣接して保全されている辰巳用水の取入れ口について、歴史的構造物としての扱い方を学ぶ。 第3回　兼六園、金沢城 空間体験を通して、都市における歴史的空間と建造物についての理解を深め、自身の現代における歴史的な形の扱いに関する考え方を育てる。 第4回　講義　吉村寿博 建築設計の立場から、建築デザイン及び、空間デザイン全体の世界的な潮流について、自身の作品を通じて講義していただく。個人の作品が、社会の中で成立し得る作品性について、建築デザインの領域から学び取り、自身の作品制作に活かす方法論を探る。		
予習・復習	授業の中で適宜、指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	パワーポイント		
履修上の注意	上記、授業計画にあるとおり、いくつかの領域にわたる授業形式です。それぞれの授業を理解した上で、レポートをまとめることが重要です。		
成績評価 **(~H29)**	理解度、積極的な取り組み姿勢と各講義についてのレポート提出物を総合して評価する。 [A]講義についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B]講義についての基本的な知識や技術が習得され、充分なレベルに到達している。 [C]講義についての基本的な知識や技術が習得されている。		
成績評価 **(H30~)**	理解度、積極的な取り組み姿勢と各講義についてのレポート提出物を総合して評価する。 [S]講義についての基本的な知識や技術が習得され、非常に高いレベルに到達している。 [A]講義についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B]講義についての基本的な知識や技術が習得され、充分なレベルに到達している。 [C]講義についての基本的な知識や技術が習得されている。		
主担当教員	鍔　隆弘		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-45	履修コード	3663Z2
科目名	建築法規	科目英語名	Architectural Code
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	環境デザイン専攻4年次	曜日・時限	
履修区分	必修	教室	
単位	1	定員	20名
担当教員	西本耕喜		
授業概要	建築の計画や設計を行うにあたっての必須知識である関係法令について、建築基準法を中心に解説する。		
到達目標	個々の建築物の防災、衛生的な見地から質的向上を図るための建築規制（単体規定）ならびに集合としての建築に秩序を与え、良好な生活環境の実現を図るために必要な建築制限（集団規定）を習得する。		
授業計画	毎回講義後にミニテストを行う。 （１）法規を学ぶ為に　用語の定義、面積算定、階数算定 （２）単体規定　構造全般、防火・避難関係規程 （３）単体規定　天井高さ、階段の勾配、居室の採光 （４）集団規定　道路関係、用途地域、健ぺい率、容積率 （５）集団規定　斜線制限、日影規制 （６）集団規定　総合設計制度、防火上の地域 （７）その他　建築関連法規、手続き規定など		
予習・復習	状況に応じて、適宜指示する		
教科書	資料を配布する		
参考書	「建築法規用教材」日本建築学会 建築基準法関係法令集		
教材	特になし		
履修上の注意	各回のミニテストを必ず提出すること		
成績評価 (~H29)	学期末レポート、学期末試験、積極的な取り組み姿勢を総合して評価する。 [A]講義についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B]講義についての基本的な知識や技術が習得され、充分なレベルに到達している。 [C]講義についての基本的な知識や技術が習得されている。		
成績評価 (H30~)	ミニテスト、学期末試験、積極的な取り組み姿勢を総合して評価する。 [S]建築基準法についての基本的な知識が習得され、極めて高いレベルに到達している。 [A]建築基準法についての基本的な知識が習得され、高いレベルに到達している。 [B]建築基準法についての基本的な知識が習得され、充分なレベルに到達している。 [C]建築基準法についての基本的な知識が習得されている。		
主担当教員	西本耕喜		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-46	履修コード	4176Z1
科目名	地域空間論Ⅱ	科目英語名	Theory of Regional Planning Ⅱ
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	環境デザイン専攻4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	専攻演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	○鍔　隆弘　（非常勤）未定		
授業概要	３年次に履修する地域空間論Ⅰにおいては、金沢を題材に比較的小さな空間の風土と文化特性について理解する視点を育てることを行った。この授業においてはそれを踏まえて、地域空間の特徴を理解しながら、いかにして地域が持っている特性を引き出して魅力ある空間づくりをするかを論ずる。この地域だけでなく世界的視野を持ちながら、地域空間の特質について考えてみる。		
到達目標	地域特性とは何か、またそれを理解し十分に活かした空間デザインとして言葉と形により示すことができること		
授業計画	コンパクトシティ、都市の持続性、公共交通機関、中心市街地についての講義を元にグループディスカッションを行い、この国が直面している状況ついての自身の解釈を明確なものとする。議論の視点としては、現在、十年後、二十年後、数十年後に都市の中、郊外、それ以外で生活している自分を設定する。コンパクトシティという考え方が自身の生活に対してどのように影響するか意見を交換する。その上で中心市街地の一角において、金沢の大きな特徴である用水を活用し、中心市街地の魅力を向上するアイディアを検討する。 第1日　　レクチュア／現地調査 第2日　　グループディスカッション 第3日　　レクチュア／アイディアプレゼンテーション（ 3分） 第4～5日　　制作 第6日　　中間プレゼンテーション／レクチュア 第7～9日　　制作 第10日　プレゼンテーション（ 15分／グループ）／講評／個人レポート作成 プレゼン資料提出締切　第9日　21：00 PDF書類として、Google Classroomにおいて提出すること。		
予習・復習	授業には課題も設定されるので、それらについて予習・復習を行う。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	コピー及びビデオ、ＰＣなどのビジュアル資料		
履修上の注意	短期の集中講義であるので、日程に注意すること。		
成績評価 **(~H29)**	理解度、積極的な取り組み姿勢とレポートを含む制作物を総合して評価する。 [A]上記到達目標を達成することができた。 [B]上記到達目標をある程度達成することができた。 [C]上記到達目標の一部を達成し視野を広げることができた。		
成績評価 **(H30~)**	理解度、積極的な取り組み姿勢とレポートを含む制作物を総合して評価する。 [S]上記到達目標を高いレベルで達成することができた。 [A]上記到達目標を達成することができた。 [B]上記到達目標をある程度達成することができた。 [C]上記到達目標の一部を達成し視野を広げることができた。		
主担当教員	鍔　隆弘		

令和4年度シラバス

番号	(B6)-47	履修コード	4177Z1
科目名	卒業制作	科目英語名	Graduation Work
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	環境デザイン専攻4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	4年環境デザイン演習室
単位	10	定員	20名
担当教員	角谷　修・鍔　隆弘・○畝野裕司・北村賢哉・西本耕喜		
授業概要	これまで専攻演習を中心に修得した専門知識や表現力等をもとにテーマを設定する。 学部を締めくくる研究成果として社会性を重視すると共に学生の立場から新規の発想や 提案を伴うよう考慮する。最終成果のみならず、途中経過を重視することにより研究としての完成度を高める。		
到達目標	テーマ、企画の設定を重視する。途中経過を３段階（企画審査、モデル審査、プレゼン・記録）に分けて、各審査を目標に計画的に進める。		
授業計画	学生を担当教員5名をもとに5チームに分けて、各チーム内で計画的にミーティング、プレゼンテーションを実施して段階的に進行させる。 各教員の担当領域について以下の通り。 建築・都市計画領域（西本） 都市計画、建築デザインを主体にその関係の分野を指導する。 商環境・展示計画領域（角谷） 商業施設、展示デザインを主体にその関係の分野を指導する。 庭園・屋外空間領域（鍔） 緑地、ランドスケープを主体にその関係の分野を指導する。 ブランディング・ディスプレイ（畝野） 商品企画、ディスプレイデザイン全般を主体にその関係の分野を指導する。 プロダクト・什器計画（北村） 住環境、設備・什器デザインを主体にその関係の分野を指導する。 チーム内の授業と並行して全体の審査を定期的に以下のように実施する。 １、 企画審査／テーマ、企画に基づきプレゼンテーションを行う。 ２、 モデル審査／図面等を基本に空間への変換としてモデルやそれに相応しい表現に置き変える。 ３、 プレゼン・記録審査／最終のプレゼンの評価とその記録について審査する。		
予習・復習	各自のテーマに基づき調査、取材を事前に実施する。		
教科書	各自のテーマに基づき専門関連の図書を指示する。		
参考書	各自のテーマに基づき専門関連の図書等を紹介する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	各自の制作計画を早めて立てると共に、その進行について毎回確認を怠らない。		
成績評価 **(~H29)**	各チーム内での進捗確認と定期的なプレゼンテーションの成果を総合して評価する。 [A]テーマの確立と計画的な制作工程を踏んでいることと最終的な仕上がりが高いレベルでできている。 [B]テーマの確立と計画的な制作工程を踏んでいることと最終的な仕上がりが充分なレベルでできている。 [C]テーマの確立と計画的な制作工程を踏んでいることと最終的な仕上がりを確認できた。		
成績評価 **(H30~)**	各チーム内での進捗確認と定期的なプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、および積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S]テーマの確立と計画的な制作工程を踏んでいることと最終的な仕上がりが優れたレベルでできている。 [A]テーマの確立と計画的な制作工程を踏んでいることと最終的な仕上がりが高いレベルでできている。 [B]テーマの確立と計画的な制作工程を踏んでいることと最終的な仕上がりが基本的なレベルでできている。 [C]テーマの確立と計画的な制作工程を踏んでいることと最終的な仕上がりを確認できた。		
主担当教員	畝野裕司		

令和4年度シラバス

番号	(B7)-02	履修コード	4192Z1
科目名	工芸演習（一）A	科目英語名	Practice of Craft (1) A
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度	R4～	毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	工芸科1年演習室他
単位	4	定員	20
担当教員	田中信行・山村慎哉・山本健史・原　智・大高　亨・池田晶一・足立真実・加賀城健・宮永春香・青木千絵・水代達史・〇上田　剛		
授業概要	工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を、制作などを通し包括的に学習する。 素材別に大きく4コース（染織、漆・木工、陶磁、金工）にわけ、それぞれの基礎的な技法、方法論を学ぶとともに、各自の希望に基づき適正と方向を確認する。		
到達目標	工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。工芸素材の使用を体験し、表現の基礎を習得するとともに制作意識の向上を図る。 〔染織コース〕 繊維素材の特徴について基礎知識の習得。基本的な繊維加工プロセスを論理的に理解し、作品制作へ応用が可能な技術を習得する。 〔漆・木工コース〕 漆および木材の基礎的な知識や制作技術を習得する。 漆工芸における乾漆技法と塗りの基礎的知識の理解、道具の扱いの習得、造形素材として漆への理解を深める。木材の基礎的な加工技術・工具の扱い方を習得し、制作意図に応じた方法・技術を理解する。 〔陶磁コース〕 土の基本的な知識と扱い方を習得すると共に、陶磁の制作工程を学ぶ。 また土による造形表現の原理について学ぶ。 〔金工コース〕 金工の基礎知識を習得し、その特性を生かして制作を体験する。		
授業計画	工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。 〔染織コース〕　担当：大高、足立、加賀城 伝統的な繊維素材の加工法と最先端の繊維素材についての講義や、基本的な染色を体験し、素材と技法の関連や表現についての理解を深める。同時に素材に対する自己の適性を探る機会とする。 染色の基礎 ・ステンシル スケッチからの図案作成、型彫り、捺染等の型染に通ずる制作プロセスの習得。 ・絞り 藍による基礎的な絞り技法と浸染の体験。 〔漆・木工コース〕　担当：田中・山村・青木 素材の特性や制作における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を２課題の作品制作を通して体感する。 ・漆造形 乾漆技法における造形制作と塗りを体験する。具体的な課題としては、粘土あるいは発泡スチロール原型に乾漆を施し、塗り仕上げによる作品を制作する。 ・木工 木材における造形の基礎的なプロセスを体験する。具体的な課題としては、ペーパーナイフを制作する。アイディアスケッチ及び図面を描き、木取り、切削加工の後、仕上げとして拭き漆仕上げを行う。		

	〔陶磁コース〕　担当：山本・池田・宮永 土の特性や性質を知り、造形表現の可能性と展開方法を学ぶ。成形から焼成までの流れを知り、各段階における作業内容について基本的な理解をする。 ・手びねりによる成形 　土を積み重ねて面を構築する技術を理解する。 ・上絵付けによる加飾を行う。 　上絵付を体験し、色釉薬に関する性質や技術を理解する。 〔金工コース〕　担当：原・水代・上田 彫・鍛金と鋳金の分野に別れ、それぞれ第一部・第二部の日程で、金属工芸に関する基礎知識の向上を図り、各素材に対する技法の特性と表現の可能性を体感する。 ・鋳金分野 　蝋原型制作から鋳込み、仕上げまでの制作を行う。 ・鍛金分野 　銅板から基本手絞りにより、回転体を制作する。 ・彫金分野 　彫る、切断する、象嵌する等、彫金技法を活用した制作を行う。 上記各分野の演習を通して、制作に際しての道具の使用方法、手順、技法などを確実に理解し基本的表現技工を修得する。 まとめ（講評） 制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域におけるの表現の方法、素材の活用を理解する。自然と工芸の関わりあるいは社会や生活における工芸の役割などを考え、日本・アジア・諸外国などの伝統や地域工芸文化の理解を深める。
予習・復習	予習、復習を要する。詳細は授業において指示する。
教科書	適宜指示する。
参考書	適宜指示する。
教材	適宜指示する。
履修上の注意	今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。
成績評価 **(~H29)**	
成績評価 **(H30~)**	課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]それぞれのコースにおける造形素材について基礎的な技法・技術を理解し、造形表現のための素材を理解し、造形表現と主体的な取り組みが特に秀でた高いレベルに到達している。 [A]それぞれのコースにおける造形素材について基礎的な技法・技術を理解し、造形表現のための素材を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]それぞれのコースにおける造形素材について基礎的な技法・技術を理解し、造形表現のための素材を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]それぞれのコースにおける造形素材について基礎的な技法・技術を理解し、造形表現のための素材を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。
主担当教員	上田　剛

令和4年度シラバス

番号	(B7)-03	履修コード	4193Z1
科目名	工芸演習（一）B	科目英語名	Practice of Craft (1) B
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度	R4～	毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	工芸科1年演習室他
単位	4	定員	20
担当教員	田中信行・山村慎哉・山本健史・原　智・大高　亨・池田晶一・足立真実・加賀城健・宮永春香・青木千絵・水代達史・〇上田　剛		
授業概要	工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を、制作などを通し包括的に学習する。 素材別に大きく4コース（染織、漆・木工、陶磁、金工）にわけ、それぞれの基礎的な技法、方法論を学ぶとともに、各自の希望に基づき適正と方向を確認する。		
到達目標	工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。工芸素材の使用を体験し、表現の基礎を習得するとともに制作意識の向上を図る。 〔染織コース〕 繊維素材の特徴について基礎知識の習得。基本的な繊維加工プロセスを論理的に理解し、作品制作へ応用が可能な技術を習得する。 〔漆・木工コース〕 漆の基礎的な技法や工程を理解し、道具の扱い、加飾技法、仕上げ方法を学び技術を習得する。それに伴い意匠の考え方や加飾表現の原理について理解を深める。 〔陶磁コース〕 土の基本的な知識と扱い方を習得すると共に、陶磁の制作工程を学ぶ。 また土による造形表現の原理について学ぶ。 〔金工コース〕 金工の基礎知識を習得し、その特性を生かして制作を体験する。		
授業計画	工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。 〔染織コース〕　担当：大高、足立、加賀城 伝統的な繊維素材の加工法と最先端の繊維素材についての講義から、初歩的な加工体験を行ない、素材と技法の関連や表現についての理解を図る。また同時に素材に対する自己の適性を探る機会とする。 ・「織物の構成要素」 ・「繊維素材の加工と染色」 ・「素材を糸にする」演習、「糸の知識」 ・「作品制作」織物の構想と設計、素材の選定、製織の基礎を実制作を通じ習得する。 ・「合評」　制作プロセスに注視し、素材、技法への理解を深める。 〔漆・木工コース〕　担当：田中・山村・青木 素材の特性や制作における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術について、漆パネルの制作を通して体感する。 ・漆パネルに描くアイディアスケッチまたは図案を作成する。 ・貝や卵の加工法、卵殻技法・螺鈿技法による加飾技法を学ぶ。 ・上塗り及び上塗り研ぎと研磨、艶上げ法について学ぶ。 〔陶磁コース〕　担当：山本・池田・宮永 土の特性や性質を知り、造形表現の可能性と展開方法を学ぶ。成形から焼成までの流れを知り、各段階における作業内容について基本的な理解をする。 ・鋳込みによる成形 石膏型を用い、鋳込み成形する技術を理解する。 ・ロクロによる成形・焼成 ろくろ成形において土とろくろの回転により造形する技術を理解する		

	〔金工コース〕　担当：原・水代・上田 彫・鍛金と鋳金の分野に別れ、それぞれ第一部・第二部の日程で、金属工芸に関する基礎知識の向上を図り、作品の制作を体験する。 ・鋳金分野 蝋原型制作から鋳込み、仕上げまでの制作を行う。 ・鍛金分野 銅板から基本手絞りにより、回転体を制作する。 ・彫金分野 鍛金技法で制作した胎に、銀線象嵌を行う。 まとめ（講評） 制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域におけるの表現の方法、素材の活用を理解する。自然と工芸の関わりあるいは社会や生活における工芸の役割などを考え、日本・アジア・諸外国などの伝統や地域工芸文化の理解を深める。
予習・復習	予習、復習を要する。詳細は授業において指示する。
教科書	適宜指示する。
参考書	適宜指示する。
教材	適宜指示する。
履修上の注意	今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。
成績評価 **(~H29)**	
成績評価 **(H30~)**	課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]それぞれのコースにおける造形素材について基礎的な技法・技術を理解し、造形表現のための素材を理解し、造形表現と主体的な取り組みが特に秀でた高いレベルに到達している。 [A]それぞれのコースにおける造形素材について基礎的な技法・技術を理解し、造形表現のための素材を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]それぞれのコースにおける造形素材について基礎的な技法・技術を理解し、造形表現のための素材を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]それぞれのコースにおける造形素材について基礎的な技法・技術を理解し、造形表現のための素材を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。
主担当教員	上田　剛

令和4年度シラバス

番号	(B7)-04	履修コード	3702Z1
科目名	描出演習	科目英語名	Practice of Representation
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	工芸科1年演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	○原　智・浅野隆・荒木恵信		
授業概要	もの作りに必要な発想、展開にかかわる描写力の幅を広げ、創作思考の能力を養う。 なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	演習を通して、目的に合った描写方法を選択し、効果的な表現が出来ることを学ぶ。		
授業計画	鉛筆・毛筆による描出演習 描出道具とその扱い並び技法について、描写や講義を通して学ぶ 創作工程に応じた描出の表現方法を体験する。 授業計画Ⅰ（原） 作品制作に於ける描出の重要性について学ぶ。 それぞれのコースに於いて制作する物に対して的確な表現を行う様に描出の基本を演習を通して学び表現する。 授業計画Ⅱ（浅野） 工芸作品の基礎的表現力、自身の発想や考え方を美しく魅力的な造形に落とし込み、第三者が共感する作品をプレゼンテーションできる方法を講義する。 マーカースケッチ １、スケッチの種類と現場での使われ方をスライドにより紹介。 ２、パースの基本（２消点基本図法、簡略図法、円、球体、分割、増殖、角R、明暗・陰影、立方体デッサン ３、ハイライトレンダリング（電話器） ４、マーカー・パステルスケッチの基礎（時計、家電製品、カメラ、車） ５、ラフスケッチ（カメラ）スケッチフォーマット、構図、大きさ、パース、配色、光と影、線の種類、マーカーの塗り方、背景、引き出し線、文字、リフレクション、素材表現、魅力あるグラフィック表現の解説。 授業計画Ⅲ（荒木） 日本古典絵画（平安時代の仏画または絵巻物）の模写（臨模）を通して毛筆による線描を学ぶ ・秒線についての説明 鉄線描や肥痩線など図版を参照しながらそれぞれの描線の特徴を理解する ・文房四宝についての説明 線描に必要な道具である筆や硯の特徴や各部分の名称、使い方と保存方法を解説する 線描に用いる材料である紙と墨についても取り扱い方やそれぞれの原材料、製造工程等を解説する ・模写の実施 手本となる日本古典絵画を横に置き和紙に写すことで線描の基礎を習得する １、和紙にドーサ液で滲み止めを施す ２、仮張りにかける ３、仮張りからはずし、模写を実施する		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において支持する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	学生準備　　クロッキ–帳、鉛筆デッサン用具、墨（墨汁不可）、硯、面相筆数本（穂先のあるものを準備）、水張りテープ 教材費　　約５００円（和紙とドーサ液の代金として）,ガラスコップ、マーカー		

履修上の注意	今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、感染予防対策のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。
成績評価 **(~H29)**	演習を通して描出の基礎的な理解が得られたかを提出作品・授業態度などから総合的に評価する。 [A]描出表現を行うための基礎的な知識が十分に習得され、平面表現が高いレベルに達している。 [B]描出表現を行うための基礎的な知識が習得され、平面表現を行うための思考力や描写力が十分なレベルに達している。 [C]描出表現を行うための基礎的な知識が習得され、平面表現を行うための思考力や描写力がある一定のレベルに達している。
成績評価 **(H30~)**	演習を通して描出の基礎的な理解が得られたかを提出作品・授業態度などから総合的に評価する。 [S]描出表現を行うための基礎的な知識が十分に習得され、平面表現が特に秀でた高いレベルに到達している。 [A]描出表現を行うための基礎的な知識が十分に習得され、平面表現が高いレベルに達している。 [B]描出表現を行うための基礎的な知識が習得され、平面表現を行うための思考力や描写力が十分なレベルに達している。 [C]描出表現を行うための基礎的な知識が習得され、平面表現を行うための思考力や描写力がある一定のレベルに達している。
主担当教員	原　智

令和4年度シラバス

番号	(B7)-05	履修コード	3703Z1
科目名	形態演習	科目英語名	Practice of Modeling
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	工芸科1年演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	○田中信行・山本健史・足立真実・水代達史		
授業概要	表現に必要な基礎造形力を養うことを目的とする。演習を通して素材と表現の関係、形と質感、造形とリズム、造形の考察、立体と空間に対する理解を深める。 なお本科目は、彫刻分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	各自の制作活動を行う上での基礎的な造形力を習得する。		
授業計画	１、現代社会における工芸の役割と可能性 ○　工芸とアート、デザインについて考察する。 ２、表現すること ○　表現する者としての視点を獲得する。 ○　素材が持つ特性と表現との関係を考える。 ○　自分が関心を持つモノやコトを表現へと発展させる。 ３、「私」をテーマに表現する。 ○素材と表現の関係を考える。 ○サイズは自由とする。 ○空間と作品の関係を考える。 ○作品の構造について考える。 ４、展示室に作品展示し学生が主体となって講評会を行う。		
予習・復習	作業の性質上時間外の制作が必要になることがある。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	演習に関わる費用は自己負担。 段ボールの入手方法は各自で考えること。		
履修上の注意	今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価 (~H29)	演習を通して造形の諸要素に対する基礎的な理解が得られたかを提出作品・授業態度などから総合的に評価する。 [A]表現を行うための基礎的な知識が十分に習得され、思考力や表現力が高いレベルに達している。 [B]表現を行うための基礎的な知識が習得され、思考力や表現力が十分なレベルに達している。 [C]表現を行うための基礎的な知識が習得され、思考力や表現力がある一定のレベルに達している。		
成績評価 (H30~)	演習を通して造形の諸要素に対する基礎的な理解が得られたかを提出作品・授業態度などから総合的に評価する。 [s]表現を行うための基礎的な知識が十分に習得され、思考力や表現力が特に高いレベルに達している。 [A]表現を行うための基礎的な知識が十分に習得され、思考力や表現力が高いレベルに達している。 [B]表現を行うための基礎的な知識が習得され、思考力や表現力が十分なレベルに達している。 [C]表現を行うための基礎的な知識が習得され、思考力や表現力がある一定のレベルに達している。		
主担当教員	田中信行		

令和4年度シラバス

番号	(B7)-06	履修コード	3704Z1
科目名	色彩演習	科目英語名	Practice of Coloring
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	工芸科1年演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	大高　亨		
授業概要	色彩基礎及び実用的色彩表現 なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	理論的色彩基礎の理解及び色彩表現の可能性の把握と発見。		
授業計画	講義 色彩とは 色彩学を基本にした色の体系 色彩の３要素と色立体の把握 配色計画 制作 ・色相環の制作 ・グレースケールの制作。 ・明度対比：色相対比：彩度対比など各種色彩対比を体験する。 ・色彩分析：絵画作品から色彩を抽出して、イメージ化（配色計画）につなげ、 色彩による表現手法を学ぶ。 ・ドローイングから、色彩と文様やパターンへの関係を探る。 ・立体と色彩：素材、造形と色彩の関係を探り、表現へと展開する。		
予習・復習	色彩の能力向上のためには色に関心を持ち続ける事が大事です。漠然と見てないで、色を観察してください。 そのためには、事前の予習と終了後の実践が何より大切です。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	色彩の書物は沢山出版されている、目的にあった書物を選ぶことが、必要です。		
教材	日本色彩研究所など色彩に関する資料。		
履修上の注意	本年度の授業については、新コロナウイルス感染の状況により、対面授業を減らしオンライン上でコミュニケーションをとる場合があります。		
成績評価 **(~H29)**	自己評価としての合評会を制作終了の都度行う。 成績は各制作品、授業態度を総合的に判断し評価する。 [A]理論的色彩基礎の理解及び色彩表現の可能性の把握と発見が、高いレベルで実践、作品化できている。 [B]理論的色彩基礎の理解及び色彩表現の可能性の把握をしており、一定のレベルで実践、作品化できている。 [C]理論的色彩基礎の理解及び色彩表現の可能性の把握をし、実践、作品化されている。		
成績評価 **(H30~)**	自己評価としての合評会を制作終了に行う。 成績は各制作品、授業態度を総合的に判断し評価する。 [S]理論的色彩基礎の理解及び色彩表現の可能性の把握と発見が、非常に高いレベルかつ深く実践、作品化できている。 [A]理論的色彩基礎の理解及び色彩表現の可能性の把握と発見が、高いレベルで実践、作品化できている。 [B]理論的色彩基礎の理解及び色彩表現の可能性の把握をしており、一定のレベルで実践、作品化できている。 [C]理論的色彩基礎の理解及び色彩表現の可能性の把握をし、実践、作品化されている。		
主担当教員	大高　亨		

令和4年度シラバス

番号	(B7)-09	履修コード	4189Z1
科目名	材料学演習（石膏）	科目英語名	Practice of Material Science (Plaster)
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	工芸科1年演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	池田晶一・○青木千絵		
授業概要	造形材料として石膏の基本的な知識を理解し、材料体験を通して加工技術と表現方法を習得する。		
到達目標	造形材料としての石膏の基本的な知識と扱い方を習得する。		
授業計画	○材料学 ・主に造形や型の素材としての、石膏についてレクチャーを行い、石膏の扱いに関する知識の習得や技術を身につける。 ①石膏の特質を学び、造形材料としての取り扱い方を習得する。 ②石膏を利用した成型方法を理解する。 ・石膏の取り扱いと注意 ・石膏を利用した成形方法について説明 ③石膏を用いた型の制作について理解する。 ・型の設計についての注意点 ・目的に応じた型の制作について ○原形制作実習 ・作品のテーマを設定し、原形の制作を行う。 ○石膏型制作実習 ・原形から、石膏型の制作を行う。 ・型の設計 ・型の制作		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。材料費などについては各自負担とする。		
履修上の注意	今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価 (~H29)	課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]石膏の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]石膏の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]石膏の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。		
成績評価 (H30~)	課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]石膏の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが非常に高いレベルに到達している。 [A]石膏の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]石膏の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]石膏の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。		
主担当教員	青木千絵		

令和4年度シラバス

番号	(B7)-13	履修コード	4194Z1
科目名	コンピュータ演習Ⅰ	科目英語名	
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度	R4～	毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	工芸科1年演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	田中信行・山村慎哉・山本健史・原　智・大高　亨・池田晶一・足立真実・加賀城健・宮永春香・青木千絵・〇水代達史・上田剛・鈴木康雄		
授業概要	コンピュータを使ったデザインするための基本的な知識や技術を習得し、写真撮影や画像処理等の基礎を習得する。 また写真撮影の基礎知識と撮影基礎実習(機材、照明、デジタル処理など）を学び、写真表現とその技術を修得する。		
到達目標	Adobe Illustrator、 Photoshop等のデジタルソフトの基礎知識と技術を習得し、継続した活用を意識的に習慣づけることで、今後のプレゼンテーション及び実制作への応用・発展のための基礎を作る。		
授業計画	「コンピューター基礎」 ・工芸科デジタルスキームの概要説明 ・デジタルソフトの導入 Adobe Illustrater、photoshop基礎 レイアウト、作図の基礎 ページ作成 「写真技術の基礎」 ・写真撮影の基礎知識 カメラ、レンズ、感光素材の種類と構造 ・写真撮影の基本技術 写真撮影の基本技術と道具の種類や使用方法 ・スタジオの使い方、ライティング（鈴木康雄） 「DTP導入：撮画像処理」 ・デジタルデータの加工と扱い方		
予習・復習	適時指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適時指示する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)			
成績評価 (H30~)	課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [S] デジタルソフトの基礎技術の習得及び写真撮影の概要を理解し、主体的な課題への取り組みが特に秀でた高いレベルに到達した。 [A] デジタルソフトの基礎技術の習得及び写真撮影の概要を理解し、主体的な課題への取り組みが高いレベルに到達した。 [B] デジタルソフトの基礎技術の習得及び写真撮影の概要を理解し、主体的な課題への取り組みが行われた。 [C] デジタルソフトの基礎技術の習得及び写真撮影の概要を理解し、課題に取り組んだ。		
主担当教員	水代達史		

令和4年度シラバス

番号	(B7)-14	履修コード	4185Z1
科目名	デザインプロセス	科目英語名	Practice of Design Process and Techniques
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	工芸科1年演習室
単位	2	定員	20名
担当教員	○大高　亨・水代達史		
授業概要	工芸において必要なデザインプロセスを理解した上で、自らのクリエイション、組織でのクリエイションを社会に送り出す手法について理解を深める。デジタルツールを使ったコミュニケーション能力及びプレゼン技法と知識を習得する。 なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	社会背景を見据えたリサーチを元にブランディングのプロセスを学び、組織でのものづくりと個人でのものづくりのそれぞれのプロセスとプレゼンテーション能力を身につける。		
授業計画	○レクチャー 現代社会における工芸の役割と、デザインと工芸表現の広がりや可能性を考察する。 ○イメージデザインプランニングのトレーニングを行う。 イメージマップ作成、形や色、素材とイメージをひも付け、クリエイションへとつなげる。 様々な事象や思考からクリエイションへとつなげる手法を学ぶ。 ○グループプランニングを学ぶ。 グループワークによる役割分担やディスカッションを通じて、イメージを具現化させるトレーニングを行う。 ○プレゼンテーションを行う。 プレゼンテーションツールの使用と有効なプレゼン技法を学ぶ。 ○デジタルソフト、オンライン上でのコミュニケーション、プレゼンテーションを行う。		
予習・復習	詳細は授業において指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。材料費などについては各自負担とする。		
履修上の注意	本年度の授業については、新コロナウイルス感染の状況によっては、対面授業を減らしオンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価 **(~H29)**	課題の到達度、積極的な授業態度を総合的して評価する。 [A] デザインのプロセスや必要な知識を深く理解し、授業課題への取り組みが高いレベルに到達している。 [B] デザインのプロセスや必要な知識を理解し、授業課題への取り組みが一定のレベルに到達している。 [C] デザインのプロセスや必要な知識を学び、授業課題に取り組めた。		
成績評価 **(H30~)**	課題の到達度、積極的な授業態度を総合的して評価する。 [S] デザインのプロセスや必要な知識を非常に深く理解し、授業課題への取り組みが非常に高いレベルに到達している。 [A] デザインのプロセスや必要な知識を深く理解し、授業課題への取り組みが高いレベルに到達している。 [B] デザインのプロセスや必要な知識を理解し、授業課題への取り組みが一定のレベルに到達している。 [C] デザインのプロセスや必要な知識を学び、授業課題に取り組めた。		
主担当教員	大高　亨		

令和4年度シラバス

番号	(B7)-15	履修コード	4190Z1
科目名	伝統文化論	科目英語名	Theory of Traditional Culture
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度	~R3	毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	事務局前に掲示
履修区分	必修	教室	工芸科1年演習室
単位	2	定員	24名
担当教員	○足立真実・青木千絵　（非常勤）矢地幸子・奈良宗久		
授業概要	日本には茶道などに代表される伝統的な作法や形式からくる美意識が存在する。金沢美術工芸大学はそれら日本文化の色濃く残る金沢という土地にあり、身近に日本文化への知見を深められる環境である。金沢にある茶道・古典芸能・食文化の体験を通して、伝統文化を学ぶ。 講義と茶道具類の拝見、茶道体験を通じて日本美とその文化性を学ぶ。 華道の歴史と文化的背景を講義によって学び、華道を体験することによって美意識を学ぶ。 古典芸能の見方や道具、衣装の構成などの講義と鑑賞を通して日本文化の美と工芸との関係を知る。 和食にある日本文化やそこにある美意識を体験から学ぶ。		
到達目標	日常生活に於ける美の心と伝統文化の根ともいえる室町から江戸にかけての日本文化を茶道と古典芸能を通して学び、工芸との関わりについて理解を深める。		
授業計画	○茶道(奈良) 茶道の歴史を通して日本の伝統文化の変遷を下記の項目で説明する。 １、中国のお茶と日本のお茶の比較。 ２、お茶の伝播と日本の茶文化の関係。 ３、日本の各時代における茶道と社会のつながり。 ４、茶道の歴史とその意義。茶道が日本文化にもたらしたものは何か。 ５、茶道が金沢に与えた文化面の影響。 ６、茶道具の種類と見方、設えについて。 茶道体験と茶室の構成、作法を知る体験と茶道具の解説、拝見。 ○華道（矢地） 華道の歴史や成り立ちを講義形式で説明する。 華道実習では、池坊流派の基本的な形式を指導し、それぞれの美意識によって花を活ける。 ○古典芸能 古典芸能の鑑賞、能または日本舞踊の鑑賞と説明を受け、そこに用いる道具類、衣装の役割と使い方を学ぶ。 「能楽」はユネスコの無形文化遺産に登録されている。特に金沢の能楽は、加賀藩前田家武家の式楽として保護、育成を図り広く奨励したことから宝生流として独自の発展を遂げた。現在は「加賀宝生」と呼ばれ無形文化財に指定されている。 金沢市能楽美術館に於いては貴重な美術品と伝統芸能を直に触れ能楽の魅力を体感する。 ○和食 「和食」は2013年12月4日、ユネスコ無形文化遺産に登録された。 ここでいう「和食」は味噌汁や懐石料理といった料理そのものではなく、日本人の食におけるさまざまな社会的習慣を指す。金沢市近郊にある老舗割烹にて実際に懐石料理を食することで直に食の文化の一端を経験し、工芸のみならず日本文化に対する理解を深める。		
予習・復習	授業計画に基づく。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	配付プリント。 実習にかかる費用を適宜集める。およそ1万円から1万5千円程度。		
履修上の注意	なお今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価 (~H29)			
成績評価 (H30~)	体験実習とレポート、課題到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]伝統文化に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における伝統文化を考察する特に秀でたレベルに到達している。 [A]伝統文化に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における伝統文化を考察する高い能力が認められる。 [B]伝統文化に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における伝統文化を考察する能力が認められる。 [C]伝統文化に対する知識や歴史的背景を理解し、課題等の内容が満たされている。		
主担当教員	足立真実		

令和4年度シラバス

番号	(B7)-18	履修コード	4191Z1
科目名	工芸概論	科目英語名	Introduction to Contemporary Crafts
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	開講せず
入学年度	~R3	毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	
履修区分	必修	教室	工芸科1年演習室
単位	2	定員	20名
担当教員			
授業概要			
到達目標			
授業計画			
予習・復習			
教科書			
参考書			
教材			
履修上の注意			
成績評価(~H29)			
成績評価(H30~)			
主担当教員			

令和4年度シラバス

番号	(B7)-19	履修コード	4197Z1
科目名	工芸概論ⅠA	科目英語名	Introduction to Contemporary Crafts ⅠA
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度	R4～	毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	
履修区分	必修	教室	工芸科1年演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	田中信行・山村慎哉・山本健史・原　智・大高　亨・池田晶一・足立真実・加賀城健・宮永春香・青木千絵・〇水代達史・上田剛		
授業概要	染織、陶磁、金工、漆・木工それぞれの分野における歴史的背景や成り立ち、技法と表現に関しての基礎知識を講義する。また現代における多様化した工芸表現について、各教員が自己の研究領域や研究作品を通じ、多様な視点から工芸について講義する。		
到達目標	工芸に関わる歴史や技術と表現について理解し、現代において多様化する工芸領域の表現の特質、可能性、社会的役割について多角的な視点で考察する。		
授業計画	第１回　　染色及び織に関する基礎知識 第２回　　社会と染織－産業資材からアウトサイダーアートまで　（大高） 第３回　　陶磁に関する基礎知識 第４回　　鋳金、彫金、鍛金に関する基礎知識 第５回　　金属工芸表現について（原） 第６回　　陶による表現について（山本） 第７回　　漆、木工に関する基礎知識 第８回　　漆による造形の世界（田中） 技術毎にレポートを提出する。		
予習・復習	適時指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価 (~H29)			
成績評価 (H30~)	課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [S] 工芸に関わる歴史や技術と表現についての知識が習得され、主体的な考察の取り組みが特に秀でたレベルに到達した。 [A] 工芸に関わる歴史や技術と表現についての知識が習得され、主体的な考察の取り組みが高いレベルに到達した。 [B] 工芸に関わる歴史や技術と表現についての知識が習得され、主体的な考察の取り組みが行われた。 [C] 工芸に関わる歴史や技術と表現についての知識が習得された。		
主担当教員	水代達史		

令和4年度シラバス

番号	(B7)-20	履修コード	4198Z1
科目名	工芸概論ⅠB	科目英語名	Introduction to Contemporary Crafts ⅠB
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度	R4～	毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	
履修区分	必修	教室	工芸科1年演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	田中信行・山村慎哉・山本健史・原　智・大高　亨・池田晶一・足立真実・加賀城健・宮永春香・青木千絵・〇水代達史・上田剛		
授業概要	染織、陶磁、金工、漆・木工それぞれの分野における歴史的背景や成り立ち、技法と表現に関しての基礎知識を講義する。また現代における多様化した工芸表現について、各教員が自己の研究領域や研究作品を通じ、多様な視点から工芸について講義する。		
到達目標	工芸に関わる歴史や技術と表現について理解し、現代において多様化する工芸領域の表現の特質、可能性、社会的役割について多角的な視点で考察する。		
授業計画	第１回　　織物と素材・伝統・芸術の関係性について（足立） 第２回　　染色を考える（加賀城） 第３回　　生活環境における造形物の機能と作用－陶造形の可能性－（池田） 第４回　　工芸（陶磁）における表現について（宮永） 第５回　　金工における加飾表現の可能性と技法について（水代） 第６回　　鋳金における造形表現の可能性について（上田） 第７回　　漆工芸における加飾表現の可能性とその制作法について（山村） 第８回　　漆による造形の可能性について（青木） 技術毎にレポートを提出する。		
予習・復習	適時指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価 **(~H29)**			
成績評価 **(H30~)**	課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 ［S］工芸に関わる歴史や技術と表現についての知識が習得され、主体的な考察の取り組みが特に秀でたレベルに到達した。 ［A］工芸に関わる歴史や技術と表現についての知識が習得され、主体的な考察の取り組みが高いレベルに到達した。 ［B］工芸に関わる歴史や技術と表現についての知識が習得され、主体的な考察の取り組みが行われた。 ［C］工芸に関わる歴史や技術と表現についての知識が習得された。		
主担当教員	水代達史		

令和4年度シラバス

番号	(B7)-21	履修コード	3852Z1
科目名	工芸演習（二）染織	科目英語名	Practice of Craft (2) Textile
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	染織コース諸演習室
単位	12	定員	20名
担当教員	大高　亨・足立真実・○加賀城健　（非常勤）平木三重子・吉本大輔・弘田朋実		
授業概要	染織作品制作のための基礎として諸技法の習得を目指す。素材や道具の理解、染料の理論と扱いを学ぶ。伝統工芸、テキスタイルアート、テキスタイルデザインの領域に対し、学生が柔軟な姿勢で制作に取り組める授業展開を行う。		
到達目標	染織の各種基礎技法の習得。繊維素材における表現の可能性を見出す。		
授業計画	各演習講座を１～５週かけて開講する。２つの演習を同時期に平行して行う場合がある。講座では必要に応じ、映像資料、実物資料を用いる。 1.染織の基礎知識 ・　染色とは、繊維素材と織物組織、模様をつくるとはどういう事か、その方法とは等。 2.素材研究－糸紡ぎ、自然発酵建藍仕込み、藍生葉染（弘田） 3.織物制作に関する基礎知識：演習と講義（大高・足立・平木三重子） ・「織物の多様性の理解」 歴史的視点、機能的視点、美術的感性で織物をとらえる。 ・「糸と素材の知識」 a.織物の素材としての各種繊維素材の特性の理解 b.製糸、紡績、紡毛のしくみと特徴の理解 d.糸の番手の理解。実際的な計算法。 c.糸の扱い方の実際 ・「織物のしくみ」 a.線から面へ。織物組織の理解と構造物としての織物のしくみの理解。 b.組織図作成、読み取りの習得。 ・「製織の実際」　組織サンプルの制作 a.機の基礎知識　-歴史的、地域的、文化的な視点から機の構造を見る- b.織物のデザインプロセスの理解。（企画から設計の流れ） c.製織作業の実際（糸の管理と扱い、整経、経糸の巻き取り、機の整備、製織） d.織物の仕上げ加工の知識と実際 e.コンピュータードビーのデモンストレーション f.紋紙ジャカードのデモンストレーション 4.絞染（浸染法の実践）　演習（加賀城） ・　歴史、道具と材料、技法の解説。 ・　絞りによる表現サンプルを作る。 ・　絞染の意義と可能性を作品制作を通して考察する。 5.蝋染と糊型染（防染の基礎）　演習（加賀城） ・　歴史、道具と材料、技法の解説。 ・　蝋の性質、糊の性質を知る。 ・　一連の工程を習得し、技術と表現の組みあわせを学ぶ。 ・　蝋染、糊型染の特長を踏まえた作品制作を試みる。 6.絣の織物　演習（足立） ・　歴史と地域、道具についての解説。 ・　経絣、緯絣の技法の理解、習得と、意匠表現の特徴を理解する。 ・　この技法による視覚特性を活かした図案の構想と、織物の設計。 ・　各自の構想と設計に基づいた、経絣と緯絣それぞれのサンプルピースの制作。 ・　羊毛、絹を中心とした動物繊維の特性の理解、染色、加工，仕上げの実際。 7.加賀友禅（防染の基礎）　演習（吉本・加賀城） ・　歴史、道具と材料、技法の解説。 ・　友禅糊づくり		

	・ 一連の工程を習得する。 ・ 作品制作を通して表現における加賀友禅の意義と可能性の考察する。 8.スクリーンプロセス 演習（大高・加賀城） ・ 基本的な工程の理解から、材料・道具の使用に習熟する。 ・ 連続パターンの視覚的効果の研究から、独自のプリント生地を制作。 ・ スクリーンプロセスの表現の自由さを生かした個性的な作品制作を期待する。
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。 予習：科目ごとに適時指示する。 復習：演習作業、レポート／サンプル帳等の作成
教科書	適宜指示する。
参考書	適宜指示する。
教材	学生が手配する必要のある場合、事前に指示する。
履修上の注意	作業上学生や教員が密にならず適度な距離を保ちながら、授業が行われるように運営する。授業内容によっては、新型コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。
成績評価 **(~H29)**	授業に対する熱意、提出作品、出席、レポートにより評価する。 [A]素材と技法についての理解と習熟があり、技法ごとの作品に素材と技法の特長が効果的に活かされている。 [B]素材と技法についての理解と習熟があり、技法ごとの作品に素材と技法の特長が活かされている。 [C]素材と技法についての理解と習熟があり、技法ごとの作品に取り組めた。
成績評価 **(H30~)**	授業に対する熱意、提出作品、出席、レポートにより評価する。 [S]素材と技法について優れた理解と習熟があり、技法ごとの作品に素材と技法の特長が極めて効果的に活かされている。 [A]素材と技法についての理解と習熟があり、技法ごとの作品に素材と技法の特長が効果的に活かされている。 [B]素材と技法についての理解と習熟があり、技法ごとの作品に素材と技法の特長が活かされている。 [C]素材と技法についての理解と習熟があり、技法ごとの作品に取り組めた。
主担当教員	加賀城健

令和4年度シラバス

番号	(B7)-22	履修コード	3853Z1
科目名	工芸演習（二）漆・木工	科目英語名	Practice of Craft (2) Urushi・Wood
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	漆実習室
単位	12	定員	20名
担当教員	田中信行・山村慎哉・○青木千絵（非常勤）山岸一男・田村一舟・荒川文彦・金田一司・酒井　忍		
授業概要	漆および木工の基礎的な知識、技術を習得する事を目標とする。特に素地の調整・制作と、さまざまな基礎的技法について学び、知識、技術の向上をはかる。		
到達目標	漆工用具の制作を行い、扱い方の理解を作品制作と共に修練する。木地、乾漆、刳物、指物などの漆素地制作と下地法、漆塗り法、蒔絵、沈金、螺鈿、卵殻などの加飾技法を学び、各種基礎的技法の習得を目標とする。		
授業計画	前期 ・漆工用具（山村・青木） 制作で使用する道具（篦、塗師刀、砥石作り等）を学ぶ。 ・手板制作（青木） 漆の基礎技術（素地調整、下地、塗り、呂色法等）を各工程順に学び、その成り立ちと制作方法を習得する。 漆刷毛の使用法、上塗りの技法について学ぶ。（荒川） ・沈金技法（山岸） 道具（沈金刀、砥石等）の使用法および材料について学び、沈金による手板制作を行う。 後期 ・蒔絵技法（田村） 平蒔絵、研出蒔絵、高蒔絵の制作方法や各種粉の表現方法、仕上げの技術について学ぶ。 ・螺細、卵殻技法（山村） 薄貝、卵殻を用いた加飾技法を習得する。 ・漆箱制作（山村） 漆箱のデザイン、製図、制作方法について学ぶ。 指物技法における道具（鉋、鋸）の使用法を学び、箱木地の制作を行う。（酒井） ・乾漆基礎（田中） 器の制作を通して基本的な乾漆技法を習得する。 ・刳物技法（金田） 道具（鑿、彫刻刀）の研ぎの技術の取得、刳物による造形制作を行う。		
予習・復習	参考書を中心とした事前の予習と充分な復習を要する。また作業の性質上授業時間内に制作が進まなかった場合は時間外の制作も必要となる。		
教科書	授業時にプリントを配布。		
参考書	沢口五一『日本漆工の研究』美術出版 『蒔絵』、片岡華口『螺鈿』（無形文化財記録シリーズ）第一法規出版 小松大秀・ 加藤寛『漆芸品の鑑賞基礎知識』至文堂 各種図録 ＊図書館で利用可		
教材	漆工道具一式、漆、下地材料多種。制作時に随時指示する。		
履修上の注意	今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		

成績評価 (~H29)	漆工用具の製作、扱い方の理解、各種基礎的技法の習得、提出作品、授業態度等を総合して評価する。 提出作品：呂色仕上げ手板（朱、黒）、沈金手板、蒔絵手板、漆箱、器物（乾漆）、器物（刳物） [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが高いレベルに達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品制作への取り組みが一定のレベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んだ。
成績評価 (H30~)	漆工用具の製作、扱い方の理解、各種基礎的技法の習得、提出作品、授業態度等を総合して評価する。 提出作品：呂色仕上げ手板（朱、黒）、沈金手板、蒔絵手板、漆箱、器物（乾漆）、器物（刳物） [S]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが非常に高いレベルに達している。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが高いレベルに達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品制作への取り組みが一定のレベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んだ。
主担当教員	青木千絵

令和4年度シラバス

番号	(B7)-23	履修コード	3854Z1
科目名	工芸演習（二）金工	科目英語名	Practice of Craft (2) Metal
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	鋳金・彫金・鍛金制作室
単位	12	定員	20名
担当教員	原　智・水代達史・◯上田剛　（非常勤）桂　盛仁・川合純司・宮崎　匠		
授業概要	鋳金・彫金・鍛金に於いて、工具の整備を始まりとし、各種道具に対する理解を深めさせる。また金属加工に於ける基礎的技術と技法を演習する。		
到達目標	金属工芸の基礎を学び、金属加工全般に関する知識を深める。		
授業計画	鋳金・彫金・鍛金　原・水代・上田（非）桂・川合・宮崎 鋳金コース前期 　鋳金の一般的概念、技法、並びに専用工具の使用方法を体得し、鋳金に於ける基礎表現手段を実践・認識する。 ○道具整備 　制作に必要な道具類を整備・加工する。 ○真土型基本演習 　石膏挽型原型の制作の後、真土型鋳造の基本実践を行う。 鋳金コース後期 ○惣型基本演習 　挽型用木型制作の後、惣型鋳造の基本実践を行う。 ○鑞の挽型回転体の鋳造演習 　中子に伴う蝋の概念を理解し真土型鋳造法にて制作する。 彫金・鍛金コース前期 　金属工芸の一般的技法、並びに専用工具の使用方法を体得し、基礎的な鍛金・彫金・鋳金に於ける表現手段を実践・認識する。 ○道具整備 　制作に必要な道具類を整備・加工する。特に前期では金鎚と鏨、ヘラの制作が中心となる。 ○接合技法演習 　銀ロウを主とするロウ付け、切削工具の取扱い、並びに実践演習を行う。 ○基本手絞り回転体　桶の制作 　１枚の銅板から桶状の形態を絞り出す事で基本的な鍛金作業を体感する。 ○彫金技法演習 　彫金の原理を講義によって学び、彫金技法に必要な道具製作をはじめ、彫金の基礎演習を行う。 彫金・鍛金コース後期 　作品を制作する工程を通して理論を理解する。その経験を基に、より具体的な表現に結びつける。 ○高肉打ち出し演習　銅板打ち出しによる帯留めもしくはブローチの制作 　モチーフを各自選び、銅板上に構成し打ち出し技法を中心とした高肉レリーフ表現を行う。 ○鍛造演習 　主に鉄材を使用して、実際に使えるものをデザインし制作する。 ○機械加工演習 　旋盤、溶接機や電解腐食等の機械制作に必要な機械の使用方法を体得し、機械加工を用いた制作方法を学ぶ。		
予習・復習	各自、実習ノートを作成する。		
教科書	金工の伝統技法・金工の着色技法		
参考書	参考資料を配布する。 本学の金属工芸に関する収蔵品など適時提示する。		
教材	参考作品を適時提示		

履修上の注意	今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。
成績評価 **(~H29)**	提出作品、課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]金工について基礎的な技法・技術を理解し、造形表現のための素材を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]金工について基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]金工について基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。
成績評価 **(H30~)**	提出作品、課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]金工について基礎的な技法・技術を理解し、造形表現のための素材を理解し、造形表現と主体的な取り組みが特に秀でた高いレベルに到達している。 [A]金工について基礎的な技法・技術を理解し、造形表現のための素材を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]金工について基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]金工について基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。
主担当教員	上田剛

令和4年度シラバス

番号	(B7)-24	履修コード	3855Z1
科目名	工芸演習（二）陶磁	科目英語名	Practice of Craft (2) Ceramic
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	陶磁制作室ほか
単位	12	定員	20名
担当教員	山本健史・池田晶一・〇宮永春香　（非常勤）高橋　宏・中田雅巳・竹内智恵・未定		
授業概要	陶磁作品制作に関する知識と技術について幅広く習得する。陶による作品制作のための様々な素材や技術を身につけ、各自のテーマを具現化する礎を築く。		
到達目標	土をはじめとした様々な素材に関する知識と、それらを扱う技術を体系的に習得する。また完成に至る一連の流れを理解し表現のための思考力を養う。		
授業計画	◎成形技法の習得 ○手びねり成形(成形の基本と粘土の特性を習得する。) ○ロクロ成形（粘土の特質を理解し、基本的ロクロ技術を習得する） ○石膏型による成形 ・石膏よる原型制作 ・石膏ロクロによる原型制作 ・型の設計・鋳込み成形 ・型起こし成形 ◎釉薬に関する知識と技術の習得 ○高温用釉薬 ・調剤実習（釉薬の基礎知識として、基本的な調合と展開の概要を習得する） ・焼成実習(焼成機材の操作と焼成方法) ○低温用釉薬 ・低温釉薬の基礎(基礎釉薬、種類と役割) ◎加飾技法の基礎を習得する ・様々な原料の特質を知る ・土の表情とマチエール ・金属や顔料の添加混入や塗布 ・材料の重層による効果 ◎焼成に関する知識と技術の習得 電気炉・ガス炉の焼成方法について実習体験を通じて学ぶ ◎工房見学、製土及び原料業者見学		
予習・復習	技術の習得のために授業時間外の工房使用を奨励する。詳細は授業において指示する		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。材料費などについては各自負担とする。		
履修上の注意	今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価 (~H29)	課題制作を通して経験する陶磁作品制作のために必要な知識や技術の習得・理解度について、また作品内容および授業態度を総合的に評価する。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を十分に理解し、造形表現と主体的取り組みが高いレベルに達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的取り組みが十分なレ		

	ベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術をある程度理解し、造形表現と主体的取り組みが一定のレベルに達している。
成績評価 (H30~)	課題制作を通して経験する陶磁作品制作のために必要な知識や技術の習得・理解度について、また作品内容および授業態度を総合的に評価する。 [S]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を十分に理解し、造形表現と主体的取り組みが特に秀でた高いレベルに達している。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を十分に理解し、造形表現と主体的取り組みが高いレベルに達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的取り組みが十分なレベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術をある程度理解し、造形表現と主体的取り組みが一定のレベルに達している。
主担当教員	宮永春香

令和4年度シラバス

番号	(B7)-25	履修コード	3856Z1
科目名	素材技法演習（染織）	科目英語名	Practice of Material Technique (Textile)
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	染織コース諸演習室
単位	2	定員	20名
担当教員	大高　亨・○足立真実・加賀城健　（非常勤）関島寿子・平木有二		
授業概要	繊維を素材とする加工物は我々の生活の中に多様に存在する。伝統的技法から現代的技法まで技法領域を広く捉え、繊維素材を扱う様々な技法と加工法を学ぶ。		
到達目標	繊維素材に関わる多様な基礎技法を習得する。 今後の作品制作への応用、展開のための基礎的な知識を習得する。		
授業計画	年間を通じ、以下のスポット授業を開講する。（演習） 1.染料に関する講義と実験（平木､足立） ・自然から染める事を始点に、天然染料から化学染料までを科学的に理解すると共に、染料の実際的な使用法を習得する。 「染織材料の発達」 　染織材料の進歩の過程を、古代から現代、世界と日本の視点から考える。 「精練・漂白と浸染法」 　a.染色理論（繊維素材等への染料の染着に関する理論） 　b.染料の化学構造と繊維の物理構造（この関係による染色性の相違点） 　c.均一染色の要素（染色中の染料の挙動、添加薬剤の効果、染色条件） 　d.染色堅牢度（染料の種類と染色物の用途に対応する染色堅牢度の関係） 「捺染法」模様染めとしての捺染法 　a.捺染の種類と方法（直接捺染、防染、抜染の特徴と問題点） 　b.捺染用薬剤（染料溶解剤、防染剤、抜染剤及び併用薬剤の組成と効果） 　c.捺染用糊剤（特性と使用染料及び併用薬剤との適合性） 　d.顔料捺染（天然高分子、合成高分子などの顔料固着材の捺染特性と効果） 「引染法」手工的捺染としての引染法 　a.引染用染料の選定（刷毛むら、乾燥むら等を防止するための選定法） 　b.防染の種類別による注意点（糊防染、蝋防染の場合の刷毛あと及び変色対応） 　c.地入法（乾燥むら防止のための地入および刷毛むら防止対策） 「綛糸の浸染法」 　a.精練、浸染のための糸と綛の管理法 　b.手工綛糸浸染の実際（均染法、むら染めの活用） 2.「バスケタリー」（関島）演習、スライドレクチャー ・構造物の抽出と分類　組織 ・平面を組む　制作による基礎技法の習得と、アイデア抽出 ・立体を組む　制作による基礎技法の習得と、造形への応用、展開 3.「繊維加工演習」（大高）演習、スライドレクチャー ・シルク、ウールの塩縮加工　理論と技法演習 ・フェルトの制作　理論と技法演習 ・オパール加工の理論と技法演習 ・ニードルパンチの理論と実践 ・意匠糸加工の理論と実践 ・その他の繊維加工法の知識と、技法の複合的研究		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。 予習：レポート２部（バスケタリー）。その他は適時、課題を与える。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	各種繊維素材、生地等を授業時配布。各自入手する物がある場合は、事前に指示する。		
履修上の注意	今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		

成績評価 (~H29)	提出作品およびサンプル。レポートおよび授業態度により総合的に評価する。 [A]素材と技法についての科学的理解、理論的な理解と、技法についての体得的習熟がなされており、作品に素材と技法の特長等が効果的に活かされている。 [B]素材と技法についての科学的理解、理論的な理解と、技法についての体得的習熟がなされており、作品に素材と技法の特長等が活かされている。 [C]素材と技法についての科学的理解、理論的な理解と、技法についての体得的習熟がなされており、作品に素材と技法の特長等が用いられている。
成績評価 (H30~)	提出作品およびサンプル。レポートおよび授業態度により総合的に評価する。 [S]素材と技法についての科学的理解、理論的な理解と、技法についての体得的習熟が積極的になされており、作品に素材と技法の特長等が効果的に活かされている。 [A]素材と技法についての科学的理解、理論的な理解と、技法についての体得的習熟がなされており、作品に素材と技法の特長等が効果的に活かされている。 [B]素材と技法についての科学的理解、理論的な理解と、技法についての体得的習熟がなされており、作品に素材と技法の特長等が活かされている。 [C]素材と技法についての科学的理解、理論的な理解と、技法についての体得的習熟がなされており、作品に素材と技法の特長等が用いられている。
主担当教員	足立真実

令和4年度シラバス

番号	(B7)-26	履修コード	3857Z1
科目名	素材技法演習（漆・木工）	科目英語名	Practice of Material Technique (Urushi・Wood)
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	漆実習室ほか
単位	2	定員	20名
担当教員	田中信行・山村慎哉・○青木千絵　（非常勤）中嶋虎男・荒川文彦・名雪園代・太田翔平		
授業概要	漆技法の習得のために木材挽物素地を用い生活のための漆工芸を考え制作する。		
到達目標	「漆に触れ、漆を知り、漆に慣れる」をテーマにさまざまな角度から漆について考察し素材を知る。また木と漆をテーマに生活のための器づくりを体験し、漆器の良さ、使用する意味を実制作の中から習得する。		
授業計画	木材と漆　木に漆を塗る意味とその歴史、作品に触れものづくり対する意識やその広がりについて学ぶ。 製図　挽物素地制作のための製図法　（青木） 　　完成予想図（レンダリング）をもとに轆轤制作のための製図法を学ぶ。 3Dデザイン 　　デジタルファブリケーションによる素地制作法（太田） 　　昨今のデジタルファブリケーション技術についての知識を学ぶ。 　　CNC及び３Dプリンターの実習（酒器または小皿を制作する） 挽物　木材で回転体を制作するための木工轆轤技法（中嶋） 　　木工轆轤の構造、刃物の種類、小道具の使用法、仕上げ法を学ぶ。 　　実際に木材を削るための知識を学び、自己の製図を元に木工轆轤を体験する。 課題　　お椀-塗物（青木・荒川・名雪） 挽物素地の下地から上塗りまで以下の制作方法を学ぶ。 下地法　　挽物素地の下地法および道具作り 素地調整　刻苧法（節、割れ等）、木材の狂い・動き防止のための木地固め法 布着せ　　縁周りの布着せと惣身付け 蒔地法　　地粉の種類と地付け法 下地　　箆作りと丸物箆付け法、丸物素地の研ぎと砥石作り 中塗り　　丸物のきゅう漆法 上塗り　　上塗り技法、仕上げ		
予習・復習	参考書を中心とした事前の予習と充分な復習を要する。また作業の性質上授業時間内に制作が進まなかった場合は時間外の制作も必要となる。		
教科書	授業時にプリントを配布。		
参考書	梅田総太郎『木工の伝統技法』理工学社 佐々木英『漆芸の伝統技法』理工学社 ＊図書館で利用可		
教材	挽物素地（欅、栃、水目桜）、漆工材料各種、製図用具		
履修上の注意	今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価 **(~H29)**	各種基礎的技法の習得、提出作品、授業態度等を総合して評価する。 提出作品：お椀（本堅地上塗り仕上げ） [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが高いレベルに達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品制作への取り組みが一定のレベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んだ。		

成績評価 (H30~)	各種基礎的技法の習得、提出作品、授業態度等を総合して評価する。 提出作品：お椀（本堅地上塗り仕上げ） [S]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが非常に高いレベルに達している。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが高いレベルに達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品制作への取り組みが一定のレベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んだ。漆工用具の製作、扱い方の理解、各種基礎的
主担当教員	青木千絵

令和4年度シラバス

番号	(B7)-27	履修コード	3858Z1
科目名	素材技法演習（金工）	科目英語名	Practice of Material Technique (Metal)
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	鋳金・彫金・鍛金制作室
単位	2	定員	20名
担当教員	原　智・水代達史・◯上田剛		
授業概要	金属工芸に於ける素材の特性を認識し表現に結びつけることは、非常に重要なファクターとなる。本授業では、鋳金・彫金・鍛金法に準じた素材研究をする。		
到達目標	素材特性の研究と表現方法の相関性について考察する。		
授業計画	金属の特性と作品との関係は、金属工芸での表現を志す場合無視できない重要な要因である。本演習では、それぞれの金属が持つ塑性加工性や酸化・硫化による金属表面の着色方法を研究する。 ○金属の塑性加工 金属素材の各配合や組成による融点、硬度や発色等の特性を理解し、金属塑性加工を研究する。 また、伝統技法に見られる金属加工技術を検証する。 多角的に素材・技法を研究し金属の可能性を模索する。 彫金技法・彫り技法、接ぎ合わせ技法、象嵌技法、ロウ付け技法 鍛金技法・鍛造、機械加工、接合技法 鋳金技法・真土型鋳造技法、ガス型鋳造など 道具整備・金鎚加工整備、各種鏨整備 ○金属の表面処理 金属特性を理解して、それに準じた発色(着色)方法を研究する。 素材表面の処理による色の違いを研究する。 着色技法を伝統的な日本金属工芸の中で重要な要素として考察する。 古典的着色技法・煮色着色、緑青着色、硫化着色 腐蝕加工・電解腐蝕、薬品腐蝕 その他着色・電気着色、鍍金、箔押し ○サンプル制作 研究データを基に、各金属を手板形式でサンプル制作する。 データは各自でアーカイブ化を行い。独自の資料として充実をさせる。		
予習・復習	サンプルについてのデータの整理、手板の作製。各自技法工程をまとめる。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	配付プリント並び適宜指示する。		
履修上の注意	今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価 (~H29)	提出作品、課題の到達度、および積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]金属素材に関する視野を広げ、造形表現について高いレベルで理解することができた。 [B]金属素材に関する視野を広げ、造形表現について理解することができた。 [C]金属素材に関する視野を広げることができた。		
成績評価 (H30~)	提出作品、課題の到達度、および積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]金属素材に関する視野を広げ、造形表現について特に秀でた高いレベルで理解することができた。 [A]金属素材に関する視野を広げ、造形表現について高いレベルで理解することができた。 [B]金属素材に関する視野を広げ、造形表現について理解することができた。 [C]金属素材に関する視野を広げることができた。		
主担当教員	上田剛		

令和4年度シラバス

番号	(B7)-28	履修コード	3859Z1
科目名	素材技法演習（陶磁）	科目英語名	Practice of Material Technique (Ceramic)
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	陶磁制作室ほか
単位	2	定員	20名
担当教員	○池田晶一・山本健史・宮永春香		
授業概要	陶磁の土から焼き物になるまでの工程を体験し、土とは何か、成形とは、加飾とは、焼成とは何かを理解する。また、制作における準備から片付けまで、ものづくりの心得を身に付け、陶磁制作に関わる理解と知識を深める。		
到達目標	素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現研究に主体的に取り組む。		
授業計画	◎陶磁に携わる基礎的な知識の体験と習得。 作業の工程や、それぞれの工程における技術、注意点を理解する。 素材の扱いや道具の扱いについて理解し、基本技術を習得する。 1.陶磁原料の種類と特徴 陶磁で扱う素材の原材料の知識の習得 2.道具の準備 道具の扱い、手入れの方法 竹、木、帯板での道具制作 3.土の扱い 原料である土の理解と調整および管理 4.機器の扱い ロクロやセラローラー等、制作における機器の扱い 5.成形についての概要 ・手捻り、タタラによる成形 ・ロクロによる成形 ・石膏型による成形 6.加飾技法についての概要 下絵、上絵、化粧等 7.釉薬の扱いについての概要 釉薬の調合、調整。釉掛け技法 8.窯の扱いと焼成についての概要 素焼きと本焼成（酸化焼成と還元焼成） 窯の手入れ		
予習・復習	授業計画に基づく。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。材料費などについては各自負担とする。		
履修上の注意	今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価 **(~H29)**	課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現研究と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現研究と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現研究と主体的な取り組みが一定の必要なレベルに到達している。		
成績評価 **(H30~)**	課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を高度に理解し、造形表現研究と主体的な取り組みが非常に高いレベルに到達している。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現研究と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現研究と主体的な取り組みが一定の必要なレベルに到達している。		
主担当教員	池田晶一		

令和4年度シラバス

番号	(B7)-29	履修コード	4186Z1
科目名	古美術演習	科目英語名	Seminar of Ancient Arts
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	終日
履修区分	必修	教室	学外
単位	2	定員	20名
担当教員	○山本健史・水代達史・上田剛		
授業概要	古都で育まれた様々な美術を鑑賞し、有形・無形の文化遺産を尋ねて、日本の美術的土壌を体感する。		
到達目標	各専攻コースの視点から、歴史的な工芸作品・建造物・仏教美術に関する認識を広め、現在の工芸のあり方を捉えることを目標とする。		
授業計画	・ 実際に博物館や工房、寺院等を訪ね、美術品、工芸品の実物を目にする事で、それらへの理解を深める機会とする。 ・見学の以前に、各自のテーマに沿った資料編集による事前研究を行う。またこの研究をもとに見学時のリサーチ計画書を作成し、見学現場を設定。見学現場にてリサーチを行い、研究書としてまとめ、美術品、工芸品への理解の一助とする。 以下のプロセスで授業を進める。 １、「研究会」 ・主な見学先の紹介 ・事前研究についての説明 ２、各自の研究テーマを設定し、資料編集を中心とした事前研究を行う。（個人、グループ） ３、「研究旅行」 ・実際に博物館や工房、寺院等を訪ね見学、調査を行う。（主に京都、奈良） ４、リサーチ結果をもとに、研究報告書をまとめる。（個人、グループ） 提出物 レポート「研究報告書」独自のテーマに基づく、実地調査を交えた研究		
予習・復習	授業計画に基づく。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	今年度は学外での実習に支障をきたす可能性が否定できないため、柔軟な実習形式を想定している。授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価 (~H29)	課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]古美術に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における工芸の展望について考察する高い能力が認められる。 [B]古美術に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における工芸の展望について考察する能力が認められる。 [C]古美術に対する知識や歴史的背景を理解し、課題等の内容が満たされている。		
成績評価 (H30~)	課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]古美術に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における工芸の展望について考察する特に高い能力が認められる。 [A]古美術に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における工芸の展望について考察する高い能力が認められる。 [B]古美術に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における工芸の展望について考察する能力が認められる。 [C]古美術に対する知識や歴史的背景を理解し、課題等の内容が満たされている。		
主担当教員	山本健史		

令和4年度シラバス

番号	(B7)-30	履修コード	3861Z2
科目名	現代工芸論	科目英語名	Formation and Future of Art and Crafts in Japan
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度	～R1	毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	工芸科2年演習室
単位	2	定員	20名
担当教員	田中信行・○加賀城健・宮永春香・非常勤講師（未定）		
授業概要	工芸について多様な視点からの講義を行う。 講義では近代以降の工芸の流れを中心にその成り立ちを知り、多様化し続ける現代における「工芸」について理解を深める。		
到達目標	工芸に関わる歴史や文化を知り、今日多様化する工芸の表現の特質や可能性、社会的役割について目を向け、現代における工芸の在り方について考察を深めることを目標とする。		
授業計画	第１回　　工芸の成り立ちと近代以降の工芸 ① 第２回　　工芸の成り立ちと近代以降の工芸 ② 第３回　　工芸の多様化 第４回　　伝統と工芸 第５回　　現代の表現と工芸 第６回　　産業と工芸 第７回　　工芸とは何か 第８回　　まとめ 各回のテーマに即した課題の提出を求める。		
予習・復習	適時指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適時指示する。		
履修上の注意	作業上学生や教員が密にならず適度な距離を保ちながら、授業が行われるように運営する。授業内容によっては、新型コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価 (~H29)	授業への積極的な参加姿勢及び提出されたレポートを下記の基準により総合的に評価する。 [A]工芸における表現の特質、社会的役割、可能性に関して幅広い視野と理解が高いレベルで得られている。 [B]工芸における表現の特質、社会的役割、可能性に関して、幅広い視野と理解が一定のレベルで得られている。 [C]工芸における表現の特質、社会的役割、可能性に関して、十分ではないが理解が得られている。		
成績評価 (H30~)	授業への積極的な参加姿勢及び提出されたレポートを下記の基準により総合的に評価する。 [S]工芸における表現の特質、社会的役割、可能性に関して幅広い視野と理解が非常に高いレベルで得られている。 [A]工芸における表現の特質、社会的役割、可能性に関して幅広い視野と理解が高いレベルで得られている。 [B]工芸における表現の特質、社会的役割、可能性に関して、幅広い視野と理解が一定のレベルで得られている。 [C]工芸における表現の特質、社会的役割、可能性に関して、十分ではないが理解が得られている。		
主担当教員	加賀城健		

令和4年度シラバス

番号	(B7)-31	履修コード	3713Z1
科目名	工芸演習（三）染織	科目英語名	Practice of Craft (3) Textile
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	染織コース諸演習室
単位	12	定員	20名
担当教員	○大高　亨　・足立真実・加賀城健（非常勤）宮越仁美・金谷勉		
授業概要	表現に関わる基礎演習から、表現にふさわしい技法を習得し展開をする。 専門分野に関わり、文化と歴史に対する知識を養う。 繊維における製品デザインのプロセスを学ぶ。		
到達目標	専門分野の演習を通じ、創造への意識を高め、現代における表現の意義を考察し、より高度な作品の企画力と制作力を習得する。		
授業計画	「テキスタイルプロダクト」（大高・金谷） ・衣装・インテリアなど生活と密着したテキスタイルの企画立案から制作に至るプロセスを、実際のビジネスとして社会に関わるかたちで実践し、専門家とのディスカッションの中で進めていく。 ・テキスタイルの素材（特に新合繊）をとりあげ、テキスタイルデザインの一助とする。 ・天然繊維から新合成繊維まで、繊維の歴史や分類、性質や用途について学ぶ。 「着尺の製織」（足立） ・着物制作のための設計の知識 ・絹素材の手工的な精練，染色法と、絹糸の扱い及び管理 ・紬の製織法、仕上加工法 「刺繍の基礎」（宮越） ・文化的、歴史的な観点からとらえた刺繍の知識を学び、基礎的な刺繍技法を習得する。 「特別制作」（大高・足立・加賀城） 各人の表現や創意を、適切な素材と技法により具現化するプロセスを習得する。 ・各人の創意を基礎とする適切なテーマ設定を行う。 ・その具現化のために制作計画をたてる。 ・創意の具現化のために、素材や技法の的確な選定を行う。 ・失敗を恐れず試行を積み重ね、技法と素材への理解を深める。 ・工芸科教員全員による２回の研究会を通じ、各人にとって適切な表現を模索する。 「デジタルテキスタイル」（大高） デジタル紋織とインクジェットプリントの作品制作。 ・テキスタイルソフトの専門的ツールの実践。 ・基本的パターン展開を学ぶ。 ・デジタル機器のしくみ、制約等を学ぶ。 ・基礎知識を踏まえ、制作を行う。 ※見学（伝統的工芸染織工房、繊維企業、石川県工業試験場、繊維リソースセンター等）		
予習・復習	十分な予習、復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	各種繊維素材、生地等を授業時配布。各自入手する物がある場合は、事前に指示する。		
履修上の注意	工芸演習（二）染織および、素材技法演習（染織）の単位を取得した者あるいは同等以上の学力を有すると認めたもののみ履修することができる。 なお今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合があります。		

成績評価 **(~H29)**	制作プロセス、提出作品、レポートにより総合的に評価する。 [A]各専門分野の演習を通じ、創造への意識を高め、現代における表現の意義を考察し、企画力と制作力を高いレベルで習得、実践、作品化できている。 [B]各専門分野の演習を通じ、創造への意識を高め、現代における表現の意義を考察し、作品の企画力と制作力を習得、実践、作品化できている。 [C]各専門分野の演習を通じ、創造への意識を高め、現代における表現の意義を考察し、作品の企画力と制作力を習得、実践、作品化できていると認められる。
成績評価 **(H30~)**	制作プロセス、提出作品、レポートにより総合的に評価する。 [S]各専門分野の演習を通じ、創造への意識を高く持ち、現代における表現の意識と探求に努め、制作の企画と技術を高いレベルで習得し、非常に優れた作品を作り出している。 [A]各専門分野の演習を通じ、創造への意識を高め、現代における表現の意義を考察し、作品の企画力と制作力を高いレベルで習得、実践、作品化できている。 [B]各専門分野の演習を通じ、創造への意識を高め、現代における表現の意義を考察し、作品の企画力と制作力を習得、実践、作品化できている。 [C]各専門分野の演習を通じ、創造への意識を高め、現代における表現の意義を考察し、作品の企画力と制作力を習得、実践、作品化できていると認められる。
主担当教員	大高　亨

令和4年度シラバス

番号	(B7)-32	履修コード	3714Z1
科目名	工芸演習（三）漆・木工	科目英語名	Practice of Craft (3) Urushi・Wood
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	漆実習室
単位	12	定員	20名
担当教員	○田中信行・山村慎哉・青木千絵　（非常勤）大藪泰		
授業概要	漆芸に関する各種技法、素材の専門的な研究を体験的に行い、個性豊かな作品を制作する。		
到達目標	材料、技術、道具の各側面から漆を考察し、客観的な制作法の手順を体験しさらに深い漆芸の世界観を体得できることを目的とする。		
授業計画	前期 箱の加飾及びパネルの制作 ２年生で制作した指物の塗り木地をもとに蒔絵・螺細・変塗等の加飾を主体に考察し、漆箱を完成させる。また漆の各種技法を用いて平面パネルを制作する。（山村） 漆造形表現 工芸演習（二）で学んだ乾漆技法をもとに造形作品の制作を行う。また造形素材としての漆の可能性について考察する。（田中　青木） 変わり塗り技法Ⅰ 鞘塗にみられる基本的な古典技法を体験し漆におけるテクスチャー、マチエールについて学習する。（山村） その他 平文技法　金属と漆の加飾技法の応用を学ぶ（山村） 後期 技法・素材研究 漆あるいは他素材との組み合わせなどこれまでの概念にとらわれない、新たな技法への挑戦や素材への試みを目的とし制作・研究する。（山村） 特別制作 これまでに学んだ漆の技術、技法をさらに展開・発展させ個性豊かな創造性あふれる自由な作品を制作する。 工芸科全体研究会前のコース内事前研究会の実施10月、11月（田中、山村、青木） その他 螺細技法　薄貝を用いた加飾技法の習得、螺鈿のカットについて学習する（山村） 漆工技法・材料(非常勤講師)		
予習・復習	事前の予習と充分な復習を要する。また作業の性質上授業時間内に制作が進まなかった場合は時間外の制作も必要となる。		
教科書	特になし。		
参考書	沢口五一『日本漆工の研究』美術出版 『蒔絵』、片岡華口『螺鈿』（無形文化財記録シリーズ）第一法規出版 小松大秀・　加藤寛『漆芸品の鑑賞基礎知識』至文堂 各種図録 ＊図書館で利用可		
教材	漆工道具、蒔絵道具、その他各種材料		
履修上の注意	年間を通しての最も重要な授業である。学生として授業に臨む生活リズムを早期に身につけ積極的に制作・研究に取り組むことが重要となる。 工芸演習（二）漆・木工および、素材技法演習（漆・木工）の単位を取得した者あるいは同等以上の学力を有すると認めたもののみ履修することができる。		

	なお今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合があります。
成績評価 **(~H29)**	授業への積極的な参加姿勢及び提出された課題作品を下記の基準により総合的に評価する。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが高いレベルに達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品制作への取り組みが一定のレベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んだ。
成績評価 **(H30~)**	授業への積極的な参加姿勢及び提出された課題作品を下記の基準により総合的に評価する。 [S]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが非常に高いレベルに達している。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが高いレベルに達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品制作への取り組みが一定のレベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んだ。
主担当教員	田中信行

令和4年度シラバス

番号	(B7)-33	履修コード	3715Z1
科目名	工芸演習（三）金工	科目英語名	Practice of Craft (3) Metal
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	鋳金・彫金・鍛金制作室
単位	12	定員	20名
担当教員	原　智・〇水代達史・上田 剛（非常勤）未定		
授業概要	各自の作品制作において、鋳金・彫金・鍛金に関する各種技法、素材の専門的な研究を体験する。		
到達目標	金属工芸に関する専門的な技術・技法を習得し、独自の表現を展開する力を身につける。		
授業計画	鋳金コース　上田 剛 　一年を通じて多様な鋳金技法を学び、より高度な表現を考察する。特に後期の特別制作では、個性を重視し、表現の展開を中心に考察する。 前期　塑造を伴った真土型鋳造又はガス型鋳造の演習 後期 ○鋳造演習 　デザインからアートまで各自のテーマにより制作する。鋳造法ならびに素材等自由選択。 ○特別制作 　各自テーマを設定し、明確なコンセプトの基に制作研究をする。 彫・鍛金コース　原・水代　（非常勤）未定 　基礎技術と素材の関係に対する研究を通じ、作品への意識を向上させる。感性・技術・表現の接点を考察し、より高い次元での表現へと発展させる為の知識を広める。前期では彫金・鍛金共に、基本的な技術の修得を目指し、後期においては特別制作を課題として、時代性に沿った思考並びに感性を、２年次、３年次に行った課題を基に自由な発送と表現の展開を結びつけた作品制作をする。特別制作は進級制作的意味を持つ。 前期　伝統技法修得（伝統的な彫金・鍛金技法を検証、実践する） 　　立体・平面作品・複合表現 ○変形絞り 　自由形態制作　１枚の銅板から有機的な形を絞り出し、形態を創作する。 ○ジュエリー制作 　主に銀材を用いてジュエリーを制作する、基本的なロウ付け技法を応用してより高度　な表現を習得する。 　また貴石に関する知識を深め、爪留め、福輪留めを用いて銀に装着する技法を習得する。 後期 ○金属加工演習 　電解腐蝕によるエッチング、通電セラミック蒸着着色などの加工技術と伝統的加飾技法を複合的に扱い表現の可能性を探る。 ○接合演習 　電気溶接機（Tig）の基本的な使用方法を学習し、接合を行う。 ○特別制作 　各自テーマを設定し、明確なコンセプトの基に制作研究をする		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業にて指示する。		
教科書	〔彫・鍛金〕金工の伝統技法・金工の着色技法　〔鋳金〕美術鋳物の手法		
参考書	参考資料を配布する 本学収蔵作品		
教材	参考作品を適時提示		
履修上の注意	工芸演習（二）金工および、素材技法演習（金工）の単位を取得した者あるいは同等以上の学力を有すると認めたもののみ履修することができる。 なお今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合があります。		

成績評価 **(~H29)**	課題提出２回（学期末）、合評２回（学期末）、研究発表４回（随時） レポート提出２回（学期末） 演習を通して金属素材の基礎的な理解が得られたかを提出作品・授業態度などから総合的に評価する。 [A]金属工芸を行うための基礎的な知識が十分に習得され、技法・知識・独自性が非常に高いレベルで表現に結びついている。 [B]金属工芸を行うための基礎的な知識が習得され、技術・知識と独自性が十分なレベルに達している。 [C]金属工芸を行うための基礎的な知識が習得され、技術・知識と独自性がある一定のレベルに達している。
成績評価 **(H30~)**	課題提出2回（学期末）、合評２回（学期末）、研究発表４回（随時） レポート提出２回（学期末） 演習を通して金属素材の基礎的な理解が得られたかを提出作品・授業態度などから総合的に評価する。 [S]金属工芸を行うための基礎的な知識が特に秀でて習得され、技術・知識・独自性が非常に高いレベルで表現に結びついている。 [A]金属工芸を行うための基礎的な知識が十分に習得され、技法・知識・独自性が高いレベルで表現に結びついている。 [B]金属工芸を行うための基礎的な知識が習得され、技術・知識と独自性が十分なレベルに達している。 [C]金属工芸を行うための基礎的な知識が習得され、技術・知識と独自性がある一定のレベルに達している。
主担当教員	水代達史

令和4年度シラバス

番号	(B7)-34	履修コード	3716Z1
科目名	工芸演習（三）陶磁	科目英語名	Practice of Craft (3) Ceramic
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	陶磁制作室ほか
単位	12	定員	20名
担当教員	山本健史・○池田晶一・宮永春香・安島諭　（非常勤）田　聡美・未定		
授業概要	素材・技法研究及び陶磁造形研究を大きな柱とし、専門的な技法・技術の習熟に加え、造形表現の展開について学ぶ。 陶磁器における製品デザインのプロセスを学ぶ。		
到達目標	独自の表現追求へ向け、やきものにおける基礎知識・技術を発展的に展開し、各自の研究テーマ・領域を明確にする。		
授業計画	◎陶磁造形研究（山本、宮永、池田） 　自身のもとめる造形表現のために必要な素材や技法の選択とその習熟、造形思考の展開について学ぶ。 ◎セラミックプロダクトデザイン（池田、安島） 　・生活空間におけるセラミックプロダクトのあり方についての提案とその製品企画、及び制作を行う。 　　（デザイン開発の進め方、プレゼン資料の作成などを行う） ◎ガラス基礎造形(宮永、田<非常勤>) 　・キルンキャスト技法を用いた作品制作を通じて、ガラスの特性を理解する。 ◎デジタルファブリケーションの陶磁への技術の活用(池田、未定<非常勤>) 3DソフトFusion360によるモデリングおよび石膏３Dプリンター造形へ展開する。 ◎特別制作 　・これまでの研究を踏まえ展開・発展させたテーマを各自が設定し、独自性のある創造性あふれる自由な作品制作を行う。 　・各自のテーマ及びコンセプトに即し、的確な素材や技法・技術の選択と実験を重ね、本制作に結び付ける。 　・工芸科全体の研究会とは別にコース内事前研究会を行う（コース年間授業計画を目安に学生がセッティングする）		
予習・復習	授業計画に基づく。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。材料費などについては各自負担とする。		
履修上の注意	工芸演習（二）陶磁および、素材技法演習（陶磁）の単位を取得した者のみあるいは同等以上の学力を有すると認めたもの履修することができる。 なお今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合があります。		
成績評価 **(~H29)**	課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。		
成績評価 **(H30~)**	課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を高度に理解し、造形表現と主体的な取り組みが非常に高いレベルに到達している。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定の必要なレベルに到達している。		
主担当教員	池田晶一		

令和4年度シラバス

番号	(B7)-35	履修コード	3860Z1
科目名	地域工芸演習Ⅰ	科目英語名	Practice of Regional Art Crafts Ⅰ
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	終日
履修区分	必修	教室	学外
単位	2	定員	20名
担当教員	田中信行・加賀城健・○宮永春香・上田　剛		
授業概要	伝統的工芸産地に出向き、見学や体験実習等を通して、産地の現状や職人の高度な技術を実地見聞、研修する。また卒業後の進路を鑑み、今後の制作活動の参考とする。		
到達目標	伝統的工芸産地に興味関心を持ち、材料や技術について新たに知識を習得し、今後の制作活動に活用できるようにする。		
授業計画	授業日数（時数） 二泊三日ないし三泊四日の実地研修および事前の研究会、事後の反省会、報告書の作成等で、延べ５～６日（６０時間）程度の期間を当てるものとする。 研修における留意点 基本的に各コース単位での研修活動となる。各コースで単なる見物に終わることがないよう事前調査を充分に行い、現地では材料や技術に関する知識を深めるべく積極的に質問し、必要に応じてデモンストレーションをお願いし、また可能であれば体験実習にも取り組む。得られた知見は確実に記録し後ほど報告書にまとめる。 報告書について 画像データなどを活用し、後の制作活動に活用し得る資料として作成する。各自の資料としてまた後輩の資料ともなるよう複数作成し、ファイリングして提出する。必要に応じて担当教員が保管する。		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。随時担当教員より指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	今年度は学外での実習に支障をきたす可能性が否定できないため、柔軟な実習形式を想定している。授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価 (~H29)	課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]地域工芸に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における工芸の展望について考察する高い能力が認められる。 [B]地域工芸に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における工芸の展望について考察する能力が認められる。 [C]地域工芸に対する知識や歴史的背景を理解し、課題等の内容が満たされている。		
成績評価 (H30~)	課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]地域工芸に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における工芸の展望について考察する特に高い能力が認められる。 [A]地域工芸に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における工芸の展望について考察する高い能力が認められる。 [B]地域工芸に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における工芸の展望について考察する能力が認められる。 [C]地域工芸に対する知識や歴史的背景を理解し、課題等の内容が満たされている。		
主担当教員	宮永春香		

令和4年度シラバス

番号	(B7)-36	履修コード	3864Z1
科目名	地域工芸演習Ⅱ	科目英語名	Practice of Regional Art Crafts Ⅱ
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中（夏季休業期間含む）
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	終日
履修区分	必修	教室	学外
単位	2	定員	22名
担当教員	○山本健史・原　智・足立真実・青木千絵		
授業概要	金沢および全国の工芸産地には各種の工芸素材を基にした産業や製品を作る場が多く存在する。学内のみで行われてきた授業形態からさらに社会へ目を向け、地域に係わることによって工芸の本質あるいはその意味また社会の中での工芸のあり方を考える。		
到達目標	繊維、陶磁、漆、金属それぞれの生産の場に実際に係わることによって初めて見えてくる生の現場を体験し、今後の進路、制作、研究に生かすための方策をさぐる。また社会人としての意識を醸成し、責任ある行動力と判断力を身につける。		
授業計画	この授業の形態は大きく３つに分けて構成する。 1.事前授業 自己の専門にあわせて実習先となる受け入れ先の選択。 受け入れ先の事前調査を行い、その概要・目的や生産の方法論などを把握する。 社会人としての意識、心構えを学ぶ。 2.学外授業（インターンシップ） 各自の選んだ受け入れ先でそれぞれ実習を行う予定だが、受け入れ困難な場合は日数を減らしたり、代替え措置をとることもある。 ・染織コース　繊維関連会社、販売店、染織工房、作家工房、デザイン企画会社等 ・陶磁コース　窯業関係各種会社、陶磁器生産工場、作家工房、デザイン企画会社等 ・漆木エコース　漆関係会社、塗師、蒔絵師、金箔業界、仏壇業界、作家工房等 ・金属コース　金属関係各種会社、象嵌工房、作家工房、金箔業界等 3.事後 体験を通して学んだ事柄を各自でまとめ今後の制作、研究、進路決定に役立てる。 レポートの提出が必要となる。		
予習・復習	研修先の情報を収集し、事前に充分な予習を行った上で研修に取り組むこと。事後はそれぞれの制作活動に研修の成果を活かせるよう心がける。		
教科書	特になし。		
参考書	各分野の専門性に則り、適宜指示する。		
教材			
履修上の注意	今年度は学外での実習に支障をきたす可能性が否定できないため、柔軟な実習形式を想定している。授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。また書籍やインターネットを活用した学習を取り入れる場合もある。		
成績評価 (~H29)	実習ノートの提出、課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]地域工芸に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における工芸の展望について考察する高い能力が認められる。 [B]地域工芸に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における工芸の展望について考察する能力が認められる。 [C]地域工芸に対する知識や歴史的背景を理解し、課題等の内容が満たされている。		
成績評価 (H30~)	実習ノートの提出、課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]地域工芸に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における工芸の展望について考察する非常に高い能力が認められる。 [A]地域工芸に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における工芸の展望について考察する高い能力が認められる。 [B]地域工芸に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における工芸の展望について考察する能力が認められる。 [C]地域工芸に対する知識や歴史的背景を理解し、課題等の内容が満たされている。		
主担当教員	山本健史		

令和4年度シラバス

番号	(B7)-37	履修コード	3863Z1
科目名	複合素材演習	科目英語名	Practice of Compound Material
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	工芸科3年教室・各制作室
単位	2	定員	20名
担当教員	山村慎哉・○加賀城健・宮永春香・上田剛		
授業概要	陶磁・漆木工・染織・金工、それぞれのコースにおいて培った技法・素材を中心に、選択コース以外の素材及び技法を積極的に取り入れた複合表現を模索、研究する。それにより、多角的見地から工芸を捉える。		
到達目標	複数の工芸素材と技法を修得し複合的に扱うことにより、独自の表現を展開する力を身につける。		
授業計画	1.複合素材を扱うことに対する意識とその可能性について説明 陶磁・漆木工・染織・金工それぞれの特性 2.専門とするコース以外の素材・技法研究 専門コース以外のコース及び教員とのディスカッションを繰り返し、複合素材を扱うことの意味と可能性を模索し研究する。 3.テーマ・コンセプトの構築 造形物や装身具等の制作を主なテーマとして設定し、実際に制作するものの のプラン設計と具体的な研究目標を定める。 4.研究及び試作 プランに基づき、研究及び試作をする。 5.中間発表 本制作に向けて、作品および研究途中経過のプレゼンテーション。 6.本制作 7.展覧会形式による作品提出並びに最終プレゼンテーション		
予習・復習	予習 専門とするコースで３年次にいたるまで研究した事柄を整理し、知識として確実なものとする。 制作・研究に関する資料を収集する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	各専門コースにて対応する。		
履修上の注意	作業上学生や教員が密にならず適度な距離を保ちながら、授業が行われるように運営する。授業内容によっては、新型コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価 (~H29)	提出作品、課題の到達度、プレゼンテーションを総合して評価する。 [A]工芸素材に関する視野を広げ、造形表現を高いレベルで理解することができた。 [B]工芸素材に関する視野を広げ、造形表現を理解することができた。 [C]工芸素材に関する視野を広げることができた。		
成績評価 (H30~)	提出作品、課題の到達度、プレゼンテーションを総合して評価する。 [S]工芸素材に関する視野を広げ、造形表現を非常に高いレベルで理解することができた。 [A]工芸素材に関する視野を広げ、造形表現を高いレベルで理解することができた。 [B]工芸素材に関する視野を広げ、造形表現を理解することができた。 [C]工芸素材に関する視野を広げることができた。		
主担当教員	加賀城健		

令和4年度シラバス

番号	(B7)-38	履修コード	3717Z1
科目名	工芸企画演習	科目英語名	Practice of Craft Planning
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週（集中含む）
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	火曜5･6限
履修区分	必修	教室	映像メディア室･工芸科3年演習室･企画情報室
単位	2	定員	22名
担当教員	○大高　亨・鈴木康雄・水代達史・上田剛（非常勤）吉田絵美・金堂佳永子		
授業概要	工芸と社会とをテーマに自己の制作研究活動を伝えるためのプレゼンテーション能力と工芸分野のマネージメントの方策を探る。授業は大きく２つのテーマに分けて実施する。 1.自己を社会に発信するためのポートフォリオ等の制作とその伝達手段の研究。 2.工芸家及びクリエーターとして活動している諸氏の実経験の紹介。		
到達目標	授業を通し、実際に工芸科として或いは社会活動を行うためのさまざまな手段を学び、制作活動とは違った側面からの自己アピールの方策を探り応用できることを目的とする。		
授業計画	前期（大高亨　鈴木康雄　水代達史 上田剛）(非常勤講師 吉田絵美) 1)授業概要説明・プレゼンテーションとポートフォリオの意義について 2～3)イラストレーターを使っての基本レイアウトデザインの作成 4～5)写真撮影の実技 8～14)フォトショップ、イラストレーターを使ってのポートフォリオの作成 15)合評会 後期（大高亨　加賀城健　水代達史）　（非常勤講師）金堂佳永子 16)工芸マネージメントを中心とした社会参加の活動について：大高亨 17)工芸マネージメント染織編：未定 18)工芸マネージメント陶磁編：未定 19)工芸マネージメント漆木工編：未定 20)工芸マネージメント金属工芸編：未定 21～27)自己のマネージメントについてのイメージポートフォリオ作成 28)合評会 29.30)面接演習　個人面接およびグループ面接における基本的実習		
予習・復習	授業以外の課題制作。コンピュータの使用等が必要となる。特に授業後の反復実習が大切である。		
教科書	特になし。		
参考書	ポートフォリオ見本帳、　人の心を動かす三ツ星ポートフォリオの企画（虎の巻）		
教材	パソコンなどのＯＡ機器		
履修上の注意	毎回、課題の進行状況の経過報告と問題点の解決を個々に指導するため出席の有無が重要となる。 なお今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		

成績評価 **(~H29)**	プレゼンテーションのための資料制作およびプレゼンテーション。ポートフォリオの提出。 レポート提出。 [A]実際に工芸家として或いは社会活動を行うためのさまざまな手段を学び、制作活動とは違った側面からの自己アピールの方策を探り、高いレベルで実践できている。 [B]実際に工芸家として或いは社会活動を行うためのさまざまな手段を学び、制作活動とは違った側面からの自己アピールの方策を探り、実践できている。 [C]実際に工芸家として或いは社会活動を行うためのさまざまな手段を学び、制作活動とは違った側面からの自己アピールの方策を探ることができている。
成績評価 **(H30~)**	プレゼンテーションのための資料制作およびプレゼンテーション。ポートフォリオの提出。 レポート提出。 [S]実際に工芸家として或いは社会活動を行うためのさまざまな手段を学び、制作活動とは違った側面からの自己アピールの方策を探り、特に秀でた高いレベルで実践できている。 [A]実際に工芸家として或いは社会活動を行うためのさまざまな手段を学び、制作活動とは違った側面からの自己アピールの方策を探り、高いレベルで実践できている。 [B]実際に工芸家として或いは社会活動を行うためのさまざまな手段を学び、制作活動とは違った側面からの自己アピールの方策を探り、実践できている。 [C]実際に工芸家として或いは社会活動を行うためのさまざまな手段を学び、制作活動とは違った側面からの自己アピールの方策を探ることができている。
主担当教員	大高　亨

令和4年度シラバス

番号	(B7)-40	履修コード	4181Z1
科目名	工芸演習（四）染織	科目英語名	Practice of Craft (4) Textile
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸科4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	染織コース諸演習室
単位	16	定員	20名
担当教員	○大高　亨・足立真実・加賀城健　　（客員教授）未定　　（非常勤）福本繁樹・須藤玲子・八幡はるみ		
授業概要	学生個々のテーマに応じた、より高度で専門的な知識・技術・素材による試行を積み重ね、研究制作を行う。		
到達目標	研究制作を通じ、学生個々の専門性に応じた素材と技術に精通する。 現代における作品制作の意義をふまえ、個々の発想を具現化する計画性と制作力を養い、高い完成度を目指す。		
授業計画	以下のプロセスで個々の学生の研究に応じた指導を行う。 「研究テーマに応じた自主制作」 ・現代における各自の創造の意義と社会性に注視し、個々の研究テーマを設定する。 ・学生個々の研究テーマに応じ、制作物の視覚イメージを捻出。 ・学生個々の研究テーマに応じ、研究目標を定める。 ・研究目標に従い、各自の研究計画を設定し、計画書を作成する。 ・試作、研究を重ね、より高度で専門的な知識の学習と、制作技術を習得する。 ・　試作による研究成果を活用し、各自の創意やイメージを、作品として具現化する。 ・　作品と制作過程、研究過程をふりかえり、研究成果の確認と問題点の認識をはかる。 　　a.研究会１　研究テーマ発表　－学生、教員によるディスカッション形式- 　　b.研究会２　中間発表　－研究制作の経過を学生、教員により考察- 　　c.作品提出　作品合評 提出物：研究計画書、研究テーマ説明書、制作物の視覚イメージ資料、作品、研究報告資料 卒業制作 ・制作テーマの提出　（前期中頃） ・研究会（9月・10月） ・中間審査（11月） ・最終審査（12月） ・写真撮影と図録作成（12月～1月頃） ・卒業制作展展示　（2月） 卒業制作については次の教員が染織の造形表現について指導する。 （大高　亨）繊維造形表現、プロダクトテキスタイル、組織を用いた織物表現の指導 （足立真実）織着物、絣織や綴織技法、天然染料の指導 （加賀城健）染色表現全般の指導		
予習・復習	各自の研究に即した、多様な知識技術について、常に自学自習に取り組む。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	研究および制作に必要な資料、材料は、学生自身で入手する。		
履修上の注意	本年度の授業については、新コロナウイルス感染の状況によっては、対面授業を減らしオンライン上でコミュニケーションをとる場合があります。		
成績評価 **(~H29)**	制作プロセス、提出作品、レポートにより総合的に評価する。 [A]素材・技術・表現において、バランス良く研究しており、さらに高度な研究へと進める充分なスキルを有する。 [B]素材・技術・表現において、一定の能力を習得した。 [C]素材・技術・表現において、最低限の成果が得られた。		
成績評価 **(H30~)**	制作プロセス、提出作品、レポートにより総合的に評価する。 [S]創造への意識を高く持ち、現代における表現の意識と探求に努め、制作の企画と技術を高いレベルで習得し、非常に優れた作品を作り出している。 [A]創造への意識を高め、現代における表現の意義を考察し、作品の企画力と制作力を高いレベルで習得、実践、作品化できている。 [B]創造への意識を高め、現代における表現の意義を考察し、作品の企画力と制作力を習得、実践、作品化できている。 [C]創造への意識を高め、現代における表現の意義を考察し、作品の企画力と制作力を習得、実践、作品化できていると認められる。		
主担当教員	大高　亨		

令和4年度シラバス

番号	(B7)-41	履修コード	4182Z1
科目名	工芸演習（四）漆・木工	科目英語名	Practice of Craft (4) Urushi・Wood
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸科4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	漆実習室
単位	16	定員	5名
担当教員	○山村慎哉・田中信行・青木千絵		
授業概要	これまでに培った各種技法や自己の研究を基に、個々の制作テーマに添い、現代性あふれる、個性豊かな作品造りを通し卒業制作の試作、準備として位置付ける。		
到達目標	自己の目指す制作コンセプト、プロセス、研究課題を明確化し、卒業制作への展開を図れることを目標とする。また制作の論理付け、意義を自己に問い、今後の制作の方向付けとなるよう、自らが作業を進めていく。		
授業計画	課題1 変わり塗り技法Ⅱ（山村） 漆のマチエールをテーマに変わり塗りの応用技法を学習する。 基本的な変わり塗りを元に自己の発想による新しい変わり塗り技法を実験研究し手板として5枚以上制作する。 課題２ 自由制作（田中・山村・青木） 卒業制作を踏まえ、制作コンセプトを明確化し、今後に繋がっていくための制作を行う。実験、試作、諸問題を確認し、研究テーマについて深く考察する 上記2課題共に5月、6月、7月にコース内研究会を実施 卒業制作 ・制作テーマの提出　（前期中頃） ・研究会（9月・10月） ・中間審査（11月） ・最終審査（12月） ・写真撮影と図録作成（12月～1月頃） ・卒業制作展展示　（2月） 卒業制作については次の教員が漆・木工の造形表現について指導する。 （田中　信行）漆による造形表現の指導 （山村　慎哉）伝統技法に基づいた全般、総合的な加飾表現を指導 （青木　千絵）漆芸基礎技法の指導		
予習・復習	事前の予習と充分な復習を要する。また作業の性質上授業時間内に制作が進まなかった場合は時間外の制作も必要となる。		
教科書	特になし。		
参考書	日本漆工の研究、漆の伝統技法、漆工芸辞典、漆芸品の鑑賞基礎知識、 漆工材料・漆工用具（日本芸術協会）、各種図録 ＊図書館で利用可		
教材	漆工道具、蒔絵道具、その他各種材料、変わり塗り参考文献集		
履修上の注意	年間を通しての最も重要な授業である。学生として授業に臨む生活リズムを早期に身につけ積極的に制作・研究に取り組むことが重要となる。 なお今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価 (~H29)	学期ごとの課題提出 前期2課題、後期1課題 平素の授業への積極的な取り組みが大きく制作にも影響されるため特に重要となる 各種技法研究		

	素材の把握、道具の扱いの習得、工程・技法の発展的理解および作品提出、制作への取り組み課題の到達度、を総合して評価する。 [A]漆芸の技法を理解し応用的技術を身に付け、表現および主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]漆芸の技法を理解し応用的技術を身に付け、表現および主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。 [C]漆芸の技法を理解し応用的技術を身に付け、表現および主体的な取り組みがなされた。
成績評価 (H30~)	授業への積極的な参加、姿勢及び提出された課題作品を下記の基準により総合的に評価する。 [S]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが非常に高いレベルに達している。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが高いレベルに達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品制作への取り組みが一定のレベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んだ。
主担当教員	山村慎哉

令和4年度シラバス

番号	(B7)-42	履修コード	4183Z1
科目名	工芸演習（四）金工	科目英語名	Practice of Craft (3) Metal
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸科4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	鋳金・彫金・鍛金制作室
単位	16	定員	20名
担当教員	○原　智・水代達史・上田　剛（非常勤）大角幸枝・未定		
授業概要	これまで習得した技法や研究を応用し、独創的な表現を考察する。		
到達目標	個々のテーマに基づき、より高度な素材技法などの研究を通じ、表現の具体化を図り、現代性あふれる個性豊かな作品を卒業制作としてあらわす。		
授業計画	○前期制作 金属工芸技法を応用した作品制作 鋳金　　上田（非）未定 ・自由制作 　鋳金技法を応用した作品制作。卒業制作を見据え、独自の作品表現を目指す。 彫・鍛金　　原・水代　（非）大角 ・複合制作 　専門分野で研究した鍛金・彫金技法の特性を理解し、複合的に素材、技法、表現を扱い高度なレベルで融合させる事で独自の作品表現を目指す。 　卒業制作に向けた実験的要素を併せ持つ。 ○卒業制作 ・制作テーマの提出　（前期中頃） ・研究会（9月・10月） ・中間審査（11月） ・最終審査（12月） ・写真撮影と図録作成（12月～1月頃） ・卒業制作展展示　（2月） 卒業制作については次の教員が金工の造形表現について指導する。 （上田　剛）鋳金技法と造形の指導 （原　　智）鍛金技法と造形の指導 （水代達史）彫金技法と造形の指導を補助する		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細については授業に於いて支持する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	なお今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価 **(~H29)**	課題提出・合評２回（学期末）、研究発表４回（随時） 課題提出２回（学期末）、合評２回（学期末）、研究発表４回（随時） レポート提出２回（学期末） 演習を通して金属素材の基礎的な理解が得られたかを提出作品・授業態度などから総合的に評価する。 [A]金属工芸を行うための基礎的な知識が十分に習得され、技法・知識・独自性が非常に高いレベルで表現に結びついている。 [B]金属工芸を行うための基礎的な知識が習得され、技術・知識と独自性が十分なレベルに達している。 [C]金属工芸を行うための基礎的な知識が習得され、技術・知識と独自性がある一定のレベルに達		

	している。
成績評価 **(H30~)**	課題提出・合評２回（学期末）、研究発表４回（随時） 課題提出２回（学期末）、合評２回（学期末）、研究発表４回（随時） レポート提出２回（学期末） 演習を通して金属素材の基礎的な理解が得られたかを提出作品・授業態度などから総合的に評価する。 [S]金属工芸を行うための知識・技術が総合的に高いレベルで習得され、特に優れた創造性と独自性のある作品制作ができている。 [A]金属工芸を行うための基礎的な知識が十分に習得され、技法・知識・独自性が非常に高いレベルで表現に結びついている。 [B]金属工芸を行うための基礎的な知識が習得され、技術・知識と独自性が十分なレベルに達している。 [C]金属工芸を行うための基礎的な知識が習得され、技術・知識と独自性がある一定のレベルに達している。
主担当教員	原　智

令和4年度シラバス

番号	(B7)-43	履修コード	4184Z1
科目名	工芸演習（四）陶磁	科目英語名	Practice of Craft (4) Ceramic
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸科4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	陶磁制作室ほか
単位	16	定員	20名
担当教員	○山本健史・池田晶一・宮永春香		
授業概要	３年次までで培ってきた素材に対する理解と技術をさらに高める。またテーマについては社会性を視野に入れた思考を構築する。作品と空間の関係を意識し、その存在が帯びる意味を計画する。 内容について言語化する努力をすること。		
到達目標	集大成となる卒業制作に関わる応用研究や実験的な試作を計画的に実行し制作に結び付ける。 作品制作では社会性を意識した取り組みを行い、独自の表現に結び付く創作を行う。		
授業計画	◎テーマ制作 ・テーマの策定 ・作品へと向かうために必要な素材と技術について検討する ・研究計画の立案 ・素材実験と技法に関する試行を行う ・テーマや表現内容についてプレゼンテーションする ・作品の制作 ・構想から計画、実験、制作を経て展示、プレゼンテーションまでの流れを記録しファイルすること 上記の項目についてコース内研究会を５月６月７月に実施する（コース年間授業計画を目安に 学生がセッティングする） 提出物 ・研究テーマおよび研究計画書 ・制作のための資料（資料原稿・スケッチなど） ・実験結果資料 ・作品 ◎卒業制作 ・制作テーマの提出 （前期） ・研究会（9月・10月） ・中間審査（11月） ・最終審査（12月） ・写真撮影と図録作成（12月～1月頃） ・卒業制作展展示 （2月） 卒業制作については次の教員が陶磁の造形表現について指導する。 （山本 健史）陶磁の造形表現、成形技法の指導・作品展示に関する指導 （池田 晶一）陶磁の技法と表現の実技指導 （宮永 春香）陶磁技法及び造形表現の指導		
予習・復習	表現のために必要な素材実験や技術の習得を常に行うこと。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。材料費などについては各自負担とする。		
履修上の注意	今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		

成績評価 (~H29)	提出作品、制作過程での取り組み、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。 [A]４年間に学習すべき知識・技術が総合的に高いレベルで習得され、創造性の高い作品制作ができている。 [B]４年間に学習すべき知識・技術が総合的に習得され、創造性のある作品制作ができている。 [C]４年間に学習すべき知識・技術が一定レベル習得され、創造性が感じられる作品制作ができている。
成績評価 (H30~)	提出作品、制作過程での取り組み、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。 [S]４年間に学習すべき知識・技術が総合的に高いレベルで習得され、特に優れた創造性の高い作品制作ができている。 [A]４年間に学習すべき知識・技術が総合的に高いレベルで習得され、創造性の高い作品制作ができている。 [B]４年間に学習すべき知識・技術が総合的に習得され、創造性のある作品制作ができている。 [C]４年間に学習すべき知識・技術が一定レベル習得され、創造性が感じられる作品制作ができている。
主担当教員	山本健史

令和4年度シラバス

番号	(C1)-01	履修コード	7401Z1
科目名	教育の本質と目的	科目英語名	History of Education and Educational Thought
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	火曜5･6限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	100名
担当教員	桑村佐和子		
授業概要	「教育」概念の意味範囲を学校教育に限定することなく、近代社会における「教育」の機能を多面的に理解することを目指す。教育史を学びつつ、文献資料を読みながら自らの考えを深め、議論する。※本科目は、教職課程への入門、という性格をもっています。		
到達目標	学校教育を考える基礎として、「教育」を学校教育に必ずしも限定せずに、さまざまな教育思想、実践を理解する。さらに、それぞれが受けてきた教育に関わる体験を手がかりに、「教育」という現象を対象化し、理論的かつ実践的にアプローチするために必要な教育学的思考方法の基礎について理解する。		
授業計画	第１回：「原始の教育」からみた現在の教育　昔のイヌイットの教育を手がかりに 第２回：古代ギリシャの教育：ソクラテス、プラトン、アリストテレス 第３回：古代ローマ、中世の教育：自由七科、クインティニアヌス、大学の発生 第４回：近世の教育①：エラスムス、ルター 第５回：近世の教育②：実学主義、コメニウス、ロック 第６回：近代の教育①：ルソー、開発と形成 第７回：近代の教育②：ペスタロッチ 学校教育の目的とは（宇佐美寛「読書好きにするのこそが良い教育なのだ」を手がかりとして） 第８回：近代の教育③：フレーベル、ヘルバルト 第９回：近代の教育④：フィヒテ、ヘーゲル、シュライヘルアマハー 　学習内容の選択（サドベリー・バレー校の取り組みを手がかりとして） 第１０回：現代の教育：エレンケイ、モンテッソーリ、ナトルプ、ケルシェンシュタイナー 第１１回：日本の教育の歴史①：古代～近世 第１２回：日本の教育の歴史②：明治～昭和 第１３回：現代における生徒の社会化 第１４回：教育現象を歴史的観点から見る（具体的な教育政策の分析） 第１５回：生涯学習社会における学校の役割　まとめ　試験 ※教育時事問題等に対応して、順番を変える可能性がある。		
予習・復習	教育時事、および教育に関わる言説にできる限りふれることを勧める。		
教科書	原則として資料を配付する。教科書にふさわしい文献があれば使用することも検討する。		
参考書	汐見稔幸他編著『よくわかる教育原理』（ミネルヴァ書房、２０１１年）、柴田義松・斉藤利彦編『教育史』（学文社、２００５年）など、授業内で適宜紹介する。		
教材	必要に応じて視聴覚教材を使いる。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)	毎回の授業での小レポートと期末試験の総合により単位認定を行う。小レポート（20%）、期末試験（80%）。 期末試験の評価の基準は、以下のとおりである。 [A]教職課程における「教育原理」の基本的知識を修得しており、それをもとに考えることができる。 [B]教職課程における「教育原理」の基本的知識をだいたい修得しており、それをもとに考えることができる。 [C]教職課程における「教育原理」の基本的知識をだいたい修得しており、少しはその知識をもとに考えることができる。		
成績評価 (H30~)	毎回の授業での小レポートと期末試験の総合により単位認定を行う。小レポート（20%）、期末試験（80%）。 期末試験の評価の基準は、以下のとおりである。 [S]教職課程における「教育原理」の基本的知識を修得しており、それをもとに具体的に考えることができる。 [A]教職課程における「教育原理」の基本的知識を修得しており、それをもとに考えることができる。 [B]教職課程における「教育原理」の基本的知識をだいたい修得しており、それをもとに考えることができる。 [C]教職課程における「教育原理」の基本的知識をだいたい修得しており、少しはその知識をもとに考えることができる。		
主担当教員	桑村佐和子		

令和4年度シラバス

番号	(C1)-02	履修コード	7402Z1
科目名	教育心理学	科目英語名	Educational Psychology
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	水曜5･6限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	100名
担当教員	荷方邦夫		
授業概要	本講義は、教職科目として、教師として必要となる心理学的知識について解説を行う。講義では、発達と学習，教育評価の他、障害児教育なども扱う。		
到達目標	教職科目として、教育実践に必要な心理学的知識の習得を目的とする。特に教員採用試験で問われる項目を重点的に扱い、要点の完全学習を目標とする。		
授業計画	１　教育心理学の目的と内容（オリエンテーション） ２　発達１　乳児 ３　発達２　幼児・児童・知能 ４　発達３　青年 ５　発達４　生涯発達と老年期 ６　学習の基礎 ７　教え方いろいろ　-学習指導法- ８　上手に教える　-教育工学- ９　教育評価１　教育評価の方法 10　教育評価２　テストの科学 11　学級集団 12　障害の理解 13　現代の教育心理学のトピック 14　講義のまとめ 15　試験		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。学生の自学自習を積極的に求める。		
教科書	荷方・安齋編　「使える」教育心理学　北樹出版		
参考書	特になし。		
教材	特になし。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 **(~H29)**	到達目標に示された課題についての達成状況と考え方・見方の深化について、授業内でのミニレポートおよび最終レポートをもとに評価を行う。学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。 1%を1ポイントとして換算する。 １　期末試験の点数（50%） 客観式テストを行い，点数を直接の評価とする。 ２　授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの課題や参加については，授業内でポイント（点数）を提示する。 授業における発言，小課題（客観式）での回答をそのつどカウントする。 評価の基準 ［A］上記の基準の上１と２で80%以上のポイントを獲得している ［B］上記の基準の上１と２で60%以上のポイントを獲得している ［C］上記の基準の上１と２で50%以上のポイントを獲得している		
成績評価 **(H30~)**	到達目標に示された課題についての達成状況と考え方・見方の深化について、授業内でのミニレポートおよび最終レポートをもとに評価を行う。学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。 1%を1ポイントとして換算する。 １　期末試験の点数（50%） 客観式テストを行い，点数を直接の評価とする。 ２　授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの課題や参加については，授業内でポイント（点数）を提示する。 授業における発言，小課題（客観式）での回答をそのつどカウントする。 評価の基準 ［S］上記の基準の上１と２で90%以上のポイントを獲得している ［A］上記の基準の上１と２で80%以上のポイントを獲得している ［B］上記の基準の上１と２で60%以上のポイントを獲得している ［C］上記の基準の上１と２で50%以上のポイントを獲得している		
主担当教員	荷方邦夫		

令和4年度シラバス

番号	(C1)-03	履修コード	7404Z3
科目名	教職論	科目英語名	Guide to Teacher Education and Training
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	月曜9･10限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	100名
担当教員	桑村佐和子		
授業概要	現代日本における専門職としての教職に、どのような資質と職務遂行能力が求められているかを検討する。グループ討議、学生の発表等を取り入れながら授業を進める。		
到達目標	１）専門職としての教職の使命を自覚し、教職への志向を形成する。 ２）教員の職務内容の概略を理解できる。 ３）各自が自分の「教師像」を自覚することができる。		
授業計画	下記の内容を15回に振り分ける。ただし、3回分を課題研究で実施する。 第１回：教職課程カリキュラムの構造（オリエンテーション） 第２回：教職という仕事の特徴、「教師」の視点を持つ①　教師の行動と目的 第３回：「教師」の視点を持つ② 複数の観点から考える 第４回：学び続ける教師「行為の中の省察」 第５回：「教師」の視点を持つ③　保護者との関係 第６回：社会の中の学校　（教職課程における介護等体験の意義） 第７回：チーム学校運営 第８回：教員の義務と権利　（教員が守るべき事柄と研修機会の確保等） 第９回：教員の生活 第１０回：教職の実際（ゲストスピーカー） 第１１回：授業を組み立てる 第１２回：教師の歴史について　「職業として教師」の発生 第１３回：近代日本における教職制度の確立 第１４回：教員に求められる資質と能力①　個人作業とグループディスカッション 第１５回：教員に求められる資質と能力②　発表 ※ゲストスピーカーのご都合で、一部順番を変更することがある。		
予習・復習	優れた教師の実践記録を読むことを薦めます。 また、できれば有志の学生による発表機会を設けたいと考えています。その時は、積極的に発表してください。		
教科書	特にはして指定しない		
参考書	大村はま『教えるということ』（ちくま学芸文庫、1996年）、秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門改訂版』（有斐閣アルマ、2015年）、田中耕治編著『時代を拓いた教師たちⅠ』『〃Ⅱ』（日本標準）、片山悠樹・内田良・古田和久・牧野智和編『教育社会学』（大月書店、2017年）他、適宜授業の中で紹介する。		
教材	視聴覚教材を適宜用いる。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 **(~H29)**	小課題、期末レポートを総合して単位認定を行う。 参加状況（30%）、発表と期末レポート（70%）。 レポートの評価基準は以下のとおりである。 [A]自分や他の学生の体験とともに、教える側から教育現場を垣間見ることを通して、教員の資質について自分なりの考えを持つことができる。 [B]自分の体験と、教える側から教育現場を垣間見ることを通して、教員の資質について自分なりの考えを持つことができる。 [C]自分の体験を通して、教員の資質について考えることができる。		
成績評価 **(H30~)**	小課題、期末レポートを総合して単位認定を行う。 参加状況（30%）、発表と期末レポート（70%）。 レポートの評価基準は以下のとおりである。 [S]自分や他の学生の体験とともに、教える側から教育現場を垣間見ることを通して、教員の資質について自分なりの考えを持ち、発信することができる。 [A]自分や他の学生の体験とともに、教える側から教育現場を垣間見ることを通して、教員の資質について自分なりの考えを持つことができる。 [B]自分の体験と、教える側から教育現場を垣間見ることを通して、教員の資質について自分なりの考えを持つことができる。 [C]自分の体験を通して、教員の資質について考えることができる。		
主担当教員	桑村佐和子		

令和4年度シラバス

番号	(C1)-04	履修コード	7405Z1
科目名	教育課程論	科目英語名	Theory of Curriculum Making
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	水曜7･8限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	100名
担当教員	桑村佐和子		
授業概要	教育課程の考え方を、歴史的、理論的背景を俯瞰しつつ、学習指導要領に示された教育課程を理解する。さらに、今後、どのようなカリキュラムが求められ、具体的にはどのようなカリキュラムが考えられるのかを探る。		
到達目標	１）教育課程に関する基本的知識を修得する。また、社会の変化を受けて「学習指導要領」が変化していることを理解し、「学習指導要領」の影響を理解する。 ２）カリキュラム編成の基本原理を理解し、学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。		
授業計画	以下の内容を15回に振り分ける。 第１回：教育課程とは 第２回：教科課程から教育課程へ　教科とは 第３回：ナショナルカリキュラムとしての学習指導要領の必要性 第４回：学習指導要領の変遷と社会的背景① 第５回：学習指導要領の変遷と社会的背景② 第６回：新学習指導要領の特徴 第７回：子どもの発達とカリキュラム①　履修原理 第８回：子どもの発達とカリキュラム②　カリキュラムの多様化・複線化、カリキュラム・マネジメント 第９回：カリキュラムの構造①　スコープとシーケンス 第１０回：カリキュラムの構造②　学習の転移を利用したカリキュラム 第１１回：カリキュラムの構造③　選択の基準とカリキュラム（経験主義、学問中心主義） 第１２回：カリキュラムの構造④　選択の基準とカリキュラム（科学計画化） 第１３回：カリキュラムの構造⑤　カリキュラムの分化と統合 第１４回：顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム 第１５回：生徒・学校の特性とカリキュラム・マネジメント、期末試験 教育時事問題に対応して、順番を変える可能性がある。		
予習・復習	必要に応じて指示する。		
教科書	指定しない。必要に応じて資料を配付する。		
参考書	大橋功監修『美術教育概論（新訂版）』（日本文教出版株式会社）※美術教育法Ⅰ等でも使用する。 文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版） 田中耕治編著『教育方法と授業の計画』（協同出版、2017年） この他、適宜、紹介する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	単位不認定の場合（3年次までに）、教育実習を許可しないことがある。		
成績評価 **(~H29)**	授業への参加状況（20%）と小レポートと期末試験（80%）を総合して単位認定を行う。 期末試験の評価の基準は、以下のとおりである。 [A]教育課程、学習指導要領に関する基本的知識を修得しており、それをもとに考えることができる。 [B]教育課程、学習指導要領に関する基本的知識をだいたい修得しており、それをもとに考えることができる。 [C]教育課程、学習指導要領に関する基本的知識をだいたい修得しており、少しはその知識をもとに考えることができる。		
成績評価 **(H30~)**	授業への参加状況（20%）と小レポートと期末試験（80%）を総合して単位認定を行う。 期末試験の評価の基準は、以下のとおりである。 [S]教育課程、学習指導要領に関する基本的知識を修得しており、それをもとに多面的に考えることができる。 [A]教育課程、学習指導要領に関する基本的知識を修得しており、それをもとに考えることができる。 [B]教育課程、学習指導要領に関する基本的知識をだいたい修得しており、それをもとに考えることができる。 [C]教育課程、学習指導要領に関する基本的知識をだいたい修得しており、少しはその知識をもとに考えることができる。		
主担当教員	桑村佐和子		

令和4年度シラバス

番号	(C1)-05	履修コード	7406Z1
科目名	教育方法論・特別活動の指導法	科目英語名	Study of Teaching Methods
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	水曜7･8限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	100名
担当教員	桑村佐和子		
授業概要	学校教育実践を支える教育方法に関する主要理論を最新の知見に基づき解説するとともに、その実践的有効性について考察する。また、優れた実践事例を紹介し、その実践の拠って立つ方法原理について学習する。また、学生による発表の機会を設ける。その際、他の学生は発表者について適切な意見を述べられるようにする。		
到達目標	学校教育を支えている主要な教育方法の理論を理解する。 授業デザインに必要な事項について概要が理解できるようになるとともに、授業についての基本的な評価観点を理解できる。 美術科教育や特別活動の意義やその指導法について理解できる。		
授業計画	第１回：オリエンテーション（授業の概要と教職課程における位置づけの説明） これからの子供たちに求められる資質・能力と教育方法（主体的・対話的で深い学びの実現） 第２回：授業デザインと学習指導案 第３回：教材・教具・学習環境の整備（ICTを利用した教育方法を含む） 第４回：教師の指導言(説明・指示・発問など) 第５回：教育評価の方法 第６回：主体的で深い学びを促す教育方法の事例：ジグソー法 第７回：学習指導案の構成と教材 第８回：模擬授業①　導入の仕方 第９回：模擬授業②　生徒への説明、発問の工夫 第１０回：模擬授業③　　評価方法の適切さ 第１１回：教科以外の教育：特別活動の内容と目的・目標 第１２回：特別活動の指導①　学級活動、生徒会活動 第１３回：特別活動の指導②　学校行事、家庭・地域・他機関との関係 第１４回：特別活動の企画、評価、改善　　（小課題） 第１５回：主体的で深い学びを促す教育方法の事例：ゲーミング理論を用いる　まとめ		
予習・復習	授業で紹介された参考文献等を精読すること。また、グループでの活動を取り入れるため、それに必要な文献調査や参考作品づくりなどを行うこと。		
教科書	配付資料を用いる。		
参考書	田中耕治編著『教育方法と授業の計画』（協同出版、2017年）、山田浩之『特別活動論』(協同出版、2014年)、松下佳代『ディープ・アクティブラーニング』（勁草書房、2015年）、大橋功監修『美術教育概論（新訂版）』（日本文教出版株式会社、2018年）、文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）特別活動編」、藤田晃之編著『新学習指導要領の展開　特別活動編』（明治図書、2017年）他、適宜紹介する。		
教材	適宜、視聴覚教材を使用する。		
履修上の注意	単位不認定の場合（3年次末までに）、教育実習を許可しないことがある。 平成30年度入学生が本科目を履修した場合、令和元年度まで開講していた「教育方法論」の単位として読み替えることができる。		
成績評価 **(~H29)**	授業内での小課題(30%）および、発表課題（40%)および参加状況（30%）をもとに総合的に評価する。課題の評価の基準は、以下の通りである。 [A]教育方法・特別活動に関する基本的知識をもとに、具体的に考え、表現することができる。 [B]教育方法・特別活動に関する基本的知識をもとに、具体的に考えられているようであるが、表現するところではさらに工夫が必要である。 [C]教育方法・特別活動に関する基本的知識をもとに、ある程度までは考えられているものの、表現することがあまりできていない。		
成績評価 **(H30~)**	授業内での小課題(30%）および、発表課題（40%)および参加状況（30%）をもとに総合的に評価する。課題の評価の基準は、以下の通りである。 [S] 教育方法・特別活動に関する基本的知識をもとに、具体的、発展的に考えることができ、表現できている。 [A]教育方法・特別活動に関する基本的知識をもとに、具体的に考え、表現することができる。 [B]教育方法・特別活動に関する基本的知識をもとに、具体的に考えられているようであるが、表現するところではさらに工夫が必要である。 [C]教育方法・特別活動に関する基本的知識をもとに、ある程度までは考えられているものの、表現することがあまりできていない。		
主担当教員	桑村佐和子		

令和4年度シラバス

番号	(C1)-06	履修コード	7421Z1
科目名	特別支援教育概論	科目英語名	Overview of Education for Children with Disabilities
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度	R1～	毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	火曜7･8限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	1	定員	100名
担当教員	（非常勤）吉川一義		
授業概要	障害等による特別の支援を必要とする幼児・児童及び生徒の特性や心身の発達、これらの幼児、児童及び生徒に対する教育理念や仕組み（インクルーシブ教育や特別支援教育の制度等）、これらの幼児、児童及び生徒が抱える困難とその支援について概説する。		
到達目標	障害等による特別の支援を必要とする幼児・児童及び生徒の特性や心身の発達と、これらの幼児、児童及び生徒に対する教育制度と支援の要点を理解する。		
授業計画	第１回：通常教育における特別の支援を必要とする児童の状況と問題を整理する. 第２回：障害をめぐる国際・国内動向から、特別支援教育の理念と制度が何を重視するかを問う［国連世界行動計画（1982）障害者権利条約（2006・2008）、改正障害者基本法、インクルーシブ教育システム、特別支援教育に求められるもの］. 第３回：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の特性と心身の発達を考える［一次的問題と二次障害、生活機能低下から生活不活発病への悪循環過程とその防止］. 第４回：通常学級に在籍する特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒のかかえる困難（1）［発達障害のある子どもへの支援の実際と要点］. 第５回：通常学級に在籍する特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒のかかえる困難（2）［心理・社会的要因により課題を抱える子どもへの支援の実際と要点］ 第６回：通常学級に在籍する特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒への支援（3）［学級担任による支援の実際と要点］ 第７回：通常学級に在籍する特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒への支援（4）［特別支援コーディネーターや関係機関、家庭等との連携の実際と要点］ 第８回：通常学級に在籍する特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒への支援（5）［通級指導教室等での支援の実際と要点］ 最終試験		
予習・復習			
教科書	テキストを使用せず、毎回講義資料を配布する。		
参考書	・子どものリハビリテーション医学 発達支援と療育（2017）、伊藤利之監修、医学書院 ・発達障害の子の立ち直り力 レジリエンスを育てる本（2015）、藤野博監修、講談社 ・「動かない」と人は病む 生活不活発病とは何か（2013）、大川弥生著、講談社現代新書 ・テキスト肢体不自由教育 子ども理解と教育実践（2014）、猪狩恵美子編、全障研出版部 ・思春期を共に生きる 中学校支援学級の仲間たち（2014）、加藤由紀著、クリエイツかもがわ この他、適宜、講義の中で紹介する.		
教材			
履修上の注意	単位不認定の場合、教育実習を許可しない場合があります。		
成績評価 (~H29)			
成績評価 (H30~)	毎回の授業で行う小レポート（30%）と期末試験（70%） なお、小レポートと最終試験では、特別の支援を要する幼児・児童および生徒の具体事例に対する問題の分析と支援・対応の構想を求める。 [S]特別の支援を要する幼児・児童及び生徒に共通する実態・問題と教育制度の適正な理解に基づき、当事者（当該の子供と関係者）の問題を多面的に分析して、支援・対応を具体的に構想できている。 [A]特別の支援を要する幼児・児童及び生徒に共通する実態・問題と教育制度の適正な理解に基づき、当事者の問題を多面的に分析できているが、支援・対応について具体的に構想できていない。 [B]特別の支援を要する幼児・児童及び生徒に共通する実態・問題と教育制度の適正な理解に基づき、当事者の問題を分析して支援・対応を構想しているが、双方に不十分さがある。 [C]特別の支援を要する幼児・児童及び生徒に共通する実態・問題、教育制度を正しく理解し、一般的な支援・対応を理解しているが、対象の個別性（独自性）への考慮が不十分である。		
主担当教員	吉川一義		

令和4年度シラバス

番号	(C1)-07	履修コード	7407Z1
科目名	美術教育法Ⅰ	科目英語名	Study of Art Education Ⅰ
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分	教職選択科目（中高美術）	開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	月曜9･10限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	100名
担当教員	（非常勤）森田ゆかり		
授業概要	「美術教育」とは何か？ そもそも「美術」とは何か？ を学生一人一人が自ら考えられるよう、中学校・高等学校の「美術」に限定せず、色々な視点からアプローチし、現代の美術教育の問題点と今後の在り方を探る授業としたい。 ※毎回テーマに関する感想、気づき、考え、疑問などをワークシートに記し提出する。		
到達目標	美術大学で美術を学ぶことも含め、「美術教育」の意義、可能性、「美術」の本質について柔軟かつ主体的に思考する第一歩とする。		
授業計画	１．美術教育の理念を学ぶ意味　小中学校の「図画工作」「美術」で何を学んできたか？ ２．美術教育に対する誤解・無理解　「美術」の授業が正しく理解され実践されているか？ ３．エリック・カールの課外授業から考える ４．「感じる」こと、異なる感性や考えを尊重すること　創造的な鑑賞から考える ５．レッジョ・エミリアの教育から考える ６．授業の振り返り ７．触覚について考える　１ ８．触覚について考える　２ ９．触覚について考える　３　「触れる」ことにより知ること・分かること １０．金沢美術工芸大学の教育目標の一つ「手で考え　心でつくる」の意味を考える １１．幼児造形教育について知る　１ １２．幼児造形教育について知る　２ １３．美術鑑賞学習実践映像から考える １４．作家による課外授業から考える　美術大学で学んだ美術教員の魅力とは １５．「美術」は知り方の鍵を握っている ※順番は変える可能性がある。		
予習・復習	配付資料を読み、関連する資料などを参考に復習する。		
教科書	大橋功監修『美術教育概論（新訂版）』（日本文教出版株式会社 / 小学校・中学校・高等学校学習指導要領−抜粋−付き） （美術教育法Ⅲ等、他の教職の授業でも教科書や参考書として使用する。）		
参考書	、文部科学省『中学校学習指導要領解説（平成２９年３月告示）美術編』、『高等学校学習指導要領解説　芸術（ 音楽 美術 工芸 書道 ）編 音楽編 美術編』、その他、必要に応じて資料を配布する。		
教材	ビデオ、DVD、スライドなどを使用する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (~H29)	期末レポートで単位認定を行う。３分の１を超えて欠席した場合は認定しない。 [A]「美術教育」に関する視野を広げ、美術大学で学ぶことの意味を主体的に思考することができた。 [B]「美術教育」に関する視野を広げ、対象者の視点で思考することができた。 [C]「美術教育」に関する視野を広げることができた。		
成績評価 (H30~)	期末レポートで単位認定を行う。３分の１を超えて欠席した場合は認定しない。 [S]「美術教育」に関する視野を広げ、その役割や意義、可能性についてより深く主体的に思考することができた。 [A]「美術教育」に関する視野を広げ、美術大学で学ぶことの意味を主体的に思考することができた。 [B]「美術教育」に関する視野を広げ、対象者の視点で思考することができた。 [C]「美術教育」に関する視野を広げることができた。		
主担当教員	森田ゆかり		

令和4年度シラバス

番号	(C1)-08	履修コード	7408Z1
科目名	道徳教育の指導法	科目英語名	Study of Moral Education
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻3年次	曜日・時限	木曜7･8限
履修区分	選択	教室	第１教室
単位	2	定員	100名
担当教員	（非常勤）未定		
授業概要	中等教育にたずさわる教員として、「道徳教育」と「学校教育における道徳教育」について理解するとともに、学校での道徳教育の推進と道徳の授業ができる基本的な事項の習得を図る。理解の深化やスキルの定着を目的に協議や演習を行う。		
到達目標	・「道徳教育」と「学校教育における道徳教育」について理解できる。 ・学校における「道徳教育」と「道徳の授業」の指導の基本的な事項が習得できる。		
授業計画	令和4年度に関しては、下記の内容の順番を一部変更する可能性がある。 授業開始時に説明する。 第１回：　教職課程における本科目の位置づけと意義・目的 １．道徳教育の概要 第２回：　１）「道徳」とは何か、「道徳」の存在意義について 第３回：　２）日本における道徳教育の歴史と諸外国の道徳教育 第４回：　３）日本の小・中・高等学校における道徳教育 ２．学校教育における道徳教育 第５回：　１）道徳教育の内容について 第６回：　２）教育活動全体を通じて行う道徳教育について(全体計画) 第７回：　３）「特別の教科 道徳」と年間指導計画 ３．「特別の教科 道徳」の実施 第８回：　１）「特別の教科 道徳」授業映像（DVD）視聴と協議 第９回：　２）「特別の教科 道徳」の授業における要点 第１０回：３）「特別の教科 道徳」の指導案作成の要点 ４．「特別の教科 道徳」の実際 第１１回：１）道徳の授業の指導案作成　①授業プラン作成 第１２回：２）道徳の授業の指導案作成　②指導案作成 第１３回：３）模擬授業　①説明、指示 第１４回：４）模擬授業　②発問・声かけ 第１５回：５）「特別の教科 道徳」の授業実施上の要点授業計画 ※教育時事等に関連して、一部変更する可能性がある。		
予習・復習	「道徳教育」や心の育成に関わる新聞記事を読むとともに、記事をスクラップする。		
教科書	「中学校学習指導要領」　（平成２９年３月告示）　文部科学省編 「中学校学習指導要領解説　特別の教科 道徳編」（平成２９年７月）　文部科学省編		
参考書	適宜、授業で紹介する。		
教材	必要に応じて視聴覚教材を使用する。		
履修上の注意	単位不認定の場合、中学校での教育実習を許可しない場合があります。		
成績評価 (~H29)	授業への参加状況と、授業における課題発表、レポートの内容を総合して単位認定を行う。 授業の出席状況（20%）、発表とレポート(80%) 発表とレポートの評価基準は以下のとおりである。 ［A］「道徳教育」と「学校教育における道徳教育」の理解と、「道徳教育」、「特別の教科道徳の授業」の指導のための基礎の習得ができている。 ［B］「道徳教育」と「学校教育における道徳教育」の理解と、「道徳教育」、「特別の教科道徳の授業」の指導のための基礎の習得が概ねできている。		

	［C］「道徳教育」と「学校教育における道徳教育」の理解と、「道徳教育」、「特別の教科道徳の授業」の指導のための基礎の習得がある程度できている。
成績評価 **(H30~)**	授業への参加状況と、授業における課題発表、レポートの内容を総合して単位認定を行う。 授業の出席状況（20%）、発表とレポート(80%) 発表とレポートの評価基準は以下のとおりである。 ［S］「道徳教育」と「学校教育における道徳教育」の理解と、「道徳教育」、「特別の教科道徳の授業」の指導のための基礎の習得が十分によくできている。 ［A］「道徳教育」と「学校教育における道徳教育」の理解と、「道徳教育」、「特別の教科道徳の授業」の指導のための基礎の習得ができている。 ［B］「道徳教育」と「学校教育における道徳教育」の理解と、「道徳教育」、「特別の教科道徳の授業」の指導のための基礎の習得が概ねできている。 ［C］「道徳教育」と「学校教育における道徳教育」の理解と、「道徳教育」、「特別の教科道徳の授業」の指導のための基礎の習得がある程度できている。
主担当教員	未定

令和4年度シラバス

番号	(C1)-09	履修コード	7420Z1
科目名	教育相談の基礎と方法	科目英語名	Practice of School Counseling
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻3年次	曜日・時限	火曜7･8限
履修区分	選択	教室	第3教室
単位	2	定員	80名
担当教員	荷方邦夫		
授業概要	本講義では、学校における教育相談に関わる基礎を学習し、日常の教育活動においてどのような形で生徒に支援を行うかについて講義を行う。また実習を積極的に導入し、「人と向かい合う」ために必要なスキル・態度を身につけ、現実の対応における問題を考える。		
到達目標	教職科目として、教育相談に必要な心理学的知識の習得，および実際の相談を理解するための体験を行うことを目的とする。また教員採用試験で問われる項目を重点的に扱い、要点の完全学習を目標とする。		
授業計画	１　オリエンテーション　教育相談の概念 ２　学校心理学１　援助の基本的考え方 ３　学校心理学２　青年期の心理的問題と不適応 ４　学校心理学３　青年の心理的問題のトピック ５　学校心理学４　心身の障害とその対応（１）　障害と教育相談 ６　学校心理学５　心身の障害とその対応（２）　発達障害の理解と支援 ７　学校心理学６　家族の支援と教員の支援 ８　教育相談の方法１　相談の実際 ９　教育相談の方法２　心理アセスメントの方法と実際 10　教育相談の実践１　聴く力を育てる 11　教育相談の実践２　解決志向アプローチ 12　教育相談の実践３　実際に接する　人と向かい合うためのワークショップ(1) 13　教育相談の方法４　実際に接する　人と向かい合うためのワークショップ(2) 14　教育相談の方法４　実際に接する　人と向かい合うためのワークショップ(3) 15　期末評価		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。学生の自学自習を積極的に求める。		
教科書	資料を配付する。		
参考書	安斎・荷方（編）　「使える」教育心理学　北樹出版 石隈利紀著「学校心理学」誠心書房		
教材	特になし。		
履修上の注意			
成績評価 **(~H29)**	到達目標に示された課題についての達成状況と考え方・見方の深化について、授業内でのミニレポートおよび最終レポートをもとに評価を行う。学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。 1%を1ポイントとして換算する。 １　期末試験の点数（50%） 客観式テストないしはレポート課題を行い，点数を直接の評価とする。 ２　授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの課題や参加については，授業内でポイント（点数）を提示する。 授業内の小課題（概ね40%），発言や積極的参加（概ね10%） 授業における発言，小課題での回答をそのつどカウントする。 評価の基準 ［A］上記の基準の上１と２で80%以上のポイントを獲得している ［B］上記の基準の上１と２で60%以上のポイントを獲得している ［C］上記の基準の上１と２で50%以上のポイントを獲得している		
成績評価 **(H30~)**	到達目標に示された課題についての達成状況と考え方・見方の深化について、授業内でのミニレポートおよび最終レポートをもとに評価を行う。学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。 1%を1ポイントとして換算する。 １　期末試験の点数（50%） 客観式テストないしはレポート課題を行い，点数を直接の評価とする。 ２　授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの課題や参加については，授業内でポイント（点数）を提示する。 授業内の小課題（概ね40%），発言や積極的参加（概ね10%） 授業における発言，小課題での回答をそのつどカウントする。 評価の基準 ［A］上記の基準の上１と２で80%以上のポイントを獲得している ［B］上記の基準の上１と２で70%以上のポイントを獲得している ［C］上記の基準の上１と２で60%以上のポイントを獲得している		
主担当教員	荷方邦夫		

令和4年度シラバス

番号	(C1)-10	履修コード	7422Z1
科目名	総合的な学習の時間の指導法	科目英語名	Teaching Method of The Period of Integrated Studies
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度	R1～	毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻3年次	曜日・時限	水曜9･10限
履修区分	選択	教室	研修室
単位	2	定員	100名
担当教員	○桑村佐和子、未定		
授業概要	総合的な学習の時間の指導を計画、実施できるように、総合的な学習の時間の意義とその目標を学び、具体的な指導方法を事例を通して検討、体験する。グループワーク等を取り入れる予定である。		
到達目標	総合的な学習の時間の意義を理解する。年間の指導計画や単元計画を理解すると共に、具体的な指導方法を身につけていく基礎を培う。		
授業計画	以下の内容を１５週に振り分ける。 第１回：オリエンテーション 第２回：総合的な学習の時間が設けられた背景－横断的、総合的な学習の必要性 第３回：学習指導要領に示されている総合的な学習の時間の目標と各学校の目標 第４回：複数の教科とつながりを付ける－年間計画の必要性と実際 第５回：主体的で対話的で深い学びを促す単元－4つの探究課題 第６回：探究課題の設定と準備 第７回：生徒が考えるための技法 第８回：ICTの活用事例の検討 第９回：体験活動の企画運営 第１０回：地域教材、学習環境の活用 第１１回：調査活動の充実 第１２回：キャリア教育との関連 第１３回：総合的な学習の時間の評価－生徒の学びの評価 第１４回：総合的な学習の時間の評価－教師の指導の評価、学校の指導計画の評価 第１５回：まとめ 教育時事問題に対応して、順番を変える可能性がある。		
予習・復習	事前に配付した資料がある場合には次回までに予習し、授業内での意見交換までに考えをまとめておくこと。また、授業後は授業中に配付した資料等を元に、自身の考えを深めるように努めること。		
教科書	『中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』『高等学校学習指導要領　綜合的な探究の時間編』		
参考書	田村学編著『中学校　新学習指導要領の展開　総合的な学習編』（明治図書、2017年）、田中耕治編著『パフォーマンス評価　思考力・判断力・表現力を育む授業づくり』（ぎょうせい、2011年）、グリフィン、B.マクゴー、E.ケア編、三宅なほみ監訳『21世紀型スキル』（北大路書房、2014年）他、授業中に紹介する。		
教材			
履修上の注意	授業内で意見交換を行う予定である。		
成績評価 (~H29)			
成績評価 (H30~)	授業への参加状況（２０%）と授業内での小レポート（３０%）、期末レポート（５０%）を総合して評価する。 ［S］総合的な学習の時間の意義や指導計画単元計画等を理解し、具体的な指導方法を身につけていく基礎を特に高いレベルで身につけることができた。 ［A］総合的な学習の時間の意義や指導計画単元計画等を理解し、具体的な指導方法を身につけていく基礎を高いレベルで身につけることができた。 ［B］総合的な学習の時間の意義や指導計画単元計画等を理解し、具体的な指導方法を身につけていく基礎を身につけることができた。 ［C］総合的な学習の時間の意義や指導計画単元計画等を理解し、具体的な指導方法を知ることができた。		
主担当教員	桑村佐和子		

令和4年度シラバス

番号	(C1)-11	履修コード	7410Z1
科目名	美術教育法Ⅱ	科目英語名	Study of Art Education Ⅱ
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分	教職選択科目（中高美術）	開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻3年次	曜日・時限	金曜9･10限
履修区分	選択	教室	第3教室
単位	2	定員	100名
担当教員	桑村佐和子（非常勤）◯中口一也・鷲山　靖・西澤　明		
授業概要	学校教育における美術科のあり方や現状の問題点について、彫刻・デザイン・絵画の各分野について、中学校、高等学校で実際に教えた美術教師による、より実践を意識した学習および演習を行う。		
到達目標	中学校および高等学校美術科に関わる基礎的な知識(技術)、彫刻・デザイン・絵画の各分野の授業技能の習得と、それをもとにした考察および具体的な授業計画活動の実践能力を養う。		
授業計画	第１回：授業ガイダンス　(桑村) 美術科の目標と内容（平成29年版 学習指導要領を中心に）（中口） 第２回：彫刻題材の学習内容とカリキュラム（技法、材料、用具、造形要素の観点から）（中口） 第３回：彫刻題材の指導と評価（受動的授業と能動的授業）（中口） 第４回：教科書に基づいた彫刻題材の授業案（教科書分析と学習指導案の作成）（中口） 第５回：模擬授業1（表現領域）（中口） 第６回：模擬授業2（鑑賞領域）（中口） 第７回：デザイン分野の教材特性（鷲山） 第８回：デザイン分野のスコープとシークエンス（鷲山） 第９回：デザイン分野の指導ポイント（鷲山） 第１０回：デザイン分野の題材検討（鷲山） 第１１回：絵画分野の授業の現状と課題（西澤） 第１２回：絵画分野の教材特性　(西澤) 第１３回：絵画分野の題材計画と指導計画　(西澤) 第１４回：絵画分野の評価　(西澤) 第１５回：まとめ（西澤、桑村） ※第7～10回、第11～15回はそれぞれ集中講義で実施します。掲示に注意してください。		
予習・復習	適宜指示する。教育実習前の教育方法に関する科目であり、教育実習を念頭に置きながら、各自質問、復習をすること。		
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説　美術編』『高等学校学習指導要領解説　芸術（ 音楽 美術 工芸 書道 ）編 音楽編 美術編』		
参考書	特になし。		
教材	配付プリント		
履修上の注意	毎週開講と集中講義が組み合わせて実施される授業であるので、掲示に注意すること。 評価方法について説明するため、第１回の授業ガイダンスには必ず参加すること。 彫刻、デザイン、絵画分野毎に学習し、それぞれで評価を受けて、その評価が合算される。それぞれで評価を受けられるように注意してください。		
成績評価 **(~H29)**	各教員が示す課題及び出席状況で総合的に判断する。 [A]授業技術の基本的な知識を習得し、それを基に自分なりの授業計画を立てることができる [B]授業技術の基本的な知識は習得しているものの、それをもとにした授業計画が十分ではない。 [C]授業技術の基本的な知識に大体は修得しているものの、具体的には十分に考えておらず、それをもとにした授業計画ができていない。		
成績評価 **(H30~)**	各教員が示す課題及び出席状況で総合的に判断する。 [S]授業技術の基本的な知識を習得し、それを基に実践的な授業計画を立てることができる [A]授業技術の基本的な知識を習得し、それを基に自分なりの授業計画を立てることができる [B]授業技術の基本的な知識は習得しているものの、それをもとにした授業計画が十分ではない。 [C]授業技術の基本的な知識に大体は修得しているものの、具体的には十分に考えておらず、それをもとにした授業計画ができていない。		
主担当教員	中口一也		

令和4年度シラバス

番号	(C1)-12	履修コード	7411Z1
科目名	美術教育法Ⅲ	科目英語名	Study of Art Education Ⅲ
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分	教職選択科目（中学美術）	開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻3年次	曜日・時限	木曜9･10限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	100名
担当教員	（非常勤）◯西澤明　有馬佳子		
授業概要	初等教育における美術教育を踏まえつつ、中学美術教育の目的、目標、内容、方法について理解を深めるために、教育現場における実践を意識した授業を行う。		
到達目標	中学校の美術科教師として必要な知識、技能、態度など基本的な授業方法を修得でき、基本的な指導力を身につけ、有意義な授業が出来るようにする。特に、小学校における図工と中学美術の相違を意識しつつ、義務教階である小学校と中学校での美術教育の役割を理解する。それらを通して、教育現場での実践事例の検討を元に、自ら授業を構想できるようにする。		
授業計画	（１）小学校図画工作科の教育（有馬） 中学校美術科の教育内容等を考える前提として、 小学校の図画工作科の教育について実践に基づいた内容を学ぶ。 第１回：図画工作科の概要（意義・目標・学習指導の基本） 第２回：造形遊び（指導計画・評価） 第３回：絵に表す・立体に表す（指導計画・評価） 第４回：工作に表す（指導計画・評価） 第５回：図画工作の鑑賞（指導計画・評価） ※授業ではハサミやのりを用いることがあります。 　指示したものを用意してください。 （２）中学校美術科の教育（西澤） 第６回：オリエンテーション・学校教育における美術科 第７回：美術の教育と美術による教育 第８回：中学校美術科の概要と現状の課題 第９回：指導計画と単元計画（目標と指導計画） 第１０回：「絵・彫刻」学習の題材 第１１回：美術科の評価 第１２回：「デザイン・工芸」学習の題材 第１３回：「鑑賞」学習の題材 第１４回：模擬授業計画 第１５回：模擬授業と相互評価 ※描画用の鉛筆、はさみ、のり等を使った実践演習を行う回があります。準備をしておいてください。		
予習・復習	適宜指示する。配付する資料を事前に読んでくること。 模擬授業の準備。		
教科書	大橋功他『美術教育概論　改訂版』日本文教出版（美術教育法Ⅰで使用した教科書） 『中学校学習指導要領解説　美術編』（最新版） ※授業始めに販売してもらいますので、持っていない人は購入してください。		
参考書	神林恒道、ふじえみつる『美術教育ハンドブック』三元社、2018年,『高等学校学習指導要領解説　美術編』（最新版）		
教材	配付プリント･ビデオ･ＤＶＤ		
履修上の注意	教職に興味があるか、または教師を目指そうという心構えをもって参加すること。		
成績評価 **(~H29)**	二人の教員による評価を総合して単位認定を行う。評価方法の詳細は授業中に明示する。 [A]美術教育に関する視野を広げ、学習指導を高いレベルで理解することができた。 [B]美術教育に関する視野を広げ、学習指導を理解することができた。 [C]美術教育に関する視野を広げることができた。		
成績評価 **(H30~)**	二人の教員による評価を総合して単位認定を行う。評価方法の詳細は授業中に明示する。 [S]美術教育に関する視野を広げ、学習指導を高いレベルで理解することができた。 [A]美術教育に関する視野を広げ、学習指導を理解することができた。 [B]美術教育に関する視野を広げ、学習指導を大体理解することができた。 [C]美術教育に関する視野を広げることができた。		
主担当教員	西澤　明		

令和4年度シラバス

番号	(C1)-13	履修コード	7423Z1
科目名	美術教育法Ⅳ	科目英語名	Study of Art Education Ⅳ
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分	教職選択科目（中高美術）	開講学期	前期
入学年度	R1～	毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻3年次	曜日・時限	金曜9･10限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	100名
担当教員	安田　淳		
授業概要	学校教育における美術科、芸術科（美術、工芸）の現状と課題を踏まえ、学習指導要領及び同解説を読み解き、中学校、高等学校の教科書の題材構成を分析し、シラバスと学習指導案を作成し、授業での指導と評価についての具体的な手立てを習得する。		
到達目標	中学校美術科、高等学校芸術科（美術、工芸）、美術科の現状と課題、授業に求められることを理解するとともに、授業における指導と評価について、実践的な指導力を身に付ける。		
授業計画	第１回：ガイダンス　美術教育の変遷、現状と課題について 第２回：学校教育における美術科、芸術科（美術、工芸）の授業に求められることについて 第３回：中学校美術科の学習指導要領及び同解説について 第４回：高等学校芸術科（美術、工芸）の学習指導要領及び同解説について 第５回：高等学校美術科の学習指導要領及び同解説について 第６回：中学校美術科の教科書について 第７回：高等学校芸術科美術、工芸の教科書について 第８回：授業での発想や構想に関する事項の指導と評価について 第９回：授業での技能に関する事項の指導と評価について 第１０回：授業での鑑賞に関する事項の指導と評価について 第１１回：授業での〔共通事項〕を位置付けた各領域の指導と評価について 第１２回：シラバス、年間指導計画の作成について 第１３回：学習指導案の作成について 第１４回：授業の導入、展開、まとめ、及び板書計画、情報機器及び教材の活用について 第１５回：まとめ　中学校、高等学校における芸術科（美術、工芸）、美術科の今後の展望について		
予習・復習			
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説美術編』、『高等学校学習指導要領解説芸術（音楽、美術、工芸、書道）編　音楽編　美術編』（共に最新版）		
参考書	中学校美術科の教科書、高等学校芸術科（美術、工芸）の教科書、大橋功他『美術教育概論　改訂版』日本文教出版		
教材			
履修上の注意			
成績評価 **(~H29)**			
成績評価 **(H30~)**	レポート（５０％）、シラバス作成（２０％）、学習指導案作成（３０％） ［S］美術科の現状と課題、授業に求められることに関する視野を広げ、授業における指導と評価について特に高いレベルで理解することができた。 ［A］美術科の現状と課題、授業に求められることに関する視野を広げ、授業における指導と評価について高いレベルで理解することができた。 ［B］美術科の現状と課題、授業に求められることに関する視野を広げ、授業における指導と評価について理解することができた。 ［C］美術科の現状と課題、授業に求められることに関する視野を広げることができた。		
主担当教員	安田　淳		

令和4年度シラバス

番号	(C1)-14	履修コード	7412Z1
科目名	工芸教育法Ⅰ	科目英語名	Study of Craft Education Ⅰ
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分	教職選択科目（高校工芸）	開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	水曜9･10限
履修区分	選択	教室	LAVC室
単位	2	定員	20名
担当教員	（非常勤）鷲山　靖		
授業概要	中学校・高等学校における工芸教育の意義、目標、内容、方法、評価について理解を深め、その授業方法の基本を学ぶ。		
到達目標	工芸の意味を伝える授業方法の基本を修得する。		
授業計画	1. オリエンテーション 2. 工芸の概念 3. 工芸教育の意義 4. 工芸教育の種類と教育理論 5. 工芸教育の授業目標とその題材タイプ 6. 工芸授業のポイント①：技法指導、学習指導、個人差の認識 7. 工芸授業のポイント②：学習指導の工夫、教具・図解（情報機器の活用を含む） 8. 工芸授業のポイント③：指導言、授業の基本構造、指導案の作成 9. 工芸授業のポイント④：評価の基礎理論 10. 工芸授業のポイント⑤：評価規準とワークシートの作成 11. 工芸授業のポイント⑥：評価規準による生徒作品の制作 12. 工芸授業のポイント⑦：評価規準による生徒作品の評価・評定 13. 模擬授業の準備（教材、指導案の作成） 14. 模擬授業と討議 15. まとめ　筆記試験		
予習・復習	演習の準備		
教科書	文部科学省『高等学校学習指導要領解説　芸術（音楽美術工芸書道）編』（最新版）		
参考書	適宜紹介する。		
教材	資料をスクリーンに提示する他、受講生持参物を事前に連絡する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 **(~H29)**	模擬授業と筆記試験とを総合して単位認定を行う。 [A]工芸教育の視野を広げ、その理論・授業方法を高いレベルで理解することができた。 [B]工芸教育の視野を広げ、その理論・授業方法を理解することができた。 [C]工芸教育の視野を広げることができた。		
成績評価 **(H30~)**	模擬授業と筆記試験とを総合して単位認定を行う。 [S]工芸教育の視野を広げ、その理論・授業方法を特に高いレベルで理解することができた。 [A]工芸教育の視野を広げ、その理論・授業方法を高い理解することができた。 [B]工芸教育の視野を広げ、その理論・授業方法を理解することができた。 [C]工芸教育の視野を広げることができた。		
主担当教員	鷲山　靖		

令和4年度シラバス

番号	(C1)-15	履修コード	7413Z1
科目名	工芸教育法Ⅱ	科目英語名	Study of Craft Education Ⅱ
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分	教職選択科目（高校工芸）	開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	火曜9･10限
履修区分	選択	教室	LAVC室
単位	2	定員	20名
担当教員	（非常勤）横江昌人		
授業概要	将来、教育現場で直面する様々な事例とその対応策を探求する。		
到達目標	①工芸科教育の目標を理解し、内容や方法について説明することができる（指導案の作成と模擬授業の実施を含む）。 ②工芸科教育の状況（史的変遷を含む）を捉え、望ましい教師像や今日的課題について持論を説明することができる。 生徒の成長や社会の変化に対応しながら、的確な判断と実践をなし得る教師としての自覚を高め、工芸教育の指導法を研究、修得する。制作者ではなく指導する立場から、客観的に「つくる」行為を捉える意識が大切です。		
授業計画	1・オリエンテーション 2・教師の姿勢・工芸教育の目的を考え、各人の考える理想の教師像を探る。レポート 3・工芸教育の現状・その歴史・特性・「触覚」について（触れることの意味・素材との出会い、素材との対話） 4・教育現場の諸問題を考察し環境の整備と幅広く技術を駆使するための工夫を考える。 5・実習、実技への心得・制作上の安全面を踏まえ、生徒の実習心得について研究する。 6・発想の定着・種々の課題の持つねらいを、いかに形として定着させるべきかを研究する。 7・指導と評価・生徒の能力や知性を把握し、その製作表現力をいかに評価していくかを探る。 8・学習指導計画書の作成 9・学習指導年間計画書の作成 10・各単元の教材の研究（情報機器及び教材の活用を含む） 11・各単元の学習指導案の作成 12・鑑賞　作品の鑑賞解説 ができるように実践する。レポート 13・模擬授業　①　導入、教材研究 14・模擬授業　②　学習指導、評価　小テスト 15・まとめ　レポート作成		
予習・復習	配付資料の読み込み。教科書に沿ってテーマを出します。予め内容を把握し、自分の視点（感想・意見）を持って臨むこと。テーマに関する自分なりの考え、思い、疑問などを記し提出する。		
教科書	「工芸Ⅰ」（日本文教出版）		
参考書	文部科学省『高等学校学習指導要領解説　芸術（音楽美術工芸書道）編　音楽編美術編』（最新版）		
教材	配付プリント		
履修上の注意	特になし		
成績評価 **(~H29)**	到達目標①②を評価の観点として、（レポート・小テスト3～4回）：50%、学習指導計画書指導案：40%、模擬授業（自評及び相互評価）：10% を総合的に評価する。提出物は成績評価の対象になる為 注意して下さい。 [A]到達目標①②に関する視野を広げ、到達目標①②を高いレベルで理解することができた。 [B]到達目標①②に関する視野を広げ、到達目標①②を理解することができた。 [C]到達目標①②に関する視野を広げることができた。		
成績評価 **(H30~)**	到達目標①②を評価の観点として、（レポート・小テスト3～4回）：50%、学習指導計画書指導案：40%、模擬授業（自評及び相互評価）：10% を総合的に評価する。提出物は成績評価の対象になる為 注意して下さい。 [S]到達目標①②に関する視野を広げ、到達目標①②を特に高いレベルで理解することができた。 [A]到達目標①②に関する視野を広げ、到達目標①②を高いレベルで理解することができた。 [B]到達目標①②に関する視野を広げ、到達目標①②を理解することができた。 [C]到達目標①②に関する視野を広げることができた。		
主担当教員	横江昌人		

令和4年度シラバス

番号	(C1)-16	履修コード	7414Z1
科目名	教育制度と社会	科目英語名	Educational Systems and Society
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻4年次	曜日・時限	水曜5・6限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	100名
担当教員	桑村佐和子		
授業概要	教育制度の基本原理や学校体系、教育行財政、学校経営組織等に関わる諸問題を考えるための基本的な知識について講義し、今後の教育制度について受講生同士で議論しながら考察する。		
到達目標	(1) 日本の公教育制度の概要を把握する。 (2) 学校教育制度、教育行財政制度、学校経営・学校評価等に関わる諸概念を理解する。 (3) 地域との連携、学校安全への対応など、学校が取り組んでいる課題を認識し、その意義と実際を理解する。 (4) 理解した諸概念を用いて、社会の変化に対応した学校を巡る現状について制度的な観点から説明し、自己の意見を展開できる。		
授業計画	下記の項目について講義するとともに、授業中に示す課題について学生の意見の発表機会を設ける。 第１回：「教育制度」を規定する要因 第２回：公教育の範囲と組織原理、日本の教育制度の基本原理 第３回：学校体系の類型　－諸外国との比較を通して 第４回：学校の設置者とその多様化　–新しい学校種、オルタナティブスクール 第５回：義務教育を実現するために 第６回：特別の教育的ニーズがある生徒への対応（子どもの貧困への対応、日本語教室など） 第７回：学校安全への対応 第８回：通学区域制度と学校選択制度 第９回：学校の組織と運営（教員組織、学校評議員制度） 第１０回：学校と地域の関係（学校支援地域本部、コミュニティスクール） 第１１回：学校運営に関する評価 第１２回：日本の教育行政の仕組み 第１３回：教科書制度 第１４回：教員の職務に係わる制度 第１５回：まとめ－社会の変化に対応した教育制度の在り方		
予習・復習	予習は必要に応じて授業中に指示する。		
教科書	資料を配付する。		
参考書	教育制度研究会『要説　教育制度』（新訂第三版）（学術図書、2011年）、坂田仰、他『新訂第3版　図解・表解　教育法規』（新訂第3版、増補改訂）（教育開発研究所、2010年）、苅谷剛彦『学力と階層』（朝日文庫、2012年）、文部科学省HP「諸外国の教育統計」など、適宜紹介する文献、資料等を参考とすること。		
教材	視聴覚資料を用いる場合がある。		
履修上の注意	教育実習、博物館実習等で出席できない場合にはあらかじめ連絡すること。 ※一部の回を解説資料をもとに、学生自身の課題研究としてレポートを課す。		
成績評価 (~H29)	レポートの合計（70%）と授業への参加状況（30%）を総合して評価する。 レポートの評価基準は、以下のとおりである。 [A]教育制度に関わる状況とその背景にある考え方を示しつつ、自分の意見がまとめられている。 [B]実態に対する教育制度的な分析が十分とは言えないが、自分の意見はまとめている。 [C]実態の分析が十分とは言えないが、自分の意見はまとめている。		
成績評価 (H30~)	レポートの合計（70%）と授業への参加状況（30%）を総合して評価する。 レポートの評価基準は、以下のとおりである。 [S]教育制度に関わる状況とその背景にある考え方を複数の観点から深く分析し、それに基づいて自分の意見がまとめられている。 [A]教育制度に関わる状況とその背景にある考え方を示しつつ、自分の意見がまとめられている。 [B]実態に対する教育制度的な分析が十分とは言えないが、自分の意見はまとめている。 [C]実態の分析が十分とは言えないが、自分の意見はまとめている。		
主担当教員	桑村佐和子		

令和4年度シラバス

番号	(C1)-17	履修コード	7415Z1
科目名	生徒指導論	科目英語名	Theory of Student Guidance
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻4年次	曜日・時限	金曜7･8限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	100名
担当教員	荷方邦夫		
授業概要	学校教育において、教科教育や特別活動と平行して生徒指導による介入・支援が不可欠である。本講義では生徒指導が学校の教育目標を達成するための重要な機能の１つであることを明らかにしていく。また、生徒指導の方法、問題行動に対する指導について具体的な事例を通して学習していく。		
到達目標	教職科目として、生徒指導に必要な知識・教育法規の学習を目的とする。また生徒指導に関する社会的問題に対する意見・指摘ができるよう、考える力を育てる。特に教員採用試験で問われる項目を重点的に扱い、要点の完全学習を目標とする。		
授業計画	１　生徒指導の目的と内容（オリエンテーション） ２　生徒指導の概念(1)　生徒指導のねらい・歴史的変遷 ３　生徒指導の概念(2)　生徒指導の領域と運営のポイント ４　学校における生活指導(1)　指導の課題とタイプ ５　学校における生活指導(2)　教育的懲戒 ６　生徒指導のトピックス(1)　不登校といじめの問題 ７　生徒指導のトピックス(2)　学校での危機管理 ８　進路指導　キャリアアップの指導とその実際 ９　事例から考える生徒指導 (1)　問題行動を中心として 10　事例から考える生徒指導 (2)　家庭との連携と方法 11　事例から考える生徒指導 (3)　生徒指導における指導体制 12　期末課題(1)　期末評価についてのガイダンス 13　期末課題(2)　課題の実習とその支援 14　まとめ　生徒指導の可能性と限界 15　期末評価		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。学生の自学自習を積極的に求める。		
教科書	資料を配付する。		
参考書	小泉編「よくわかる生徒指導・キャリア指導」（ミネルヴァ書房）		
教材	特になし。		
履修上の注意	開講時は教育実習（１ヶ月）に重なる。このため授業計画のうち一部は、これに配慮した対応が実施される。各自授業担当者からの指示に注意するように。		
成績評価 **(~H29)**	到達目標に示された課題についての達成状況と考え方・見方の深化について、授業内でのミニレポートおよび最終レポートをもとに評価を行う。学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。 1%を1ポイントとして換算する。 １　期末試験の点数（50%） 客観式テストないしはレポート課題を行い，点数を直接の評価とする。 ２　授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの課題や参加については，授業内でポイント（点数）を提示する。 授業内の小課題（概ね40%），発言や積極的参加（概ね10%） 授業における発言，小課題での回答をそのつどカウントする。 評価の基準 ［A］上記の基準の上１と２で80%以上のポイントを獲得している ［B］上記の基準の上１と２で60%以上のポイントを獲得している ［C］上記の基準の上１と２で50%以上のポイントを獲得している		
成績評価 **(H30~)**	到達目標に示された課題についての達成状況と考え方・見方の深化について、授業内でのミニレポートおよび最終レポートをもとに評価を行う。学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。 1%を1ポイントとして換算する。 １　期末試験の点数（50%） 客観式テストないしはレポート課題を行い，点数を直接の評価とする。 ２　授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの課題や参加については，授業内でポイント（点数）を提示する。 授業内の小課題（概ね40%），発言や積極的参加（概ね10%） 授業における発言，小課題での回答をそのつどカウントする。 評価の基準 ［A］上記の基準の上１と２で80%以上のポイントを獲得している ［B］上記の基準の上１と２で70%以上のポイントを獲得している ［C］上記の基準の上１と２で60%以上のポイントを獲得している		
主担当教員	荷方邦夫		

令和4年度シラバス

番号	(C1)-18	履修コード	7419Z1
科目名	教職実践演習（中・高）	科目英語名	Seminar for Teaching Practice
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻4年次	曜日・時限	事務局前に掲示
履修区分	選択	教室	事務局前に掲示
単位	2	定員	80名
担当教員	◯桑村佐和子・荷方邦夫　（非常勤）未定・西澤　明		
授業概要	4年間の教職課程の総まとめとして、また、理論や知識を学ぶ「大学」と、それを活かす「教育現場」との橋渡しとして、教壇に立った時に必要となる知識や技術、ものの考え方や問題解決の方法等を実践的に学ぶ。さらに、講師には学級経営や教科指導のエキスパートである現役教員を迎え、教育現場の最前線の理解を図る。授業は、単に講義にとどまらず、少人数でのグループ討議や、ロールプレイング等、多様な形態で行う。受講者は、目標に掲げたような能力・感性を身につけ、かつそれらを教壇で的確に表現・発揮できるよう、この授業に積極的に参加することが求められる。		
到達目標	本授業では、教育実習の体験を踏まえ、大学で学んだ知識・理論を教育現場でいかにして応用するのかを考察し、同時に教師の使命や責任への思いを新たにする過程を通じて、「学生」が豊かな指導力と強い責任感を兼ね備えた「教員」へと成長できるようにする。具体的には以下のような能力の修得を目指す。 (1)使命感や責任感、教育的愛情　　(2)社会性や対人関係能力 (3)生徒理解や学級経営力　　(4)教科内容の指導力		
授業計画	授業計画 第1回　ガイダンスと総論（荷方） 第2回～第3回　「教師」になるとはどういうことか（荷方・桑村） 第4回～第8回　グループ別プログラム-その1：教育現場を知る-（全教員担当） （以下の4テーマについての講義およびグループ討議） テーマ1　（未定） テーマ2　生徒・社会に対応するためのトレーニング（荷方） テーマ3　現代の教育における諸課題（桑村） テーマ4　美術科・工芸科の教員に求められるもの（西澤） 第9回　プレゼンテーション課題の提示とガイダンス（荷方） 第10回～第14回　グループ別プログラム-その2：プレゼンテーション-（桑村・荷方） （受講生が教育実習を通じて感じた授業の進め方や、学級経営に関する課題とその解決方法を提示することで、全受講生が追体験できるような発表を行う。） 第15回　プレゼンテーションの講評と授業のまとめ・確認（桑村・荷方）		
予習・復習	授業中に随時指示する。		
教科書	4年間の教職課程において使用した教科書・資料等。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	特になし		
成績評価 **(~H29)**	到達目標に示された課題についての達成状況と考え方・見方の深化について、授業内でのミニレポートおよび最終試験ないしはレポートをもとに評価を行う。 期末試験の点数（50%） 授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの内容について、５（優秀）から１（努力を要する）の５件法で評価を行い、合算して到達度とする。 評価の基準 ［A］上記の２つの基準から、教職について深い理解と実践の力を有していると認める。 ［B］上記の２つの基準から、教職について必要な理解と実践の力を有していると認める。 ［C］上記の２つの基準から、教職について一定の理解と実践の力を有していると認める。		
成績評価 **(H30~)**	到達目標に示された課題についての達成状況と考え方・見方の深化について、授業内でのミニレポートおよび最終試験ないしはレポートをもとに評価を行う。 期末試験の点数（50%） 授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの内容について、５（優秀）から１（努力を要する）の５件法で評価を行い、合算して到達度とする。 評価の基準 ［S］上記の２つの基準から、教職について深い理解と実践の力を特に有していると認める。 ［A］上記の２つの基準から、教職について深い理解と実践の力を有していると認める。 ［B］上記の２つの基準から、教職について必要な理解と実践の力を有していると認める。 ［C］上記の２つの基準から、教職について一定の理解と実践の力を有していると認める。		
主担当教員	桑村佐和子		

令和4年度シラバス

番号	(C1)-19	履修コード	7417Z1
科目名	教育実習事前事後指導	科目英語名	Guide to Teaching Practice
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻4年次	曜日・時限	事務局前に掲示
履修区分	選択	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	100名
担当教員	◯桑村佐和子・荷方邦夫　（非常勤）未定		
授業概要	教育実習前には、実習に必要な手続きと心構えについて認識を新たにし、授業実習に必要な知識と技能について解説し、教育実習に備える。講師として現職の教員および金沢市教育委員会指導主事をお招きする。 また、事後には教育実習を振り返り、それぞれの体験を共有しつつ、教職について再確認する。		
到達目標	1)教育実習の意義が認識できること。 2)教育実習に必要な技能と知識（学習指導案の作成、職務内容の理解等）の定着。		
授業計画	・4月から5月にかけて「事前指導」の時間を設定し、教育実習の目的・方法・心得等について講義する。特に、実習生としての職務内容、学習指導案の作成および教材の準備について入念に確認する。 ・学外から専門家を招き（現職の教員あるいは教育委員会指導主事）教育実習と学校教育の実際について理解を深め、教育実習に備える。 ・教育実習終了後、事後指導としてセミナー形式による実習体験の反省・問題点・成果等について考察し、実習経験を共有する。事前指導同様、外部の講師をお招きする予定である。		
予習・復習	「教育実習手帳」の内容を把握しておくこと。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	事前指導に正当な理由なく欠席した場合、教育実習を許可しない。 ※今年度は状況によっては、例年以上に個人差が大きくなると思われるため、連絡を密にしてもらいたい。		
成績評価 (~H29)	参加の状況と実習後に提出するレポート及び実習中に作成した「学習指導案」を総合して評価する。それぞれ40%、50%、10%とする。 レポートの評価基準は、以下のとおりである。 [A]自分の教育実習の結果を示しつつ、事後指導等での他学生の教育実習の結果も合わせて、教職への理解が深められている。 [B]自分の教育実習の結果は示されており、体験をもとに教職への理解が深められている。 [C]自分の教育実習の結果は示されており、その範囲で教職への自分の考えがまとめられている。		
成績評価 (H30~)	参加の状況と実習後に提出するレポート及び実習中に作成した「学習指導案」を総合して評価する。それぞれ40%、50%、10%とする。 レポートの評価基準は、以下のとおりである。 [S]自分の教育実習の結果を示しつつ、事後指導等での他学生の教育実習の結果やこれまでの授業の内容をもとに分析意思、教職への理解が深められている。 [A]自分の教育実習の結果を示しつつ、事後指導等での他学生の教育実習の結果も合わせて、教職への理解が深められている。 [B]自分の教育実習の結果は示されており、体験をもとに教職への理解が深められている。 [C]自分の教育実習の結果は示されており、その範囲で教職への自分の考えがまとめられている。		
主担当教員	桑村佐和子		

令和4年度シラバス

番号	(C1)-20	履修コード	7409Z1
科目名	教育実習Ⅰ	科目英語名	Teaching Practice Ⅰ
科目区分	教職に関する科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻4年次	曜日・時限	終日
履修区分	選択	教室	実習校
単位	2	定員	100名
担当教員	◯桑村佐和子・荷方邦夫		
授業概要	教員免許状取得に必修の教育実習を中学校あるいは高等学校において行い、教員に必要な知識・技能・態度を実践的に学ぶ。		
到達目標	１）教員として必要な資質は何かを、「実感」すること。 ２）実践的指導能力（教科指導、生徒指導、道徳教育、特別活動等を含め）の修得。 ３）学校経営（学級経営を含む）の実際を体験的に把握すること。 ４）教員としてのモラルに思いを致すこと。		
授業計画	１．主として5月下旬から7月上旬の4週間（3週間の場合もある）、金沢市内、石川県内外の中学・高等学校において実習を行う。 （「教育実習Ⅱ」と合わせて3～4週間。高校の教員免許取得だけを目指す人は、基本的には教育実習Ⅰのみを履修すること。） ２．実習開始前に、実習校で事前指導を受ける。その日程、事前準備等の詳細については実習校、大学事務局と連絡を密にすること。 ３．実習期間中、金沢市内および県内実習校については本学担当教員が現場訪問し、必要な指導を行う。 ※該当する学生は、日程調整のための連絡を、大学と確実に取ること。 ４．県外についても可能な限り、巡回指導を行う。		
予習・復習	それぞれ実習校と相談の上、必要な予習および復習を行うこと。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	実習の特性からして遅刻、欠席、早退は原則として許されません。実習は「勤務」です。実習生としてのモラルをしっかり守り、指導教諭の指示に従うことが大切です。 実習中に問題が生じ、自力で解決できない時はすぐに大学に連絡すること。		
成績評価 (~H29)	各実習校から報告される評価表に基づき単位認定を行う。その際、「実習手帳」の記述内容を評価のための参考資料として重視する。「実習手帳」は教育実習と教育実習事後指導の後、事務局に提出すること。		
成績評価 (H30~)	各実習校から報告される評価表に基づき単位認定を行う。その際、「実習手帳」の記述内容を評価のための参考資料として重視する。「実習手帳」は教育実習と教育実習事後指導の後、事務局に提出すること。		
主担当教員	桑村佐和子		

令和4年度シラバス

番号	(C1)-21	履修コード	7418Z1
科目名	教育実習Ⅱ	科目英語名	Teaching Practice Ⅱ
科目区分	教職に関する科目	授業形態	実習
資格区分	教職選択科目（中学美術）	開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻4年次	曜日・時限	終日
履修区分	選択	教室	実習校
単位	2	定員	100名
担当教員	◯桑村佐和子・荷方邦夫		
授業概要	教員免許状取得に必修の教育実習を中学校あるいは高等学校において行い、教員に必要な知識・技能・態度を実践的に学ぶ。		
到達目標	１）教員として必要な資質は何かを、「実感」すること。 ２）実践的指導能力（教科指導、生徒指導、道徳教育、特別活動等を含め）の修得。 ３）学校経営（学級経営を含む）の実際を体験的に把握すること。 ４）教員としてのモラルに思いを致すこと。		
授業計画	１．主として5月下旬から7月上旬の4週間（3週間の場合もある）、金沢市内、石川県内および石川県外の出身中学・高等学校において実習を行う。 （「教育実習Ⅰ」と合わせて3～4週間。高校の教員免許取得だけを目指す人は、基本的には「教育実習Ⅰ」のみを履修すること。） ２．実習開始前に、実習校で事前指導を受ける。その日程、事前準備等の詳細については実習校、大学事務局と連絡を密にすること。 ３．実習期間中、金沢市内および県内実習校については本学担当教員が現場訪問し、必要な指導を行う。 ※該当する学生は、日程調整のための連絡を、大学と確実に取ること。 ４．県外についても可能な限り、巡回指導を行う。 ５．実習期間が3週間の場合、残余の期間について補習的な指導を行い、4週間と同じ教育効果があがるよう配慮する。		
予習・復習	それぞれ実習校と相談の上、必要な予習および復習を行うこと。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	実習の特性からして遅刻、欠席、早退は原則として許されません。実習は「勤務」です。実習生としてのモラルをしっかり守り、指導教諭の指示に従うことが大切です。 実習中に問題が生じ、自力で解決できない時はすぐに大学に連絡すること。 また、本学では原則として「教育実習Ⅰ」および「教育実習Ⅱ」は一括して実施する。詳細については、ガイダンスその他を参考にすること。 ※中学校の教員免許状取得を目指している学生は、「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」の両方の履修申請をすること。		
成績評価 (~H29)	各実習校から報告される評価表に基づき単位認定を行う。その際、「実習手帳」の記述内容を評価のための参考資料として重視する。「実習手帳」は教育実習と教育実習事後指導の後、事務局に提出すること。		
成績評価 (H30~)	各実習校から報告される評価表に基づき単位認定を行う。その際、「実習手帳」の記述内容を評価のための参考資料として重視する。「実習手帳」は教育実習と教育実習事後指導の後、事務局に提出すること。		
主担当教員	桑村佐和子		

令和4年度シラバス

番号	(D1)-01	履修コード	7305Z1
科目名	博物館概論	科目英語名	Introduction to Museum Study
科目区分	博物館に関する科目	授業形態	講義
資格区分	博物館必修科目	開講学期	前期
入学年度	～H30	毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	月曜5・6限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	60名
担当教員	渋谷　拓		
授業概要	私立ならびに公立美術館の学芸員経験がある教員が、現場感覚を交えてミュージアム（美術館や博物館）の活動や歴史、今日的課題について講義する。		
到達目標	ミュージアムに関する基礎的知識を学び、学生が自らの制作・研究活動と関連づけながらミュージアムについて思考できるようにする。		
授業計画	第1回　ミュージアムを知りたい／学芸員になりたい（イントロダクション） 第2回　動物園も「ミュージアム」である 第3回　学芸員の仕事を知る【1】展示する／展覧会を企画する 第4回　学芸員の仕事を知る【2】収集する／保存する 第5回　学芸員の仕事を知る【3】学習機会をつくる 第6回　ミュージアムの歴史を知る【1】　日本のミュージアム 第7回　ミュージアムの歴史を知る【2】　石川県のミュージアム 第8回　ミュージアムの歴史を知る【3】　フランスのミュージアム 第9回　知っておきたい【1】　博物館法 第10回　知っておきたい【2】　文化遺産とミュージアム 第11回　資料を管理する 第12回　「コレクションすること」「展示すること」について考えてみる 第13回　ミュージアムは誰のため？ 第14回　ミュージアムの未来を考えてみる 第15回　まとめ		
予習・復習	ミュージアム（美術館や博物館）に積極的に出かけること。見学の際に展示の意図や各館の成り立ち（設置主体、特色、歴史など）についても知るようにすること。		
教科書	特に使用しない。講義内で参考資料を適宜指示する。		
参考書	栗田秀法編著『現代博物館学入門』ミネルヴァ書房、吉田憲司『博物館概論』放送大学教育振興会、並木誠士・吉中充代・米屋優編『現代美術館学』昭和堂、藤井匡編／東京造形大学附属美術館監修『美術館を語る』風人社など。		
教材	映像資料（DVDやビデオ）、パワーポイントを使用する場合がある。		
履修上の注意	博物館学芸員資格の取得を希望する者は、必ず1年次に履修すること。 入学年度により履修コードが異なるため、注意すること。		
成績評価 **(~H29)**	授業への参加状況（受講態度およびグループワークに取り組む姿勢）とワークシート・期末試験・レポート評価の総合により単位認定を行う。参加状況（30%）、ワークシート・期末試験・レポート（70%）。ワークシート・期末試験・レポートの評価基準は以下のとおりとする。 〔A〕　ミュージアムに関する知識を高い水準で修得している。 〔B〕　ミュージアムに関する基礎的知識を修得している。 〔C〕　ミュージアムに関する一定の知識を持っている。		
成績評価 **(H30~)**	授業への参加状況（受講態度およびグループワークに取り組む姿勢）とワークシート・期末試験・レポート評価の総合により単位認定を行う。参加状況（30%）、ワークシート・期末試験・レポート（70%）。ワークシート・期末試験・レポートの評価基準は以下のとおりとする。 〔S〕　ミュージアムの活動全般に関する知識を高い水準で修得し、制作・研究活動との関係において自らの見解を示すことができる。 〔A〕　ミュージアムに関する知識を高い水準で習得している。 〔B〕　ミュージアムに関する基礎的知識を修得している。 〔C〕　ミュージアムに関する一定の知識を持っている。		
主担当教員	渋谷　拓		

令和4年度シラバス

番号	(D1)-02	履修コード	7306Z1
科目名	博物館資料論	科目英語名	Cultural Properties for Museum
科目区分	博物館に関する科目	授業形態	講義
資格区分	博物館必修科目	開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	月曜9・10限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	60名
担当教員	（非常勤）〇尺戸智佳子、川端典子、近藤浩二		
授業概要	〝博物館資料〞とは何か。その対象となる多様な事物はどのような理念や方法論をもって博物館資料としての意義や価値を与えられるのか、具体的事例を通して検討する。また調査研究、保存管理、活用公開など一連の博物館活動の目的や内容、理解を踏まえながら博物館資料の基礎を学ぶ。		
到達目標	博物館活動の中心的課題である博物館資料の収集、整理、保存、活用の理論的理解を図り、博物館資料とは何かを総合的に理解できる基礎的能力を身に付ける。		
授業計画	第１回（尺戸）概論　美術資料について 第２回（尺戸）美術資料について：多岐にわたる美術資料とその収集方法 第３回（尺戸）美術資料について：資料の管理、取り扱い、地域の美術 第４回（近藤）歴史資料とはなにか 第５回（近藤）歴史資料の修復・複製（石川県文化財保存修復工房見学） 第６回（川端）考古資料とはなにか 第７回（近藤）歴史資料の調査・研究・展示・活用①絵画資料等 第８回（川端）考古資料の調査・研究・展示・活用①ワークショップとレプリカ等 第９回（尺戸）美術資料の活用①コレクションを活用した展覧会 第１０回（川端）考古資料の調査・研究・展示・活用②復元画等 第１１回（川端）実習：復元画製作①　　〃 第１２回（川端）実習：復元画製作②、民俗資料とは 第１３回（近藤）歴史資料の調査・研究・展示・活用②写真資料等 第１４回（近藤）歴史資料の調査・研究・展示・活用③文献資料等 第１５回（尺戸）資料の活用②著作権など		
予習・復習	恒常的に博物館を訪れ、展示等に接してその特性を把握し、授業を通して得た知見を館の現場に当てはめることで、改めて実際的理解や新たな疑問を作り出すよう努めること。		
教科書	特に使用しない。必要に応じて関係資料を配布する。		
参考書	栗田秀法『現代博物館学入門』（ミネルヴァ書房）、『新時代の博物館学』（全国大学博物館学講座協議会西日本支部会編、芙蓉書房出版）、その他授業内で紹介する。		
教材	配布資料、関連映像やWeb情報などを利用して授業内容を補完する。 授業内容により、若干の教材費を徴収する場合がある。		
履修上の注意	博物館学芸員は、豊かな社会性をもって生涯学習教育に携わる人材としての素養が求められる。履修には明確な目的意識に裏打ちされた学修意欲と自己管理能力が必要である。博物館学芸員資格取得に必要科目なので最終学年までに履修し、未履修ということのないように履修年度に注意すること。		
成績評価 **(~H29)**	評価の方法：授業時間内での受講態度及び感想の提出（毎回）60%、レポート１回 1000～2000字程度(学期末)40% [A]問題を良く理解し、論理的に思考するとともに有意な見解を提示することができた。 [B]問題を良く理解し、論理的に思考することができた。 [C]問題を理解することができた。		
成績評価 **(H30~)**	評価の方法：授業時間内での受講態度及び感想の提出（毎回）60%、レポート１回 1000～2000字程度(学期末)40% [S]問題を良く理解し、論理的に思考するとともに有意な見解を提示することができ、かつ特に秀でた学術レベルにある。 [A]問題を良く理解し、論理的に思考するとともに有意な見解を提示することができた。 [B]問題を良く理解し、論理的に思考することができた。 [C]問題を理解することができた。		
主担当教員	尺戸智佳子		

令和4年度シラバス

番号	(D1)-03	履修コード	7307Z1
科目名	博物館経営論	科目英語名	Museum Management
科目区分	博物館に関する科目	授業形態	講義
資格区分	博物館必修科目	開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	月曜5･6限
履修区分	選択	教室	第3教室
単位	2	定員	60名
担当教員	渋谷　拓		
授業概要	ミュージアム（美術館や博物館など）の経営形態と管理運営について、基本的な知識と現状を学ぶ。		
到達目標	設置者側の視点や法的観点からミュージアムの役割と位置づけに関する理解を深めてミュージアムマネジメントに関する基礎的能力を養うとともに、今日的課題について自身の意見を持てるようにする。		
授業計画	第1回　　ミュージアムは誰が運営している？（イントロダクション） 第2回　　ミュージアムで働く／ミュージアムと働く 第3回　　ミュージアムはお金がかかる【1】展覧会 第4回　　ミュージアムはお金がかかる【2】資料収集と施設管理 第5回　　ミュージアムは儲かるか？ 第6回　　ミュージアムは評価される 第7回　　ミュージアムはリスクに備える 第8回　　ミュージアムの事業を広報する 第9回　　ミュージアムと協同する 第10回　ミュージアムは連携する 第11回　ミュージアムで地域振興する 第12回　ミュージアムも閉鎖されることがある 第13回　ミュージアムをつくる 第14回　ミュージアムの倫理を考えてみる 第15回　まとめ		
予習・復習	ミュージアム運営に関する各種報道を積極的に読むようにすること。ミュージアムを訪れる際に、各館の経営形態や経営の目的について知る努力をすること。		
教科書	特に使用しない。講義内で参考資料を適宜指示する。		
参考書	栗田秀法編著『現代博物館学入門』ミネルヴァ書房、佐々木亨・亀井修著『博物館経営論』放送大学教育振興会、並木誠士・中川理著『美術館の可能性』学芸出版社など。		
教材	映像資料（DVDやビデオ）、パワーポイントを使用する場合がある。		
履修上の注意	博物館学芸員資格の取得を希望する者は必ず履修すること。		
成績評価 **(~H29)**	授業への参加状況（受講態度およびグループワークに取り組む姿勢）と、ワークシート・期末試験・レポート評価の総合により単位認定を行う。参加状況（30%）、ワークシート・期末試験・レポート（70%）。ワークシート・期末試験・レポート評価基準は以下のとおりとする。 〔A〕　　ミュージアムの経営に関する知識を高い水準で修得している。 〔B〕　　ミュージアムの経営に関する基礎的知識を修得している。 〔C〕　　ミュージアムの経営に関する一定の知識を持っている。		
成績評価 **(H30~)**	授業への参加状況（受講態度およびグループワークに取り組む姿勢）と、ワークシート・期末試験・レポート評価の総合により単位認定を行う。参加状況（30%）、ワークシート・期末試験・レポート（70%）。ワークシート・期末試験・レポートの評価基準は以下のとおりとする。 〔S〕　　ミュージアムの経営に関する知識を高い水準で修得し、制作・研究活動との関係において自らの見解を示すことができる。 〔A〕　　ミュージアムの経営に関する知識を高い水準で習得している。 〔B〕　　ミュージアムの経営に関する基礎的知識を修得している。 〔C〕　　ミュージアムの経営に関する一定の知識を持っている。		
主担当教員	渋谷　拓		

令和4年度シラバス

番号	(D1)-04	履修コード	7308Z1
科目名	博物館展示論	科目英語名	Exhibition of Museum
科目区分	博物館に関する科目	授業形態	講義
資格区分	博物館必修科目	開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	火曜5･6限
履修区分	選択	教室	第3教室
単位	2	定員	60名
担当教員	渋谷　拓		
授業概要	ミュージアム（美術館や博物館など）における展示活動に関して、その考え方・歴史・解説活動・今日における課題などを学ぶ。		
到達目標	ミュージアムの現場で資料を展示するために必要となる基本的な知識や技術を修得するとともに、学生自らがその知識を展示活動に活かすことができるようにする。		
授業計画	第1回　展示はコミュニケーションである（イントロダクション） 第2回　展示を考える【1】常設展 第3回　展示を考える【2】特別展 第4回　展示を考える【3】屋外彫刻 第5回　展示を考える【4】異文化を展示する① 第6回　展示を考える【5】異文化を展示する② 第7回　展示を考える【6】ホワイト・キューブ 第8回　展示を考える【7】オフ・ミュージアム 第9回　展覧会の計画と実施 第10回　展示とリスク・マネジメント 第11回　展示と権利 第12回　展示の評価（近隣ミュージアムの見学） 第13回　展示の歴史【1】キャプションと図録 第14回　展示の歴史【2】展覧会の歴史 第15回　まとめ		
予習・復習	ミュージアム見学の際に、資料のみならず、展示全体のコンセプトを読み取ったり、解説資料に目配りしたりするよう心がけること。また日頃から「展示すること」「展示されること」について広い文脈で考えるよう心がけること。		
教科書	特に使用しない。講義内で参考資料を適宜指示する。		
参考書	栗田秀法編著『現代博物館学入門』ミネルヴァ書房、川口幸也編著『展示の政治学』水声社、木下直之著『美術という見世物』ちくま学芸文庫、など。		
教材	映像資料（DVDやビデオ）、パワーポイントを使用する場合がある。		
履修上の注意	博物館学芸員資格の取得を希望する者は必ず履修すること。		
成績評価 **(~H29)**	授業への参加状況（受講態度およびグループワークに取り組む姿勢）と、ワークシート・期末試験・レポート採点の総合により単位認定を行う。参加状況（30%）、ワークシート・期末試験・レポート（70%）。ワークシート・期末試験・レポートの評価基準は以下のとおりとする。 〔A〕　ミュージアムの展示活動に関する知識を高い水準で修得している。 〔B〕　ミュージアムの展示活動に関する基礎的知識を修得している。 〔C〕　ミュージアムの展示活動に関する一定の知識を持っている。		
成績評価 **(H30~)**	授業への参加状況（受講態度およびグループワークに取り組む姿勢）と、ワークシート・期末試験・レポート採点の総合により単位認定を行う。参加状況（30%）、ワークシート・期末試験・レポート（70%）。ワークシート・期末試験・レポートの評価基準は以下のとおりとする。 〔S〕　ミュージアムの展示活動に関する知識を高い水準で修得し、制作・研究活動との関係において自らの見解を示すことができる。 〔A〕　ミュージアムの展示活動に関する知識を高い水準で習得している。 〔B〕　ミュージアムの展示活動に関する基礎的知識を修得している。 〔C〕　ミュージアムの展示活動に関する一定の知識を持っている。		
主担当教員	渋谷　拓		

令和4年度シラバス

番号	(D1)-05	履修コード	7309Z1
科目名	博物館資料保存論	科目英語名	Preservation of Museum Collection
科目区分	博物館に関する科目	授業形態	講義
資格区分	博物館必修科目	開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	火曜9･10限
履修区分	選択	教室	第3教室
単位	2	定員	60名
担当教員	渋谷　拓		
授業概要	ミュージアム（美術館や博物館など）において資料を保存することの意義や、資料を良好に保存・継承していくための方法と環境について科学的・実践的観点から学ぶ。		
到達目標	ミュージアムの展示・保存環境を科学的かつ歴史的に理解し、学芸員として資料保存に携わるために必要な基本的知識を修得する。		
授業計画	第1回　展示活用と保存は表裏一体の関係である（イントロダクション） 第2回　展示と保存の環境を考えてみる【1】光 第3回　展示と保存の環境を考えてみる【2】温湿度と空気質 第4回　展示と保存の環境を考えてみる【3】生物被害とIPM 第5回　展示と保存の環境を考えてみる【4】伝統的保存方法と環境保護 第6回　展示と保存の環境を考えてみる【5】ファシリティ・レポート 第7回　展示と保存の環境を考えてみる【6】立地と防災 第8回　展示と保存の環境を考えてみる【7】近隣の博物館の見学 第9回　展示と保存の環境を考えてみる【8】屋外彫刻の状態を観察する 第10回　資料を守る【1】資料の修復 第11回　資料を守る【2】資料の輸送 第11回　資料を守る【3】文化財保護法 第12回　資料を守る【4】エコミュージアム 第13回　資料を守る【5】被災文化財のレスキュー 第14回　資料を守る【6】ポストコロニアリズムと文化財 第15回　まとめ		
予習・復習	ミュージアム見学の際に、資料のみならず展示環境を観察するよう心がけること。制作・研究をしながら、その作品・資料がどのように保存されるべきか考える習慣を持つこと。		
教科書	特に使用しない。講義内で参考資料を適宜指示する。		
参考書	栗田秀法編著『現代博物館学入門』ミネルヴァ書房、石﨑武志編著『博物館資料保存論』講談社、日本博物館協会編『博物館資料取扱いガイドブック』ぎょうせい、など。		
教材	映像資料（DVDやビデオ）、パワーポイントを使用する場合がある。		
履修上の注意	博物館学芸員資格の取得を希望する者は必ず履修すること。		
成績評価 **(~H29)**	授業への参加状況（受講態度およびグループワークに取り組む姿勢）と、ワークシート・期末試験・レポート評価の総合により単位認定を行う。参加状況（30%）、ワークシート・期末試験・レポート（70%）。ワークシート・期末試験・レポートの評価基準は以下のとおりとする。 〔A〕　博物館資料の保存に関する知識を高い水準で修得している。 〔B〕　博物館資料の保存に関する基礎的知識を修得している。 〔C〕　博物館資料の保存に関する一定水準の知識を持っている。		
成績評価 **(H30~)**	授業への参加状況（受講態度およびグループワークに取り組む姿勢）と、ワークシート・期末試験・レポート評価の総合により単位認定を行う。参加状況（30%）、ワークシート・期末試験・レポート（70%）。ワークシート・期末試験・レポートの評価基準は以下のとおりとする。 〔S〕　博物館資料に関する知識を高い水準で修得し、制作・研究活動との関係において自らの見解を示すことができる。 〔A〕　博物館資料に関する知識を高い水準で修得している。 〔B〕　博物館資料に関する基礎的知識を修得している。 〔C〕　博物館資料に関する一定水準の知識を持っている。		
主担当教員	渋谷　拓		

令和4年度シラバス

番号	(D1)-06	履修コード	7310Z1
科目名	博物館情報・メディア論	科目英語名	Theory of Information & Media for Museum
科目区分	博物館に関する科目	授業形態	講義
資格区分	博物館必修科目	開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	終日
履修区分	選択	教室	学内
単位	2	定員	60名
担当教員	（非常勤）鴨木年泰		
授業概要	ミュージアムをとりまく最新の情報・メディア関連の最新の話題や諸課題、美術館の現場での具体的な事例を幅広く検討しながら、情報・メディアの活用の如何がミュージアムの存在意義の向上に深く関わることを理解し、ひいてはミュージアムの社会貢献、ミッション、あるべき姿について考える。		
到達目標	ミュージアムにおける情報管理の意義と活用、情報発信などに関する理解を通して、ミュージアムの情報提供やその活用についての基礎的かつ実際的な能力を身につける。		
授業計画	（1日目） テーマ「日本の美術館サイトはどうすればもっと良くなるか」 1．講義：美術館の収蔵品について知りたい 2．講義：日本の美術館サイトはどうすればもっと良くなるか 3．講義：美術館の収蔵作品情報とジャパンサーチ 4．講義：美術館における情報管理の実際 5．講義：文化財情報の共有と活用―ジャパンサーチを使ってみる（１） （2日目） テーマ「美術館の新たなサービスを発想しよう！」 1．講義：第4世代のミュージアムとは？ 2．グループワーク：美術館の新たなサービスを発想しよう（1） 3．グループワーク：美術館の新たなサービスを発想しよう（2） 4．グループワーク：美術館の新たなサービスを発想しよう（3） 5．グループワーク：美術館の新たなサービスを発想しよう（4） （3日目） テーマ「デジタル技術×美術館の現在」 1．オンライン見学：オンラインで美術館を体験する 2．オンライン見学：収蔵品データベースを見る 3．オンライン見学：収蔵品管理の実際・収蔵庫を知る 4．ジャパンサーチを使ってみる（２）オンライン展覧会を作る 5．ジャパンサーチを使ってみる（３）成果発表		
予習・復習	事前に博物館・美術館について展覧会、イベント、図書資料室、その他館内施設の利用経験、また、博物館・美術館のホームページの利用経験があることが望ましい。		
教科書	特に使用しない。必要に応じて関係資料を配布する。		
参考書	『美術館の原則と美術館関係者の行動指針』（全国美術館会議）、『改訂新版　現場で使える美術著作権ガイド2019』（全国美術館会議編、美術出版社）ほかにも授業内で紹介する。		
教材	配布資料、関連映像やWeb情報などを利用して授業内容を補完する。		
履修上の注意	博物館学芸員資格の取得を希望する者は必ず履修すること。		
成績評価 **(~H29)**	授業への参加状況（受講態度およびグループワークに取り組む姿勢）と、グループワーク・個人ワークの成果提出内容の総合により単位認定を行う。参加状況（60%）、ワーク成果（40%）。ワーク成果の評価基準は以下の通りとする。 〔A〕ミュージアムにおける情報・メディアの活用に関する幅広い知識を修得している。 〔B〕ミュージアムにおける情報・メディアの活用に関する基礎的知識を修得している。 〔C〕ミュージアムにおける情報・メディアの活用に関する一定の知識を持っている。		
成績評価 **(H30~)**	授業への参加状況（受講態度およびグループワークに取り組む姿勢）と、グループワーク・個人ワークの成果提出内容の総合により単位認定を行う。参加状況（60%）、ワーク成果（40%）。ワーク成果の評価基準は以下の通りとする。 〔S〕ミュージアムにおける情報・メディアの活用に関する幅広い知識を修得し、自らの見解を示すことができる。 〔A〕ミュージアムにおける情報・メディアの活用に関する幅広い知識を修得している。 〔B〕ミュージアムにおける情報・メディアの活用に関する基礎的知識を修得している。 〔C〕ミュージアムにおける情報・メディアの活用に関する一定の知識を持っている。		
主担当教員	鴨木年泰		

令和4年度シラバス

番号	(D1)-07	履修コード	7311Z1
科目名	博物館実習Ⅰ	科目英語名	Museum WorkⅠ
科目区分	博物館に関する科目	授業形態	実習
資格区分	博物館必修科目	開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻3年次	曜日・時限	月曜9･10限
履修区分	選択	教室	研修室
単位	2	定員	60名
担当教員	○渋谷　拓　（非常勤など）未定		
授業概要	見学や学内実習による現場体験を通じて、ミュージアム施設の業務を幅広く学ぶ。		
到達目標	様々なミュージアム施設の運営・活動の実際、資料や計測機器の基本的な取扱い、展示企画に関する業務などを学び、仲間と協力して学芸員として働くための実践的能力を養う。		
授業計画	【1】個人もしくはグループワークで以下の内容を学ぶ。 ・金沢市内や近郊のミュージアムの展示を見学して発表する。 ・展覧会企画を作成して発表する。 ・作品／資料のキャプションや解説を作成する。 ・空気質、温湿度、有害虫の調査を行い、発表する。 【2】資料の取扱い実習については、受講者を複数グループに分けて実施する場合がある。 ・日本画や工芸品などの資料について展示・梱包などの基本を学ぶ。 【3】原則として前期・後期の調整期間内に、近県（福井、富山など）のミュージアム見学旅行を日帰りで実施する。 ・見学後にレポートを課す場合がある。 ・見学旅行に参加できない受講者は、申告の上、独自にミュージアムを見学してレポートを提出することとする。 ・社会状況に応じて自主見学とする場合がある。 【4】本科目において、4年次配当の博物館実習Ⅱを履修するにあたってのガイダンスを実施する。		
予習・復習	予習として、自らが制作した作品の保存・取扱いについて考えてみたり、研究をミュージアムでどのように事業化できるのかを考えてみたりすること。また履修済みの博物館に関する科目全般について復習しておくこと。		
教科書	特に使用しない。		
参考書	栗田秀法編著『現代博物館学入門』ミネルヴァ書房、石﨑武志編著『博物館資料保存論』講談社、日本博物館協会編『博物館資料取扱いガイドブック』ぎょうせい、など		
教材	映像資料（DVDやビデオ）、パワーポイントを使用する場合がある。 見学したミュージアムのチラシやパンフレットなどを教材にする場合がある。 資料取扱いのために白手袋、メジャーなどを準備すること。		
履修上の注意	博物館学芸員資格の取得を希望する者は必ず履修すること。 近県のミュージアムに日帰りの見学旅行を実施するので、できるだけ参加すること。 実習科目という性質上、本科目の単位を取得していない者は、原則として4年次配当の博物館実習Ⅱの履修が認められないものとする。		
成績評価 **(~H29)**	授業への参加状況（受講態度および発表やグループワークに取り組む姿勢）、技能、レポート評価の総合により単位認定を行う。参加状況と技能（60%）、レポート（40%）。発表内容・技能・レポートの評価基準は以下のとおりとする。 〔A〕　学芸員の業務に必要な基礎的知識・技能を習得している。 〔B〕　学芸員の業務に関する基礎的知識を修得している。 〔C〕　学芸員の業務に関する一定の知識を持っている。		
成績評価 **(H30~)**	授業への参加状況（受講態度および発表やグループワークに取り組む姿勢）、技能、レポート評価の総合により単位認定を行う。参加状況と技能（60%）、レポート（40%）。発表内容・技能・レポートの評価基準は以下のとおりとする。 〔S〕　学芸員の業務に必要な知識・技能を高い水準で習得している 〔A〕　学芸員の業務に必要な基礎的知識・技能を習得している。 〔B〕　学芸員の業務に関する基礎的知識を習得している。 〔C〕　学芸員の業務に関する一定の知識を持っている。		
主担当教員	渋谷　拓		

令和4年度シラバス

番号	(D1)-08	履修コード	7312Z1
科目名	博物館教育論	科目英語名	Museum Education
科目区分	博物館に関する科目	授業形態	講義
資格区分	博物館必修科目	開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻4年次	曜日・時限	火曜5・6限
履修区分	選択	教室	研修室
単位	2	定員	60名
担当教員	渋谷　拓		
授業概要	社会教育施設としてのミュージアム（美術館や博物館など）の理念と実態について、基本的な知識を学ぶ。		
到達目標	学びの場としてのミュージアムという観点に立ち、学生が自らの制作・研究活動の実感を加味しながら、ミュージアムの教育活動の基礎的能力を修得する。		
授業計画	第1回　ミュージアムで何を学ぶか？（イントロダクション） 第2回　来館者のいろいろ【1】家族 第3回　来館者のいろいろ【2】学校 第4回　来館者のいろいろ【3】大人、研究者、ボランティア 第5回　来館者のいろいろ【4】「異文化」のひとたち 第6回　学びのいろいろ【1】知識を得る 第7回　学びのいろいろ【2】感受性と人間性を育む 第8回　学びのいろいろ【3】対話型鑑賞の実践 第9回　学びのいろいろ【4】アイデンティティーを育む 第10回　学びのいろいろ【5】ミュージアムのリテラシーを育む 第11回　学びのいろいろ【6】資料の情報と情報機器 第13回　ユニバーサル・ミュージアムとは何か 第14回　ミュージアム・エデュケーションの歴史 第15回　まとめ		
予習・復習	ミュージアムを見学する際に、ワークシートを実際に試したり、ワークショップに参加してみるように心がけること。訪れたミュージアムや展覧会で、自分ならどんな教育活動をするかを考えてみること。		
教科書	特に使用しない。講義内で参考資料を適宜指示する。		
参考書	栗田秀法編著『現代博物館学入門』ミネルヴァ書房、大髙幸・端山聡子著『博物館教育論』放送大学教育振興会、アメリア・アレナス著『なぜ、これがアートなの？』淡交社、広瀬浩二郎『ひとが優しい博物館』青弓社など。		
教材	映像資料（DVDやビデオ）、パワーポイントを使用する場合がある。		
履修上の注意	博物館学芸員資格の取得を希望する者は必ず履修すること。		
成績評価 **(~H29)**	授業への参加状況（受講態度およびグループワークの際の取り組む姿勢）と、ワークシート・期末試験・レポート評価の総合により単位認定を行う。参加状況（30%）、ワークシート・期末試験・レポート（70%）。ワークシート・期末試験・レポートの評価基準は以下のとおりとする。 〔A〕　ミュージアムにおける教育活動に関する知識を高い水準で修得している。 〔B〕　ミュージアムにおける教育活動に関する基礎的知識を修得している。 〔C〕　ミュージアムにおける教育活動に関する一定の知識を持っている。		
成績評価 **(H30~)**	授業への参加状況（受講態度およびグループワークに取り組む姿勢）と、ワークシート・期末試験・レポート評価の総合により単位認定を行う。参加状況（30%）、ワークシート・期末試験・レポート（70%）。ワークシート・期末試験・レポートの評価基準は以下のとおりとする。 〔S〕　ミュージアムにおける教育活動に関する知識を高い水準で修得し、制作・研究活動との関係において自らの見解を示すことができる。 〔A〕　ミュージアムにおける教育活動に関する知識を高い水準で修得している。 〔B〕　ミュージアムにおける教育活動に関する基礎的知識を修得している。 〔C〕　ミュージアムにおける教育活動に関する一定水準の知識を持っている。		
主担当教員	渋谷　拓		

令和4年度シラバス

番号	(D1)-09	履修コード	7313Z1
科目名	博物館実習Ⅱ	科目英語名	Museum Work Ⅱ
科目区分	博物館に関する科目	授業形態	実習
資格区分	博物館必修科目	開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻4年次	曜日・時限	終日
履修区分	選択	教室	学外のミュージアム施設
単位	1	定員	60名
担当教員	渋谷　拓		
授業概要	ミュージアム施設で学芸員の実務を体験する。		
到達目標	実務を体験して学芸員として働くための実践的能力を養うとともに、学生自身が学芸員の視点から自らの制作・研究活動を眺めることができるようにする。		
授業計画	【1】実習館確保のための指導（教務学生係からの連絡・指導に従うこと） 【2】事前指導（6～7月に実施する予定。学内あるいはリモート形式で実施するのでポータルや掲示、大学からの連絡に留意すること） 【3】各実習館での実習例 第1日目：実習館の概要・施設についてのガイダンス（館内見学） 第2日目：実習館における資料の取扱いについて（概要と実務） 第3日目：実習館における展覧会業務について（概要と実務） 第4日目：実習館における教育活動について（概要と実務） 第5日目：担当学芸員の業務アシスタント（1） 第6日目：担当学芸員の業務アシスタント（2） 第7日目：担当学芸員の業務アシスタント（3）、実習全体のまとめ 【4】実習ノートにもとづく事後指導（10月以降に実施するので掲示に留意すること）		
予習・復習	原則として出身地のミュージアム施設が実習先となる。出身地の施設を調べたうえで、専攻を勘案した実習館候補を複数選定し、それぞれ募集時期や手続きなどを把握しておくこと。また博物館に関する科目全般について復習し、応募書類としてレポートの提出が求められる場合に備えること。		
教科書	実習ノート（事前説明会で配布する）		
参考書	実習館の作品・資料目録、パンフレット、カレンダー、年報、HPの情報など。		
教材	各実習館が用意する教材とする。		
履修上の注意	博物館学芸員資格の取得を希望する者は必ず履修すること。 原則として出身地のミュージアム施設が実習先となるので、実習館の候補を複数選定したうえで担当教員の指導を受けること。法人・団体としてのミュージアムとのやり取りが生じるので、ひとりの成人としてのマナーに充分留意すること。 実習科目という性質上、3年次配当の博物館実習Ⅰの単位を取得していない者は、原則として本科目の履修が認められない。		
成績評価 **(~H29)**	実習館での評価と実習ノートの内容で評価する。 〔A〕　実習での学びと実習館の活動に関する自分なりの洞察を報告する実習ノートを提出できた。 〔B〕　実習での学びを報告する実習ノートを提出できた。 〔C〕　実習ノートを提出することができた。		
成績評価 **(H30~)**	実習館での評価と実習ノートの内容で評価する。 〔S〕　実習館で高い評価を受けたうえで、実習での学びと実習館の活動に関する自分なりの洞察を報告する実習ノートを提出できた。 〔A〕　実習での学びと実習館の活動に関する自分なりの洞察を報告する実習ノートを提出できた。 〔B〕　実習での学びを報告する実習ノートを提出できた。 〔C〕　実習ノートを提出することができた。		
主担当教員	渋谷　拓		